

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
142-6	土 器	焼塩壺・蓋	内面布目痕。胎土は浅黄橙色で、粗砂・赤色粗砂を多く含む。	完形
142-7	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。255号遺構出土。	体部1/3欠
142-8	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
142-9	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は黒褐色。全面黒色処理。口唇部煤付着。255号遺構出土。	体部一部欠
142-10	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面剥落部分多い。	体部1/4欠
142-11	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部一部欠
142-12	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土はにぶい橙色。器面荒れている。口唇部煤付着。	体部1/2
142-13	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも荒れている部分多い。口唇部煤付着。	体部2/3欠
142-14	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。外面荒れている。口唇部煤付着。	体部1/2欠
142-15	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。荒れている部分多い。口唇部煤付着。	体部1/2欠
142-16	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。外面荒れている。口唇部煤付着。	体部1/2欠
142-17	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。荒れている部分多い。口唇部煤付着。255号遺構出土。	1/2
142-18	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
142-19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
142-20	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着（全周）。	ほぼ完形
142-21	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
142-22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切りの後、蓆状痕が一部に残る。胎土は橙色。口唇部煤付着。	2/3
142-23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2
142-24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい黄橙色。荒れている部分多い。口唇部煤付着。	1/2
142-25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。剥落部分多い。口唇部煤付着。	一部欠
142-26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は黒褐色。全面黒色処理。口唇部煤付着。	体部1/3
142-27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	2/3
142-28	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている。口唇部煤付着。	体部3/4欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
142-29	土器	かわらけ	唇部煤付着。255号遺構出土。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている。口	1/2
142-30	土器	かわらけ	唇部煤付着。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。255号遺構出土。	1/2
142-31	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/3
142-32	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
142-33	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面は右 回りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内面黒色処理。口唇部煤付着。	1/4
142-34 (82-8a.b)	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。底部外面の周囲左回りのロクロケ ズリ。胎土は橙色で、緻密。内面赤彩。255号遺構出土。	体部1/2欠
142-35	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部1/3欠
142-36	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/3

第23表 271号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
143-1	磁器	染付碗	肥前。体部外面草花文。高台内1重圏線内に銘「大明年製」。	体部一部欠
143-2	磁器	染付碗	肥前。体部外面芋葉文。ほぼ全面に貫入する。高台内1重圏線内に銘「大 明年製」。全面に不定方向の擦痕あり。	ほぼ完形
143-3	磁器	染付皿	肥前。体部内面窓絵鳥文・笹文(3単位)、体部外面唐草文。外面貫入 する。高台内1重圏線内に銘「 <input type="text"/> 明 <input type="text"/> 製」。被熱。	1/3
143-4	磁器	染付碗	肥前。体部外面草花文。高台内1重圏線内に銘「大明年製」。被熱し、貫入 する。他に同一文様・器形のもの1個体あり(この口縁部が、体部外面に 溶着している)。	完形
143-5 (39-5a.b)	磁器	染付皿	肥前。見込五弁花。体部内面区画割椿文・変形字文(4単位。型紙摺の中 をダミを施す)、体部外面花唐草文(3単位。型紙摺の中をダミを施す)。 高台内1重圏線内に銘「 <input type="text"/> 大明成化年製」。見込不定方向の擦痕あり。被 熱。164・678号遺構と接合。	一部欠
143-6	磁器	青磁鉢	肥前。蛇ノ目高台。畳付にチャツ痕あり。見込・体部内面線彫草文。畳付 を除く全面青磁釉(水色)。全面に貫入する。	ほぼ完形
143-7 (43-3)	磁器	色絵油壺	肥前。胎土は灰白色。外面圏線文。被熱。111号遺構・包含層と接合。	口縁部欠
143-8	磁器	染付皿	肥前。口縁部輪花状(8単位)に型打。体部内面岩と草文(3単位)。体部 外面唐草文。高台内に1重圏線あり。被熱。内外面に付着物あり。	1/2
144-1	磁器	染付鉢	肥前。体部外面花(菊・牡丹)虫文。体部内外面に回るような擦痕顕著。	体部2/3
144-2	陶器	碗	肥前。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。畳付を除く全面透明釉。全面に貫入 する。被熱により全面黒ずみ、溶着。	1/3

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
144-3 (46-2)	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。見込擦れている部分顕著。被熱により変色・溶着。		体部1/3欠
144-4	陶 器	皿	京焼風（肥前）。高台内中央部に円圈（直径1cm）あり。胎土はにぶい淡黄色で、緻密。内面鉄（黒褐色）で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台内に刻印「 <small>木</small> 下」。		体部上半3/4欠
144-5	陶 器	皿	京焼風（肥前）。高台内中央部に円圈（直径8mm）あり。胎土は淡黄色で、緻密。内面鉄（黒色）で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「 <small>木</small> 下」。		完形
144-6	陶 器	鉢	京焼風（肥前）。体部に窪み4箇所あり。高台内中央部に円圈（直径2cm）あり。胎土は褐灰色、緻密で堅緻。内面鉄（黒緑色）？で山水楼閣文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。釉際に炎色（橙色）出る。高台内に墨書「山」。		体部上半1/4欠
144-7	陶 器	鉢	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。胎土はにぶい淡黄色で、緻密。体部外面透明釉の後、内面銅緑釉（緑色）。		口縁部一部欠
145-1	陶 器	壺	瀬戸・美濃。二耳壺。胎土はにぶい橙色で、粗い。口縁部内面から胴部外面にかかる釉は変色しており、何釉か不明。被熱により全面溶着・変色。溶着物あり。		1/3
145-2 (41-8)	陶 器	壺	志戸呂胎土は黒灰色で、緻密。口縁部内面から胴部外面上半鉛釉（黒褐色）。内面透明釉（緑灰色）？ 胴部外面下半銹釉？ 被熱により外面ほぼ全面溶着・変色。		胴部1/4欠
145-3 (48-9)	陶 器	片口	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面灰釉（灰白色）。口縁部内面から体部外面鉄釉（黒色）。高台部周囲無釉。被熱によりほぼ全面溶着・変色。内面黒ずんでいる部分あり。		体部一部欠
145-4 (48-6)	陶 器	香炉	瀬戸・美濃。足は3個と思われる（1個残存）。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。体部外面へラ彫で半菊文。内面から体部外面鉛釉（黄褐色）。底部外面無釉。口唇部釉がはがれている部分あり。		1/3
145-5	陶 器	德利	備前。胎土は赤褐色、緻密で堅緻。底部外面に刻印あり（右記）。 見寺		胴部1/2欠
145-6	陶 器	德利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。外面鉛釉（黒褐色）の後、首部から肩部にかけてうのふ釉がけ。高台部周囲釉ふきとり。被熱により施釉部溶着・変色部分多い。無釉部も変色？		胴部1/3欠
145-7	陶 器	德利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。外面鉛釉（黒褐色）の後、首部から肩部にかけてうのふ釉がけ。被熱。		胴部上半2/3
145-8	陶 器	播鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。口縁部は内側に折返す。体部外面ロクロケズリ。底部外面静止糸切り痕。播目は16本1単位。胎土は灰白色。全面銹釉（黒褐色）。被熱。		1/4

第24表 391号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
146-1	磁 器	染付碗	肥前。体部外面アヤメ文。見込に放射状の擦痕あり。472号遺構と接合。		体部一部欠
146-2	磁 器		肥前。体部外面木橋と草文。高台内に銘「太明成化年製」。		ほぼ完形

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位
[35-12]	染付碗		
146-3	磁器	肥前。体部外面草花文。高台内に2重圏線あり。	2/3
	染付碗		
146-4	磁器	肥前。体部外面若杉文。高台内に2重圏線あり。	体部1/6欠
	染付碗		
146-5	磁器	肥前。体部外面に圏線のみ、高台内1重圏線内に銘「宣明年製」。体部内外	一部欠
	染付碗	面横位の擦痕あり。	
146-6	磁器	肥前。体部外面菊唐草文(3単位)。高台内に1重圏線あり。	体部1/4欠
[35-13]	染付碗		
146-7	磁器	肥前。畳付を除く全面錆釉(黄褐色・褐色が斑状)。	体部1/2欠
口絵9-3	錆釉碗		
146-8	磁器	肥前。体部外面草花文。	完形。
[36-17]	染付小杯		
146-9	磁器	肥前。体部外面山水文。	完形
[36-16]	染付小杯		
146-10	磁器	肥前。体部外面窓絵扇文・樹木文(2単位ずつ)。体部下半に貫入入。高	体部一部欠
	染付小杯	台内1重圏線内に角福銘。他に同一文様・器形のもの1個体あり。	
146-11	磁器	肥前。体部外面山水文。体部内面黄褐色の付着物あり。	完形
	染付小杯		
146-12	磁器	肥前。体部外面花文(呉須はにじんではいる?)。釉は黄味がかる。	体部2/3欠
	染付小杯		
146-13	磁器	肥前。内面のほぼ全面に褐色の付着物(鉄分?)あり。	体部3/4欠
	白磁小杯		
146-14	磁器	肥前。体部外面松葉と花卉文。	口縁部一部欠
	染付小杯		
146-15	磁器	肥前。口錆。口唇部輪花状(6単位)に型打。体部内面も陽刻文型打。見	体部1/2欠
[36-4]	染付鉢	込七宝文、口縁部内面七宝繋ぎ文、体部外面桐と雪輪文。外面は黄味がかる。高台内1重圏線内に渦福銘。474号遺構・包含層と接合。	
147-1	磁器	肥前。見込菊花文、体部外面松葉文(2単位)。高台内に1重圏線あり。見	完形
[38-8a.b]	染付皿	込不定方向の擦痕あり。	
147-2	磁器	肥前。胎土は灰白色。内面松葉と折紙文。高台内に1重圏線あり。	体部一部欠
	染付皿		
147-3	磁器	肥前。ハリ支え痕。胎土は灰白色。芙蓉手・見込花籠文(輪郭は黒色、赤・	体部一部欠
口絵2-1	色絵皿	緑・青色で上絵付)、体部外面唐草文(輪郭は黒色、緑色で上絵付)、高台部赤色の圏線。釉は生がけ。体部外面下半に回るようなカンナケズリ痕が残る。他に同一文様・器形のもの2個体あり。163号遺構と接合。	
147-4	磁器	肥前。内面型紙摺で草花文。高台内に2重圏線あり。	体部1/4欠
[38-7a.b]	染付手塩皿		
147-5	磁器	肥前。見込草花文、体部外面窓絵花卉文。見込不定方向の擦痕顕著。	体部2/3欠
	染付鉢		
148-1	磁器	肥前。見込草蝶文、体部内面松・梅樹と草文、体部外面花唐草文。全面に	体部1/3欠
	染付鉢	細かい貫入入る。高台内に銘「太明成化年製」。	
148-2	磁器	肥前。体部外面松に鳥文。全面に細かい貫入入る。	体部1/2欠
	染付蓋		
148-3	磁器	肥前。外面菊花・花卉文を型打の後薄瑠璃釉。	体部1/5

挿図番号 〔写真番号〕	種 器	別 種	特	徴	残存部位
			薄瑠璃釉蓋		
148-4 〔44-2〕	磁	器	肥前。蛇ノ目高台。高台無釉。体部外面から口縁部内面青磁釉（緑灰色）。		体部上半1/2 欠
148-5	磁	器	肥前。体部外面紅葉と樹木文。全面に貫入する。第148図6と組。		ほぼ完形
148-6	磁	器	肥前。蛇ノ目高台（疊付のみ無釉）。体部外面紅葉と樹木文（2単位）。外面貫入する。第148図5と組。		完形
148-7	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を多く含む。体部外面に刻印「天下一御壺塩師堺ミなど伊織」。		完形
148-8	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。粗砂を多く含む。体部外面に刻印「天下一御壺塩師堺ミなど伊織」。		ほぼ完形
148-9	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。体部外面に刻印「天下一御壺塩師堺ミなど伊織」。		一部欠
148-10	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。体部外面に刻印「天下一御壺塩師堺ミなど伊織」。		ほぼ完形
148-11	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。体部外面に刻印「天下一御壺塩師堺ミなど伊織」。		1/2
148-12	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、粗砂を多く含む。体部外面に刻印「天下一御壺塩師堺ミなど伊織」。内面黒ずむ（二次使用?）。体部外面荒れている。		完形
148-13 〔59-1a~d〕	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・赤色粗砂・赤色礫（3mm大）を多く含む。体部外面に刻印「天下一御壺塩師堺ミなど伊織」。		完形
148-14	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。体部外面に刻印「天下一御壺塩師堺ミなど伊織」。		ほぼ完形
149-1	土	器	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で、内面はピンク色。断面は縞状を呈し、粗砂・赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印「天下一御壺塩師堺ミなど伊織」。		体部上半1/2
149-2	土	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。体部外面上半には工具による横位のロクロナデ。胎土は淡橙色。断面は縞状を呈し、粗砂・赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「泉州麻生」。		体部1/2
149-3	土	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。体部外面上半には工具による横位のロクロナデ。胎土は淡黄色で、粗砂・礫（3mm大）を多く、赤色粗砂を含む。体部外面に刻印2重枠「泉州麻生」。		ほぼ完形
149-4 〔60-1a~d〕	土	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。体部外面上半には工具による横位のロクロナデ。胎土は浅黄橙色。粗砂・赤色粗砂を含む。体部外面に刻印2重枠「泉州麻生」。外面剥落部分あり。		完形
149-5	土	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。胎土は淡黄色で、粗砂・赤色粗砂を含む。体部外面に刻印2重枠「泉州麻生」。		ほぼ完形

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			生]。	
149-6	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。胎土は淡橙色で、内面はピンク色。粗砂・赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「泉州麻生」。体部外面荒れている。体部内面上半黒色付着物あり。	完形
149-7 (60-2a~d)	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に横位の縫目あり。肩部には横位のケズリ。胎土は浅黄橙色で、粗砂を含み、赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「泉州麻生」。	完形
149-8	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に横位の縫目あり。肩部には横位のケズリ。胎土は淡橙色で、粗砂・赤色粗砂を多く含む。体部外面に刻印2重枠「泉州麻生」。	完形
149-9	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に横位の縫目あり。肩部には横位のケズリ。胎土は浅黄橙色で、粗砂を多く、赤色粗砂を含む。体部外面に刻印2重枠「泉州麻生」。	完形
149-10	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に横位の縫目あり。胎土は浅黄橙色。断面は縞状を呈し、粗砂・赤色粗砂を含む。体部外面に刻印2重枠「泉州麻生」。	完形
149-11	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。胎土は浅黄橙色で、粗砂・赤色粗砂を含む。	1/2
149-12	土 焼塩壺・身	器	板作り成形。体部内面縦位の縫目3本、また底体部際に横位の縫目あり。体部外面上位には工具による横位のロクロナデ。胎土は淡橙色で、底部内面はピンク色。粗砂・赤色粗砂を多く含む。	1/2
149-13	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。天井部内面中央部目痕。胎土は橙色で、粗砂を多く、赤色粗砂を含む。	1/2
149-14	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。天井部内面一部布目痕。胎土は橙色で、粗砂を多く、赤色粗砂を含む。	ほぼ完形
149-15	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。胎土は橙色で、粗砂を多く含む。	ほぼ完形
149-16	土 焼塩壺・蓋	器	手づくね成形。天井部内面一部布目痕。胎土は橙色。断面は縞状を呈し、粗砂を多く含む。	ほぼ完形
149-17 (61-5)	土 焼塩壺・蓋	器	内面布目痕。胎土は浅黄橙色で、粗砂を含む。	完形
149-18	土 焼塩壺・蓋	器	内面布目痕。胎土は淡橙色。断面は縞状を呈し、粗砂・赤色粗砂を含む。	体部1/2欠
149-19	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。被熱により変色。	ほぼ完形
149-20	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部特殊右回転糸切り。胎土は橙色。内面明赤褐色の付着物あり。	体部1/3欠
149-21	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
149-22	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部2/3欠
149-23	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
149-24	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位
149-25	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/6欠
149-26	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/3
149-27	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
149-28	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は明褐色。口唇部煤付着。	体部一部欠
[62-14] 149-29	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
149-30	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	2/3
149-31	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
149-32	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
149-33	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
149-34	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
[62-15] 149-35	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
149-36	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土断面内側はにぶい橙色で、外側は黒色、内面はにぶい橙色。体部外面黒色処理。底部焼成後穿孔。口唇部煤付着。	体部1/2欠
150-1	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
150-2	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
150-3	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着（全周）。	完形
150-4	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/4欠
150-5	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	3/4
150-6	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
150-7	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色で、表面は淡黄色。口唇部煤付着。体部外面荒れている。	一部欠
150-8	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部2/3欠
150-9	かわらけ 土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/3
150-10	土 器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/2

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			かわらけ	
150-11	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は浅黄橙色。口唇部煤付着。	1/2
			かわらけ	
150-12	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
			かわらけ	
150-13	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	2/3
			かわらけ	
150-14	土 器		ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/6欠
			かわらけ	
150-15	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色で、表面は淡黄色。口唇部煤付着。	1/2
			かわらけ	
150-16	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
			かわらけ	
150-17	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色で、表面は淡黄色。口唇部煤付着。	2/3
			かわらけ	
150-18	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。口唇部煤付着。	体部1/3欠
			かわらけ	
150-19	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。底部周囲左回りの手持ちケズリ。胎土は橙色。	1/2
			かわらけ	
150-20	土 器		ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面は右回りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内外面黒色処理。	体部1/2欠
			かわらけ	
150-21	土 器		ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面は右回りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内外面黒色処理。	体部2/3欠
			かわらけ	
150-22	土 器		ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面は右回りのロクロナデ。胎土は浅黄橙色。底部内外面黒色処理。口唇部煤付着。	2/3
(63-11a.b)			かわらけ	
150-23	土 器		ロクロ水挽き成形。内面左回りのロクロナデ。体部外面から底部外面は右回りのロクロナデ。胎土はにぶい橙色。底部内外面黒色処理。口唇部煤付着。	体部1/2欠
			かわらけ	
150-24	土 器		ロクロ水挽き成形。内面底部と体部の境に沈線。底部ほぼ一定方向の手持ちケズリ。胎土は灰白色で、緻密。体部下半から底部内外面黒色処理。体部内面に墨書「八十六 廿四日 □ 十六廿五 五十六」。	2/3
(65-7a.b)			かわらけ	
150-25	土 器		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2
			耳かわらけ	
150-26	舶載磁器		中国。体部外面草花文。	体部一部欠
			染付小杯	
151-1	陶 器		備前。胴部の窪みは4箇所。胎土は暗赤褐色、緻密で堅緻。断面は層状をなす。銹釉系(赤褐色)を刷毛塗(横位)。	口縁部4/5と 胴部一部欠
	徳 利			
151-2	陶 器		瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。外面柿釉(褐色に黒色が混在)。底部外面は釉ふきとり。	胴部下半
	徳 利			
151-3	陶 器		瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面柿釉(暗褐色)の上に灰釉(灰色)斑。外面無釉。底部回転糸切り痕。	完形
	蓋			
151-4	陶 器		備前。胎土は黒灰色、緻密で堅緻、重たい。外面鉄釉系(赤褐色)。口縁部外面には火襷き。	口縁部 1/3
	徳 利			
151-5	陶 器		京焼風(肥前)。胎土はにぶい淡黄色で、緻密。体部外面鉄(黒褐色)で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉(白濁部多い)。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台部に刻印あり(右記)。高台内中央部に	体部1/2欠
	碗			

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
151-6	陶 鉢	器	円圈（直径9mm）あり。 京焼風（肥前）。胎土はにぶい淡黄色，緻密で堅緻。内面呉須（灰青色）で 楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。釉際には炎色（橙色）出る。全面 に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「㊦義」。高台内中央部に円圈 （直径3.4cm）あり。	体部3/4欠
151-7	陶 播 鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目6本1単位。胎土はにぶい橙 色で，白色・透明礫（1～3mm大）・礫（5mm大）を大量に含む。内面自然 釉が斑状にかかる。内面擦れている。	体部片
151-8	陶 播 鉢	器	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片 体部外面横位の雑なナデ。播目5本1単位。胎土は灰色で，白色・透明粗 砂を大量に含む。内面自然釉が斑状にかかる。	体部片
151-9 (67-5a.b)	土 焙 烙	器	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズ り痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺 突。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。体部外面煤付着。	1/2
151-10	土 焙 烙	器	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。内耳は円板状粘土を 貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。	体部片

第25表 395号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
152-1	陶 甕	器	肥前。胎土は黒灰色～褐灰色で緻密。体部外面白泥で刷毛目文様の後，緑 釉・飴釉流しがけ。	体部上半1/3
152-2	陶 碗	器	肥前。胎土は黒灰色で，緻密。内面三島手で印花文・波状文・丸文。全面 透明釉（オリーブ褐色）。畳付粗砂付着。包含層と接合。	体部上半3/4 欠
152-3	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。胎土は淡褐色で，粗い。内面から体部外面上 半灰釉（淡黄色）・高台部周囲無釉。見込に重ね焼きの痕あり。	完形
152-4 (47-5)	陶 皿	器	瀬戸・美濃。削り出し高台。体部菊花状に型打。内面に布目痕残る。胎土 は淡黄色で，かなり粗い。内面から体部外面上半灰釉（淡黄色）の後，体 部内面の一部緑釉がけ。高台部周囲無釉。見込に目痕3箇所あり。	体部1/2欠
152-5	陶 皿	器	肥前。見込蛇ノ目ハギ。胎土は灰白色。無釉部には黒色粗砂が多量に混在。体部一部欠 灰釉（緑灰色）の後，内面銅緑釉（緑青色）。高台部周囲無釉。見込・畳付 に砂目痕4箇所あり。	体部一部欠
152-6	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	2/3
152-7	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。	ほぼ完形
152-8	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	ほぼ完形
152-9	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	3/4
152-10	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	ほぼ完形
152-11	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。	3/4

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
152-12	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	完形
152-13	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部1/3欠
152-14	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。	ほぼ完形
152-15	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部2/5欠
152-16	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
152-17	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/3欠
152-18	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	一部欠
152-19	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	一部欠
152-20	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着（一部）。	完形
152-21	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
152-22	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。	ほぼ完形
152-23	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。	ほぼ完形
152-24	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	底部一部欠
152-25	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成後穿孔。底部内面の穿孔部周囲に煤付着。	体部一部欠
152-26	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	ほぼ完形
152-27	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
152-28	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	ほぼ完形
152-29	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
152-30	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	完形
152-31	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部一部欠
152-32	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
152-33	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	2/3

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
152-34	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		ほぼ完形
	かわらけ				
152-35	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部1/6欠
	かわらけ				
152-36	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。		1/2
	かわらけ				
152-37	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部2/3欠
	かわらけ				
152-38	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部2/3
	かわらけ				
152-39	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部1/4欠
	かわらけ				
152-40	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部1/2欠
	かわらけ				
152-41	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部1/4欠
	かわらけ				
152-42	土	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。		ほぼ完形
	かわらけ				
152-43	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。		体部1/4欠
	かわらけ				
153-1	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部一部欠
	かわらけ				
153-2	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		体部一部欠
	かわらけ				
153-3	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		2/3
	かわらけ				
153-4	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		一部欠
	かわらけ				
153-5	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。		3/4
	かわらけ				
153-6	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着		体部1/4欠
	かわらけ				
153-7	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着(3/4)。		底部一部欠
	かわらけ				
153-8	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		ほぼ完形
	かわらけ				
153-9	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書あり。体部1/4欠		
	かわらけ				
153-10	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書あり。底部1/2欠		
	かわらけ				
153-11	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「廿四日 廿日 廿三日」。		体部一部欠
	かわらけ				
153-12	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。底部外面に墨書「廿二日 □日」。		1/3欠
	かわらけ				
153-13	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御		ほぼ完形

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
153-14	土器	かわらけ	十三日]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御	体部1/6欠
153-15	土器	かわらけ	廿三日]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。体部1/4欠	体部1/4欠
153-16	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。体部一部欠	体部一部欠
153-17	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□	体部1/3欠
153-18	土器	かわらけ	(おか) てい □ めう □]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。ほぼ完形	ほぼ完形
153-19	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「て	ほぼ完形
153-20	土器	かわらけ	い □]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「八	体部1/4欠
153-21	土器	かわらけ	□ (日カ)]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。ほぼ完形	ほぼ完形
153-22	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□	ほぼ完形
153-23	土器	かわらけ	□ □ (ほし印カ) □]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□	体部1/4欠
153-24	土器	かわらけ	かわらけ 十日 □]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面の2箇所に	2/3
153-25	土器	かわらけ	墨書あり。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書あり。体部2/3欠	体部2/3欠
153-26	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□	ほぼ完形
153-27	土器	かわらけ	□ (局カ) □]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「五	完形
(64-5a.b)	土器	かわらけ	日 十八日 廿 (カ) 八日。	
153-28	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「御	体部1/4欠
153-29	土器	かわらけ	廿二日]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「御	完形
153-30	土器	かわらけ	五日]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に「□ (おか)	ほぼ完形
(64-2a.b)	土器	かわらけ	うかい]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「九	体部一部欠
153-31	土器	かわらけ	日 □ (十カ) □ □ (日カ) 廿三日]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「御	ほぼ完形
153-32	土器	かわらけ	十二日]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書あり。ほぼ完形	ほぼ完形
153-33	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書あり。ほぼ完形	ほぼ完形
154-1	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「御	体部1/6欠
(64-1a.b)	土器	かわらけ	十五]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書あり	1/4欠
154-2	土器	かわらけ	「□ (御カ) □ (十カ) 一日]。 ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書あり	1/4欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
154-3	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「十かわらけ 八日」。	完形
154-4	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部外面に墨書「廿かわらけ 五日 廿日 廿八日」。	体部1/6欠
154-5	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。底部外面に墨書あり。	体部一部欠
154-6	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「廿かわらけ □日」。	底部一部欠
154-7	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御かわらけ 十二日」。	完形
154-8	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「十かわらけ 六日」。	完形
154-9	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□かわらけ 六日 □」。	1/3欠
154-10	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□かわらけ (こくヵ) 印 □ (御ヵ) □」。	体部一部欠
154-11	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「十かわらけ 一日」。	ほぼ完形
154-12	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□かわらけ (たヵ) う □ □廿 □ (ハヵ) 三 □」。	ほぼ完形
154-13	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御かわらけ 廿三日」。	完形
155-1	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□かわらけ ち □」。	完形
155-2	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「廿かわらけ 三日」。	体部1/6欠
155-3	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「十かわらけ 六 □ (日ヵ)」。	完形
155-4	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。体部外面に墨書「ほうかい」。	ほぼ完形
155-5	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「五かわらけ □五 □六 □廿 □廿一日」。	完形
(64-6a.b)	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□かわらけ □ (局ヵ) 御けうい □」。	体部1/6欠
155-6	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「□かわらけ ち □ □」。	完形
155-7	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御かわらけ 六(?)日」。	完形
155-8	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「こかわらけ く印御 (ヵ) 局」。	完形
155-9	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「たかわらけ いは □」。	完形
155-10	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「御かわらけ 五 □」。	体部一部欠
155-11	土	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「十かわらけ 十」。	完形

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
156-1	土器	かわらけ	六日」。ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「六日」。	体部1/2欠
156-2	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「十日十九日十日」。	1/3欠
156-3 (64-4a.b)	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「天□うい□□□いの□」。	体部1/4欠
156-4	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「三□」。	完形
156-5 (64-3a.b)	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「こくしるし」。	ほぼ完形
156-6	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面に墨書「こくし□」。	ほぼ完形
156-7	土器 焙烙		土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。	体部2/3欠
156-8	土器 焙烙		土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。内耳は円板状粘土を貼付。穴は左右からの棒状工具による刺突。底部外面ちぢれ目。底部外面黒ずむ。	1/5

第26表 537号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
157-1 (35-15)	磁器 染付碗		肥前。体部外面型紙摺で桐文。見込不定方向の擦痕あり。	完形
157-2 (35-14)	磁器 染付碗		肥前。体部外面草花文。	完形
157-3	磁器 染付碗		肥前。胎土は灰白色。体部外面草花文。	1/2
157-4 (36-15)	磁器 色絵碗		肥前。体部内面桐文（輪郭黒色，他に赤・青・緑・橙色），体部外面流水に梅文（呉須）・桐文（輪郭黒色，他に赤・青・緑・橙色）。	ほぼ完形
157-5	磁器 染付碗		肥前。体部外面人物山水文・花唐草文。体部内外面横位の擦痕あり。391号遺構・包含層と接合。	1/2
157-6 (36-18)	磁器 染付小杯		肥前。体部外面草花と雪輪文（コンニャク版）。高台内に1重圏線あり。見込に褐色の付着物あり。	完形
157-7	磁器 染付小杯		肥前。体部外面草花文。高台内に1重圏線あり。	完形
157-8	磁器 染付小杯		肥前。体部外面若杉文（2単位）。高台内に1重圏線に銘「大明年製」。見込回るような擦痕顕著。	完形
157-9	磁器 染付小杯		肥前。内面菊花文，体部外面紅葉文。高台内に2重圏線あり。他に同一文様・器形のもの2個体あり。	完形
157-10	磁器 染付蓋		肥前。碗の蓋。体部外面桜花文（コンニャク版）。全面貫入。被熱。他に同一文様・器形のもの8個体あり。	完形
157-11 (43-4)	磁器 色絵油壺		肥前。胎土は灰白色。胴部外面圏線文（赤色）。被熱し，色絵変色。	胴部一部欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
157-12	磁 色 絵 皿	器	肥前。口銹。ハリ支え痕。体部内面松葉・紅葉文（松葉は呉須と赤色、紅葉は呉須・緑・赤色）、体部外面唐草文。高台内に1重圏線内に銘あり。見込不定方向の、体部内外面横位の擦痕顕著。308号遺構・包含層と接合。	1/4
158-1	磁 染 付 皿	器	肥前。ハリ支え痕。見込五弁花、体部内面矢羽に丸文、体部外面唐草文。高台内に1重圏線あり。見込を除いて貫入する。被熱。	体部一部欠
158-2 (39-4a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。ハリ支え痕。見込五弁花、体部内面矢羽と丸文、体部外面唐草文。高台内に1重圏線あり。被熱。他に同一文様・器形のもの8個体あり。	完形
158-3	磁 染 付 皿	器	肥前。口銹。ハリ支え痕。見込鳥文、体部内面雲文(墨弾き)?高台内に1重圏線あり。見込不定方向の擦痕あり。他に同一文様・器形のもの12個体以上あり。	完形
158-4 (38-9a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。ハリ支え痕(1個)。見込鳥文(コンニャク版)、体部内面雲文(墨弾き)?高台内に1重圏線あり。見込不定方向の擦痕あり。第158図4と同一器形だが、鳥の向きが逆。	完形
158-5 (39-1a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。口銹。口縁部は輪花状(8単位)に型打。見込五弁花、体部内面牡丹唐草文、体部外面唐草文。高台内1重圏線内に渦福銘。他に同一文様・器形のもの4個体あり。	完形
159-1	磁 染 付 皿	器	肥前。胎土は灰白色。見込五弁花(コンニャク版)、体部内面草花文、体部外面紐文?高台内に1重圏線あり。	1/3
159-2 (39-3a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。ハリ支え痕。内面桐散らし文、体部外面花唐草文。高台内銘あり。見込不定方向の擦痕顕著。	体部1/4欠
159-3 (41-1a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。ハリ支え痕。内面草に水鳥文、体部外面花唐草文(2単位)。高台内に1重圏線あり。全面に貫入する。見込不定方向の擦痕顕著。被熱。	体部1/4欠
159-4 (39-6a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。口唇部波状に型打。ハリ支え痕(1個)。見込五弁花(コンニャク版)、内面松竹文、体部外面唐草文。高台内1重圏線内に銘「大明年製」。被熱し、体部外面溶着。	ほぼ完形
160-1	磁 白磁蓋物	器	肥前。外面貫入する。見込不定方向の、体部内面下半回するような擦痕あり。	体部一部欠
160-2	磁 染 付 蓋	器	肥前。体部外面丸文(中に草花文・帆かけ舟文)。被熱。	つまみと体部一部欠
160-3 (39-2a.b)	磁 染 付 皿	器	肥前。口銹。口縁部は輪花状(8単位)に型打。内面牡丹唐草文、体部外面山水文。高台内1重圏線内に渦福銘。他に同一文様・器形のもの9個体あり。	完形
160-4 (43-5)	磁 染 付 蓋	器	肥前。体部外面丸文(中に草花文)。被熱。第160図5と組。	完形
160-5 (43-5)	磁 染付蓋物	器	肥前。体部外面丸文(中に草花文)。高台内に1重圏線あり。第160図4と組。	体部上半1/2欠
160-6 (43-6)	磁 染 付 蓋	器	肥前。つまみは兔。外面流水に水鳥文。被熱。第160図7と組。	完形
160-7 (43-6)	磁 染付蓋物	器	肥前。蛇ノ目高台。体部外面流水に菊文。全面に貫入する。高台内に銘「大明成化年製」。被熱によって剥離している。第160図6と組。	完形
161-1 (43-11)	磁 白磁壺	器	肥前。被熱。	体部一部欠
161-2	磁 白磁壺	器	肥前。全面貫入する。被熱し、胴部外面の一部は溶着。	胴部2/3
161-3	磁 白磁壺	器	肥前。全面貫入する。被熱。	つまみ欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
		白磁蓋		
161-4 (43-11)	磁器	肥前。		ほぼ完形
161-5	磁器	肥前。全面に貫入する。		体部1/6欠
		白磁蓋		
161-6 (43-7)	磁器	肥前。体部外面斜格子に草花文。第161図7と組。		ほぼ完形
161-7 (43-7)	磁器	肥前。体部外面斜格子に葉文(2単位)。被熱。第160図6と組。		完形
161-8 (44-6)	磁器	肥前。疊付を除く外面青磁釉(緑灰色)。疊付鉄釉(褐色)。		底部1/3欠
161-9	磁器	肥前。		胴部下半1/2 と底部
		白磁瓶		
162-1 (43-8)	磁器	肥前。体部外面山水文。被熱。第162図2と組。		完形
162-2 (43-8)	磁器	肥前。胴部外面山水文。被熱。第162図1と組。		完形
162-3 (43-10)	磁器	肥前。体部外面牡丹文。一部に細かい貫入する。口縁部(受け部) ぬけて		体部一部欠
口絵5-2		いる部分あり。第162図4と組。		
162-4 (43-10)	磁器	肥前。外面は口縁部縦線文, 肩部唐草文, 胴部牡丹文。被熱。第162図3と組。		体部一部欠
口絵5-2				
163-1	磁器	肥前。一部に呉須の文様あり(唐草文の端部と思われる)。被熱。第162図		首部
	染付瓶	2と同一個体と思われる。		
163-2	磁器	肥前。胴部外面唐草文。内面は無釉。外面部分的に貫入する。被熱し, 剥		胴部~底部
	染付瓶	落した部分多い。第163図1と同一個体と思われる。		
163-3 (43-2)	磁器	肥前・胎土は灰白色。見込2重圏線内に草文, 体部内面草花文, 体部外面		底部一部欠
	染付鉢	唐草文。高台内に1重圏線あり。被熱し, 貫入する。		
164-1	陶器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色, 堅緻で粘土質。外面灰釉(淡黄色)の上に,		完形
	蓋	鉄釉(暗褐色)斑。		
164-2	陶器	肥前。胎土は黄灰色, 緻密で堅緻, 粘土質。内面・体部外面白泥で横位の		体部一部欠
	碗	刷毛目文の後, 透明釉。見込不定方向の, 体部内面横位の擦痕顕著。		
164-3 (45-7)	陶器	肥前。胎土は灰白色, 緻密で粘土質。疊付を除く全面透明釉(黄灰色)。全		体部1/2欠
	碗	面に貫入する。		
164-4	陶器	肥前。胎土は淡黄色で, 緻密。疊付を除く全面透明釉(淡黄色)。全面に貫		体部3/4欠
	碗	入する。見込不定方向の擦痕あり。		
164-5	陶器	肥前。胎土は淡黄色で, 緻密。疊付を除く全面透明釉(黄灰色)。全面に貫		体部3/5欠
	碗	入する。疊付粗砂付着。		
164-6	陶器	瀬戸・美濃。肩部外面に横位の沈線が5条巡る。胎土は淡黄色で, 粗い。		完形
	蓋	外面鉄釉(黒褐色)の後, うのふ釉(青白色)がけ(斑状)。内面無釉。釉		
		際には一部炎色(橙色)出る。体部内面墨書「シイ」。		
164-7	陶器	瀬戸・美濃。肩部外面に横位の沈線が8条巡る。胎土は灰白色。外面鉛釉		胴部上半1/5
	徳利	(暗褐色)の後, 肩部うのふ釉(黄灰色)。高台部周囲無釉。被熱により肩		欠
		部釉溶着。		

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
164-8 (49-1)	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。肩部外面に横位の沈線が7条巡る。胎土は灰白色。外面鉛釉(暗褐色)の後、肩部うのふ釉(にぶい黄褐色)。高台部周囲無釉。被熱により口縁部から肩部釉溶着。	体部一部欠
164-9 (49-2)	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。外面鉛釉(暗褐色)の後、首部から胴部上半にかけてうのふ釉(にぶい黄褐色)。高台部周囲は釉ふきとり。被熱により肩部から上釉溶着。	ほぼ完形
164-10	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。外面鉛釉(黒褐色)の後、口縁から胴部上半うのふ釉(黄灰色)。高台部周囲無釉。	胴部1/3欠
165-1	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土は灰色、緻密で均質。胴部外面銹釉(赤褐色)の後、首部鉄釉(黒色)。底部外面無釉。底部外面墨書あり。胴部中位に輪状の窯道具痕あり。被熱により鉄釉溶着。	胴部下半～ 底部1/2欠
165-2 (49-7)	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土は灰色、緻密で均質。外面銹釉(赤褐色)の後、首部鉄釉(黒褐色)。底部外面無釉。被熱により首部の釉溶着。	胴部1/3欠
165-3	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土は灰色。無釉部はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面銹釉(にぶい赤褐色)の後、首部鉄釉(黒褐色)。被熱。	口縁部～肩 部
165-4	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色～灰色、緻密で均質。胴部外面銹釉(赤褐色)。底部外面無釉。底部外面に輪状(直径13cm)の窯道具痕あり。被熱。	胴部下半1/2
166-1	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色～灰色、無釉部はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面銹釉(にぶい赤褐色)の後、首部鉄釉(黒褐色)。被熱により溶着。	胴部上半1/3
166-2	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色～灰色、無釉部はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面銹釉(赤褐色)。底部外面無釉。被熱。	1/3
166-3	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土は灰色、緻密で均質。外面銹釉(黒褐色)。	首部
166-4	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面銹釉(にぶい赤褐色)の後、首部鉄釉(黒色)。被熱により釉溶着。	胴部上半1/2
166-5	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。胴部外面銹釉(赤褐色)。底部外面無釉。底部外面輪状(直径11.5cm)の窯道具痕あり。被熱により、内面剝落している部分あり。	底部
166-6	陶 徳	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。胴部外面銹釉(赤褐色)。底部外面無釉。被熱。	1/3
166-7	陶 片	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面鉛釉(暗褐色)。高台部周囲無釉。見込に目痕3箇所あり。被熱により釉溶着。	体部一部欠
167-1 (50-4)	陶 壺	器	信楽。四耳壺。胎土は白色、緻密で堅緻。白色礫(3mm大)多く含む。口縁部内面から胴部外面上半鉄釉(黒色)の上に、肩部灰釉(緑灰色)がけ。胴部外面下半透明釉。底部外面無釉。被熱により釉溶着。	胴部1/5欠
167-2	陶 壺	器	信楽。四耳壺。胎土は白色、緻密で堅緻。白色粗砂を多く含む。口縁部内面から胴部外面上半鉄釉(黒色)の後、肩部灰釉(灰緑色)がけ。胴部外面下半透明釉。被熱により釉溶着。	口縁～胴部 上半
167-3	陶 搦 鉢	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片外面横位の雑なナデ(指頭痕残る)。搦目7本1単位。胎土は灰色で、白色、透明粗砂を大量に含む。内外面銹釉(暗赤褐色)。	体部片
167-4	陶 搦 鉢	器 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部外面下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。搦目21本1単位。胎土は浅黄褐色。全面銹釉(暗褐色)。焼成不良で釉が斑状になっている部分あり。内面擦れている。	1/3
168-1	土 器	器	板作り成形。内面布目痕(ただし体部と底部は別々の布目痕)。胎土はにぶ	底部と体部

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	焼塩壺・身		い橙色で、内面はピンク色。砂質で粗砂を多く含む。体部外面に刻印「御壺塩師堺湊伊織」。	の一部欠
168-2 (59-4a~d)	土器 焼塩壺・身		板作り成形。内面布目痕(ただし体部と底部は別々の布目痕)。胎土はにぶい黄橙色で、内面はピンク色。粗砂を多く含む。体部外面に刻印「御壺塩師堺湊伊織」。	完形
168-3 (61-6)	土器 焼塩壺・蓋		内面布目痕。胎土はにぶい黄橙色。被熱により外面に煤付着。	体部1/3欠
168-4	土器 焼塩壺・蓋		内面布目痕。胎土は橙色。被熱。	体部1/3欠
168-5 (63-2)	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部一部欠
168-6	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部上半1/3欠
168-7	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも大部分荒れている。口唇部煤付着。	体部一部欠
168-8	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	一部欠
168-9	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている部分あり。口唇部煤付着。	一部欠
168-10	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも大部分荒れている。口唇部煤付着(1/3)。	完形
168-11	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい褐色、一部橙色。底部焼成後穿孔。被熱?	ほぼ完形
168-12	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着(1/3)。	完形
168-13	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	ほぼ完形
168-14	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
168-15	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも大部分荒れている。口唇部煤付着。	体部1/2欠
168-16	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部1/2欠
168-17	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部1/3欠
168-18	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている。口唇部煤付着。	ほぼ完形
168-19	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
168-20	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	体部一部欠
168-21	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも大部分荒れている。	1/3
168-22	土器 かわらけ		ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。	体部1/3欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
168-23	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている。口 唇部煤付着 (3/4)。		ほぼ完形
168-24	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている部分 あり。口唇部煤付着。		3/4
168-25	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。被熱し、変色部分あ り。口唇部煤付着 (一部)。		完形
168-26	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着 (全 周)。		完形
168-27	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着 (1/ [63-3] 4)。		完形
168-28	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている。口 唇部煤付着 (1/2)。		完形
168-29	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも荒れてい る部分あり。		1/2
168-30	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも荒れてい る部分あり。口唇部煤付着。		体部一部欠
168-31	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。内外面とも大部分荒 れている。口唇部煤付着。		体部1/4欠
168-32	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部外面荒れている 部分あり。口唇部煤付着。		体部1/4欠
168-33	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土は橙色。器面荒れている。口唇 部煤付着。		体部一部欠
168-34	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色・暗褐色。口唇部煤付 着 (一部)。		完形
168-35	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は黒褐色。全面黒色処理。		2/3
168-36	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は灰褐色・にぶい橙色。中央 から半分黒色処理。		体部上半1/2 欠
168-37	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。体部内外面に帯状に 黒色の部分あり。		1/2
169-1	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のナデ。体部外面横位のミガキ・ 赤彩。器面の荒れが著しい。底部外面ちぢれ目がみられるが凹凸が顕著。 胎土は橙色。		1/6
169-2	土 焜	器 炉	瓦質。ロクロ輪積成形。口縁部内面工具による横位のナデ。体部内面指に よる横位のナデ。体部に貼付・切り込みを施し、窓・火口部等をつくり出 す。口唇部雑なミガキ。底部外面はちぢれ目。足 (2個残存) は貼付。器 面は灰色で、断面は黒灰色が浅黄橙色をサンドイッチ状に挟む。		1/3

第27表 886号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
170-1	磁 染	器 付碗	肥前。胎土は灰白色。体部外面草花文。見込擦れている部分あり。		体部2/3欠
170-2	磁	器	肥前。体部外面松文。見込不定方向の擦痕あり。		1/2

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
170-3	磁器	染付碗	肥前。高台無釉。胎土は灰白色。体部外面山水文。	体部上半1/2 欠
170-4	磁器	染付小杯	肥前。体部花卉状に型打。	体部1/2欠
170-5	磁器	白磁小杯	肥前。体部外面線彫菊文。その上に緑・黄色で上絵付。口唇部から体部内	1/2
[44-12]	色絵蓋物	面上半無釉。底部無釉。		
170-6	磁器	色絵香油壺	肥前。焼成不良で橙色の部分あり。胴部外面区画割文（圏線は赤色，輪郭は黒色，他に色あるも剥落していて不明）。器面白濁。外面細かい貫入入る。	体部1/2
170-7	磁器	染付小鉢	肥前。胎土は緻密。見込三弁花。口縁部内面雷文，体部外面花唐草文（4	体部1/4欠
[36-3]	染付小鉢	単位）。高台内に銘「宣嘉年製」。		
170-8	磁器	染付皿	肥前。ハリ支え痕（1個）。見込ザクロ文。全面に細かい貫入入る。高台内	1/4欠
170-9	磁器	碗	角福銘。肥前。胎土は灰白色。緻密で堅緻，均質。畳付周囲を除く全面透明釉（浅黄色）。全面に貫入入る。見込回るような擦痕あり。	体部一部底 部1/2
170-10	陶器	碗	肥前。胎土は淡黄色で，均質。畳付を除く全面透明釉。全面に貫入入る。畳付粗砂付着。見込回るような擦痕顕著。	1/2
170-11	陶器	碗	京焼風（肥前）。胎土は灰白色，緻密で均質。内面から体部外面透明釉（灰白色）。全面に貫入入る。釉際には炎色（橙色）出る。高台内に刻印「清水」。高台内中央部に円圏（直径2.3cm）あり。見込不定方向の細かい擦痕あり。	体部1/5欠
170-12	陶器	壺	備前。胎土は灰色，緻密で均質。全面銹釉（赤紫色）。内面黒色の付着物あり。	体部一部と 底部全部
170-13	土器	焼塩壺・身	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。断面は縞状を呈し，粗砂を多く含む。体部外面に刻印1重枠「天下一堺ミなと藤左衛門」。	ほぼ完形
170-14	土器	焼塩壺・身	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。断面は縞状を呈し，粗砂を多く含む。体部外面に刻印1重枠「天下一堺ミなと藤左衛門」。	体部一部欠
170-15	土器	焼塩壺・身	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。断面は縞状を呈し，粗砂を多く含む。体部外面に刻印1重枠「天下一堺ミなと藤左衛門」。	体部下半1/4 欠
170-16	土器	焼塩壺・身	手づくね成形（輪積み2段）。内面布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。粗砂を多く，赤色粗砂を含む。体部外面に刻印1重枠「天下一堺ミなと藤左衛門」。	1/2
171-1	土器	焼塩壺・蓋	手づくね成形。胎土は橙色で，内面はピンク色。粗砂を多く含む。	体部1/3欠
171-2	土器	焼塩壺・蓋	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。粗砂を多く含む。	ほぼ完形
171-3	土器	焼塩壺・蓋	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。断面は縞状を呈し，粗砂を多く含む。	体部一部欠
171-4	土器	焼塩壺・蓋	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。粗砂を多く含む。	体部1/4欠
171-5	土器	焼塩壺・蓋	手づくね成形。天井部内面中央部布目痕。胎土は橙色で，内面はピンク色。断面は縞状を呈し，粗砂を多く含む。	1/5欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
171-6	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目7本1単位。胎土は灰色で、 白色・透明粗砂を大量に、黒色粗砂を多く含む。内外面銹釉（暗赤褐色）。 内面自然釉が斑状にかかる。	体部片
171-7	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部片 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目の単位は不明。胎土は灰色・ 明黄褐色で、白色・透明礫（1～3mm大）を大量に含む。内外面銹釉（暗 赤褐色）。内面自然釉が斑状にかかる。	体部片
171-8 (54-4a.b)	陶 播	器 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口縁部から体部外面上位横位の強いロクロナデ。体部1/2欠 体部外面横位の雑なナデ（指頭痕残る）。播目7本1単位。胎土は褐灰色 で、白色・透明粗砂・礫（3～4mm大）を大量に含む。内面全面と体部外 面上半（？）銹釉（赤褐色）。	体部1/2欠
171-9	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。口唇部ミガキ？ 体 部外面横位の雑なミガキ。底部外面ちぢれ目。足（1個残存）は貼付。胎 土は褐灰色で、断面にぶい橙色。口唇部内側磨滅。体部外面煤付着。	1/4

第28表 焼土溜り出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
172-1	磁 染	器 付碗	肥前。胎土は緻密。体部外面斜格子文に窓絵花卉文？ 高台内1重圏線内 に渦福銘。被熱により溶着。包含層と接合。	1/3
172-2	磁 色	器 絵碗	肥前。体部外面橋に草花文（草花文の一部が色絵、花は赤色、葉の輪郭は 黒色、中は緑色）。高台内1重圏線内に銘「大明年製」。見込不定方向の擦 痕あり。包含層と接合。	体部2/3欠
172-3	磁 色	器 絵碗	肥前。体部外面四方禪文（呉須・赤色）・菊花文（色は変色）。被熱により 色絵変色。第172図4と同一文様・器形。他に同一文様・器形のもの2個体 あり。160号遺構と接合。	1/4
172-4	磁 色	器 絵碗	肥前。体部外面四方禪文（呉須・赤色）・菊花文（花は赤色、葉・輪郭は呉 須・緑色）。被熱により色絵変色。体部内面には斑状の付着物（煤？）あ り。第172図3と同一文様・器形。他に同一文様・器形のもの2個体あり。 869号遺構と接合。	体部1/2
172-5	磁 青	器 磁香炉	肥前。蛇ノ目凹形高台。口縁部内面から外面青磁釉（明緑灰色）。内面無 釉。被熱により溶着。	1/3
172-6	磁 染	器 付蓋	肥前。体部外面菊花文（コンニャク版）。被熱。第172図7と組。	1/2
172-7	磁 染	器 付蓋物	肥前。体部外面菊花文（コンニャク版）。被熱。第172図6と組。	体部1/2
172-8	磁 染	器 付蓋	肥前。体部外面雲気と笹文。一部に貫入する。被熱。斑状の付着物（褐色） あり。	1/3
172-9	磁 染	器 付蓋	肥前。体部外面雲気と笹文。ほぼ全面に貫入する。体部外面の一部白濁。 内面一部にしみ状の付着物（黒・褐色）あり。第172図8と組。	体部1/3欠
173-1	磁 染	器 付蓋	肥前。第172図9と組。胎土は緻密。体部外面折枝桜・折枝菊花文。被熱？ 一部に斑状の付着物あり。第172図2と組。	1/3
173-2	磁 器	器	肥前。蛇ノ目高台。胎土は緻密。体部外面折枝桜・折枝菊文。全面に貫入	1/2

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
173-3	磁器	染付蓋物	入る。第173図1と組。包含層と接合。 肥前。体部外面草花文。被熱。第173図4と組。	2/3
173-4	磁器	染付蓋物	肥前。体部外面牡丹文。ほぼ全面に貫入する。被熱。第173図3と組。	2/3
173-5	磁器	染付蓋物	肥前。体部外面菊花文。被熱。第173図6と組。	体部一部欠
173-6	磁器	染付蓋物	肥前。体部外面牡丹文。被熱。付着物(しみ状・褐色)あり。第173図5と組。	2/3
174-1	磁器	色絵蓋物	肥前。体部外面菊花文(被熱により色絵は変色)。全面に細かい貫入する。被熱。第174図2と同一個体の可能性あり。	体部1/4
174-2 (43-1)	磁器	色絵蓋物	肥前。体部外面アジサイ文(輪郭は黒色、花は赤色、他の色は被熱により変色)。全面に細かい貫入する。被熱。第174図1と同一個体の可能性あり。	体部1/3
口絵9-2				
174-3	磁器	染付蓋物	肥前。体部外面山水文(組になる身の方とほぼ同様の文様と思われる)。被熱により表面溶着。第174図4と組。	一部
174-4	磁器	染付壺	肥前。胴部外面山水文。被熱。第174図3と組。	1/2
175-1	磁器	白磁瓶	肥前。細かい貫入が一部に入る。被熱により剥落している部分あり。	胴部上半
175-2	磁器	白磁碗	肥前。被熱。	胴部下半2/3
175-3 (44-7)	磁器	染付瓶	肥前。胴部外面唐草文。外面部分的に細かい貫入する。被熱により溶着している部分あり、また内面剥落部分あり。	2/3
口絵5-1				
176-1	磁器	染付瓶	肥前。胴部外面牡丹文。一部に貫入する。被熱により内面剥落(下部はもとの器面残らず)。160b号遺構と接合。	胴部以下2/3
176-2	陶器	瓶	備前。胴部外面上位から中位・細かいロクロ目あり。胎土は灰色、緻密で堅緻、均質・炆器。無釉焼締め。底部外面刻印あり。被熱により溶着物あり。包含層と接合。	胴部3/4欠
176-3	陶器	壺	瀬戸・美濃。四耳壺。耳は貼付で4箇所。胎土は灰色で、粗い。口縁部内面から外面全面鉄釉(黒色)。被熱により外面施釉部全面溶着。口唇部磨滅して釉が剥がれている。	口縁部～胴部上半1/3

第29表 416号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
177-1	磁器	染付碗	肥前。体部外面草花文。	体部1/3欠
177-2	磁器	染付碗	肥前。胎土は灰白色。体部外面梅花文。高台内銘あり。	体部3/4欠
177-3	磁器	染付皿	肥前。口唇部輪花状(8単位)に型打。胎土は灰白色。見込五弁花(コンニャク版)、体部内面窓絵果実文?、体部外面唐草文。高台内渦福銘。見込不定方向の、体部内面回るような擦痕顕著。見込擦れている部分あり。体	1/2

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			部外面下半横位の擦痕あり。	
177-4 [44-4]	磁 器	青 磁 瓶	肥前。量付を除く外面全面青磁釉（緑灰色）。表面はほぼ全体が無光沢化。 口唇部内面付着物（黒灰色）が一周。高台部外面釉際も黒くなっており、 あるいは使いこまれた痕？	完形
177-5	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。量 付から高台内無釉。高台内墨書あり。見込不定方向の、体部内外面横位の 擦痕顕著。	体部1/3欠
177-6	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高 台部周囲無釉。見込・体部内面回るような、体部外面不定方向の擦痕顕著。	体部1/3欠
177-7	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台 部周囲無釉。体部内面横位の擦痕あり。被熱により釉溶着。	体部一部欠
177-8	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高 台部周囲無釉。見込一定方向の、体部内面横位の、体部外面不定方向の擦 痕顕著。被熱。	体部1/4欠
177-9 [46-3a.b]	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台 部周囲無釉。高台内墨書あり。	ほぼ完形
177-10	陶 器	碗	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2条巡る。胎土は灰白色で、粗い。 内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、柿釉（褐色）斑。高台部無釉。見 込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。	体部3/4欠
177-11	陶 器	碗	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2条巡る。内面から体部外面灰釉（灰 白色）の後、鉄釉（黒褐色）斑。高台部周囲無釉。見込・体部内面回るよ うな擦痕あり。	完形
177-12	陶 器	碗	瀬戸・美濃。体部外面横位の沈線が2条巡る。内面から体部外面灰釉（灰 白色）の後、柿釉（褐色）斑。高台内墨書あり（花押?）。	体部一部と 底部全部
177-13 [46-7a.b]	陶 器	碗	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2条巡る。胎土は灰白色で、粗い。 内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、鉄釉（黒褐色）斑。高台部内墨書あり。	体部一部欠
177-14	瀬戸・美濃 碗		瀬戸・美濃。体部外面横位の沈線が2条巡る。胎土は灰白色。内面から体 部外面灰釉（灰白色）の後、体部外面柿釉（褐色）斑。高台部周囲無釉。	体部2/3欠
177-15	陶 器	仏 花 器	瀬戸・美濃。胴部中位2箇所（貼付文。底部外面回転切り痕。胎土は白 色で、粗い。口縁部内面から胴部外面上半灰釉（灰白色）、胴部外面下半か ら底部外面鉄釉（黒褐色）。被熱により施釉部溶着部分あり。	底部1/2欠
177-16	陶 器	蓋 物	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。体部外面灰釉（灰白色）。内面から受 け部・高台部周囲無釉。	1/3
178-1 [51-4]	陶 器	片 口 土 鍋	瀬戸・美濃。口縁部に把手のつく可能性あり（2箇所）。胎土は灰白色、緻 密で堅緻。内面から体部外面灰釉（灰白色）。底部外面周囲無釉。底部内面 に目痕3箇所あり。底部の無釉部は煤ける。	一部欠
178-2	陶 器	香 炉	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲・ 内面無釉。	完形
178-3	陶 器	仏 飯 具	瀬戸・美濃。胎土は灰白色、碗部内面から脚台部下半灰釉（灰白色）。脚台 部下半以下無釉。	完形
178-4	陶 器	甕	瀬戸・美濃。胎土は黄灰色で、粗い。黒色粗砂を多く含む。内面・体部外 面柿釉（暗赤褐色）。高台部周囲無釉。高台内墨書あり。	底部周辺
178-5	陶 器	甕	瀬戸・美濃。胎土はにぶい黄灰色で、かなり粗い。内面から体部外面鉄釉 か柿釉（黒色～褐色。被熱のため変色している可能性あり）。底部周囲無 釉。口唇部に目痕（粗砂混入）4箇所あり。被熱により釉溶着。	2/3

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
178-6	陶 徳 利	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、緻密。外面灰釉（緑灰色）。白濁部分あり。	首部
178-7	陶 徳 利	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（黄褐色）。	首部
178-8	陶 徳 利	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白〜にぶい淡黄色。外面灰釉（緑灰〜黄褐色）。	首部
178-9	陶 徳 利	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（黄褐色）。底部周囲は釉ふきとり。胴部外面焼成時の他個体との溶着痕1箇所あり。	1/2
178-10 〔49-3〕	陶 徳 利	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（黄褐色）の後、首部うのふ釉（淡黄色）がけ。胴部外面釘書き「山本」。	胴部1/3欠
178-11	陶 徳 利	器 利	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。黒色粗砂多く含む。外面灰釉（黄褐色）。口唇部磨滅し、釉が剥れている。	口縁〜肩部 1/4
178-12	陶 徳 利	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。外面灰釉（緑灰色）。底部外面周囲は釉ふきとり。	胴部下半
178-13	陶 徳 利	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色〜灰色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）。底部外面無釉。	胴部下半1/3
179-1 〔49-3〕	陶 徳 利	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）の後、首部灰釉（灰黄褐色）。肩部に輪状の窯道具痕。肩部歪む。	口縁部〜胴 部上半1/3
179-2	陶 徳 利	器 利	志戸呂。胎土はにぶい橙色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）の後、首部灰釉（黄褐色）。	首部〜肩部 一部
179-3	陶 徳 利	器 利	志戸呂。胎土はにぶい橙色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）。底部外面無釉。胴部外面に1箇所墨書あり。底部外面に墨書「久〇」。底部焼成後穿孔。	胴部下半1/3
179-4	陶 徳 利	器 利	志戸呂。胎土はにぶい橙色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）。底部外面無釉。底部外面に墨書「久〇」。	胴部下半1/2
179-5 〔49-3〕	陶 徳 利	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）の後、首部灰釉（黄褐色）。底部外面無釉。胴部外面に墨書あり。底部外面に墨書「久〇」。肩部に輪状の窯道具痕。	2/3
179-6 〔49-9〕	陶 徳 利	器 利	志戸呂。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）。底部外面無釉。胴部外面に2箇所に墨書あり。底部外面に墨書「久〇」？。	胴部下半2/3
180-1	陶 徳 利	器 利	志戸呂。胎土は赤橙色、緻密で均質。外面錆釉（赤紫色）。底部外面の一部無釉。胴部外面2箇所に墨書あり。	胴部下半〜 底部1/3
180-2	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土は橙色。内面荒れている。外面剥落している部分あり。口唇部煤付着。	体部1/6欠
180-3	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。荒れている部分あり。口唇部煤付着。	体部一部欠
180-4 〔63-4〕	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。荒れている部分あり。口唇部煤付着。	ほぼ完形
180-5	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土はにぶい橙色。外面剥落している部分あり。口唇部煤付着。	体部一部欠
180-6	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土は橙色。体部外面剥落している部分あり。口唇部煤付着。	体部1/3
180-7	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。剥落している部分あり。	体部1/3欠
180-8	土 器	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。外面剥落して	体部1/4欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
180-9	土 器	かわらけ	いる部分あり。口唇部煤付着。 ロクロ水挽き成形。体部内面には沈線が1条巡る。体部外面下半左回りの		体部1/4
		かわらけ	ロクロケズリ。胎土は浅黄橙色。口縁部焼成後穿孔(1個所)。口唇部平ら に削って二次使用。		
180-10	土 器	土師質。	切り込みは逆アーチ状。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。		ほぼ完形
		受付き灯明皿	全面銀彩?		
180-11	土 器	土師質。	底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色。		ほぼ完形
		灯明具			
180-12 (68-2a.b.c)	土 器	土師質。	ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズ リ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺 突。底部内面に刻印「㊦」。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。		1/4欠
180-13 (68-1a.b)	土 器	土師質。	ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズ リ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺 突。底部内面に刻印あり。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。		底部一部欠
180-14	土 器	土師質。	ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズ リ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺 突。底部内面に刻印「㊦」。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。		1/4欠
180-15	陶 器	備前系(堺)。	ロクロ輪積成形。口縁部播目を施した後に横位のナデ。体部 外面横位のロクロケズリ。播目8本1単位。内面擦れている。被熱。		体部片
180-16 (69-1)	土 器	土師質。	ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面ナデの 後、口縁部横位のナデ。底部外面ちぢれ目。足(3個のうち2個残存)貼 付。器面はにぶい橙色で、断面は灰褐色をにぶい橙色がサンドイッチ状に 挟む。体部外面銀彩? 口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。		体部一部欠
180-17 (60-7a~d)	土 器	土師質。	ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面ナデの 後、口縁部横位のナデ。底部外面ちぢれ目。足(3個のうち2個残存)貼 付。胎土は橙色。体部外面銀彩? 口唇部内側磨滅。体部内面上半煤付着。 体部外面に刻書「吉□九九 諸道」、口唇部に「九」。		一部欠

第30表 233号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特	徴	残存部位
181-1	磁 器	青磁染付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込樹木文? 口縁部内面四方禪文。呉須は白濁。		1/3
			畳付を除く外面青磁釉(明緑灰色)。高台内銘あり。見込擦れている部分あり。		
181-2 (39-9a.b)	磁 器	青磁染付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込草花文、口縁部内面四方禪文。畳付を除く外 面青磁釉(明緑灰色)。高台内渦福銘。内面回るような擦痕顕著。包含層と 接合。		体部1/4欠
181-3	磁 器	青磁染付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込家屋文。畳付を除く外面青磁釉(明緑灰色)。 高台内銘あり。見込・体部内外面擦痕あり。245号遺構・包含層と接合。		2/3
181-4	磁 器	青磁染付皿	肥前。口唇部輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。見込草文。畳付を除く外面 青磁釉(明緑灰色)。高台内渦福銘。106・245号遺構・包含層と接合。		体部2/3欠
181-5	磁 器	青磁染付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込三方割文、体部内面区画割人物文、体部外面 唐草文。内面体部外面回るような擦痕顕著。包含層と接合。		体部1/2欠
181-6 (39-8a.b)	磁 器	青磁染付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込三方割イチョウ文、体部内面丸文。畳付を除 く外面青磁釉(明緑灰色)。高台内銘あり。245号遺構と接合。		体部1/3欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
181-7	磁器	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込草花文、体部内面亀甲文・花文、体部外面唐草文。見込は不定方向の、体部内外面回るような擦痕顕著。他に同一文様・器形のもの1個体あり。245・106号遺構・包含層と接合。	体部1/2欠	
181-8	磁器	肥前。口唇部輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。見込三方割イチョウ文、体部内面丸文、体部外面唐草文。高台内渦福銘。	体部上半5/6欠	
182-1	磁器	肥前。見込蛇ノ目釉ハギ。体部内面唐草文。見込不定方向の擦痕、擦れている部分顕著。	1/2	
182-2	磁器	肥前。口銹。体部輪花状に型打。内面草花文。	1/2	
182-3	磁器	肥前。見込松竹梅文、口縁部内面四方襷文、体部外面草花文。	1/3	
182-4	磁器	肥前。見込・体部外面(2単位)蕪文。245号遺構・包含層と接合。	体部1/2	
182-5	磁器	肥前。見込五弁花。口縁部内面四方襷文、体部外面七宝文他。見込不定方向の、体部内面回るような擦痕顕著。106号遺構・包含層と接合。	体部1/3欠	
182-6	磁器	肥前。体部外面四方襷文・斜格子文。106・115・245号遺構と接合。	体部3/4欠	
182-7	陶器	瀬戸・美濃。体部外面中位に横位の沈線が4本巡る。胎土は浅黄色で、粗い。畳付を除く外面下半鉄釉(黒・褐色)の後、内面から体部外面上半灰釉(淡黄色)。	体部上半3/4欠	
182-8	陶器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。体部外面具須(灰青色)?で松文。全面灰釉(淡黄色)。見込回るような体部内面横位の、体部外面不定方向の擦痕顕著。	体部2/3欠	
182-9	陶器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉(にぶい淡黄色から灰色、口縁部内面の釉溜り白濁)。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。見込回るような、体部内面横位の、体部外面不定方向の擦痕顕著。見込は擦れている部分顕著。包含層と接合。	体部下半1/4欠	
182-10	陶器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉(淡黄色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「卒」。見込・体部内外面不定方向の擦痕あり。	体部1/2欠	
182-11	陶器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉(淡黄色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「伊」。	1/3	
182-12	陶器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉(明緑灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。内外面に細かい不定方向の擦痕あり。245号遺構・包含層と接合。	体部一部欠	
182-13	陶器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉(明緑灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり(花押?)。包含層と接合。	体部上半4/5欠	
182-14	陶器	瀬戸・美濃。胎土は灰色、無釉部は灰黄白色で、粗い。内面から体部外面灰釉(灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「厩紋右」。包含層と接合。	体部3/4欠	
182-15 (46-5)	陶器	瀬戸・美濃。胎土は灰色からにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉(灰色で、斑状に黄白色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「厩紋」。106号遺構・包含層と接合。	体部1/2欠	
183-1	陶器	瀬戸・美濃。胎土は灰色。内面から体部外面灰釉(明緑灰色)。釉ムラ顕著。高台部周囲無釉。	体部1/2欠	
183-2	陶器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉(淡黄色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕	体部上半2/3欠	

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			顕著。106号遺構と接合。	
183-3	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（にぶい淡黄色から灰色が斑状）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。見込に一定方向の、体部内外面横位の擦痕顕著。包含層と接合。	ほぼ完形
183-4	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。体部内外面横位の擦痕顕著。包含層と接合。	2/3
183-5	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。見込に輪状（直径3cm）の目痕あり。245号遺構・包含層と接合。	体部上半ほぼ全部欠
183-6	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色、露胎部は淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。擦れている部分顕著。	体部1/3欠
183-7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（にぶい淡黄色、一部灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり（高台内黒く塗る?）。見込に回るような、体部内外面横位の擦痕顕著。	体部一部欠
183-8	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。内面に回るような、体部外面不定方向の擦痕顕著。内面擦れている部分あり。包含層と接合。	1/2
183-9	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（緑灰色）。釉ムラ顕著。高台部周囲無釉。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。見込・体部外面擦れている部分あり。	体部4/5欠
183-10	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色。無釉部は灰黄白色。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「□右衛門 六右衛門」。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。106号遺構・包含層と接合。	体部1/3欠
183-11	陶 染付碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部外面呉須（灰青色）で文様あり。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり（花押?）。見込に不定方向の擦痕あり。115号遺構・包含層と接合。	体部一部欠
183-12	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）の後、鉛釉斑（褐緑色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「吉」。見込に不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。245号遺構・包含層と接合。	体部下半2/3欠
183-13	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、鉄釉斑（黒褐色）。高台部周囲無釉。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の細かい擦痕あり。	体部1/2欠
183-14	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は淡黄色・灰色で、粗い。灰釉（淡黄色で、斑状に灰色）の後、鉄釉斑（褐・黒色）。高台部周囲無釉。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。106号遺構・包含層と接合。	体部1/3欠
183-15 〔46-6〕	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色で、霧状に白濁）の後、鉄釉斑（黒褐色）。高台部周囲無釉。包含層と接合。	体部1/3欠
183-16 〔46-11〕	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部に窪み7箇所あり。胎土は灰白色で、粗い。高台部外面から畳付を除く全面鉄釉（黒色）の後、体部外面長石斑。見込は釉が無光沢になっており、使用痕と思われる。	体部一部欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
183-17	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部外面鉄（黒褐色）で松文。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。体部内面横位の擦痕顕著。245号遺構と接合。	体部1/3欠
183-18 〔46-14〕	陶 碗	器	生産地不明。胎土はにぶい橙色。無釉部は赤褐色で、かなり粗い。内面と体部外面透明釉（黒褐色）?の後、口縁部内外面呉須釉（水色）。	体部1/3欠
184-1	陶 碗	器	京焼系。胎土は白色で、磁器質、緻密で堅緻。体部外面下半から高台部銹釉の上に、内面から体部外面透明釉（灰白色）。結果的には、体部外面下半は透明釉がかかったことにより鉄釉（黒褐色）になり、高台部は銹釉（赤紫色）となる。182号遺構・包含層と接合。	1/3
184-2	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい橙色で、粗い。畳付を除く全面透明釉?（長石釉?）の後、口縁部内外面呉須釉（水色）。106・115号遺構・包含層と接合。	1/3
184-3	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。体部外面回転押印文。灰釉（内面は緑灰色、外面は灰色）の後、口縁部内外面鉄釉（黒褐色）。内面に不定方向の擦痕あり。245号遺構と接合。	1/3
184-4	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。体部外面鉄（黒色）で柳文。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。	1/2
184-5	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。体部外面鉄絵（黒褐色）。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。160号遺構と接合。	1/3
184-6	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。体部外面鉄（黒褐色）で柳文。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。内面体部外面不定方向の擦痕あり。117号遺構・包含層と接合。	体部1/2欠
184-7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面・体部外面白泥の乱文様の後、灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「キ」。見込・体部内面に擦痕あり。包含層と接合。	1/5
184-8	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。体部外面白泥の横縞文様、内面白泥の乱文様の後、灰釉（淡黄色）。高台部周囲無釉。241・245号遺構と接合。	体部上半3/4欠
184-9	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、かなり粗い。体部外面回転押印文。外面灰釉（黄褐色、畳付のみ無釉）の後、内面から口縁部外面緑釉。体部内面横位の擦痕あり。	1/4欠
184-10 〔46-13〕	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面・体部外面から高台部外面灰釉（淡黄色）の後、口縁部内外面呉須釉（水色）。畳付から高台内無釉	1/2
184-11	陶 碗	器	京焼系（信楽?）。胎土は淡黄色で、緻密。体部外面鉄（黒褐色）と呉須（黒青色）で小杉文。内面から体部外面透明釉。高台部無釉。高台内に墨書「兵」。245号遺構と接合。	体部1/2欠
184-12	陶 碗	器	京焼系（信楽?）。胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面から体部外面透明釉。高台部無釉。高台内に墨書「吉?」。	1/3
184-13	陶 碗	器	京焼系（信楽?）。胎土は白色で、磁器質。緻密で堅緻。内面から体部外面透明釉（灰白色）。高台部無釉。	体部1/2欠
184-14	陶 碗	器	京焼系（信楽?）。胎土は淡黄色、緻密で堅緻。内面から体部外面透明釉。高台部無釉。	2/3
184-15	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰色。灰釉（緑灰色）。釉ムラ顕著。底部周囲釉ふきと。胴部外面に釘書き「山川」。胴部外面に焼成時の他個体との溶着痕2箇所	一部欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			所あり。また底面には輪トチが溶着している。口唇部磨滅。	
184-16	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。外面灰釉（灰色）。底部周囲無釉。外面に釘書き「高サキ」。胴部外面に焼成時の他個体との溶着痕 2箇所あり。	胴部2/3と 底部1/2
184-17	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（明緑灰色）。底部周囲釉ふきとり。胴部外面に釘書きあり。	胴部下半
185-1	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。外面灰釉（緑灰色）。底部周囲釉ふきとり。245号遺構と接合。	胴部下半1/2
185-2	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。外面灰釉（黄褐色）。底部周囲釉ふきとり（無釉部は赤褐色）。	胴部下半
185-3	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色から淡黄色。外面灰釉（灰白色）。	首部
185-4	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色からにぶい橙色で、粗い。外面灰釉（黄灰色）。口唇部磨滅。	口縁部～肩 部一部
185-5	陶 土	器 瓶	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、かなり粗い。外面灰釉（灰白色）に、呉須釉（青色）流しがけ。内面無釉。第185図6と組。	体部3/4
185-6	陶 土	器 瓶	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、かなり粗い。内面から胴部上半灰釉（灰白色）に、呉須釉（青色）流しがけ。胴部下半無釉。無釉部（胴部下半）は黒く煤ける。胴部下半に近い部分、注口の下半分も黒くなっている。また全面に貫入が入り、すき間は黒くなっている。第185図5と組。	1/2
185-7	陶 受付灯明皿	器	志戸呂。底部外面糸切り痕残るが、その後には体部外面はロクロ削りが入り、周囲は消される。切り込みは一方向から緩い「V」の字状。受部外側と体部外面に輪状の窯道具痕あり。胎土は灰色、緻密で均質。全面銹釉（極暗褐色）。	1/2
185-8	土 受付き灯明皿	器	土師質。切り込みは逆アーチ状。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透明釉（暗赤褐色）。釉が剥落している部分あり。	完形
185-9	土 受付き灯明皿	器	土師質。切り込みは逆アーチ状。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透明釉（赤褐色）。	完形
185-10	陶 鉢	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、かなり粗い。全面灰釉（にぶい淡黄色）の後、緑釉流しがけ。釉は部分的に白濁。	体部1/4
185-11	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部外面横位のナデ。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。内耳部に焼成後穿孔（内耳が破損した後に、二次使用）。底部外面黒ずむ。	体部片
185-12	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部外面横位のナデ。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。体部外面下半から底部外面黒ずむ。体部外面下半煤付着。	体部片
185-13	陶 搦鉢	器	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。口縁部搦目を施した後に横位のナデ。外面横位のロクロケズリ。搦目11本1単位。器面は赤褐色から赤橙色。	体部片
185-14	陶 搦鉢	器	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。口縁部搦目を施した後に横位のナデ。外面横位のロクロケズリ。搦目9本1単位。器面は赤褐色から暗赤褐色。	体部片
185-15	陶 搦鉢	器	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。口縁部搦目を施した後に横位のナデ。外面横位のロクロケズリ。搦目8本1単位。器面は赤褐色から赤橙色。口縁部作りは折り返しによる。	体部片
185-16	陶 搦鉢	器	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。体部外面横位のロクロケズリ。搦目7本1単位。器面は赤褐色から赤橙色。見込脇に焼台痕あり。	底部1/2

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
185-17 (69-5a~c)	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面回転押圧文(「く」の字文または斜格子文)を施した後、横位の雑なミガキ。底部外面ナデ(ちぢれ目が残る)。足(3個)は貼付。胎土は黒褐色。口唇部の磨滅。口唇部内側煤付着。体部外面に刻書あり。106号遺構と接合。	1/3欠
185-18	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積(水挽き?)成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面回転押圧文(斜格子文)を施した後、横位の雑なミガキ、赤彩? 底部外面ナデ(ちぢれ目が残る)。足(2個痕跡が残存)は貼付。器面は褐灰色で、断面はにぶい橙色。口唇部磨滅。口縁部外面に刻書あり。	体部2/3欠
185-19 (69-6)	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面回転押圧文(縦位の短沈線文)を施した後、縦位の雑なミガキ。底部外面ナデ(ちぢれ目が残る)。器面は灰褐色で、断面は黒褐色を灰褐色がサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。	体部下半
185-20	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面回転横位の雑なミガキ。底部外面ナデ(ちぢれ目が残る)。足(3個のうち2個残存)は貼付。器面は橙色で、断面は灰白色を橙色がサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅。口縁部内側煤付着。	1/3
185-21	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位のナデ。体部外面回転押圧文(席目)を施した後、縦位の雑なミガキ。底部外面ナデ(ちぢれ目が残る)。足(3個)は貼付。器面は黒褐色で、断面は黒褐色をにぶい赤褐色がサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。体部外面に刻書あり。	体部1/3欠

第31表 245号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
186-1	磁 染	器 付碗	肥前。見込五弁花、口縁部内面四方禪文、体部外面草と蝶文。	体部上半部 一部欠
186-2	磁 染	器 付碗	肥前。見込五弁花、口縁部内面四方禪文、体部外面矢羽文・氷裂文。内面霧状に白濁。見込回のような擦痕あり。245号遺構・包含層と接合。	体部1/2
186-3 (39-7a.b)	磁 染	器 付皿	肥前。蛇ノ目凹形高台。内面粟文、体部外面源氏香文(3単位)。全面に貫入。他に同一文様・器形のもの1個体あり。	2/3
186-4	磁 染	器 付皿	肥前。口唇部輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。見込花卉文、体部内面蛸唐草文、体部外面唐草文。高台内に銘「筒江」。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。見込は擦れている部分あり。245号遺構と接合。	1/2
186-5	磁 染	器 付皿	肥前。芙蓉手・見込花虫文。釉は生掛け?	1/4
186-6	磁 青磁染	器 付皿	肥前。口唇部輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。見込草文。豊付を除く外面青磁釉(明緑灰色)。高台内渦福銘。見込・体部外面不定方向回のような、体部内面横位の擦痕顕著。見込は擦れている部分顕著。32・245号遺構と接合。	体部2/3欠
186-7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土はにぶい淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉(灰白色)の後、口縁部内外面呉須釉(青色)・柿釉(褐色)がけ。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。106号遺構と接合。	体部1/2欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
186-8	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉（明緑色）の後、体部外面柿釉（褐色）斑。高台部周囲無釉。見込・体部内面回るような擦痕顕著。	体部1/2欠
186-9	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。包含層と接合。	体部上半3/4 欠
186-10	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面に横位の沈線が2本巡る。胎土は灰白色。内面から体部外面灰釉（灰白色）の後、体部外面柿釉（褐色）斑。高台内に墨書「勘（助？）人」。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の細かい擦痕顕著。115号遺構・包含層と接合。	体部1/2欠
187-1	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。見込不定方向の擦痕あり。	2/3
187-2	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉（淡黄色・灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。	完形
187-3	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。見込から体部内面回るような擦痕顕著。	体部1/2欠
187-4	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。	2/3
187-5	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色・淡黄色。内面から体部外面灰釉（灰色・淡黄色）。高台部周囲無釉。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。115号遺構・包含層と接合。	体部2/3欠
187-6	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。底部全部	体部一部と 底部全部
187-7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色。内面から体部外面灰釉（灰白色）。全面白濁、表面ざらつく。高台部周囲無釉。高台内に墨書「勘一」?	体部2/3欠
187-8	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（淡黄色）。白濁部分多い（焼成不良）。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。包含層と接合。	体部一部と 底部全部
187-9	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「伊」。見込不定方向の擦痕あり。	体部一部欠
187-10	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（体部上半灰色、他は淡黄色）。高台部周囲無釉。見込・体部外面不定方向の細かい、体部内面横位の擦痕顕著。見込擦れている部分あり。	ほぼ完形
187-11	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（明緑灰色、釉溜りあり）。高台部周囲無釉。見込・体部外面不定方向の、体部内面横位の細かい擦痕顕著。233号遺構・包含層と接合。	体部3/4欠
187-12 [46-4a.b]	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「厩?方? 仁印（花押カ）」。見込に目痕3箇所あり。376号遺構・包含層と接合。	体部2/3欠
187-13	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「牟」。見込に輪状（直径2.5cm）の目痕あり。包含層と接合。	1/3
187-14	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。内面から体部外面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。106・233号遺構と接合。	体部一部欠
188-1	陶 器	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。内面から体部外面灰釉（緑灰色で透	体部1/2欠

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
		碗	明感あり。高台部周囲・見込は厚い。高台部周囲無釉。見込不定方向の、 体部内外面横位の擦痕あり。106・233号遺構・包含層と接合。	
188-2	陶 器	碗	肥前。胎土は淡黄色で、褐色粗砂を含む。畳付を除く全面透明釉。全面に 貫入する。見込回るような、不定方向の擦痕顕著。	1/4
188-3	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉 (淡黄色)の後、口縁部内外面呉須釉(灰青色)・柿釉(褐色)。高台内に墨 書あり。見込不定方向の、体部内面横位の擦痕あり。233号遺構と接合。	体部1/4欠
188-4	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。体部外面鉄(緑褐色)で柳文。内面か ら体部外面灰釉(明緑灰色)。高台部周囲無釉。見込に不定方向の擦痕あり。	体部1/5欠
188-5	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部外面鉄(黒褐色)で柳文。内面 から体部外面灰釉(灰白色)。高台部周囲無釉。体部内外面不定方向の擦痕 あり。233号遺構・包含層と接合。	体部3/4欠
188-6	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。体部外面鉄(緑褐色)で柳文。内面か ら体部外面灰釉(明緑灰色)。高台部周囲無釉。体部内面横位の、体部外面 縦位の擦痕あり。	体部1/2欠
188-7	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部外面鉄(褐色)で柳文。内面か ら体部外面灰釉(灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書あり。体部外面 不定方向の、体部内面横位の擦痕顕著。見込擦れている部分あり。	体部2/3欠
188-8 (46-10)	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。体部外面横位の回転押印文。 畳付を除く体部外面灰釉(黄褐色)の後、内面から口縁部外面緑釉(黄緑 色)。見込不定方向の擦痕あり。	体部1/3欠
188-9	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。体部外面横位の回転押印文。 畳付を除く外面灰釉(黄褐色)の後、内面から体部外面緑釉(白濁部分多 い)。見込不定方向の細かい擦痕あり。	体部一部欠
188-10	陶 器	碗	瀬戸・美濃。体部に窪み11箇所あり(ただし残存部)。無釉部は明淡黄色、 断面は灰白色で、粗い。高台部周囲を除く全面鉄釉(黒色)の後、体部外 面長石斑。畳付に墨書・刻印(丸の中に崩し字)あり。体部内面立ち上が り際横位の擦痕あり。	体部上半1/4 欠
188-11 (46-9)	陶 器	碗	瀬戸・美濃。体部に窪みあり。胎土は灰白色で、粗い。高台部を除く全面 鉄釉(黒色)の後、体部外面長石斑。畳付に墨書「寛政七 文蔵 二月□(吉カ 十カ)日」。見込・体部内面下半に回るような擦痕あり。233号遺構と接合。	体部下半
188-12	陶 器	碗	京焼系。体部外面蛇腹状で、窪み3箇所あり。胎土は白色、緻密で堅緻。 内面から体部外面長石釉(白色)。全面に貫入する。高台内中央部に工具で つけた渦巻あり。	体部1/2欠
188-13	陶 器	碗	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、かなり粗い。内面から体部外面灰釉(黄灰 色)に、体部外面柿釉(褐色)斑。	体部3/4欠
188-14	陶 器	碗	京焼系。胎土は白色で、緻密。内面から体部外面透明釉(厚く、全面に貫 入する)。高台部周囲無釉。高台内に朱書「徳」。	体部2/3欠
188-15 (46-12a,b)	陶 器	碗	京焼系。胎土は淡黄色で、緻密。体部下半から高台部銹釉の上に、内面か ら体部外面透明釉。結果的には体部下半は透明釉がかかったことより鉄釉 (黒色)になり、高台部は銹釉(赤紫色)となる。高台内に墨書「ヤタ(ナ タ?)」。115号遺構・包含層と接合。	体部1/4欠
188-16	陶 器	碗	京焼系。胎土は淡黄色で、緻密。体部下半から高台部銹釉の上に、内面か ら体部外面透明釉。結果的には体部下半は透明釉がかかったことより鉄釉 (黒色)になり、高台部は銹釉(紫色)となる。125号遺構・包含層と接合。	体部1/5欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
189-1	陶 碗	器	京焼系(信楽?)。胎土は淡黄色で、緻密。体部外面鉄(黒褐色)と呉須(灰青色)で小杉文。内面から体部外面透明釉。高台部無釉。高台内に墨書あり。	体部上半1/3 欠
189-2	陶 碗	器	京焼系(信楽?)。胎土は淡黄色で、緻密。体部外面鉄(黒褐色)と呉須(灰青色)で小杉文。内面から体部外面透明釉。高台部無釉。	体部1/5欠
189-3	陶 碗	器	京焼系(信楽?)。胎土は淡黄色で、緻密。体部外面鉄(黒褐色)と呉須(灰青色)で小杉文。内面から体部外面透明釉(灰白色)。高台部無釉。釉際に炎色(橙色)出る。	体部1/4欠
189-4	陶 香 炉	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。体部内外面銹釉(褐色、光沢なし)。見込・高台部周囲無釉。	体部1/3欠
189-5	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉(淡黄色)。胴部外面に釘書きあり。	口縁~胴部 上半2/3
189-6	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。外面灰釉(灰白色)。底部周囲無釉。胴部外面に釘書き「久〇」。	2/3
189-7	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土はにぶい淡黄色で、粗い。外面灰釉(緑灰色)。胴部外面に釘書き「久〇」。106号遺構と接合。	口縁~胴部 上半1/2
189-8 [49-4]	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。外面灰釉(黄白色)。底部周囲無釉ふきとり。胴部外面に釘書き「いせや」。胴部外面に焼成時の他個体との溶着痕あり。	首部・胴部 1/6欠
189-9	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉(緑灰色)。	首部
189-10	陶 徳 利	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。外面灰釉(緑灰色)。底部周囲無釉ふきとり。胴部外面に釘書き「[正]」。胴部外面に焼成時の他個体との溶着痕1箇所あり。胴部に成形時に穴のあいた部分があり、そこに粘土をつめて穴をふさいでいる(2箇所)。233号遺構と接合。	首部欠と接 合
189-11	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。	1/3
189-12	土 かわらけ	器	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。底部内面に墨書あり。口唇部煤付着。	1/2
190-1	陶 搦 鉢	器	備前系(堺)。ロクロ輪積成形。口縁部播目を施した後に横位のナデ。体部外面横位のロクロケズリ。搦目の単位は不明。器面は赤褐色から赤橙色。	体部片
190-2 [69-9]	土 蓋?	器	土師質。粘土板成形。全面ナデ。胎土はにぶい橙色。内面に煤付着。	不明
190-3	土 火 鉢	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。口唇部指による横位のナデ。体部外面雑な横位のミガキ。底部外面ナデ。足(1個残存)は貼付。胎土はにぶい橙色。口唇部外側磨滅。口唇部内側煤付着。体部外面に刻書「八」。	1/3
190-4 [69-2]	土 火 鉢	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。口縁部指による横位のナデ。体部外面雑な横位のミガキ。底部外面ちぢれ目。足(3個のうち2個は痕跡)は貼付。胎土は橙色。体部外面銀彩? 口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。	ほぼ完形
190-5	土 火 鉢	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。口縁部指による横位のナデ。体部外面雑な横位のミガキ。底部外面ナデ、板状痕? 足(1個残存)は貼付。胎土は橙色。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。体部外面に刻書あり。	1/6
190-6	土 器	器	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。口縁部指に	体部2/3欠

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
	火	鉢	よる横位のナデ。体部外面雑な横位のミガキ。底部外面ナデ。足（3個のうち2個残存）は貼付。胎土は橙色。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。底部内面に墨書「□左衛門 正□ □七 □□」。底部外面には「□左衛門 □半」	
190-7 [69-3a.b]	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積（水挽き？）成形。体部内面指による横位の強いナデ。体部外面回転押圧文（蓆目）を施した後、横位の雑なミガキ。底部外面左回転糸切り痕。足（2個痕跡残存）は貼付。器面は黒色で、断面にぶい橙色。	1/2
190-8	土 火	器 鉢	瓦質。成形方法不明。体部内面指による横位の強いナデ。体部外面回転押圧文（蓆目）を施した後、横位の雑なミガキ、赤彩。底部外面雑なナデ。足（3個）は貼付。胎土は灰色で、黒色をサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅。底部外面に刻書「十蔵」。	口縁部欠
190-9	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。体部外面回転押圧文（曲線文）を施した後、横位の雑なミガキ、赤彩。底部外面スグレ状痕。足（2個残存）は貼付。器面は黒灰色で、断面は褐灰色。口唇部磨滅。	1/4
190-10	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面指による横位の強いナデ。体部外面回転押圧文（蓆目）を施した後、横位の雑なミガキ、赤彩？ 底部外面ナデ。足（1個残存）は貼付。器面は黒灰色で、断面は黒灰色を灰褐色がサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅。口唇部内側煤付着。底部外面に刻書「七□」	1/6
190-11	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部外内面指横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。底部外面ちぢれ目。底部内面・体部外面下半から底部外面煤ける。	1/3

第32表 1号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位
191-1	磁 染	器 付皿	肥前。ハリ支え痕。見込松竹梅文，体部内面宝尽し文，体部外面唐草文。高台内1重圏線内に銘「太明年成」。見込は不定方向の，体部内面回のような擦痕顕著。見込擦れている部分あり。焼継ぎ。49号遺構・築山・包含層・山上会議所地点と接合。	体部2/3欠
191-2	磁 染	器 付皿	肥前。ハリ支え痕（1個は溶着したまま）。内面松竹梅文，体部外面唐草文。高台内1重圏線内に銘「太明年製」。築山・包含層と接合。	底体部下半 2/3
192-1	磁 染	器 付皿	肥前。ハリ支え痕。内面松竹梅文，体部外面唐草文。高台内1重圏線内に銘「吉」。見込不定方向の擦痕あり。	体部上半2/3 欠
192-2	磁 染	器 付皿	肥前。ハリ支え痕。内面牡丹文，体部外面唐草文。高台内1重圏線内に銘「富貴長春」。見込不定方向の擦痕あり。	2/3
193-1	磁 染	器 付皿	肥前。ハリ支え痕。内面墨弾き雲文・牡丹文（牡丹の蕾？），体部外面宝文。高台内1重圏線内に銘「太□年製」。見込不定方向，体部内面回のような擦痕顕著。焼継ぎ。築山・包含層と接合。	1/3
193-2 [41-46]	磁 染	器 付皿	肥前。見込松竹梅文，体部内面蛸唐草文，体部外面唐草文。高台内に1重圏線あり。見込擦痕あり。築山・包含層と接合。	1/2
194-1	磁	器	肥前。ハリ支え痕。見込松竹梅文，体部内面蛸唐草文，体部外面唐草文。	体部1/2欠

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位
	染付皿	高台内1重圏線内に銘「太明成化年製」。見込不定方向の擦痕あり。49号遺構・包含層・山上会館地点と接合。	
194-2	磁器 染付鉢	肥前。見込楼閣山水文、口縁部内面四方禪文、体部外面花唐草文。高台内に1重圏線あり。焼継ぎ。包含層と接合。	1/3
195-1	磁器 青磁染付鉢	肥前。蛇ノ目凹形高台。見込縁側と植木文、口縁部内面雲と花卉文、体部外面唐草文。体部内面青磁釉(明緑色)。高台内渦福銘。畳付が出っ尻になっていて安定しない。	1/4欠
195-2	磁器 染付鉢	肥前。見込草に鳥文、体部内面区画割草花文・山水文(墨弾き使用)。高台内1重圏線内に角福銘。焼継ぎ。築山・包含層と接合。	体部2/3欠
195-3	磁器 染付蓋	肥前。外面草花文。	完形
195-4	磁器 白磁小杯	肥前。全面白濁しており、一部に貫入する。	1/2
195-5	磁器 染付碗	肥絵。体部外面橋と柳文。	1/2
195-6 口絵8-6	舶載磁器 色絵皿	中国。角皿と思われるが、全形不明。見込草花文(輪郭は黒色、葉・植木鉢は緑色、太胡石は黄色、他に紫色)。高台内具須で銘あり。高台内粗砂付着。高台内回るような擦痕顕著。被熱により色絵部分溶着物あり。	底部1/4
196-1	陶器 皿	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。内面鉄(褐色の枝)と具須(灰青色の葉)で柳文。内面から体部外面上半灰釉(黄白色)。体部外面下半から高台内無釉。見込に目痕6箇所あり。	体部1/3欠
196-2 {50-5}	陶器 壺	信楽・四耳壺。胎土は白色、緻密で堅緻。白色礫(5mm大)を多量に含む。胴部1/3欠口縁部内面から胴部外面中位鉄釉(暗褐色)の後、胴部上位灰釉(灰オリープ色)がけ。胴部下半から底部外面透明釉。底部外面釉ふきとり。底部外面砂付着。築山と接合。	胴部1/3欠
197-1	陶器 碗	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。体部外面具須(灰青色)で文様あり。高台部を除く全面灰釉(灰白色)。高台部周囲無釉。	体部一部と 底部全部
197-2	陶器 碗	瀬戸・美濃。体部に窪み1箇所以上あり。胎土は淡黄色で、粗い。内面から体部外面鉄釉(黒色・黒褐色)の後、体部外面長石斑。高台部周囲無釉。	体部一部と 底部全部
197-3	陶器 碗	京焼系(信楽?)胎土は灰白色で、緻密。高台部を除く全面透明釉。高台部無釉。	1/3
197-4	陶器 蓋	瀬戸・美濃。胎土は灰色、緻密で堅緻。口縁部外面から内面灰釉(オリープ灰色)。一部白濁。体部・底部外面無釉。	完形
197-5	陶器 蓋	瀬戸・美濃。つまみは貼付。胎土は淡黄色。口縁部外面から内面柿釉。底部外面無釉。	1/2
197-6	陶器 植木鉢	瀬戸・美濃。高台部に透し3箇所あり。胎土は淡黄色で、粗い。口縁部内面から体部外面灰釉(灰白色)。内面・高台内無釉。底部焼成前穿孔。74号遺構と接合。	体部1/4欠
197-7	陶器 徳利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、緻密。口縁部内面から外面灰釉(灰白色)。全面霧状に白濁。	口縁部～肩部
197-8	陶器 徳利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。胴部外面灰釉(灰白色)。底部外面無釉。胴部外面に釘書き「八上」。	1/2
197-9	陶器 徳利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、粗い。口縁部内面から外面灰釉(明緑灰色)。口唇部磨滅。	口縁部～肩部一部
197-10	陶器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で、緻密。外面灰釉(灰白色)。胴部外面に釘書	口縁部～胴

挿図番号 (写真番号)	種器	別種	特 徴	残存部位
197-11	徳陶器	利器	きあり。口唇部細かく割れており、使用痕と思われる。瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（黄色）。底部外面周囲釉ふ	部一部 2/3
197-12	徳陶器	利器	きとり。胴部外面に釘書きあり。瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。外面から口縁部内面灰釉（淡黄色）。口唇部磨	口縁部～肩部
197-13	徳陶器	利器	滅。瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉（淡黄色）。底部外面周囲釉	胴部2/3欠
197-14	徳陶器	利器	ふきとり。胴部外面に釘書きあり。瀬戸・美濃。胎土は黄白色。外面灰釉（灰緑白色）。底部外面周囲釉ふきと	1/2
198-1	陶器	甕	り。胴部外面に釘書きあり。首部を欠いて二次使用。内面は全面に鉄錆状の褐色の付着物あり。瀬戸・美濃。胎土断面は灰色、無釉部はにぶい黄橙色で、粗い。内面から	2/3
198-2	陶器	灯明受皿	体部外面上・中位柿釉（斑状に黒色部分あり）。体部外面下位から底部外面無釉。口唇部に砂目痕3箇所あり。志戸呂。胎土断面は灰色、無釉部は明褐色、緻密で堅緻。体部外面上半か	受部1/2欠
198-3	陶器	灯明皿	ら内面銹釉（赤紫色）。瀬戸・美濃。胎土は灰色で、粗い。全面銹釉。体部下半から底部釉ふきと	1/2
198-4	陶器	鍋	り。見込に重ね積み痕残る。瀬戸・美濃。把手は2箇所貼付。胎土は灰白色で、粗い。全面柿釉（褐色）。	口縁部～体部上半1/3
198-5	陶器	鍋	瀬戸・美濃。把手は2箇所貼付。胎土は灰色、緻密で堅緻、均質。全面柿釉（褐色）。	口縁部～体部上半1/3
198-6	陶器	蓋物	京焼系。胎土は浅黄橙色、緻密で均質。体部外面梅樹文（花は白泥・鉄・呉須、枝は鉄）。全面透明釉。口縁部内面と体部底部際から量付無釉。口縁部内面釉際炎色（橙色）出る。	1/3
198-7	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成前穿孔。	ほぼ完形
198-8	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	体部1/2欠
198-9	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。	1/2
198-10 (65-1)	土器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。体部外面から底部はロクロナデ（滑らかになってい	体部1/2欠
198-11	土器	受付き灯明皿	る）。胎土は橙色。土師質。切り込みは逆アーチ状。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透	口縁部1/4欠
198-12	土器	受付き灯明皿	明釉（暗赤色）。土師質。切り込みは逆アーチ状。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透	体部1/4欠
198-13	土器	灯明具	明釉（橙色）。土師質。切り込みは逆アーチ状。胎土は橙色。全面透明釉（橙色）。	1/2
198-14	土器	灯明具	土師質。底部左回転糸切り。胎土は橙色。受部の口唇部煤付着。	完形
198-15	土器	灯明具	土師質。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透明釉（暗赤色）。受部の口唇部煤付着。透明釉は剥落部分多い。	体部上半1/3欠
198-16	土器	灯明具	土師質。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透明釉（暗赤色）。受部の口唇部煤付着。透明釉剥落部分多い。	ほぼ完形
198-17	陶器		瀬戸・美濃縮。口唇部「T」字状。胎土は淡黄色で、粗い。体部外面工具	体部上半1/3

挿図番号 [写真番号]	種器 別種	特	徴	残存部位
198-18	土器 鉢	による流水文。全面灰釉（灰白色）の後、緑釉・鉛釉がけ。 瓦質。ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り痕。器面は黒灰色。胎土は灰色で、黒灰色をサンドイッチ状に挟む。		1/4
198-19	土器 火鉢	土師質。ロクロ水挽き成形？ はミガキが施されたように器面が平滑になっている。胎土は橙色。口唇部磨滅。	体部内面上半から体部外面赤彩。赤彩部分	口縁～体部

第33表 49号遺構出土陶磁器類観察表

挿図番号 [写真番号]	種器 別種	特	徴	残存部位
199-1	磁器 白磁蓋	肥前		完形
199-2	磁器 染付蓋	肥前。体部外面唐草文、つまみ縦線文。		完形
199-3	磁器 染付蓋	肥前。体部外面草文。		完形
199-4	磁器 色絵蓋	肥前。体部上面丸文（呉須）、四方襷文（赤・金色）、雷文（赤色）、つまみは金色。		口縁部一部欠
199-5	磁器 染付蓋	瀬戸・美濃。胎土はガラス質。体部外面松竹梅文。		体部1/4欠
199-6	磁器 色絵小杯	肥前。体部内面草花文（輪郭は黒色・花は緑色・葉は青色）、口縁部内面波濤文（青色）、見込花卉文（緑・赤色）。		体部一部欠
199-7	磁器 染付碗	肥前。胎土はガラス質。体部外面浮草文。		体部1/4欠
199-8	磁器 染付碗	瀬戸・美濃。胎土はガラス質。体部外面鶴文。		2/3
199-9 口絵2-2ab	磁器 色絵碗	再興九谷民山窯。胎土は半磁胎で、ザクザクしている。見込草花文（輪郭は黒色、葉は緑色、花は赤色の線描き）、体部内面如意頭文で、丸文の中に「福」「寿」幾何学文・花唐草文（以上赤、金色）、体部外面如意頭文・幾何学文（赤・金色）・窓絵草花文（輪郭線は黒色、緑色の塗り、赤色の線書き）。高台内に銘「民山」。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		ほぼ完形
199-10	磁器 染付碗	瀬戸・美濃。胎土はガラス質。見込雲文、体部外面蝙蝠と雲文（輪郭線彫の上をダミ書き）。高台内に銘「キ」。		完形
199-11 〔44-10〕	舶載磁器 染付銅入れ？	中国。体部外面草花文（ペンシル・ドローイング）。つまみ？が2個つくと思われる。口縁部は無釉。		2/3
199-12	磁器 白磁皿	瀬戸・美濃。胎土はガラス質。		体一部欠
199-13	磁器 白磁形水滴	肥前。型打成形。目の部分のみ鉄釉（褐色）。		一部欠
199-14	陶器 香炉	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で粗い。口唇部から体部外面灰釉（黄褐色）。内面・高台部周囲無釉。内面は自然釉がかかる。体部の高台部際に重ね積み痕残る。口唇部細かい磨滅痕あり。		体部1/2欠
199-15	陶器 香炉	瀬戸・美濃。胎土はにぶい橙色で粗い。口唇部から体部外面灰釉（灰黄色）。内面・高台部周囲無釉。口唇部磨滅痕あり。		1/2

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
199-16 (51-2a.b)	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉(灰黄白色)。口唇部・底部外面無釉。底部外面に墨書「御鳥 御用」。	把手欠
199-17	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉(灰黄白色から灰白色, 斑状)。口唇部・体部外面無釉。	体部一部欠
199-18	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉(灰白色)。底部外面無釉。	完形
199-19	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉(黄白色)。底部外面無釉。	ほぼ完形
199-20	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉(明黄白色)。底部外面無釉。	完形
199-21	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色で粗い。内面から体部外面灰釉(淡黄色)。底部外面無釉。	体部1/2欠
199-22	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。胎土は淡黄色で粗い。灰釉(淡黄色)。底部外面無釉。底部外面に墨書あり。	1/2
199-23	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。底部外面中心部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉(淡黄色)。口唇部・底部外面無釉。	把手部と体部一部欠
199-24	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。底部外面中心部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉(灰白色・白濁)。底部外面無釉。	把手部と体部一部欠
199-25	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。底部外面口クロケズリ。把手は帯状粘土を貼付。胎土は淡黄色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰黄白色から灰白色, 斑状)。口唇部・底部外面無釉。	完形
199-26	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。把手はついていたと思われる。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色で粗い。内面から体部外面灰釉(淡黄色)。底部外面無釉。底部外面に墨書「纏」。	体部2/3欠
199-27 (51-1a.b)	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉(淡黄色)。口唇部・底部外面無釉。底部外面に墨書「纏」。	体部1/3欠
199-28	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。把手は帯状粘土を貼付。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色。内面から体部外面灰釉(灰白色)。口唇部・底部外面無釉。底部外面に墨書「纏」。	体部1/2欠
199-29	陶 餌	器 入れ	瀬戸・美濃。把手はついていたと思われる。底部外面中央部に回転糸切り痕残る。胎土は淡黄色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰白色, 白濁)。口唇部・底部外面無釉。底部外面に墨書「纏」。	1/2
200-1	陶 土	器 瓶	信楽? 底部に突起3個あり。胎土は灰白色, 緻密で堅緻。口縁部から胴部外面上半野釉(緑灰色)。胴部外面下半から底部外面無釉。内面透明釉。無釉部黒ずんでいる。	底部と胴部一部欠
200-2 (51-3a.b)	陶 片	器 口	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で, かなり粗い。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。体部外面下半から高台部無釉。体部外面下位と高台内に墨書「松の間溜り三ツの内 纏印」。見込に目痕5箇所あり。	体部1/3欠
200-3	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。外面灰釉(灰緑色)。口唇部磨滅。	口縁部全部と胴部上半1/3
200-4	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で, 粗い。胴部外面灰釉(明緑灰色)。底部周囲釉ふきとり。胴部外面に釘書きあり。胴部外面に焼成時の他個体との溶着	胴部下半

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位
			あり(1箇所)。	
200-5 [49-5]	陶 器	徳 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色。外面灰釉(灰白色)。底部周囲無釉。胴部外面に釘書き「大」。胴部中位に他個体との溶着痕あり(1箇所)。	完形
200-6	土 器	灯 明 皿	土師質。底部左回転糸切り。胎土は橙色。全面透明釉(赤褐色)。口唇部煤附着。	3/4
200-7	土 器	灯 明 具	土師質。切り込みは逆アーチ状。胎土は橙色。脚部内面を除く、全面透明釉(赤褐色・緑灰色)。脚部内面無釉。	受皿部と脚部上半
200-8	土 器	灯 明 具	土師質。切り込みは逆アーチ状。胎土は橙色。脚部内面を除く、全面透明釉(赤褐色)。脚部内面無釉。	裾部5/6欠
200-9 [51-13]	軟質陶器	香 炉 ?	生産地不明。体部外面には把手が2箇所つく。体部上位には透しが入る。胎土は浅黄橙色でかなり粗い。体部外面椿文(輪郭は黒色、花は白色、葉は白・緑色でいずれも光沢なし)。透明釉(雲母のような光沢あり)が外面にかかっていたと思われるが、ほとんど剥落している。内面黒斑がつく。	体部一部と把手片側欠
200-10	舶載磁器	染付器種不明	中国。かなり粗い。台部外面幾何学文。畳付粗砂附着。	台部1/2
200-11	舶載磁器	色 絵 皿	中国。見込丸文(中に唐草文? 色絵)、地は紗綾形文他(呉須・赤色?), 体部外面文様あり。高台内カンナケズリ痕。高台部内面粗砂附着。被熱により色絵部分変色。	底部1/4
201-1	陶 器	播 鉢	備前系(堺)。ロクロ輪積成。口縁部撞目を施した後に横位のナデ。体部外面横位のロクロケズリ。撞目8本1単位。器面は赤褐色から赤橙色。体部外面口縁部直下に重ね焼きの痕あり。	体部片
201-2	土 器	植 木 鉢	瓦質。ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り痕。胎土・内面は灰白色。外面黒灰色。	1/4欠
201-3	土 器	鉢	土師質。ロクロ水挽き成形。底部特殊左回転糸切り痕。胎土は橙色。	体部上半2/3欠
201-4	土 器	鉢	瓦質。ロクロ水挽き成形。しきりは貼付。底部左回転糸切り痕。器面は黒色で、断面は黒色を灰白色がサンドイッチ状に挟む。	1/3
201-5	土 器	鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。全形不明。口縁部内面に把手の痕跡あり(1箇所)。体部内面ナデ。口唇部雑なミガキ。体部外面ナデ(鐳部はナデツクで接合)。底部際横位のケズリ。底部外面ちぢれ目。器面は黒灰色で、断面は黒色を灰白色がサンドイッチ状に挟む。	1/2?


第34表 遺構・包含層出土陶磁器類観察表

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
202-1	磁 器	染 付 碗	肥前。胎土は灰白色、見込荒磯文、体部内面魚文、体部外面竜と鳳凰文(呉須は青灰色)。器面霧状に白濁。見込擦れている部分あり。包含層と接合。	体部1/2欠	278号遺構 VI期
202-2	磁 器	色 絵 皿	肥前。口縁部内面波濤文(緑色?), 体部内面如意頭文(黄色?), 内面竹林文?(輪郭は黒色で、中は黄色、他の色は被熱により変色・溶着)。体部外面花卉文(花は黄色、葉は青色?)。高台内に2重圏線あり。被熱。包含層と接合。	1/6	264号遺構 III期
202-3	磁 器	青 磁 皿	肥前。獣脚は3個と思われる(1個残存)。内面線彫草文。全面(畳付を除く)青磁釉(透明感のある水色)。畳付粗砂付	1/4	192b号遺構 III期

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	微	残存部位	出土遺構 出土層位
			着。見込不定方向の擦痕顯著。			
203-1	磁 青	器 磁皿	肥前。体部内面篇文。獸脚は3個(2個残存)。高台部蛇ノ目釉ハギ(釉ハギ部は鉄釉塗付)。見込呉須で菊に流水文。釉ハギ部を除く全面青磁釉(透明感のある水色)。体部外面貫入入る。釉ハギ部にチャツ痕跡あり。獸脚の底面擦れている。包含層を接合。		体部7/8欠	496号遺構 III期
203-2	磁 青	器 磁皿	肥前。体部花卉状に型打。高台部蛇ノ目釉ハギ(釉ハギ部は鉄釉塗付)。内面線彫草花文。釉ハギ部を除く全面青磁釉(やや透明感のある緑灰色)。釉ハギ部にチャツ痕あり。見込不定方向の擦痕あり。被熱により溶着部分あり。包含層と接合。		体部1/6欠	326号遺構 III期
204-1	磁 染	器 付皿	肥前。芙蓉手・見込花鳥文。釉は生がけで外面に貫入入る。高台際・高台虫食い顯著。高台内1重圈線内に銘あり。802号遺構と接合。		底部2/3	603号遺構 IV期
204-2	磁 青	器 磁皿	肥前。口唇部花卉状に型打。高台部蛇ノ目釉ハギ(釉ハギ部は鉄釉塗付)。内面陽刻蓮葉文(あるいは芋葉?)。体部内面は口縁部にかけて開く蛇腹状(葉脈あるいは花卉の表現?)。釉ハギ部を除く全面青磁釉(黄緑色)。全面に貫入入る。内面虫食い顯著。釉ハギ部にチャツ痕あり。196号遺構・包含層を接合。		1/8	244号遺構 III期
204-3	陶 甕	器	常滑? 内面には輪積時の指頭痕残る。口縁部は横位のナデ調整。胎土は断面明赤褐色, 外面暗赤褐色。断面縞状, 緻密で堅緻。白色粗砂・礫(3mm大)を多く含む。		口縁部1/4	539号遺構 III期
204-4	陶 甕	器	常滑? 内面横位のナデツケ, 口縁部は横位のナデ調整。胎土は断面明赤褐色, 外面暗赤褐色, 緻密で堅緻。底部焼成後穿孔?		体部一部欠	567号遺構 III期
205-1	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉(明緑灰色)。高台部周囲無釉。高台内墨書あり。包含層と接合。		体部上半5/ 6欠	115号遺構 VI期
205-2	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰白色)。全面霧状に白濁。高台部周囲無釉。高台内墨書「勘七」。包含層と接合。		体部5/6欠	115号遺構 VI期
205-3	陶 碗	器	胎土は灰白色で粗砂を多く含む。内面から体部外面灰釉(明緑灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「三十」。		ほぼ完形	534号遺構 IV期
205-4	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で粗い。内面から体部外面灰釉(明緑灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「九」。見込回るような, 体部内面横位の, 体部外面不定方向の細かい擦痕顯著。		体部1/2欠	106号遺構 VI期
205-5	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は灰色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「吉□(郎カ原カ)」。体部内面横位の擦痕あり。		体部2/3欠	106号遺構 VI期
205-6	陶 碗	器	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色・灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰色)。高台部周囲無釉。高台内に墨書「半佐衛門 花押」, 高台部周囲に墨書。「半佐衛門 □」。体部外面不定方向の擦痕, 見込擦れている部分顯著。包含層と接合。		体部2/3欠	106号遺構 VI期
205-7	陶 碗	器	瀬戸・美濃。体部外面横位の沈線が2条巡る。胎土は灰色で粗い。内面から体部外面灰釉(明緑灰色)に鉄釉斑(オリブ褐色)。高台内に墨書「宇右衛門?」。見込不定方向の, 体		体部一部欠	106号遺構 VI期





挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
			部内面横位の擦痕あり。		
205-8	陶 器 碗		京焼系。体部外面中位と下位にそれぞれ沈線が巡る。胎土は灰白色、緻密で堅緻。体部外面松文（松葉は白泥、枝は黒褐色の鉄）。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。全面に貫入する。高台内に墨書「由」。見込に目痕3箇所あり。また高台部の体部際には工具による斜位の鑄が入る。	体部1/4欠	234号遺構 III期
205-9	陶 器 碗		信楽。胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。全面に貫入する。釉際には炎色（橙色）出る。高台部周囲無釉。高台内に墨書「ヤタ」。	体部4/5欠	125号遺構 V～VI期
205-10	陶 器 碗		瀬戸・美濃。胎土は灰白色。体部外面鉄（黒褐色）で柳文。内面から体部外面灰釉（明緑灰色）。高台部周囲無釉。高台内に墨書「中」。見込不定方向の擦痕、擦れている部分あり。	体部上半1/ 2欠	42号遺構 VIII期
205-11	陶 器 碗		瀬戸・美濃。胎土は灰色・浅黄褐色で粗い。体部外面鉄（黒灰色）で柳文（焼成悪く、文様が沈んでいる）。内面から体部外面灰釉（灰白色）。外面釉ムラ目立つ。高台内に墨書「〇加平」。体部内面下半横位の擦痕あり。	1/2	125号遺構 V～VI期
205-12	陶 器 碗		信楽。胎土は白色、緻密で堅緻。内面から体部外面長石釉。全面に貫入入り、白濁。高台内に墨書あり。	体部一部欠	106号遺構 VI期
206-1	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は灰黄色で緻密。体部外面呉須で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「雲」（右記）。高台内中央部に円圈（直径1.2cm）あり。	体部1/2欠	736号遺構 I期
206-2	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は灰黄色で緻密。体部外面呉須で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。釉際には炎色（橙色）出る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「雲」（右記）。高台部中央部に円圈（直径1.5cm）あり。	体部3/4欠	736号遺構 I期
206-3	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は淡黄色で緻密。内面から体部外面透明釉（にぶい黄褐色）。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「清」。高台内中央部に円圈（直径1cm）あり。	体部2/3欠	236号遺構 III期
206-4	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は白色、緻密で粉質。体部外面呉須（黒青色）で馬文。内面から体部外面透明釉（灰白色）。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「警」。高台内中央部に円圈（直径1.1cm）あり。包含層を接合。	体部3/4欠	包含層 III期
206-5	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は淡黄色で緻密。体部外面呉須による文様あり。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「雲」（右記）。高台内中央部に円圈（直径1.6cm）あり。	体部1/2欠	539号遺構 III期
206-6	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は淡黄色で緻密。見込呉須で文字書くも判読不能。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に墨書「一八」、刻印「寶」。高台内中央部に円圈（直径2.5cm）あり。	底部	39号遺構 III期
206-7	陶 器 碗		京焼風（肥前）。胎土は淡黄色で緻密。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。釉際には炎色（橙色）出る。高台内に刻印「清水」。高台内中央部に円圈（直径2.5cm）あり。	底部	539号遺構 III期

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
206-8	陶 器	碗	京焼風(肥前)。胎土は灰白色で緻密。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「信？」(右記)。高台内中央部に工具による渦巻あり	底部と底部 下半一部	162号遺構 VI期
206-9	陶 器	皿	京焼風(肥前)。胎土は灰白色、緻密で堅緻。見込鉄(黒褐色)で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉、高台内刻印あり。高台内中央部に円圈(直径8mm)あり。	底部	162号遺構 VI期
206-10	陶 器	皿	京焼風(肥前)。胎土は灰白色で緻密。見込鉄(黒褐色)で楼閣山水文。内面から体部外面透明釉。全面に貫入する。高台部周囲無釉。高台内に刻印「福次」。高台内中央部に円圈(直径1.1cm)あり。	底部1/3	162号遺構 VI期
206-11	陶 器	碗	京焼系。胎土はにぶい橙色、灰白色で緻密。黒色粗砂を多く含む。体部内面に呉須で描かれた文様あり。内面から体部外面灰釉(灰白色で不透明、内面は刷毛塗りの痕残る)。釉際には炎色(橙色)出る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「清水」。高台内中央部に円圈(直径1.3cm)あり。	底部	590号遺構 II期
206-12 (45-4a・b)	陶 器	碗	京焼系。胎土は灰白色で、粗砂を多く含む。体部外面紅葉に鳥文(紅葉は赤・金色、鳥は赤色、他にも色はあったと思われるが剥落)。内面から体部外面灰釉(灰白色で不透明)。全面に貫入する。高台内に刻印「栄」。871号遺構と接合。	体部1/4欠	848号遺構 I期
206-13 (45-3a・b)	陶 器	碗	京焼系。胎土は灰白色。体部外面ブドウ文(呉須と黒色の鉄)。内面から体部外面灰釉(灰白色で不透明、刷毛塗りの痕残る)。全面に貫入する。釉際には炎色(橙色)出る。高台部周囲無釉。高台内に刻印「(徳)」。包含層を接合。	体部1/2欠	902号遺構 III期
206-14	陶 器	碗	京焼系。胎土は灰白色で堅緻。体部内面草文(呉須と黒褐色の鉄)。体部内外面灰釉(灰白色)。244号遺構と接合。	体部1/3	444号遺構 III期
206-15	陶 器	碗	京焼系。体部外面1箇所縦位の筥状工具による押圧痕あり。胎土は橙色、軟質で粉質、混入物少ない。内面から体部外面透明釉。割れ口から釉が剥れている部分多い。押圧痕の中に白泥がたまる。高台内に刻印「V」。	体部下半か ら底部	444号遺構 III期
206-16	陶 器	碗	瀬戸・美濃。蛇ノ目高台。胎土は灰白色で粗い。内面灰釉(灰白色)、外面柿釉(褐色)に長石斑。畳付は釉ふきとり。畳付刻印あり。	底部	464号遺構 III期
207-1	陶 器	蓋 物	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。体部内外面灰釉(明緑灰色)。内面の釉はうすい。高台部周囲・口縁部内外面・底部内面無釉。高台内に墨書「徳」。	完形	106号遺構 VI期
207-2 (51-6)	陶 器	花 生	生産地不明。内面に布目痕が残ることから、板作り成形?。胎土はにぶい赤褐色、緻密で均質。内面黄釉(透明感あり)、外面黒灰色の釉(金属的な光沢があり、表面は凸凹している)。外面は剥落部分あり。体部外面焼成時に刻書「寛政十一未 五月 幽泉」。口縁部内面二次使用(ケズリで滑らかに整形されている)。また口縁部に焼成後の穿孔あり。	1/3	87号遺構 不明
207-3 (51-10)	陶 器	鉢	瀬戸・美濃。織部。全形不明。高台は碁筭底で円形。内面布目痕。胎土はにぶい橙色で粗砂を含む。体部外面幾何学文(暗	底部体下半	包含層 III期

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
207-4 {51-9} 口絵9-7	陶 壺	器	褐色の鉄、白色)。灰釉(透明釉)の上に鉛釉がけ(透明感のある暗褐色)。高台内無釉。包含層を接合。 生産地不明。胴部外面中位に2条の突帯が巡る。突帯には斜位の刻み目がつけられる。胎土は黒色・橙色で、粗い。黒色粗砂を大量に、白色粗砂を多く含む。胴部外面鉄(黒褐色)で木葉文? 内面から胴部外面上・中位灰釉?(光沢なく緑灰色。胴部は横位の、底部内面は不定方向の刷毛目で塗られる)。胴部外面下位から底部外面鉄釉(黒褐色)。底部外面に貝目痕3箇所あり。206号遺構・包含層と接合。	胴部以下2/3	621号遺構 III期
207-5	陶 皿	器	瀬戸・美濃。胎土はかなり粗く、黒色粗砂を多く含む。見込鉄(褐色)で変形文字。全面長石釉。見込・高台内に目痕3箇所あり。	体部1/4欠	包含層 I期
207-6	陶 皿	器	瀬戸・美濃。口唇部小さな段あり。胎土は灰白色で、堅緻。内面鉄(褐色)で抽象文。畳付を除く全面灰釉(灰白色)。全面に貫入入る。畳付際粗砂付着。	体部1/4欠	包含層 I期
207-7	陶 片	器	瀬戸・美濃。胎土は浅黄橙色で緻密。内面から体部外面灰釉(黄褐色)。釉際には炎色(橙色)出る。高台部周囲無釉。高台内に墨書「梅□□ 十二月改」。見込に目痕3箇所あり。	体部1/5欠	42号遺構 VIII期
207-8 (50-1a・b)	陶 練	器 鉢	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰白色)に口縁部外面緑釉斑。高台部周囲・目痕無釉。底部外面に墨書「梅御殿 福印 御□□」。見込目痕(楕円形、5×4cm位)あり(4箇所残存)。包含層と接合。	1/2	築山 IX期
208-1 (50-2)	陶 練	器 鉢	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で粗い。内面から体部外面灰釉(灰色)に体部外面緑釉がけ。高台部周囲・目痕無釉。底部外面に墨書「梅殿 福印 膳所」。見込に目痕(楕円形、6×4cm位)5箇所あり。包含層と接合。	体部5/6欠	築山 IX期
208-2	陶 甕	器	瀬戸・美濃。胎土は白色で粗い。内面から体部外面柿釉(褐色)に体部外面は鉄釉(黒色)がけ。高台内に墨書「八上 □刈」。見込に目痕6箇所あり(白色粗砂溶着)。	体部上半1/ 2欠	42号遺構 VIII期
209-1	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰色。外面鉛釉に、口縁部から肩部外面のふ釉がけ。底部外面周囲釉ふきとり。胴部外面下位に釘書き「  」。	完形	953号遺構 III期
209-2	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は浅黄色。外面灰釉(黄褐色)にうのふ釉斑、底部外面周囲は釉ふきとり。胴部外面に釘書き「山」。	肩部以下	464号遺構 III期
209-3	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。外面灰釉(灰白色)。底部外面周囲は釉ふきとり。胴部外面に釘書き「小二」。	完形	736号遺構 I期
209-4	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は淡黄色で、粗い。外面灰釉(淡黄色)。底部周囲釉ふきとり。胴部外面に釘書き「久〇」。	ほぼ完形	106号遺構 VI期
209-5	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は灰白色で緻密。外面灰釉(灰白色)。底部外面周囲無釉。胴部外面に釘書き「^^半」。胴部外面中位に焼成時の他固体との溶着痕あり(1箇所)。胴部中位1箇所へこんでいる(成形時)。	ほぼ完形	36号遺構 IX期
209-6	陶 徳	器 利	瀬戸・美濃。胎土は浅黄橙色。外面灰釉(灰白色)。底部外面周囲釉ふきとり。胴部外面に釘書き「久上七」。	完形	128号遺構 VI期
209-7	陶 器	器	瀬戸・美濃。胎土は灰白色。全面灰釉(灰白色)。胴部外面に	胴部下半以	464号遺構

挿図番号 〔写真番号〕	種 器	別 種	特	徴	残存部位	出土遺構 出土層位
209-8 〔60-4a~c〕	土 器	徳 利 焼塩壺・身	釘書き「や」。 板作り成形。体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に横位の縫目あり。胎土は橙色で、断面中側はピンク色。粗砂・赤色粗砂を多く含む。体部外面に指痕多く残る。		下 ほぼ完形	Ⅲ期 701号遺構 Ⅲ期
209-9 〔60-3a~d〕	土 器	焼塩壺・身	板作り成形。体部内面布目痕、体部内面下半縦位の縫目2本、また底体部際に横位の縫目あり。胎土は橙色で、粗砂・礫を多く含む。体部外面に刻印2重枠の内側2段角「泉州麻生」。		体部一部欠	162号遺構 Ⅵ期
209-10 〔61-2〕	土 器	焼塩壺?・身	ロクロ成形。底部回転糸切り痕。体部外面の底部際に指痕残る。底部ぶ厚い。胎土は橙色で、表面ザラザラする。		体部下半以 下	972号遺構 Ⅰ期
209-11 〔61-4〕	土 器	焼塩壺・蓋	内面布目痕。胎土は橙色で、粗砂・赤色粗砂を含む。		体部1/4欠	701号遺構 Ⅲ期
209-12 〔61-9〕	土 器	焼塩壺・蓋	胎土断面は灰白色、器面はにぶい黄橙色。軟質。上面に刻印「なんばん □」。内面にはなれ砂（雲母?）付着。		1/3	包含層 層位不明
210-1 〔63-7〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。		完形	920号遺構 Ⅰ期
210-2 〔63-6〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		ほぼ完形	920号遺構 Ⅰ期
210-3 かわらけ	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は明赤褐色。		ほぼ完形	920号遺構 Ⅰ期
210-4 〔63-5〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		口縁部一部 欠	920号遺構 Ⅰ期
210-5 かわらけ	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。		1/4	1087号遺構 Ⅰ期
210-6 〔63-9〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。		完形	1087号遺構 Ⅰ期
210-7 〔63-8〕	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部右回転糸切り。胎土は橙色。口唇部煤付着。		ほぼ完形	1087号遺構 Ⅰ期
210-8 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。体部外面下半は指頭圧痕のまま。体部内面から口縁部外面はナデ。胎土は浅黄橙色。		1/4	701号遺構 Ⅲ期
210-9 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。体部外面下半から底部外面は指頭痕のまま。内面から体部外面上半はナデ。胎土は浅黄橙色で、白色針状物質を含む。		体部1/2欠	包含層 Ⅶ期
210-10 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。口唇部内面に沈線が巡る。体部外面下半から底部外面は指頭痕のまま。底部内面木口状工具による一定方向のナデ。体部内面から体部外面は上半横位のナデ。胎土はにぶい赤褐色。白色針状物質を含む。口唇部煤付着。		1/2	448号遺構 Ⅲ期
210-11 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。底部内面の体部際に沈線が巡る。体部外面下半から底部外面は指頭痕のまま。体部内面から体部外面上半は横位のナデ。胎土は浅黄橙色。		1/4欠	527号遺構 時期不明
210-12 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。口縁部内面に緩やかな段あり。体部外面下半から底部外面は指頭痕のまま。底部内面に一定方向のナデ。体部内面から体部外面上半は横位のナデ。底部外面蔭状痕。胎土は浅黄橙色。		1/2	527号遺構 時期不明
210-13 かわらけ	土 器	かわらけ	手づくね成形。口縁部内面に小さな段あり。体部外面下半から底部外面は指頭痕のまま。内面から体部外面上半は横位の		体部3/4欠	築山 Ⅸ期

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
			ナデ。底部内面の体部際に段あり。胎土は橙色で白色針状物質を含む。		
210-14	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土は橙色。底部焼成前穿孔。	ほぼ完形	築山 IX期
210-15 (65-9a・b)	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形の後、体部から底部外面ロクロナデ。外面にはさらにその後、工具による渦巻。胎土は橙色。	体部1/3欠	626号遺構 III期
210-16	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部回転糸切り。胎土は浅黄橙色。器面剥落している。	体部1/4欠	356号遺構 IV期
210-17	土 器	かわらけ	ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。胎土はにぶい橙色、底部内外面は黒褐色。全面に施釉（にぶい赤褐色の光沢のある釉が部分的に残る）？ 口唇部煤付着。	体部3/4欠	419号遺構 IV期
210-18	陶 器	播 鉢	生産地不明。ロクロ水挽き成形。口縁部内面に小さな段あり。体部外面横位のケズリ。口縁部外面から内面横位のナデ。播目7本1単位。胎土は灰白色。畳付から高台内を除く全面黄白色の釉（光沢なしでうすい）。272号遺構・包含層と接合。	1/2	125号遺構 V・VI期
210-19	陶 器	播 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。口縁部やや内側へ突出。体部外面横位のロクロケズリ。播目10本1単位。胎土は灰白色。全面銹釉（暗褐色）。	体部1/3	917号遺構 III期
210-20 (56-2)	陶 器	播 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形？ 底部脇に粘土板を貼り付け台部を作っている。播目7本？1単位。底部外面に焼成時の溶着痕あり。胎土は灰黄褐色で、白色・透明粗砂を多量に含む。見込に無釉部（目痕）あり。	底部1/4	496号遺構 III期
210-21 (55-2a・b)	陶 器	播 鉢	信楽系。ロクロ輪積成形。口唇部は内側に突出する。外面横位の強いロクロナデ。播目6本1単位。胎土は灰赤色で、白色・透明粗砂を多く含む。内外面銹釉（暗褐色）。口唇部自然釉がかかる。	1/2	645号遺構 III期
210-22 (57-1a・b)	陶 器	播 鉢	生産地不明。ロクロ輪積成形。体部下半横位のロクロケズリ。口唇部から体部上位横位のナデ。口縁部は折縁に近く外反。底部外面煤付着。台付（欠損）。播目8本1単位。見込際重ね焼きの痕あり。胎土は暗赤色で粘土質。緻密で堅緻。断面は層状。全面銹釉（暗赤色）？ 築山と接合。	1/4	124号遺構 VI期
210-23	陶 器	播 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。口縁部やや外湾。播目の単位は不明。胎土は淡黄色。全面銹釉（暗褐色）。	体部片	106号遺構 VI期
210-24	陶 器	播 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。口縁部折りつまみあげ。播目の単位は不明。胎土は淡黄色。全面銹釉（暗褐色）。	体部片	464号遺構 III期
211-1 (56-5a・b)	陶 器	播 鉢	瀬戸・美濃。ロクロ水挽き成形。体部外面下半横位のロクロケズリ。底部回転糸切り痕。播目は10本1単位。胎土は浅黄橙色。全面柿釉（暗褐色）。体部外面半釉ふきとり。底部焼成後穿孔。	体部1/3欠	444号遺構 III期
211-2	陶 器	播 鉢	備前系（堺）。ロクロ輪積成形？ 体部外面は横位のケズリ。播目11本1単位。器面は赤色。	1/5	164号遺構 V期
211-3 (57-7)	陶 器	播 鉢	備前系（堺）。ロクロ輪積成形。内面播目を施した後、口縁部は横位のロクロナデ。体部外面横位のロクロケズリ。口縁部（片口部）内側に刻印あり（右記）。播目8本1単位。器面は赤褐色。包含層と接合。	体部片	包含層 III期？

挿図番号 (写真番号)	種器	別種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
211-4	陶器	器鉢	備前系(塚)。ロクロ輪積成形。口縁部横位のナデ。口縁部内側に刻印あり(右記)。摺目の単位は不明。器面は赤褐色から赤橙色。	 体部片	築山 IX期
211-5 (57-5)	陶器	器鉢	備前系(塚)。ロクロ輪積成形。内面摺目を施した後に、口縁部は横位のロクロナデ。口縁部(片口部)内側に刻印あり(右記)。摺目6本1単位。器面は暗赤褐色。	 口縁部	196号遺構 IV期
211-6 (57-6)	陶器	器鉢	備前系(塚)。ロクロ輪積成形。内面摺目を施した後に、口縁部は横位のロクロナデ。口縁部(片口部)内側に刻印あり(右記)。摺目8本1単位。器面は赤褐色。内面擦れている。	 体部上半1/4	101号遺構 V~VI期
211-7 (57-8)	陶器	器鉢	備前系(塚)。ロクロ輪積成形。内面摺目を施した後に、口縁部は横位のロクロナデ。体部外面横位のロクロケズリ。口縁部(片口部)内側に刻印あり(右記)。摺目10本1単位。器面は明赤褐色。内面擦れている。包含層と接合。	 体部片	包含層 III期
211-8 (57-4a・b)	陶器	器鉢	備前系(塚)。ロクロ輪積成形。内面摺目を施した後に、口縁部は横位のロクロナデ。体部外面横位のロクロケズリ。摺目8本1単位。器面は赤褐色。内面擦れている。	1/3	119号遺構 VI期
211-9 (57-3a・b)	陶器	器鉢	備前系(塚)。ロクロ輪積成形。内面摺目を施した後に、口縁部は横位のロクロナデ。体部外面横位のロクロケズリ。摺目9本1単位。器面は赤色。	底部一部欠	259号遺構 III期
212-1 (67-3a・b)	土器	器焙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は左右からの棒状工具による刺突。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。包含層と接合。	1/5	444号遺構 III期
212-2 (68-4a・b)	土器	器焙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。底部内外面黒ずむ。	1/3	259号遺構 III期
212-3	土器	器焙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位にケズリ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。底部外面ちぢれ目。底部内面・体部外面から底部外面煤付着。	1/4欠	429号遺構 VI期
212-4	土器	器焙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下位に部分的にケズリ痕が残る。内耳は円板状粘土を貼付。穴は左右からの棒状工具による刺突。底部外面ちぢれ目。底部外面黒ずむ。	体部1/3	322号遺構 I期
212-5 (66-1a・b)	土器	器焙	瓦質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位の指ナデ。内耳は橋状。口唇部は平坦・内面から体部外面黒色(黒色処理)。底部外面浅黄橙色。胎土は灰白色が灰色をサンドイッチ状に挟む。	内耳部	包含層 VII期
212-6 (66-2a・b)	土器	器焙	瓦質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下半横位のナデツケ。内耳は団子状粘土を貼付。穴は指による左右からの刺突(体部外面への突出が大きい)。	1/4	包含層 II~III期

挿図番号 (写真番号)	種 器	別 種	特 徴	微	残存部位	出土遺構 出土層位
212-7 (66-3a・b)	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。体部外面下半横位のケズリ。底部外面は未調整。内耳は団子状粘土を貼付。穴は指による左右からの刺突（体部外面への突出が大きい）。底部外面スタレ? 状痕。		1/4	包含層 II期
212-8	土 焙	器 烙	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内外面横位のナデ。内耳は団子状粘土を貼付。穴は棒状工具による左右からの刺突。外面の底体部際ミガキ。外面黒ずむ。		内耳部	194号遺構 時期不明
212-9	土 焙	器 烙?	土師質。ロクロ紐作り成形。体部内面から体部外面上位横位のナデ。体部外面下位は木口状工具による横位のケズリ。体部外面中位は指頭痕残る（未調整と思われる）。底部外面ちぢれ目、スタレ? 状痕。外面・底部内面黒ずむ。		1/3	包含層 層位不明
212-10 (68-5a・b)	土 焙	器 烙	土師質。非在地。ロクロ紐作り成形。体部下半部から底部にかけて右上がりの平行タタキ調整。体部上半と内面は横位のナデ。胎土は橙色。二次的被熱で部分的に変色。		体部下半～ 底部	627号遺構 I期
212-11 (71-1)	土 壺?	器	土師質。ロクロ水挽き成形。体部内外面横位のナデの後、口縁部は強いナデ。体部外面下位は横位のロクロナデ。底部外面は一方のケズリ。胎土はにぶい橙色。内面煤付着。		1/5欠	23号遺構 IX期
212-12	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ水挽き成形。体部外面横位のロクロケズリの後、横位のナデ。底部削り出し高台で、切り欠きあり（2箇所残存）。胎土は橙色。体部外面胡粉で草花文（花は白色、葉は緑白色）。		1/4	106号遺構 VI期
212-13 (71-2a・b)	土 器種不明	器	土師質。粘土板成形。内面ナデ調整。口唇部・体部外面ミガキ（部分的に残る）。底部外面木口状工具による調整、もしくは板状圧痕。足は4個で貼付。		口縁部2/3 欠	668号遺構 III期
213-1 (69-7a～c)	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ水挽き成形。体部外面回転押圧文（「く」の字もしくは斜格子文）の後、横位の雑なミガキ。底部外面は雑なナデ。足は3個で貼付。器面は褐灰色。胎土はにぶい橙色で、褐灰色をサンドイッチ状に挟む。口唇部磨滅・煤付着。体部外面に刻書「大刀 三右エ門」、底部外面に刻書「小三右エ門」。包含層と接合。		体部2/5欠	106号遺構 VI期
213-2	土 火	器 鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のロクロナデ。体部外面回転押圧文（半菊・斜格子文）の後、横位のミガキ。底部外面雑なナデ。足（2個残存）は貼付。器面は灰褐色。胎土はにぶい橙色で、灰褐色をサンドイッチ状に挟む。体部外面に刻書あり。包含層と接合。		1/2	429号遺構 VI期
213-3 (69-4)	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面は横位、底部内面は不定方向のナデ。体部外面はミガキの後、横位の沈線を3本巡らし、沈線間を押印文が巡る。底体部接合部外面面取りが施される。底部外面は雑なナデ、スタレ状痕。足は3個で貼付。胎土はにぶい橙色。体部外面銀彩。口唇部磨滅。		底部と体部 一部欠	464号遺構 III期
213-4	土 火	器 鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のヘラナデ。体部外面丁寧なナデ。底体部接合部外面面取り的ケズリと横位の強いナデ。底部外面ちぢれ目。足は（3個のうち2個残存）は貼付。胎土はにぶい橙色で、褐灰色をサンドイッチ状に挟む。体部外面銀彩? 口唇部磨滅・煤付着。		1/2強	429号遺構 VI期

写真番号	器種	特 徴	残存部位
213-5	土器 火鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内外面横位のナデ。体部外面ちぢれ目。足（1個残存）は貼付。胎土はにぶい橙色で、褐色をサンドイッチ状に挟む。	1/2 627号遺構 I期
213-6	土器 火鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のナデ。口唇部・体部外面横位のミガキ。口唇部の内側への突出部は、口縁部成形時の折り返しによる。体部内面下位布痕と思われる縦じわあり。足（1個残存）は貼付。胎土は橙色で、一部に灰赤色をサンドイッチ状に挟む。口唇部内側磨滅。	1/5 429号遺構 VI期
213-7	土器 火鉢	瓦質。粘土板成形。体部内面横位のナデ。接合部は工具による強いナデ。口唇部・体部外面ミガキ。底体部接合部外面面取り。足（2個残存）は貼付。器面は黒褐色。胎土は黒褐色で、にぶい橙色をサンドイッチ状に挟む。	1/4 373号遺構 II期
214-1 〔70-2〕	土器 火鉢	瓦質。ロクロ輪積成形。体部内面工具による横位のナデ。体部外面横位の丁寧なミガキ。底部外面スグレ状痕。足は3個で貼付。器面・胎土は黒褐色。	体部1/6欠 475号遺構 I期
214-2 〔71-4〕	土器 火鉢	瓦質。粘土板成形。口唇部の内側への突出部は口縁部につけてたして作出。底体部接合部外面面取り、内面工具によるナデ。口唇部・体部外面はミガキ。底部外面スグレ状痕。足は4個で貼付。器面は灰色。胎土はにぶい黄橙色。	底部一部欠 904号遺構 III期
215-1 〔70-6〕	土器 火鉢	土師質。ロクロ輪積成形。体部内面横位のナデ。接合部は工具による横位の強いナデ。体部外面横位のミガキ。底部外面スグレ状痕。足（1個残存）は貼付。胎土は橙色。底部・体部下半に煤付着。	1/3 749号遺構 IV期
215-2 〔71-6a・b〕	土器 火鉢	瓦質。粘土板成形。罎部は板状粘土を貼付。罎部のみミガキ。体部・底部は工具によるナデ。底体部接合部外面面取り。胎土はにぶい褐色で、灰色をサンドイッチ状に挟む。	1/3 373号遺構 II期
216-1 〔70-3〕	土器 火鉢	土師質。ロクロ輪積成形。底体部内面ナデ。口唇部・体部外面ミガキの後赤彩。底部外面無調整。器面の荒れが顕著。足は3個で貼付。口唇部内側の一部に煤付着。	体部1/2欠 736号遺構 I期
216-2 〔71-5〕	土器 火鉢	土師質。非在地。口縁部は内側へ屈曲。内面横位のナデ。体部外面平行タタキ目の後、横位の強いナデ。口縁部外面格子状タタキ目。足（1個残存）は貼付。胎土は灰白色で、粗い。	1/5 192号遺構 IIかIII期
216-3	土器 火鉢	土師質。粘土板成形。罎部は板状粘土を貼付。コーナー部・底体部接合部・罎・体部接合部は工具による強いナデ。胎土は赤橙色で、灰色をサンドイッチ状に挟む。体部内面上半の一部に煤付着。被熱。	底部一部 419号遺構 IV期
217-1 〔72-5a・b〕	土器 焜 炉	瓦質、粘土板（火口部）+ロクロ輪積成形。本体接合部内面は木口状工具による。火口部接合部内面は指による横位のナデ。内面は雑な横位のナデ。火口部の口唇部ミガキ。外面は雑なナデ。火口部の底部外面スグレ状痕。本体底部外面ちぢれ目・ケズリ。足（2個残存）は貼付。器面は褐色。胎土はにぶい黄橙色で、褐色をサンドイッチ状に挟む。	火口部と本 体一部 包含層 III期以前
217-2	土器 焜 炉	瓦質。ロクロ輪積成形。底体部接合部内面木口状工具による横位のナデ。体部内面は横位のナデ。口縁部・底体部接合部外面横位の、開口部縦位の強いナデ。口唇部ミガキ。底部外	体部1/3 269号遺構 III期以降

挿図番号 〔写真番号〕	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
			面未調整。足は貼付(痕跡が1個)。体部内面上位に把手(1個残存)を貼付。器面は灰色。胎土はにぶい橙色で、灰色をサンドイッチ状に挟む。包含層と接合。		
218-1	土 焜	器 炉	土師質。粘土板(火口部)+ロクロ輪積成形。体部内面主に横位のナデ。口縁部・底体部接合部外面横位の、開口部縦位の強いナデ。火口部・本体の口唇部ミガキ。底部外面未調整。足(1個残存)は貼付。胎土は橙色。体部外面上位に刻書あり。口唇部銀彩?	1/4	包含層 III期
218-2	土 焜	器 炉	瓦質。粘土板成形(火口部)。内面工具による縦・横位のナデ(底体部接合部は横位のナデ)。外面雑な横位のケズりに近いナデ。火口部・口唇部ミガキ。底部外面ちぢれ目。器面は褐灰色。胎土はにぶい橙色で、灰褐色をサンドイッチ状に挟む。口唇部銀彩?	火口部一部	444号遺構 III期
218-3	土 瓦灯・蓋	器	瓦質。手づくね成形。内面指による同心円状のナデ。外面横位のロクロナデ。口唇部ミガキ。器面は褐灰色。胎土はにぶい橙色。底部焼成前穿孔。皿部内面に焼成前に刻書「卅二」。外面煤付着。	皿部	373号遺構 II期
218-4	土 瓦灯・身	器	瓦質。ロクロ輪積成形。突起部は粘土板成形。受部・突起部は貼付。体部内面・受部横位のナデ。体部外面雑なミガキ。器面は褐灰色から黒褐色。胎土はにぶい橙色。	突起部と受 皿部欠	749号遺構 IV期
218-5	土 植木鉢	器 鉢	土師質。ロクロ水挽き成形。底部左回転糸切り。底部焼成前穿孔(内側から外側)。胎土は黄褐色。包含層と接合。	1/3欠	築山 IX期
218-6	土 五徳 (脚台)	器	土師質。ロクロ輪積成形。外面から内面上半横位のナデの後、内面下半やや乾燥した後に横位のナデ。同時に切り欠き部をつくる?。切り欠き部は4箇所と思われる(3箇所残存)。	2/3	築山 IX期
219-1 (76-4a~c)	舶載磁器 染付碗		中国。胎土は灰白色で、やや透明感がある。無釉部は灰褐色、体部外面漢文が書かれる。釉は灰白色。見込・高台部周囲無釉。口禿。体部内外面虫食い顕著。釉際には炎色(橙色)出る。畳付周囲にアルミナを塗付?。見込重ね焼きの痕あり。	1/2	包含層 III期
219-2	舶載磁器 染付碗		中国。内外面山水文。高台内に1重圏線あり。体部内面横位の、体部外面不定方向の細かい痕顕著。532号遺構と接合。	1/5	164号遺構 V期
219-3	舶載磁器 染付碗		中国。見込花卉文?、体部外面唐草文。高台内1重圏線内に銘「玉堂」。被熱。	体部~底部 1/6	包含層 III期
219-4	舶載磁器 染付碗		中国。見込文様あり、体部内面魚文、体部外面鳳凰文。	体部1/6	包含層 III期
219-5	舶載磁器 染付碗		中国。胎土は淡黄色。見込・体部外面草花文。釉は胎土の色が透けて灰白色で、厚くかかる。全面に貫入する。畳付から高台内無釉。包含層と接合。	底部1/2と 体部1/6	289号遺構 III期
219-6	舶載磁器 染付碗		中国。口縁部内面連続文、体部外面雷文・靈枝文。小さい虫食いあり。被熱。	体部1/6	包含層 層位不明
219-7	舶載磁器 染付碗		中国。口縁部外面変形唐草文、体部外面火炎文。口禿。	体部1/5	包含層 I期
219-8	舶載磁器 染付碗		中国。見込蟠虺文。高台内に2重圏線あり。見込不定方向の細かい擦痕あり。	底部	包含層 I期
219-9	舶載磁器		中国。見込捻花文・線彫唐草文、体部外面唐草文。高台内1	底部2/3	包含層

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
219-10	染付碗 舶載磁器 色絵小杯	重圏線内に銘「大明宣徳年製」。 中国。見込捻花文（呉須で描いた上に赤色で要所を上絵付）、 体部外面?文（呉須で描いた上に緑・赤色で上絵付）。高台内 銘あり。高台内カンナケズリ痕。被熱により溶着物あり。色 絵変色。	底部1/3	VII期 包含層 VIII期
219-11	舶載磁器 色絵小杯	中国。見込草花文（色絵）、体部外面文様あり（呉須で描いた 上に緑・赤色で上絵付。高台内に銘「松石□」。被熱により 色絵変色。この個体より残りの悪い同一器形・文様のもの包 含層のIV期より出土。	底部1/2	山上会館地 点 不明
219-12	舶載磁器 染付碗	中国。見込菊花文。高台内に1重圏線あり。見込・高台内不 定方向の擦痕あり。	底部1/3	273号遺構 V期
219-13	舶載磁器 染付碗	中国。見込に銘「明成□年製」。高台内に1重圏線あり。小 さい虫食いあり。	底部1/3	包含層 III期
219-14	舶載磁器 染付碗	中国。見込唐子文。高台内1重圏線内に銘「大明成年製」。	底部1/2	包含層 III期
219-15	舶載磁器 染付碗	中国。器面にはゴマが顕著。見込「賁」の字。釉は青味がか り、細かい気泡が多く入る。	体部下半～ 底部1/3	264号遺構 III期
219-16	舶載磁器 染付碗	中国。見込荒磯文? 高台内に2重圏線あり。釉は青味がか る。被熱により内面は変色し、溶着。	底部1/3	包含層 攪乱
219-17	舶載磁器 染付碗	中国。見込菊花文。高台内に1重圏線あり。	底部1/2	500号遺構 III期
219-18	舶載磁器 色絵碗	中国。見込牡丹文（花は赤色、葉は緑色）、体部外面連続文（赤 色）。高台内1重圏線内に銘「玉堂[佳]器」。高台部内側から見 込にかけてカンナケズリ痕。見込不定方向の擦痕顕著。被熱 により色絵変色。	底部1/2	包含層 III期
219-19	舶載磁器 染付碗	中国。見込唐子文。高台内に1重圏線あり。見込不定方向の 細かい擦痕あり。	底部	845号遺構 I期
219-20	舶載磁器 染付碗	中国。芙蓉手・見込水鳥文。	底部1/2	366号遺構 III期
220-1 (76-5a・b)	舶載磁器 染付碗	中国。碁筈底。胎土は灰白色。無釉部は灰褐色。見込三木文、 体部外面縦線文（呉須は青灰色でうすい）。釉は明青灰色で外 面虫食いあり。高台部外面から高台内無釉。高台内カンナケ ズリ痕。高台部粗砂付着。見込回るような擦痕顕著。包含層 と接合。	体部4/5欠	498号遺構 IV期
220-2	舶載磁器 白磁皿	中国。碁筈底。見込線彫草花文? 見込擦れている部分あり。	底部1/4	包含層 I期
220-3	舶載磁器 色絵皿	中国。碁筈底。胎土は灰色。無釉部はにぶい黄褐色。緻密で 堅緻。内面草文（輪郭は黒色で中は緑色、他に赤色）? 釉は厚 くかかり、全面に貫入する。高台部無釉。釉剥落している部 分あり。被熱。	底部1/4	82号遺構 IV期
220-4	舶載磁器 瑠璃釉小杯	中国。体部・高台部外面瑠璃釉。高台内1重圏線内に銘「 [花]年製」。	1/5	包含層 I期
220-5	舶載磁器 染付小杯	中国。体部外面篋と草文。高台内1重圏線内に銘「大明成化 年製」。	体部1/2欠	873号遺構 I期
220-6	舶載磁器	中国。胎土はやや透明感がある。体部外面唐草文（呉須はに	1/3	2号遺構

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
220-7	染付小杯 舶載磁器	じむ)。釉には細かい気泡が入る。包含層と接合。 中国。体部内外面1重網目文。	体部1/4	明治時代 264号遺構
220-8	染付小杯 舶載磁器	中国。体部外面草花文。体部の高台部際虫食いあり。畳付から高台内無釉。	体部3/4欠	III期 289号遺構
220-9	染付小杯 舶載磁器	中国。胎土粗い。口唇部呉須で青く塗る。胎土内外面区画割草花文。高台内に1重圈線あり。釉は青味がかり、表面霧状に白濁。	1/4	包含層 III期
220-10	染付小杯 舶載磁器	中国。体部外面牡丹文。口禿。被熱。	体部1/4	包含層 III期
220-11	染付碗 舶載磁器	中国。体部外面蝶文。小さい虫食いあり。	体部1/6	攪乱
220-12	染付小杯 舶載磁器	中国。体部外面山水文。高台内1重圈線内に銘「大明成化年製」。	体部2/3欠	包含層 II期
220-13 {76-8}	染付小杯 舶載磁器	中国。胎土はやや透明感がある。体部外面「喜」の字文。釉には細かい気泡が入る。高台内銘あり。	体部1/4欠	7号遺構 明治時代
220-14	染付小杯 舶載磁器	中国。見込草花文、体部外面草花文(2単位)。高台内カンナケズリ痕。	体部5/6欠	264号遺構 III期
220-15 {78-5a・b}	染付小杯 舶載磁器	中国。体部内面梅と竹文、体部外面漢文と丸文。第220図16・17と同一個体の可能性あり。	体部上半1/6	包含層 VIII期
220-16 {78-6a・b}	染付小杯 舶載磁器	中国。体部内面梅樹文、体部外面漢文と丸文。第220図15・17と同一個体の可能性あり。	体部1/6	包含層 不明
220-17 {78-7a・b}	染付小杯 舶載磁器	中国。体部と高台部際に突帯があり、この部分鉄釉が塗られる。見込菊花文、体部外面丸文、高台部外面渦卷文? 高台内に銘「五良大甫呉祥瑞造」。第220図15・16同一個体の可能性あり。	底部	包含層 III+VII期
220-18	黄釉小杯 舶載磁器	中国。内面から体部・高台部外面黄釉。高台内1重圈線内に銘「大明成化年製」(呉須の発色悪く青黒色)。見込細かい擦痕顕著。	底部	包含層 III期
220-19	染付小杯 舶載磁器	中国。畳付の幅広い。体部外面文様あり。畳付から高台内無釉。	底部	包含層 III期
220-20	染付小杯 舶載磁器	中国。見込草花文、体部外面不明文。畳付から高台内無釉。	底部1/2	包含層 III期
220-21	染付小杯 舶載磁器	中国。釉には虫食いあり。高台内1重圈線内に銘「大明成化□□」。	底部1/2	包含層 III期
220-22	染付小杯 舶載磁器	中国。見込草花文? 体部外面不明文。高台内に銘「正徳年製」。被熱。	底部2/3	包含層 I期
220-23	染付小杯 舶載磁器	中国。見込文字文? 畳付から高台内無釉。高台内カンナケズリ痕。	底部	590号遺構 II期
220-24	染付碗 舶載磁器	中国。見込雲枝文、体部外面唐草文。外面虫食いあり。高台内に銘「玉堂佳器」。高台内カンナケズリ痕	底部	包含層 II期
220-25	染付小杯 舶載磁器	中国。体部内面花卉状に型打。高台内角福銘。被熱。	体部下半から底部1/3	包含層 III期
220-26	染付小杯 舶載磁器	中国。蛇ノ目高台。見込山水文。畳付から高台内無釉。見込不定方向の擦痕あり。	底部	包含層 II期?

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
220-27	舶載磁器 染付小杯	中国。見込不明文。高台内カンナケズリ痕。	底部1/2	包含層 VII期以前
220-28	舶載磁器 色 絵 碗	中国。内面蟠螭文(呉須), 体部外面抽象文(輪郭は黒色で中を緑色と黄色に交互に上絵付する涙滴文。他に赤色の圏線)。高台内銘あり。見込不定方向の細かい擦痕あり。	底部1/4	包含層 VII期
220-29	舶載磁器 染付多角形皿	中国。体部多角形(六角形?)に型打。見込花文。高台内1重圏線内に角福銘。高台内カンナケズリ痕。畳付粗砂付着。	底部1/4	包含層 III期
221-1	舶載磁器 染付小杯	中国。口唇部輪花状に型打。芙蓉手・内面獸面文。被熱。	体部1/6	405号遺構 IV期
221-2	舶載磁器 染付小杯	中国。口唇部輪花状に型打。芙蓉手。被熱により内面溶着。溶着物あり。	体部1/6	包含層 表土
221-3	舶載磁器 染付皿	中国。体部内面波濤文・見込竜文。高台内に2重圏線あり。口禿。	1/3	築山 IX期
221-4	舶載磁器 染付皿	中国。口唇部輪花状に型打。内面線彫牡丹文, 体部外面靈枝文(3単位)。高台内小さい虫食いあり。高台内1重圏線内に銘「大明成化年製」。畳付際粗砂付着。見込不定方向の細かい, 高台内回るような擦痕顕著。	1/2	464号遺構 III期
221-5 (77-4a・b)	舶載磁器 染付皿	中国。体部内面上半蝶文, 見込鷹文。口禿。高台内カンナケズリ痕。見込不定方向の擦痕あり。339・534号遺構・包含層と接合。	体部1/2欠	544号遺構 不明
221-6 (77-3a~c)	舶載磁器 染付皿	中国。見込鹿文, 体部内面草花文。体部外面唐草文。釉は青味がかかる。高台内銘あり。高台内カンナケズリ痕。焼継ぎ。	1/2	包含層 VIII期
221-7 (77-5)	舶載磁器 色 絵 皿	中国。内面騎馬武者と漢詩文(呉須で絵付した後に, 補足的に樹木黒色に緑色, 他に赤色で上絵付)。高台内カンナケズリ痕。見込不定方向の細かい擦痕あり。	底部1/3	188号遺構 V~VI期
221-8 (77-6)	舶載磁器 染付皿	中国。見込呉須(青灰色)で人物文。小さい虫食いあり。高台内カンナケズリ痕。638号遺構と接合。	底部	373号遺構 II期
222-1	舶載磁器 染付皿	中国。見込に小さな段あり。見込捻花文。畳付際粗砂付着。見込不定方向の, 高台内回るような擦痕顕著。	底部1/3	包含層 III期
222-2	舶載磁器 染付皿	中国。見込唐子文。高台内カンナケズリ痕。畳付粗砂付着。見込不定方向の擦痕顕著。擦れている部分もあり。	底部1/4	包含層 表土
222-3	舶載磁器 染付皿	中国。見込鹿文, 体部外面文様あり。高台内小さい虫食いあり。高台部粗砂付着。見込不定方向の, 高台内・体部の高台部際回るような擦痕顕著。	底部1/4	Rライン 試掘溝
222-4	舶載磁器 色 絵 皿	中国。見込ザクロ文(呉須, 他に赤色, その他にもあるが変色して不明)。高台内虫食い顕著。被熱により色絵変色。	底部1/2	160号遺構 VI期
222-5	舶載磁器 染付碗	中国。見込菊花文。小さい虫食いあり。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。見込細かい擦痕あり。	底部1/5	包含層 III期
222-6	舶載磁器 染付皿	中国。体部内面菊花状(もしくは亀甲状)に型打。見込菊花文(呉須)。この外側菊花状に型打の上を線彫。釉際に炎色(橙色)出る。虫食いあり。高台内1重圏線内に銘「 <input type="text"/> 明成 <input type="text"/> 年製」。畳付際粗砂付着。見込不定方向の細かい擦痕。また擦れている部分顕著。	底部1/4	包含層 II期
222-7	舶載磁器 染付皿	中国。見込捻花文・線彫唐草文? 高台内小さい虫食いあり。被熱。	底部1/6	包含層 IV~V期

挿図番号 (写真番号)	種 別	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
222-8	舶載磁器 染付碗	中国。見込牡丹文。高台内2重圏線内に銘「 <input type="text"/> 宣 <input type="text"/> 製」。高台内カンナケズリ痕。	底部1/6	包含層 III期
222-9	舶載磁器 染付皿	中国。内面菊花散らし文。疊付粗砂付着。高台内回るような擦痕顯著。被熱?	底部1/6	包含層 表土
222-10	舶載磁器 染付皿	中国。緻密で堅緻。見込花卉文, 体部外面松と竹文。高台部粗砂多く付着。高台内回るような, 体部外面下半斜立の擦痕顯著。	底部1/6	包含層 IV期
222-11	舶載磁器 白磁皿	中国。見込線彫菊花文。内面から体・底部外面青白磁釉(水色)。高台内に銘「 <input type="text"/> 成 <input type="text"/> 製」(呉須)。疊付際粗砂付着。	底部1/8	包含層 III期
222-12	舶載磁器 染付皿	中国。内面菊花散らし文。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。見込不定方向の擦痕あり。被熱。	底部1/6	包含層 III期
222-13	舶載磁器 染付皿	中国。内面陽刻草花文。小さい虫食いあり。高台内呉須による銘あり。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。	底部~体部 1/6	包含層 IV期
222-14	舶載磁器 染付皿	中国。内面花散らし文, 体部外面花文。高台内カンナケズリ痕。疊付粗砂付着。被熱。	底部1/4	包含層 VII期
222-15	舶載磁器 染付皿	中国。胎土は粗く器面にはゴマが出る。見込人物文。高台内小さい虫食いあり。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。	底部1/6	包含層 IV~V期
222-16	舶載磁器 染付皿	中国。内面呉須(線彫)で花唐草文, 体部外面唐草文? 高台内・体部の高台部際回るような擦痕顯著。被熱。	底部1/6	包含層 VII期
222-17	舶載磁器 染付皿	中国。見込呉須(線彫)で草花文。高台内に1重圏線あり。	底部1/6	28号遺構 VIII期
223-1	舶載磁器 染付皿	中国。内面吹墨草文(草文は墨弾き)。高台内に1重圏線あり。高台部粗砂付着。高台内回るような擦痕顯著。被熱。	底部1/6	包含層 III期
223-2	舶載磁器 染付皿	中国。内面陽刻靈枝文? 高台内小さい虫食いあり。高台内に銘「 <input type="text"/> 明成化年製」(呉須)。被熱により溶着物あり。	底部1/6	包含層 層位不明
223-3	舶載磁器 染付皿	中国。見込菊花文・捻花文。高台内1重圏線内に銘あり。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。被熱。	底部1/5	包含層 II期
223-4	舶載磁器 染付皿	中国。疊付は尖る。見込唐草文, 体部外面線彫縦線文。釉は青味がかり, 細かい気泡が入る。高台部粗砂付着。	底部1/4	包含層 VII期以前
223-5	舶載磁器 瑠璃釉皿	中国。口鏽(内面は口縁部まで)。体部内外面瑠璃釉。被熱により溶着物あり。	体部1/8	包含層 I期
223-6	舶載磁器 染付皿	中国。口鏽。口唇部輪花状に型打。体部内面区画割草花文, 体部外面渦卷文。被熱。	体部1/6	包含層 層位不明
223-7	舶載磁器 口絵8-7 黄緑釉皿	中国。疊付を除く全面淡黄緑釉。全面に貫入入る。被熱により溶着物あり。	底部1/3	736号遺構 I期
223-8 (77-2a・b) 口絵7-3	舶載磁器 色絵皿	中国。見込丸文(中は草花文, 花は赤色, 葉の輪郭は黒色で中は緑色), 地文は四方擧文(呉須, 赤色)。体部外面花唐草文(花は赤色, 唐草は緑色, 呉須)? 高台内に2重圏線あり。高台部内側粗砂多く付着。高台内回るような擦痕あり。	底部1/4	665号遺構 IV期
223-9	舶載磁器 色絵皿	中国。見込花文(地文とも呉須と上絵付併用, 上絵付の色は変色しているが赤色?)。高台内に2重圏線あり。被熱。	底部1/4	包含層 IV~VII期
223-10	舶載磁器 染付皿	中国。体部型打だが欠損のため全形不明。見込竜文, 体部内外面幾何学文。高台内に銘「 <input type="text"/> 徳 <input type="text"/> 」。被熱により, 溶着物あり。また橙色に変色している部分あり。	底部1/3	包含層 表土

挿図番号 (写真番号)	種 別 器 種	特 徴	微	残存部位	出土遺構 出土層位
223-11	舶載磁器 染付皿	中国。胎土は焼成悪く灰白色・にぶい橙色。内面草花文。釉は全面白濁。外面虫食い多くあり。釉際炎症（橙色）出る。高台内カンナケズリ痕。		底部1/4	264号遺構 III期
223-12	舶載磁器 染付皿	中国。胎土は灰白色。内面草花文。釉は青味がかり、器面霧状に白濁。畳付から高台内無釉。釉際には炎症（橙色）出る。高台内カンナケズリ痕。		底部1/3	464号遺構 III期
223-13	舶載磁器 染付皿	中国。見込に小さな段あり。見込笹文？ 高台内カンナケズリ痕。高台部から高台内粗砂多く付着。		底部1/4	162号遺構 VI期
223-14 (77-1a・b)	舶載磁器 白磁皿	中国。器面にはゴマ顕著。畳付から高台内無釉。虫食いあり。底面畳付際粗砂付着。高台内カンナケズリ痕。		底部	339号遺構 III期
223-15	舶載磁器 染付皿	中国。見込草花文。畳付から高台部無釉。高台内カンナケズリ痕。畳付粗砂付着。被熱。		底部1/3	築山 IX期
223-16	舶載磁器 染付碗	中国。見込梅枝文？ 釉は青味がかる。畳付から高台内無釉。高台内カンナケズリ痕。高台部粗砂付着。見込不定方向の、体部の高台部際回るような擦痕顕著。見込擦れている部分あり。		底部1/2	包含層 I期
223-17	擦 痕 染付碗	中国。見込不明文、体部外面文様あり。釉際には炎症（橙色）出る。高台内カンナケズリ痕。見込・高台内回るような、体外面斜位の擦痕顕著。		底部1/4	475号遺構 I期
223-18	舶載磁器 染付皿	中国。芙蓉手。畳付粗砂付着。被熱。		底部1/8	包含層 III期
224-1	舶載磁器 染付皿	中国。口唇部輪花状に型打。体部も型打。芙蓉手・見込宝尽し文。高台内小さい虫食いあり。高台部粗砂付着。		1/3	959号遺構 I期
224-2	舶載磁器 染付皿	中国。芙蓉手・見込宝尽し文。高台内・高台部外面カンナケズリ痕。畳付際粗砂付着。		底部2/3	包含層 II期
224-3	舶載磁器 染付皿	中国。体部型打だが欠損のため全形不明。芙蓉手・見込花籠文。被熱。		底部1/3	959号遺構 I期
224-4	舶載磁器 染付皿	中国。芙蓉手・見込花虫文。高台部内外面・高台内カンナケズリ痕。被熱。見込不定方向の擦痕顕著。		底部1/5	包含層 I期
224-5	舶載磁器 染付手塩皿	中国。口鏽。口唇部型打だが欠損のため全形不明。内面吹墨草花文（文様は線彫か墨弾き）。高台内銘あり。高台内虫食いあり。見込不定方向の擦痕あり。		体部4/5欠	475号遺構 I期
224-6	舶載磁器 染付手塩皿	中国。口唇部輪花状に型打。内面蛭文。高台内に1重圏線あり。高台内カンナケズリ痕。617号遺構・包含層と接合。		体部1/6欠	590号遺構 II期
225-1	舶載磁器 染付皿	中国。呉須手。胎土は灰白色で、やや透明感がある。無釉部は灰褐色。見込呉須（青灰色）で鳳凰文。釉は胎土の色が透けて灰白色。高台内無釉部あり。高台部粗砂多く付着。高台内部にも付着。見込不定方向の擦痕顕著。		底部1/6	包含層 I期
224-8 (78-1a~c)	舶載磁器 染付皿	中国。呉須手。胎土は灰白色で、やや透明感あり。体部内面三木文、見込樹木文（伝世品では鳳凰が配される）？呉須の色は灰緑色。釉は胎土の色が透けて灰白色。見込は釉やや白濁。高台内無釉部あり。畳付から高台内粗砂多く付着。見込・体部外面不定方向の擦痕顕著。		1/6	築山 IX期
224-9	舶載磁器 染付皿	中国。体部花卉状？に型打。内面区画内に魚文・剣菱文他。体部の高台部際虫食いあり。高台内2重圏線に銘「大明嘉		底部1/4	803号遺構 III期

挿図番号 (写真番号)	種 別 器 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
		□]。高台内カンナケズリ痕。写真75-8と同一の器形・ 文様と思われる。		
224-10	舶載磁器 染付皿	中国。変形貼付高台。全形不明。内面漁夫文，体部外面唐草 文。口禿。畳付際粗砂付着。被熱。内面稜の部分擦れている。	底体部片	包含層 III期以前
224-11	舶載磁器 変形皿	中国。円錐台状の足1個残存。胎土は粗い。口唇部変形唐草 文，見込魚文。口禿。足の底面無釉。被熱。	コーナー部 片	包含層 III期
225-1 (77-10a・b) 口絵7-6	舶載磁器 色絵角皿	中国。型打成形？ 口銹。見込花鳥文（花は赤色・黄色，葉・ 茎は輪郭黒色で緑・紫色），体部内面コーナー部に牡丹文（赤 色）・亀甲文・青海波文（赤・黒・緑色）。高台内銘あり。被 熱により溶着。溶着物あり。色絵も変色。	体部1/3欠	包含層 VI期
225-2 (77-9a・b)	舶載磁器 染付角皿	中国。型打成形？ 平面形は正方形か菱形を呈する。高台の 平面形は菱形で，一部変形。胎土はやや透明感があり，器面 にゴマ顕著。見込菊花散らし文。口禿。釉はぼつりとかか り虫食いあり。高台部粗砂付着。被熱。	1/2	包含層 IV～V期
225-3 (77-11a～c)	舶載磁器 染付角皿	中国。型打成形。胎土はややガラス質。見込鶴文。釉ぼつ りとかかる。高台内虫食いあり。畳付・高台内にモミ殻痕。	1/3	807号遺構 II期
225-4 口絵7-1	舶載磁器 色絵 筒形容器	中国。口銹。体部外面窓絵山水文（山・帆かけ舟は呉須，山・ 草は黒色で輪郭，その上に緑色，水は赤色，地文も赤色）。体 部内面の口縁部以下無釉。被熱により色絵変色。	体部1/4	包含層 III期
225-5	舶載磁器 染付 筒形容器	中国。全形は不明。体部外面草花文。口唇部から口縁部内面 無釉。釉際には炎色（橙色）出る。漆継ぎ。361・481・795号 遺構・包含層と接合。	体部5/6	467号遺構 IV期
225-6	舶載磁器 染付変形壺	中国。口は小さく体部に段がつく。体部外面地文の上に「吉」の 字。口唇部・口縁部内面無釉。被熱により溶着物あり。	体部上半1/6	包含層 IV期
225-7	舶載磁器 染付蓋	中国。体部外面花卉状に型打。天井部外面草文？ 口唇部か ら口縁部内面無釉。被熱。	1/3	包含層 II期
225-8	舶載磁器 白磁蓋	中国。体部外面花卉状に型打。天井部外面菊花文（陽刻）。口 唇部から口縁部内面無釉。天井部外面（菊花文部分）無釉。 その上に赤褐色顔料塗付。全面に貫入する。漆継ぎ。内面に 赤色顔料付着。	1/2	包含層 III期
225-9	舶載磁器 染付蓋	中国。胎土は粗い。体部外面山水文？ 口禿。口縁部から内 面無釉。口縁部に黒色の付着物あり。	口縁部～体 部下半1/3	包含層 VII期
225-10 (78-2a・b)	舶載磁器 染付面盆	中国。口唇部呉須で青く塗る。口縁部内面竜文，口縁部外面 霊枝文。被熱。	口縁部片	842号遺構 III期
225-11	舶載磁器 色絵鉢	中国。呉須赤絵。胎土は灰白色で，やや透明感がある。見込 「福」の字文（赤色），体部外面草花文（赤色と緑色）？ 釉は胎 土の色が透けて灰白色。高台内無釉。畳付粗砂多く付着（砂は とれているものもある）。見込不定方向の，体部内面横位の，体 部の高台部際回るような擦痕顕著。見込は擦れている部分顕 著。	底部1/2	包含層 VII期以前
225-12	舶載磁器 染付鉢	中国。内面笹文他。高台部・高台無釉。釉際には炎色（橙色） 出る。	底部片	包含層 IV期
225-13	舶載磁器 青磁壺	中国。酒会壺？ 胎土は灰白色，無釉部は明赤褐色。緻密で 堅緻。体部外面縦位の鎬。内外面青磁釉（緑灰色。枯青磁）。 畳付無釉。畳付擦れて，平滑になっている。	底部1/4	包含層 II期

挿図番号 [写真番号]	種 器	別 種	特 徴	残存部位	出土遺構 出土層位
225-14	舶載磁器 染付鉢		中国。無釉部はにぶい橙色。胎土は緻密で堅緻。見込梅樹文、 体部外面唐草文。高台部内面粗砂多く付着。被熱。	体部下半～ 高台部1/4	106号遺構 VI期

第35表 532号遺構出土舶載磁器観察表

写真番号	器 種	特 徴	残存部位
73-1	染付碗	中国。内外面割菊文。口禿。第77図10の口縁部の可能性あり。	口縁部片
73-2	染付鉢	中国。口唇部輪花状に、体部も型打。芙蓉手。口禿。	口縁部片
73-3	染付小杯	中国。体部外面蝶文。体部外面不定方向の細かい擦痕あり。	口縁部 ～体部片
73-4	染付碗	中国。口縁部内面1重圏線、体部外面草花文？ 虫食いあり。	口縁部 ～体部片
73-5	染付碗	中国。見込2重圏線内に文様あり、体部外面牡丹文。高台内2重圏線。高台部外面カンナケズリ痕。	下半1/4
73-6	染付碗	中国。口縁部内面1重圏線、体部外面「寿」散らし。口禿。	口縁部 ～体部片
73-7	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面丸文。写真73-8～11は1個体の中に展開する文様と思われる。	口縁部 ～体部片
73-8	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面竜文？ 写真73-7・9～11は1個体の中に展開する文様と思われる。	口縁部 ～体部片
73-9	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面丸文（中は竜文？）。写真73-7・8・10・11は1個体の中に展開する文様と思われる。	口縁部 ～体部片
73-10	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面文様あり。写真73-7～9・11は1個体の中に展開する文様と思われる。	口縁部 ～体部片
73-11	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面丸文（中は兎文？）。写真73-7～10は1個体の中に展開する文様と思われる。	口縁部片
73-12	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面草花文。口禿。	口縁部片
73-13	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面花蝶文。	口縁部 ～体部片
73-14	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面草花文。	口縁部 ～体部片
73-15	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。見込際1重圏線。体部外面草花文。	口縁部 ～体部片
73-16	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面草文。	口縁部片
73-17	染付小杯	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。見込際2重圏線。体部外面花蝶文。口禿。	口縁部 ～体部片
73-18	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面人物文。口禿。	口縁部片
73-19	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面文様あり。口禿。	口縁部片
73-20	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面山水文。	口縁部片
73-21	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。体部外面山水文。	口縁部 ～体部片
73-22	染付碗	中国。端反り。口縁部内面2重圏線。見込際1重圏線。体部外面草花文。器面やや白濁。	口縁部 ～体部片
73-23	色絵鉢	中国。胎土は灰白色で粗い。口縁部内面1重圏線（赤色）。体部外面草花文	口縁部片

写真番号	器種	特	徴	残存部位
		(一部の輪郭黒色, 他に緑・赤色)? 口禿。		
73-24	染付皿	中国。体部内面上半如意頭文, 体部外面文様あり。口禿。虫食いあり。被熱。		一部
73-25	染付皿	中国。見込文様あり。高台部際粗砂付着。内面不定方向の擦痕あり。		一部
73-26	染付皿	中国。口縁部緩く屈曲する。内外面縦線文。		体部片
73-27	染付皿	中国。口唇部輪花状に型打。芙蓉手。口禿。		体部片
74-1	染付皿	中国。口唇部輪花状に型打。芙蓉手。口禿。内外面斜位の擦痕あり。		口縁部片
74-2	染付皿	中国。体部内面如意頭文。口禿。虫食いあり。被熱し, 溶着。		体部片
74-3	染付皿	中国。芙蓉手(外面にも文様あり)。口禿。		体部片
74-4	染付皿	中国。端反り。体部内面連続文。口禿。		体部片
74-5	染付皿	中国。口鏽, 内面瑠璃釉の地の上に掻き落としとして魚文。外面青白磁釉? 内面霧状に白濁。被熱。		体部片
74-6	色絵皿	中国。内面草花文(輪郭は黒色で, 他に緑・紫色)? 高台部粗砂付着。体部の高台部際回るような擦痕顕著。被熱。		体部片
74-7	染付皿	中国。内面文様あり。高台部粗砂付着。被熱し, 溶着。		一部
74-8	染付変形皿	中国。折縁。体部は花卉状。胎土は粗い。虫食いあり。		体部片
74-9	染付変形皿	中国。折縁。体部は花卉状に型打。胎土は粗い。内面山水文。被熱し, 溶着。		体部片
74-10	瑠璃釉皿	中国。口鏽。内外面瑠璃釉。被熱。		体部片
74-11	染付皿	中国。胎土は赤橙色・浅黄橙色。体部内面草文。体部外面2重圏線。釉は厚く, 化粧がけをした上に呉須で絵付。全面に貫入する。		体部片
74-12	染付皿	中国。見込染付と陰刻で草花文・幾何学文。高台内虫食い顕著。高台内カンナケズリ痕。疊付際粗砂付着。被熱。		底部片
74-13	黄釉鉢?	中国。体部外面瑞獸文(輪郭は陰刻)。内外面黄釉。瑞獸文は緑色他。被熱し, 溶着物顕著。		体部片
74-14	染付蓋	中国。上面如意雲・七宝文? 側面唐草文崩れ? 体部内面無釉。被熱し, 溶着。また溶着物あり。		一部
74-15	色絵皿	中国。胎土は灰白色。体部内面文様あり(黒色, 他は変色していて不明)。口鏽。体部外面小さい虫食いあり。		体部片


第36表 678号遺構出土胎載磁器観察表





写真番号	器種	特	徴	残存部位
75-1	染付小杯	中国。口縁部に透しあり。口縁部外面亀甲繋ぎ。口唇部外面無釉。		口縁部片
75-2	染付碗	中国。胎土は灰白色で粗い。口唇部内面2重圏線。体部外面唐草文。釉中には細かい気泡生じる。		口縁部 ~体部片
75-3	染付碗	中国。口縁部内面2重圏線。見込際1重圏線。体部外面円の中に「万」の字。口禿。内外面とも霧状に白濁。		口縁部 ~体部片
75-4	染付皿	中国。折縁の部分? 胎土は灰白色で粗い。口縁部外面1重圏線。内面七宝文。		体部片
75-5	色絵皿	中国。内面霊枝文(輪郭は赤, 黒色で, 緑, 黄色で充填)。外面2重圏線と他に文様あり(呉須)。		体部片
75-6	染付角皿	中国。内面唐草文。虫食いあり。疊付際・高台内粗砂付着。被熱。		底部片
75-7	染付皿	中国。胎土は灰白色。内面草花文, 体部外面唐草文。釉際には炎色(褐色)		一部





写真番号	器種	特	徴	残存部位
		出る。内面・体部外面不定方向の長い擦痕顕著。被熱。		
75-8	染付皿	中国。見込四角の中に山水文。高台内2重圏線に銘「 <input type="checkbox"/> 明嘉靖 <input type="checkbox"/> 製」と渦福。第224図9と同一の器形・文様のものと思われる。包含層と接合。		底部片
75-9	染付皿	中国。内面区画割内に七宝文，体部外面文様あり。高台内1重圏線。高台内虫食い。カンナケズリ痕あり。畳付際粗砂付着。		底部片
75-10	染付皿	中国。体部は波状に型打？見込四方襷・剣菱文。体部外面文様あり。高台内2重圏線。畳付砂付着。見込不定方向の擦痕あり。被熱し，溶着物あり。		底部片
75-11	染付壺	中国。口縁部は接合で，その部分から割れている。外面波濤文？内外面施釉。外面釉は厚くかかり，文様が沈んでいる。貫入も入る。		肩部片
75-12	青磁碗	中国。見込印花文，体部外面は蓮弁文。内外面青磁釉（透明感のある緑灰色）。高台内無釉。内外面とも不定方向の擦痕顕著。		下半片
75-13	青磁瓶	中国。筍形瓶。体部外面に横位の沈線が4条巡る。内外面青磁釉（水色。粘青磁）で，貫入する。外面不定方向の擦痕顕著。被熱。116号遺構と接合。		体部片
75-14	白磁皿	中国。体部波状に型打。胎土は灰白色で粗い。口鏽。釉は胎土の色が透けて灰白色（厚い）。貫入する。		体部片
75-15	染付皿	中国。内面卍文。高台内2重圏線。		一部
75-16	染付鉢？	中国。体部内面松文。体部外面山水文。外面の底体部際は釉が剥がれている。被熱。		体部片
75-17	黄釉鉢？	中国。体部外面陰刻（あるいは型打？）で草花文。内外面黄釉，草花文は葉が緑・空色釉，花が紫釉。被熱し，貫入する		体部片
75-18	黄釉鉢？	中国。体部外面瑞獸文（輪郭は陰刻）。内外面黄釉，瑞獸文は緑・紫釉。被熱し，貫入する。		体部片
75-19	黄釉鉢？	中国。体部外面瑞獸文（輪郭は陰刻）。内外面黄釉，瑞獸文は緑・紫釉。被熱し，貫入する。釉溶着，変色。		体部片










第37表 7号遺構出土陶磁器類観察表

() 推定値 < > 残存値 [] 蓋をした状態の器高






写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
79-1	磁器 飯碗 瀬戸・美濃	口径 11.5 底径 3.7 器高 4.8	青磁色絵。口鏽。胎土はガラス質。人工具須で体部内面草花文と漢詩(うす赤紫色の釉下絵具による銘あり)。体部から高台部外面クローム青磁釉(黄緑色)。高台内1重圏線内に銘「其王軒製」。見込不定方向の擦痕あり。		体部1/5欠
79-2	磁器 飯碗 瀬戸・美濃	口径 12.0 底径 4.2 器高 5.0	色絵。胎土はガラス質。人工具須で口青，体部内面草花文(1箇所)，体部外面花草文(花はうす赤紫色，葉は緑色の釉下絵具を一部使う)。高台内1重圏線内に「其王軒製」。見込・体部外面不定方向の，体部内面横位の擦痕顕著。		完形
79-3	磁器 鉢 肥前	口径 14.6 底径 4.8 器高 6.7	染付。胎土はやや粉質。人工具須で見込2重圏線内に松竹梅文，口縁部内面四方襷文，体部外面鶴文。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。		体部1/4欠
79-4	磁器 飯碗 瀬戸・美濃	口径 10.1 底径 3.4 器高 3.9	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青，体部外面楼閣山水文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。見込擦れている部分あり。		体部1/5欠



写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
79-5	磁器 飯碗 瀬戸・美濃	口径 9.8 底径 3.6 器高 5.0	染付。胎土はガラス質。人工具須で見込2重圏線内に文様あり(右記)。口縁部内面2重圏線、体部外面笹文。		体部1/4欠
79-6	磁器 飯碗 瀬戸・美濃	口径 9.9 底径 3.2 器高 4.2	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面草花文。他に同一文様・器形のもの2個体あり。		体部一部欠
79-7	磁器 飯碗 肥前	口径 11.2 底径 4.2 器高 4.5	染付。胎土は粉質。人工具須で口青、口縁部内面瓔珞文、体部内面丸文の中に鶴亀・草花文。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。		1/2
79-8	磁器 飯碗 肥前	口径 10.4 底径 3.9 器高 4.1	染付。胎土は粉質。人工具須で口青、内面山水文、体部外面列点文(型紙摺)。焼継ぎ(高台内には○印)。		体部1/5欠
79-9	磁器 飯碗 肥前	口径 10.8 底径 4.0 器高 4.5	染付。胎土は粉質。人工具須で口青、口縁部内面瓔珞文、体部外面蛸唐草文(型紙摺)。内面・体部外面不定方向の擦痕あり。		体部一部欠
79-10	磁器 鉢 肥前	口径 15.6 底径 5.4 器高 5.7	染付。胎土はややガラス質。人工具須で見込2重圏線内に松竹梅文、口縁部内面瓔珞文(型紙摺)、体部外面列点文に花唐草文(4単位・型紙摺)。見込不定方向の擦痕あり。		体部一部欠
79-11	磁器 飯碗 瀬戸・美濃	口径 11.0 底径 4.0 器高 5.2	染付。胎土はガラス質。人工具須で見込2重圏線内に文様あり(右記)、口縁部内面松葉文?、体部外面縦線文内に笹文(3単位)? 疊付の幅広い(3mm)。		完形
79-12	磁器 飯碗 瀬戸・美濃	口径 11.2 底径 3.6 器高 4.4	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青、体部外面草花文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。見込不定方向の擦痕あり。		完形
79-13	磁器 飯碗 瀬戸・美濃	口径 11.4 底径 3.8 器高 4.5	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青、体部内面草花文(1箇所)、体部外面よろけ縞文、高台内1重圏線内に銘あり(右記)。見込擦れている部分あり。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		体部1/4欠
79-14	磁器 小皿 瀬戸・美濃	口径 9.9 底径 5.3 器高 2.2	白磁。腰部に段をもち、体部は外反する。胎土はガラス質。見込型打で「寿」文。他に同一文様・器形のもの14個体あり。		ほぼ完形
79-15	磁器 小皿 瀬戸・美濃	口径 9.8 底径 5.4 器高 1.8	白磁。胎土はガラス質。		ほぼ完形
79-16	磁器 小皿 瀬戸・美濃	口径 (10.6) 底径 7.0 器高 2.0	白磁。口錆。胎土はガラス質。見込不定方向の擦痕、擦れている部分あり。		2/3
79-17	磁器 手塩皿 瀬戸・美濃	口径 7.1 底径 4.4 器高 1.8	染付。腰部に段をもち、体部は外反する。胎土はガラス質。見込型打で「寿」文の上にダミを施す(具須は青灰色)。		完形
79-18	磁器 小皿 瀬戸・美濃	口径 11.6 底径 5.6 器高 1.6	染付。腰部に段をもち、体部は外反する。胎土はガラス質。見込型打で獅子文の上にダミを施す(人工具須)。		体部一部欠
80-1	磁器 小皿	口径 14.2 底径 6.4	白磁。口錆。蛇ノ目凹形高台。胎土はガラス質。見込・体部菊花状に型打。疊付から凹形高台内無釉。見込擦れている部		体部1/3欠

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
80-2	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 3.4 口径 13.6 底径 6.2	分あり。 染付。蛇ノ目凹形高台。胎土はガラス質。呉須（青灰色）で見込丸文、体部内面螺旋文、体部外面崩れた唐草文。畳付から凹形高台部無釉。見込不定方向の擦痕、擦れている部分あり。		ほぼ完形
80-3	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 3.3 口径 13.8 底径 6.0	染付。口鏽。蛇ノ目凹形高台。胎土はガラス質。見込型打で、楼閣山水に雀文の上にダミを施す（人工呉須）。畳付から凹形高台部無釉。他に同一文様・器形のもの2個体、同一器形で見込の文様が桜閣山水文のもの1個体あり。		体部一部欠
80-4	瀬戸・美濃 磁器 小皿 肥前	器高 2.6 口径 17.0 底径 9.1	染付。ハリ支え痕。胎土は粉質。内面折枝花文・蝙蝠文（墨弾き使用）、体部外面唐草文（4単位）、高台内1重圏線。釉は体部外面の一部白濁。内面・体部外面不定方向の細かい擦痕顕著。		体部1/4欠
80-5	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 2.3 口径 12.2 底径 7.2	染付。胎土はガラス質。人工呉須で口青、内面笹に月文（吹墨）、体部外面折枝文（3単位）。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。見込不定方向の擦痕あり。		体部一部欠
80-6	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 2.9 口径 12.4 底径 6.4	染付。胎土はガラス質。人工呉須で口青、内面・体部外面区画割草花文。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。見込不定方向の擦痕、擦れている部分あり。		体部一部欠
80-7	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 2.7 口径 (13.6) 底径 7.2	染付。体部上半輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。胎土はガラス質。人工呉須で見込松竹梅文、体部内面条線文、体部外面崩れた竜文。畳付から凹形高台部無釉。他に同一文様・器形のもの2個体あり。		体部1/2欠
80-8	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 2.2 口径 12.0 底径 6.2	染付。胎土はガラス質。人工呉須で内面から体部外面捻文。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。		1/4欠
80-9	瀬戸・美濃 磁器 小皿	器高 2.6 口径 15.8 底径 8.2	青磁染付。胎土はガラス質。人工呉須で見込竜文、体部外面唐草文崩れ。内面から底体部外面クローム青磁釉（うす緑色）。高台内1重圏線内に銘「萬曆年製」。見込に釘書き「八中」畳付は内削ぎ状で幅が広い（8mm）。見込は不定方向の擦痕、擦れている部分顕著。他に同一文様・器形のもの1個体あり（ただし銘だけ相違）。		体部1/3欠
80-10	瀬戸・美濃 磁器 小杯	器高 3.7 口径 5.6 底径 2.0	白磁。胎土はガラス質。釉は外面青味がかかる。		完形
80-11	瀬戸・美濃 磁器 小杯	器高 4.3 口径 7.1 底径 2.7	染付。胎土はガラス質。人工呉須で口縁部外面1重圏線。体部外面高台部際3重圏線。見込細かい擦痕、擦れている部分あり。		ほぼ完形
80-12	瀬戸・美濃 磁器 小杯	器高 4.0 口径 6.2 底径 2.7	染付。体部外面下半「0」型の型打で平らにした後（7単位）、鋭い工具による縦位の線彫。胎土はガラス質。人工呉須（色うすい）で体部外面草花文と漢詩。高台内1重圏線内に銘「大明」？		完形
80-13	瀬戸・美濃 磁器 小杯	器高 4.1 口径 5.9 底径 2.6	染付。胎土はガラス質。人工呉須で体部外面松とザクロ文と漢詩。高台内1重圏線内に銘あり（右記）。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		完形


写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
80-14	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.8 底径 2.8 器高 4.4	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面人物文と漢詩(横書き)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		体部1/4欠
80-15	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.3 底径 2.6 器高 2.7	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面松竹梅文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)		ほぼ完形
80-16	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.7 底径 2.8 器高 3.9	染付。体部外面「0」型の型打(8単位)。胎土はガラス質。青味がかかる。人工具須で体部外面梅樹と草花文(ダミを施した後に葉脈線彫)。釉はやや厚くかかり、文様が沈んでいる。高台内1重圏線内に銘あり(右記)外面鉄分が付着。		体部一部欠
80-17	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.4 底径 3.4 器高 4.7	染付。体部外面「0」型の型打(7単位)。胎土はガラス質。人工具須で体部外面草花文と漢詩。高台内2重圏線内に銘「棲碧亭笈閑造」。上げ底。		体部1/4欠
80-18	磁器 瀬戸・美濃	口径 7.0 底径 2.8 器高 4.5	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面楼閣山水文		体部1/4欠
80-19	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.5 底径 2.9 器高 4.6	染付。胎土はガラス質で黒ずむ。人工具須で体部外面笹と草花文。高台1重圏線内に銘あり(右記)。		完形
80-20	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.6 底径 3.1 器高 4.6	染付。胎土はガラス質。人工具須(色うすい)で体部外面鳳凰文(羽根の部分ダミを施した後に線彫。2単位)。釉はほぼ全面に貫入する。高台内1重圏線内に銘角福。		完形
80-21	磁器 瀬戸・美濃	口径 5.8 底径 2.6 器高 4.8	染付。体部外面下半「0」型の型打で平らにする(8単位)。胎土はガラス質。人工具須で体部外面松竹梅文と漢詩。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		完形
80-22	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.0 底径 3.0 器高 4.3	色絵。体部外面「0」型の型打(7単位)。胎土はガラス質。体部外面草花文(花・枝は人工具須, 葉は釉下絵具で緑色)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		体部一部欠
80-23	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.5 底径 3.2 器高 4.5	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面草花文と漢詩。高台内2重圏線。		ほぼ完形
80-24	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.4 底径 2.7 器高 4.4	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面樹下人物文と漢詩。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		完形
80-25	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.5 底径 2.8 器高 4.4	色絵。体部外面下半に「00」で1単位の鑄状の型打(6単位)。胎土はガラス質。体部外面縦綺文(人工具須・緑色の釉下絵具)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		体部一部欠
81-1	磁器 瀬戸・美濃	口径 6.4 底径 2.3 器高 3.1	白磁。体部外面中位に横位の隆線巡る。胎土はガラス質。他に同一器形のもの2個体あり。		完形
81-2	磁器 瀬戸・美濃	口径 5.8 底径 2.4 器高 2.8	色絵。疊付内側は屈曲し、高台部外面下半は突出する。体部上半は器厚うすい。胎土はガラス質。具須(水色)で高台部外面幾何学文。高台内具須で銘あり(右記)。見込青色の白玉で「えつ弥」。写真98-6と同一器形(他		完形

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
81-3	磁器 小杯 瀬戸・美濃	口径 6.3 底径 2.8 器高 2.7	にも同一器形1個体あり)。	色絵。器厚うすい。胎土はガラス質。内面丸く松竹梅それぞれの絵を描く(黒・褐?・金・白色)が剥落している部分もあり。	体部1/3欠
81-4	磁器 小杯 瀬戸・美濃	口径 7.0 底径 3.2 器高 3.9		染付。胎土はガラス質で青味がかかる。人工具須で体部外面草文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。	完形
81-5	磁器 小杯 瀬戸・美濃	口径 5.8 底径 2.3 器高 2.4		色絵。口唇部内側に窪ませて輪花状。器厚うすい。胎土はガラス質。呉須(青色)で高台部外面幾何学文、見込花卉文(花卉は青色の白玉,他に赤・金色)?高台内呉須で銘あり(右記)他に同一器形のもの1個体あり。	体部一部欠
81-6	磁器 小杯 瀬戸・美濃	口径 (6.3) 底径 2.2 器高 2.9		色絵。疊付内側は内湾し,高台部外面下半は突出する。体部上半器厚うすい。胎土はガラス質。呉須(水色)で高台部外面幾何学文。高台内呉須で銘「吉」。見込青色の白玉で「松京橋」。写真98-2と同一器形(他にも同一器形1個体あり)。	体部1/3欠
81-7	磁器 小杯 肥前	口径 6.1 底径 3.4 器高 4.5		染付。口縁部輪花状に型打。胎土は粉質。呉須で見込2重圏線内に松竹梅文。口縁部内面四方禪文。体部外面上半列点文,下半如意頭文崩れ。高台内に銘「成化年製」。	完形
81-8	磁器 小杯 瀬戸・美濃	口径 6.0 底径 2.8 器高 4.7		染付。上げ底。胎土はガラス質。人工具須で体部外面草花文と漢詩(欠損のため不明)?高台内1重圏線内に銘あり(右記)。	体部上半1/4欠
81-9	磁器 小杯 瀬戸・美濃	口径 (5.7) 底径 2.8 器高 (4.0)		青磁色絵。型打成形で口縁部波状。体部外面指頭痕?全周。胎土はガラス質。人工具須で口縁部内面1重圏線。体部外面釉下絵具でクワガタムシ文(クワガタムシは黒色,葉は緑色)。体部から高台部外面クローム青磁釉(うす緑色)。疊付から高台内無釉(釉ふきとり?)。高台内に刻印「春花」。他に同一文様・器形のもの1個体あり。	体部1/3欠
81-10	磁器 口絵 瀬戸・美濃	口径 8.4 底径 3.4 器高 4.6		色絵。胎土はガラス質。人工具須で見込2重圏線内に草文,口縁部内面2重圏線,体部外面花鳥文(文様はおそらく板状のものでフチどりした中に絵具(ガラスか?)を流し込む(色は白・ピンク・赤・青・黄・紫・暗青・黄緑色)。高台内1重圏線内に「大日本半介製」銘。焼継ぎ。	体部1/4欠
81-11	陶器 小杯 信楽	口径 6.0 底径 2.7 器高 4.3		疊付には3箇所切り込みが入る。高台内には工具でつけた渦巻きあり。胎土は灰白色,緻密で堅緻。体部外面菱形文(鉄で黒色)。釉は内面から体部外面灰釉(灰白色)。高台部無釉。	完形
81-12	陶器 小杯 信楽	口径 6.4 底径 (3.4) 器高 4.2		手づくね成形?胎土は灰白色で緻密。底部外面から体部外面葉脈状に粘土を貼付。その後文字を彫り込む。内面から体部外面灰釉(灰白色)。底部外面無釉。他に同一器形のもの1個体あり。	体部一部欠
81-13	磁器 茶碗 瀬戸・美濃	口径 8.2 底径 2.9 器高 4.3		青磁染付。口鏝。体部外面縦位の線彫文,疊付は内側が内湾しており(この部分まで無釉),上げ底になる。胎土はガラス質。人工具須で口縁部内面2重圏線。体部外面青磁釉(明緑灰色)。高台内1重圏線内に銘「山哲」。見込2重圏線内に「福寿永昌」。	体部一部欠
81-14	磁器	口径 8.9		染付。胎土はガラス質。人工具須で口縁部内面2重圏	完形


写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
81-15	茶碗	底径 3.6	線。体部外面山水文。釉は全面白濁。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		完形
	瀬戸・美濃	器高 4.2			
81-16	磁器	口径 8.8	染付。口銹。胎土はガラス質。人工具須で見込に文様あり(右記)。体部外面源氏香文崩れ。見込擦痕あり。写真98-16と同一器形(他にも4個体あり)。同一器形・文様のもの他に1個体あり。		完形
	茶碗	底径 3.1			
81-17	瀬戸・美濃	器高 4.2	染付。口銹(色うすい)。胎土はガラス質。人工具須で口縁部内面・見込2重圏線, 体部外面草花文と漢詩(横書き1行)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。疊付は内側が内湾している(この部分まで無釉)。		完形
	磁器	口径 7.6			
81-18	茶碗	底径 4.3	染付。蛇ノ目高台。胎土はガラス質。人工具須で口青。見込花様の文様, 体部外面草花文, 高台内1重圏線。見込細かい不定方向の擦痕, 擦れている部分顕著。		体部一部欠
	瀬戸・美濃	器高 3.7			
81-19	磁器	口径 9.1	染付。疊付の幅広い(3mm)。胎土はガラス質。人工具須で見込1重圏線内に草花文, 口縁部内面雷文崩れ, 体部外面牡丹と蝙蝠文, 高台内1重圏線。焼成不良で全面白濁, 見込不定方向の細かい擦痕あり。		完形
	茶碗	底径 3.6			
81-20	瀬戸・美濃	器高 3.9	染付。胎土はガラス質。人工具須で口縁部内面崩れた連続文, 体部外面区画割草花文。見込1重圏線内に「開化年制」銘。疊付の幅広い(5mm)。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		体部1/2欠
	磁器	口径 (8.5)			
81-21	茶碗	底径 3.2	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青, 体部外面人物文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		完形
	瀬戸・美濃	器高 6.5			
81-22	磁器	口径 7.6	染付。胎土はガラス質。具須で口縁部内面2重圏線, 体部外面人物文, 高台内1重圏線。見込・体部外面不定方向の, 体部内面横位の擦痕顕著。		ほぼ完形
	茶碗	底径 4.4			
81-23	瀬戸・美濃	器高 6.5	染付。器厚厚く, 上げ底。胎土はガラス質。具須で体部内面上半山水文, 体部外面草花文と漢詩。高台内に銘「奇陶軒榊吉製」。		完形
	磁器	口径 5.6			
81-24	茶碗	底径 3.6	青磁色絵。胎土はガラス質。口縁部内面人工具須で2重圏線。体部外面釉下絵具で松文(枝は黒色, 葉は緑色)。外面青磁釉(うす緑色)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		完形
	瀬戸・美濃	器高 6.3			
81-25	磁器	口径 5.3	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青, 体部外面よろけ縞文。高台内1重圏線。		ほぼ完形
	茶碗	底径 3.7			
81-26	瀬戸・美濃	器高 6.0	染付。胎土はガラス質。具須(水色)で体部内面上半山水文, 体部一部欠体部外面区画割文(四方禪文・市松文・七宝文)。高台内1重圏線内に銘「大明年製」。		
	磁器	口径 5.4			
81-27	茶碗	底径 3.5	染付。器厚厚く, 高台内挟り込んで上げ底。胎土はガラス質。人工具須で口青, 体部外面笹文と漢詩。疊付粗砂付着。		
	瀬戸・美濃	器高 6.3			
81-27	磁器	口径 5.3			
	茶碗	底径 3.6			
	瀬戸・美濃	器高 5.9			

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
81-28	磁器 茶碗 瀬戸・美濃	口径 5.6 底径 3.0 器高 6.3	染付。体部の高台部際に線彫文。高台内挟り込んで上げ底。胎土はガラス質で藤色(胎土自体に色が付いている)。人工具須で体部外面草花文と漢詩。高台部周囲粗砂付着。		ほぼ完形
81-29	磁器 茶碗 瀬戸・美濃	口径 5.0 底径 3.0 器高 6.1	高台内挟り込んで上げ底。胎土はガラス質。人工具須で体部外面から高台部外面瑠璃釉。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		ほぼ完形
82-1	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 9.6 器高 2.5	青磁染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。口縁部内面2重圏線。見込具須(青灰色)で霊枝文。体部・高台部外面青磁釉(うす緑色)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		ほぼ完形
82-2	磁器 蓋 肥前	口径 9.8 器高 2.5	染付。飯碗の蓋。胎土は粉質。人工具須で口青。口縁部内面瑠璃文, 体部外面花蝶文(型紙摺)。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。		体部一部欠
82-3	磁器 蓋 肥前	口径 9.5 器高 2.3	染付。飯碗の蓋。胎土は粉質。人工具須で口青。型紙摺で内面唐字文(2単位)。体部外面列点文(3単位)。高台内1重圏線内に銘「本平製」。		体部1/4欠
82-4	陶器 蓋 肥前	口径 8.9 器高 2.3	染付。飯碗の蓋。胎土は粉質。人工具須で見込2重圏線内に松竹梅文, 口縁部内面雷文, 体部外面列点文。		ほぼ完形
82-5	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 9.6 器高 2.7	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工具須で口青。口縁部内外面瑠璃文, 体部外面草花文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。見込不定方向の擦痕, 擦れている部分あり。		体部一部欠
82-6	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 9.5 器高 2.5	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工具須で口青。口縁部内面草花文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。見込擦痕あり。		体部一部欠
82-7	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 10.5 器高 2.4	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青。体部外面よろけ縞文。高台内1重圏線内に銘あり(右記)。見込・口唇部擦れている部分顕著。		体部一部欠
82-8	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 7.4 器高 2.2	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工具須で体部外面草花文(高台内にも文様の続きあり)。		完形
82-9	磁器 蓋物 瀬戸・美濃	蓋器高 7.4 身器高 2.0 身器高 8.6 身器高 4.1 (5.8)	染付。平面形は正方形。底部の重ねの部分高台状。胎土は蓋・身ともガラス質。蓋・身とも人工具須で体部外面草花文(絵付けした後に線彫)。蓋は口唇部無釉。身は口縁部内面・高台部際の重ねの部分無釉。		蓋 1/2 身体部1/4欠
82-10	磁器 蓋物・身 肥前	口径 9.1 底径 8.6 器高 5.2	染付。胎土は粉質。人工具須で体部外面列点文(型紙摺)。口縁部内面・底部外面無釉。底部内面盛り上がっている。		体部一部欠
82-11	磁器 蓋物・身 肥前	口径 10.7 底径 9.7 器高 6.5	染付。胎土は粉質。具須で体部外面花唐草文。口唇部・底部外面無釉。見込不定方向の擦痕あり。		体部1/6欠
82-12	磁器 蓋物・身 瀬戸・美濃	口径 11.6 底径 11.7 器高 4.8	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面縞文。口縁部外面・底部外面無釉。		体部一部欠
82-13	磁器	口径 11.6	染付。胎土は粉質。具須で体部外面草文(3単位)。口縁部		1/4欠



写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
82-14	蓋物・身	底径 7.6	畳付無釉。体部外面釉霧状に白濁。見込・体部外面不定方向の擦痕あり。	染付。碁笥底。胎土は粉質。人工具須で体部外面山水文。口縁部内面・畳付無釉。	1/2
	肥前	器高 6.5			
	磁器	口径(14.4)			
82-15	蓋物・身	底径(6.0)	染付。胎土は蓋・身ともガラス質。人工具須で上面から体部外面楼閣山水文(蓋と身と文様は一体)。蓋は口唇部から体部内面無釉。身は受け部無釉。	完形	
	肥前	器高 6.4			
	磁器	口径 6.3 器高 0.7			
82-16	蓋物	口径 5.2 器高 5.8	胎土は半ガラス質で緻密。畳付を除く全面緑釉。口唇部不定方向の細かい擦痕顕著。	1/6欠	
	瀬戸・美濃	口径 1.6 器高 [2.2]			
	磁器	口径 9.8			
82-17	鉢	底径 8.4	染付。口唇部は内削ぎ状、底部部際小さな段あり(重ね物)、底部は内側に盛り上がる。胎土はガラス質。人工具須で体部外面列点文(型紙摺)。口唇部・底部部際の段無釉。	体部1/3欠	
	肥前?	器高 4.0			
	磁器	口径 5.7			
82-18	蓋物・身	底径 5.2	染付。蓋物の蓋。胎土は粉質。具須で外面花卉文。口縁部無釉。	完形	
	瀬戸・美濃	器高 1.4			
	陶器	口径 9.5			
83-1	蓋	器高 4.5	青磁。胎土はガラス質。外面クローム青磁釉(うすい緑色)の上に口縁部外面・注口周囲黄褐色の釉かかる。底部外面・口縁部内面無釉。	完形	
	肥前	口径 7.1			
	磁器	口径 7.2			
83-2	急須	器高 8.6	青磁色絵。胎土は蓋・身ともガラス質。蓋は外面草花文(釉下絵具。花はイチチン、葉は緑色、枝は黒色)。身は体部外面笹文と漢詩(釉下絵具。雪はイチチン、笹は緑色、漢詩は黒色)。外面クローム青磁釉(明緑灰色)。蓋は口縁部無釉。身は底部外面・口縁部内面無釉。底部の釉際炎色(橙色)出る。	蓋 完形 身 体部1/ 2欠	
	瀬戸・美濃	口径 6.9 器高 2.2			
	磁器	口径 7.6 器高 (7.6) 口径 5.9 器高 7.5 [9.0]			
83-3	急須	器高 6.7	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面山水文。底部外面・口縁部内面無釉。注口部のすぐ横が欠損しているためこの角度から撮影。	体部一部欠	
	瀬戸・美濃	口径 6.8			
	磁器	口径 5.8			
83-4	急須	器高 7.0	染付。胎土はガラス質。人工具須で体部外面草花文(ダミを施した後に葉脈は線彫)。底部外面・口縁部内面無釉。注口部横に銘あり。焼継ぎ。	完形	
	瀬戸・美濃	口径 7.0			
	磁器	口径 6.8			
83-5	急須	器高 7.0	染付。胎土はガラス質。蓋・身一体の文様、人工具須で蝙蝠文(イチチンで輪郭を書く。蝙蝠ダミ書き。霞?は黒色)。蓋は口縁部無釉。身は口縁部内面・底部内面無釉。注口付近に銘あり(右記)	蓋 完形 身 把手欠	
	瀬戸・美濃	口径 5.6 器高 1.7			
	磁器	口径 6.3 器高 5.8 器高 5.6 [7.0]			
83-6	水差し?	器高 4.6	染付。器厚が厚く、底部中央が盛り上がる。蓋がつく器形。胎土はガラス質。人工具須で体部外面よろけ縞文。口縁部内面・底部外面無釉。	ほぼ完形	
	瀬戸・美濃	口径 4.4			
	磁器	口径 5.5			
83-7	蓋	器高 2.1	青磁色絵。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。外面草花文(釉下絵具で花はイチチン、葉は緑色、枝は黒色)。外面クローム青磁釉(うす緑色)。口唇部無釉。	完形	
	瀬戸・美濃	口径 5.9			
	磁器	口径 5.9			
83-8	蓋	器高 2.5	染付。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。人工具須で体部外面草花文。口縁部無釉。	完形	
	瀬戸・美濃	口径 8.8			
	磁器	口径 8.8			
83-9	磁器	口径(6.4)	染付。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。人工具須で	完形	

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
	蓋	器高 1.9	部外面草木文。口唇部無釉。		
	瀬戸・美濃				
83-10	磁器	口径 6.5	染付。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。人工具須で体	完形	
	蓋	器高 2.8	部外面草花文(花の一部にうす赤色の釉下絵具を使う)。口唇		
	瀬戸・美濃		部無釉。		
83-11	磁器	口径 5.0	染付。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。人工具須で体	完形	
	蓋	器高 1.9	部外面山水文。口唇部無釉。		
	瀬戸・美濃				
83-12	磁器	口径 5.8	染付。急須の蓋。体部穿孔。胎土はガラス質。人工具須で体	完形	
	蓋	器高 1.7	部外面山水文。口唇部無釉。		
	瀬戸・美濃				
83-13	磁器	長さ 9.5	染付。型打成形。胎土はガラス質。内面条線文・幾何学文の	完形	
	蓮華	幅 5.2	上に人工具須でダミを施す。底部外面無釉。底部外面縦位の		
	瀬戸・美濃	器高 5.0	長い擦痕顕著。他に同一文様・器形のもの1個体あり。		
83-14	磁器	長さ 10.8	染付。型打成形。胎土はガラス質。人工具須で体部内面3重	完形	
	蓮華	幅 4.6	圈線。釉は表面霧状に白濁。柄のつけ根外面に刻印あり(写		
	瀬戸・美濃	器高 3.2	真参照)。底部外面に3箇所が目痕あり。他に同一文様・器形		
			のもの10個体あり。		
83-15	磁器	長さ 11.1	染付。型打成形。器形は上からみると瓢箪形に型打。胎土は	完形	
	蓮華	幅 5.3	ガラス質。人工具須で口青、内面蕪文(葉の絵が体部外面に		
	瀬戸・美濃	器高 4.5	一部はみ出す)。底部外面無釉。		
83-16	磁器	口径 7.2	色絵。突起(3箇所)は貼付。胎土はガラス質。体部外面花	体部1/4欠	
	香炉	底径 3.2	卉文(輪郭は黒色、その中を赤・緑・青色で塗る。口唇部赤		
	瀬戸・美濃	器高 3.7	色)。体部下半から見込高台部無釉。		
83-17	磁器	口径(11.0)	胎土は白色で粉質。底部外面「一」刻印。内面擦れて平滑に	体部1/2欠	
	乳鉢	底径 7.2	なっている。		
	不明	器高(6.9)			
83-18	磁器	口径(3.4)	染付。首部外面につまみが2箇所貼付される。薄手。胎土は	口縁部一部欠	
	燗德利	底径 4.7	ガラス質。人工具須で胴部外面雀と稲穂文。		
	瀬戸・美濃	器高 16.2			
83-19	磁器	口径(3.3)	染付。薄手。胎土はガラス質。人工具須で口縁外面・	ほぼ完形	
	燗德利	底径 5.9	肩部際外面圈線。底部外面・首部以外無釉。胴部外面		
	瀬戸・美濃	器高 18.1	に銘あり(右記。1箇所)。他に同一文様・器形のもの		
			3個体あり。		
83-20	磁器	口径(3.2)	白磁。薄手。胎土はガラス質。底部外面・首部以外無釉。	ほぼ完形	
	燗德利	底径 5.8			
	瀬戸・美濃	器高 15.5			
83-21	磁器	口径 8.6	染付。上げ底。底部内面には砂目痕5箇所あり。他に溶着物	胴部一部欠	
	花生	底径 7.8	もあり。胎土はガラス質。人工具須で体部外面桜と牡丹文・		
	瀬戸・美濃	器高 21.7	菊と草花文(型紙摺)。		
83-22	磁器	口径 4.7	白磁。胎土はガラス質。外面無釉。底部外面に刻印あり(写	完形	
	筒形容器	底径 4.5	真参照)。		
	瀬戸・美濃	器高 7.4			
84-1	陶器	口径 9.0	胎土はにぶい黄橙色、白色粗砂・透明粗砂多く含む。内面か	完形	
	飯碗	底径 3.0	ら体部外面白化粧の後(白化粧には虫食いが多い)、体部外面		

写真番号	種別 器種 生産地	法	量 (cm)	特	徴	残存部位
	不 明	器高	3.5	に人工具須で草花文、口青、その上に透明釉がけ。全面に貫入する。高台内に刻印「周平」。内面ほぼ全面に褐色の付着物あり。		
84-2	陶 器 角 皿 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	8.2 3.7 2.4	平面形・高台は正方形。胎土は灰白色。内面型打で見込花卉文。体部内面波瀾文・斜格子文(4単位)。全面(骨付を除く)銹釉(黄褐色と暗褐色が斑状)。他に同一器形で文様が違うもの3個体あり。		完形
84-3	陶 器 蓋 物 身 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	8.5 6.7 4.8	胎土は灰色。粗砂を大量に含む。内面、体部外面灰釉(灰色)。口縁部・底部外面無釉。		完形
84-4	陶 器 蓋 物 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	10.6 7.6 4.5	胎土は灰白色。内面から体部外面灰釉(灰白色)。口唇部・底部外面無釉。底部外面に墨書あり(文様?)。他に同一器形のもの3個体あり。		完形
84-5	陶 器 餌 鉢 益 子	口径 底径 器高	7.0 4.2 3.2	底部回転糸切り痕。胎土はにぶい橙色。内面から体部外面灰釉(暗オリーブ色。胎土の色が透けている)。白濁している部分あり。口唇部・体部外面下半から底部外面無釉。		体部1/3欠
84-6	陶 器 急 須 万 古 系	口径 底径 器高	4.8 5.0 3.5	胎土は浅黄橙色、緻密で堅緻。粘土質。体部外面に鉄のイッチン描き(周囲は赤色になる)?他に同一器形のもの13個体あり。		ほぼ完形
84-7	陶 器 急 須 万 古 系	口径 底径 器高	5.3 5.0 4.5	胎土は淡黄色、緻密で堅緻。粘土質。他に同一器形のもの2個体あり。		完形
84-8	陶 器 急 須 万 古 系	口径 底径 器高	6.7 7.0 6.2	胎土は淡黄色、緻密で堅緻。粘土質。内面に褐色の付着物あり。他に同一器形のもの12個体あり。		完形
84-9	陶 器 急 須 万 古 系	口径 底径 器高	5.2 5.5 6.6	胎土は断面黒灰色、表面灰赤色。緻密で堅緻。粘土質。体部外面に十数個の刻印を押し、それが文様になっている。他に同一器形のもの1個体あり。		把手欠
84-10	陶 器 急 須 万 古 系	口径 底径 器高	4.8 4.4 5.5	胎土は断面灰色。表面灰赤色。緻密で堅緻。粘土質。把手の下に刻印「萬古陽桐軒 □」。他に同一器形のもの1個体あり。		把手欠
84-11	陶 器 急 須 万 古 系	口径 底径 器高	5.5 6.0 7.0	胎土は断面黒灰色。器面灰赤色。体部外面梅樹文(梅花は白地にピンク・黄・暗褐色。幹は白地に黄・暗褐色、枝は赤色。他に青色も使用)。把手横に刻印「萬古」。		把手欠
84-12	陶 器 急 須 万 古 系	口径 底径 器高	7.3 7.8 6.3	胎土は浅黄橙色。緻密で堅緻。粘土質。体部外面中位に横位の鉄のイッチン描き(周囲は赤色になる)?他に同一器形のもの13個体あり。		完形
84-13	陶 器 急 須 万 古 系	口径 底径 器高	7.2 7.2 5.8	胎土はにぶい橙色と赤色の練込み。緻密で堅緻。粘土質。体部外面縦位の、注口は身から注口方向の、柄はつけ根から先端方向への鑄。他に同一器形のもの4個体あり。		完形
84-14	陶 器 急 須 万 古 系	口径 底径 器高	6.8 7.9 6.7	胎土はにぶい橙色と赤色の練込み。緻密で堅緻。粘土質。体部外面縦位の、柄はつけ根から先端方向への鑄。底部外面に墨書「東京第一病院内科第六号用」。他に同一器形のもの4個あり。		注口欠
85-1	陶 器	蓋口径 器高	5.6 2.5	胎土は蓋身とも淡黄色。身の体部外面上半横位の細い		蓋 体部一

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
	土瓶 瀬戸・美濃	口径 7.8 器高 8.3 身底器高 10.4 (12.2)	条線施す。蓋外面身内面・体部外面柿釉(暗褐色)。蓋内面・身底部外面・口唇部無釉。蓋内面に刻印あり「グチ八本」(右記)。内面の釉は光沢ない。蓋は他に同一器形のもの3個体あり。		部欠 身 ほぼ完形
85-2	陶器 土瓶 益子	口径 6.3 器高 3.3 口径 8.4 器高 7.0 身底器高 10.2 (12.2)	胎土は灰白色。緻密で均質。蓋外面・身体部外面緑釉(緑色)。蓋・身の内面・底部外面無釉。底部外面煤ける。		蓋 完形 身 完形
85-3	陶器 土瓶 益子	口径 6.2 器高 0.9 口径 7.2 器高 7.4 身底器高 8.7 (9.2)	胎土はにぶい橙色。緻密で均質。蓋外面・身内面・体部外面灰釉(灰オリーブ色)。底部外面無釉。蓋は他に同一器形のもの8個体あり。身は他に同一器形のもの1個体あり。		蓋 つまみ 欠 身 ほぼ完形
85-4	陶器 土瓶 益子	口径 (2.6) 器高 1.4 口径 9.0 器高 9.2 身底器高 11.6 (11.6)	蓋は穿孔あり、底部回転糸切り痕。胎土は蓋・身とも浅黄橙色。緻密で均質。蓋は外面白泥の上に草文(深緑色)。身は体部外面上半イッチンで縦線文の上に梅花文(人工具須)。蓋は外面灰釉(浅黄橙色)。内面無釉。身は体部外面灰釉(浅黄橙色)。内面・底部外面無釉。底部外面黒ずむ。		蓋 完形 身 ほぼ完形
85-5	陶器 土瓶 益子	口径 3.0 器高 1.8 口径 9.7 器高 8.6 身底器高 11.0 (11.0)	蓋・底部篋切り? 胎土は蓋は灰白色、緻密で均質。身は浅黄橙色、緻密で均質。蓋は外面イッチンで斜格子文の上に梅花文(深緑色)。身は体部外面上半イッチンで縦線文の上に梅花文(人工具須)。蓋は外面灰釉(灰白色)で、内面無釉。身は体部外面灰釉(灰白色)で、内面・底部外面無釉。底部外面煤ける。蓋被熱。身は他に同一文様・器形のもの1個体あり。		蓋 体部一 部欠 身 ほぼ完形
85-6	陶器 土瓶 信楽	口径 2.2 器高 1.7 口径 6.8 器高 6.8 身底器高 7.6 (7.6)	蓋は底部回転糸切り痕。穿孔あり。胎土は蓋・身とも浅黄色。緻密で均等。外面白化粧の上に、蓋は鉄(黒色)・黄緑色の釉下絵具で放射状の文様。身は鉄(暗褐色)・呉須で山水文。蓋外面・身内面から体部外面透明釉。蓋内面・身口縁部内面・底部外面無釉。身の内面褐色の付着物あり。底部外面黒ずむ。		蓋 完形 身 完形
85-7	陶器 土瓶 益子?	口径 9.1 器高 3.1 口径 11.5 器高 10.4 身底器高 12.6 (15.3)	胎土は蓋は灰白色、緻密で均質、身は白色、緻密で均質。外面白化粧の上に人工具須で蓋は外面篋に菊花文、身は胴部外面上半篋に菊花文・梅樹に草文、下半如意頭文。蓋は外面透明釉。内面無釉。身は体部内面から体部外面透明釉。口唇部から口縁部内面・底部外面無釉。底部は黒ずんでおり、上げ底。蓋は他に同一文様・器形のもの1個体あり。		蓋 完形 身 完形
85-8	陶器 土瓶 益子?	口径 7.2 器高 3.7 口径 8.7 器高 18.7 身底器高 (21.3)	胎土は灰白色。緻密で均質。蓋・身とも外面化粧がけの上に人工具須で草花文。蓋内面・身内面・底部外面無釉。身は他に同一文様のもの3個体あり、蓋は他に同一文様・器形のもの2個体あり。		蓋 完形 身 底部欠
85-9	陶器 土瓶 益子	口径 2.6 器高 1.7 口径 6.9 器高 6.5 身底器高 8.3 (8.3)	蓋は底部は回転糸切り痕。胎土は蓋・身とも明赤褐色。緻密で均質。蓋は外面白泥の上に草文(深緑色)。身は体部外面窓絵山水文(白泥の上に深緑色・褐色絵具)。蓋は外面灰釉(灰白色)、内面無釉。身は体部外面灰釉(灰白色で、白濁している部分あり)。内面・底部外面無釉。底部外面黒ずむ。蓋は他に同一文様・器形のもの8個体あり。身は他に大きさは違いますが同一器形のもの6個体あり。		蓋 完形 身 把手片 方欠

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
85-10	陶器 土瓶 益子	口径 8.4 底径 7.4 器高 20.5	胎土は浅黄橙色で、緻密。体部外面窓絵山水文（白泥の上に人工具須で山水文）。体部外面灰釉（透明釉）。内面・底部外面無釉。底部外面に墨書「一」。底部外面黒ずむ。		一部欠
85-11	陶器 土瓶 京都	口径 7.0 底径 6.1 器高 8.9	外面底部際に突起あり（3箇所）。胎土は白色。緻密で均質。体部外面鉄（オリーブ黒色）で笹文。内面から体部外面灰釉（淡黄色）。全面に細かい貫入入る。口縁部内面・底部外面無釉。底部外面に刻印「帯山」。底部外面黒ずむ。		ほぼ完形
85-12	陶器 蓋 信楽	口径 5.8 器高 1.6	胎土は灰白色で、緻密。外面灰釉（淡黄色）。写真102-13と組。他に同一器形のもの1個体あり。		完形
85-13	陶器 水注 信楽	口径 7.8 底径 7.7 器高 8.9	胎土は灰白色で、緻密。体部内面上半から体部外面灰釉（灰白色）。内面には灰釉うすくかかる。口唇部・底部外面無釉。見込白色粗砂付着。写真102-12と組。他に同一器形のもの1個体あり。		完形
85-14	陶器 水注 信楽	口径 (6.4) 底径 4.0 器高 4.0	胎土は灰白色で、緻密で堅緻。天井部外面花卉文(型打)。内面から体部外面灰釉（灰白色）。		完形
85-15	陶器 土鍋 益子	口径 16.1 底径 7.8 器高 6.7	胎土は淡黄色、緻密で均質。体部外面上半白化粧の上に、人工具須で漢詩。内面灰釉（灰白色）。体部外面上半灰釉（透明釉）。口唇部体部外面・下半から底部外面無釉。外面無釉部・見込煤ける。		ほぼ完形
85-16	陶器 土鍋 瀬戸・美濃	口径 16.2 底径 7.2 器高 6.2	胎土は灰白色で、緻密。体部外面鉄（褐色）で唐草文崩れ。内面灰釉（灰白色。刷毛塗り）。体部外面灰釉（灰白色）。把手部は緑釉、口唇部・底部外面無釉。体部外面黒ずむ。写真106-10と組。		把手片方欠
85-17	陶器 蓮華 不明	長さ <9.0> 幅 5.7 器高 <3.5>	型打成形。底部外面に3箇所目痕あり。胎土は白色。見込竜文(型打)。全面黄釉。底面は擦れている部分顕著。他に同一個体のもの1個体あり。		柄先端欠
86-1	陶器 徳利 瀬戸・美濃	口径 2.7 底径 6.8 器高 19.6	口縁部は折返し。胎土は灰白色で、白色粗砂を多く含む。口縁部から胴部外面灰釉（灰白色）。底部外面周囲無釉。胴部外面に釘書き「八サ」。		完形
86-2	陶器 徳利 瀬戸・美濃	口径 4.1 底径 7.0 器高 20.2	口縁部は折返し。胎土は灰色で、粗砂を多く含む。口縁部から胴部外面灰釉（灰白色）。底部外面周囲無釉。胴部外面に釘書き「八半」。胴部外面中位には焼成時の他個体との溶着痕1箇所あり。口唇部・胴部外面に不定方向の細かい擦痕顕著。		ほぼ完形
86-3	陶器 徳利 瀬戸・美濃	口径 3.5 底径 7.9 器高 20.7	口縁部は折返し。胎土は灰白色。口縁部から胴部外面灰釉（灰白色）。全面白濁している。底部外面周囲釉ふきとり。胴部外面に釘書き「◎」。		完形
86-4	陶器 徳利 瀬戸・美濃	口径 3.4 底径 6.4 器高 20.4	口縁部は折返し。胎土は灰白色で、粗い。外面灰釉（灰白色）。底部外面周囲無釉。底部外面に墨書「本」。口唇部磨減している。		完形
86-5	陶器 徳利 瀬戸・美濃	口径 3.3 底径 6.5 器高 20.1	口縁部は折返し。胎土は浅黄橙色で、白色粗砂を多く含む。口縁部から胴部外面・中位灰釉（浅黄橙色）。胴部外面下位から底部外面無釉。胴部外面「◇□」釘書き。底部外面に墨書「◇」。口唇部磨減。		完形

写真番号	種別 器生産地	法	量 (cm)	特	徴	残存部位
86-6	陶器 徳利 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	3.0 7.1 20.5		口縁部は折返し。胎土は淡黄色で、粗い。粗砂・礫（3mm大）を多く含む。口縁部から胴部外面灰釉（淡黄色）。底部外面周囲は釉ふきとり。胴部外面釘書きあり。胴部外面上位に焼成時の他の個体との溶着痕1箇所あり。口唇部磨滅して、地肌みえる。	ほぼ完形
86-7	陶器 徳利 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	3.0 7.2 19.7		口縁部は折返し。胎土は灰白色。白色粗砂を多く含む。口縁部から胴部外面灰釉（灰白色）。底部外面周囲無釉。胴部外面に鉄釉書き「  」近啓 浅草 三間町。胴部外面に焼成時の他の個体との溶着痕2箇所あり。	完形
86-8	陶器 燗徳利 信楽	口径 底径 器高	6.3 6.2 15.4		胎土は淡黄色で、緻密。胴部外面格子文（黒色の鉄・緑釉）。口縁部内面から胴部外面灰釉（淡黄色）。底部外面無釉。	完形
86-9	陶器 変形徳利 志戸呂？	口径 底径 器高	2.0 5.7 15.4		胴部3箇所窪む。胎土は灰色。緻密で均質。口縁部から胴部外面錆釉（褐色）。底部外面に刻印「  」。	完形
86-10	陶器 変形徳利 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	4.4 8.3 19.5		胎土は灰色で、粗い。黒色粗砂を多く含む。胴部外面上半横位の条線文。胴部を3箇所窪ませてその中に大黒天像を貼付。外面全面錆釉（暗褐色）。上半部には自然釉が斑状にかかる。他に同一器形のもの4個体あり。	完形
86-11	陶器 瓶 不明	口径 底径 器高	2.2 8.9 30.0		底部回転糸切り痕。胎土は灰色で、緻密。全面錆釉系（明褐色で光沢あり）。	完形
86-12	陶器 壺 不明	口径 底径 器高	3.0 4.6 19.0		胎土は灰色。胴部外面上半透明釉（オリーブ黒色）。胴部外面下半から底部外面暗褐色（施釉してあるのか否かは不明）。胴部外面焼成時の他個体との溶着痕あり。底部外面輪状の窯道具痕あり。他に同一器形のもの1個体あり。	完形
86-13	陶器 壺 不明	口径 底径 器高	(3.0) 7.4 9.1		胎土は灰白色。口縁部内面・底部外面柿釉（褐色）。口縁部から胴部外面鉄釉（黒色）。外面細かい不定方向の擦痕顕著。	口縁部1/2 欠
86-14	陶器 壺 不明	口径 底径 器高	2.2 4.3 4.6		胎土は断面灰色、外面にぶい黄褐色。粘土質で重たい。	完形
86-15	陶器 変形壺 瀬戸・美濃	口径 底径 器高	(2.0) 3.8 9.0		胴部2箇所窪む。胎土は灰色。外面柿釉（褐色）。	ほぼ完形
86-16	陶器 灯明皿 信楽	口径 底径 器高	7.2 2.6 1.5		胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面灰釉（淡黄色）。全面に貫入する。	完形
86-17	陶器 灯明皿 信楽	口径 底径 器高	11.6 4.1 2.2		胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面から体部外面上半灰釉（灰白色）。体部外面下半から底部外面無釉。	完形
86-18	土器 ひょうそく 在	口径 底径 器高	(2.6) (2.3) 1.5		土師質。底部回転糸切り痕。胎土は橙色。灯芯立て部の口唇部媒付着。	体部1/2欠
86-19	陶器	口径	6.8		胎土は灰白色、緻密で堅緻。受皿部内外面・脚台部外面灰釉	完形










写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
86-20	有脚受伏明皿	底径 4.0	(灰白色)。受部口唇部・脚台部内面・底部外面無釉。受部は低く、切り込みは逆アーチ状。	胎土は灰白色。内面から体部外面上半灰釉(灰白色)。全面に貫入する。体部外面下半から底部外面無釉。受部の切り込みは「U」の字状。	体部一部欠
	信楽器	器高 4.5			
	受付き灯明皿	口径 11.3			
86-21	瀬戸・美濃	底径 4.1	胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面灰釉(浅黄色)。全面に貫入する。受部口唇部・外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。	胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面灰釉(浅黄色)。全面に貫入する。受部口唇部・外面無釉。受部の切り込みは逆アーチ状。	完形
	陶器	器高 2.0			
	受付き灯明皿	口径 10.0			
86-22	信楽器	底径 3.8	朝日焼? 口があったと思われる。退化した把手2箇所あり。胎土は灰白色、緻密で堅緻。均質。内面・体部外面上・中位灰釉(灰白色)。口縁部内面・体部外面下位から底部外面無釉。底部際外面に刻印「朝日」。	口縁部1/4欠	
	陶器	器高 1.6			
	鍋	口径 7.9			
86-23	京都器	底径 3.6	碁笥底。把手のついていた痕あり。胎土は灰褐色。白色粗砂を大量に含む(ザラザラしている)。体部外面鉄(黒褐色)で走馬文。内面長石釉(貫入する)の後、外面灰釉(灰白色)。	体部1/2欠	
	陶器	器高 3.6			
	変形鉢	口径 (9.6)			
86-24	相馬大堀	底径 4.0	胎土は灰色、緻密で堅緻。粘土質で重い。口縁部から胴部外面自然釉がかかる(口唇部・胴部の一部は剝落)。	完形	
	陶器	器高 4.0			
	壺	口径 4.0			
86-25	不明器	底径 3.8	胎土は外面に赤褐色、緻密で堅緻。粗砂を多く含む。内面灰釉(透明感のない黄褐色)。他に同一器形のもの4個体あり。	完形	
	陶器	器高 3.3			
	壺	口径 10.5			
87-1	不明器	底径 7.8	胎土は灰白色で、粗い。粗砂を含む。胴部外面柿釉(褐色)の上に、鉄釉(黒色)流しがけ。底部外面無釉。他に同一器形3個体あり。	完形	
	陶器	器高 7.4			
	漉瓶	口径 5.8			
87-2	瀬戸・美濃	底径 14.4	土師質。底部左回転糸切り痕。底部焼成前穿孔。胎土は橙色。完形	完形	
	土器	器高(15.5)			
	植木鉢	口径 11.2			
87-3	在地位	底径 6.0	底部焼成前穿孔。高台部に2箇所透しあり。胎土は橙色・灰褐色、緻密で堅緻。均質。全面赤色釉? 体部外面下位横位の擦痕顕著。	体部2/3欠	
	陶器	器高 6.2			
	植木鉢	口径(17.2)			
87-4	不明器	底径 9.8	土師質。底部焼成前穿孔。底部回転糸切り痕。足は3個で貼付。胎土は橙色で、粗い。釉は外面白化粧(体部は貫入する)。底部外面に墨書「八上」。	体部上半欠	
	土器	器高 15.2			
	植木鉢	底径 2.8			
87-5	在地位	器高 <3.7>	土師質。底部焼成前穿孔。足は3個で貼付。胎土は橙色で、粗い。内面・底部外面極暗褐色釉を刷毛塗りの後、黒色釉を厚くかける(全面に貫入する)。	体部上半1/2欠	
	土器	口径 (9.0)			
	植木鉢	底径 5.0			
87-6	在地位	器高 5.8	瓦質。底部焼成前穿孔。底部回転糸切りでの切離しを失敗したのが、その後静止糸切りで切離している。胎土は灰色で、粗い。	完形	
	土器	口径 9.9			
	植木鉢	底径 5.8			
87-7	在地位	器高 5.7	土師質。底部外面ロクロケズリ。胎土は灰色で、粗い。全面赤色絵具塗付の後、内面から体部外面透明釉(底部外面は無釉)。口唇部内側磨減が顕著で、地肌が見える。口縁部外面不定方向の擦痕顕著で地肌が見える。	体部一部欠	
	土器	口径 13.6			
	鉢	底径 13.0			
87-8	在地位	器高 4.6	瓦質。底部はケズリの後、足を3個貼付。胎土は灰白色で、体部外面は黒色。体部外面回転押圧文(蓆目)の後、横位の	ほぼ完形	
	土器	口径 13.8			
	火鉢	底径 13.7			

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
	在 地	器高 9.4		ミガキ。底部外面に刻印「大平」。口唇部内側磨滅。他に同一器形のもの2個体あり(ただし刻印はなし)。	
87-9	土 器 五 徳	底径 14.6		瓦質。台部は型打で、腕を貼付(腕部も型打?)。腕は3本で、断面は三角形。台部の断面は台形。他に同一器形のもの2個体あり。	腕部2本上 半欠
87-10	在 地 土 器 五 徳 京 都	器高 9.1 底径(13.2) 器高<4.6>		手づくね成形。腕は3本(2本残存)で断面は丸。台部の断面も丸。腕は3本(2本残存)。土は白色で、粗い。腕部外側に刻印「ふかくさ清和堂」。他に同一器形のもの1個体あり(同一刻印)。	台部1/2と腕 部下半(2本)
87-11	土 器 焼 壺 関 西	蓋 口径高 5.2 器高 0.5 身 口径高 5.6 器高 3.2 器高 5.5 (6.0)		蓋は型打成形で、片面指頭痕、片面未調整。身はロクロ水挽き成形。底部回転糸切り痕。蓋は橙色で粉質。白色針状物質を含む。身は橙色で、粉質。他に蓋同一器形のもの75個体。身同一器形のもの83個体あり。	蓋・身とも 完形
87-12	土 器 焼 壺 関 西	蓋 口径高 5.9 器高 0.7 身 口径高 6.4 器高 4.0 器高 6.1 (6.7)		蓋は型打成形、片面指頭痕、片面布目痕。身はロクロ水挽き成形。底部回転糸切り痕。胎土はにぶい橙色。他に蓋同一器形のもの12個体、身同一器形のもの12個体あり。	蓋 ほぼ完 形 身 完形
87-13	土 器 五 徳 京 都	底径(14.4) 器高(9.6)		手づくね成形。腕は3本(2本残存)で断面は丸。台部の断面も丸。胎土は白色で粗い。腕部外側に刻印「ふか草松?」。	台部2/3と 腕部2本
87-14	舶載磁器 蓋 物 不 明	口径 7.4 底径 8.8 器高 4.6		白磁。胎土は白色で、粉質。白釉? 全面に貫入する。畳付釉ふきとり。底部外面に刻印「NAW 4」。	ほぼ完形
87-15	舶載陶器 筒形容器 イギリス	底径(25.2) 器高<15.4>		胎土は灰白色、緻密で堅緻、均質。内外面透明釉。底部外面釉ふきとり。体部外面刻印あり(写真参照)。	体部1/4残
87-16	舶載陶器 瓶 不 明	底径 7.3 器高<19.8>		胎土は灰白色、緻密で堅緻、均質。外面透明釉。底部外面釉ふきとり。胴部外面に刻印「N・KENNEDY BARROW-FIELD 14. POTTERY」	口縁部欠

第38表 2号遺構出土陶磁器類観察表

() 推定値 < > 残存値 { } 蓋をした状態の器高

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
88-1	磁 器 飯 碗 瀬戸・美濃	口径 11.6 底径 4.0 器高 4.4		染付。体部外面下半に縦位の鑄が入る。胎土はガラス質。人工具須で口青。口縁部内面1重圏線。体部外面草花文。高台内1重圏線内に銘「角福」。	体部1/6欠
88-2	磁 器 飯 碗 瀬戸・美濃	口径 9.8 底径 3.6 器高 4.8		染付。胎土はガラス質。人工具須で見込1重圏線内に崩れた文様。口縁部内面2重圏線。体部外面草花文。釉際には炎色(橙色)出る。	体部一部欠
88-3	磁 器 飯 碗 瀬戸・美濃	口径(10.0) 底径 3.4 器高(5.0)		染付。胎土はガラス質。人工具須で松竹梅文(型紙摺)。口縁部内面瓔珞文。体部外面列点に花卉文(3単位)。見込擦れている部分顕著。	体部1/3欠
88-4	磁 器 小 皿 瀬戸・美濃	口径(14.6) 底径 7.2 器高 3.6		染付。口鏽。体部輪花状に型打。蛇ノ目凹形高台。胎土はガラス質。具須(紺色)で、見込型打(陽刻)菊花に波濤文の上にダミを施す。体部内面松文。見込不定方向の細かい擦痕あり。	体部1/2欠

写真番号	種別 器種 生産地	法 量 (cm)	特	徴	残存部位
88-5	磁器 鉢 肥前	口径 12.6 底径 11.8 器高 3.9	染付。高台部あり。胎土は粉質。人工具須で口青。内面から 体部外面花卉文。高台内無釉。口唇部・見込擦痕あり。		体部1/4欠
88-6	磁器 小杯 瀬戸・美濃	口径 6.2 底径 3.3 器高 4.2	染付。胎土はガラス質。具須（水色）で口縁部内面松 葉状の連続文。体部外面漢詩。高台内に銘あり（右 記）。		完形
88-7	磁器 茶碗 瀬戸・美濃	口径 5.1 底径 3.4 器高 5.5	染付。体部外面下半鐏が入る。胎土はガラス質。人工 具須で口青。体部外面一重網目に魚文。高台内1重圏 線内に銘あり（右記）。		体部一部欠
88-8	磁器 茶碗 瀬戸・美濃	口径 (5.4) 底径 3.8 器高 6.0	染付。体部外面下半鐏が入り、器厚が厚い。胎土はガ ラス質。人工具須で口青。体部外面草花文。高台内1 重圏線内に銘（右記）。		完形
88-9	磁器 茶碗 瀬戸・美濃	口径 7.3 底径 4.7 器高 7.4	染付。胎土はガラス質。人工具須で口青。口縁部内面 1重圏線。体部外面草花文。高台内1重圏線内に銘あ り（右記）。焼継ぎ（高台内に赤で「大」と「〇」とあ る）。		完形
88-10	磁器 茶碗 瀬戸・美濃	口径 7.3 底径 4.0 器高 6.6	胎土はガラス質。人工具須で体部内外面菊文（葉の部分ダミ 書きの後に線彫）と漢詩。高台際蓮華文。高台内無釉（放射 状のカンナケズリ痕が残る）。見込不定方向の擦痕あり。		完形
88-11	磁器 仏花器 瀬戸・美濃	口径 (1.4) 底径 (3.0) 器高 (4.9)	底部は挟り込み。胎土はガラス質。人工具須で口縁部から胴 部外面瑠璃釉。釉際には炎色（橙色）出る。畳付粗砂付着。		口縁部欠
88-12	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 8.8 器高 2.1	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工具須で体部外面花卉 文（3単位。高台内にも文様の続きが描かれる）。内面霧状に 白濁。		完形
88-13	磁器 蓋 肥前	口径 9.4 器高 2.5	染付。飯碗の蓋。胎土は粉質。人工具須で口縁部内面 幾何学連続文。体部外面松竹梅文。高台内1重圏線内 に銘あり。（右記）		ほぼ完形
88-14	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 8.6 器高 2.2	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工具須で口青。 体部外面人物文に漢詩。高台内1重圏線内に銘あり（右 記）。		ほぼ完形
88-15	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 9.6 器高 2.2	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工具須で口青。 口縁部内外面瓔珞文。体部外面草花文。高台内1重圏 線内に銘あり（右記）。		体部1/3欠
88-16	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 10.5 器高 2.5	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工具須で口青。 体部内面花蝶文。体部外面草花文。高台内1重圏線内 に銘あり（右記）。畳付粗砂付着。		ほぼ完形
88-17	磁器 蓋 肥前	口径 10.1 器高 2.8	染付。飯碗の蓋。胎土は粉質に近いガラス質。人工具須で口 縁部内面雷文。体部外面唐草文（3単位）。見込擦れている部 分あり。		体部1/4欠
88-18	磁器 蓋 瀬戸・美濃	口径 7.7 器高 2.2	染付。飯碗の蓋。胎土はガラス質。人工具須で口青。 体部内面笹文（1箇所）。体部外面月夜に笹文。高台内 1重圏線内に銘あり（右記）。		完形
89-1	磁器 急須	口径 6.3 底径 6.7	染付。体部4箇所に窪みあり。平面形はやや角ばる。底部外 面工具による渦巻。胎土は粉質。人工具須で体部外面ブドウ		体部一部欠

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
	瀬戸・美濃	器高 7.3	文 (葉の部分はダミ書きの後線彫)。口縁部内面・底部外面無釉。		
89-2	磁器 急須	口径 7.1 底径 7.6	染付。体部外面横位の沈線型打の後、型打を削る工具による縦位の沈線。底部外面工具による渦巻文。胎土はガラス質。		把手と底部 1/2欠
89-3	瀬戸・美濃 磁器 土瓶	器高 8.1 口径 7.1 底径 (6.6)	人工具須で体部外面山水文。口縁部内面・底部外面無釉。胎土はガラス質。人工具須で体部外面上半縦縞文。口縁部内面・底部外面周囲無釉。		完形
89-4	瀬戸・美濃 陶器 急須 万古系	器高 7.5 口径 1.9 口径 8.2 口径 6.0 口径 4.3 (5.5)	手づくね成形。胎土は灰白色。緻密で均質な粘土。蓋・身とも梅樹文 (型打陽刻)。自然釉 (褐色)? が部分的にかかる。つまみは回るようになっている。底部外面布目痕。		蓋 把手欠 身 完形
89-5	瀬戸・美濃 陶器 水注 ?	口径 4.3 底径 3.8 器高 3.4	注口・把手貼付。胎土は明褐色。緻密で均質。内面透明釉。外面灰釉 (明褐色)。全面に細かい貫入入る。白濁し剝離している部分もあり。底部外面周囲・口縁部内面無釉。釉際には炎色 (橙色) 出る。底部は挟り込み。あるいは油壺?		完形
89-6	瀬戸・美濃 陶器 小皿	口径 13.8 底径 6.7 器高 3.6	胎土は灰白色で、粗いが均質。見込五弁花崩れ? 体部内面松文。体部外面も文様あり (すべて具須で絵付)。量付を除く全面灰釉 (灰白色)。		体部1/2欠
89-7	瀬戸・美濃 陶器 蓋	口径 13.2	体部外面に3条の沈線が巡る。胎土は灰白色、緻密で堅緻。全面灰釉 (灰白色)。釉際には炎色 (橙色) 出る。口縁部・量付無釉。高台内焼成時のひび割れあり。		体部一部欠
89-8	瀬戸・美濃 陶器 土鍋 信楽	口径 (13.8) 底径 (4.6) 器高 5.0	底部近くの外面に突起3箇所貼付。胎土は灰白色、緻密で堅緻。内面・体部外面上位灰釉 (灰白色)。口唇部・体部外面中・下位から底部外面無釉。		体部1/4欠
89-9	瀬戸・美濃 陶器 蓋 不 明	口径 15.3 器高 4.2	土鍋の蓋。口唇部は幅広く (1.5cm)、内側に突出するかえりがある。高台部に3箇所切り込みあり。胎土は浅黄褐色で、堅緻。白色粗砂を大量に含む。体部外面白泥を円形に刷毛塗り?の後、鉄 (暗褐色) で松葉文と人工具須で松ぼっくり文 (3単位)。体部内面灰釉 (にぶい橙色)。口唇部無釉。釉際には炎色 (橙色) 出る。		完形
89-10	瀬戸・美濃 陶器 蓋	口径 15.3 器高 2.5	土鍋の蓋。胎土は灰白色で粗い。外面円形文・菱形文 (暗褐色)の鉄の上に灰白色の灰釉刷毛塗りの後、緑釉斑。内面灰釉 (灰白色) 回るように刷毛塗り (見込無釉)。写真102-16と組。		体部一部欠
89-11	瀬戸・美濃 陶器 蓋 不 明	口径 15.6 器高 3.1	土鍋の蓋。口唇部の幅広く (1.3cm)、内側に突出するかえりがある。胎土はにぶい赤褐色で堅緻。粗砂を多く、白色針状物質を含む。外面工具による放射状の条線文。口唇部を除く内面灰釉 (暗オリーブ色)。口唇部に輪状の窯道具痕あり。		完形
89-12	瀬戸・美濃 陶器 蓋 不 明	口径 12.8 器高 2.7	土鍋の蓋。口唇部の幅広く (1.3cm)、内側に突出するかえりがある。胎土はにぶい赤褐色で堅緻。粗砂を多く、白色針状物質を含む。体部外面梅花文 (白泥で簡書き)。体部内外面灰釉 (暗オリーブ褐色)。口唇部無釉。		完形
89-13	瀬戸・美濃 陶器 花瓶 不 明	口径 2.9 底径 6.0 器高 18.8	四角く型打。本来の胎土みえず。外面全面白化粧の後、透明釉。底部外面は白化粧のまま。底部外面に墨書「和」。		完形
89-14	瀬戸・美濃 土器	口径 9.4	土師質。樽を形どる (口縁部・体部上半竹のタガ状の突起)。		完形

写真番号	種別 器種 生産地	法量 (cm)	特	徴	残存部位
	鉢 不 明	底径 7.8 器高 6.9	上げ底。胎土は橙色で、粉質。全面白化粧の上に、タガ状突起はうす緑色。体部外面と山水文（帆かけ舟は赤色。松は黒色。山は黄褐色）・橋の欄干（黒色で輪郭。黄褐色で充填）。絵具の材質は不明（全面に貫入）。高台内墨書あり（写真参照）。体部外面の文様内に「日本」「木や」とある		
89-15	陶 器 片 口 益 子	口径(19.7) 底径 9.6 器高 10.5	注口部貼付。胎土は灰白色（無釉部はにぶい橙色）、緻密で堅緻、均質。全面灰釉（灰白色）。高台部周囲無釉。見込に5箇所目痕あり。		口縁部1/5欠
89-16	土 器 植 木 鉢 在 地	口径 4.1 底径 2.7 器高 2.9	土師質。底部左回転糸切り痕。底部焼成前穿孔。胎土は橙色。完形		
89-17	土 器 鉢 在 地	口径 6.2 底径 2.9 器高 3.5	土師質。底部左回転糸切り痕。胎土は橙色。全面白化粧と思われるが剥落部分が多い。植木鉢？		完形
89-18	土 器 七 厘 在 地	口径(18.6) 底径(13.6) 器高 15.4	瓦質。口唇部には内側に突出する突起（2箇所残存）あり。底部外面はケズリ。足（2個残存）は貼付。器面は外面黒色。内面黒灰色。断面は黒灰色が灰白色をサンドイッチ状に挟む。体部外面中・下位回転押圧文（細かい網目）の後、口唇部から体部外面横位のミガキ。		1/2

第2節 瓦類

瓦は、遺構の時期区分を5期にまとめて取り扱う。瓦1期は遺構のI期，瓦2期は遺構のII～IV期，瓦3期は遺構のV～VII期，瓦4期は遺構のVIII期，瓦5期は遺構のIX期にあたる。ここでは各時期について第3分冊での分類にしがたってみていく。瓦が集中して検出された遺構については簡単にみていく。

瓦1期（第228図～第287図）

分類した瓦の種類のうち7割以上がこの時期に集中している。本瓦葺きの瓦のみで構成される。寸法の規格は本地点で検出されているすべての種類にわたっている。

軒瓦では、軒丸瓦は無剣梅鉢紋が主で、補助的に連珠三つ巴文が使用されている。無剣梅鉢紋では花卉・中心ともに台形，なだらかな台形，ドーム状の3種類すべてが確認できるが、台形が中心である。軒平瓦は「江戸式」の文様をもつ資料はI Aa類の数范型と小型の范型にみられるだけで（第241図12～16），瓦当文様はきわめて多様である。軒平瓦では「江戸式」以外の瓦当文様をもつ資料は，ほぼこの時期と考えられる。中心飾りに無剣梅鉢紋を配するのもこの時期だけである。また1・2類（第280図10～13）のような三角垂面形の瓦当などの特殊な事例もこの時期に限られる。

丸瓦は1～5・9・12類が検出されている。1（第242図1）・2（第243図1）の抜き取り紐痕はほとんどがこの時期の丸瓦に限られる。また，4類のような全体に刺し縫いが間隔をあけている丸瓦もこの時期に限られる（第247図1）。大きさはほとんどの種類がみられ、全長33.0cm以上の大型のものと全長26.0cm以下の小型のものはこの時期に集中している。また，12類（第283図～第285図）のような玉縁の付け根に溝を設けている特殊な丸瓦もこの時期に集中して検出された。

平瓦は1から3類のすべてがみられ，2・3類はこの時期に限られる。1類では，3種類の大きさが確認されているが，大型のもの（第248図1）と小型のもの（第248図2・3）はこの時期に集中して検出されている。平瓦2・3類は小型のものである。3類は特殊な形態をし，やはり特殊な形態をする丸瓦12類と組み合わせられて使用されている（第286・287図）。

道具瓦では，棟込みに使用される熨斗瓦，菊丸瓦，輪違瓦などが豊富であり，菊丸瓦（第263図3・4）・輪違瓦（第263図～第265図）は瓦1期に多用される。熨斗瓦の中でも1～6類のような厚手でレリーフによって文様を表現しているものもこの時期に限られる（第257図・第259図～第262図）。また15類のように凹面に櫛描きを施すのもこの時期の特徴として捉えられる（第249図～第257図）。棟込みの一種と考えられる三角状の瓦（第266図1～5）などもみられる。

棟瓦には全長50.0cm以上の丸瓦を使用し、1～3類までがこの時期から検出されている。面戸瓦は明瞭な資料が少なく平瓦3類、丸瓦12類にともなって下り棟に使用される小型のもののみが確認できた。他の道具瓦としては、屋根の谷筋に使用される谷丸瓦(第266図～第268図)、筋違瓦(第269図、第270図)などがみられる。

鬼瓦はほとんどが1期から検出されている。梅鉢紋を配しているものが数点、いくつか寸法の規格がある(第278図)。金箔の鯨も検出されている。(第289図1～3)。

屋根瓦以外の瓦製品には海鼠瓦と塙がみられる。海鼠瓦は1・2類のような各辺の中央に釘留め用のえぐりを設けているものが中心にみられる(第275図、第276図1・2)。塙は唐草の文様が刻まれている厚手のもの(第271図～第273図)と文様のない薄手のもの(第274図1)が検出されている。

刻印は記号のものが多く、銘のあるものは、平瓦3類の彦六のみである。

瓦1期から瓦が集中して検出された遺構は255・270・532・678・835号遺構などがあげられる。各遺構から特徴的に検出された瓦をみていく。255号遺構からは、中型の製品を中心に検出されている。軒丸・軒平瓦の検出量は多いが、瓦当部だけのものがほとんどである。270号遺構からは小型の製品が集中されて検出されている。特に丸瓦12類と平瓦3類がセットでとらえられる。また平瓦2類は全長25.0cm以下の丸瓦とセットであり、軒平瓦3類が瓦当になる。道具瓦は、棟込み瓦の三角形状瓦が集中してみられる。また、下り棟に使われる面戸瓦の小型のものこの遺構から顕著にみられ、いずれの道具瓦も平瓦3類とセットで捉えられる。532号遺構からは金箔瓦が集中して検出されている。軒丸瓦、軒平瓦、熨瓦、菊丸瓦、鬼瓦などがみられる。資料の残存状況は悪く破片のものが多。678号遺構は検出量、残存状態ともに瓦1期中もとても良好である。大型製品が顕著であり、中型の瓦も種類が多数みられる。大型の瓦のほとんどの種類、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦には丸に一か菊花の刻印が捺されている。道具瓦も豊富で輪違瓦、谷丸瓦のほとんどがこの遺構から検出されている。835号遺構からは熨斗瓦7類が集中して検出されている。熨斗瓦にともなって棟瓦の1～3類も伴出している。

瓦1期を全体を通してみると瓦の種類が豊富であり、特に大きさの規格に幅がある。瓦の種類豊富な建築様式に左右されていると考えられ、金箔瓦(第279図～第281図)の使用、棟込み瓦の種類のおおさは、江戸初期の建築を考える上で非常に重要だと考えられる。大きさの規格によっても瓦の特色がみられ、小型のものには特異な形態なものが採用され(第282図～第287図)、中形のものには金箔が貼られるものがみられ、大型のものは棟込みに特色をみだせる。3者3様の建物があったことがわかる。また、軒丸瓦以外にも無剣梅鉢紋が各所にみられ、瓦屋に特注で頼んだ製品であった点も注目できる。

瓦2期(第288図～第321図)

本瓦葺きの瓦で構成される。「江戸式」の軒平瓦 I Aaが中心に検出される（第293図14～16，第294図）。他の文様構成をもつ資料は，4種類（第293図10・11）が確実にこの時期のものと考えられる。ほかに検出されたものは破片資料が多く，瓦1期からの混入品と考えられる。軒丸瓦は無剣梅鉢紋（第288図，第289図1～4），剣梅鉢紋（第289図5～7，第290図1～3）の両者がみられるが剣梅鉢紋が主である。無剣梅鉢紋は花卉・中心の断面形が台形のものが含まれなくなる。連珠三つ巴文はこの時期がもっとも多い範型数になる（第290図～第292図）。大きさの規格は中形のもものが中心で若干小型のもものが混在する。

丸瓦は9類の中形の製品が主であり，横糸の刺し縫いが施される7・8類（第図1）はこの時期に限られる。平瓦は1類の中形のもの（第312図）が中心に検出されている。

道具瓦の検出は少なく，熨斗瓦と棟瓦がほとんどである。熨斗瓦は7・8類が主にみられる。棟瓦は4種類検出されている（第304図～第311図）。棟瓦は良好なものが多く1から4類まで検出されている。特殊なものとして，棟込み瓦の一種と考えられる長方形板状の瓦に無剣梅鉢紋がレリーフされている瓦などがみられる。（第321図3～5）

刻印は相対的に種類，数量とも少ない。江戸式 I Aa類の左右周縁に押される資料が多い。種類は記号が多く，銘は扇形にやの陽刻のみである。

2期の中で瓦が集中して検出された遺構は192b・323・409号遺構などがみられる。いずれの遺構も同じ様な傾向で中型の製品のみ検出されている。しかし，1049号遺構からは大型，中型の丸瓦と平瓦が良好な状態で検出されている。192b・323号遺構の資料は被熱により燈変色している。

2期は1期に比べて規格が統一され，道具瓦の種類も少なく建築様式の変化が指摘できる。また，軒平瓦に梅鉢紋の使用されるものはこの時期からはみられず，「江戸式」が検出されることから，江戸全体の中での位置づけが必要となる時期である。軒丸瓦では剣梅鉢紋がこの時期から検出され始める。遺構の変遷では，この時期に下屋敷から上屋敷に変わっていることで，正式な家紋である剣梅鉢紋を採用したと考えられる。

瓦3期（第322図～第341図）

棧瓦葺きの瓦で構成される。1・2期の本瓦葺きの瓦が混在している。軒丸瓦は剣梅鉢紋が中心に検出され（第322図），連珠三つ巴文は少ない（第323図2）。軒平瓦は1・2期のものが混在したと考えられる（第323図）。軒棧瓦は多種類の「江戸式」で構成され，それ以外のものも若干検出されている。「江戸式」の変遷ではこの時期2細分することが可能であり，「西御殿」（法学部3号館地点）から検出されたIIIKh（第329図3・4）の資料を後半の基準資料とする事ができる。分類の基準は唐草が肥大化し円盤状になる点である。IIIKhからは前半の資料と混在して検出され，さらに検出点数が少ないことから，検出されたものは修理による差し替えのもの

のである可能性が高い。そのため、当地点では明瞭にわけることができなかった。前半の中心となるものはI Bd (第324図, 第325図1・2) で2 範型確認され、全体で150点検出されている。

丸瓦は検出点数が少ないため良好な資料を提示できなかったが、丸瓦が9・10類の中型の製品がおおい。平瓦は1類の中型(第335図2・3)と小型(第335図1)がみられる。中型のものの方が中心がある。棧瓦は1・2類(第336図2・3)が検出されている。1類の中では棧部の切り込みの長さが長い資料(第336図1)とやや短くなった資料とが混在している。道具瓦は熨瓦と棟瓦がほとんどである。熨瓦は10～13類がみられる。棟瓦は5類と型造りの6・7類が検出されている。

刻印は銘が多くなり「太」などが数範型みられる。

特に集中して瓦が検出された遺構には、102・103・106・140号遺構がみられる。106号遺構は軒を中心に検出されている。102・103号遺構は瓦落ちと考えられるが軒瓦はほとんど検出されず、平瓦を中心として構成され、平瓦を並べて葺いた簡易な瓦葺きの屋根であった可能性を指摘できる。140号遺構は瓦敷きとして検出されたため古い瓦の混入が多い。

3期は、棧瓦葺きの開始を考える上で重要な時期であるが、遺構が複雑に絡んでいることと瓦が当初から既に葺かれていたのかどうか判断する材料に乏しいことなどの点が、本地点での棧瓦葺きの開始時期についてははっきりとした実年代を提示するにはいたらなかった。

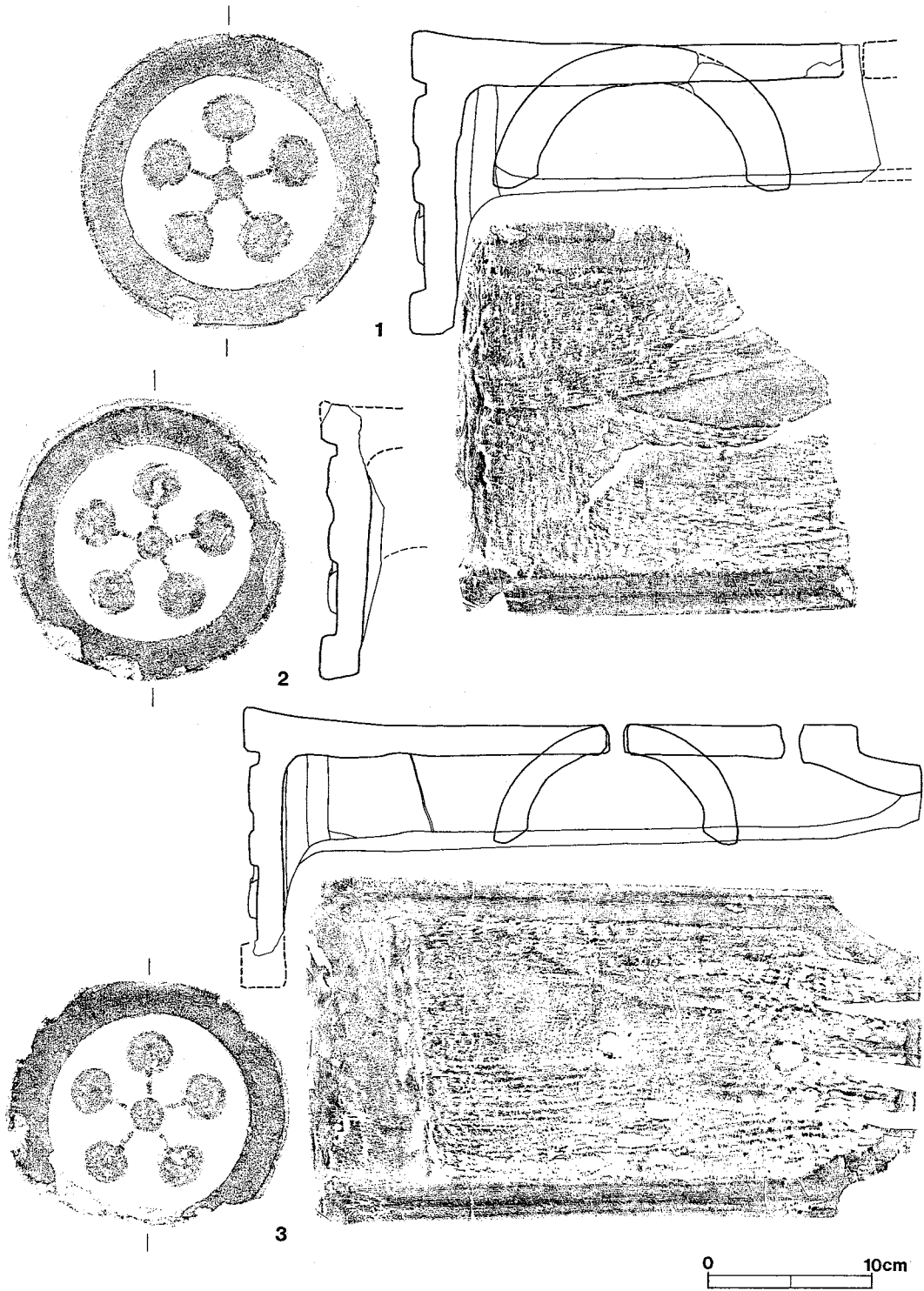
瓦4期 (第342図～第357図)

梅の御殿の時期である。存続が短期間であるためか瓦の種類は少ない。軒平瓦は「江戸式」が中心である。I Kh, I Ki (第342図, 第343図) がほとんどを占める。軒丸部では連珠三つ巴文が使用される。棧瓦葺きのため軒丸瓦は少なくなるが、剣梅鉢紋のみがみられる(第342図1～3)。

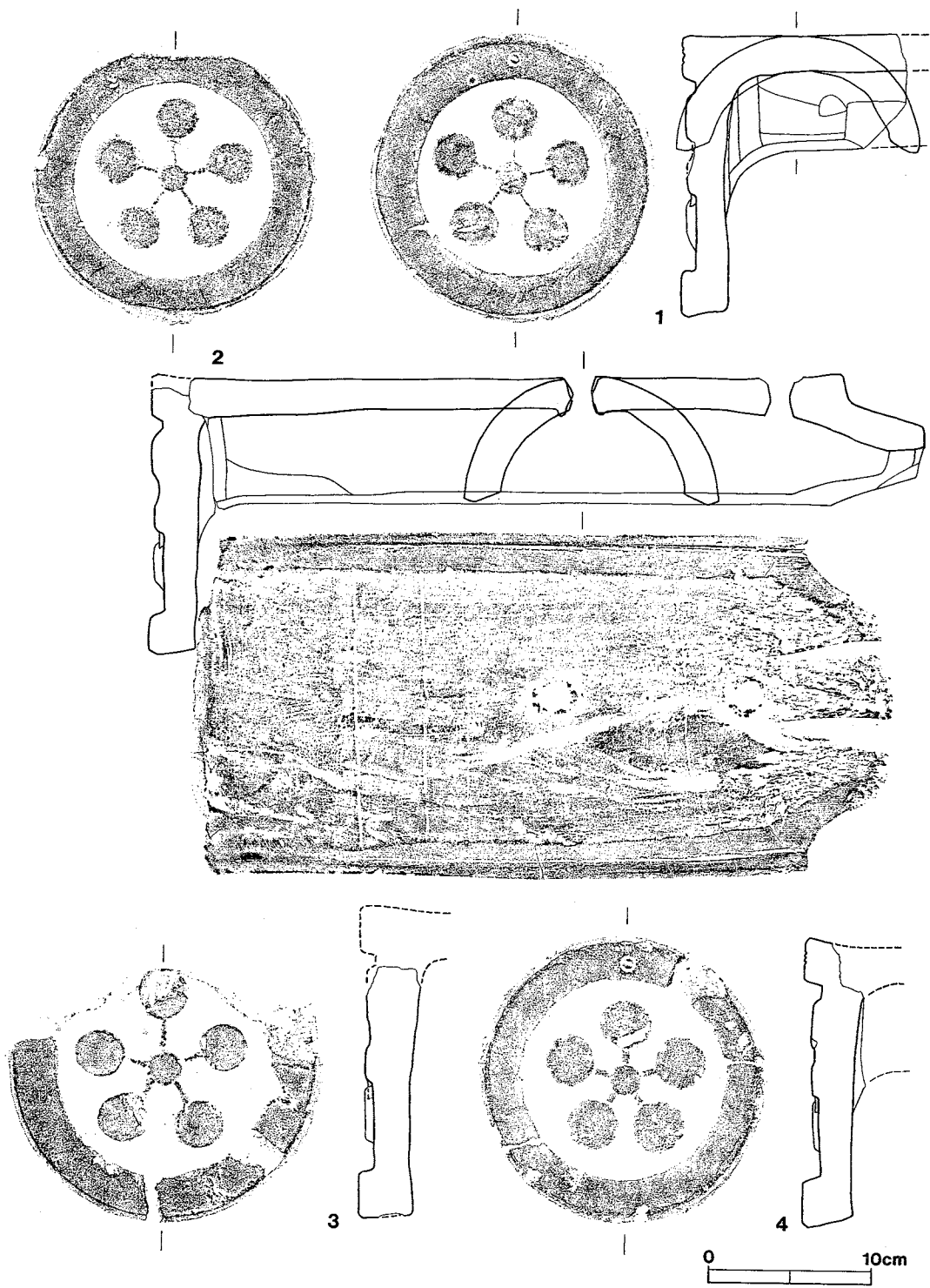
丸瓦は玉縁が短くなる11類に限られ(第347図1・2, 第348図1・2), 棧瓦は棧部の切り込み長が8.0cmのものに限られる(第339図1)。袖には破風瓦が使用されている(第355図2・3)ことから切妻造りの屋根であることがわかる。また、切平瓦検出されていることから寄せ棟造りの屋根があることが考えられる。このほかには熨斗瓦14類, 棟瓦5類が大棟を構成している。

瓦の検出量、遺存ともに良好で、1号遺構(軒先の雨落ち溝)から瓦落ちとして検出されている。52号遺構は瓦の廃棄土坑として掘られたもので熨斗瓦, 棟瓦の検出量が多かった。また、31号遺構は塀の遺構であり、葺かれていた棧瓦3類(第350図1・2)とII₃Fk(第346図)が瓦落ちとして検出されている。

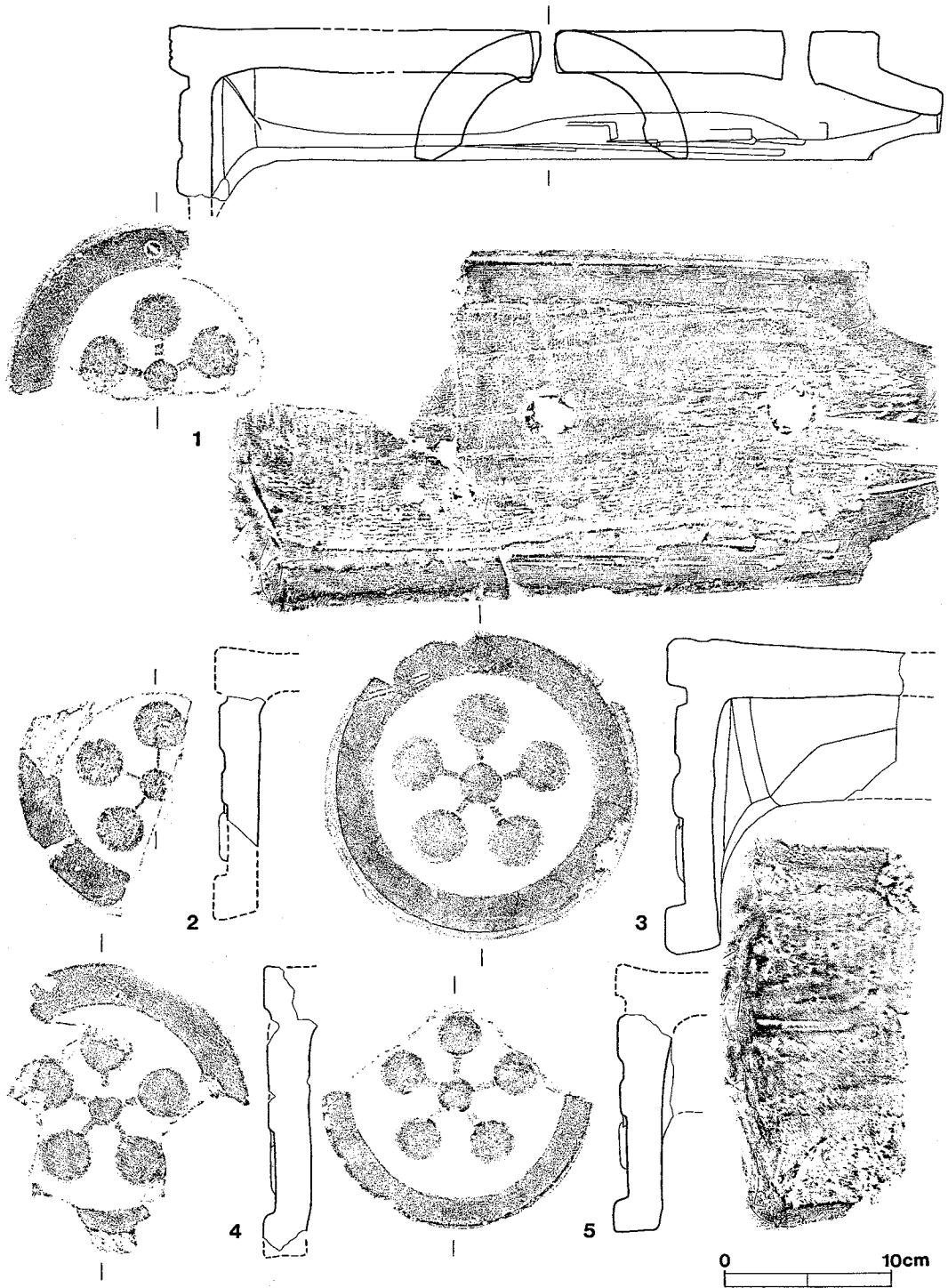
約四半世紀の短期間であったため葺き替えが行われず、建築年代から瓦の製造年代を誤差なく推測できる資料である。また屋根の外観を復元できる資料と考えられる。



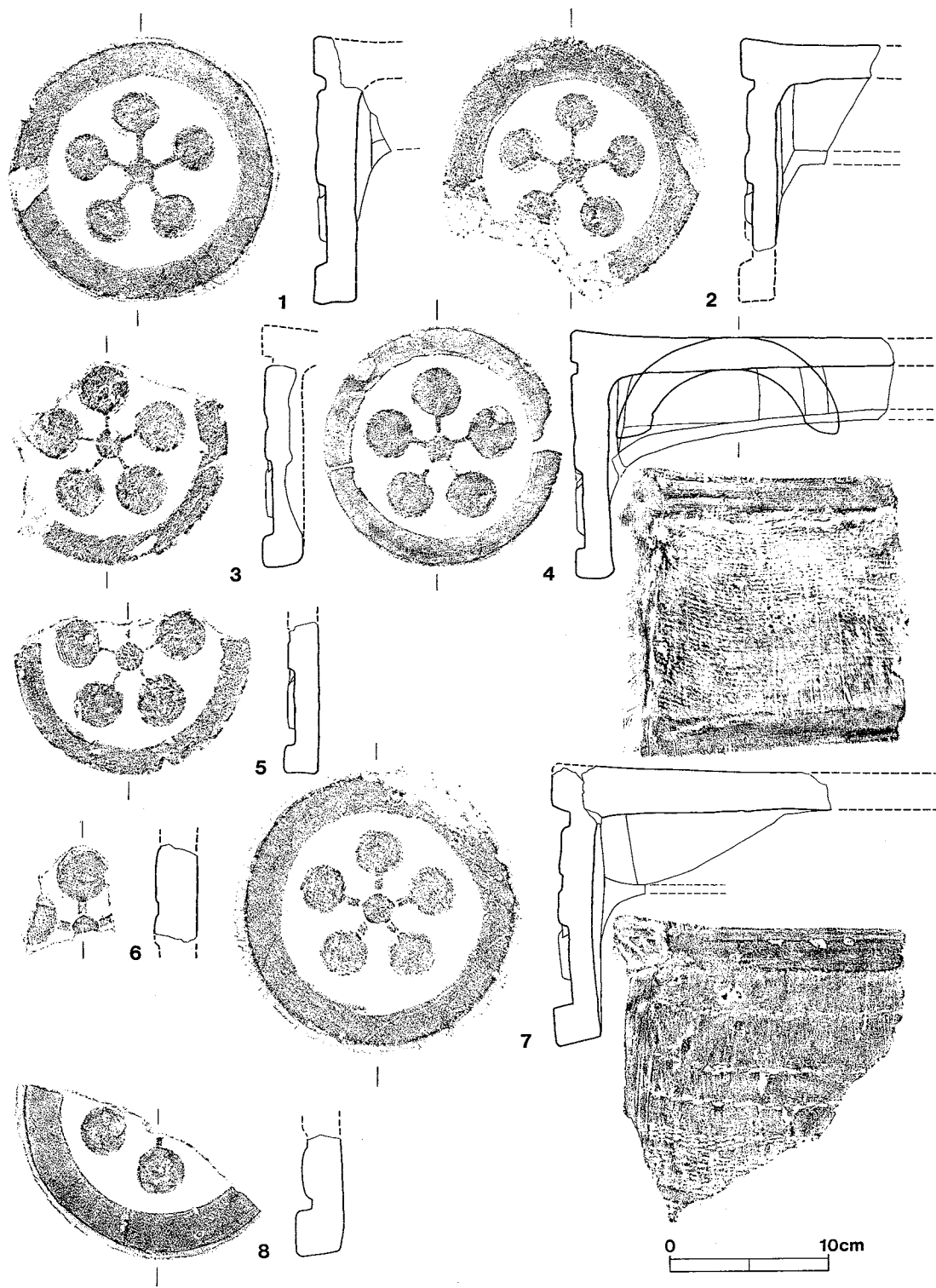
第228図 瓦1期軒丸瓦(1)



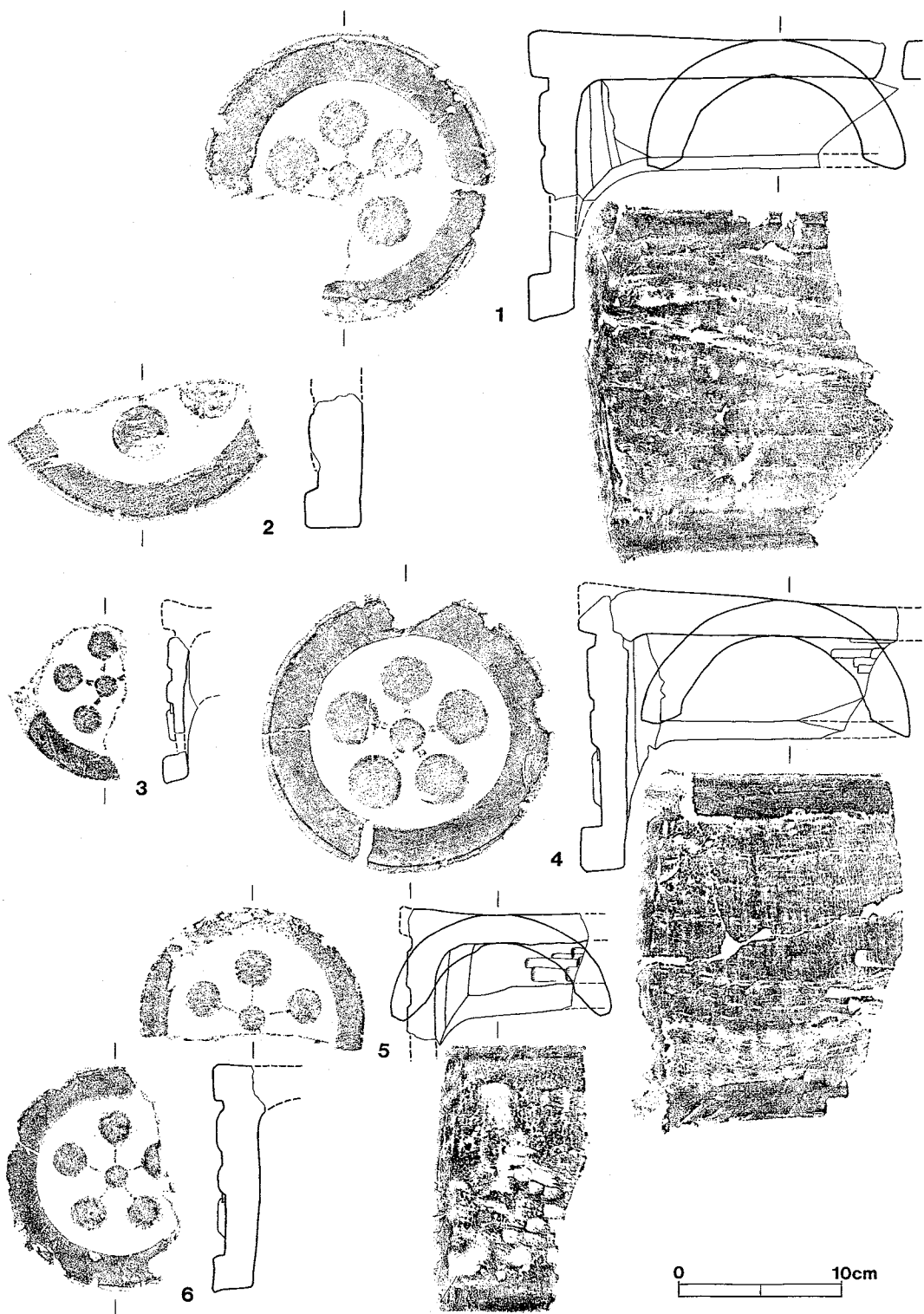
第229図 瓦1期軒丸瓦(2)



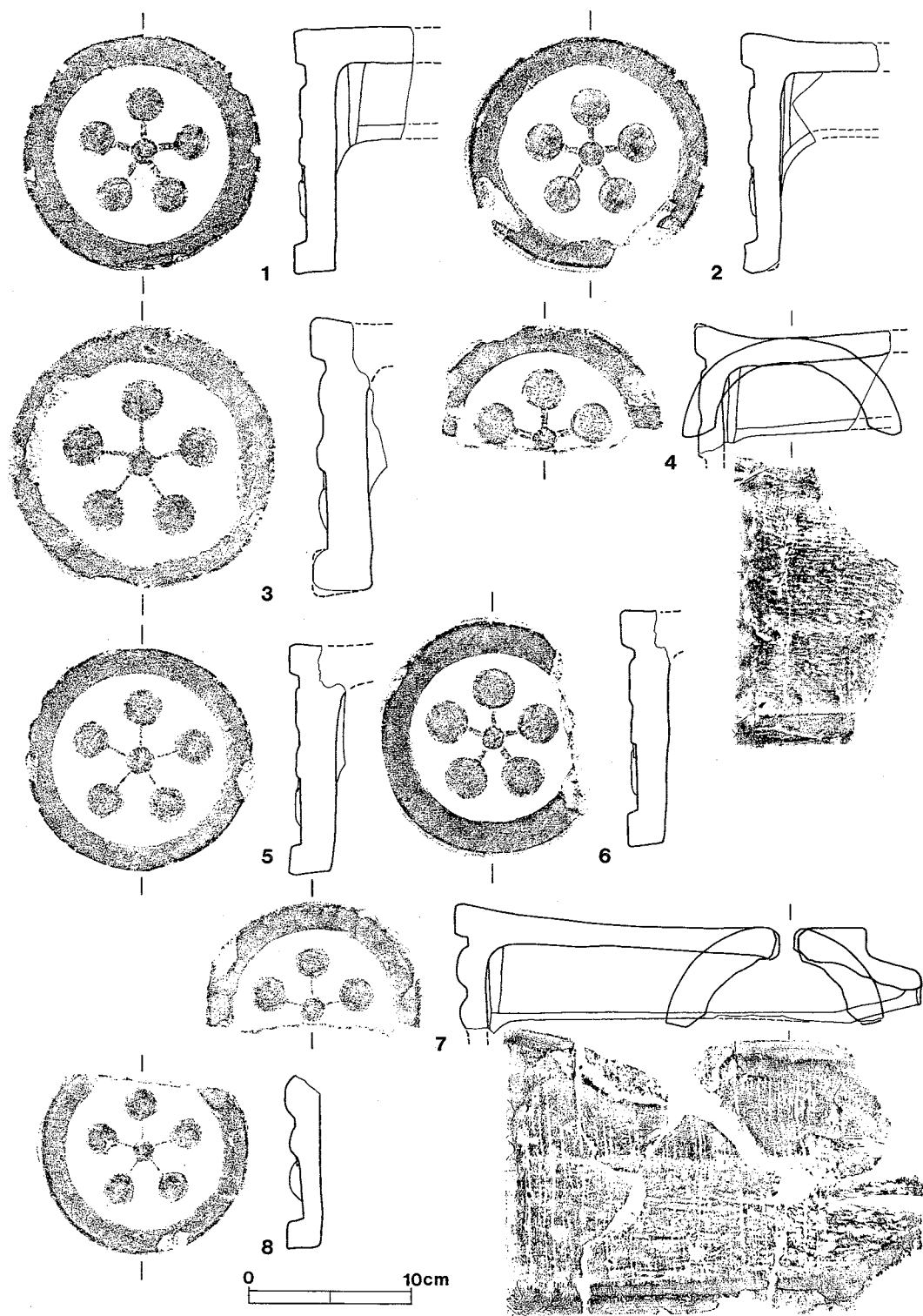
第230图 瓦1期軒丸瓦(3)



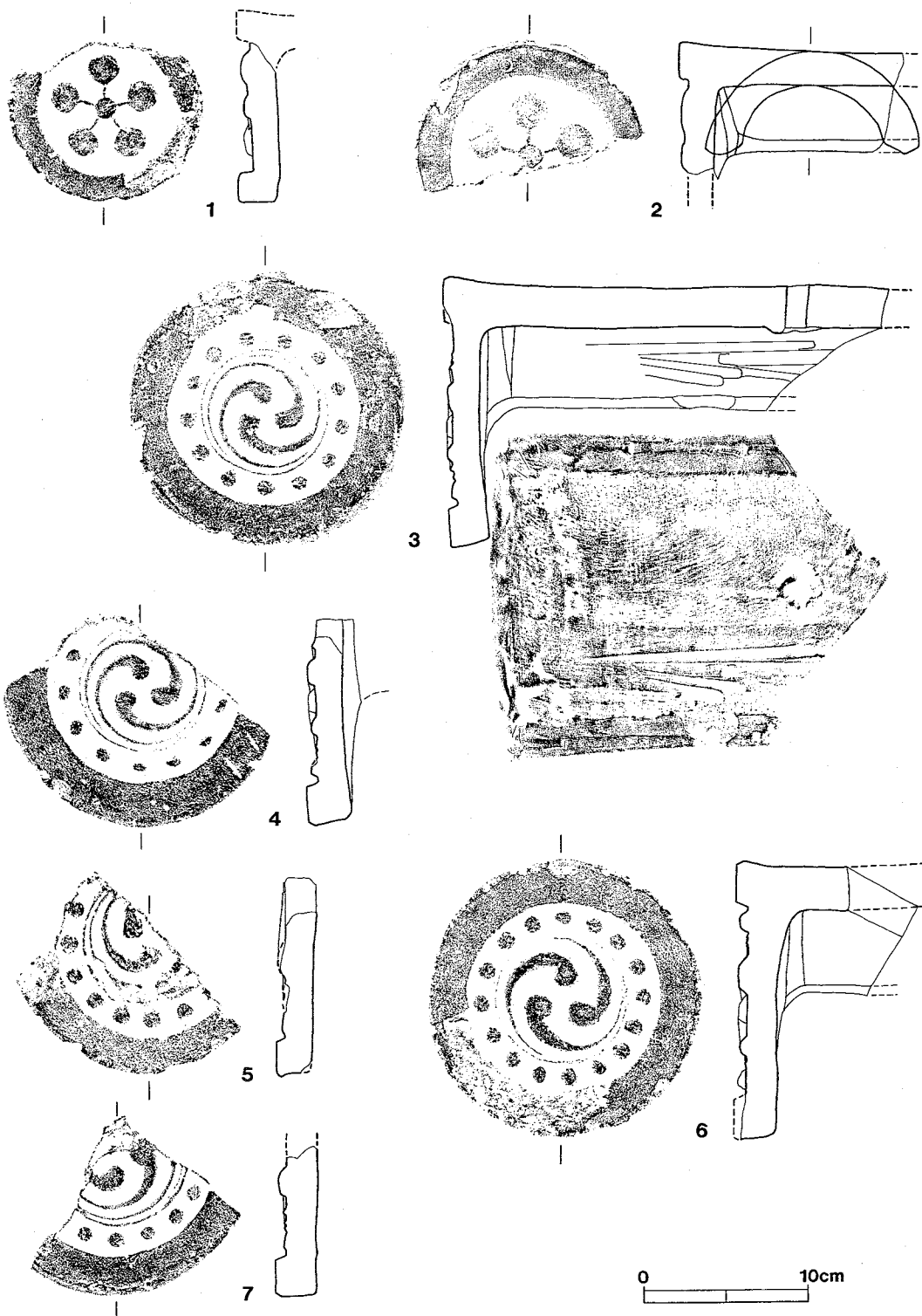
第231图 瓦1期軒丸瓦(4)



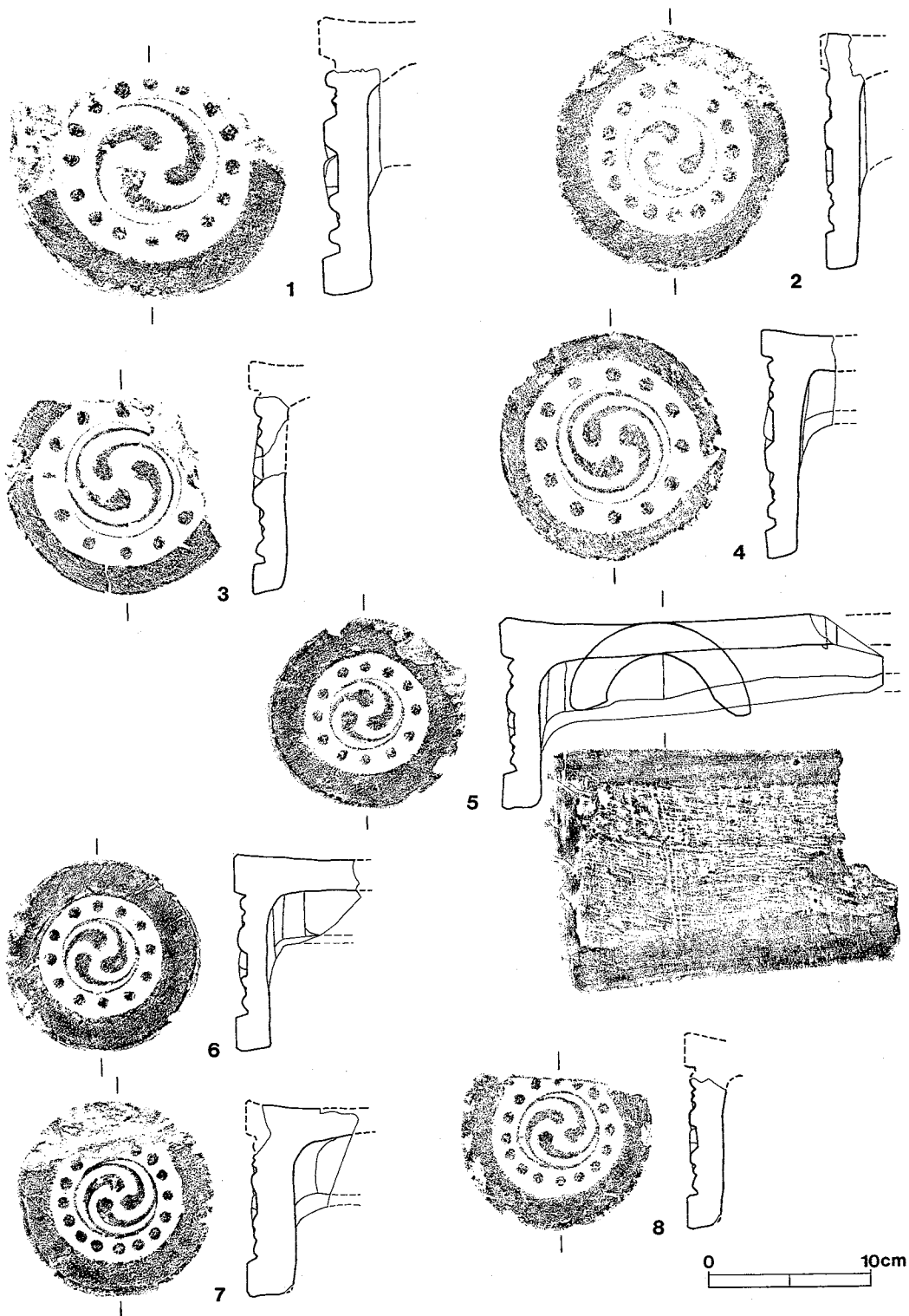
第232図 瓦1期軒丸瓦(5)



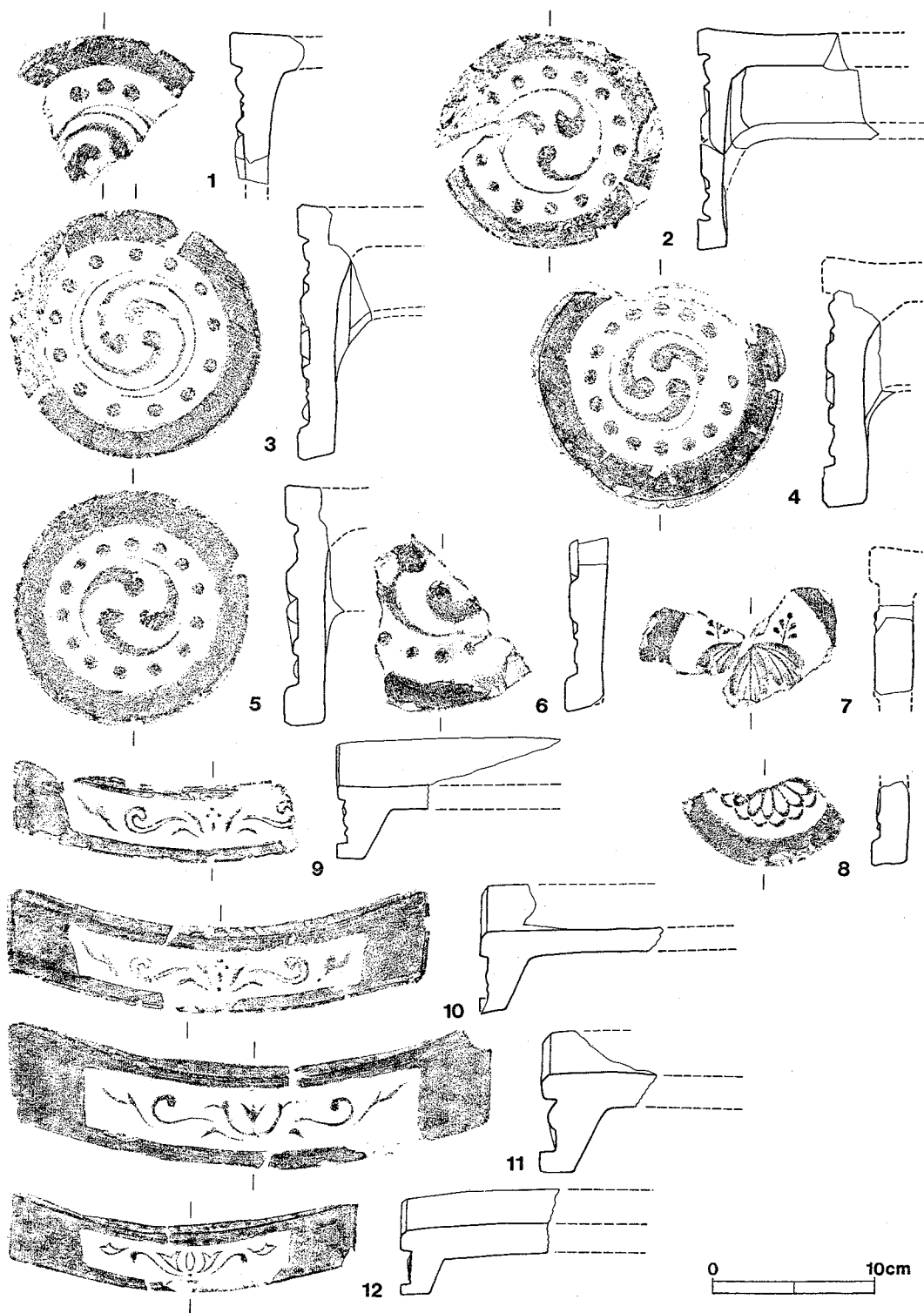
第233图 瓦1期軒瓦(6)



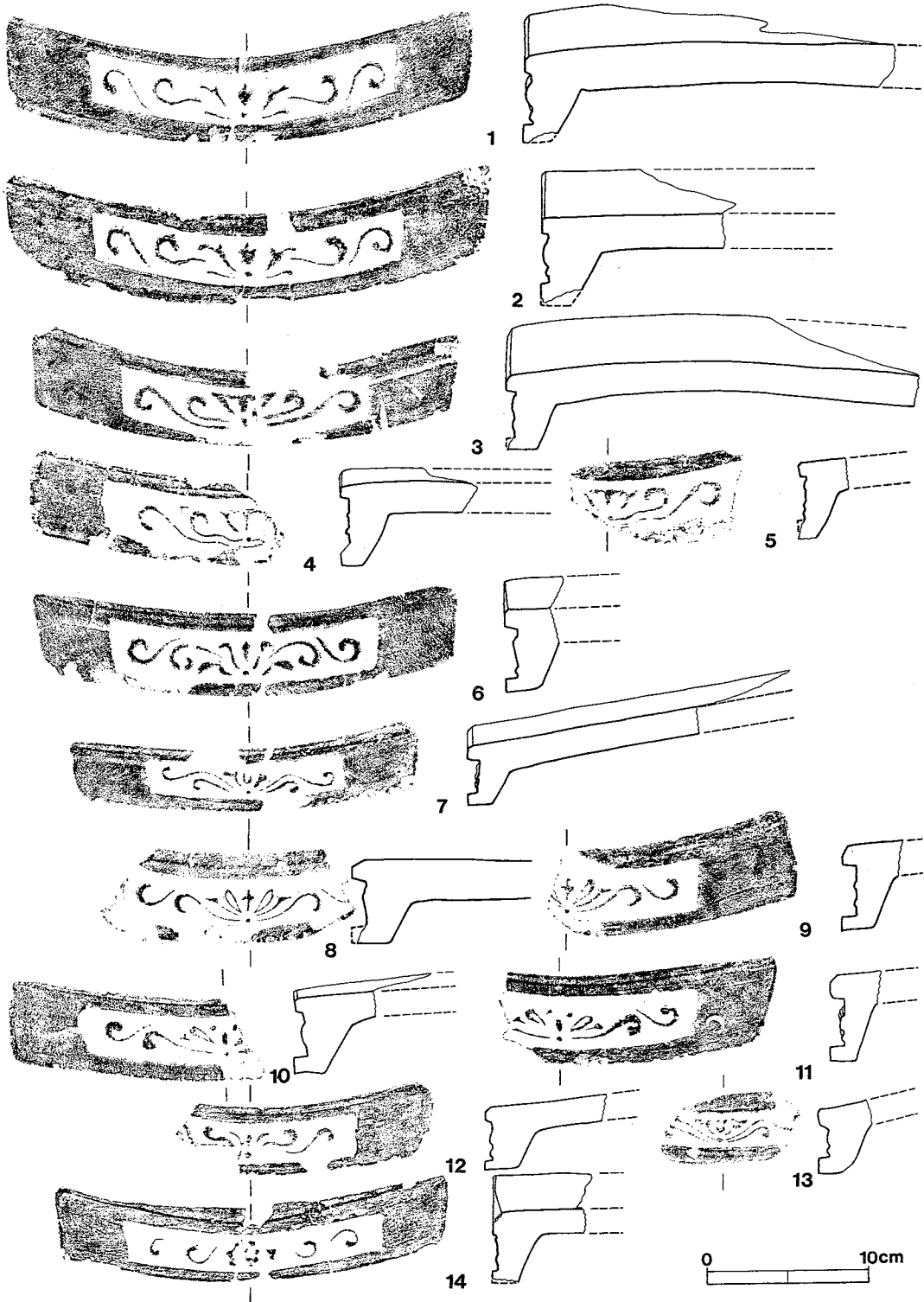
第234图 瓦1期軒丸瓦(7)



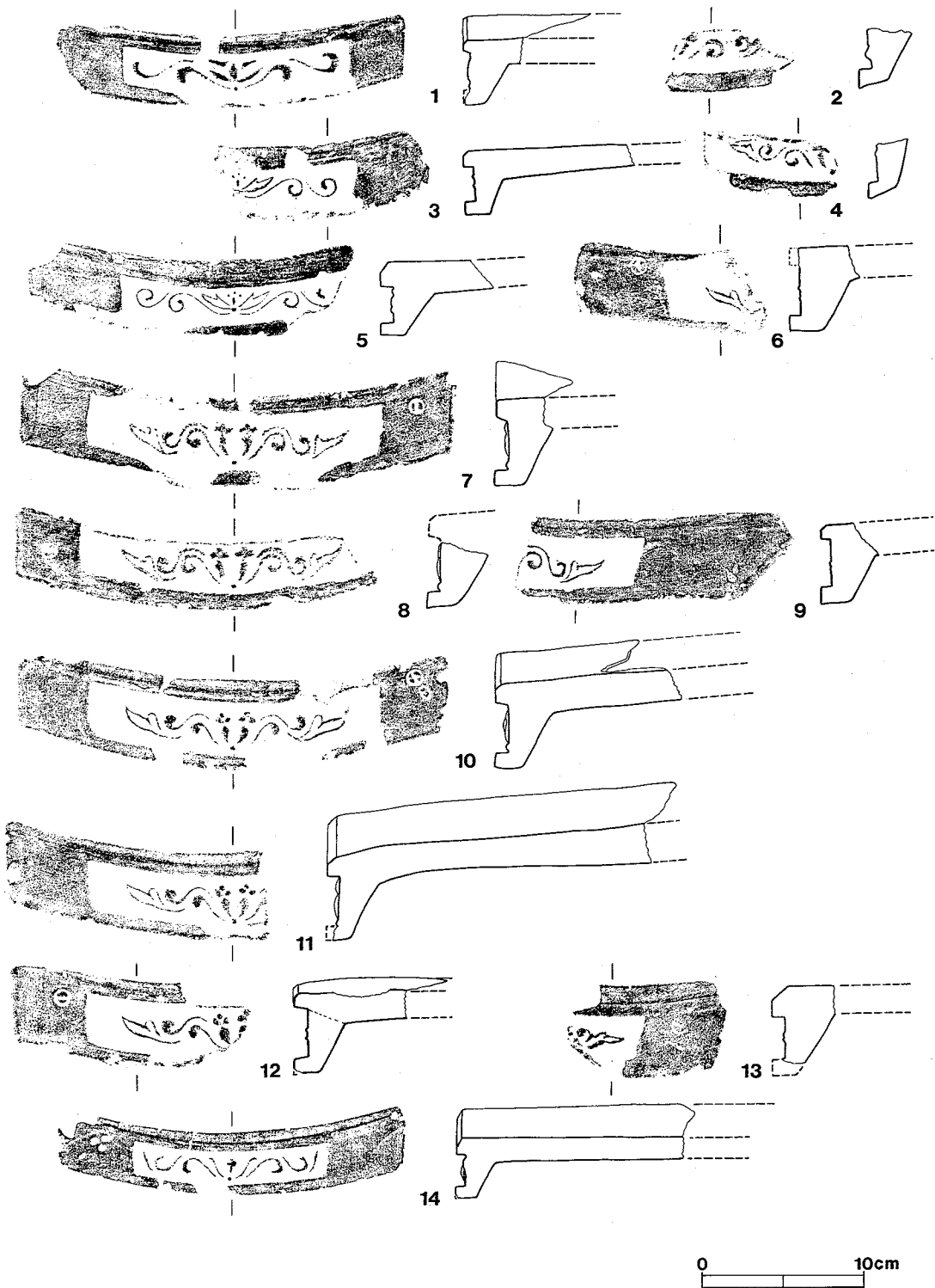
第235图 瓦1期軒丸瓦(8)



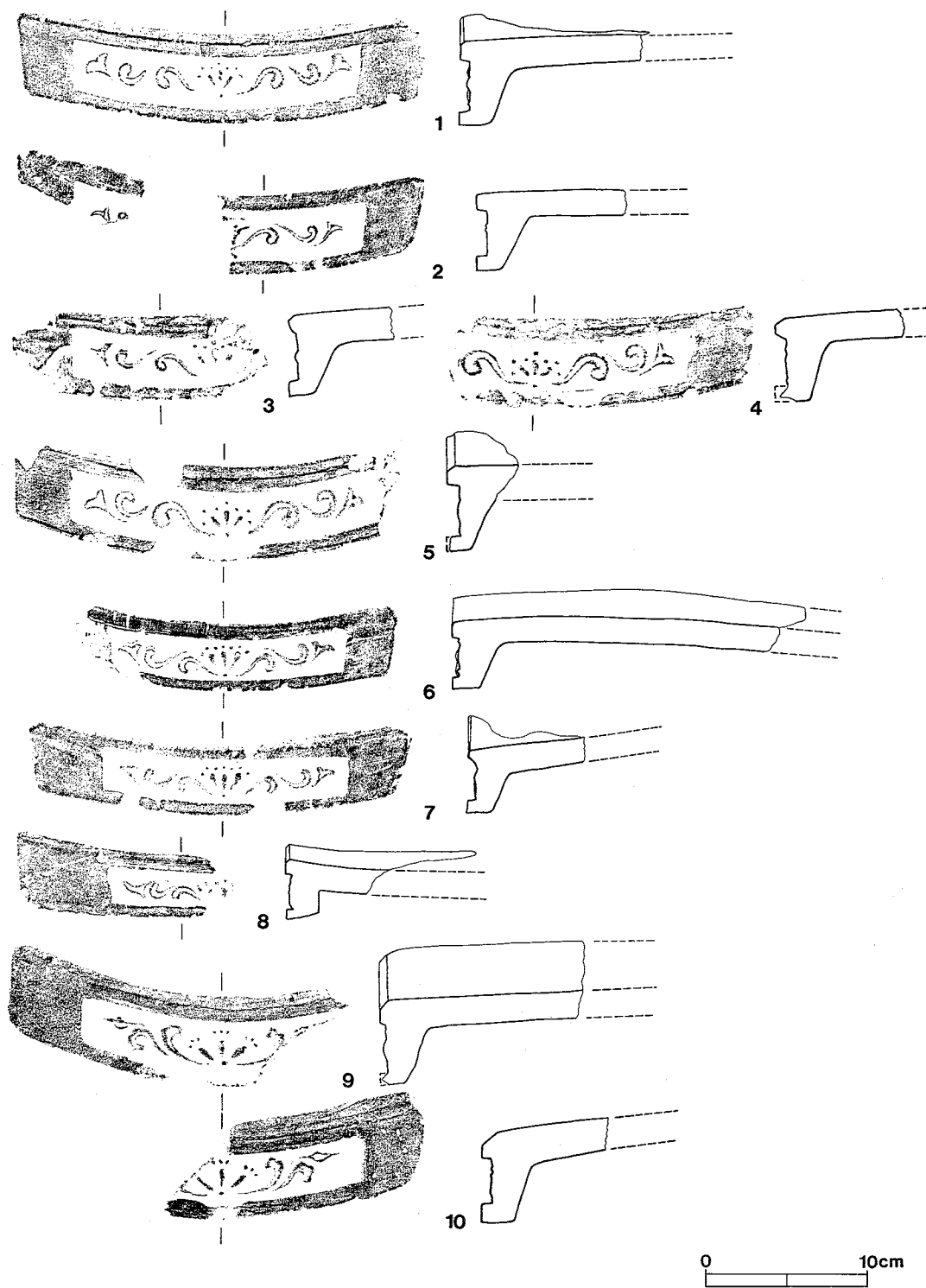
第236图 瓦1期軒丸瓦(9)·軒平瓦(1)



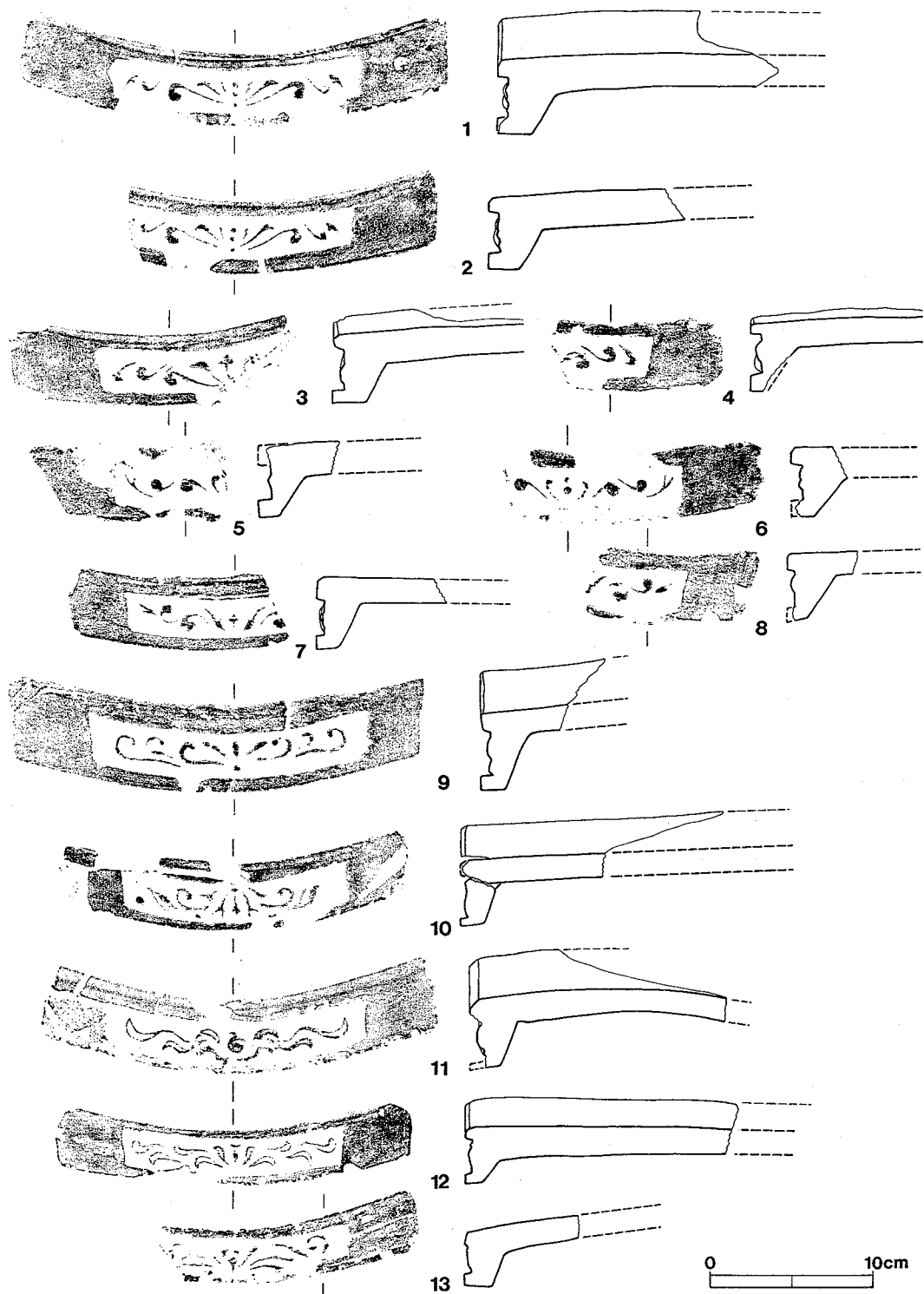
第237图 瓦 1 期軒平瓦(2)



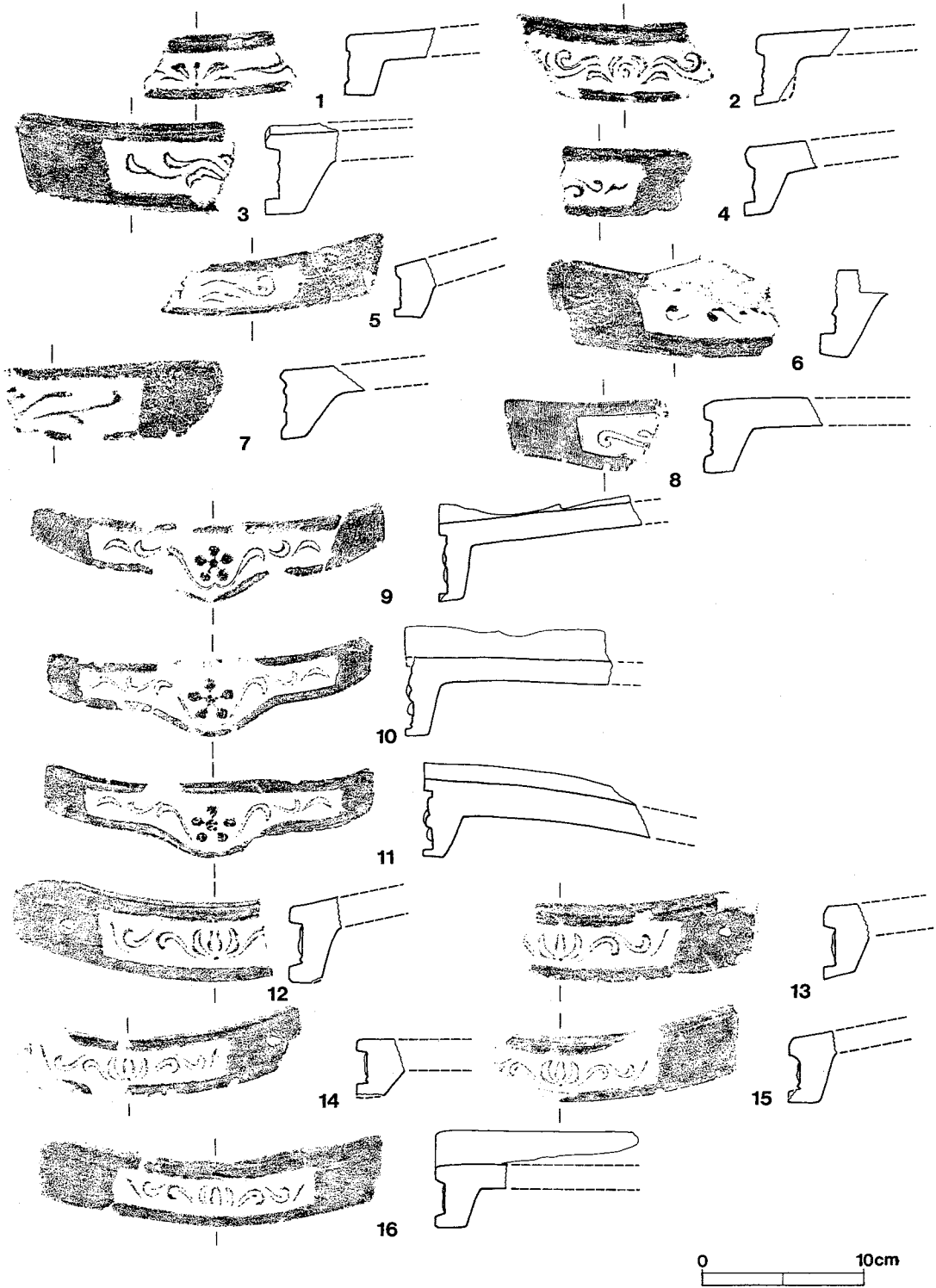
第238图 瓦1期軒平瓦(3)



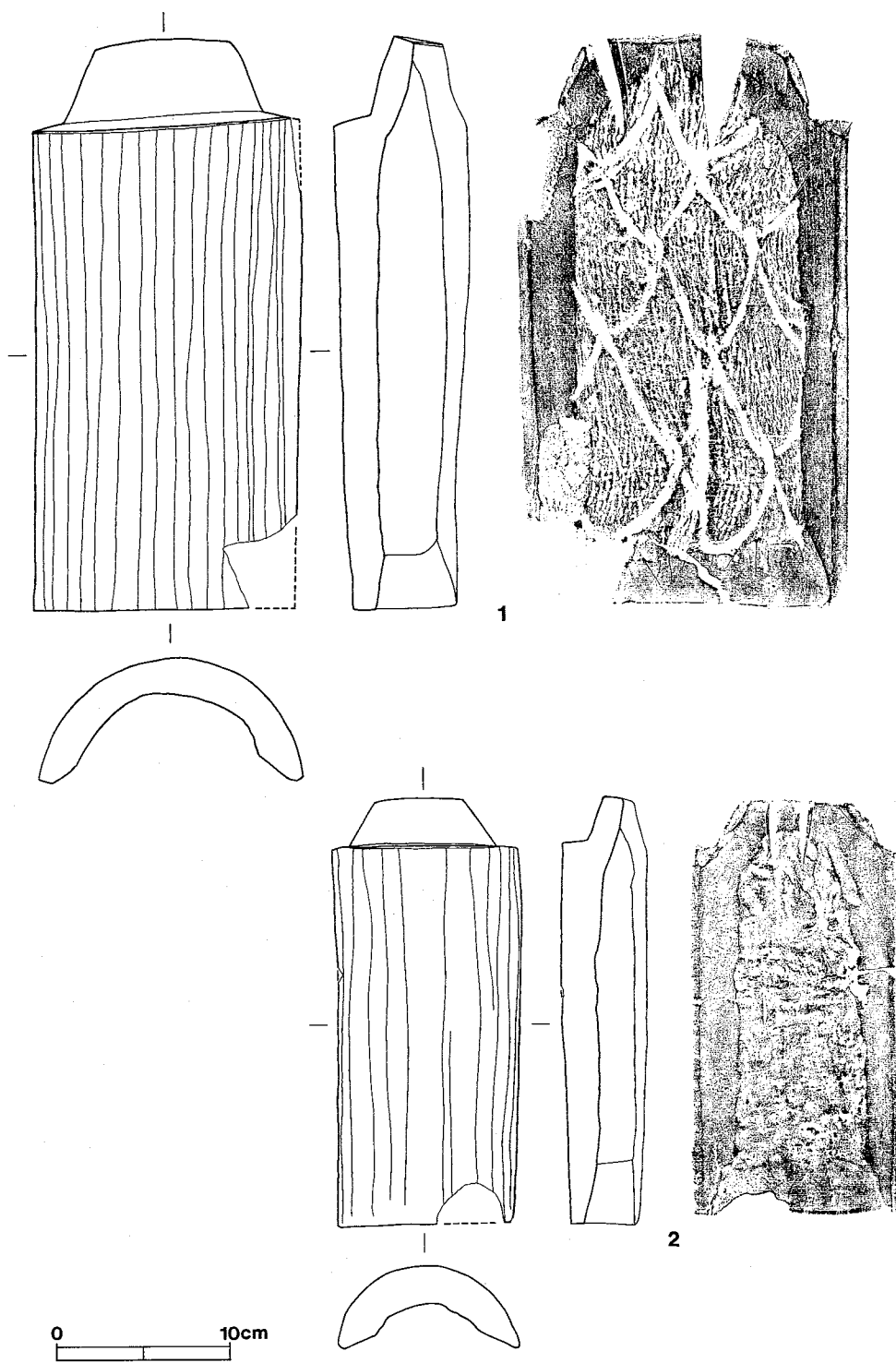
第239图 瓦 1 期軒平瓦(4)



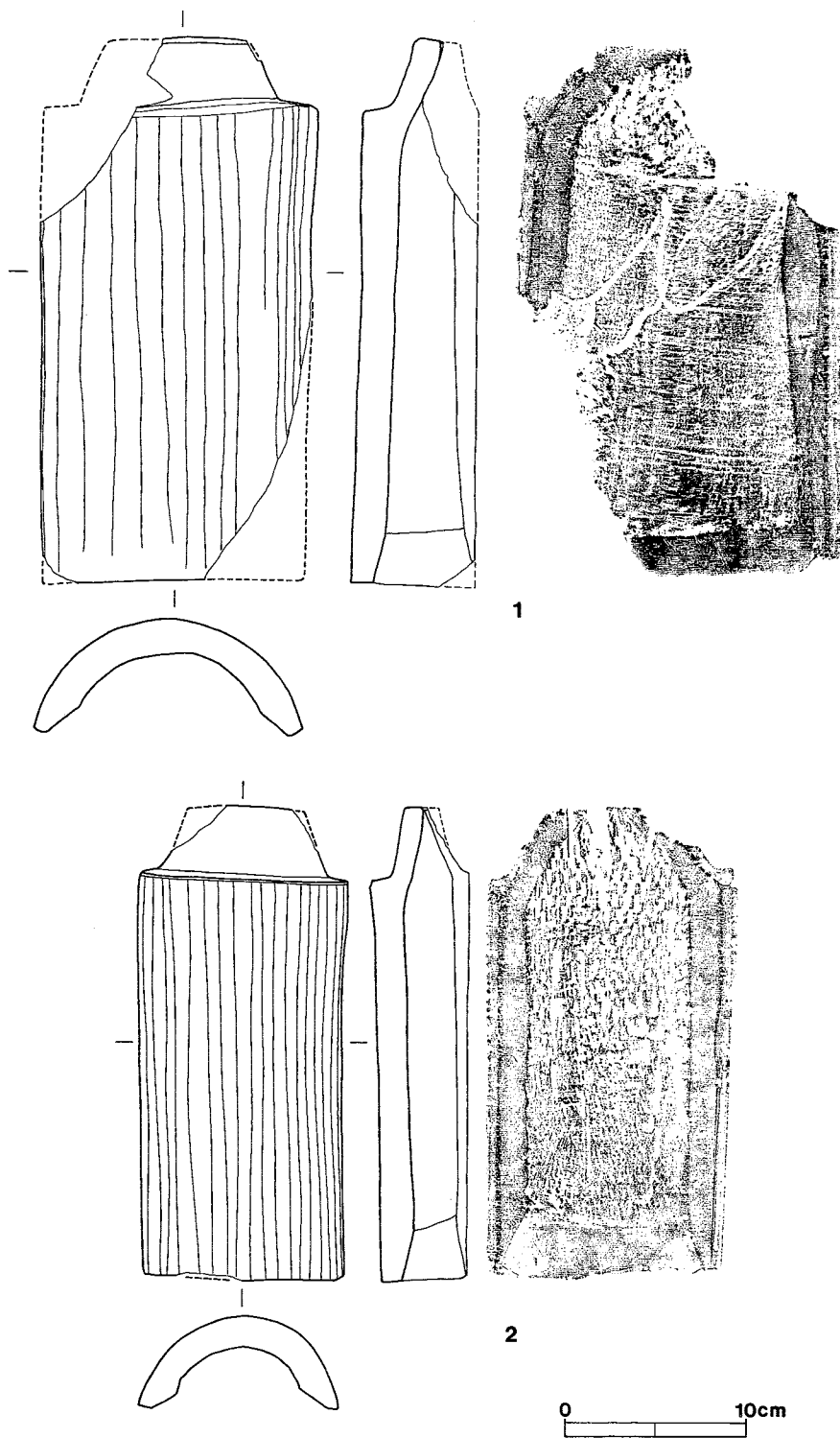
第240图 瓦1期軒平瓦(5)



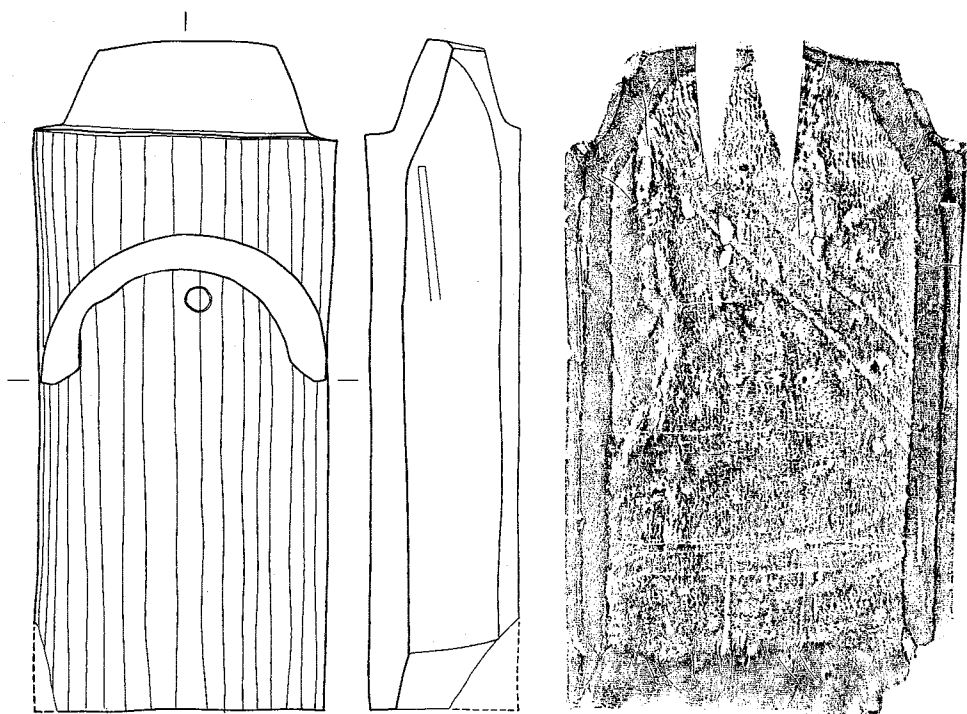
第241图 瓦1期軒平瓦(6)



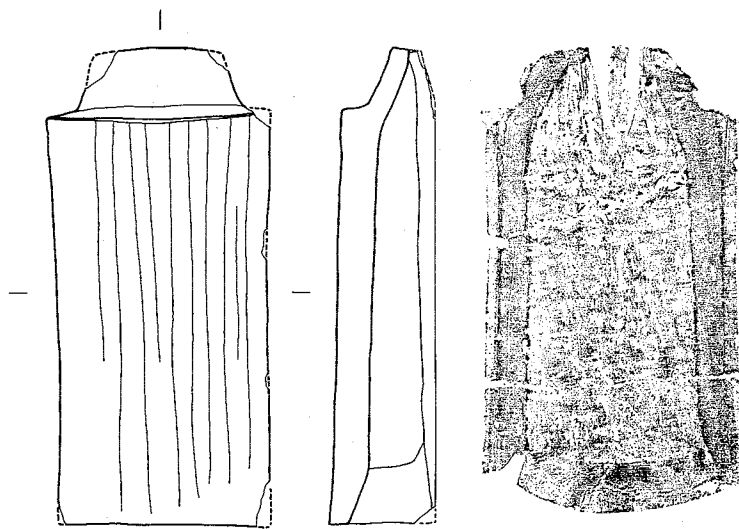
第242図 瓦1期丸瓦(1)



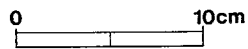
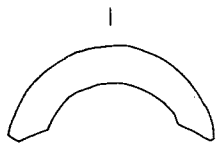
第243图 瓦1期丸瓦(2)



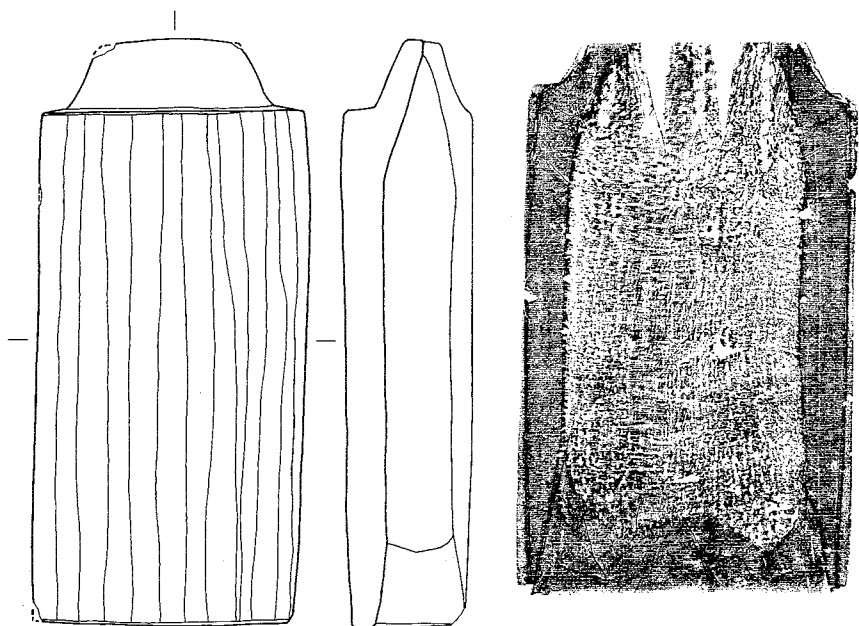
1



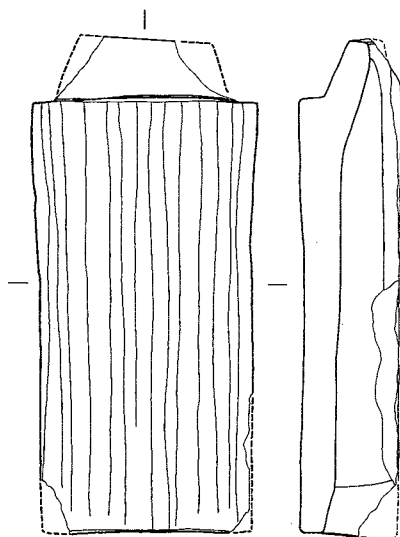
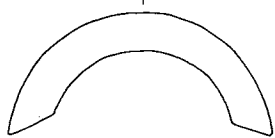
2



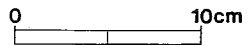
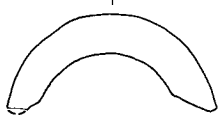
第244图 瓦1期丸瓦(3)



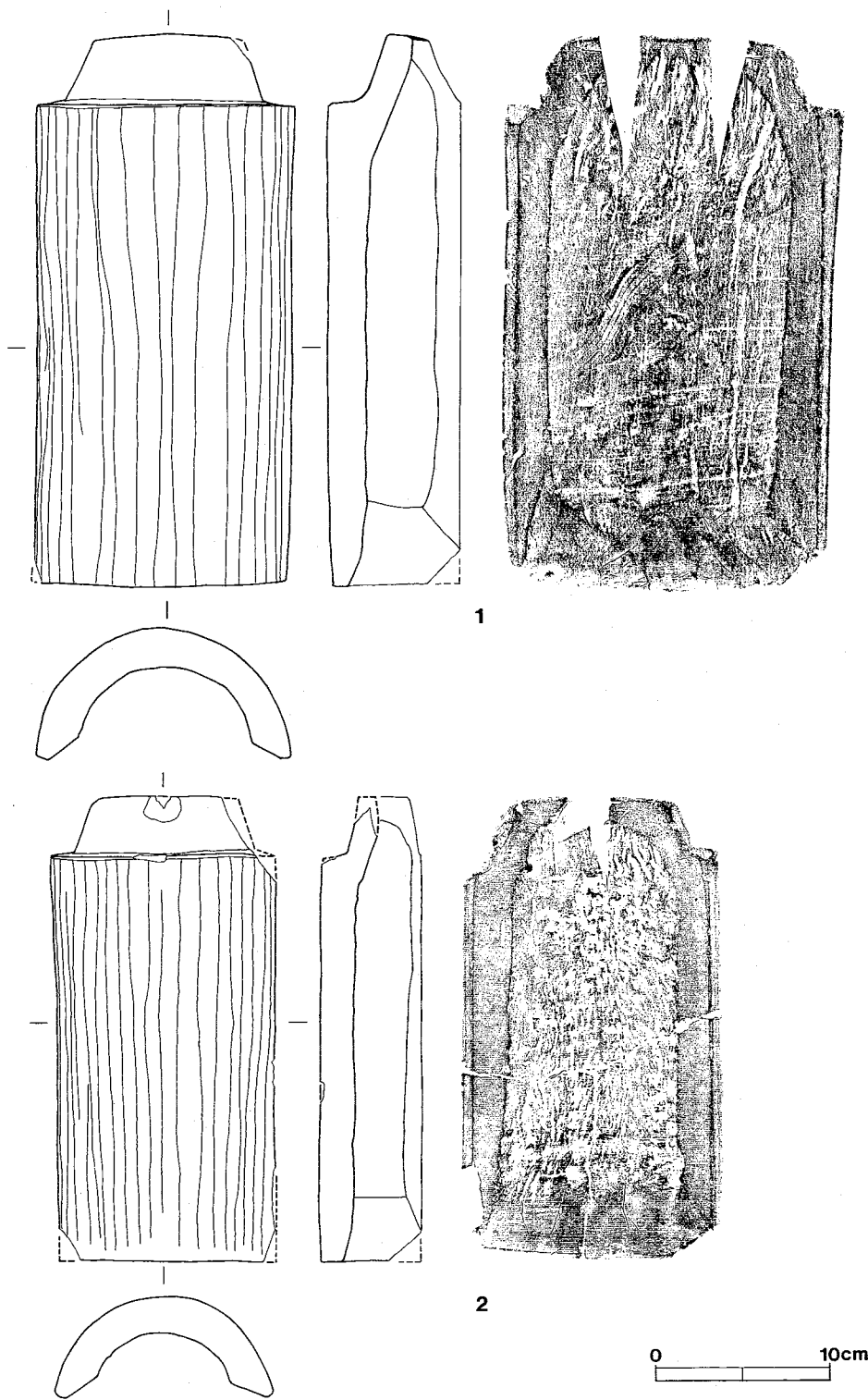
1



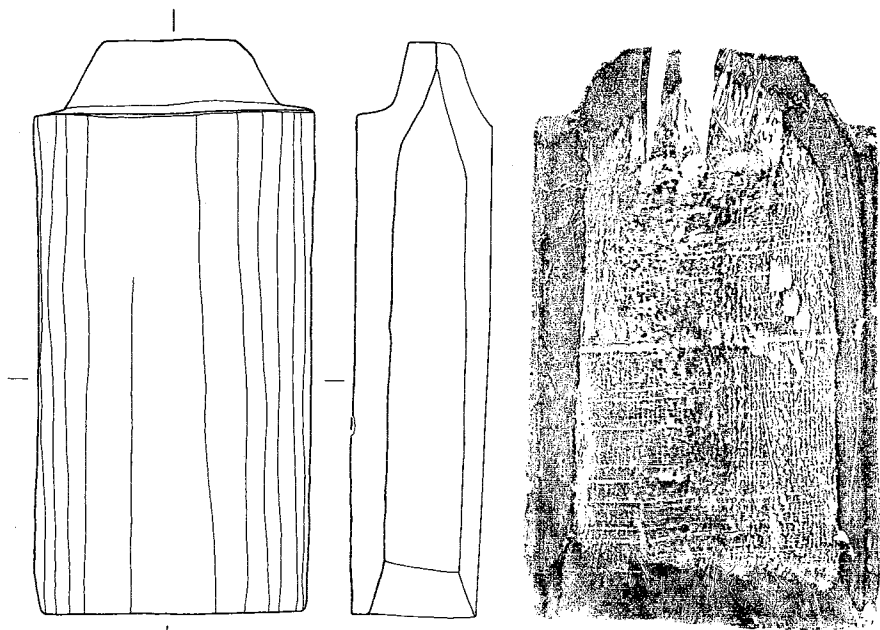
2



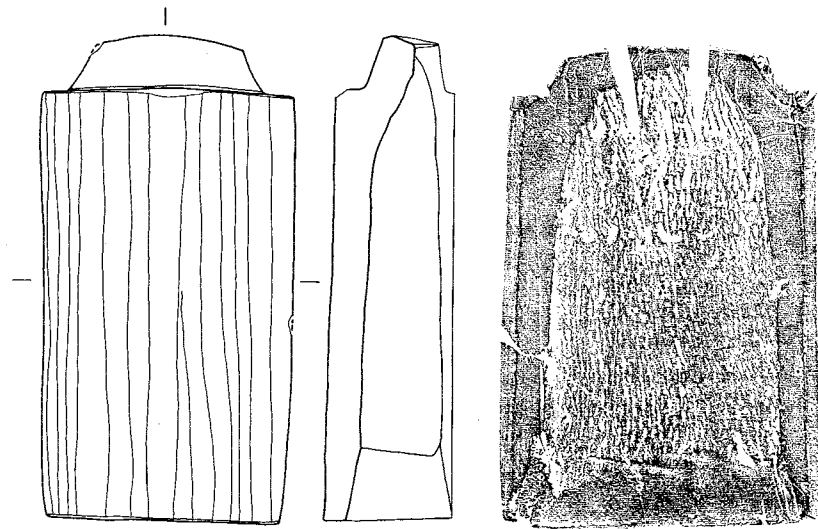
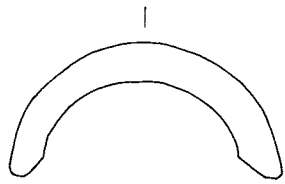
第245图 瓦1期丸瓦(4)



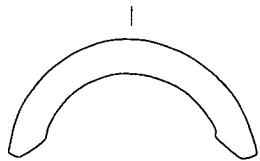
第246図 瓦1期丸瓦(5)



1

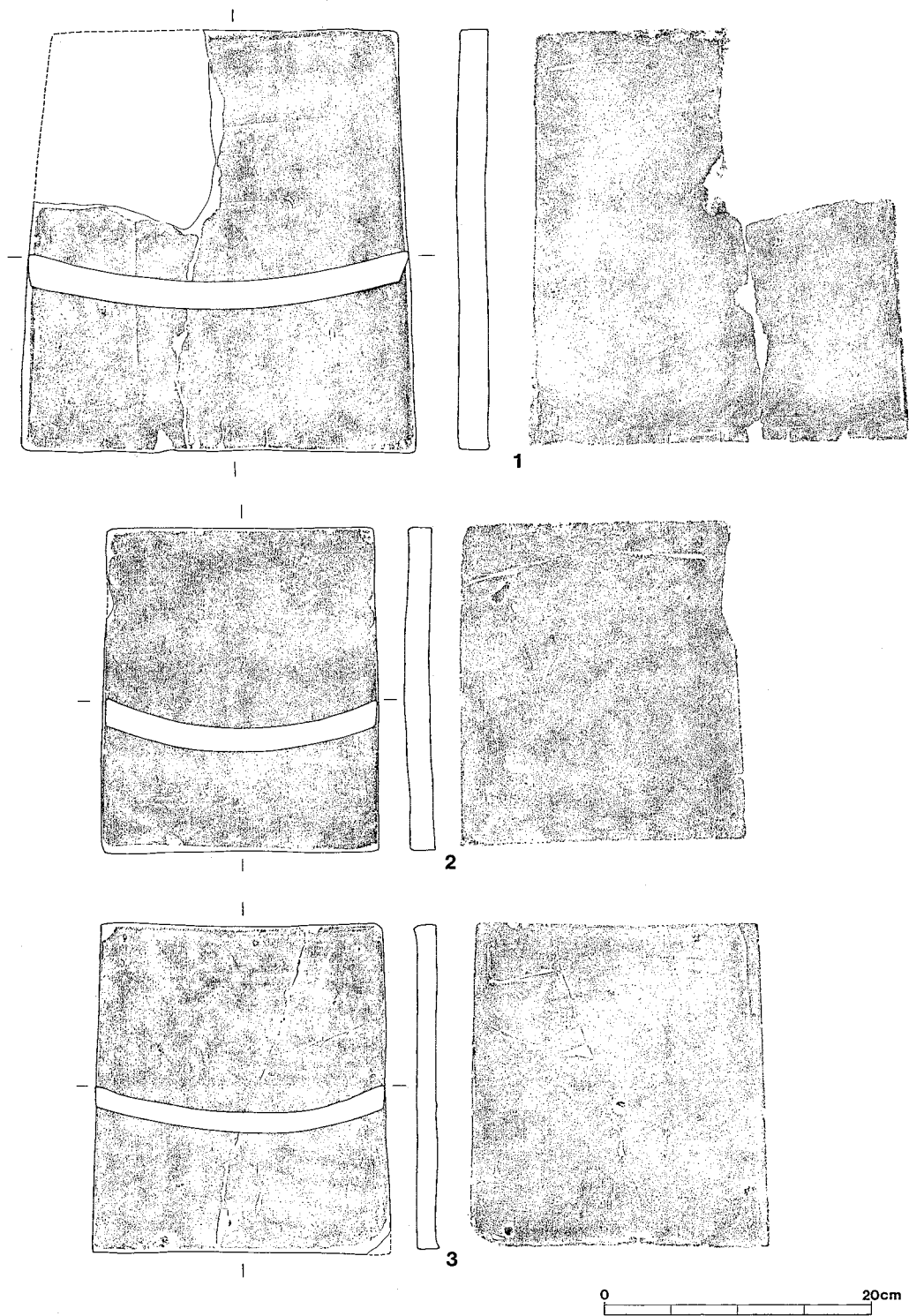


2

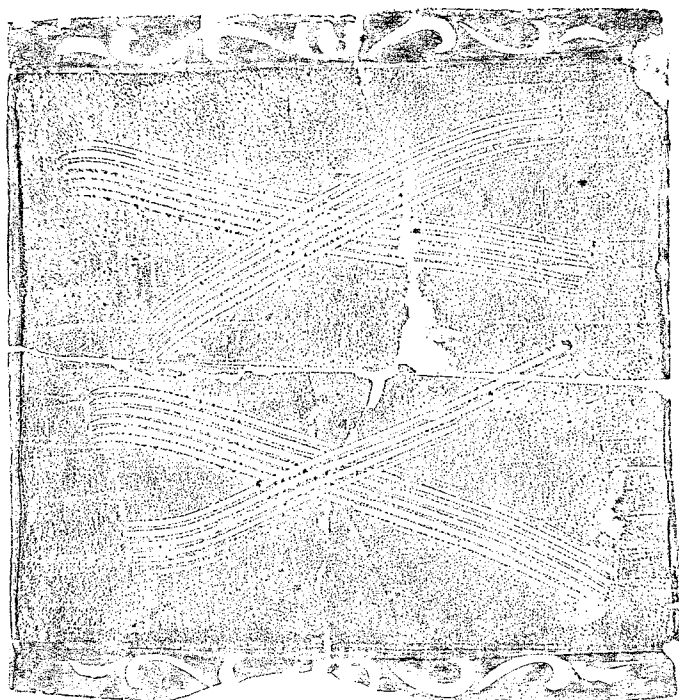


0 10cm

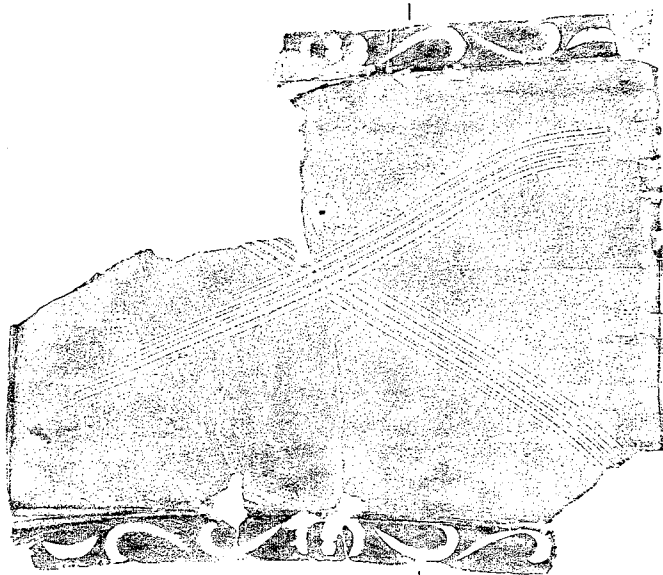
第247图 瓦1期丸瓦(6)



第248图 瓦1期平瓦



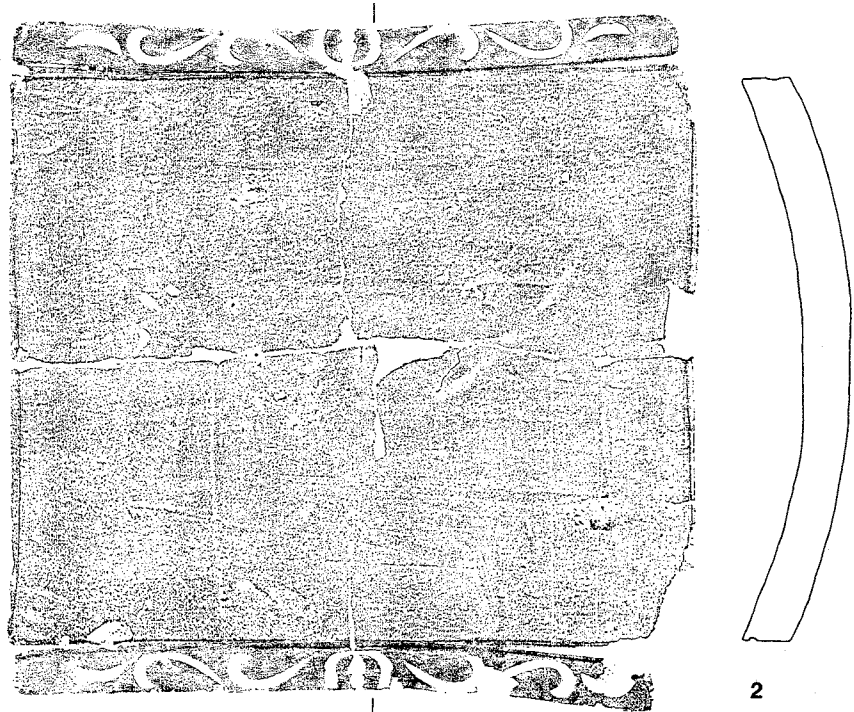
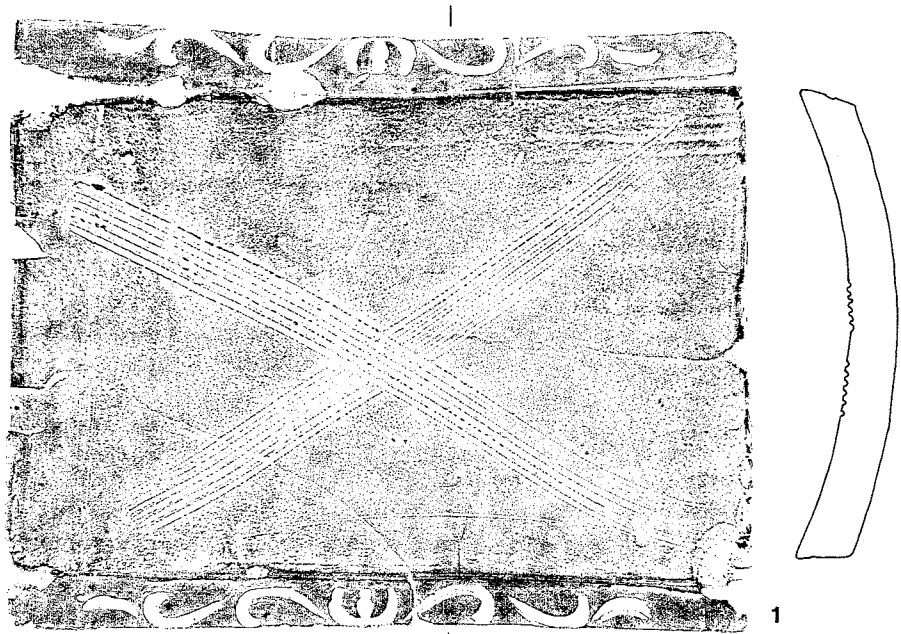
1



2

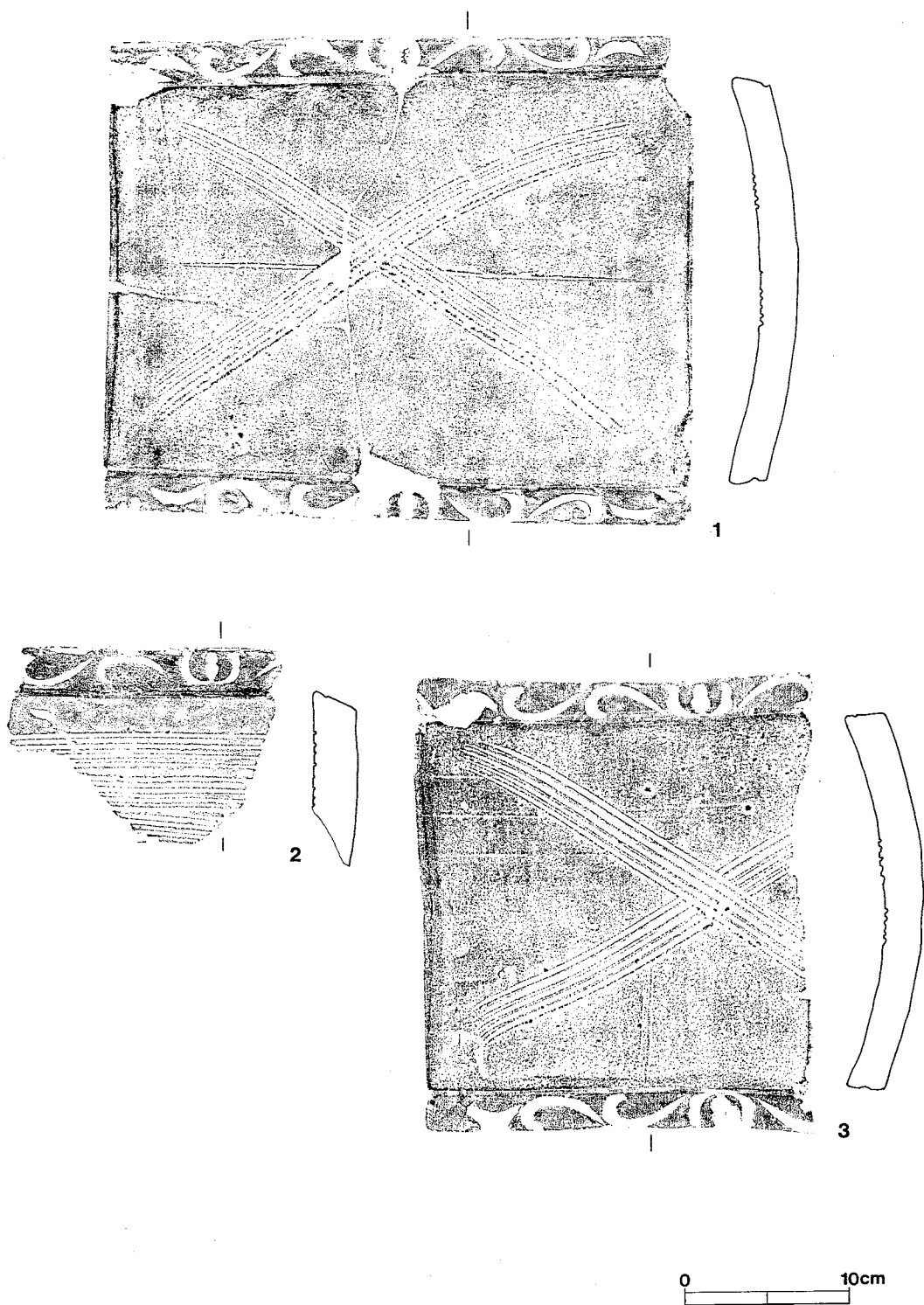
0 10cm

第249图 瓦1期熨斗瓦(1)

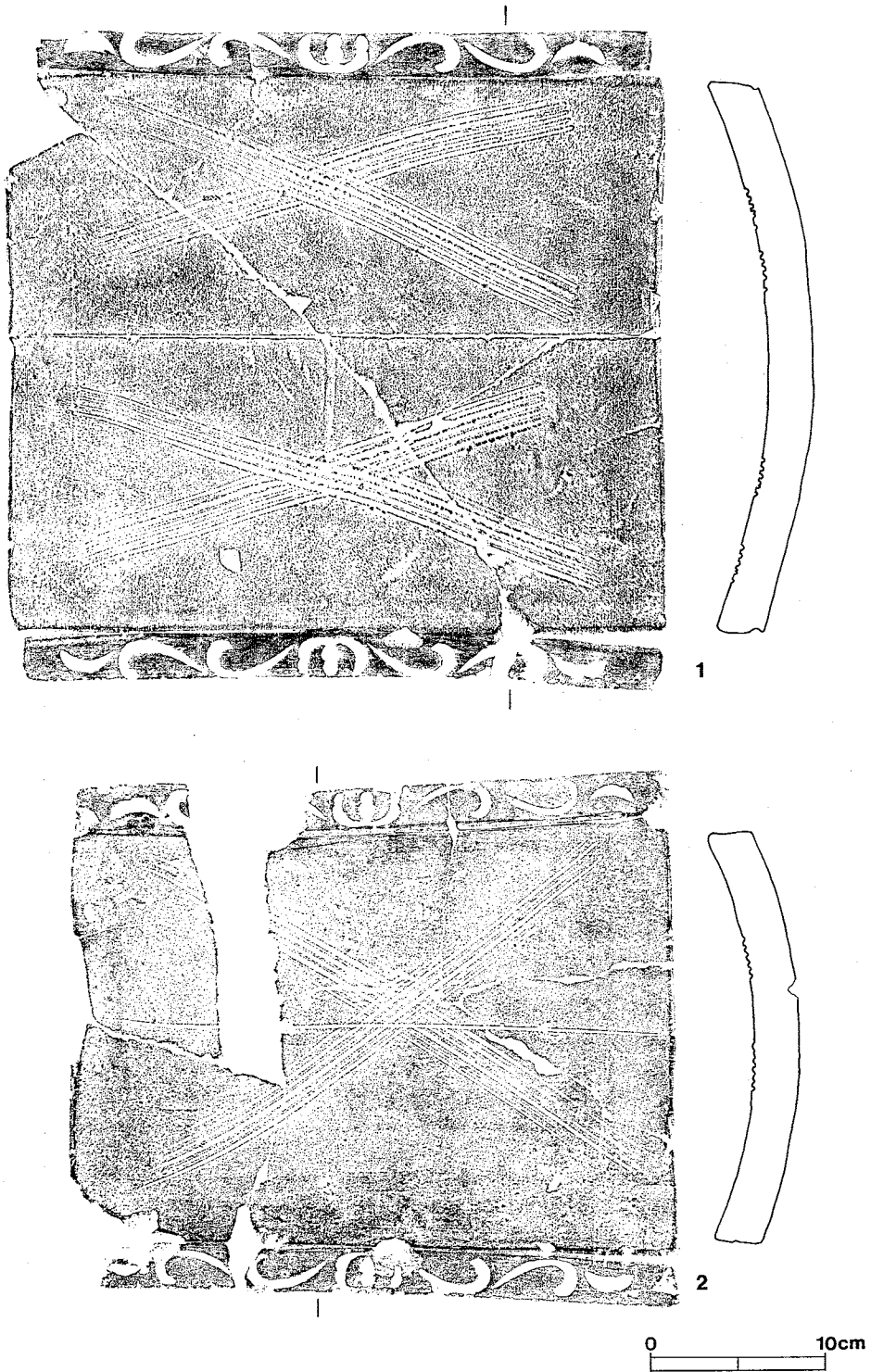


0 10cm

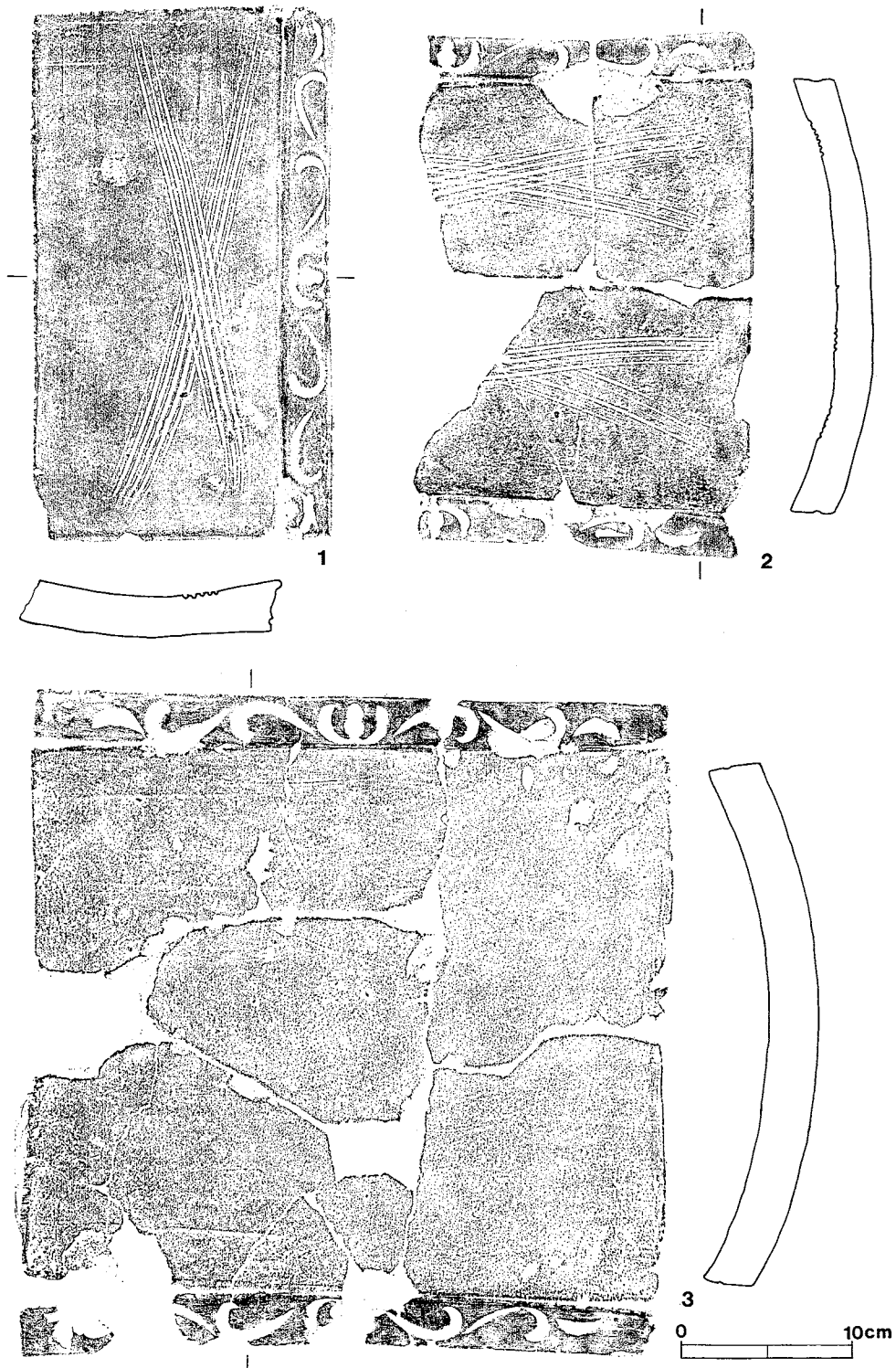
第250图 瓦1期熨斗瓦(2)



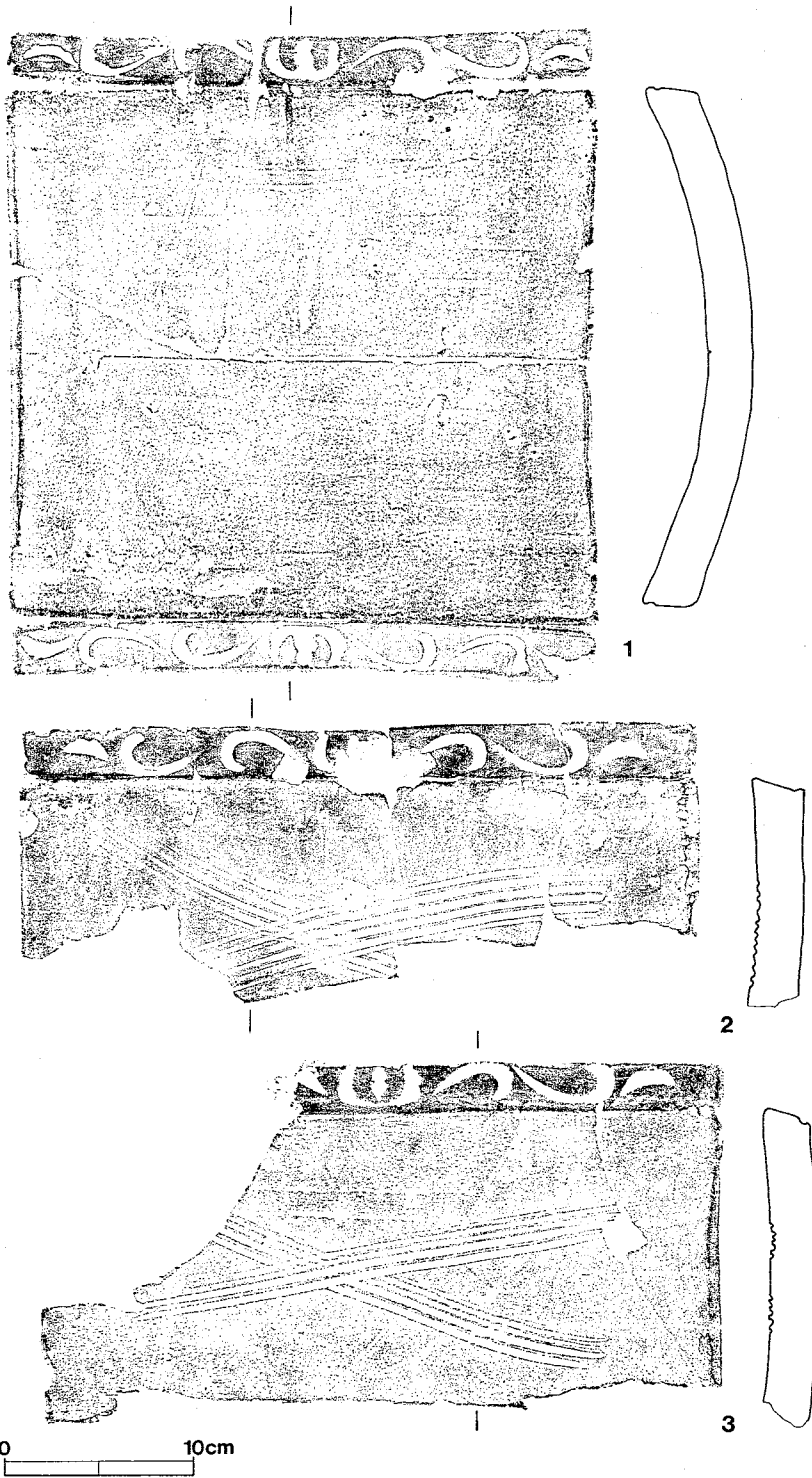
第251图 瓦1期鬲斗瓦(3)



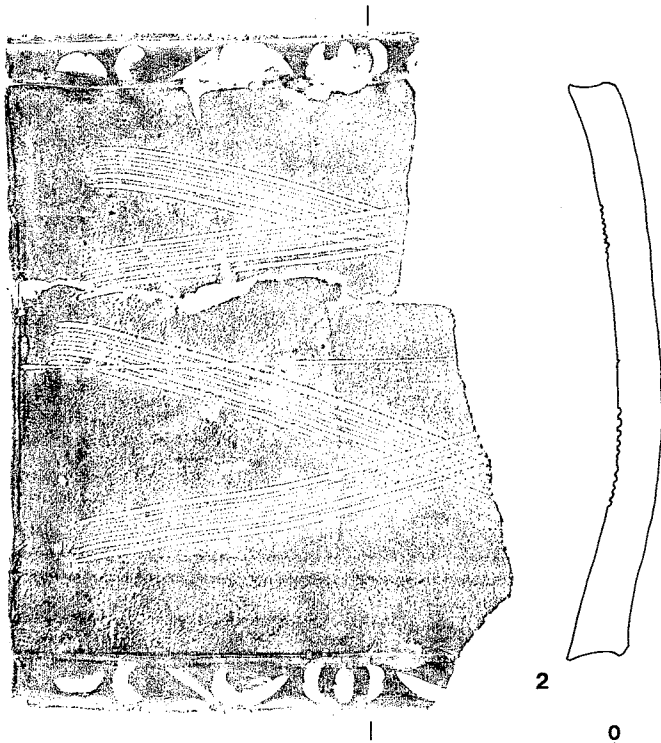
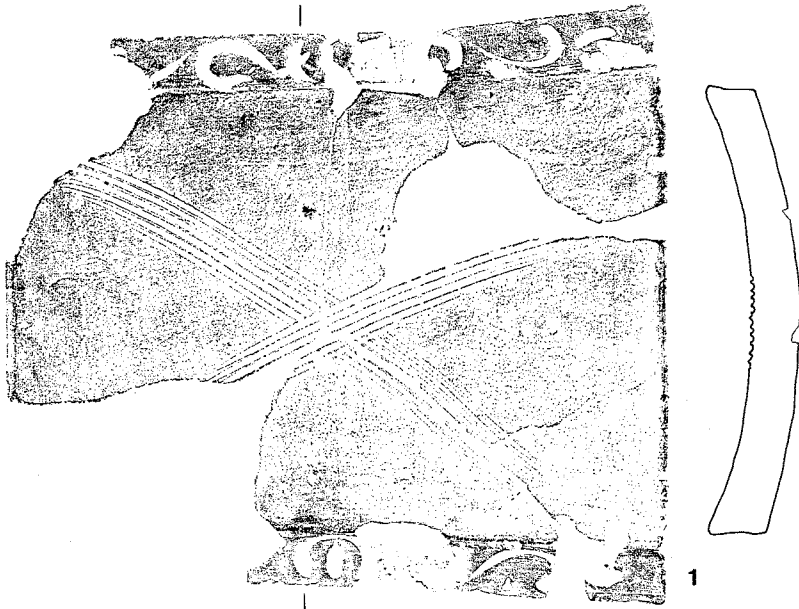
第252图 瓦 1 期鬲斗瓦(4)



第253图 瓦 1 期鬲斗瓦(5)

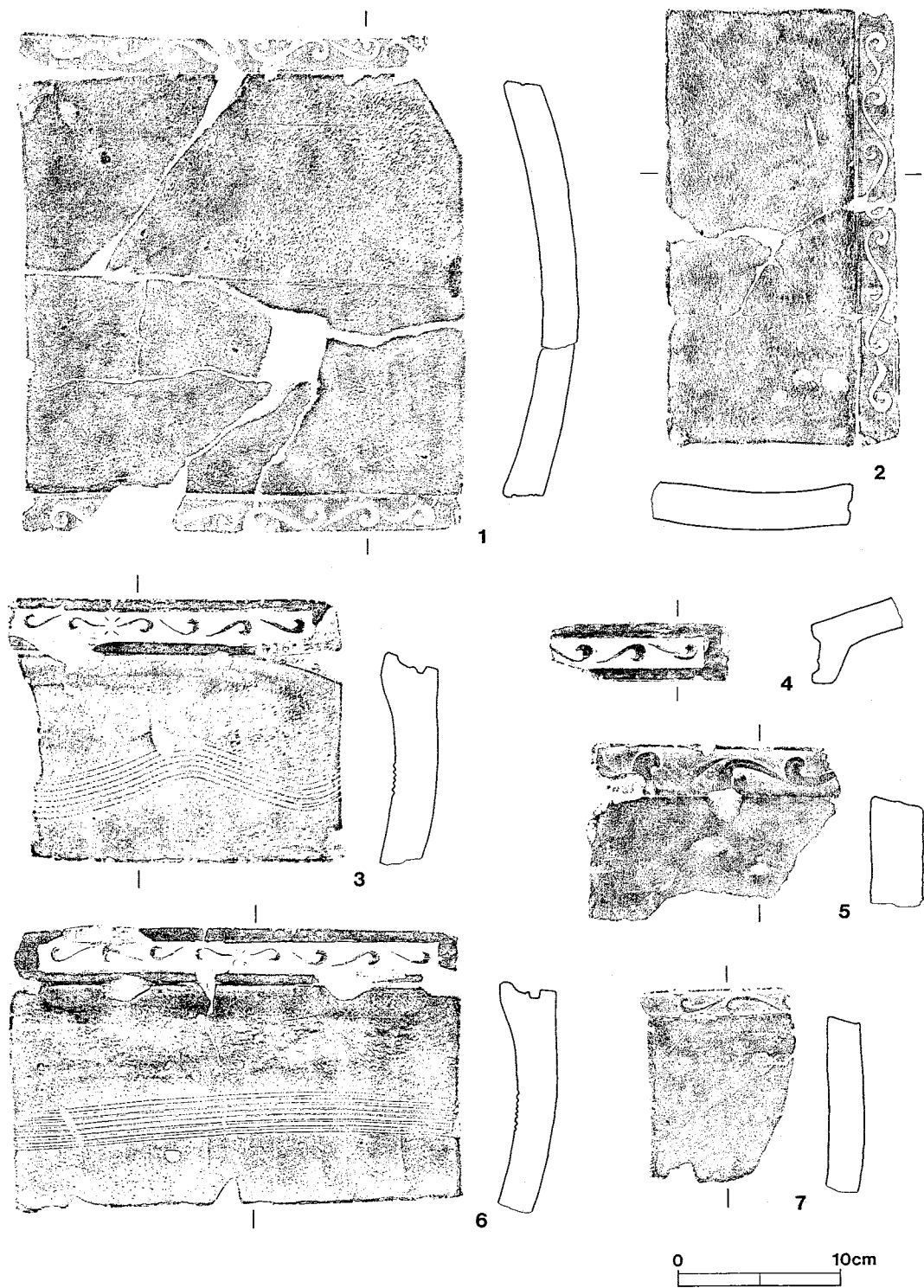


第254图 瓦1期鬲斗瓦(6)



0 10cm

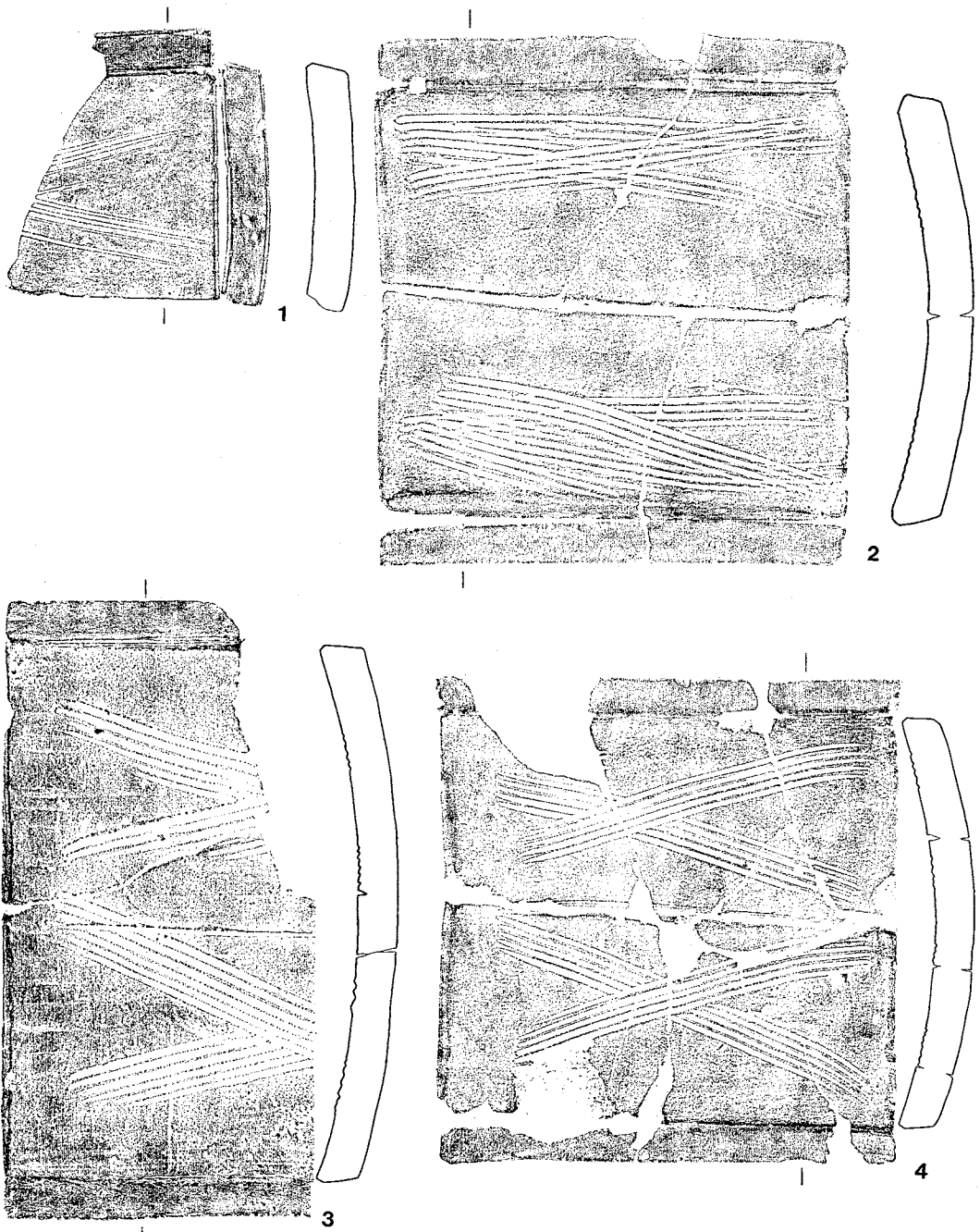
第255图 瓦1期熨斗瓦(7)



第256图 瓦1期鬲斗瓦(8)

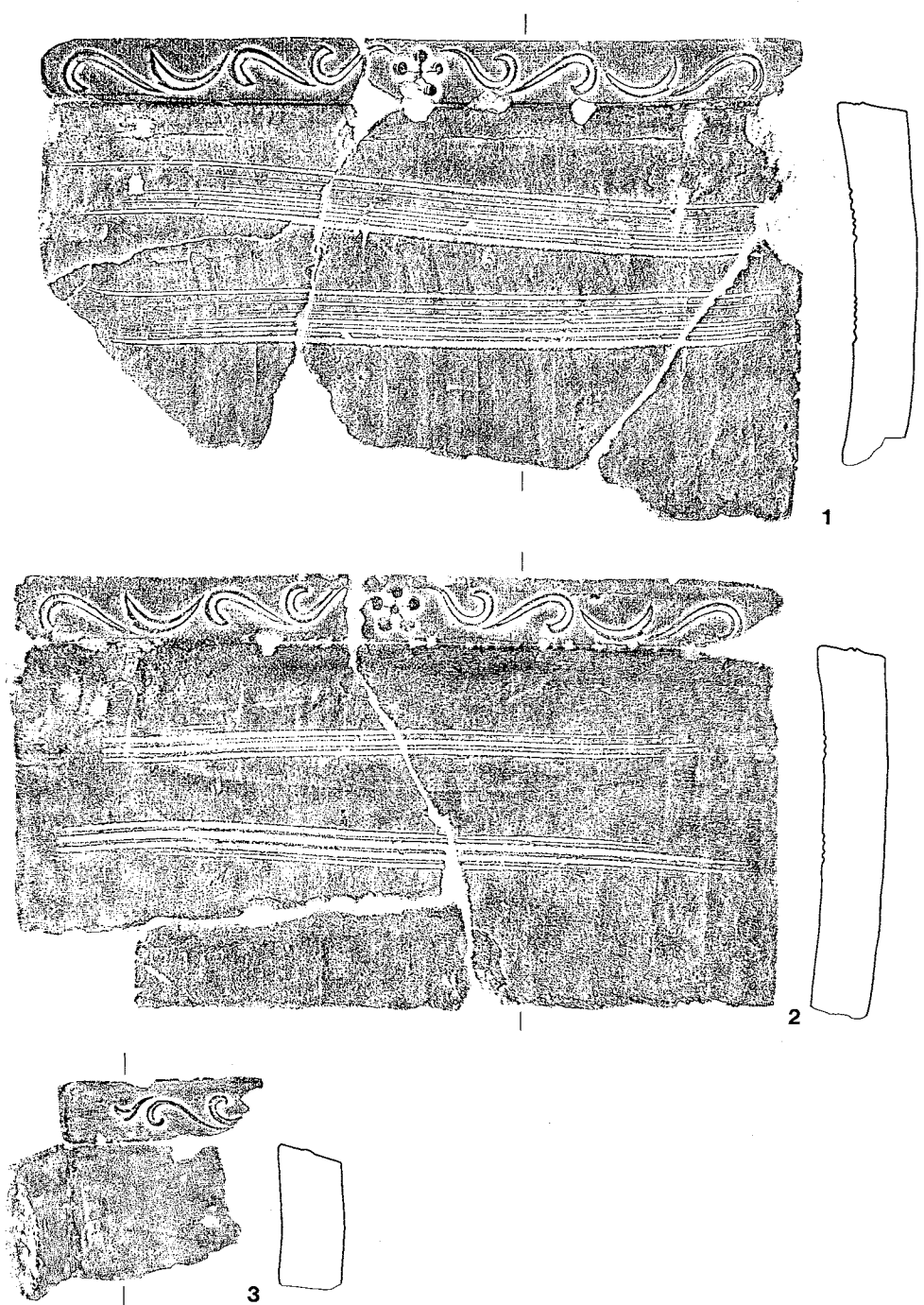


第257图 瓦 1 期熨斗瓦(9)



0 10cm

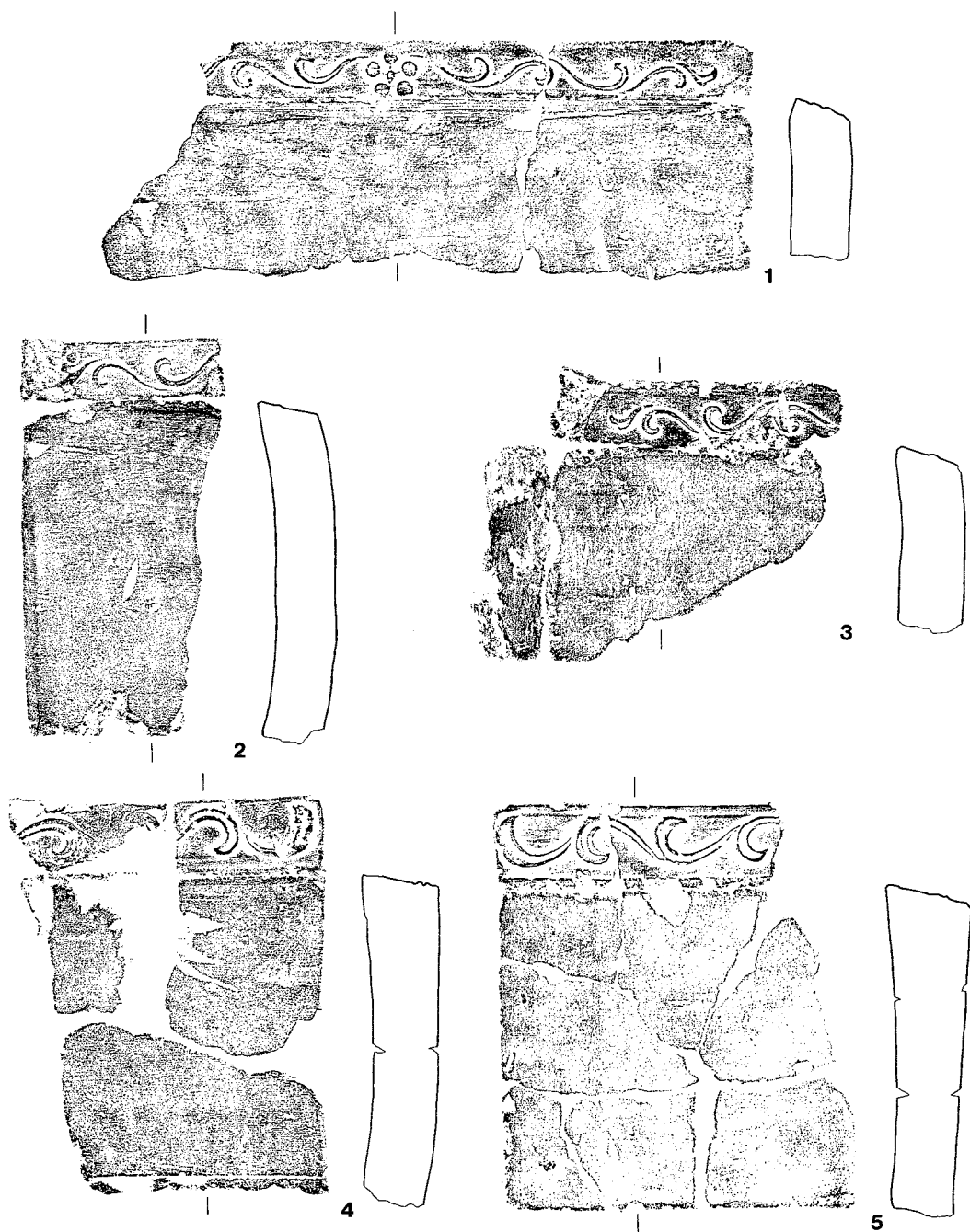
第258图 瓦1期鬲斗瓦(10)



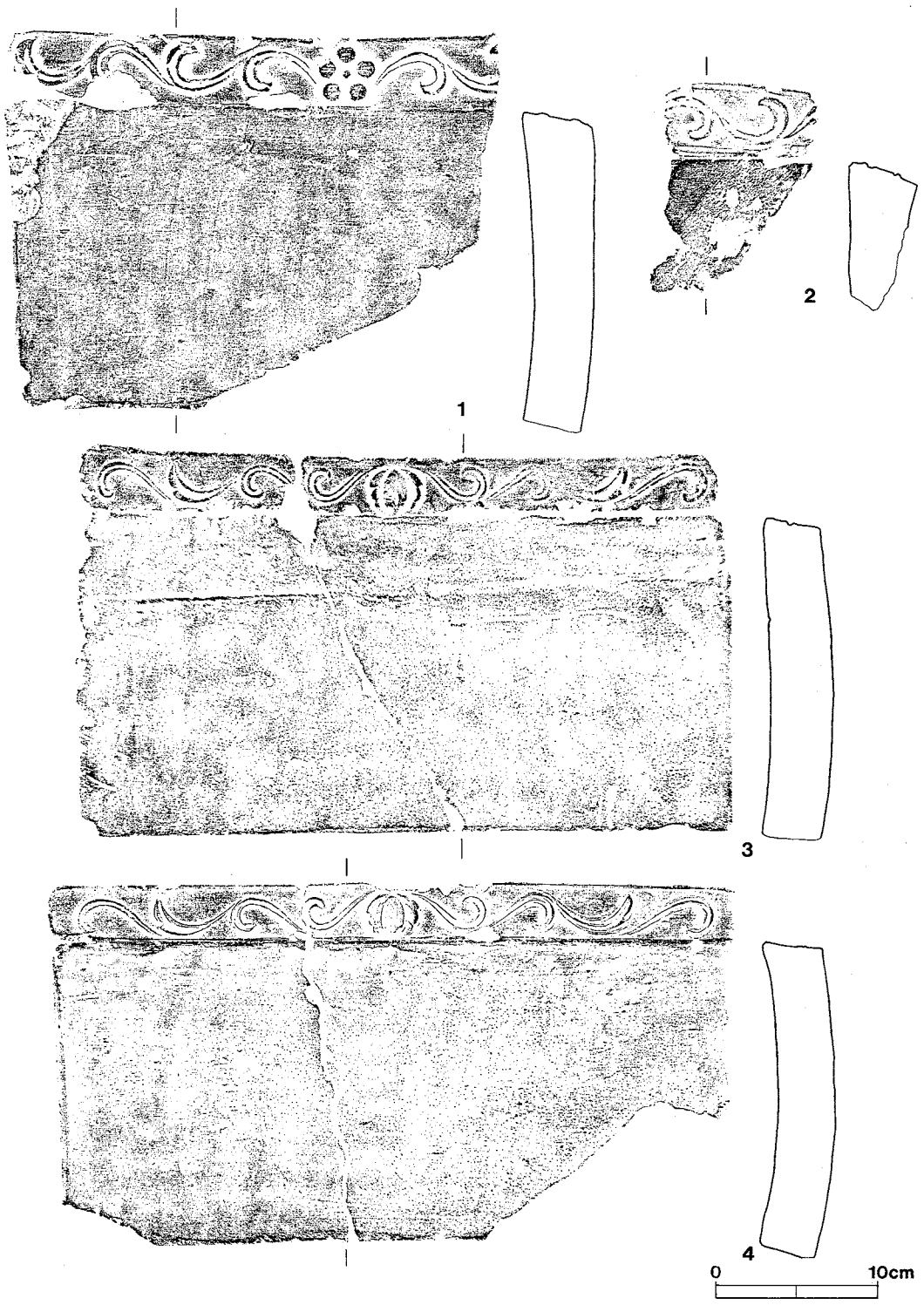
第259图 瓦 1 期鬲斗瓦(1)



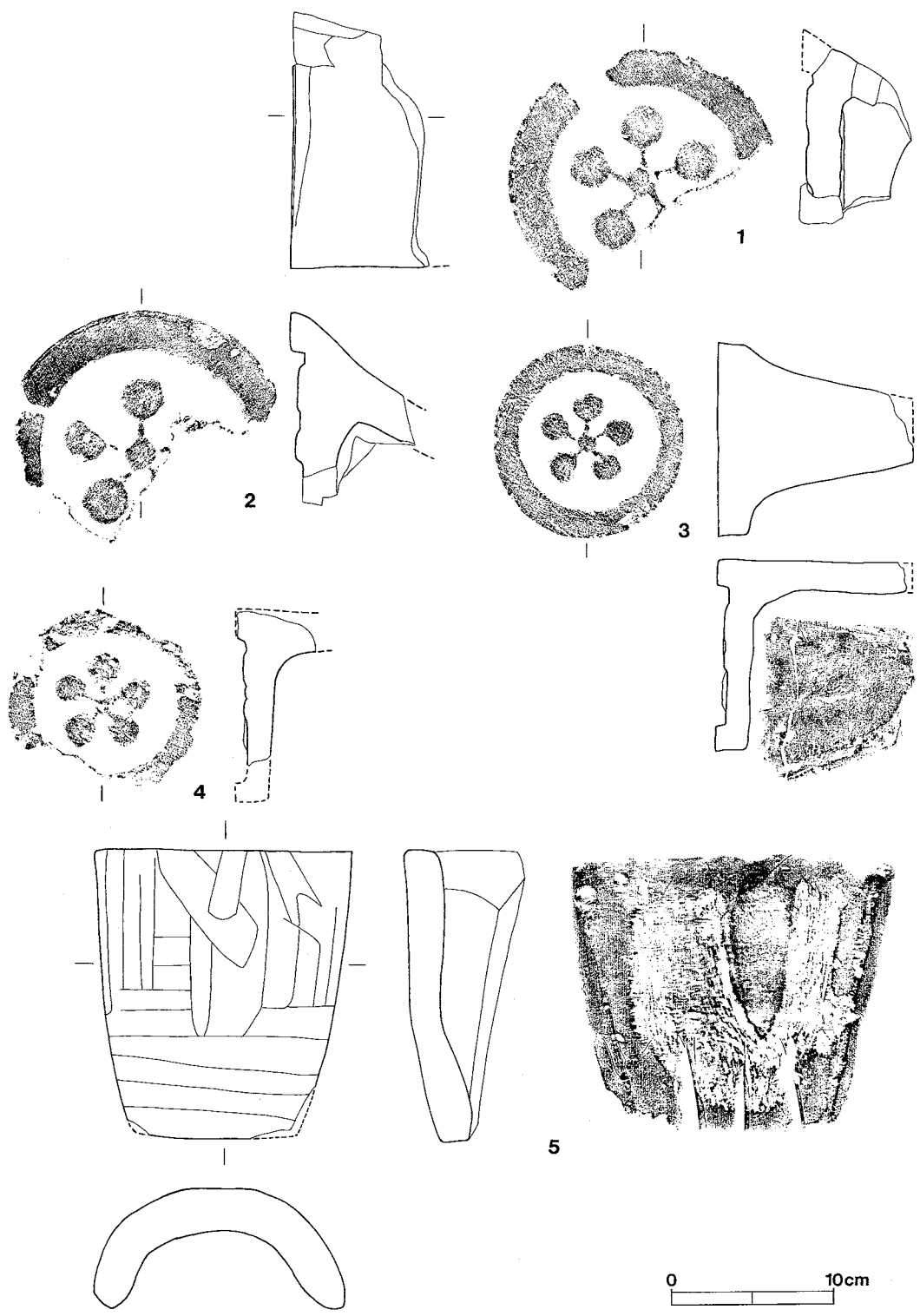
第260图 瓦 1 期熨斗瓦(12)



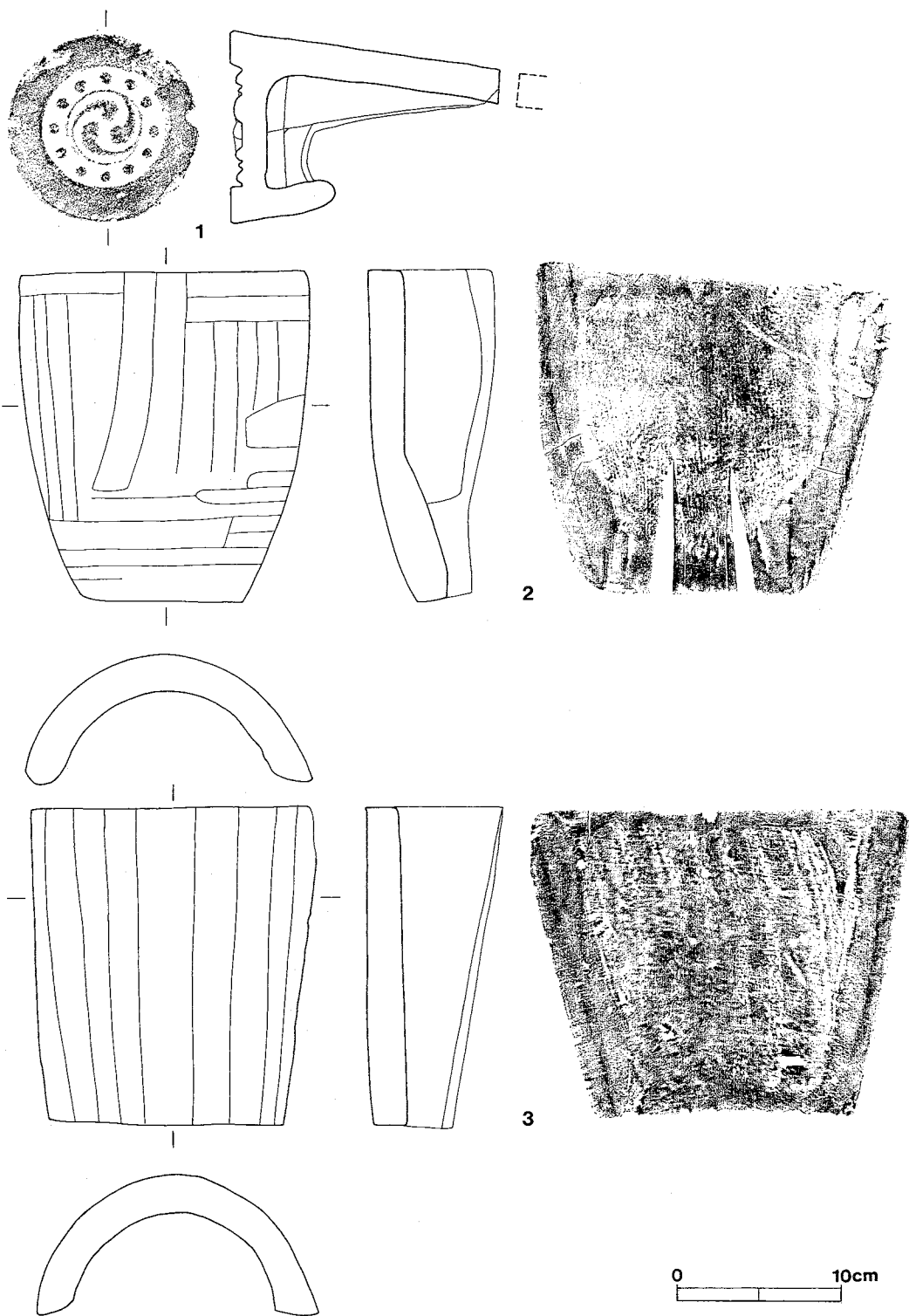
第261图 瓦1期鬃斗瓦(13)



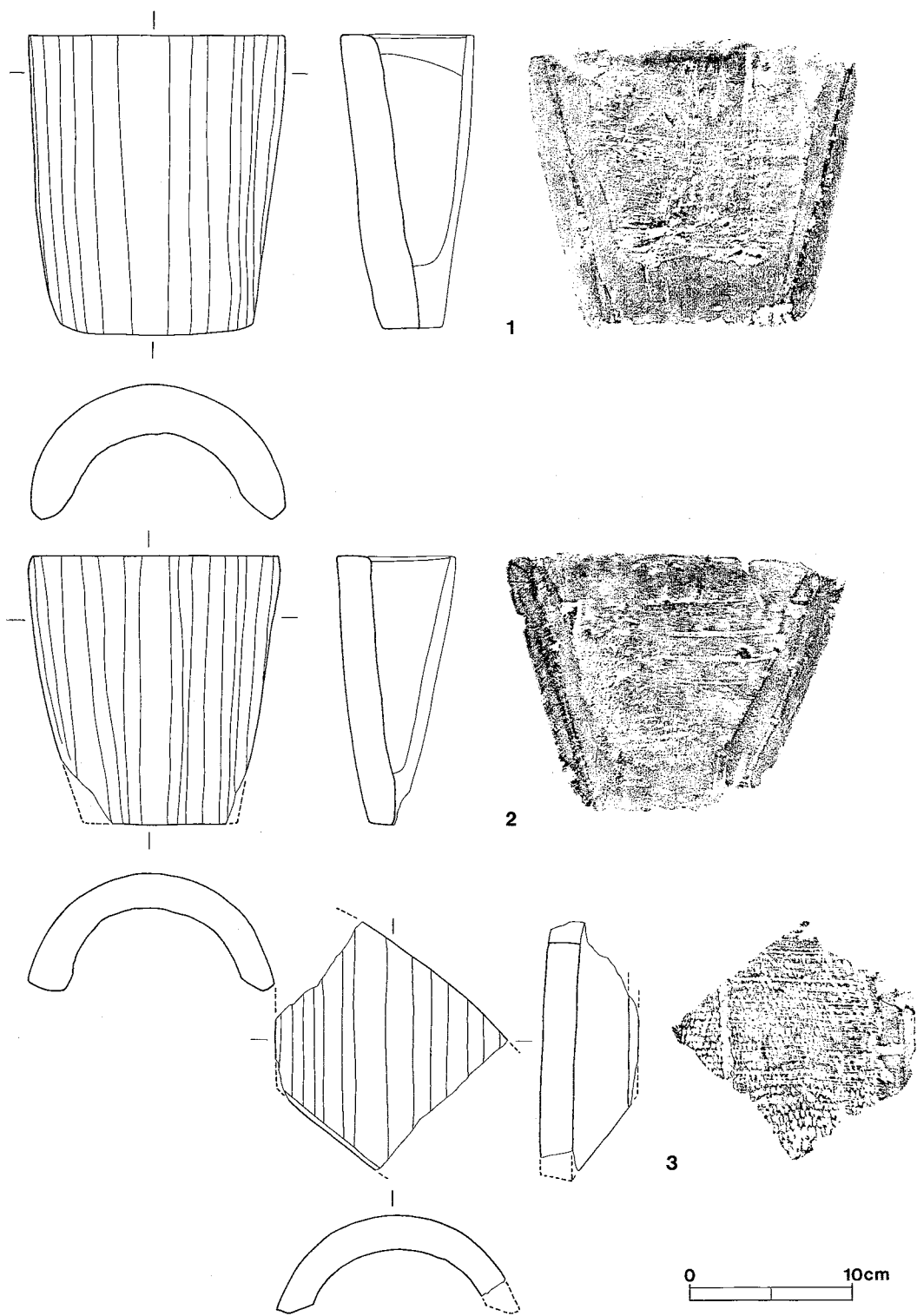
第262图 瓦1期熨斗瓦(14)



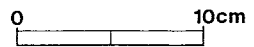
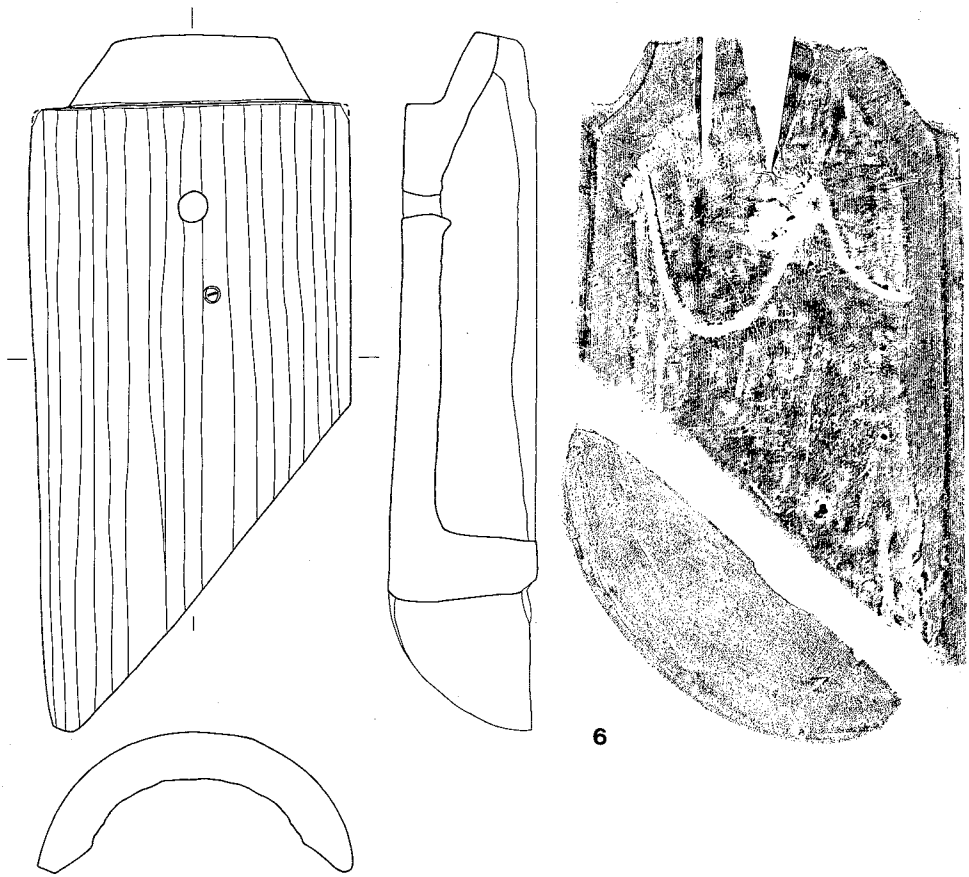
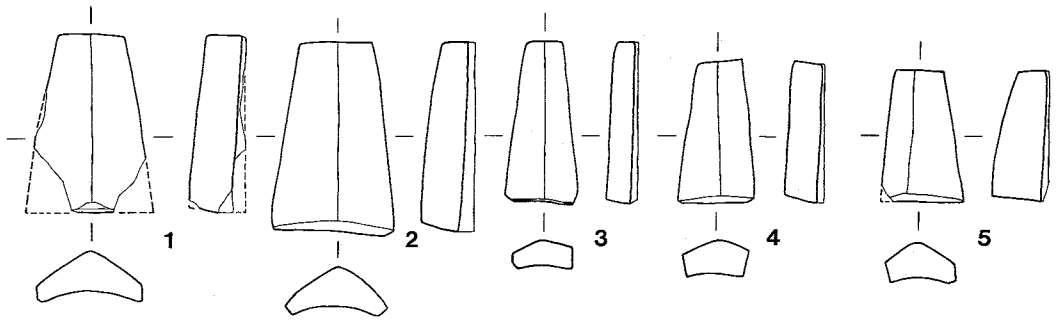
第263图 瓦1期道具瓦(1)



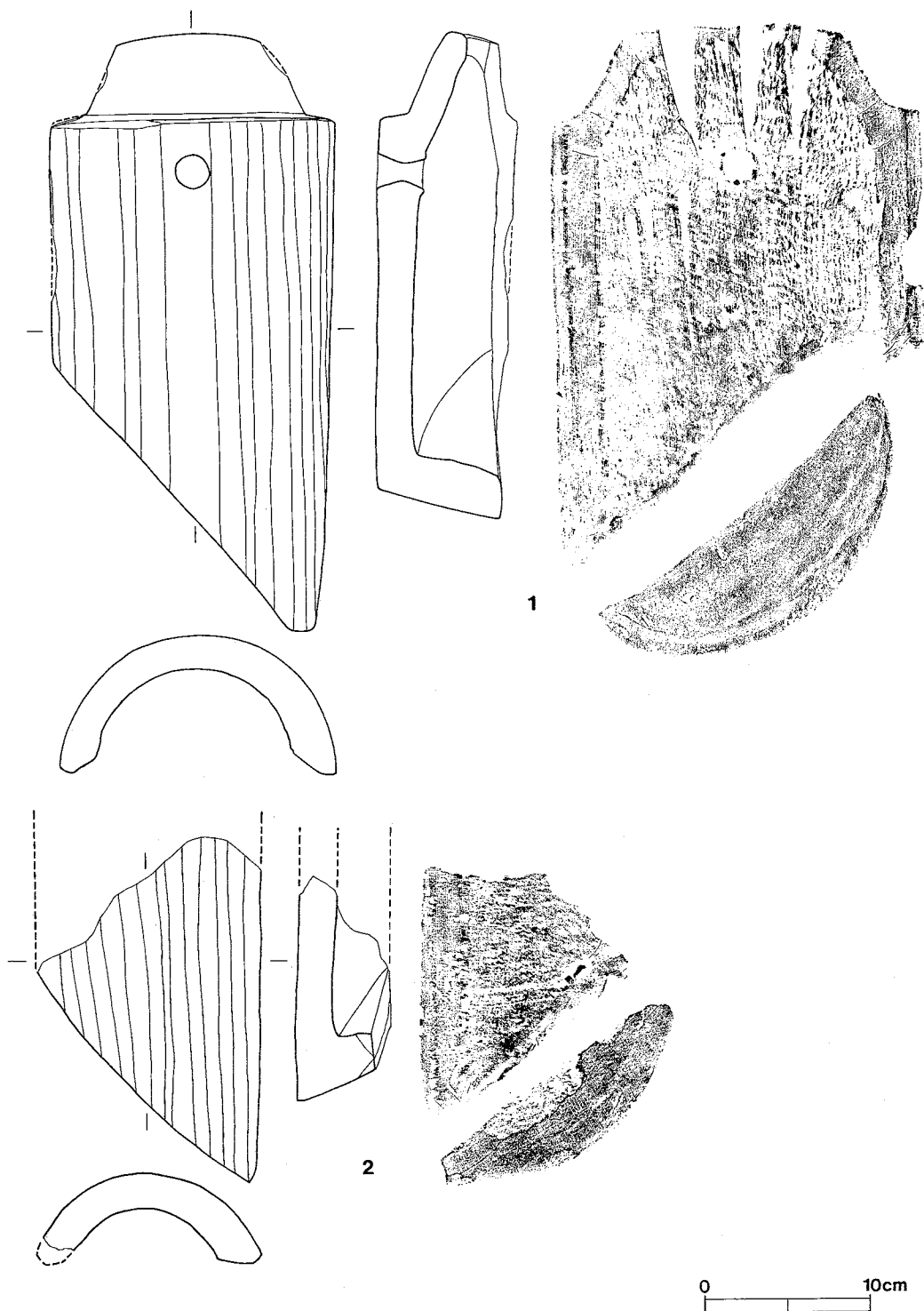
第264图 瓦1期道具瓦(2)



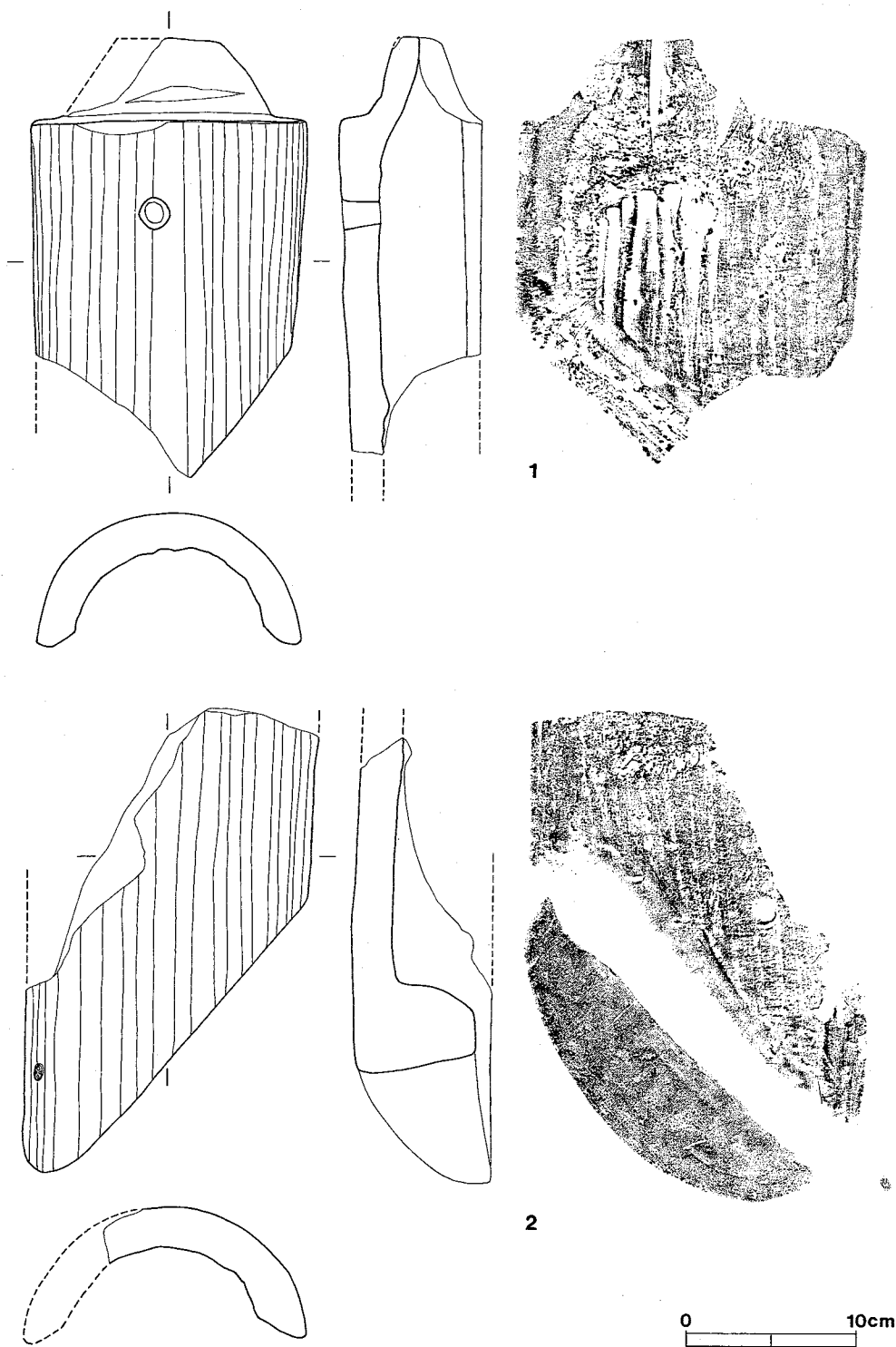
第265图 瓦1期道具瓦(3)



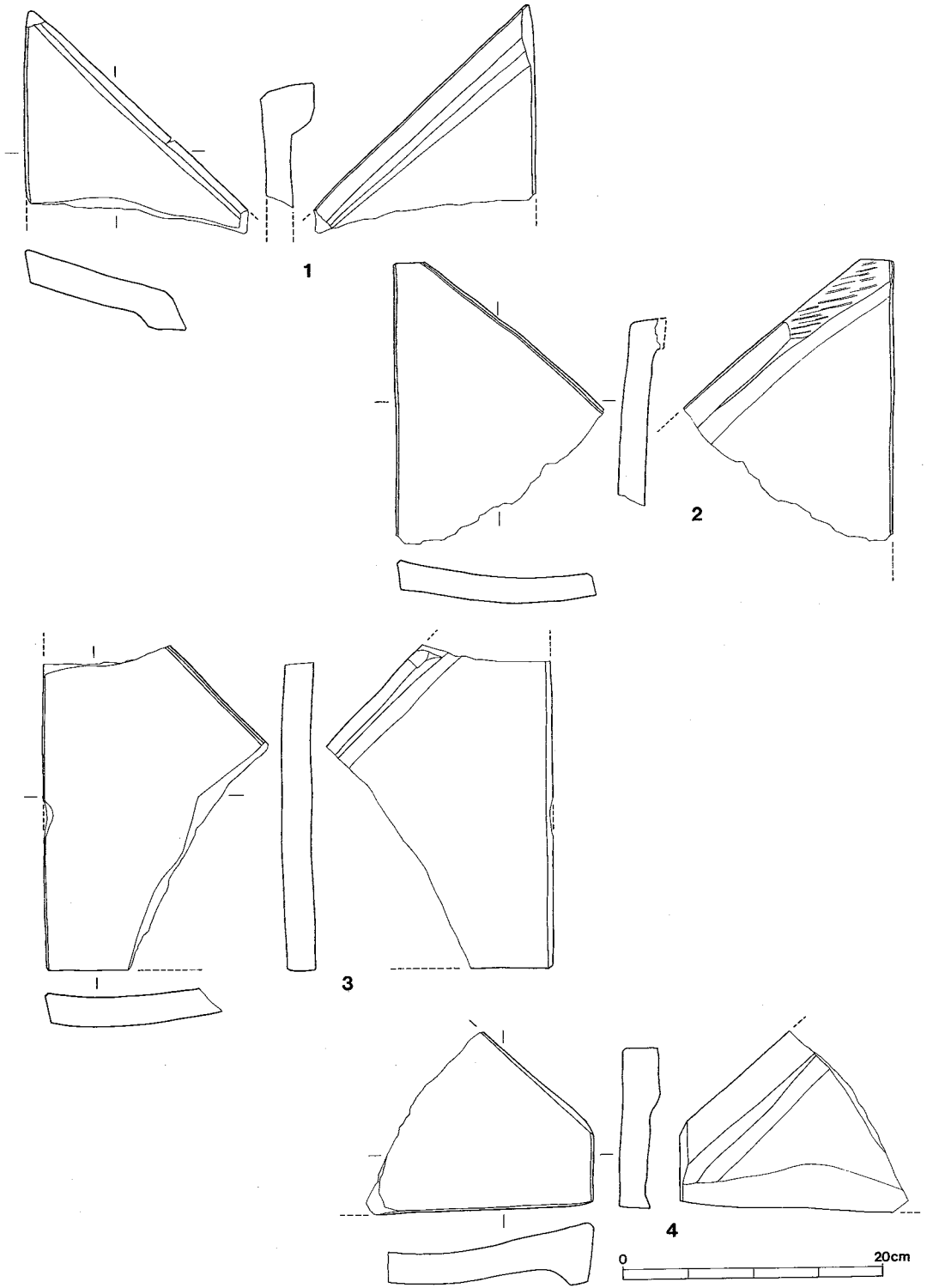
第266图 瓦1期道具瓦(4)



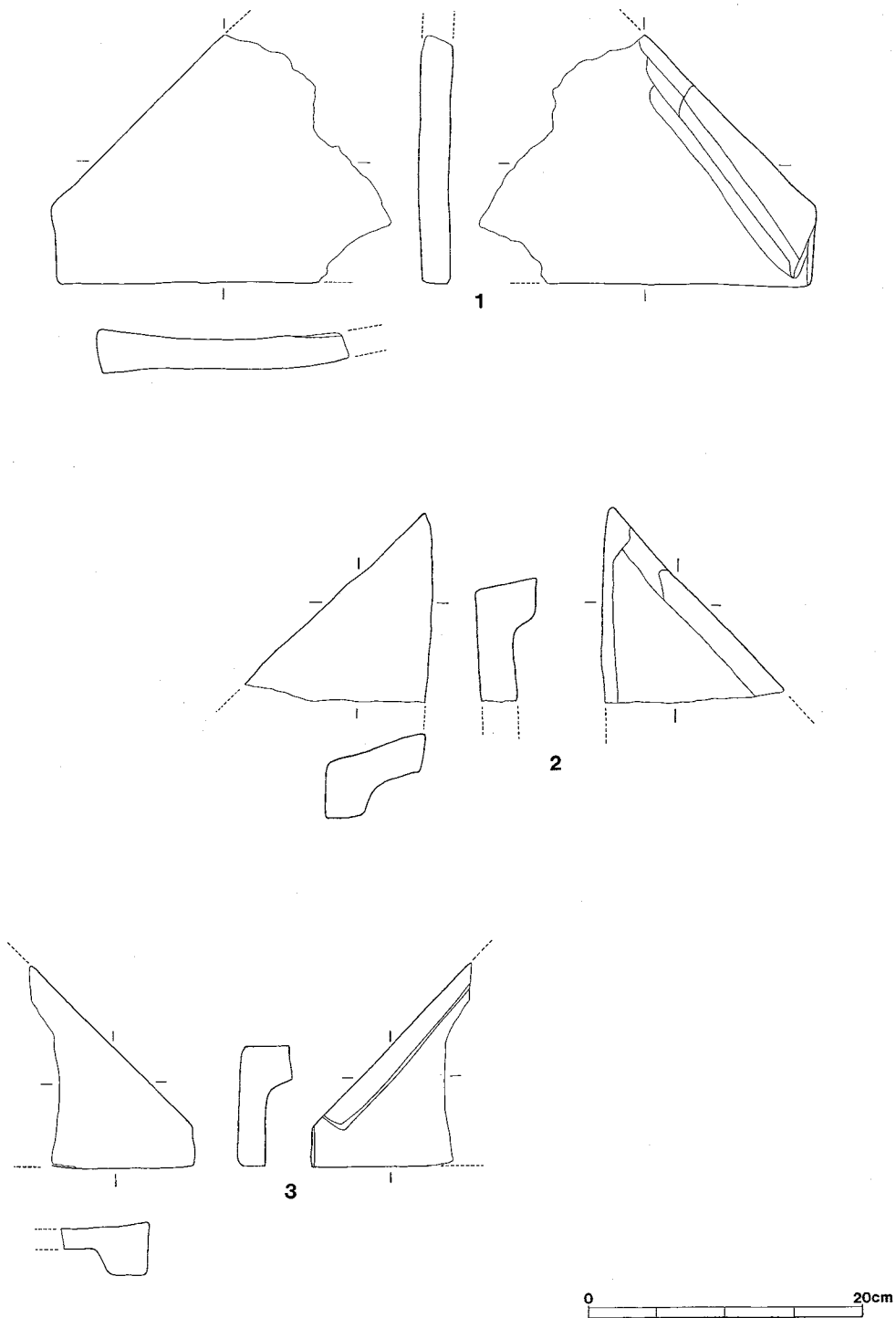
第267图 瓦1期谷丸瓦(1)



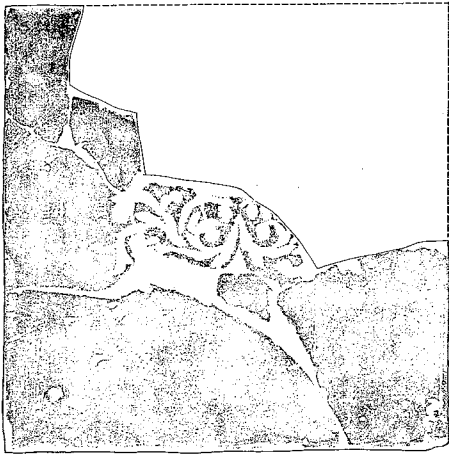
第268図 瓦 1 期谷丸瓦(2)



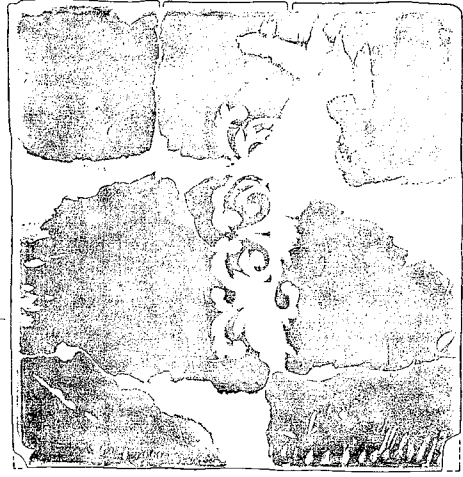
第269图 瓦1期谷平瓦(1)



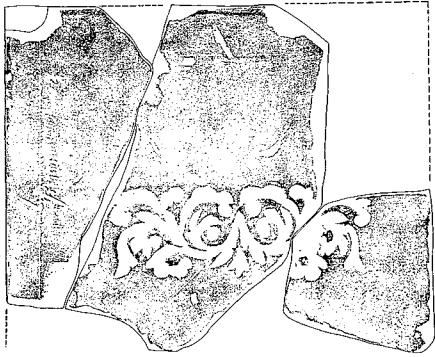
第270图 瓦1期谷平瓦(2)



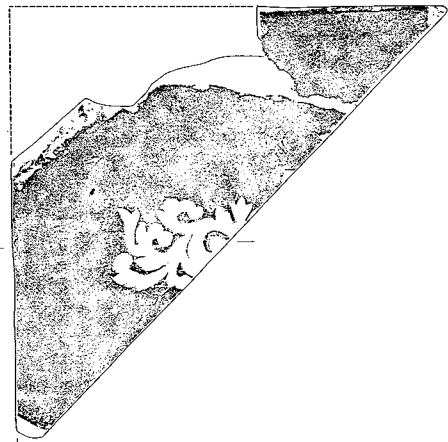
1



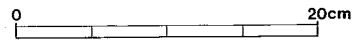
2



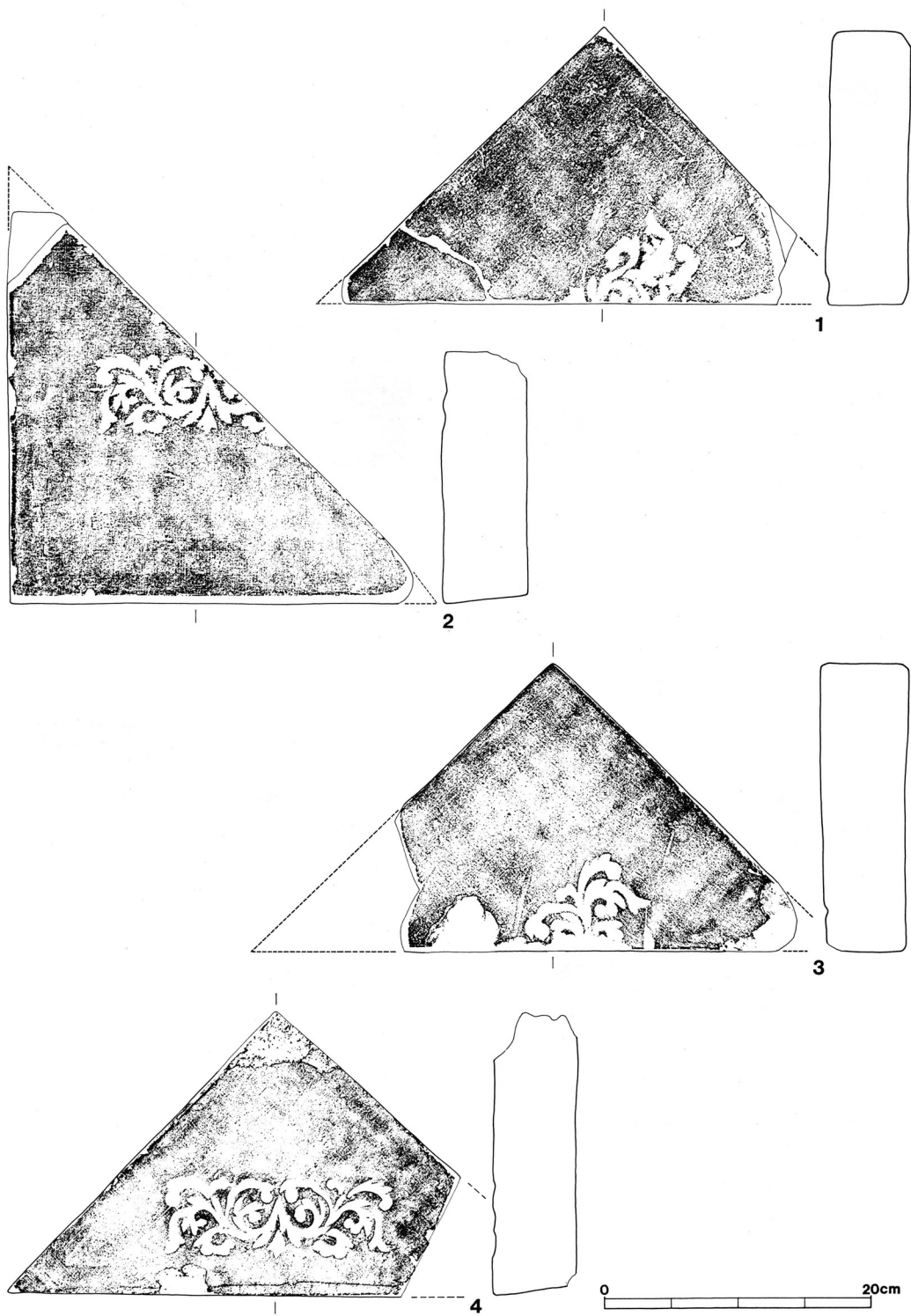
3



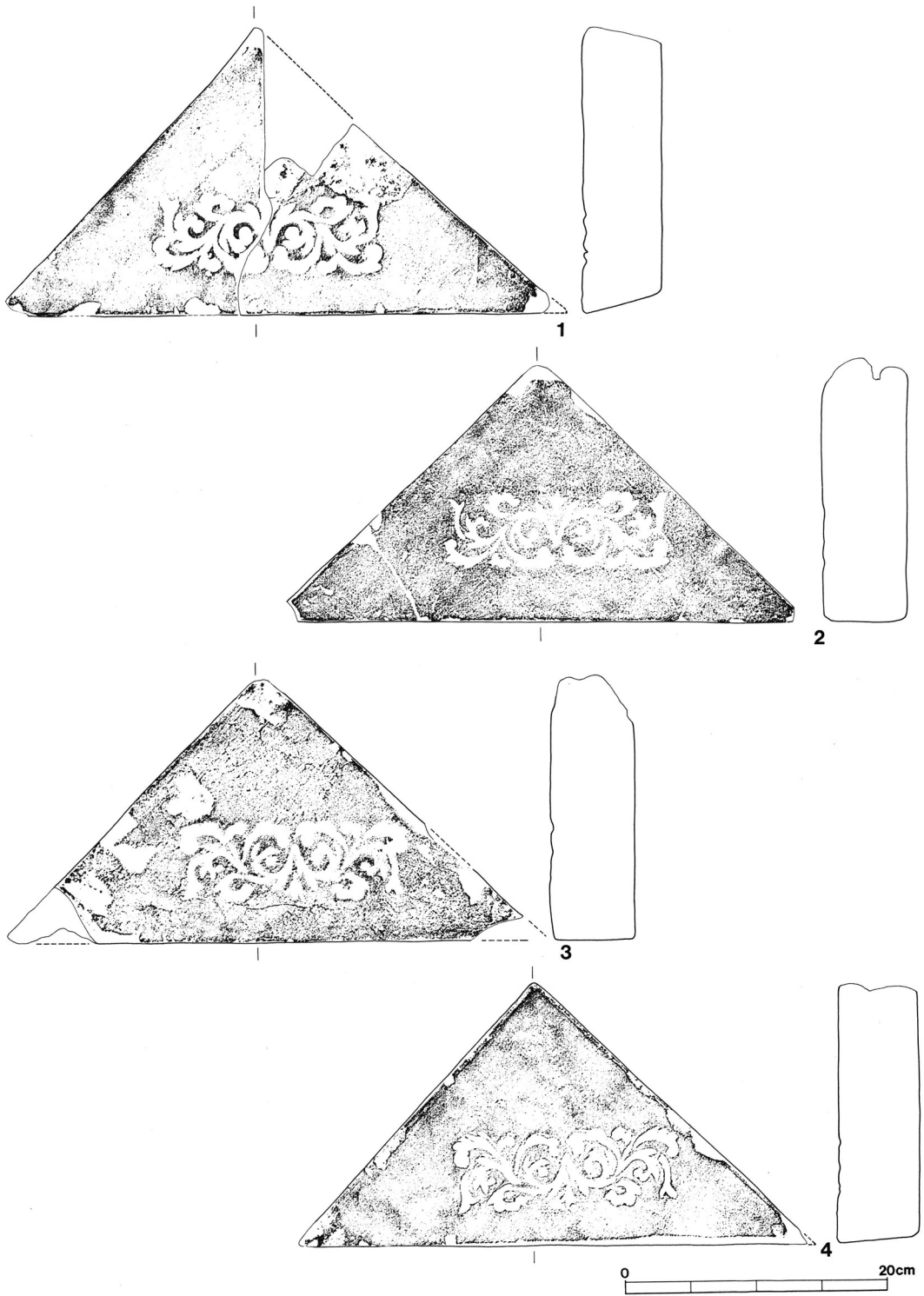
4



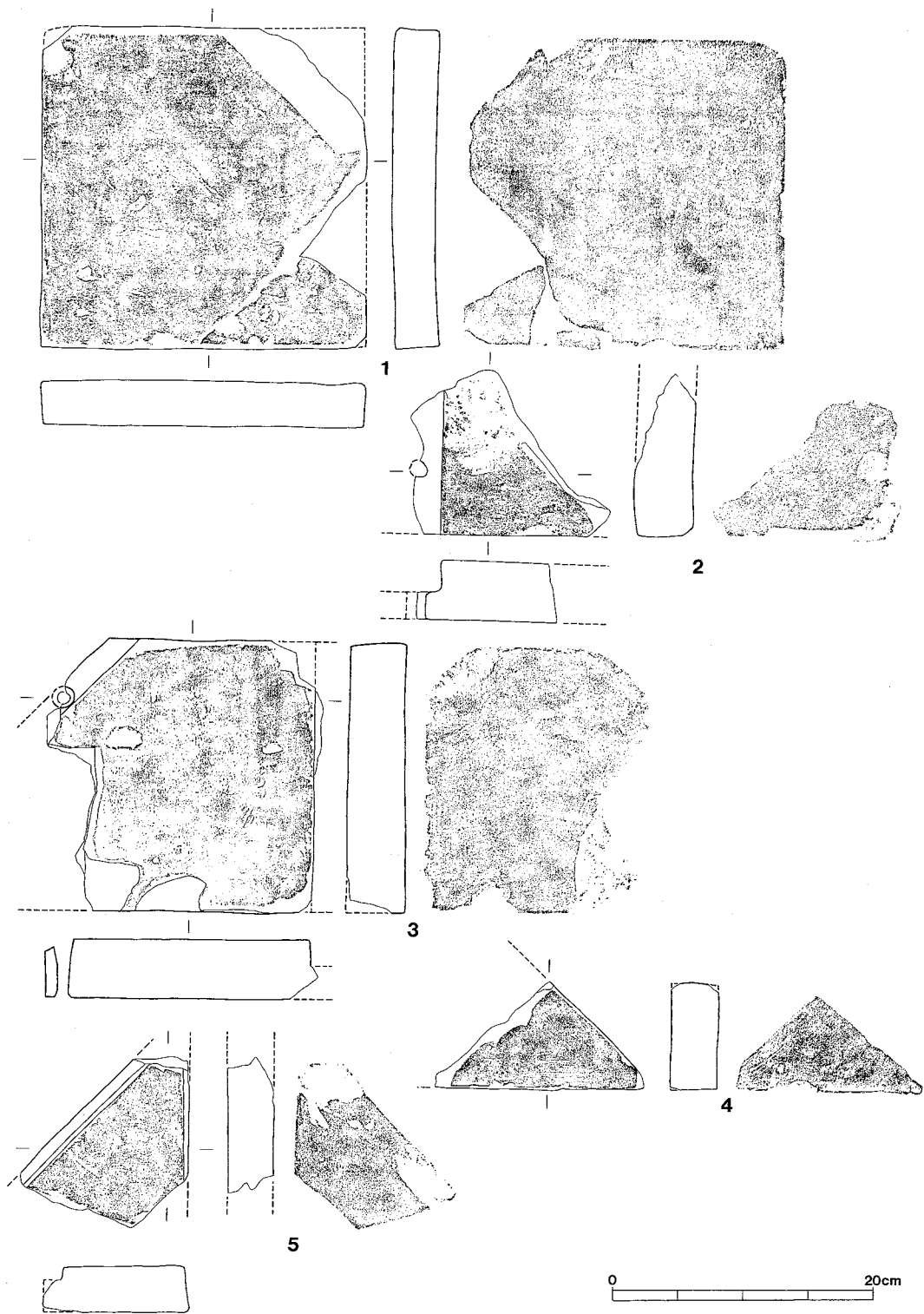
第271图 瓦1期埴(1)



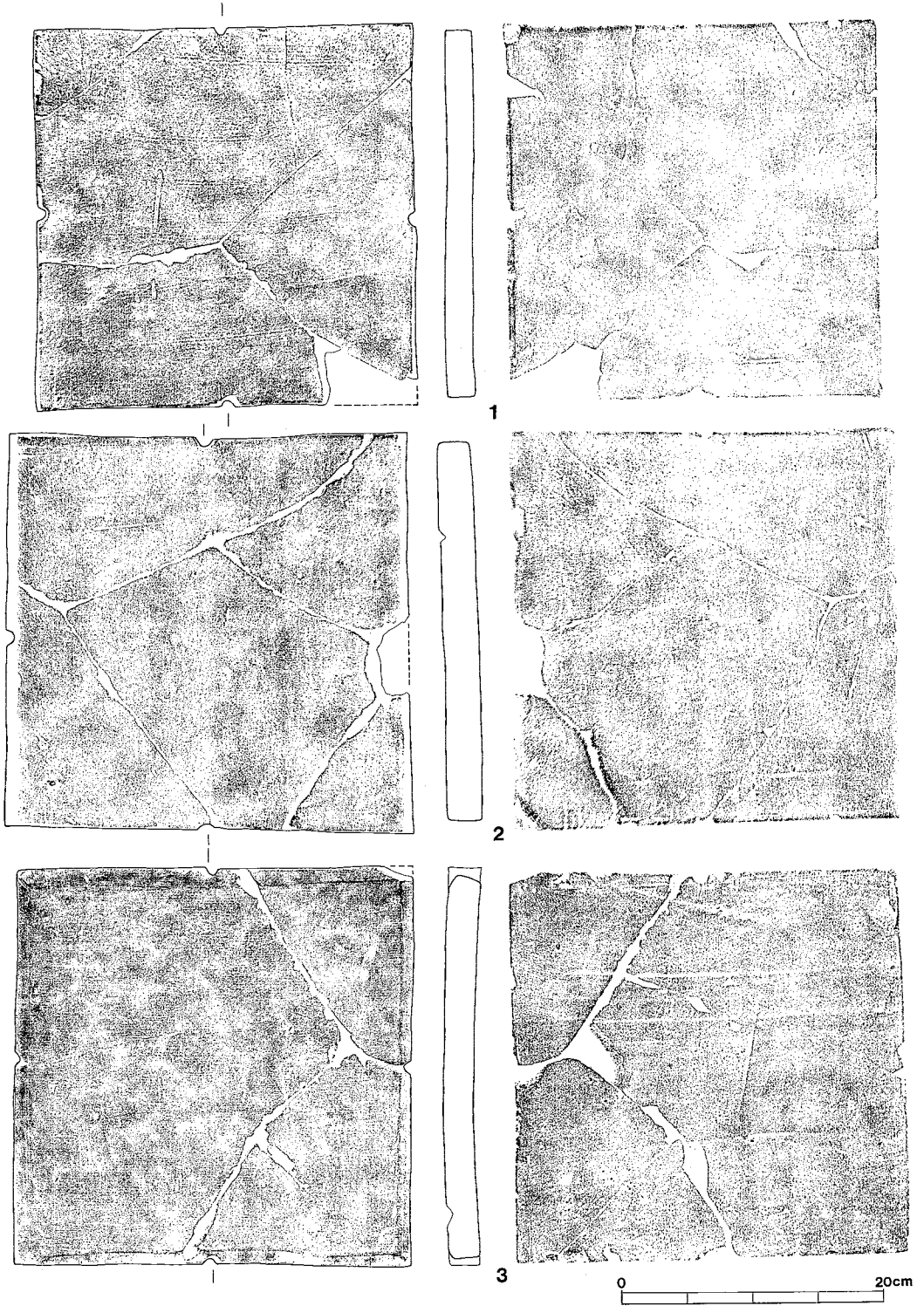
第272图 瓦1期埽(2)



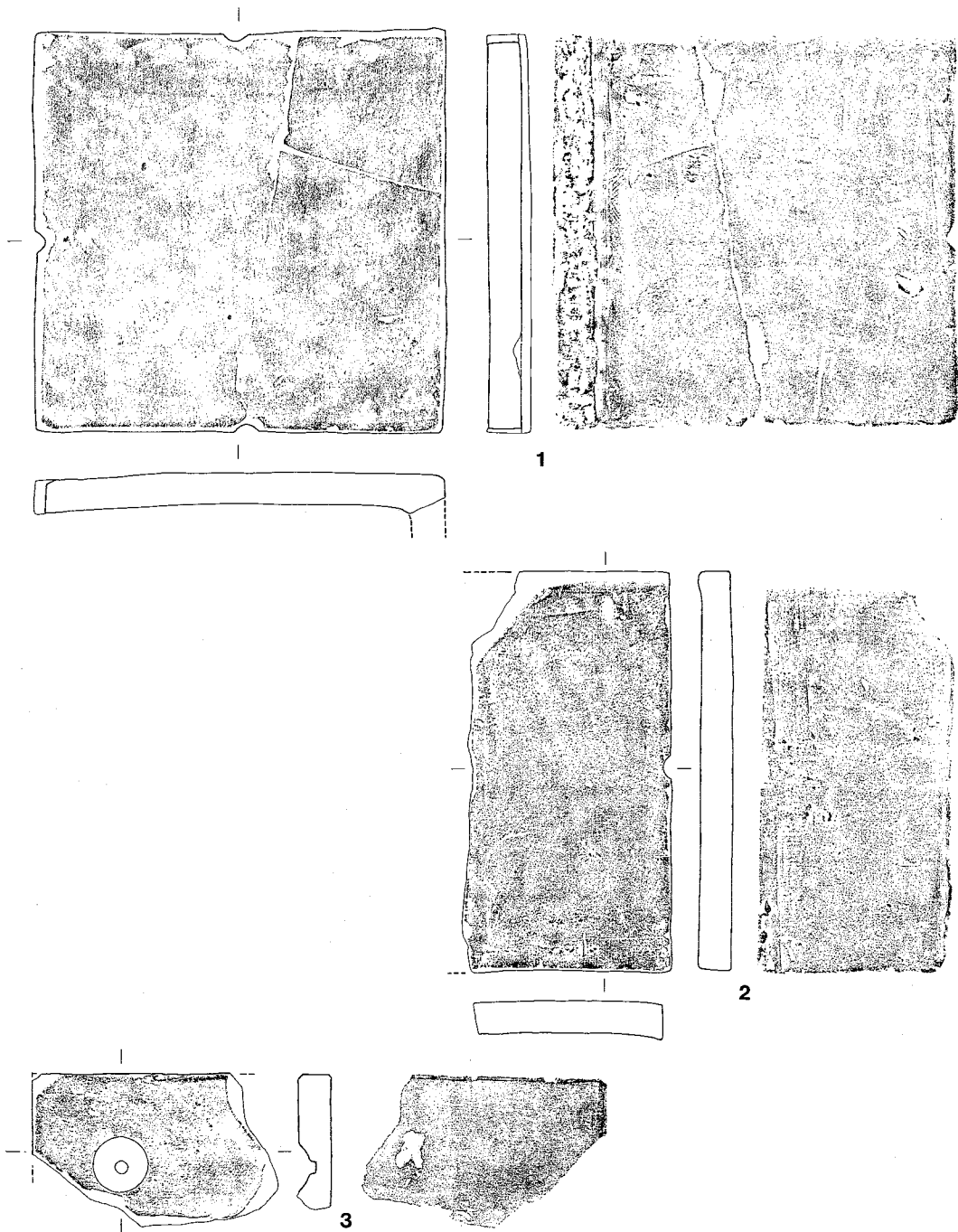
第273图 瓦1期埽(3)



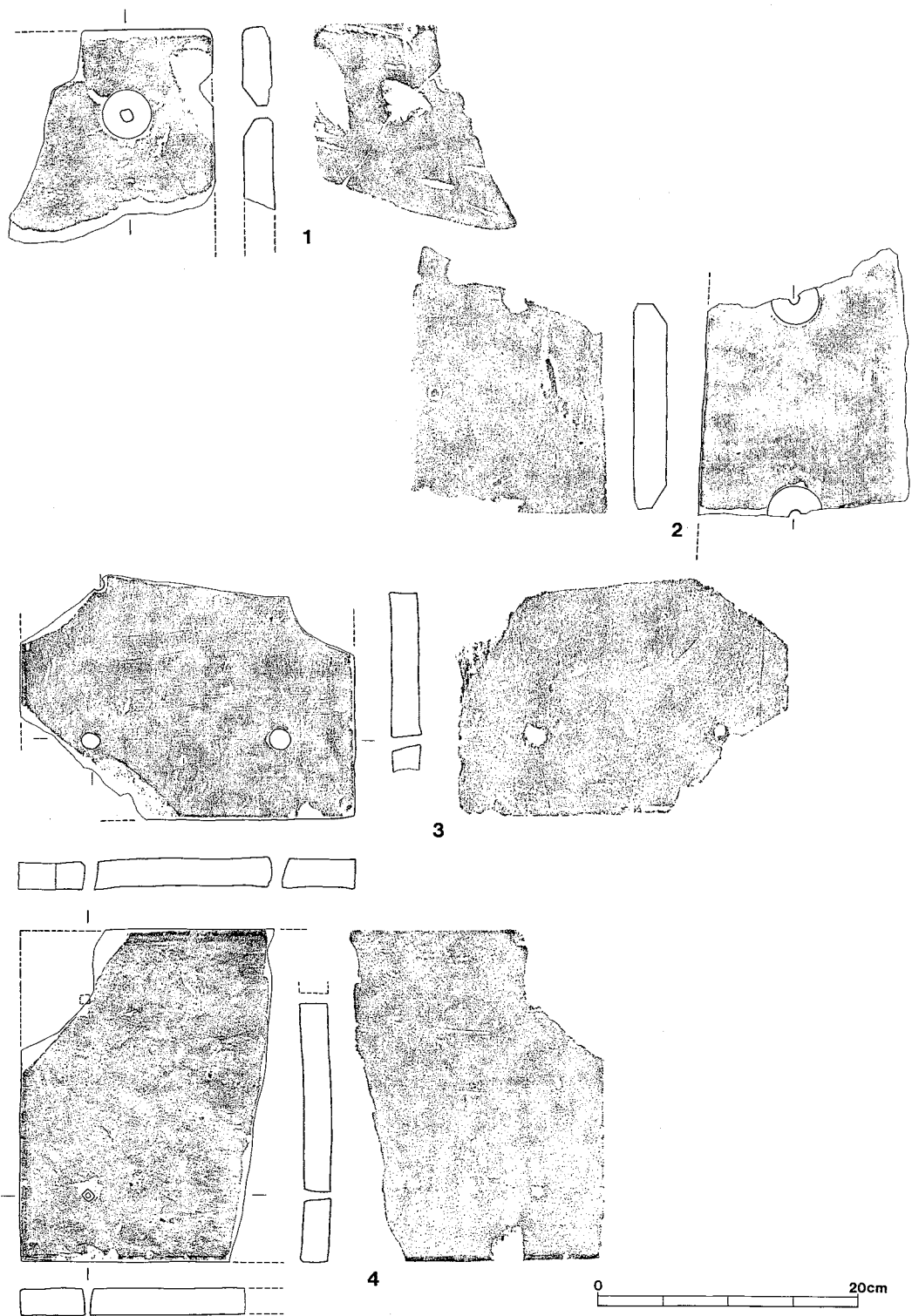
第274图 瓦1期埽(4)



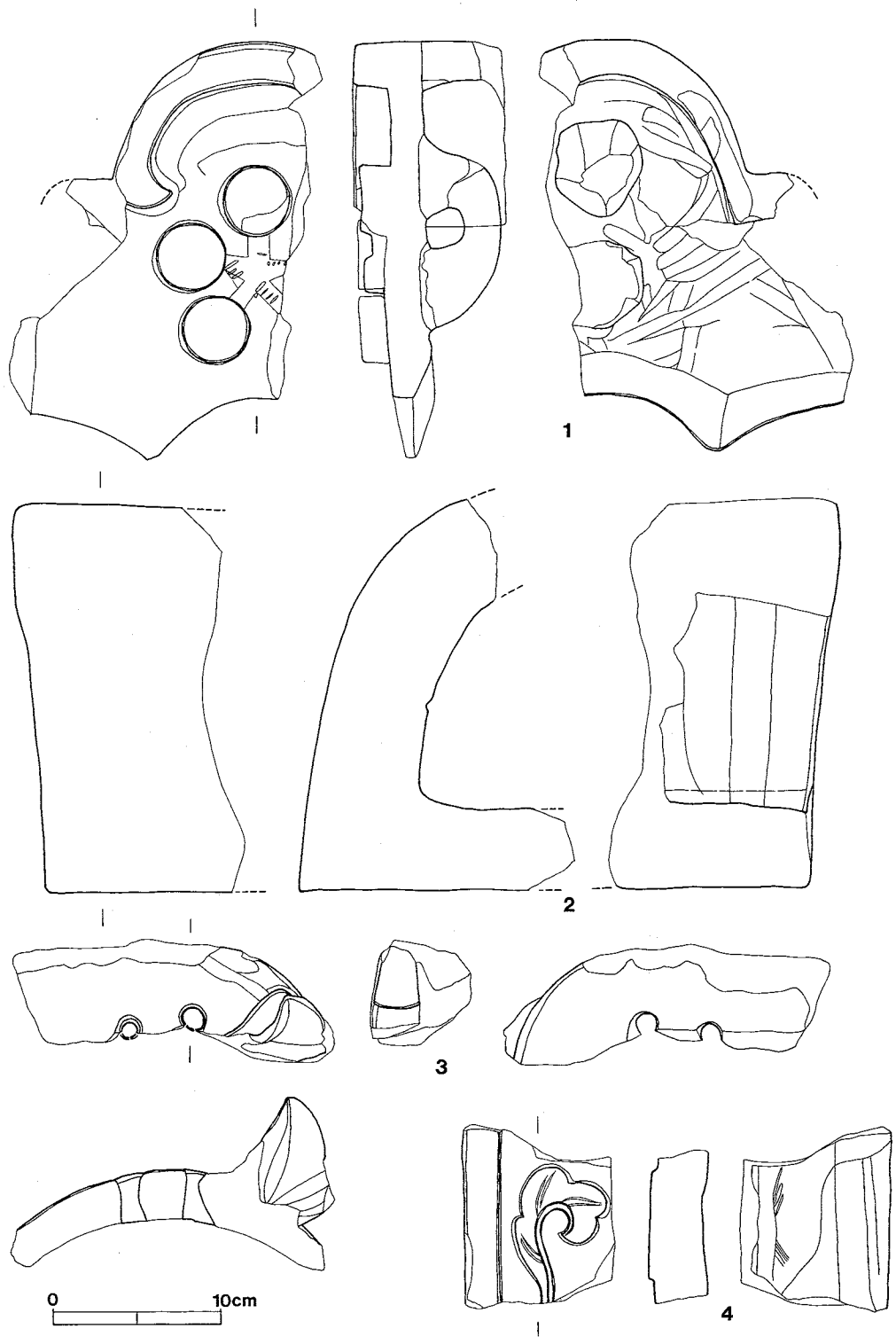
第275図 瓦1期海鼠瓦(1)



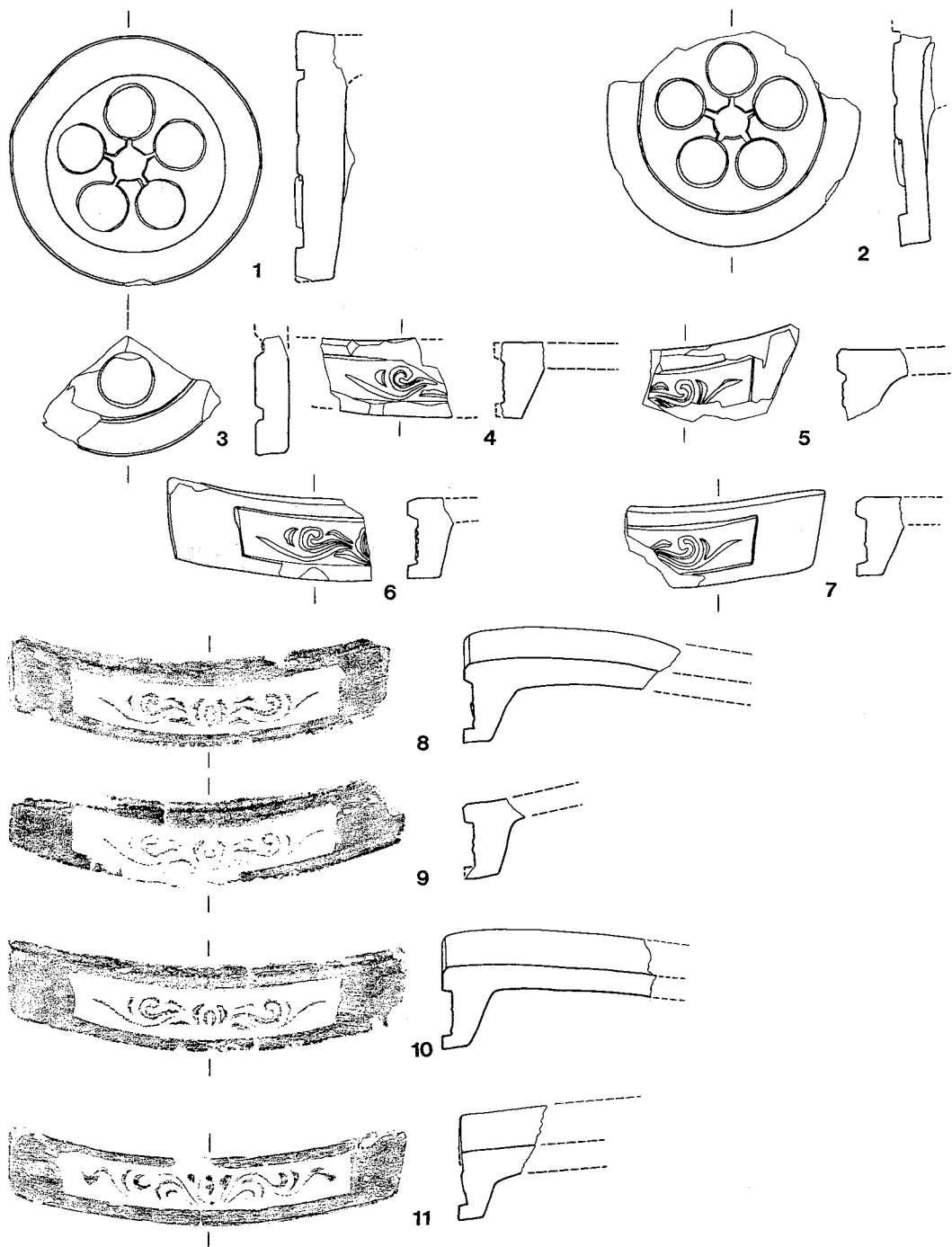
第276図 瓦1期海鼠瓦(2)



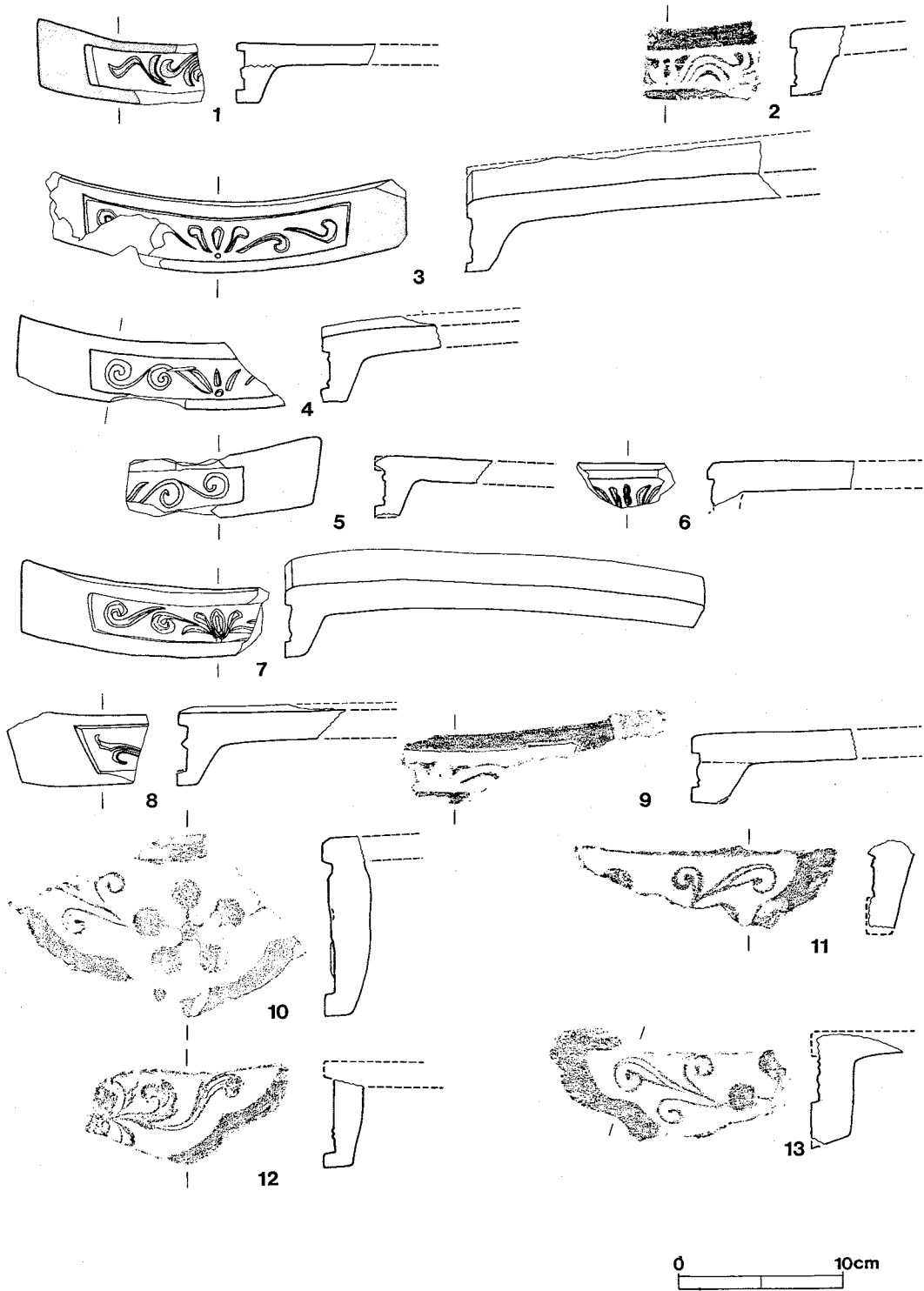
第277図 瓦1期海鼠瓦(3)



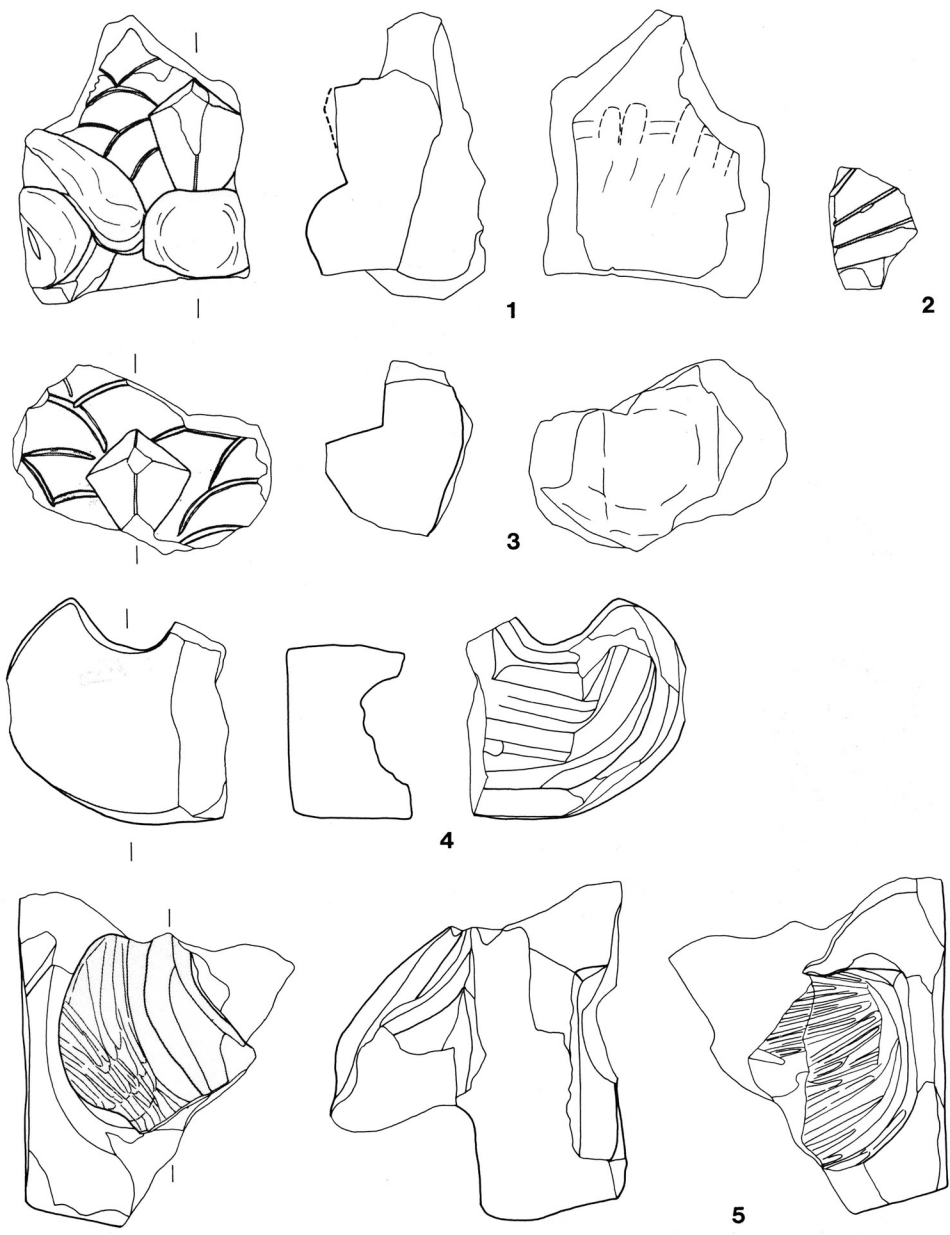
第278图 瓦1期鬼瓦



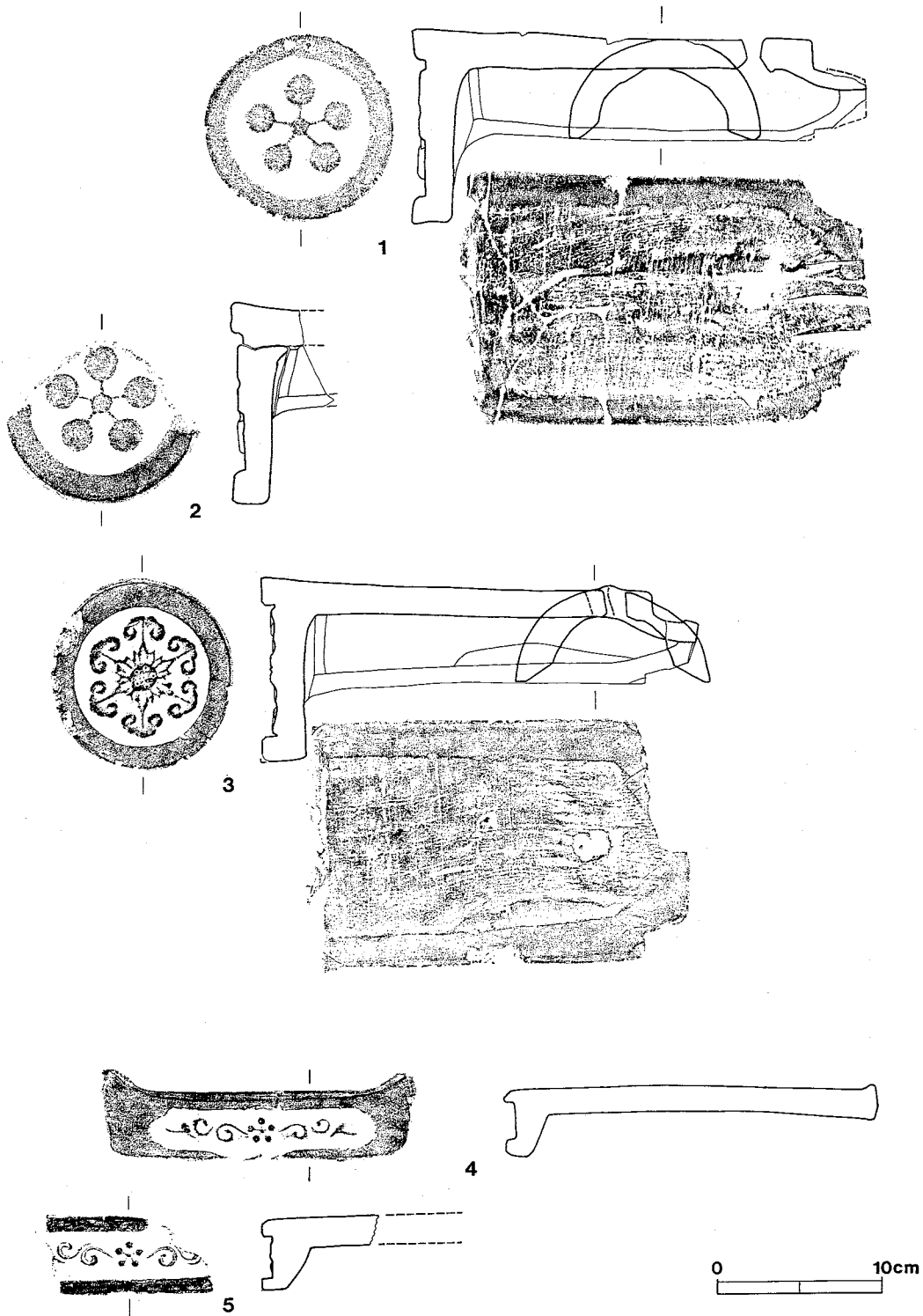
第279图 瓦1期金箔瓦(1)



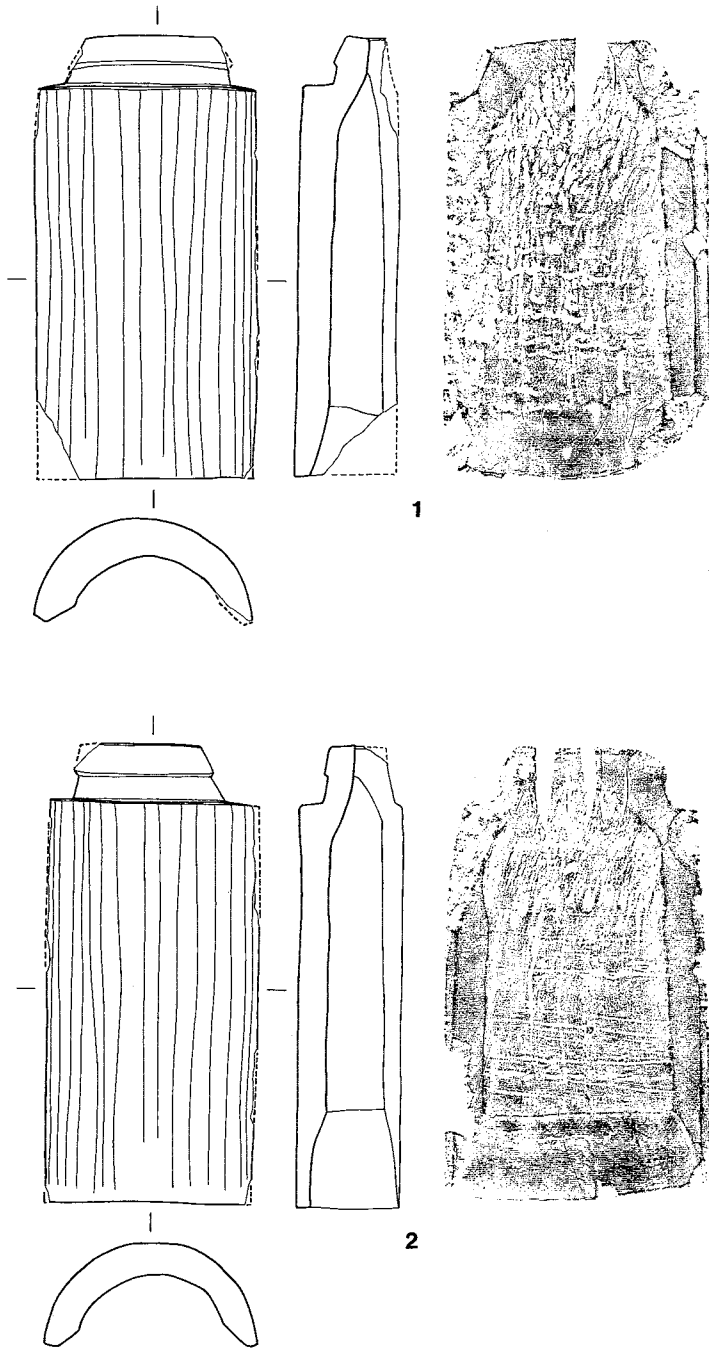
第280图 瓦1期金箔瓦(2)



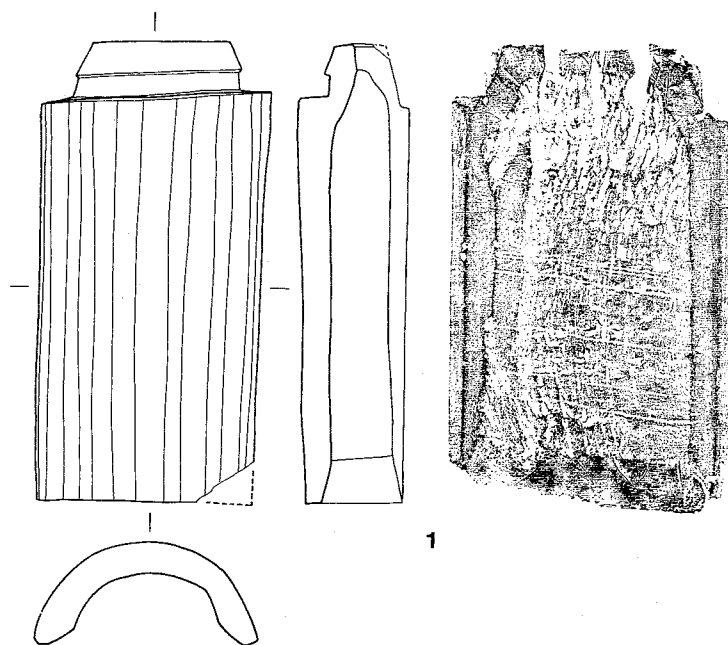
第281图 瓦1期金箔瓦(3)



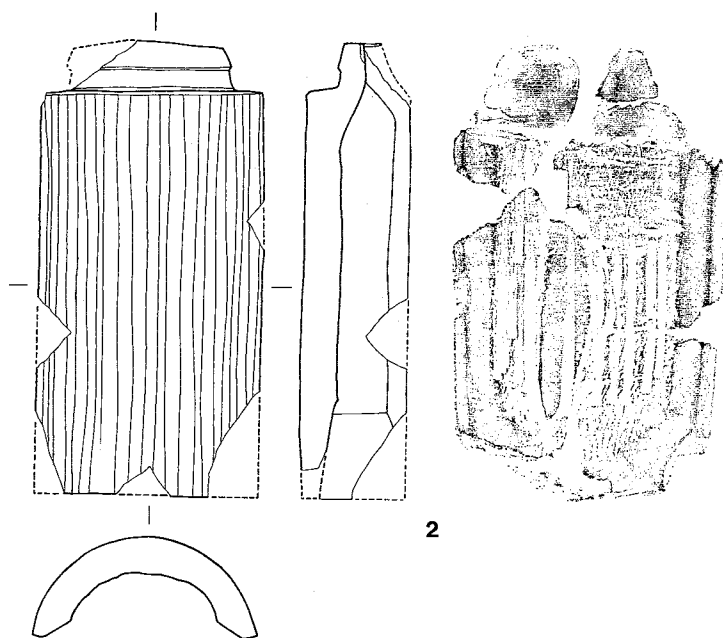
第282図 瓦1期軒丸・軒平瓦



第283图 瓦1期丸瓦(1)



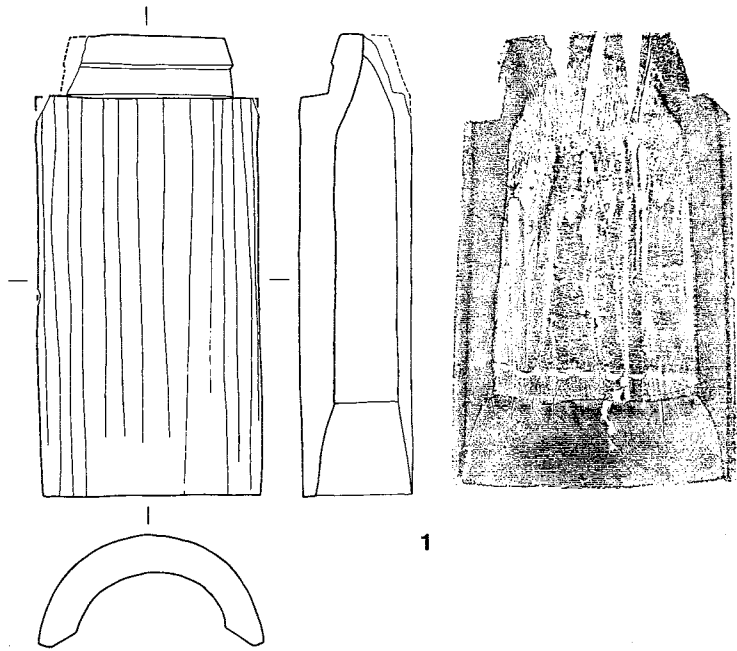
1



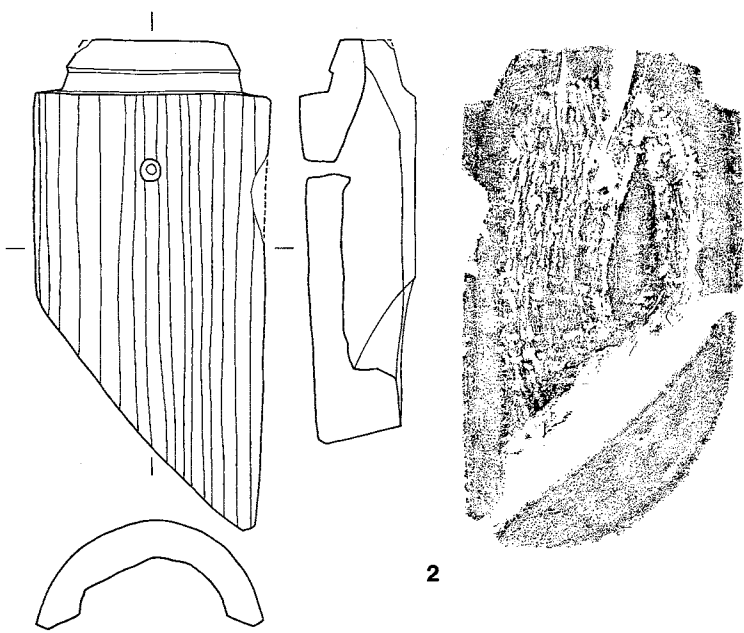
2

0 10cm

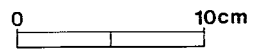
第284图 瓦1期丸瓦(2)



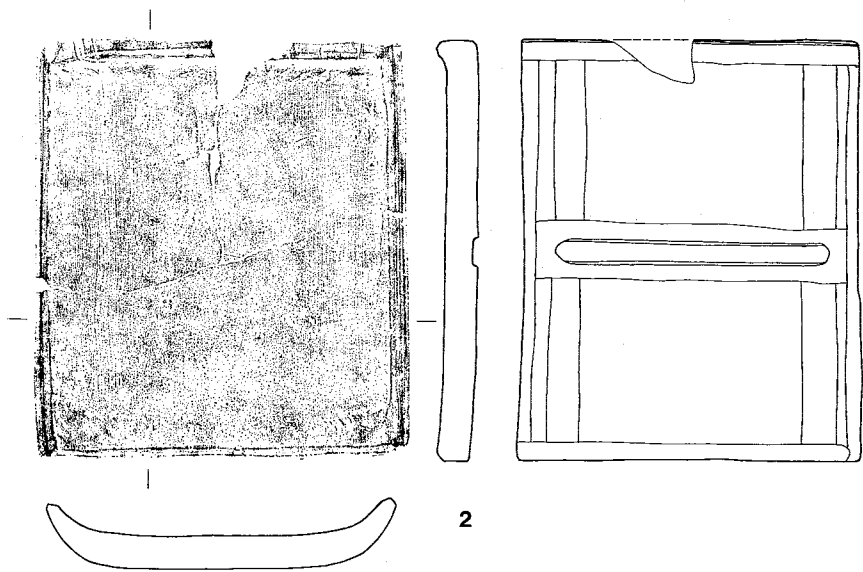
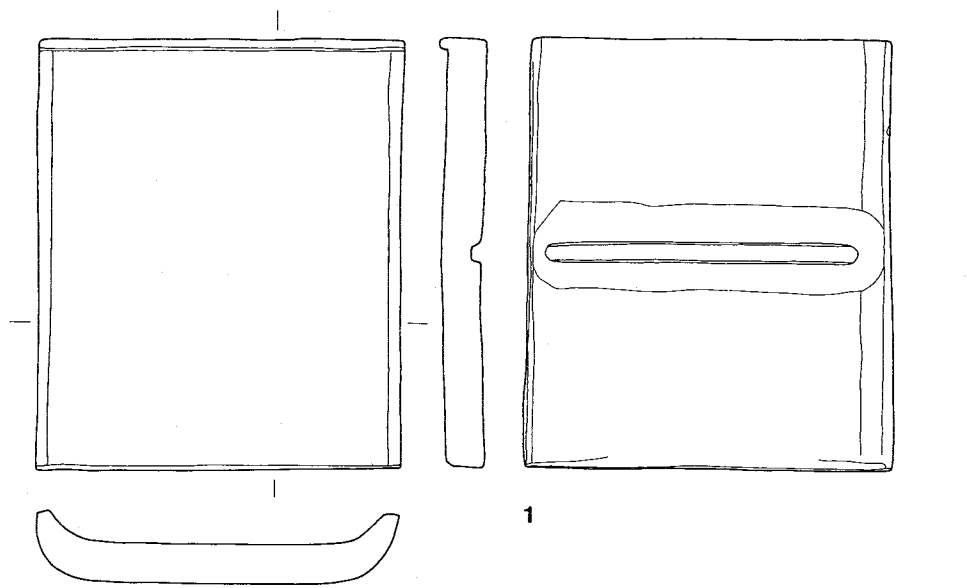
1



2

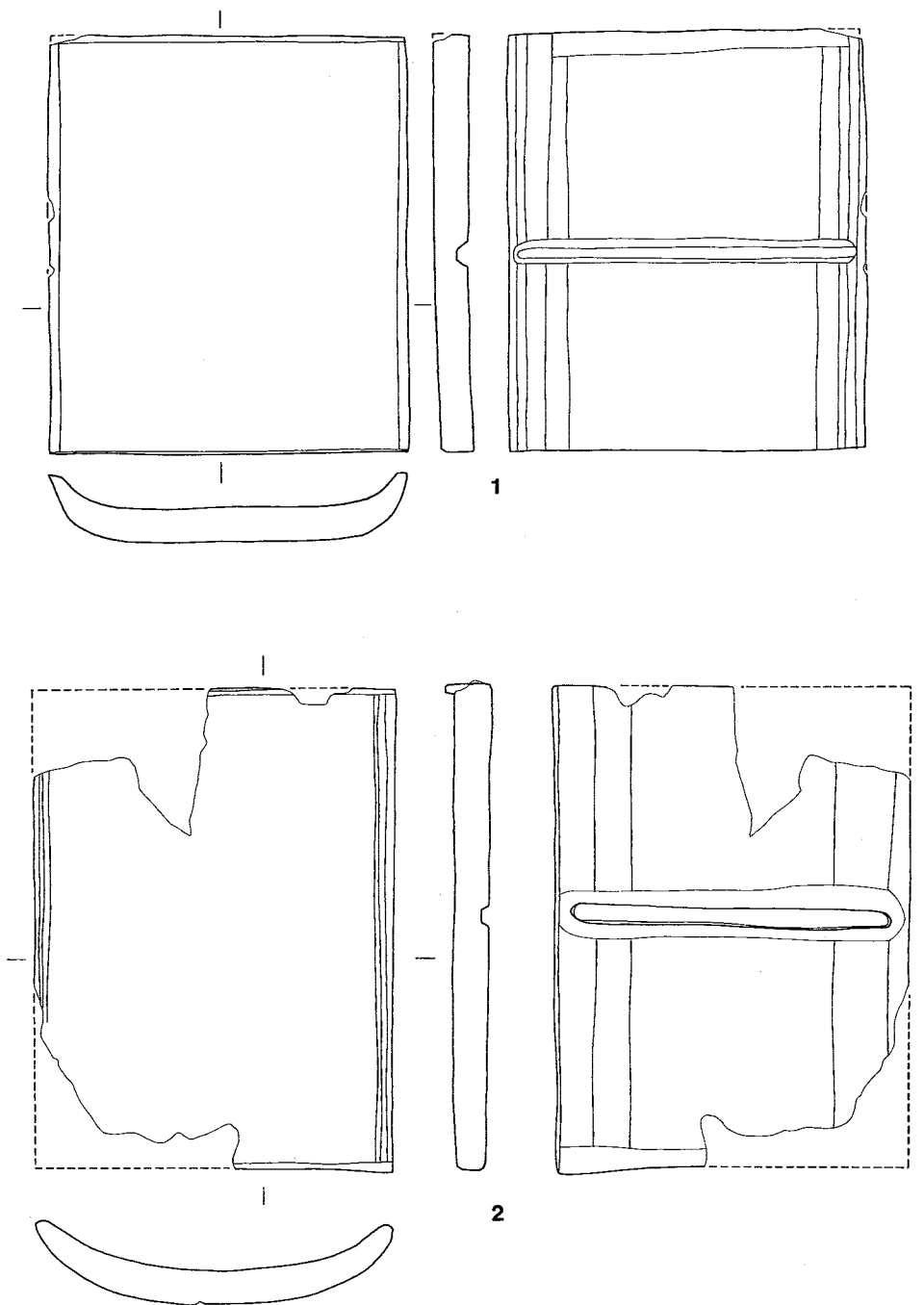


第285图 瓦1期丸瓦(3)・谷丸瓦

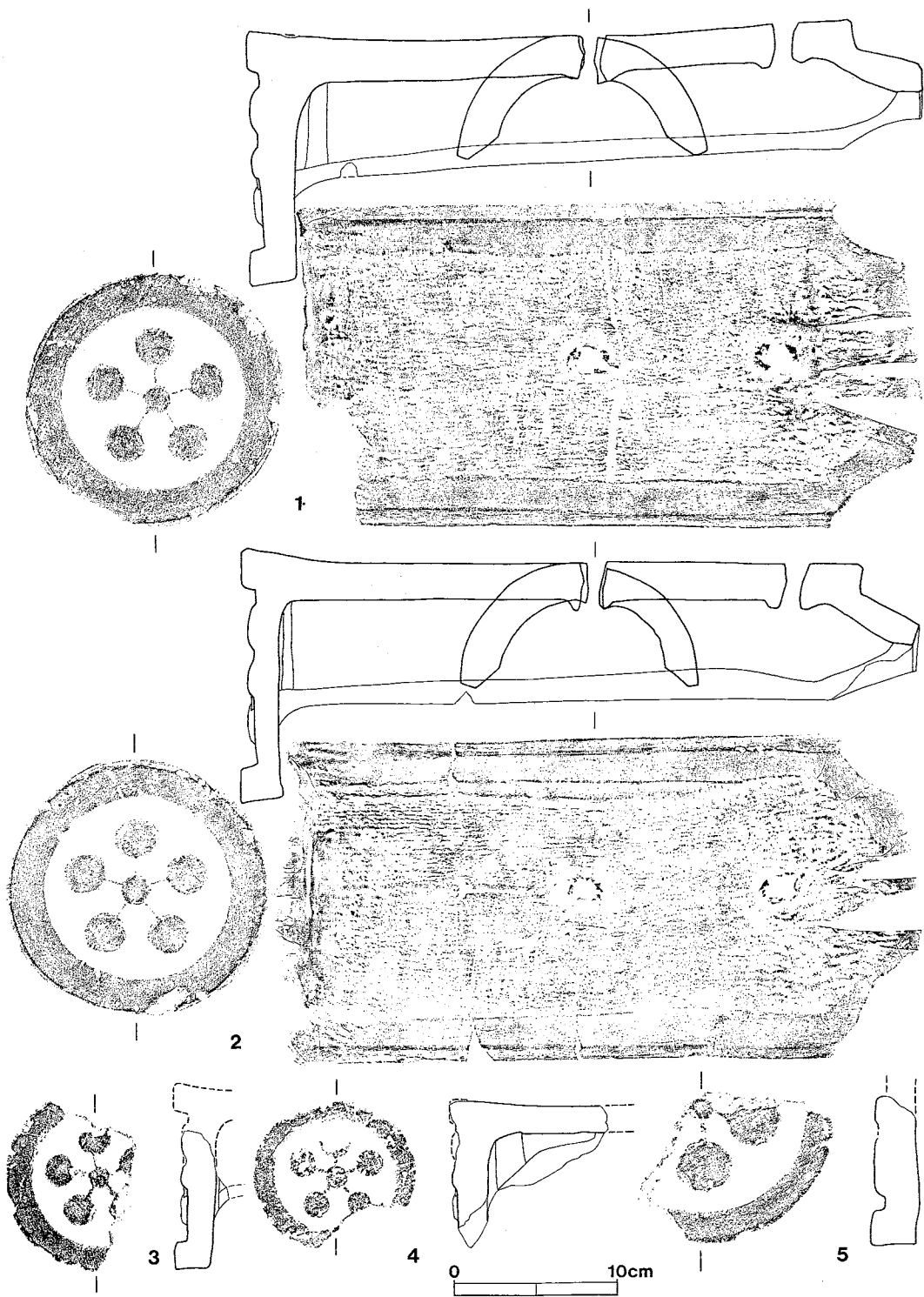


0 10cm

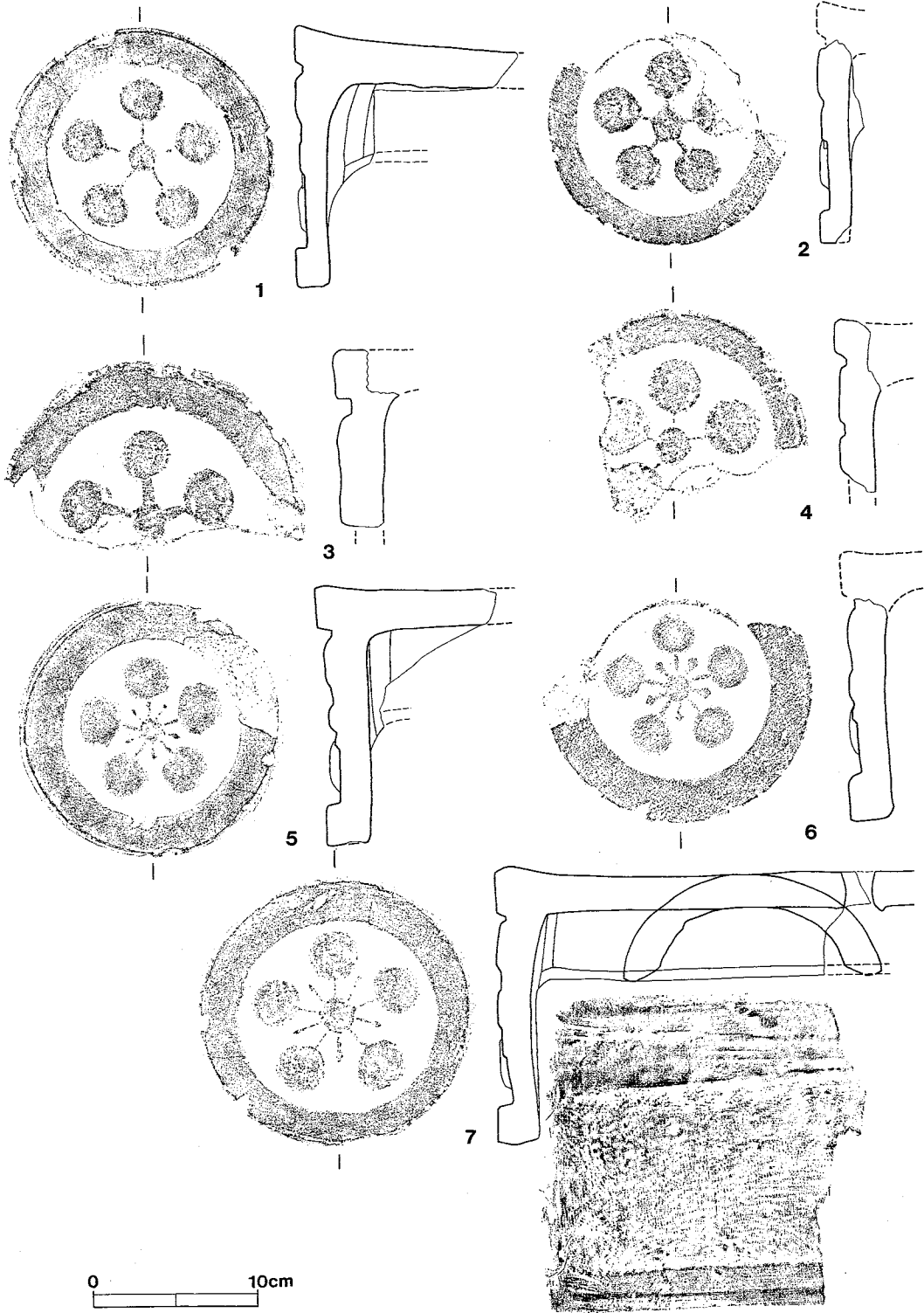
第286图 瓦1期平瓦(1)



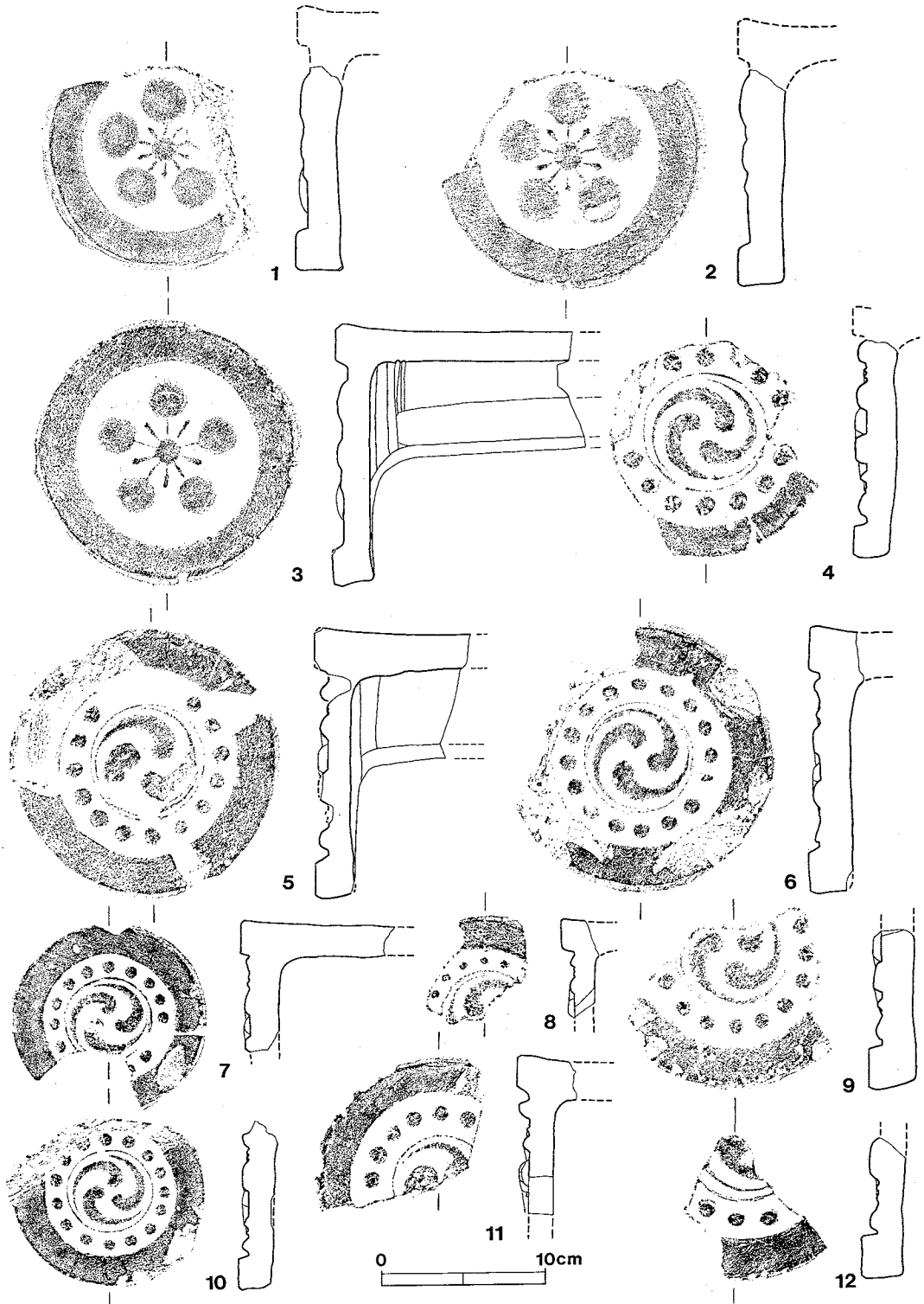
第287图 瓦 1 期平瓦(2)



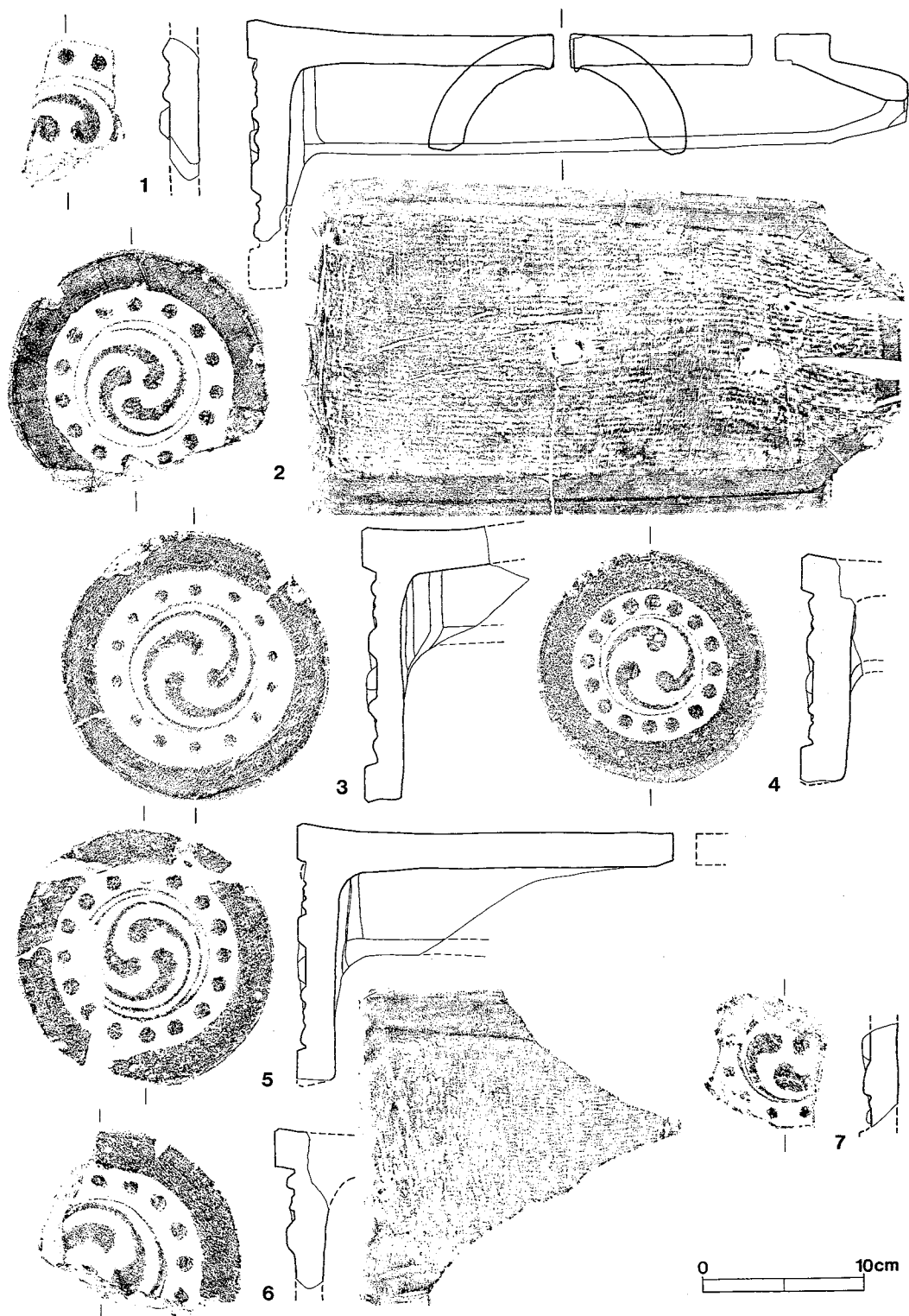
第288図 瓦 2期軒丸瓦(1)



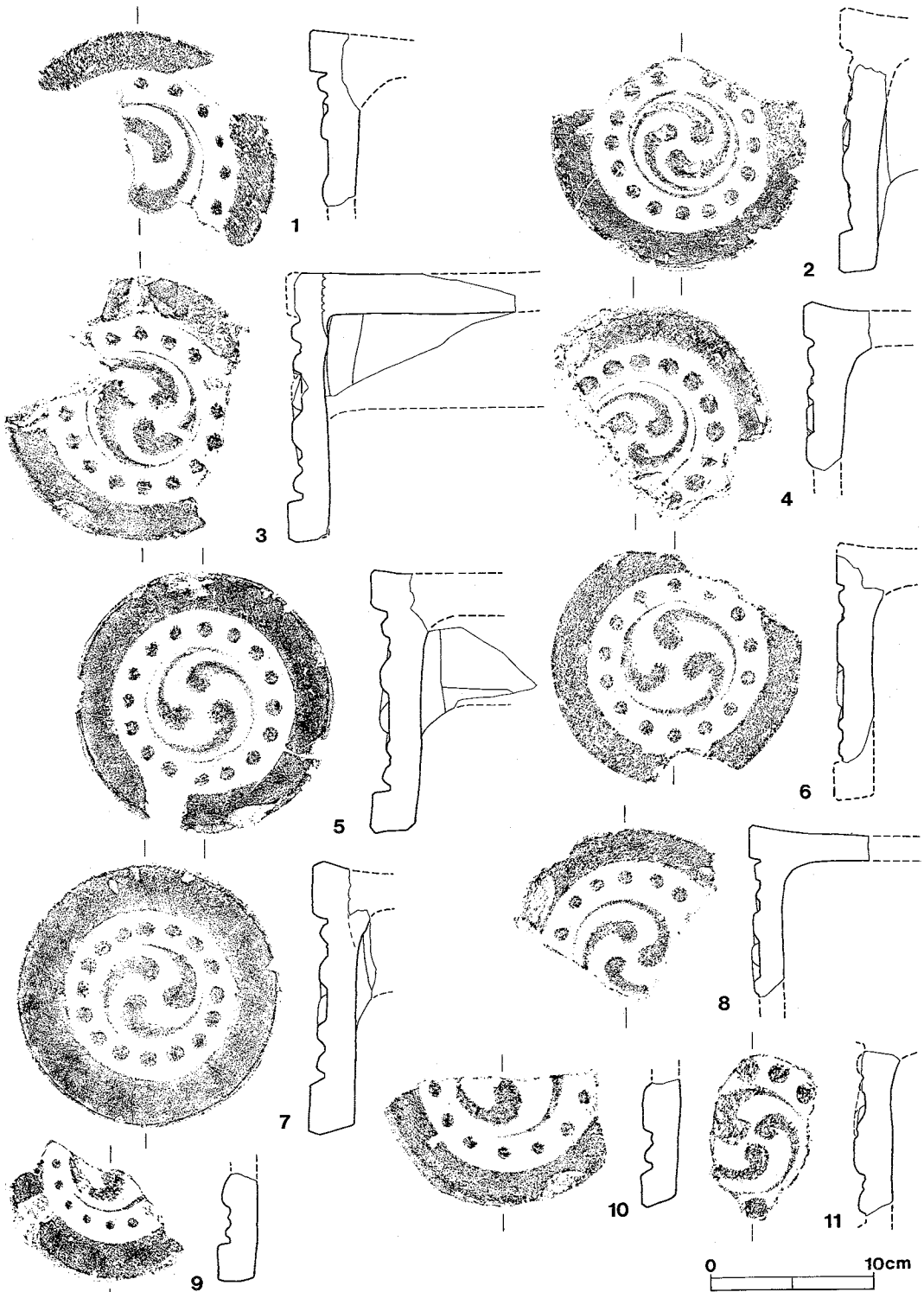
第289図 瓦 2 期軒丸瓦(2)



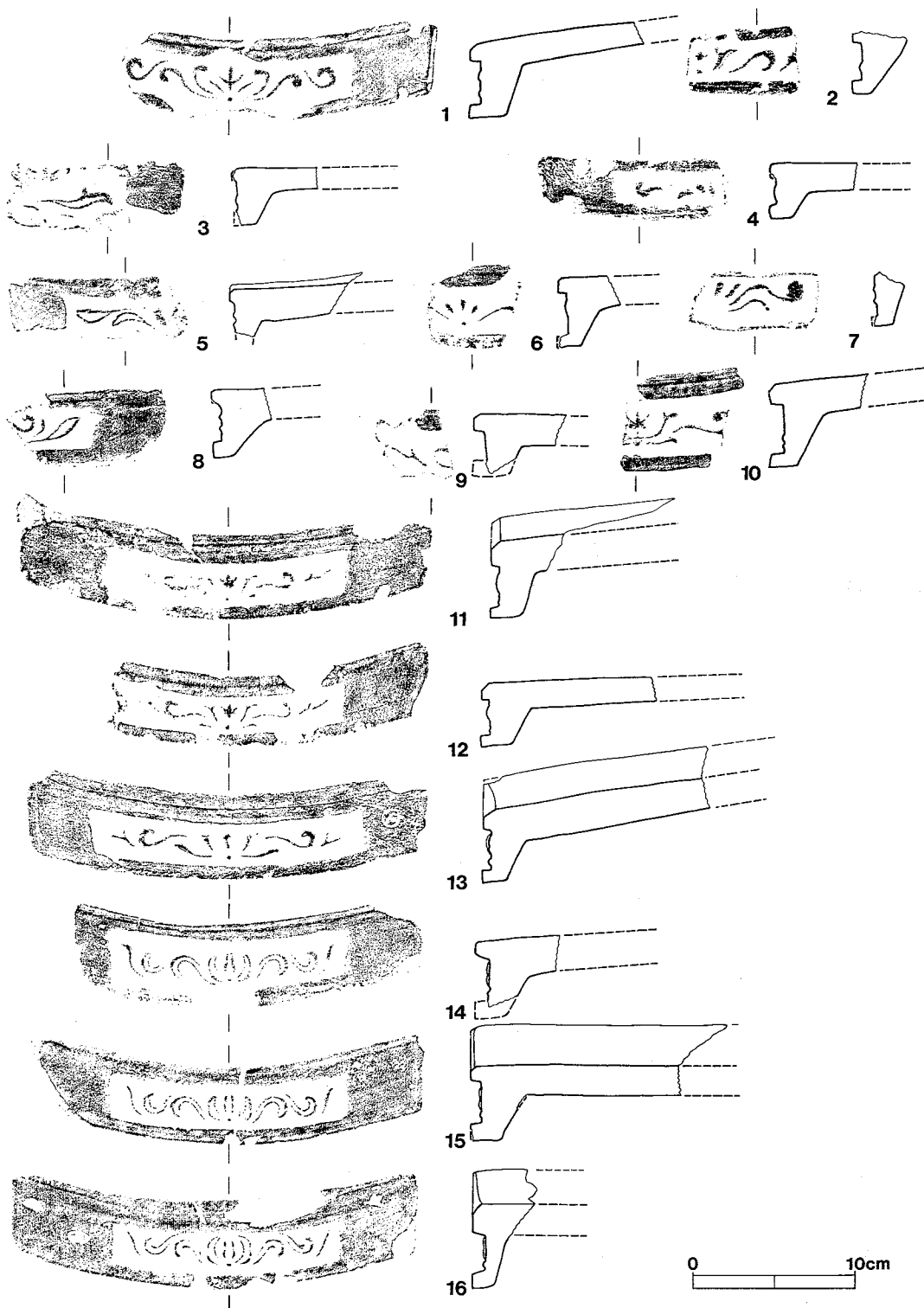
第290图 瓦2期軒丸瓦(3)



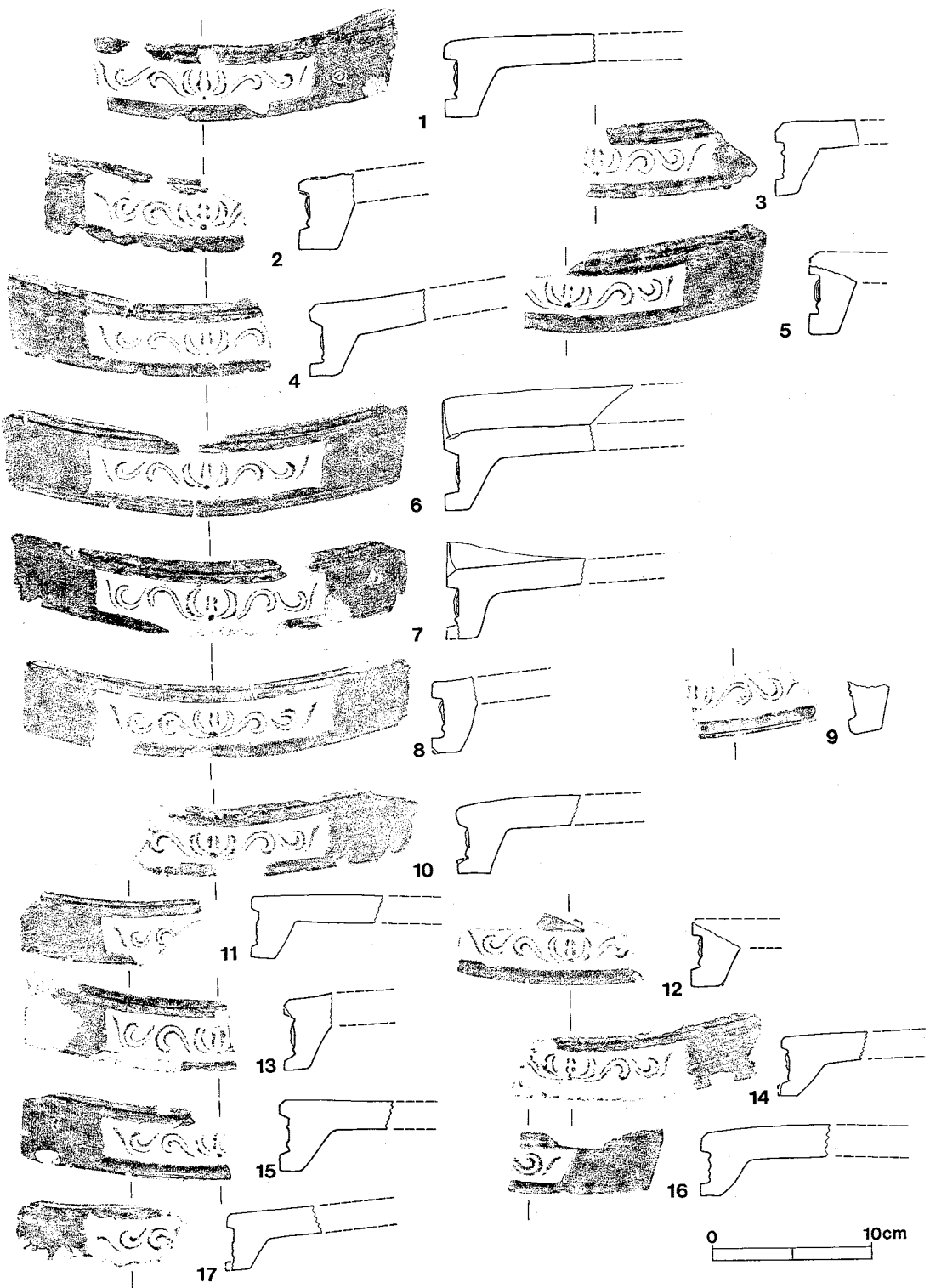
第291图 瓦2期軒丸瓦(4)



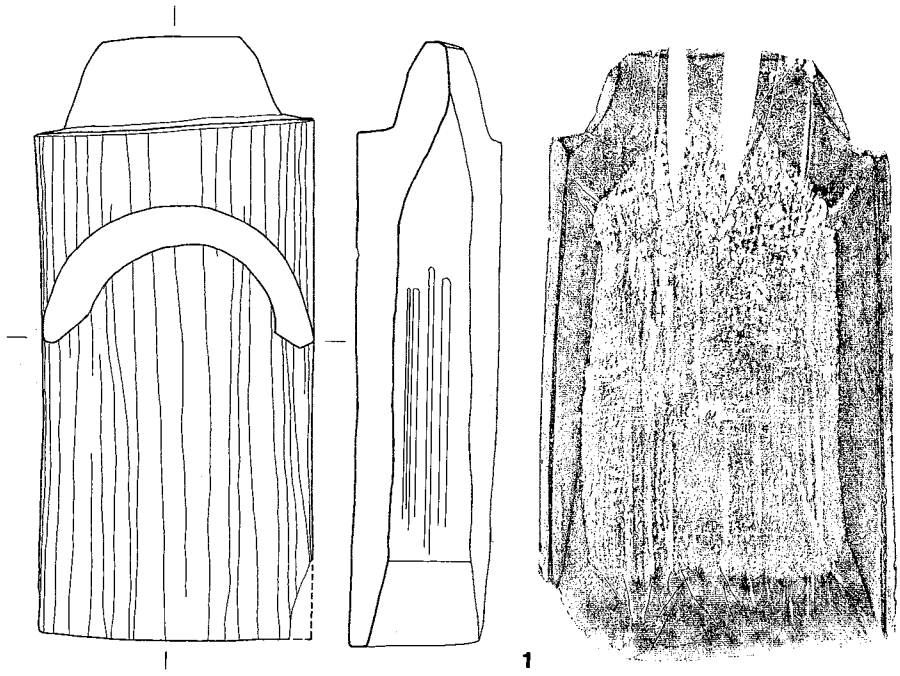
第292図 瓦2期軒丸瓦(5)



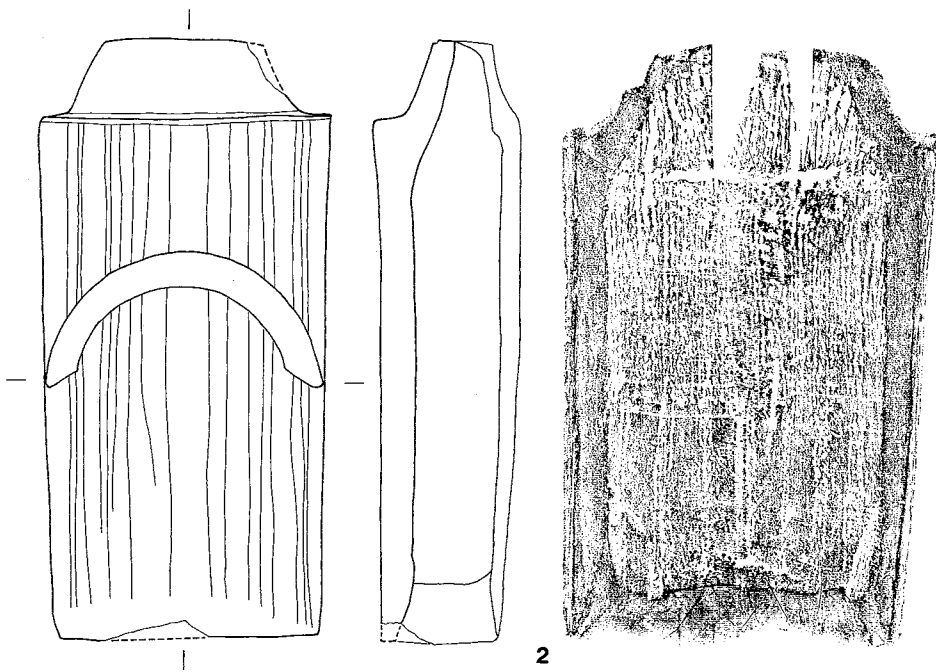
第293圖 瓦 2 期軒平瓦(1)



第294图 瓦 2 期軒平瓦(2)



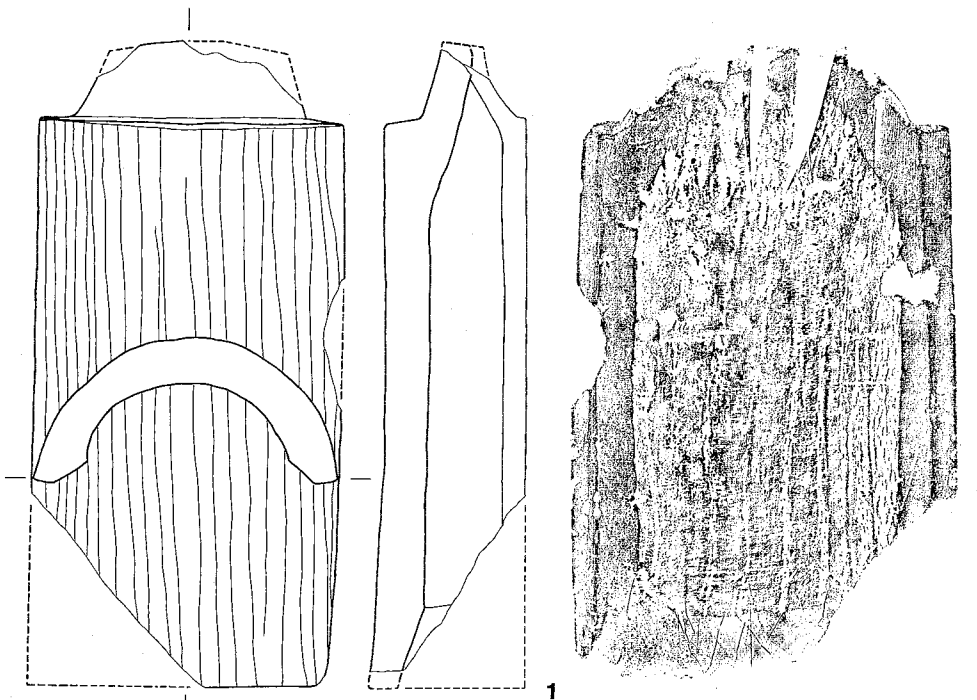
1



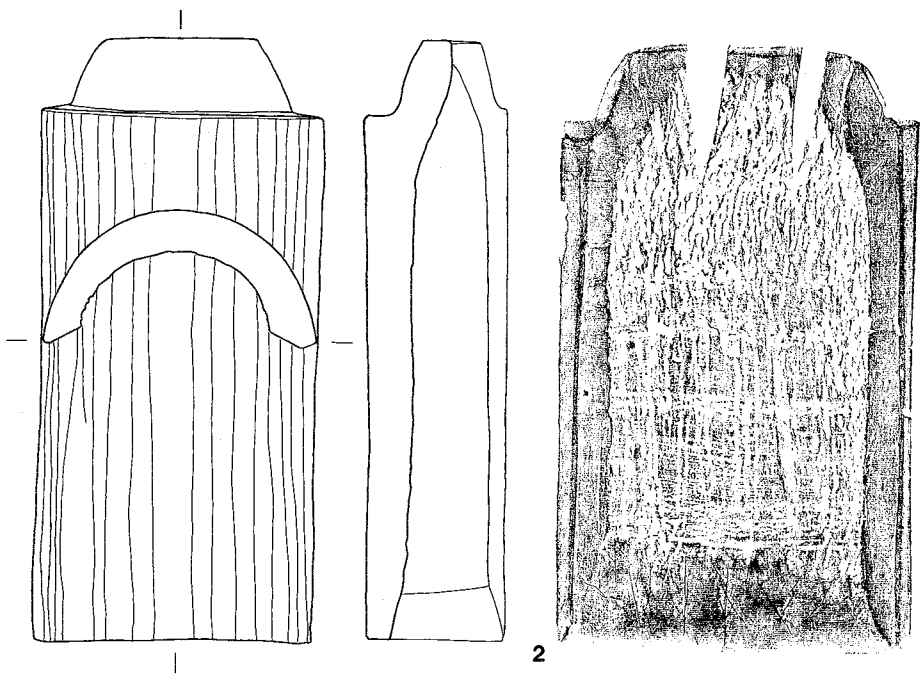
2

0 10cm

第295图 瓦 2 期丸瓦(1)



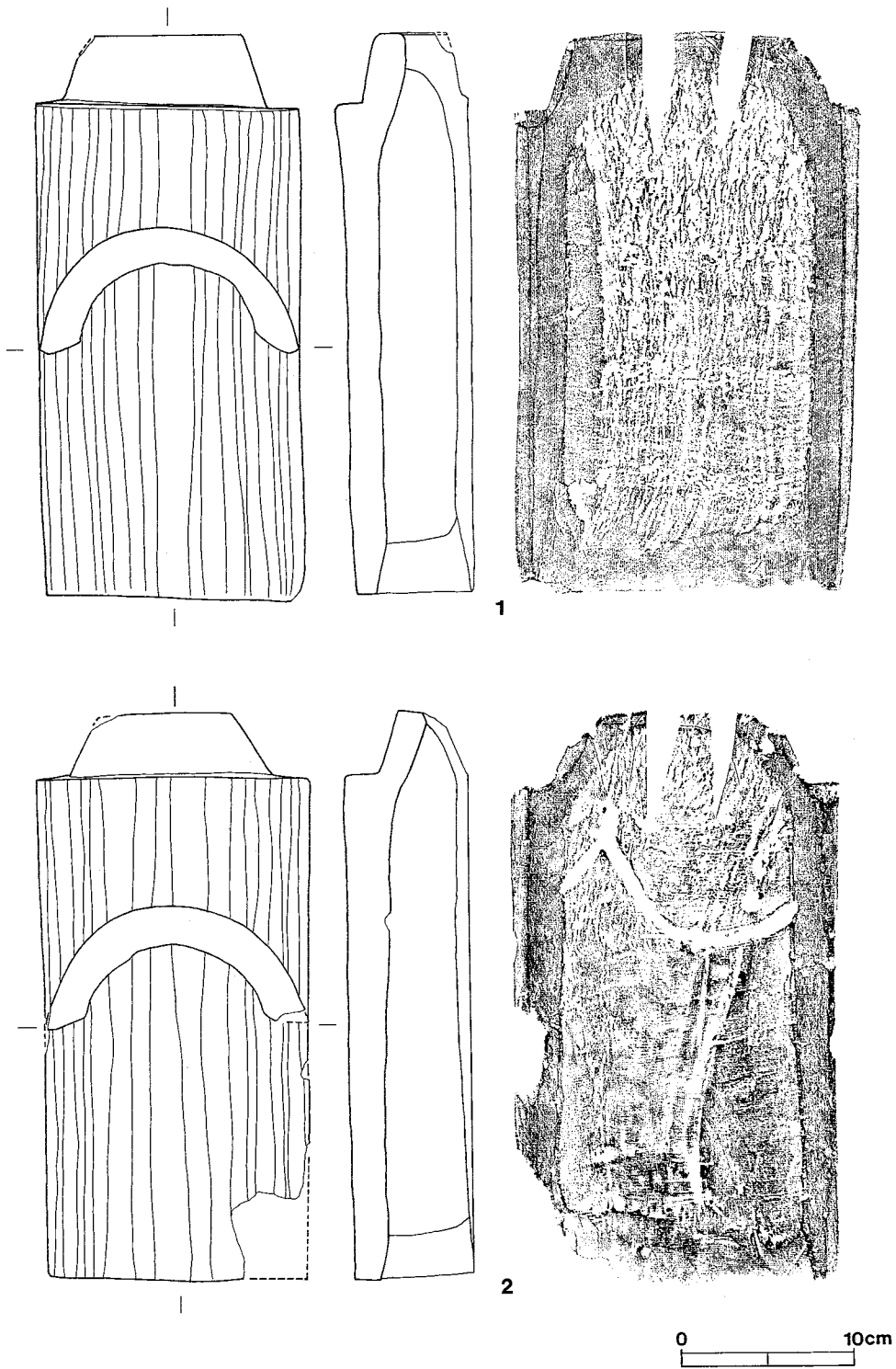
1



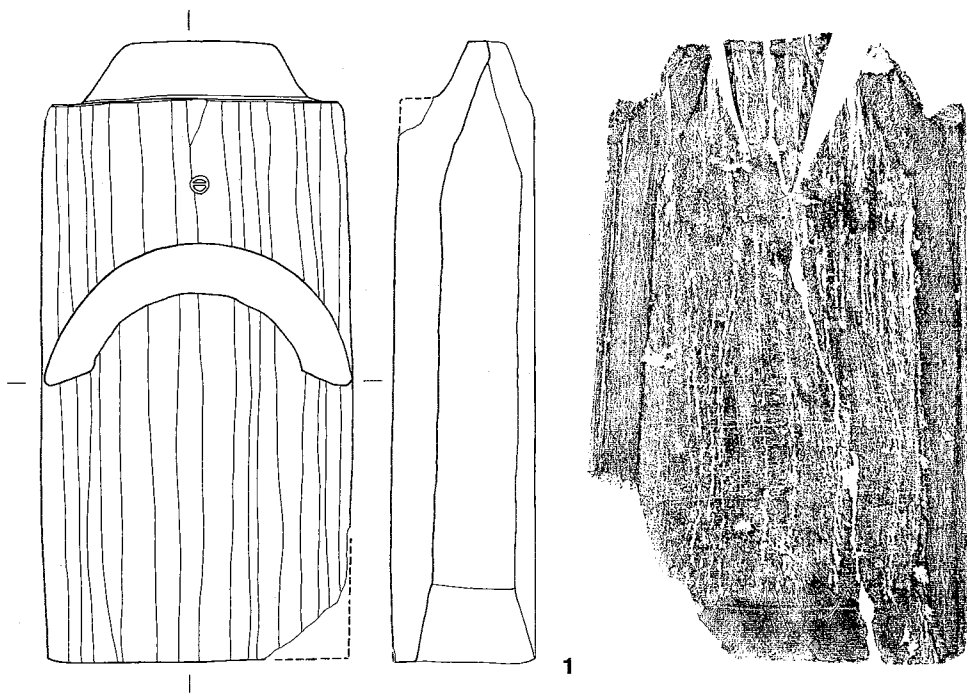
2

0 10cm

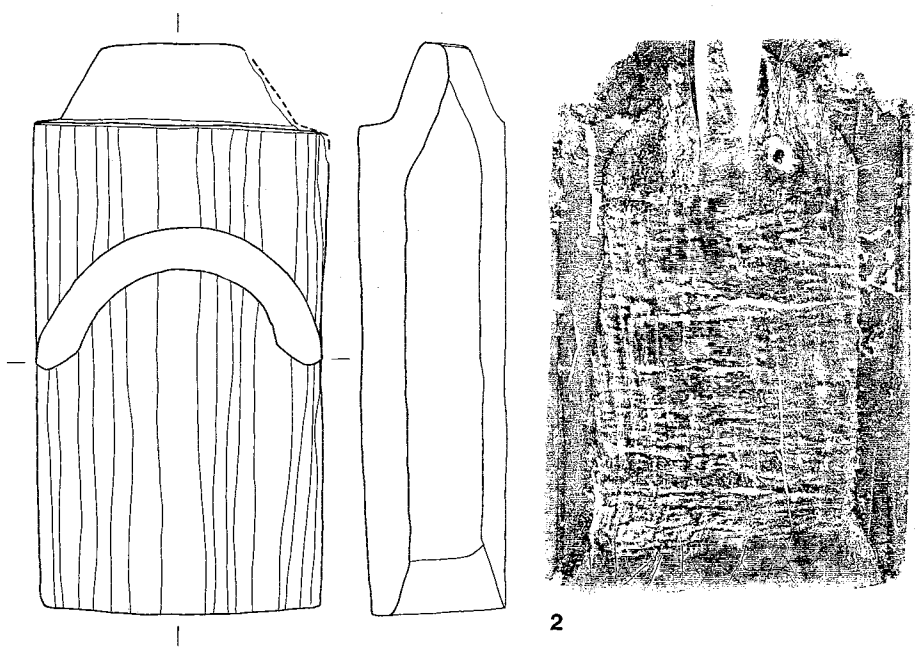
第296图 瓦 2 期丸瓦(2)



第297图 瓦 2 期丸瓦(3)



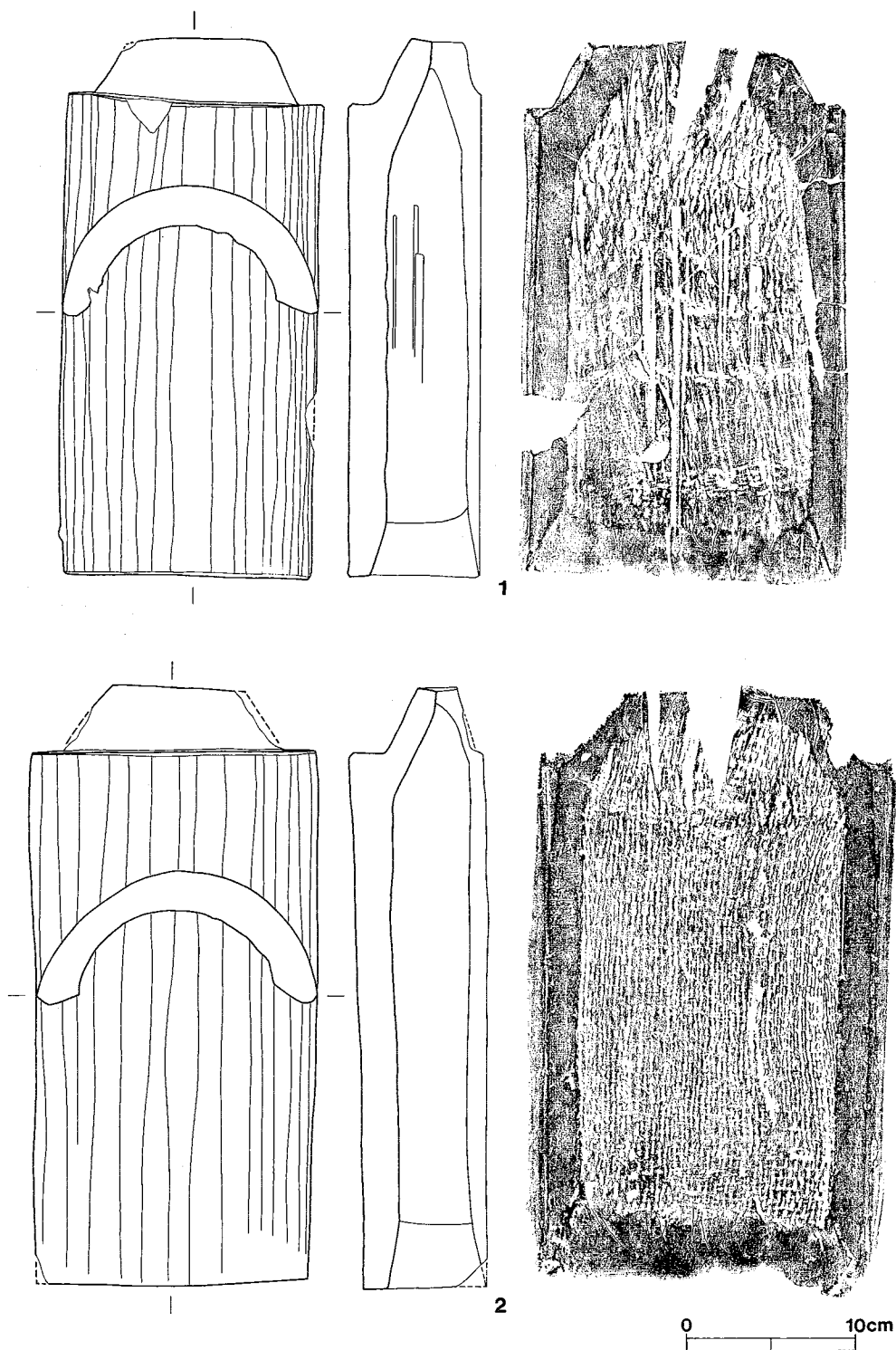
1



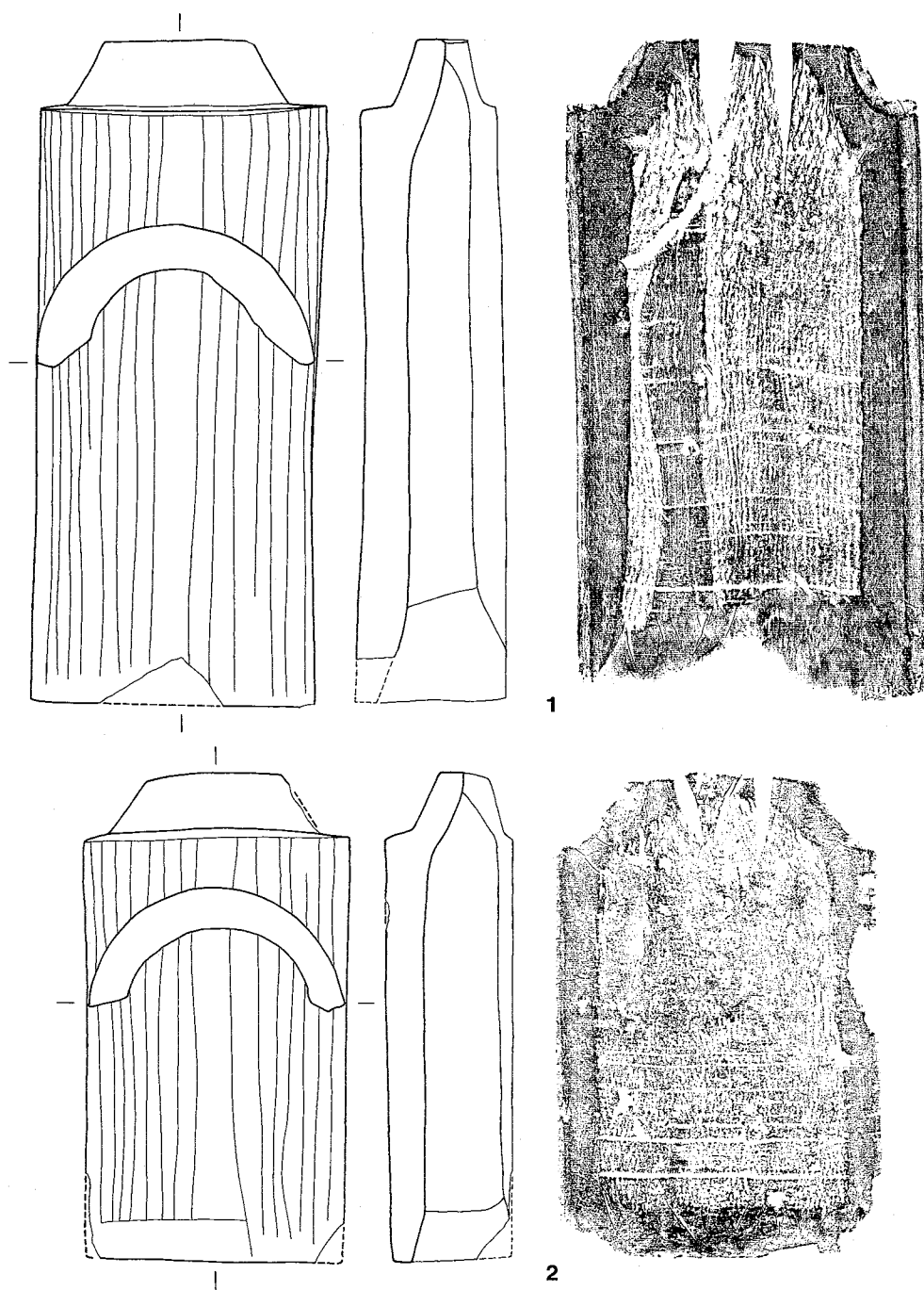
2

0 10cm

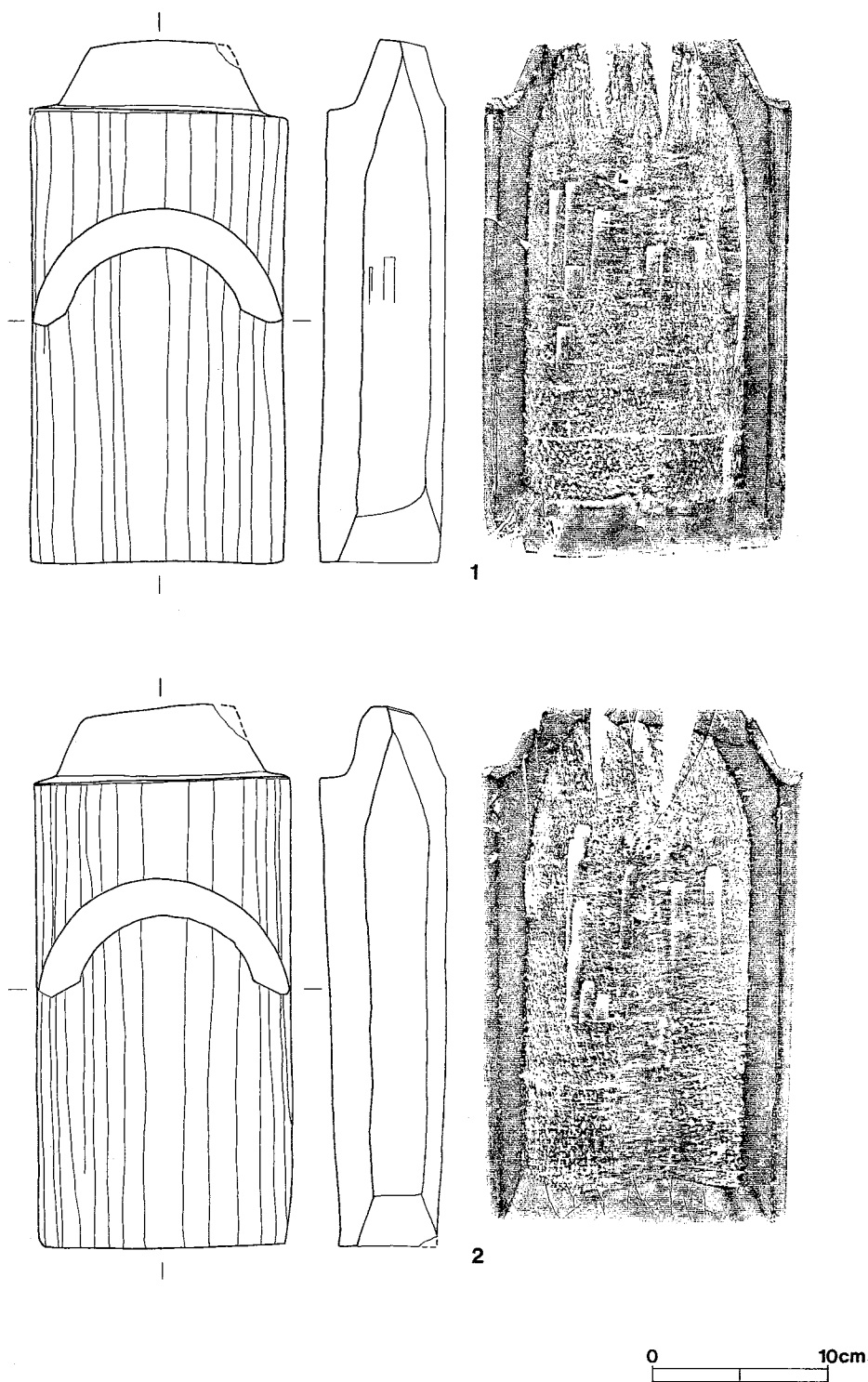
第298図 瓦 2 期丸瓦(4)



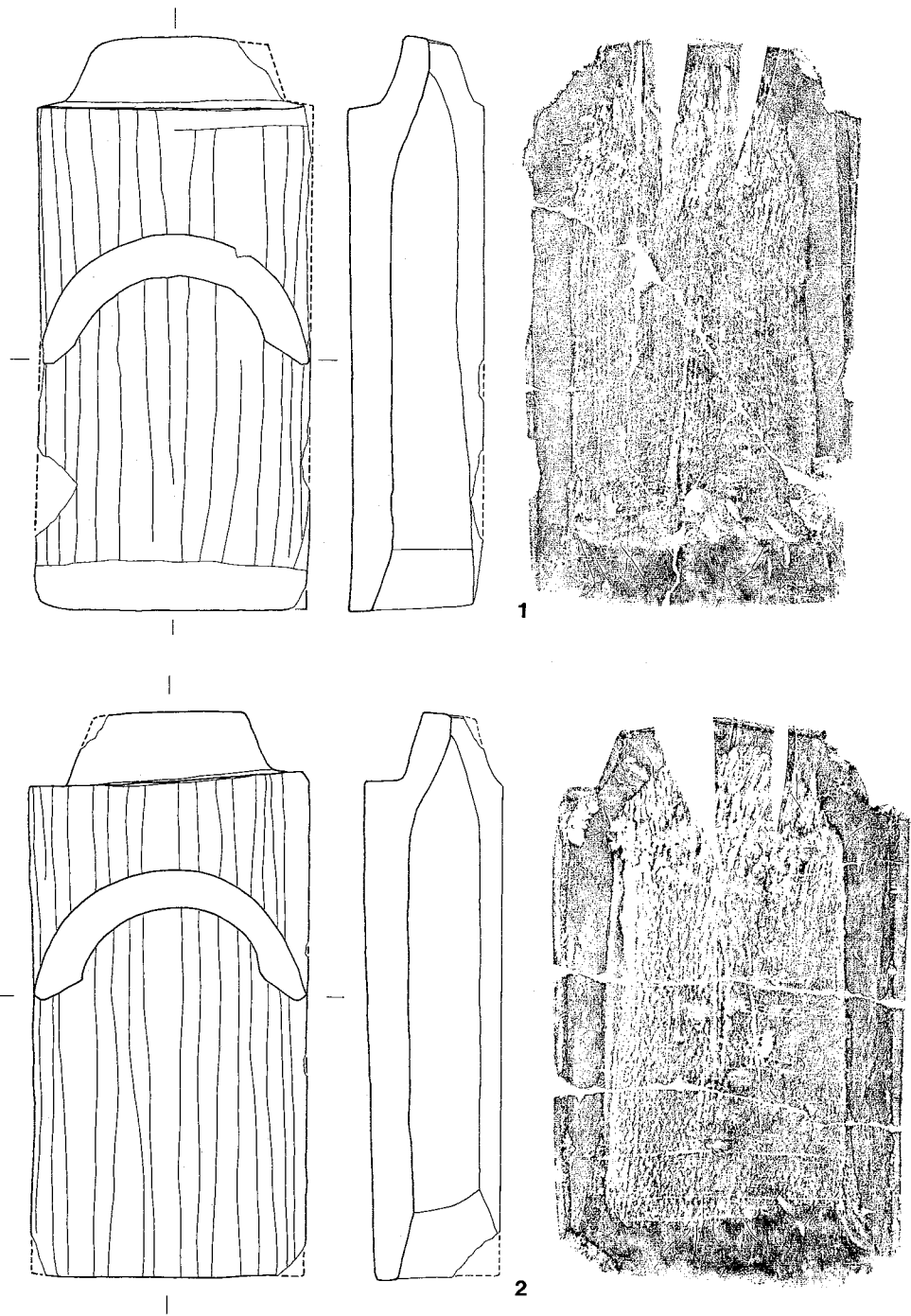
第299図 瓦 2期丸瓦(5)



第300图 瓦 2期丸瓦(6)

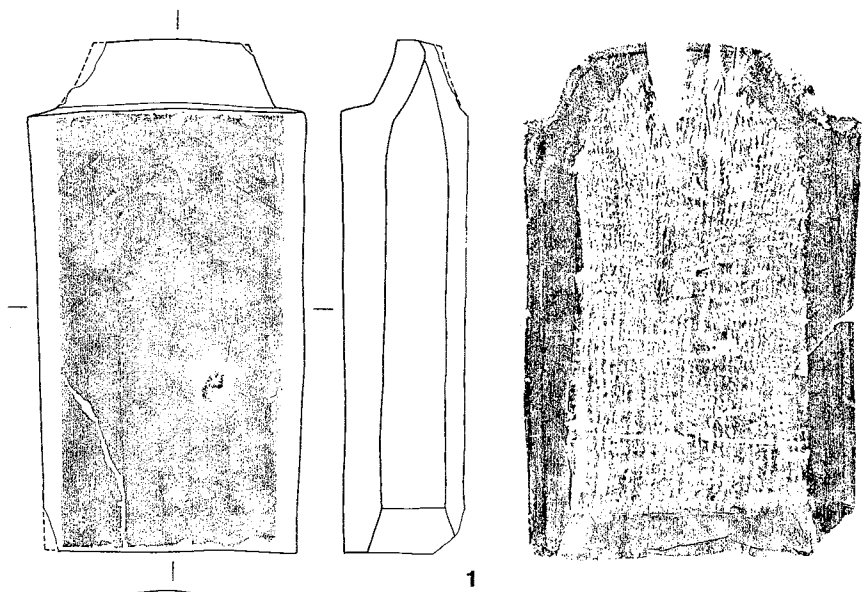


第301图 瓦 2期丸瓦(7)

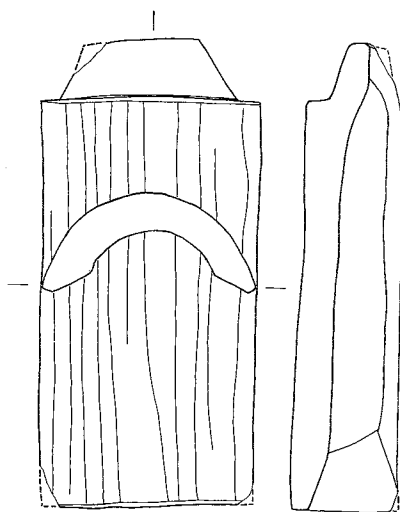
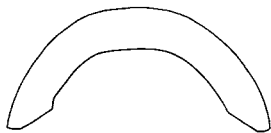


0 10cm

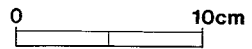
第302图 瓦 2 期丸瓦(8)



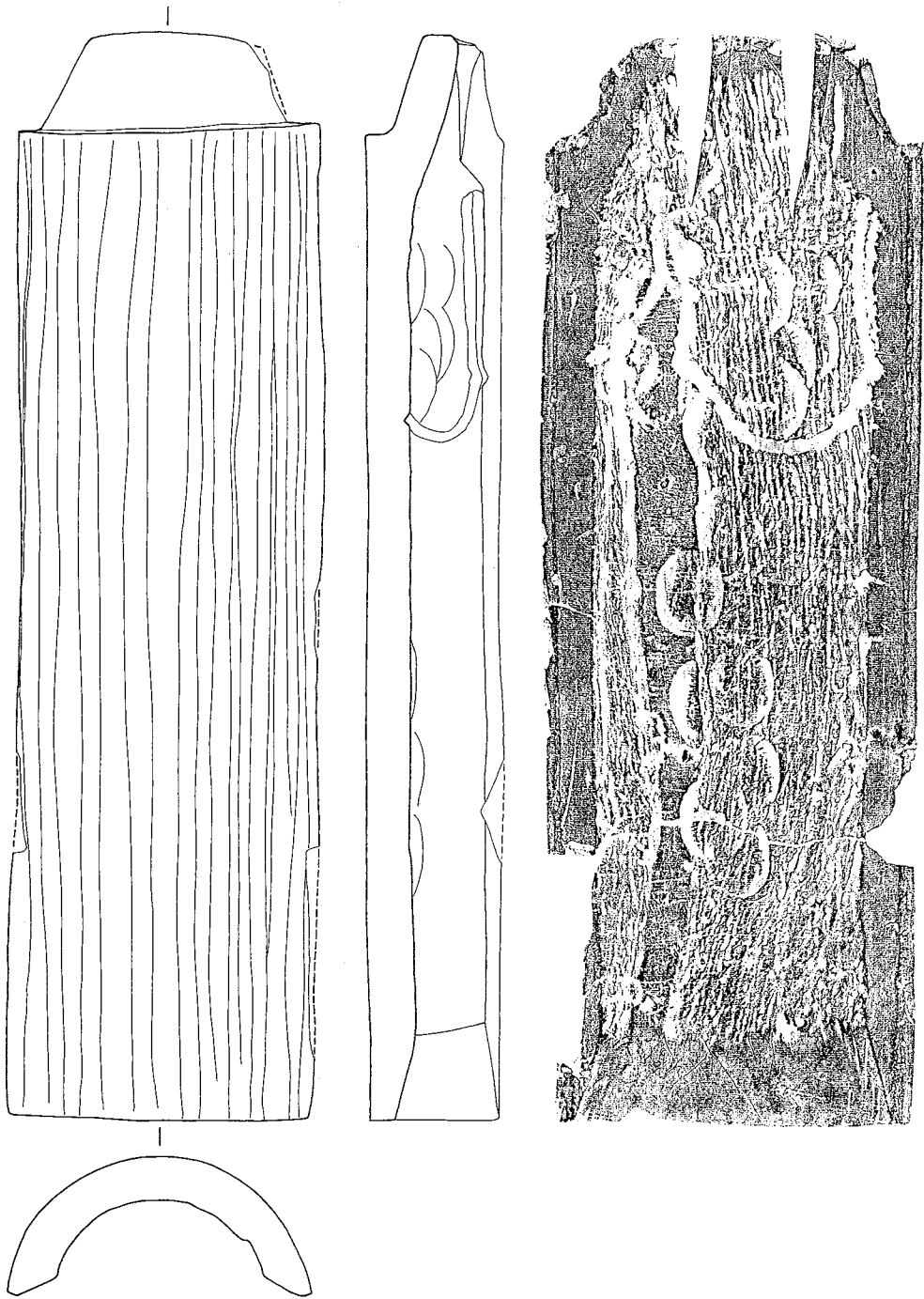
1



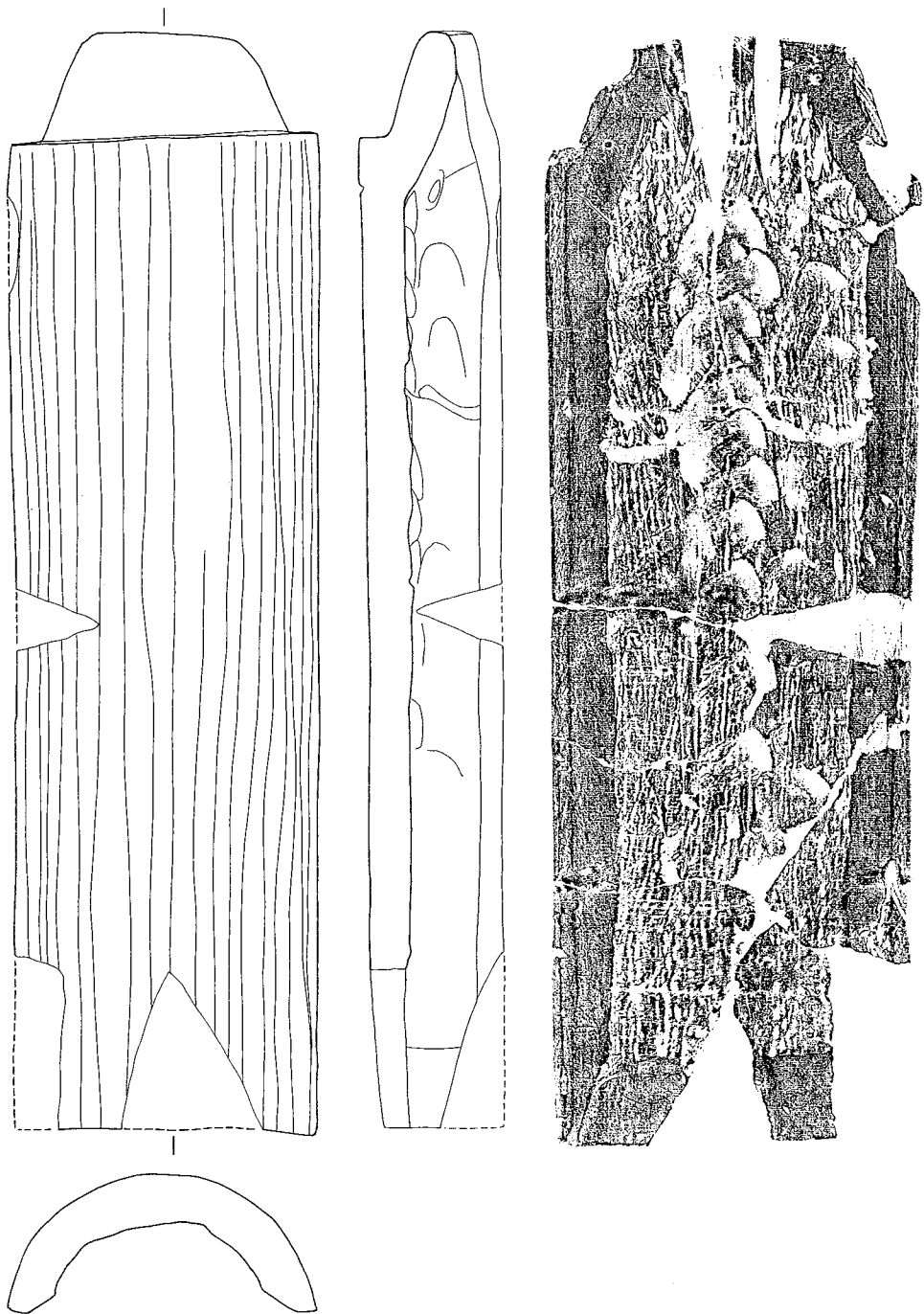
2



第303图 瓦 2 期丸瓦(9)

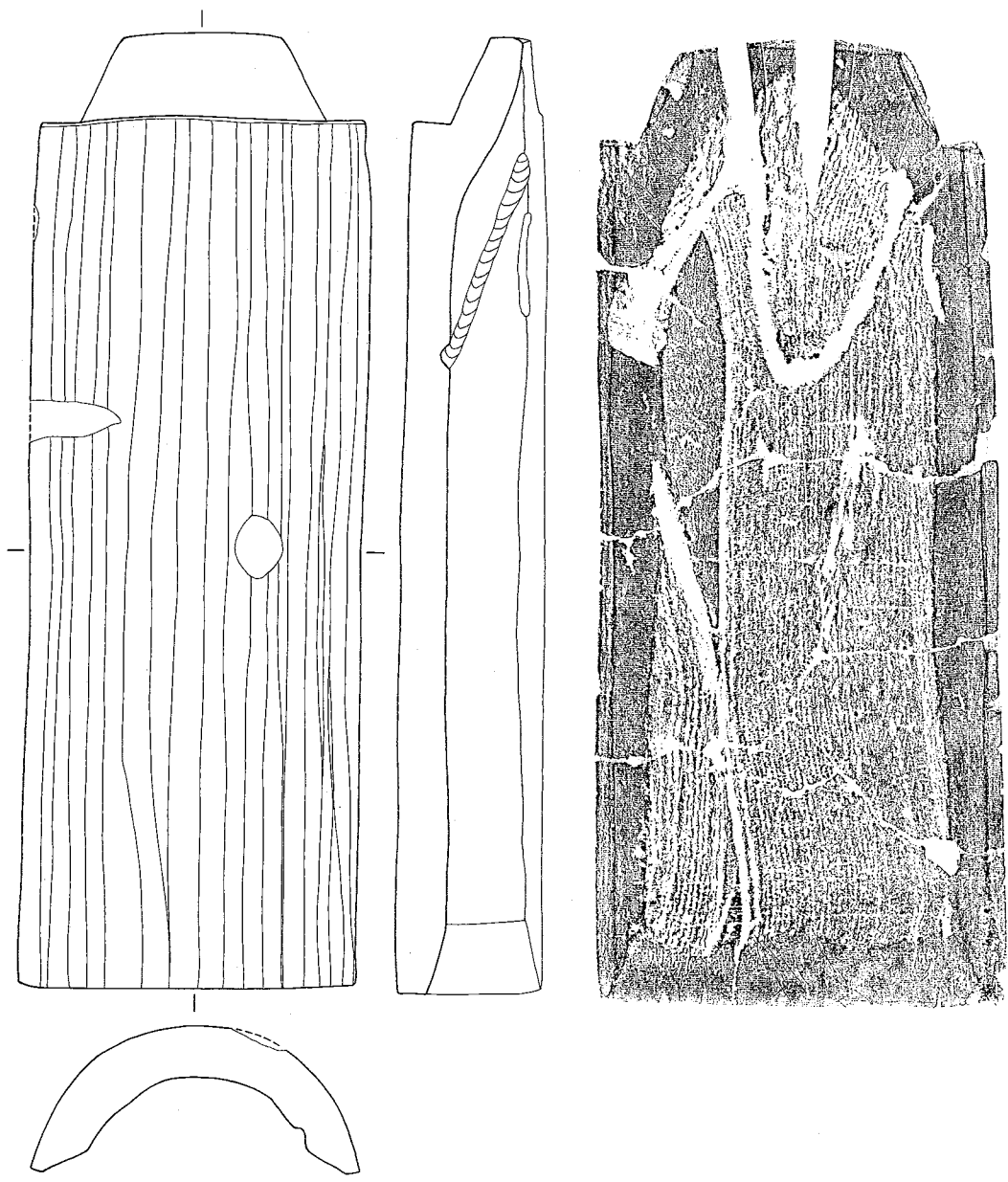


第304图 瓦 2 期丸瓦(10)



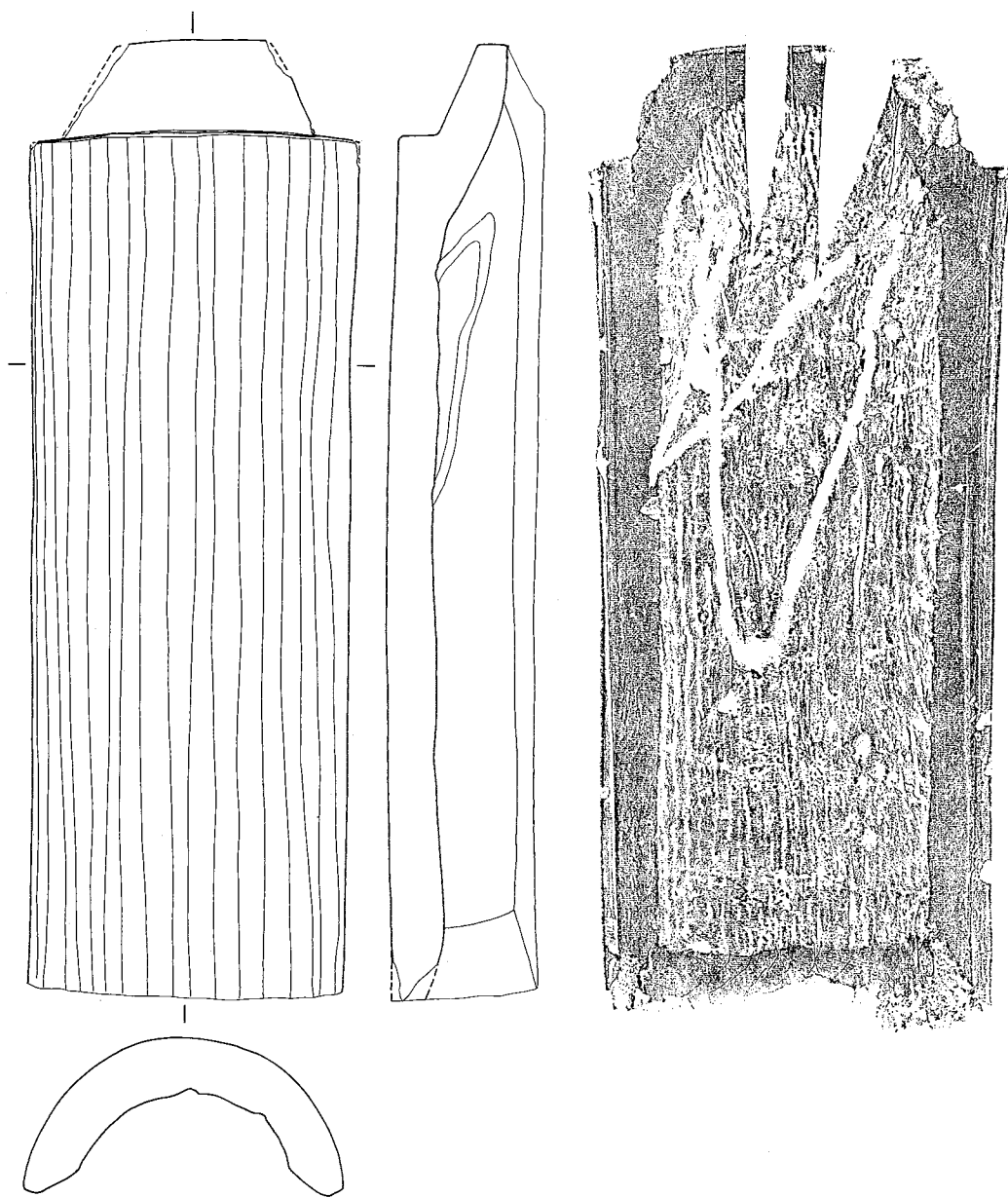
0 10cm

第305図 瓦 2期丸瓦(1)

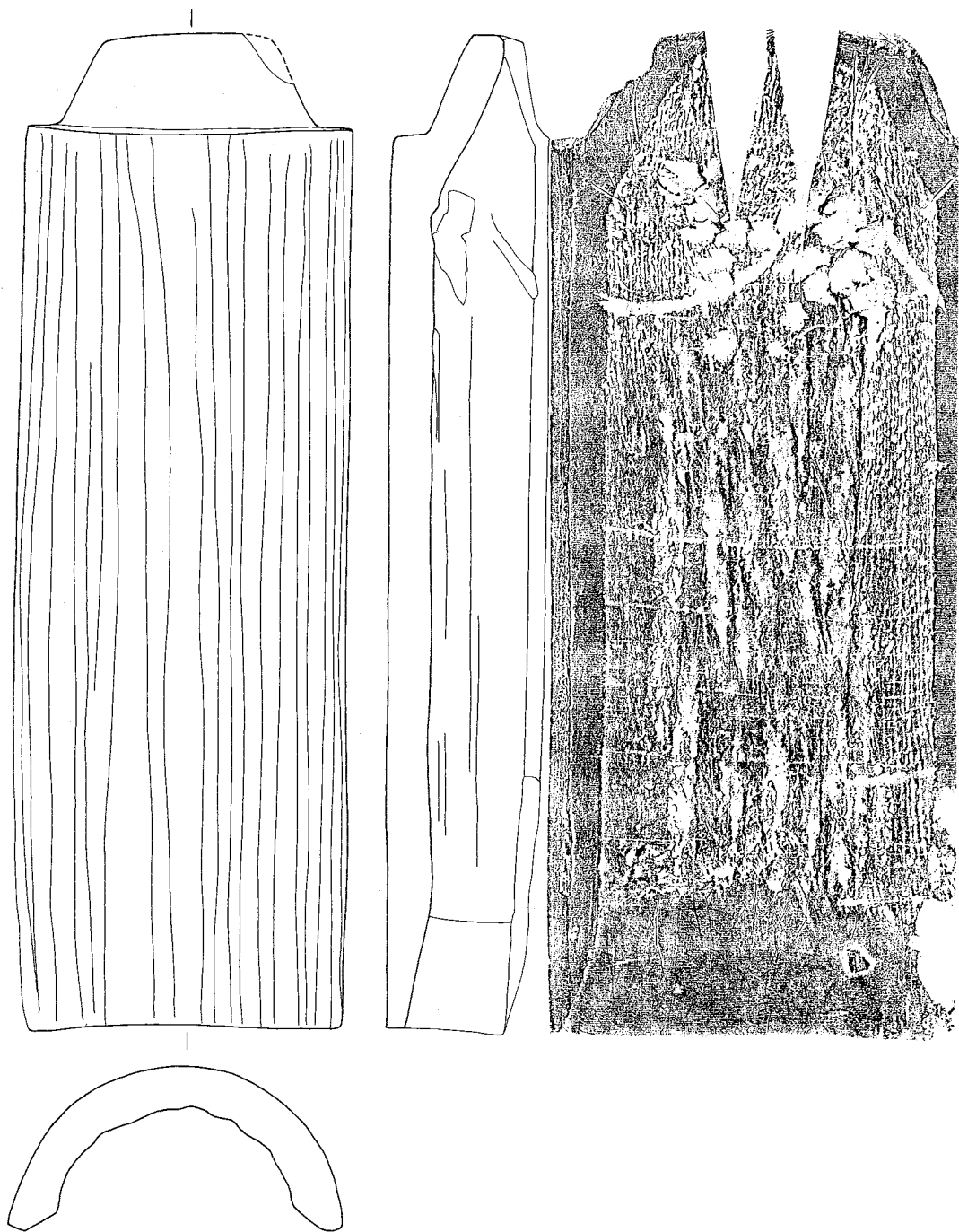


0 10cm

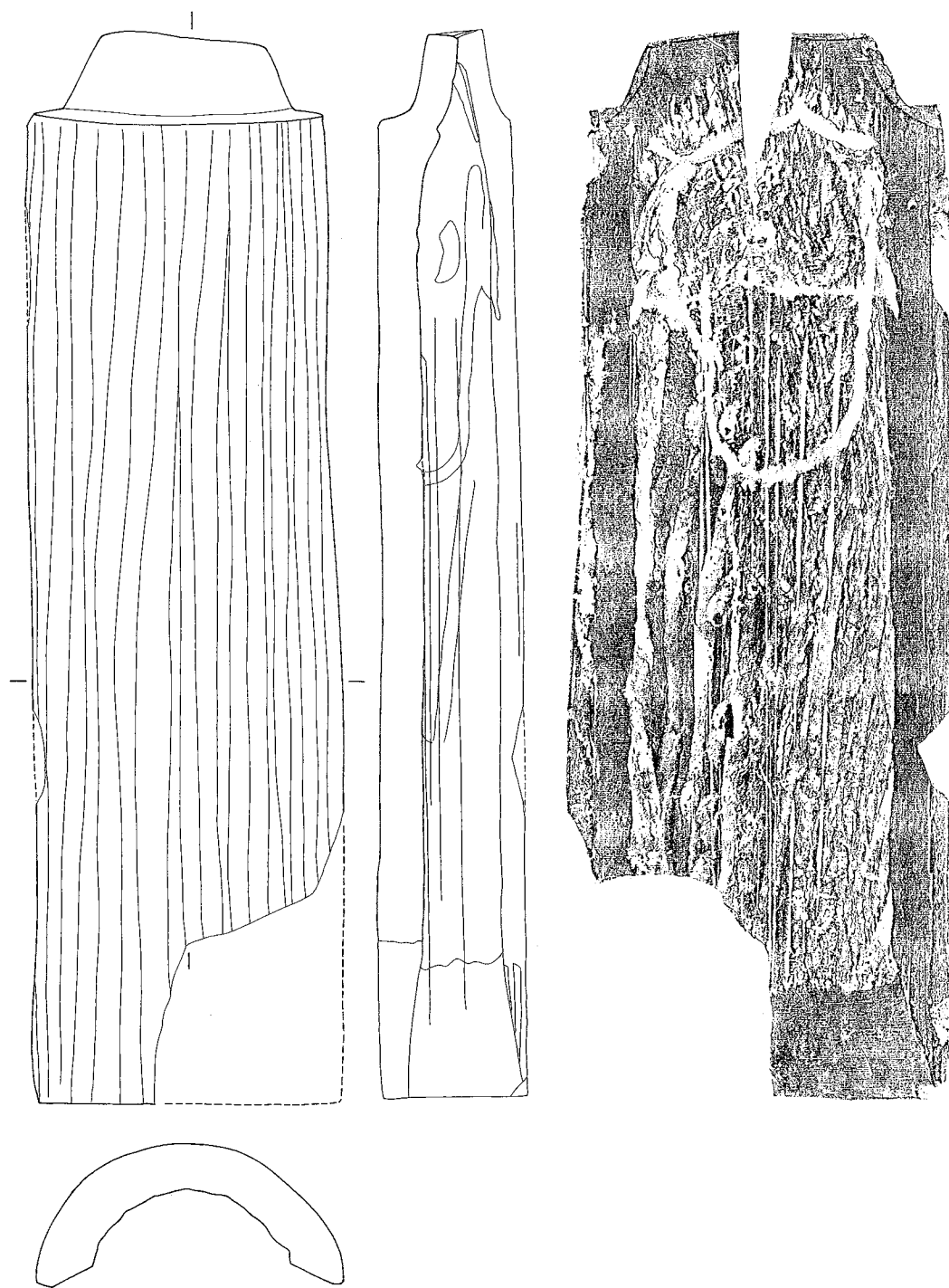
第306图 互2期丸瓦(12)



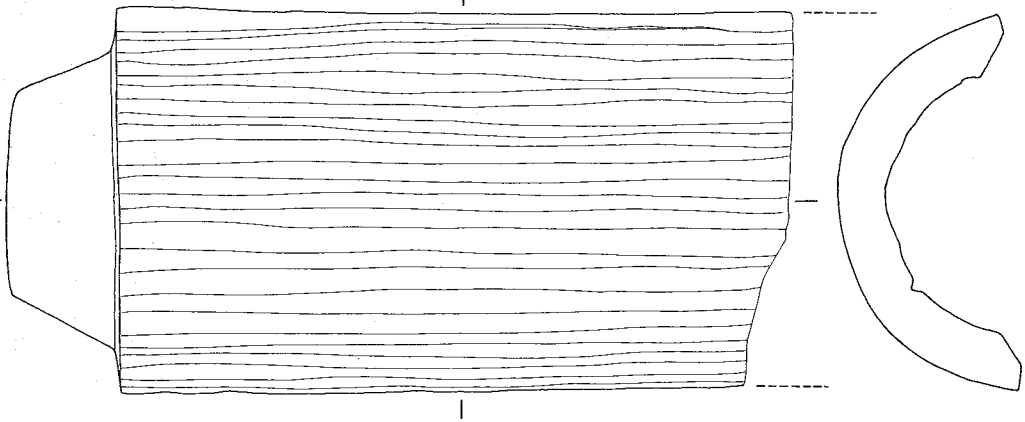
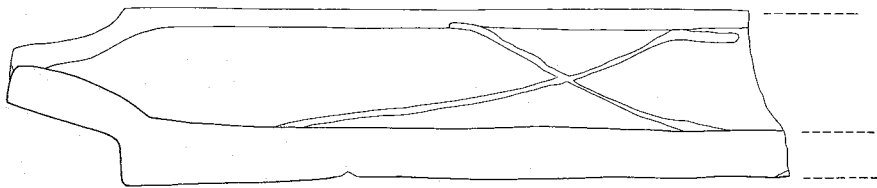
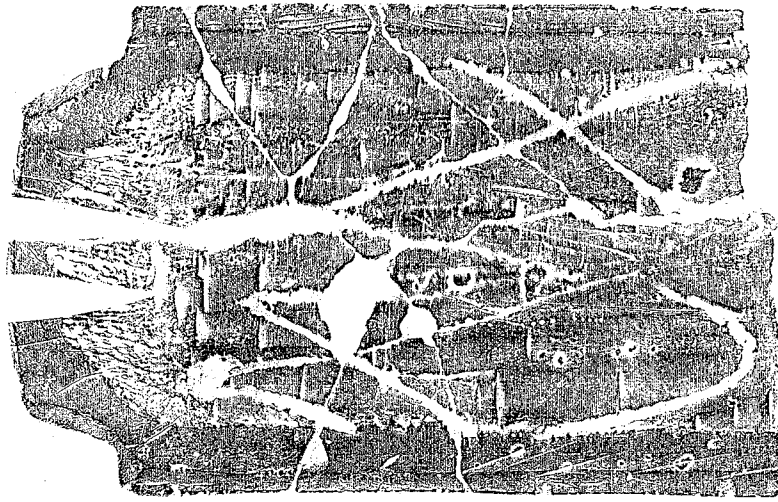
第307图 瓦 2期丸瓦(13)



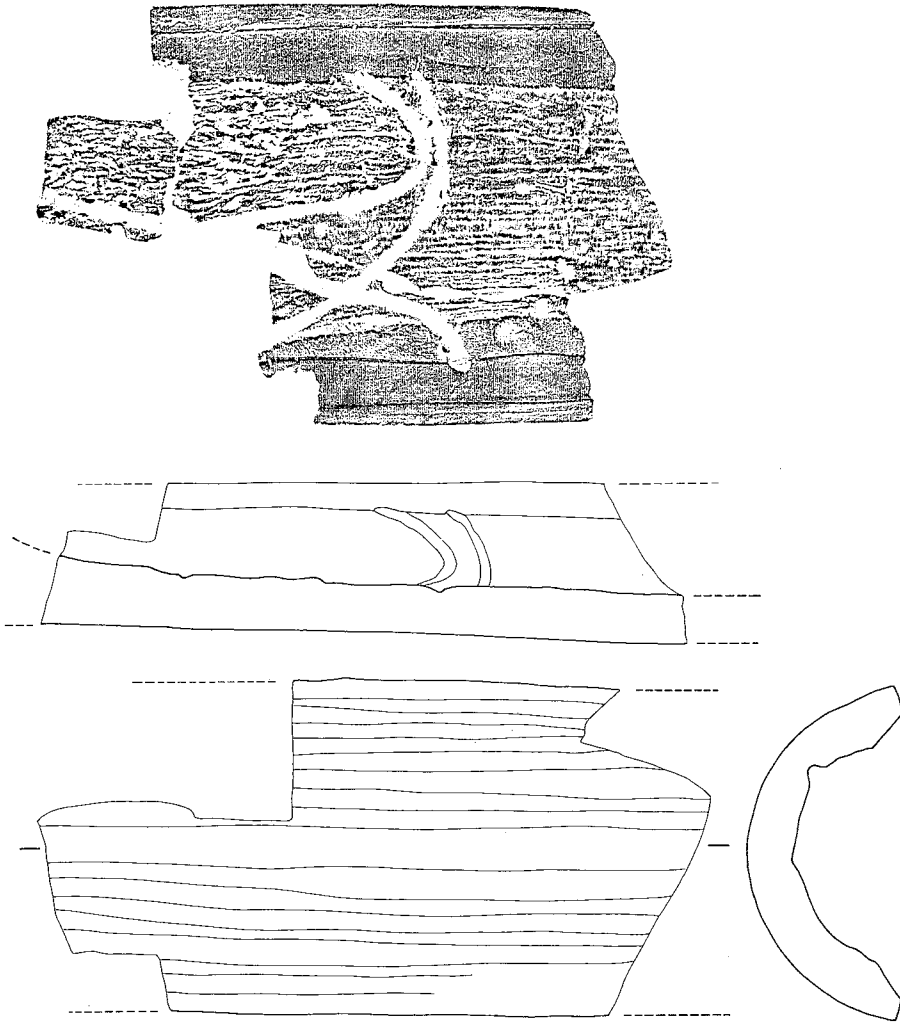
第308图 瓦 2期丸瓦(14)



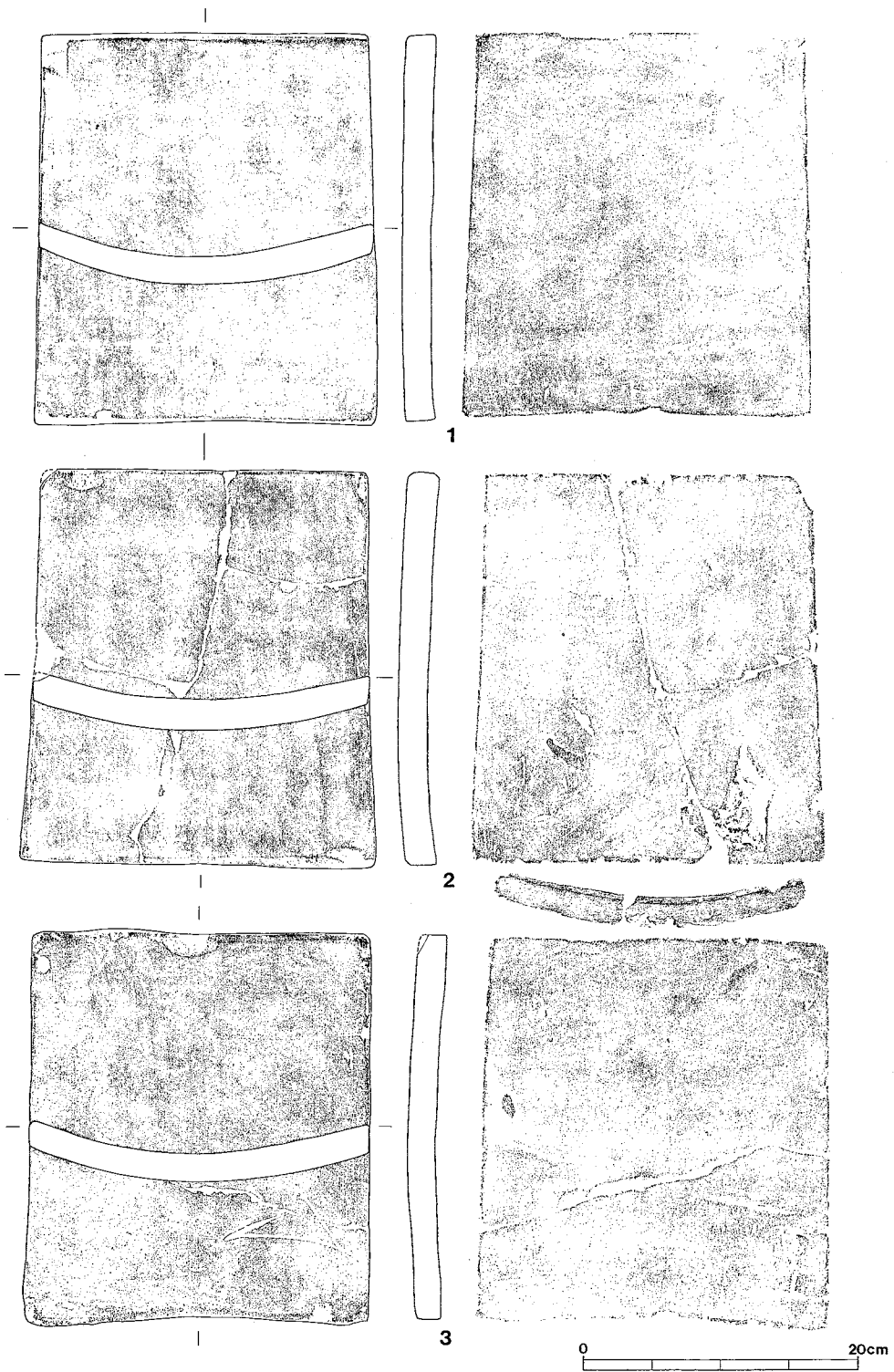
第309图 瓦2期丸瓦(15)



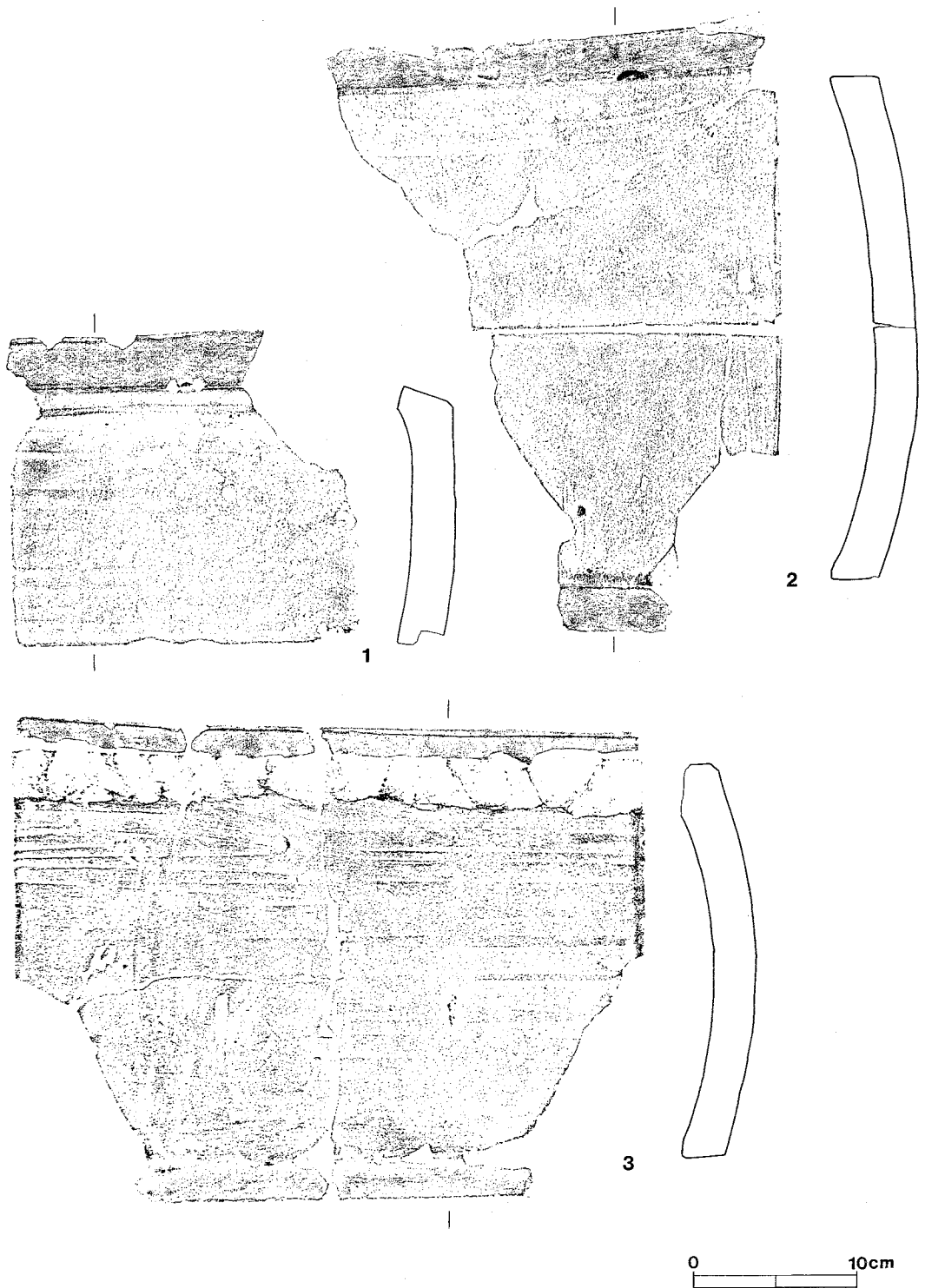
第310图 瓦 2 期丸瓦(16)



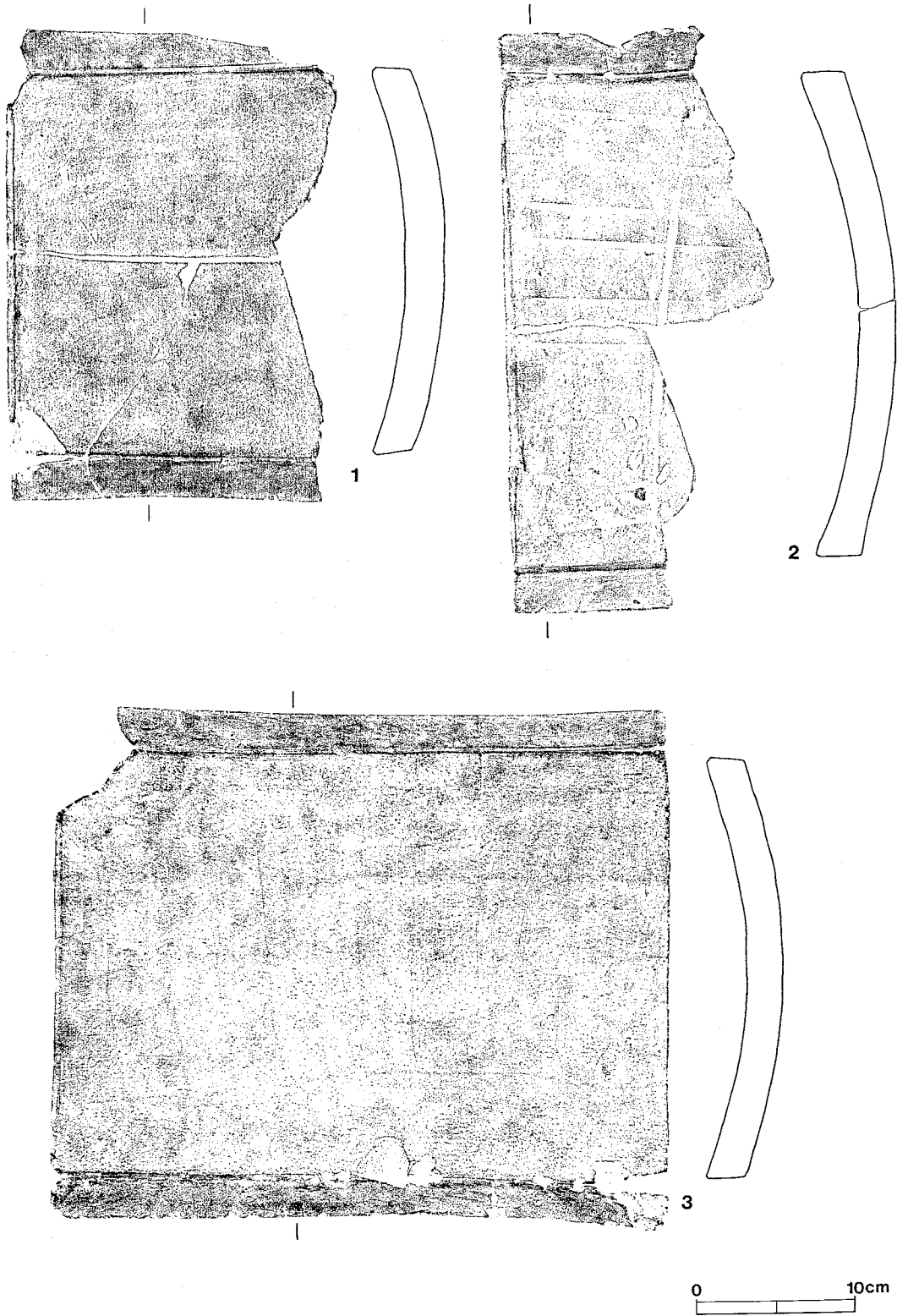
第311図 瓦 2期丸瓦(17)



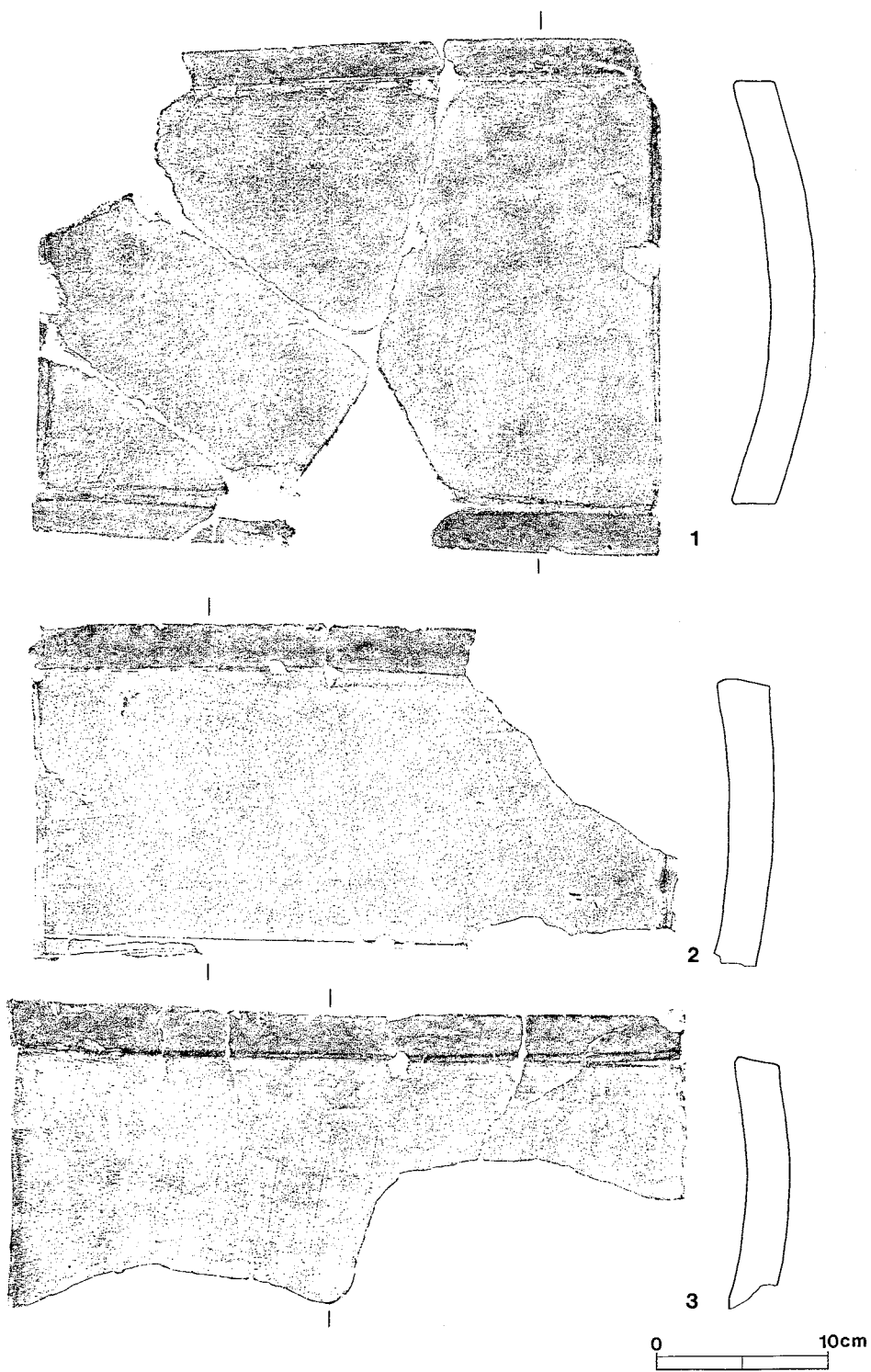
第312图 瓦2期平瓦(1)



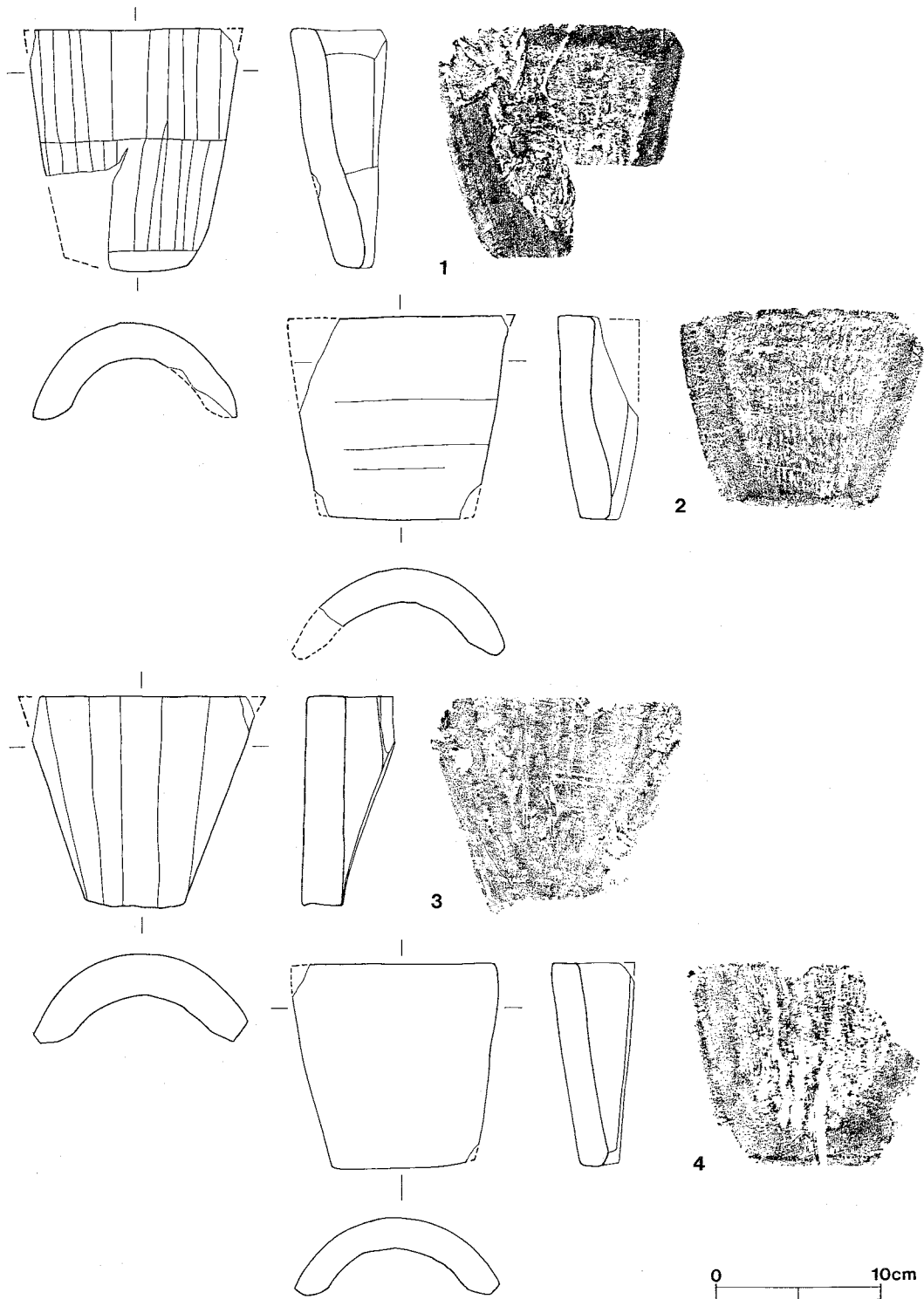
第313图 瓦 2期製瓦(1)



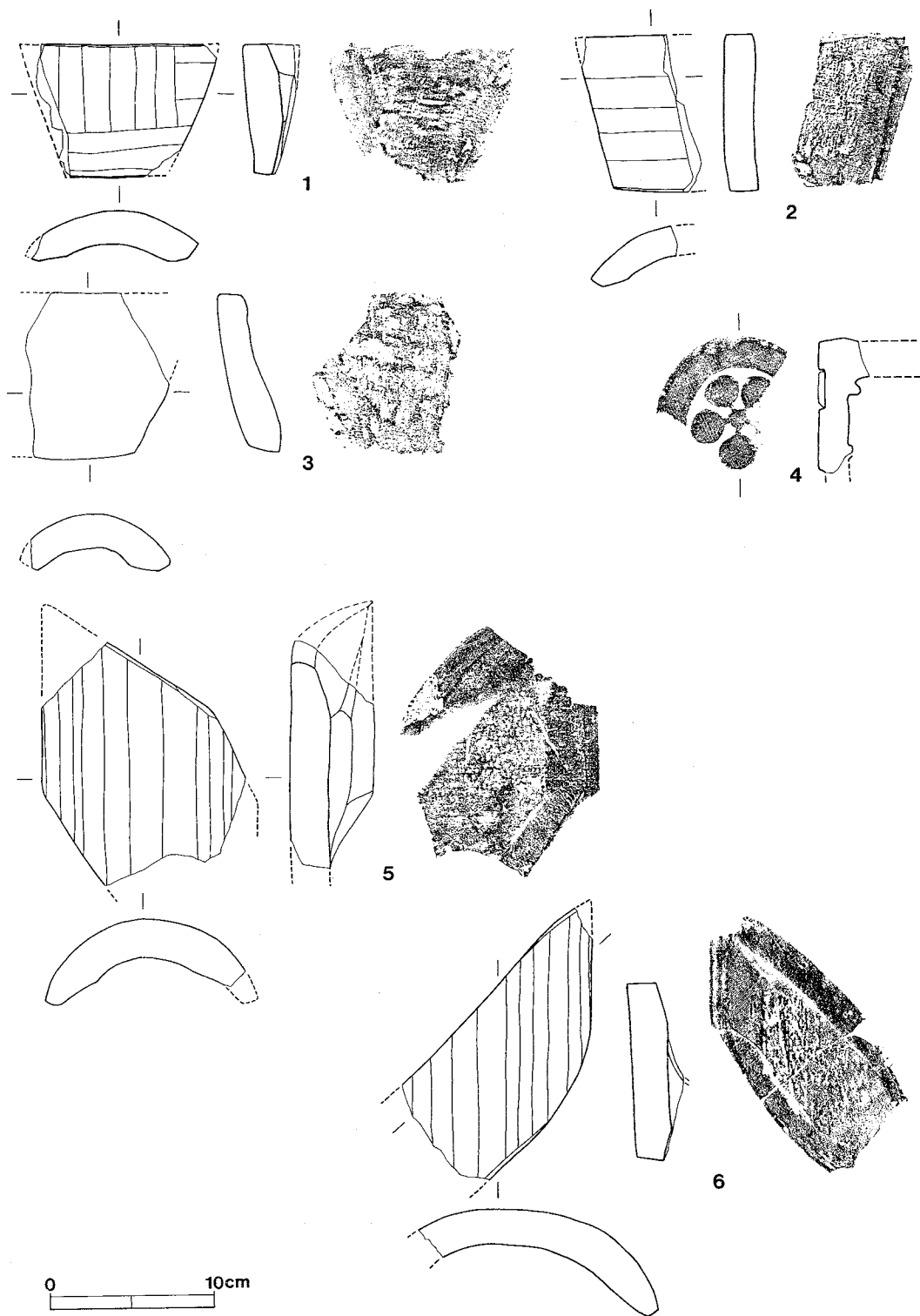
第314图 瓦 2 期鬲斗瓦(2)



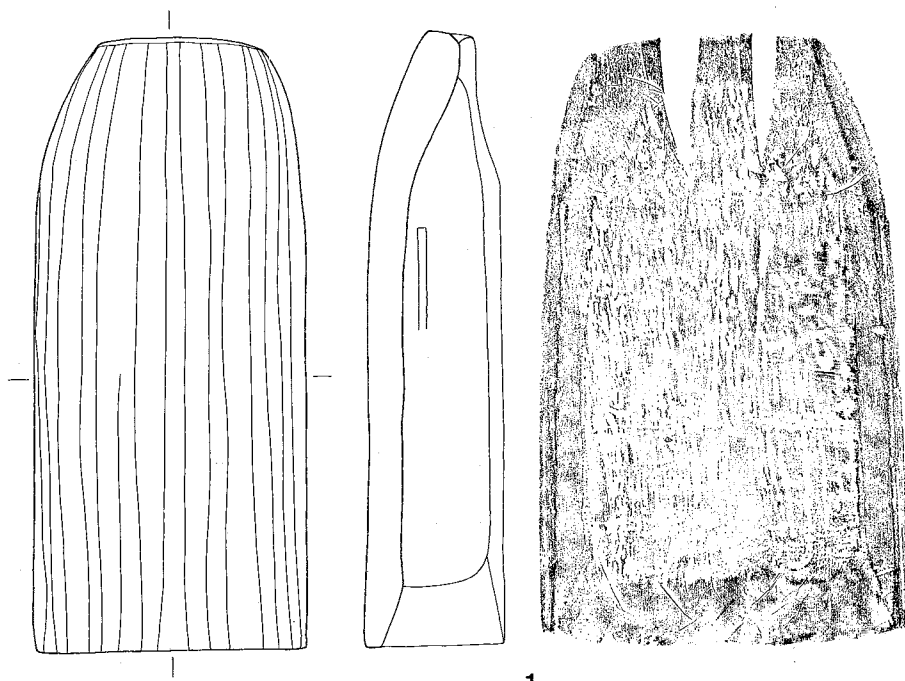
第315图 瓦 2 期熨斗瓦 (3)



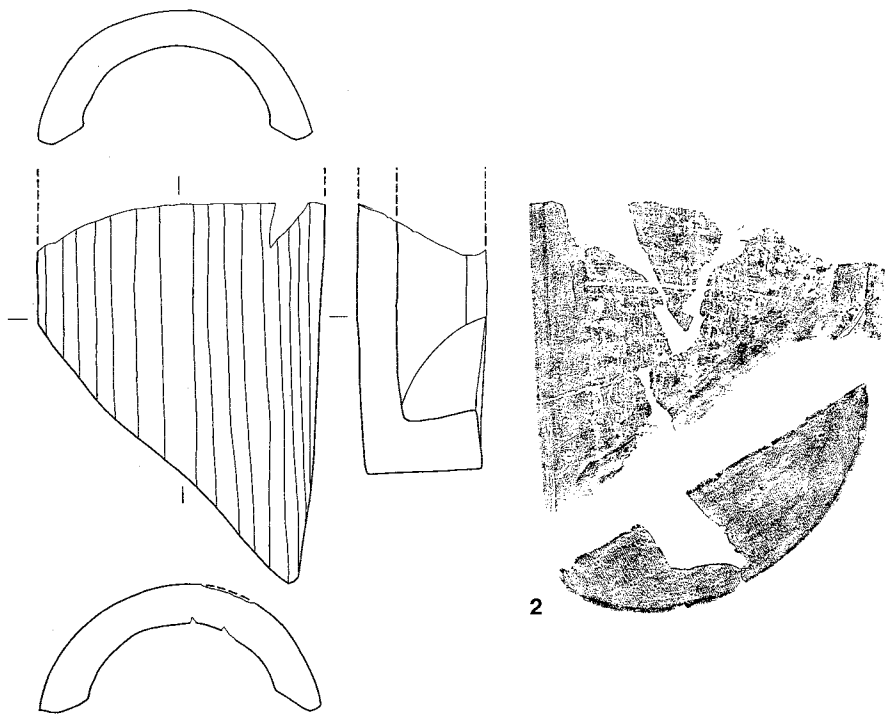
第316图 瓦2期道具瓦(1)



第317图 瓦2期道具瓦(2)



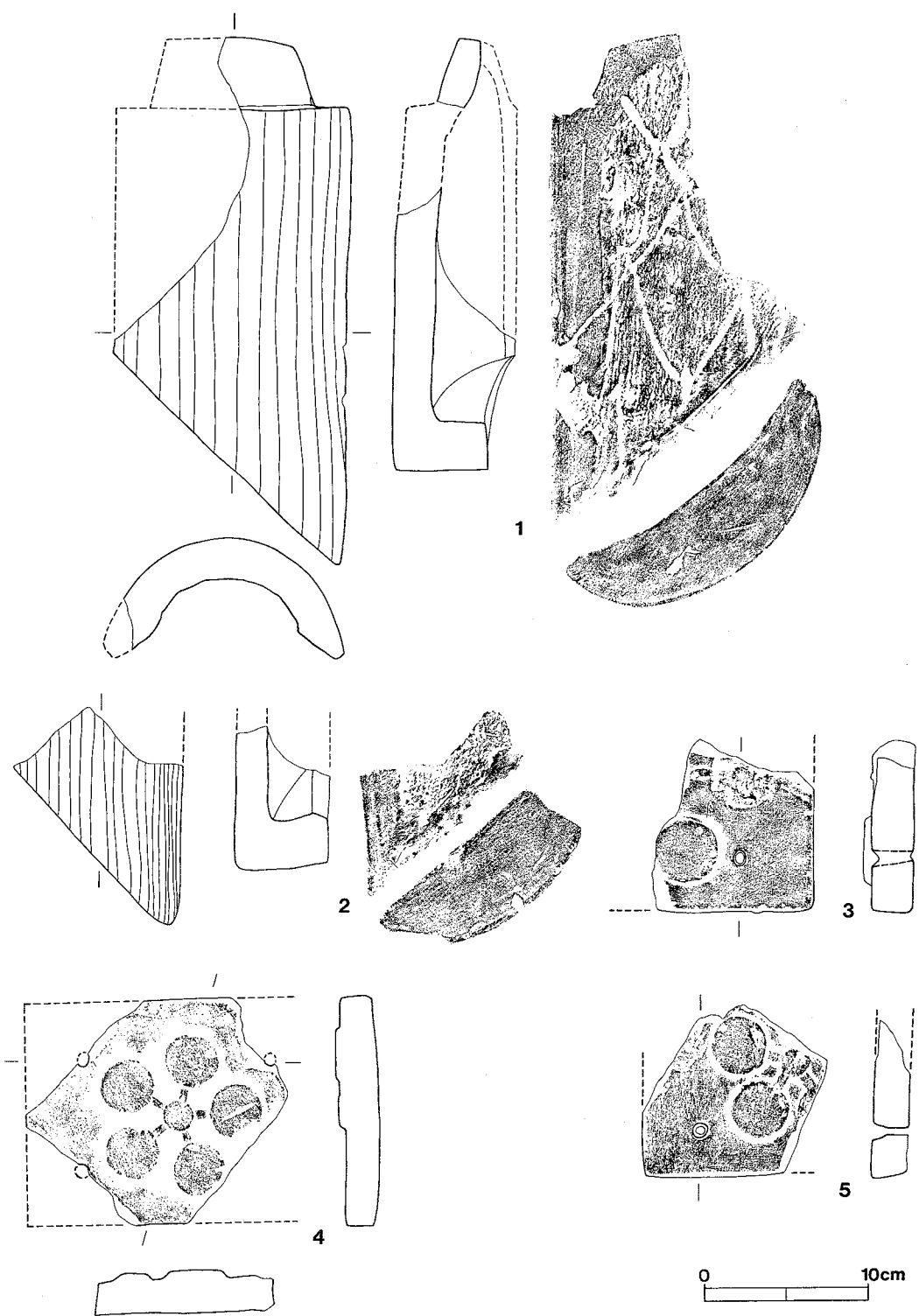
1



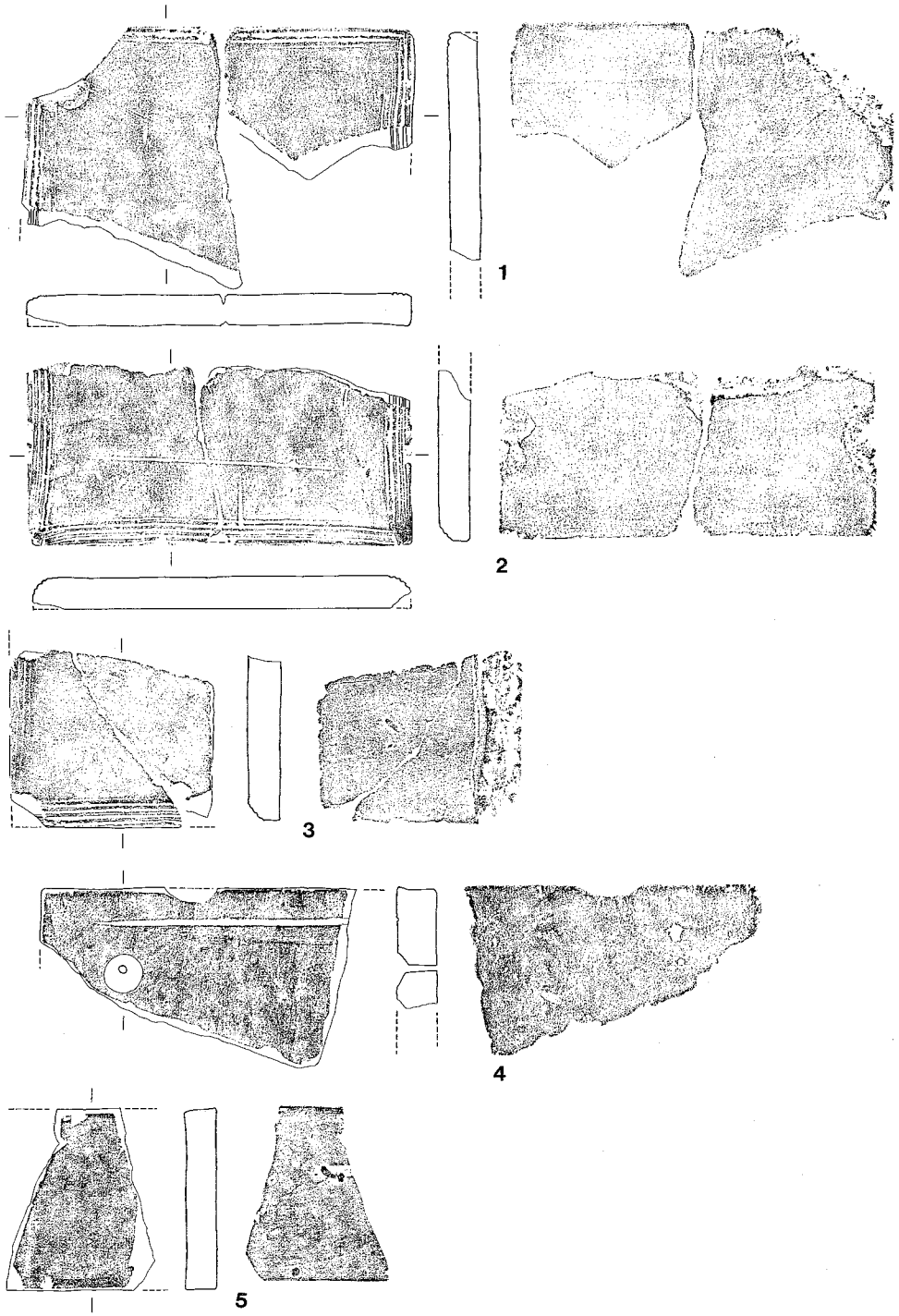
2



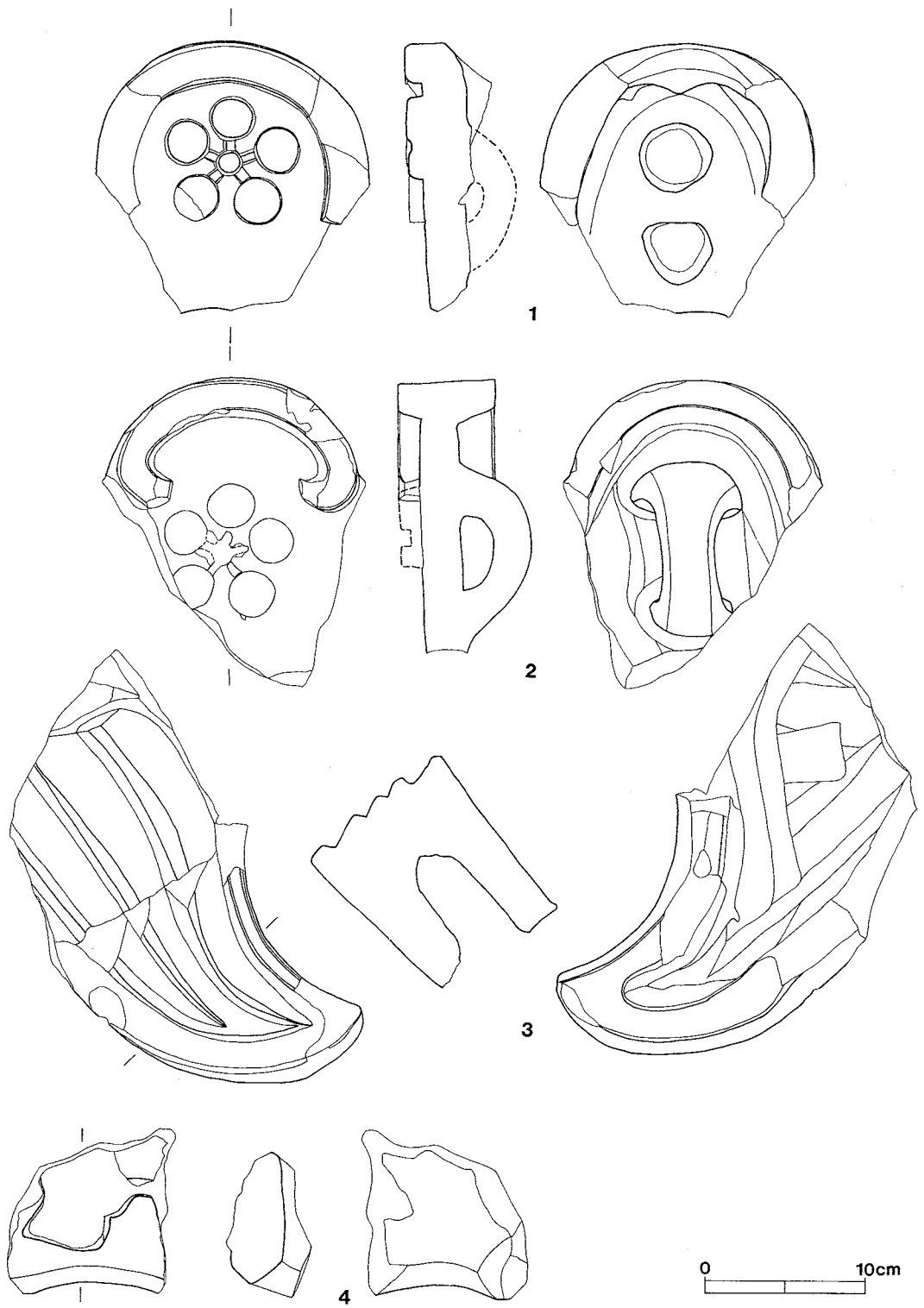
第318图 瓦2期道具瓦(3)



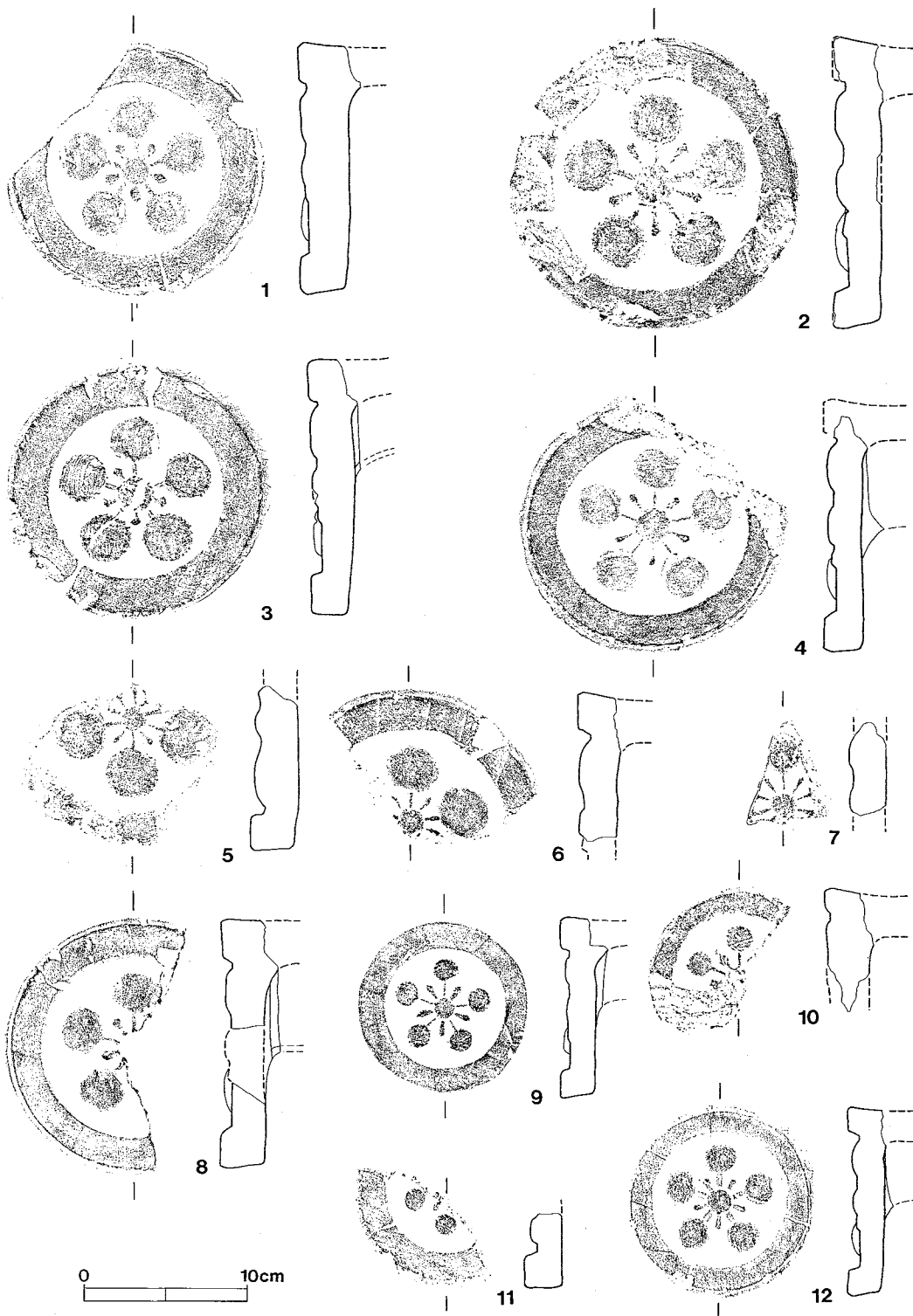
第319图 瓦2期道具瓦(4)



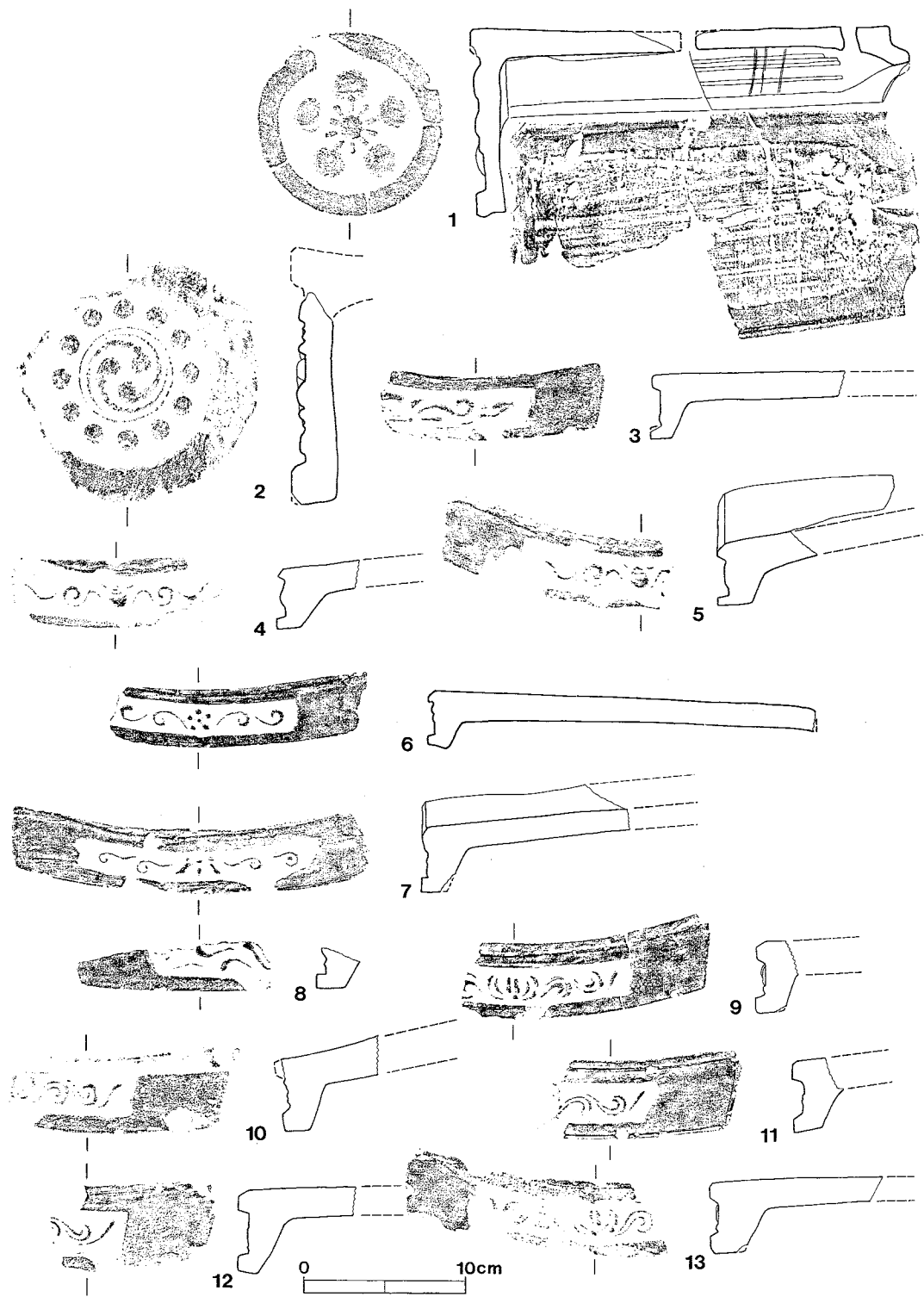
第320图 瓦 2期海鼠瓦



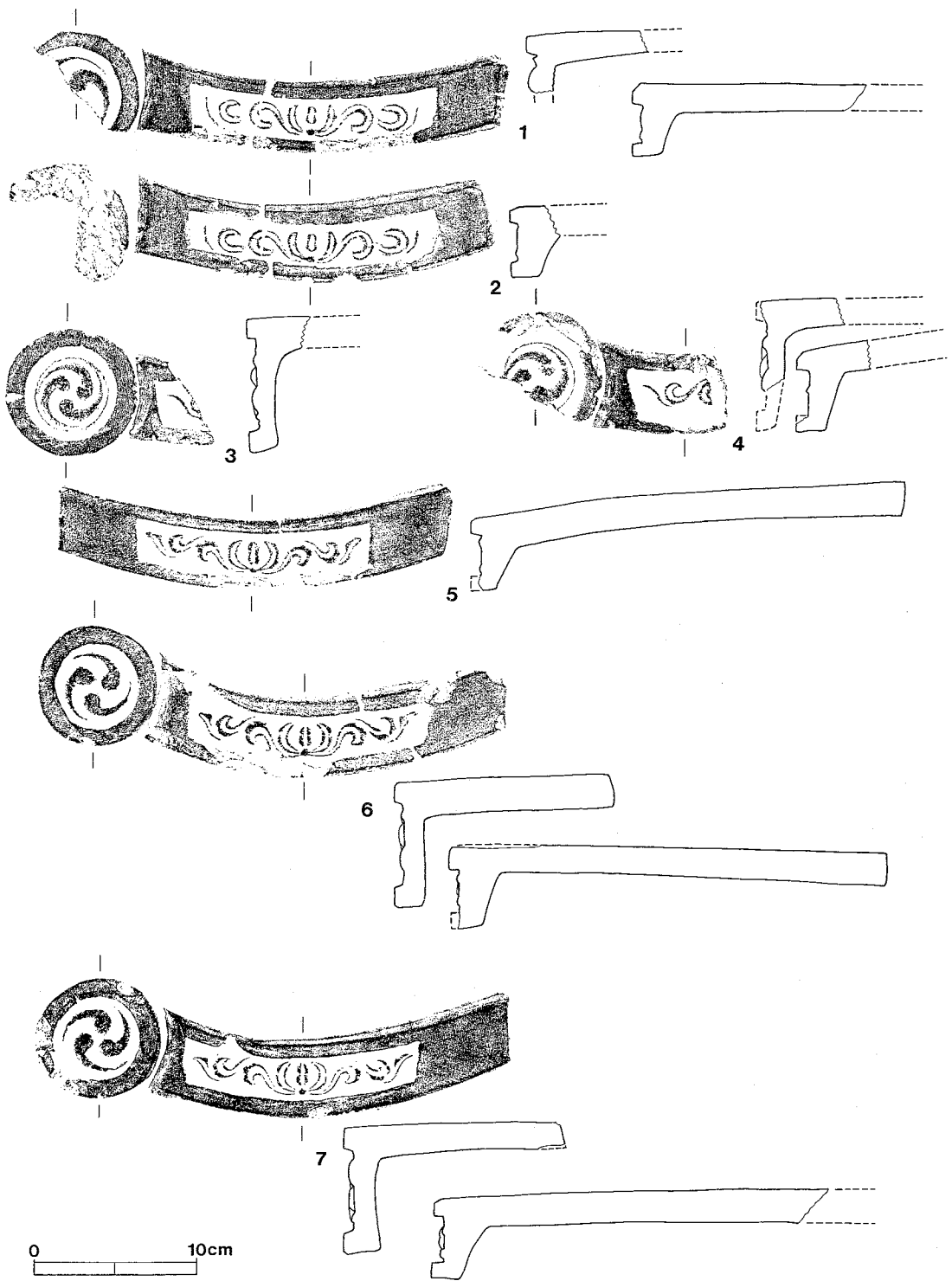
第321图 瓦 2期鬼瓦



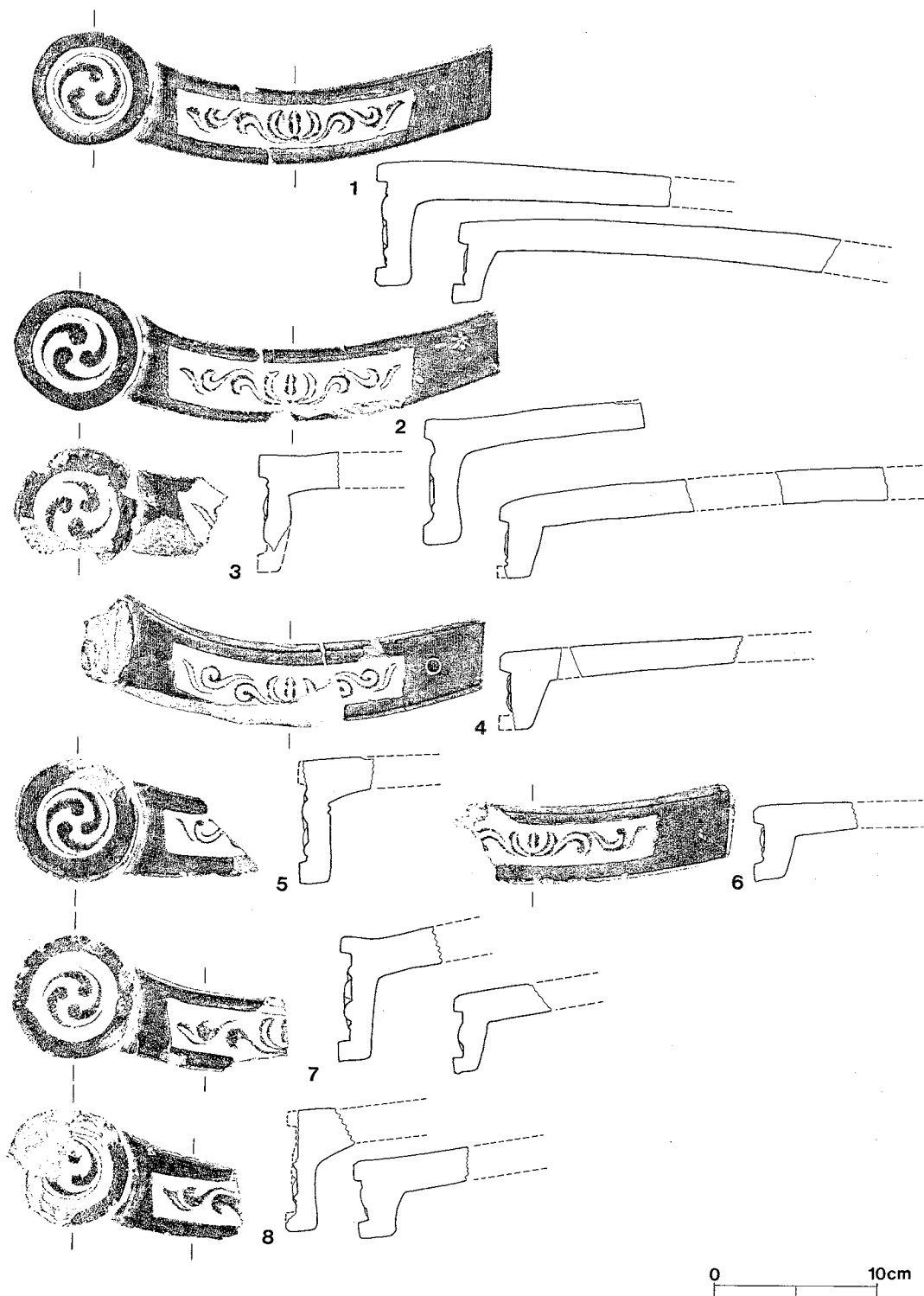
第322図 瓦3期軒丸瓦(1)



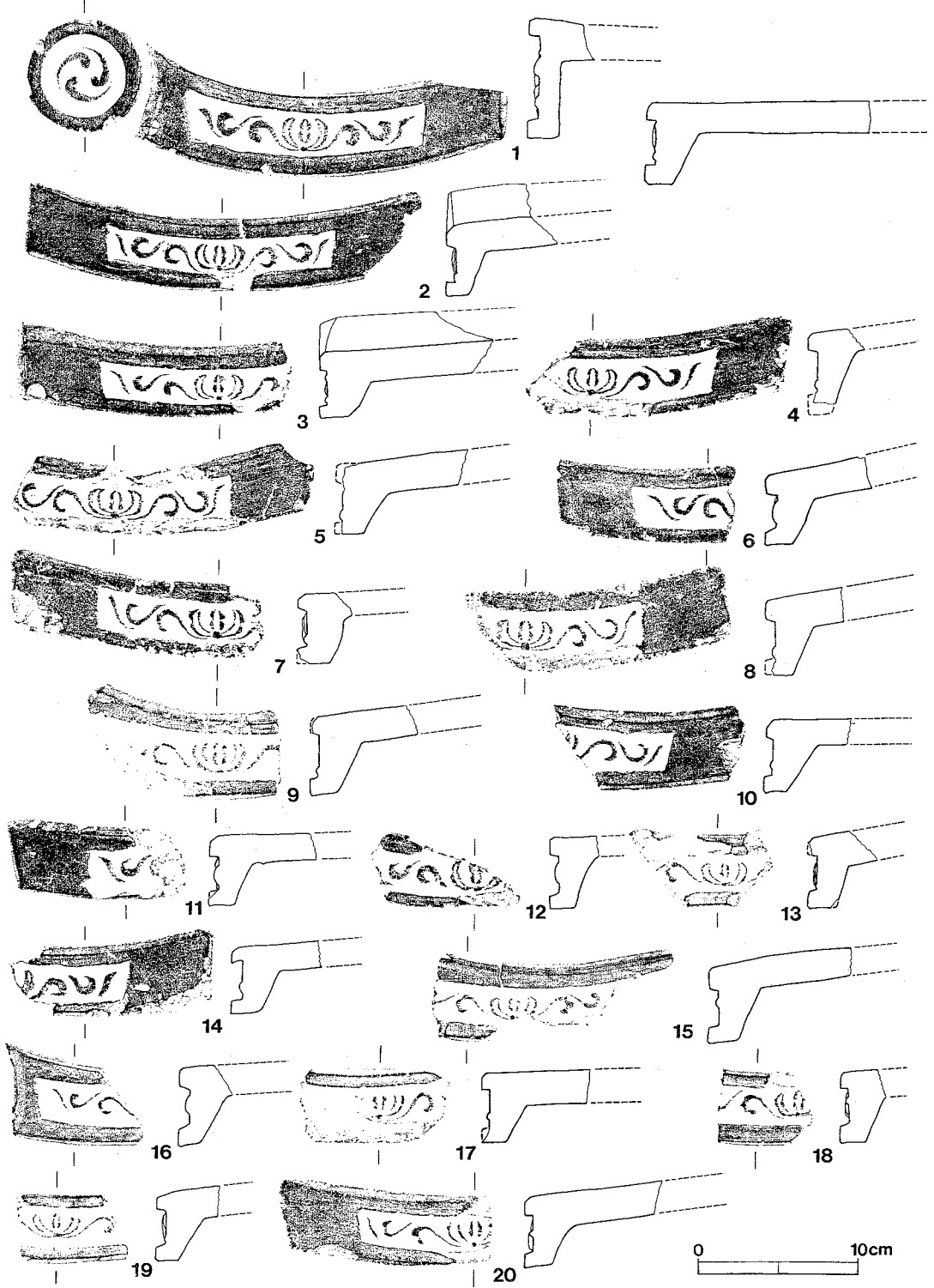
第323图 瓦3期軒丸瓦(2)・軒平瓦



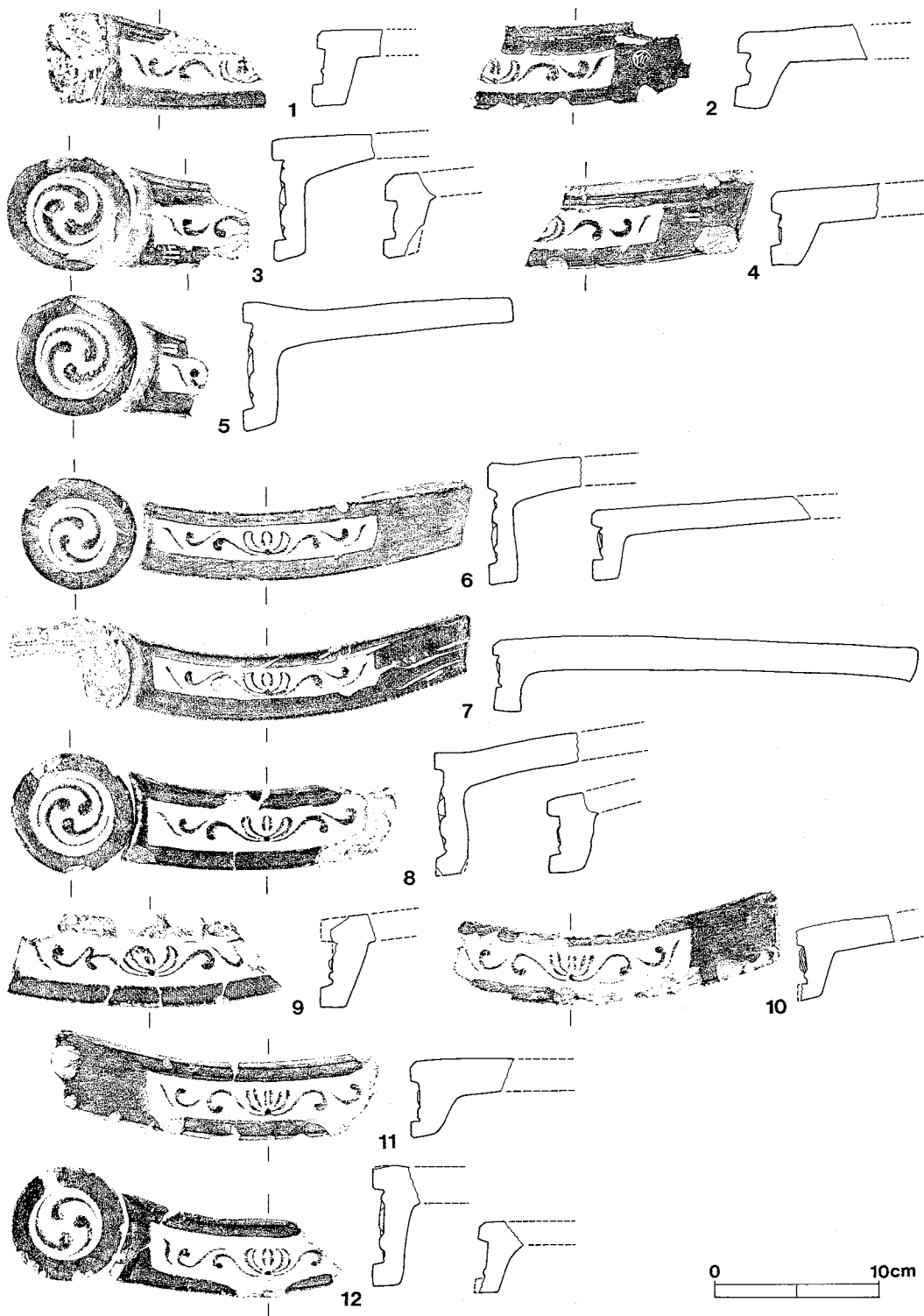
第324図 瓦3期軒椽瓦(1)



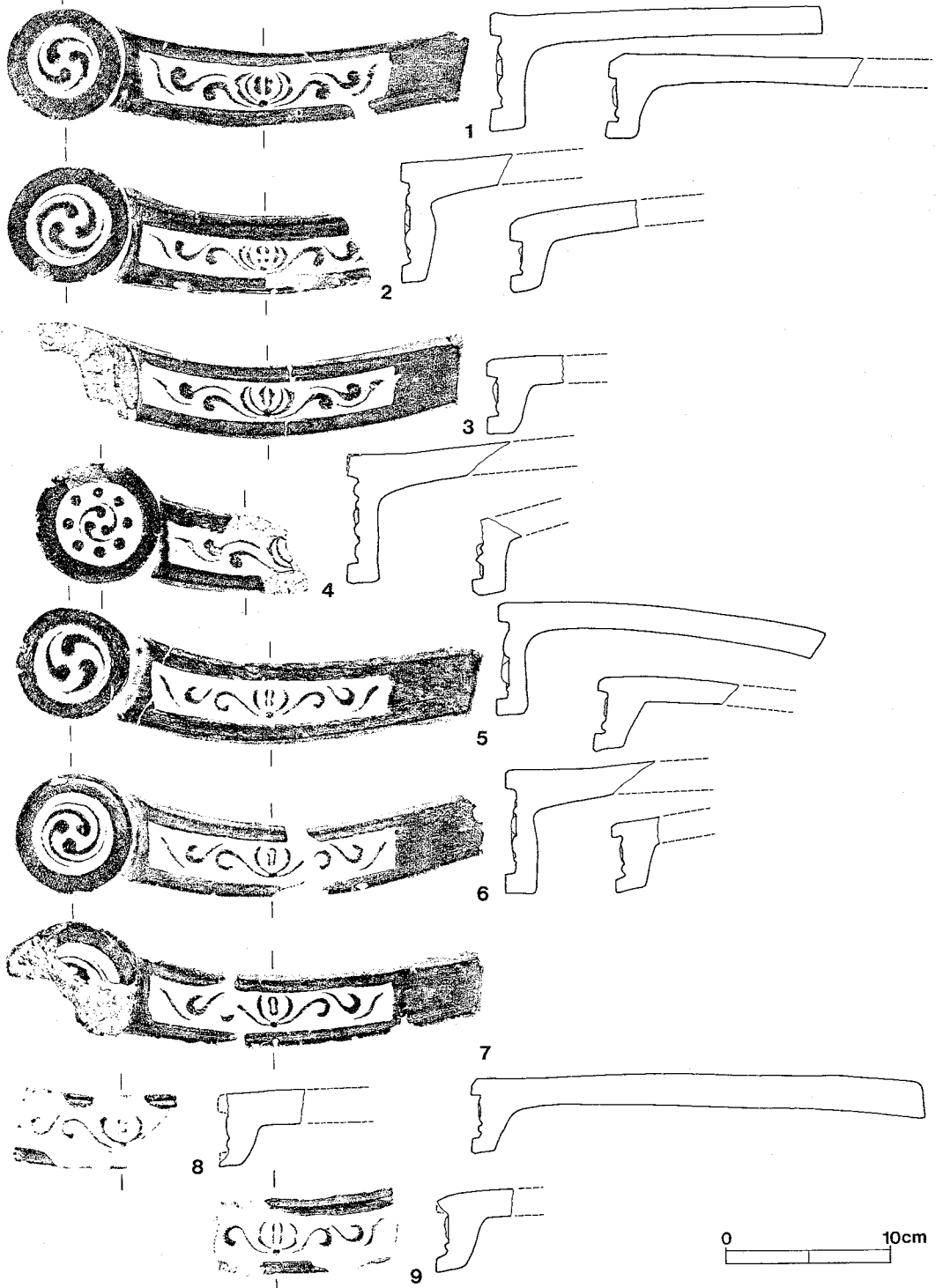
第325圖 瓦3期軒椽瓦(2)



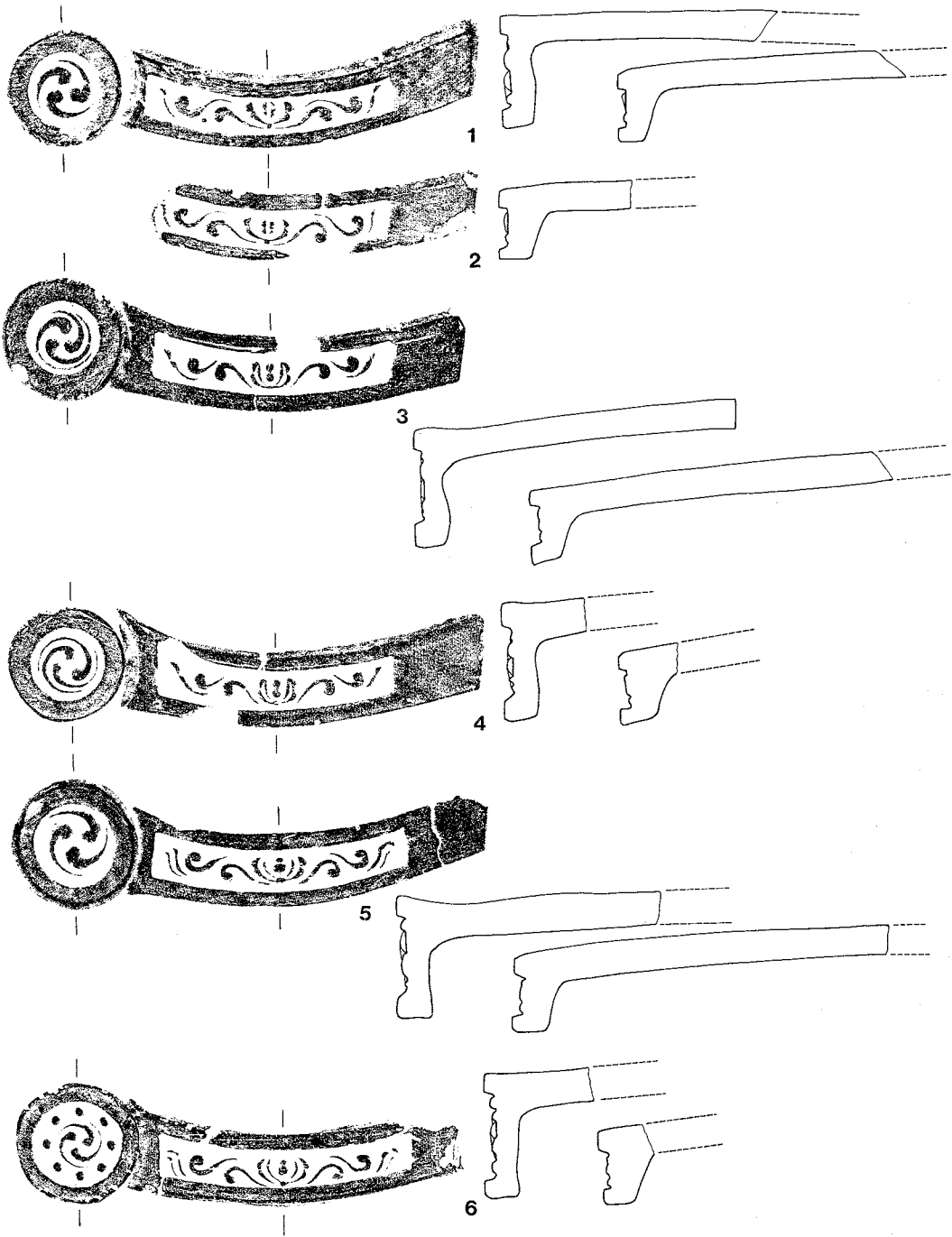
第326図 瓦3期軒椽瓦(3)



第327图 瓦3期軒椽瓦(4)

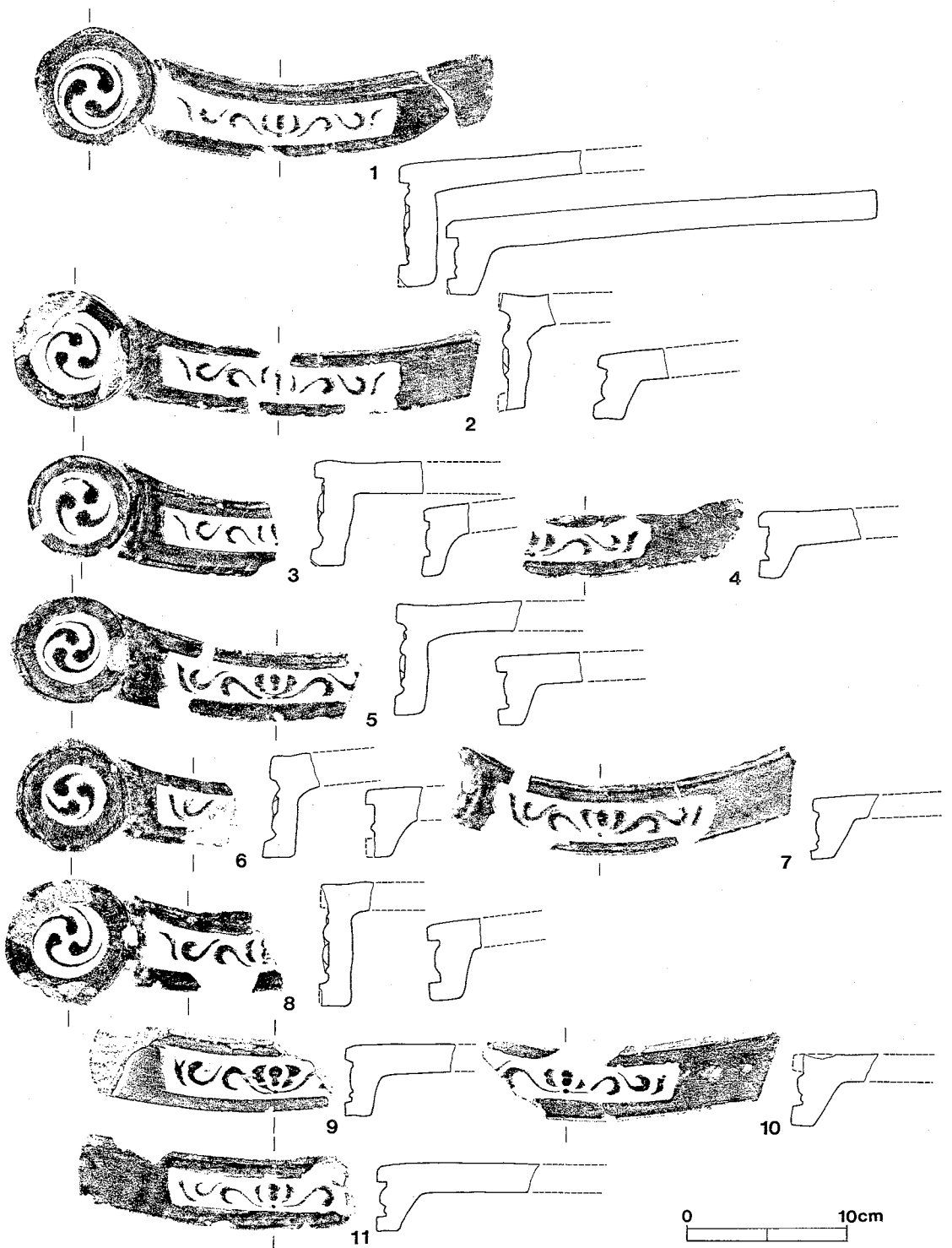


第328图 瓦3期軒椽瓦(5)



0 10cm

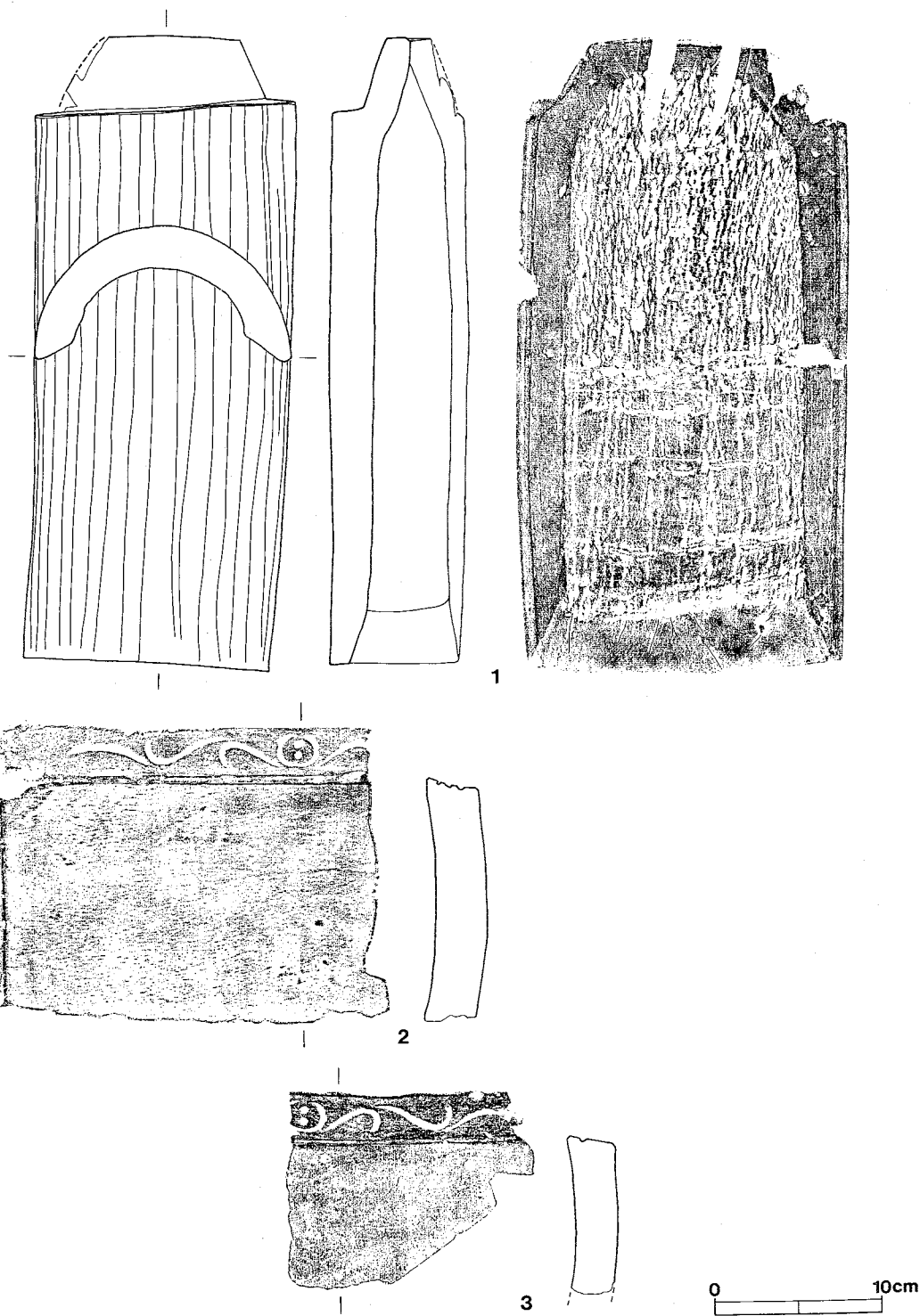
第329图 瓦3期軒椽瓦(6)



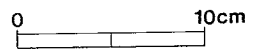
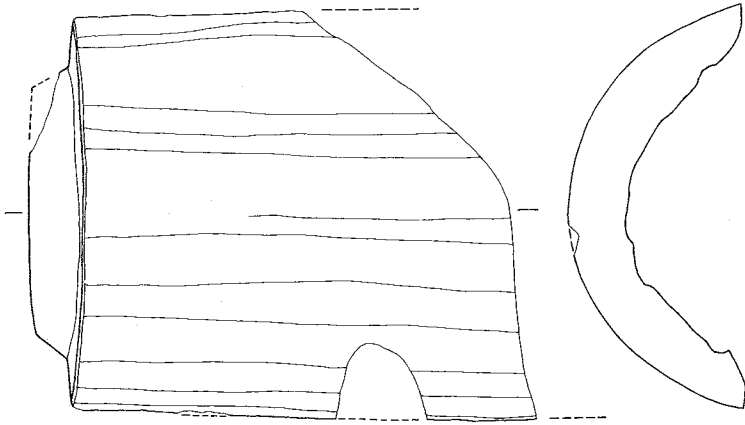
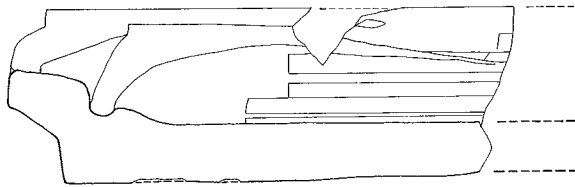
第330图 瓦3期軒椽瓦(7)



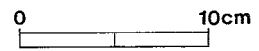
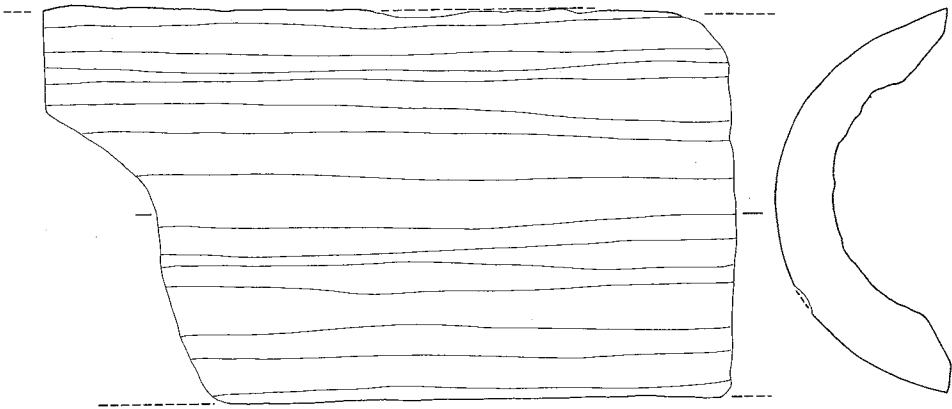
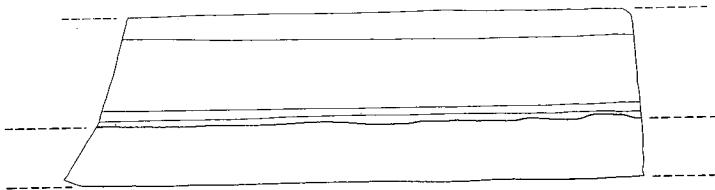
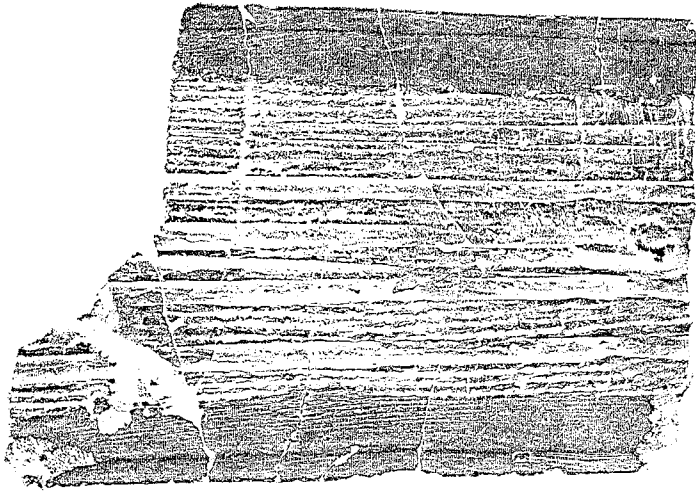
第331图 瓦3期軒棧瓦(8)



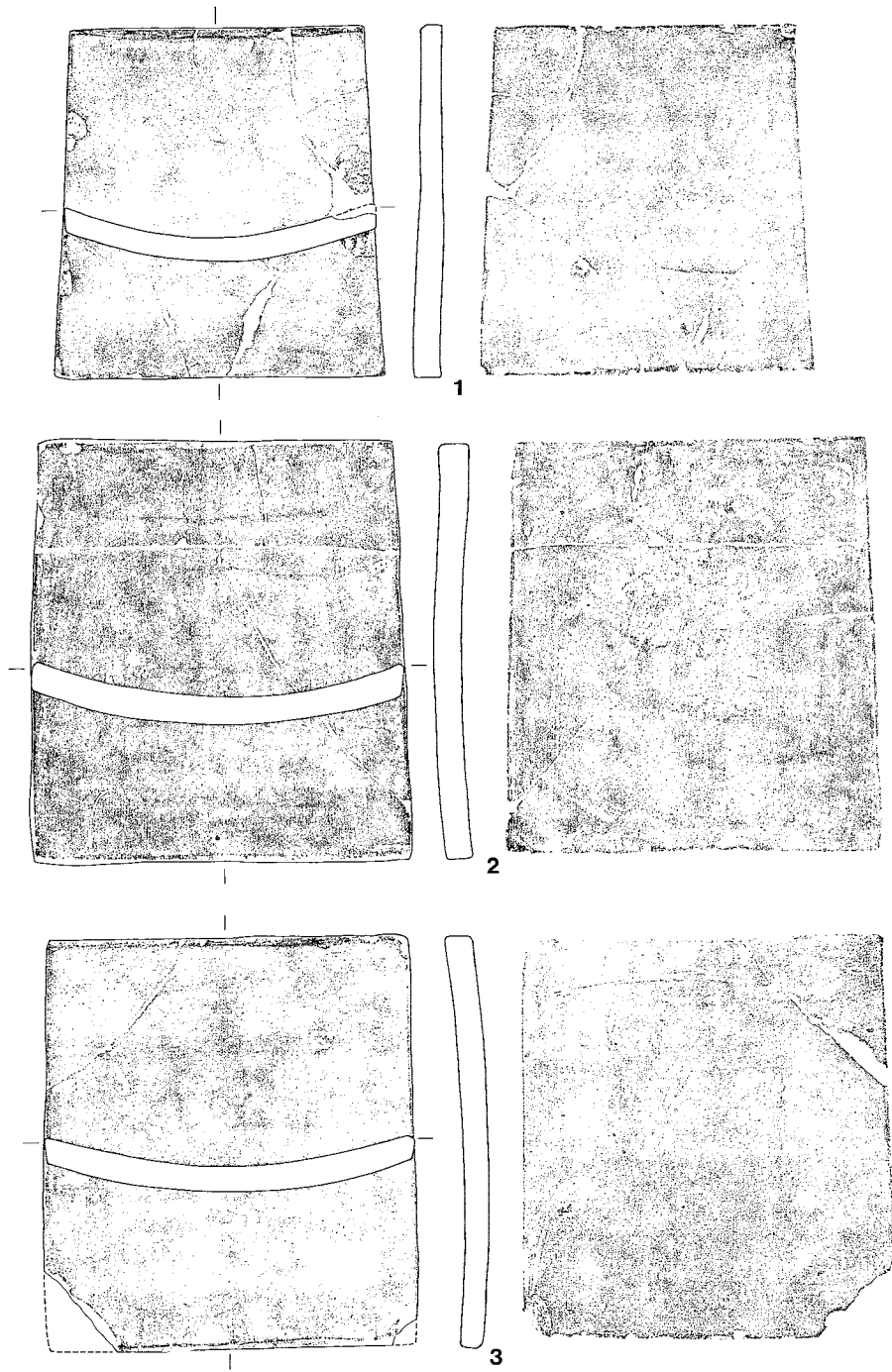
第332图 瓦 3期丸瓦(1)·契斗瓦(1)



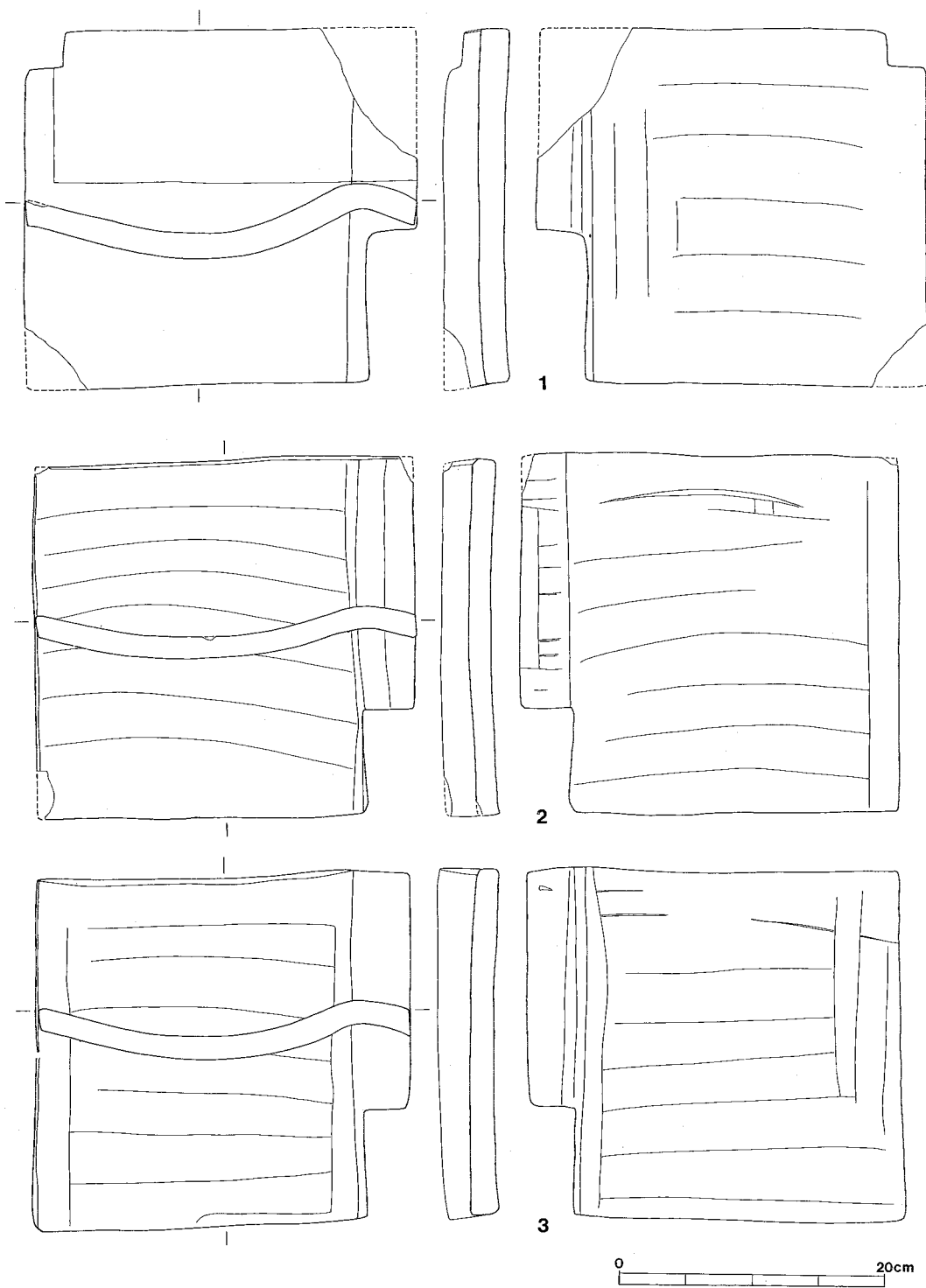
第333图 瓦3期丸瓦(2)



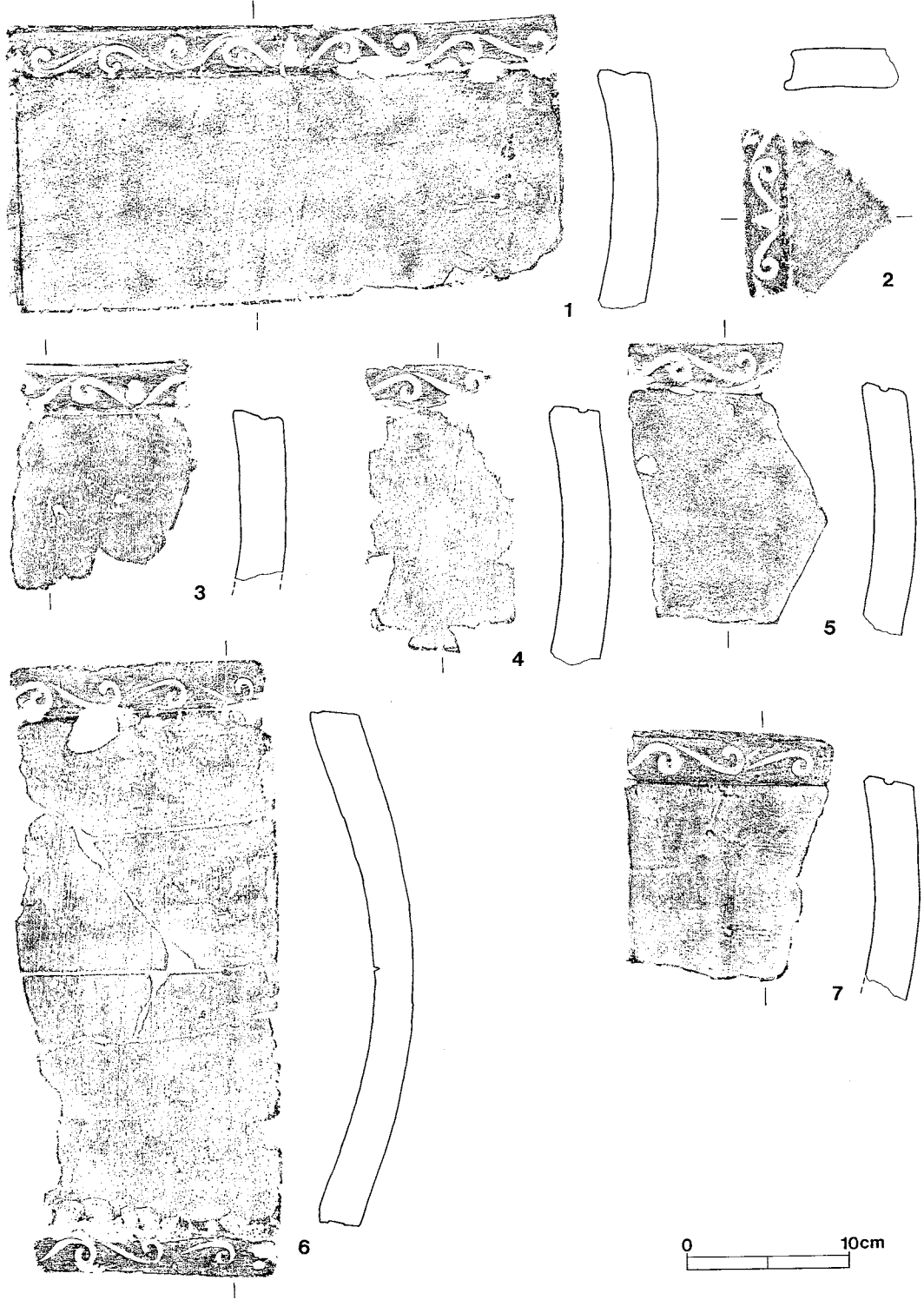
第334図 瓦 3期丸瓦(3)



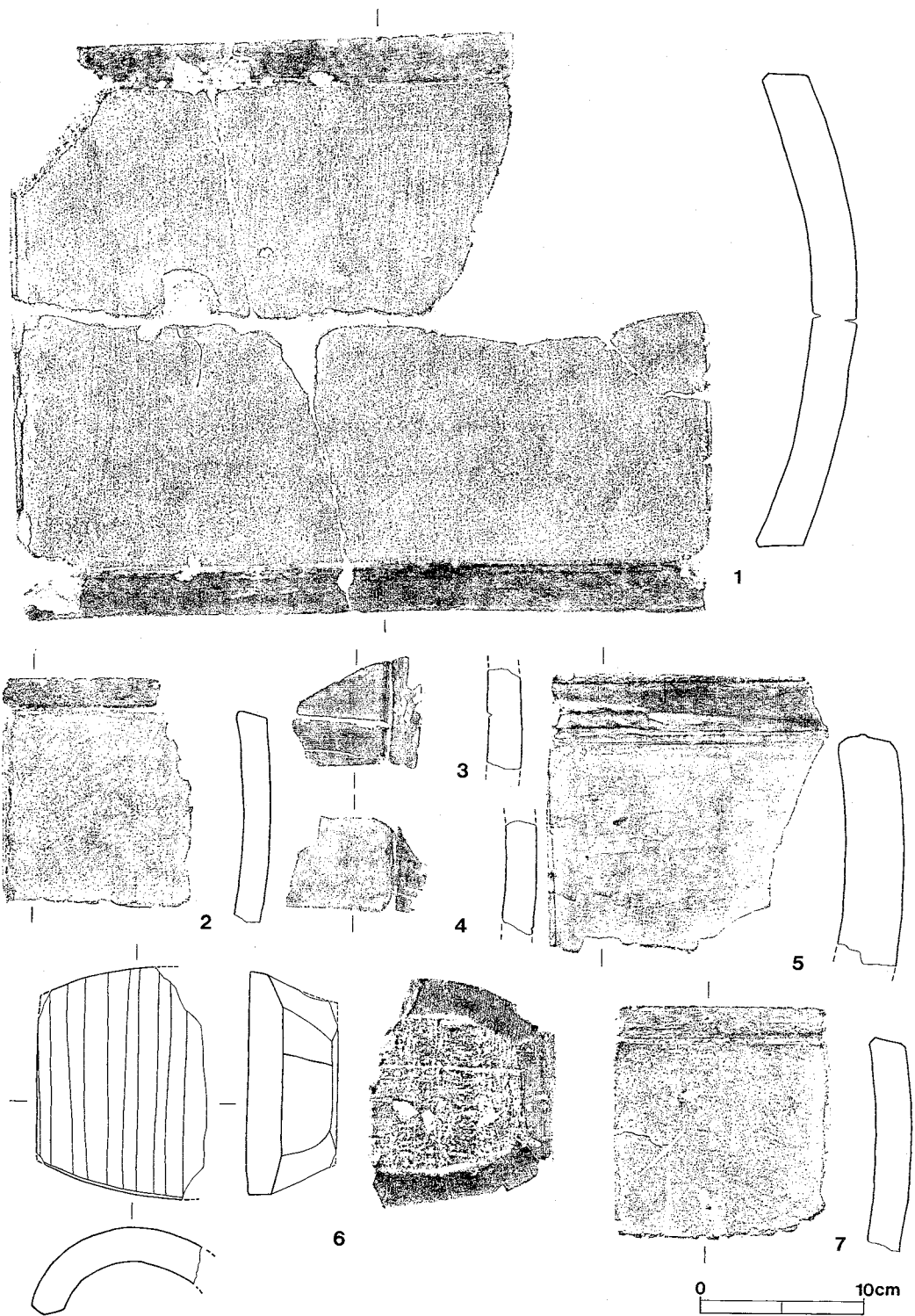
第335图 瓦3期平瓦



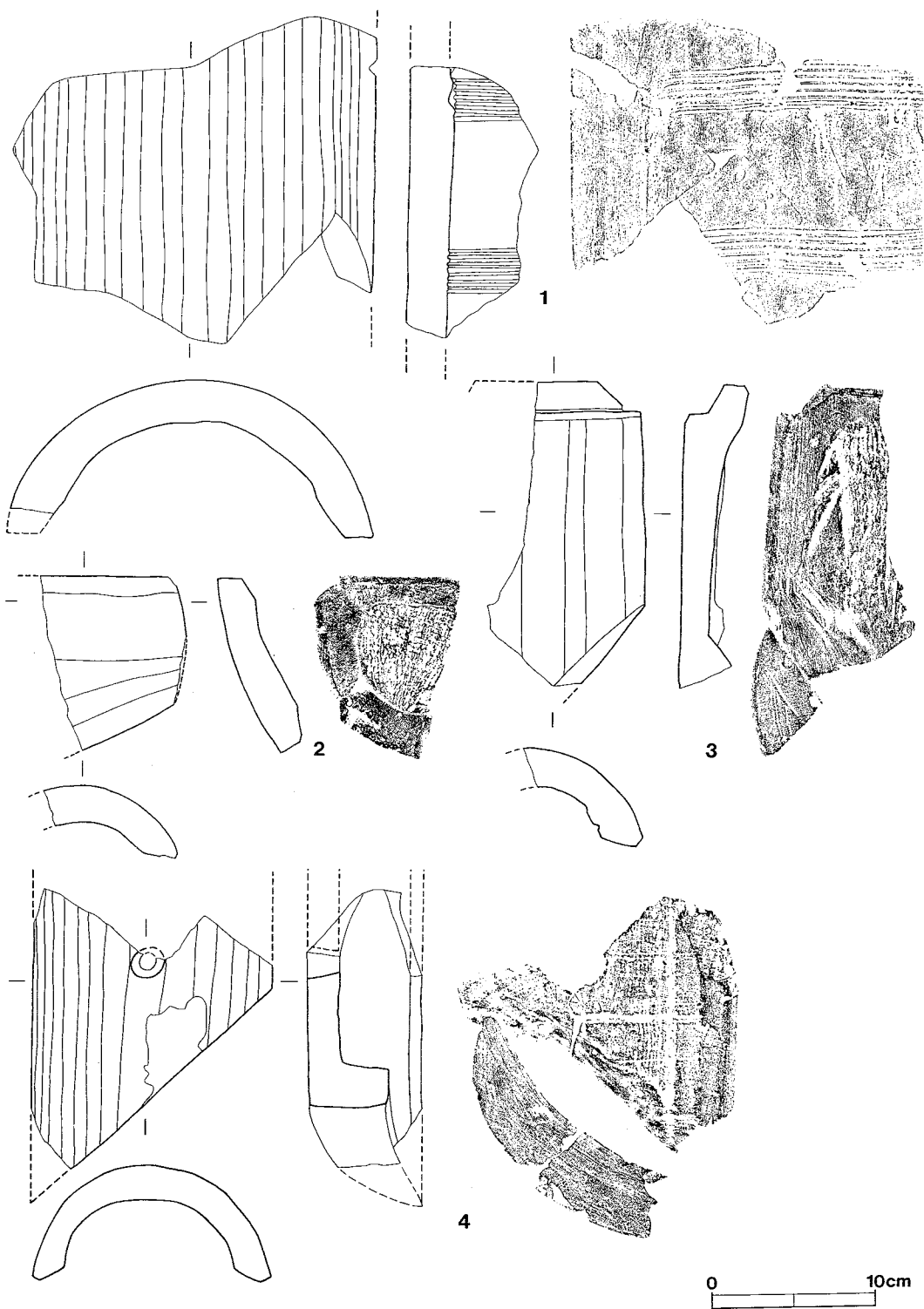
第336图 瓦 3期棧瓦



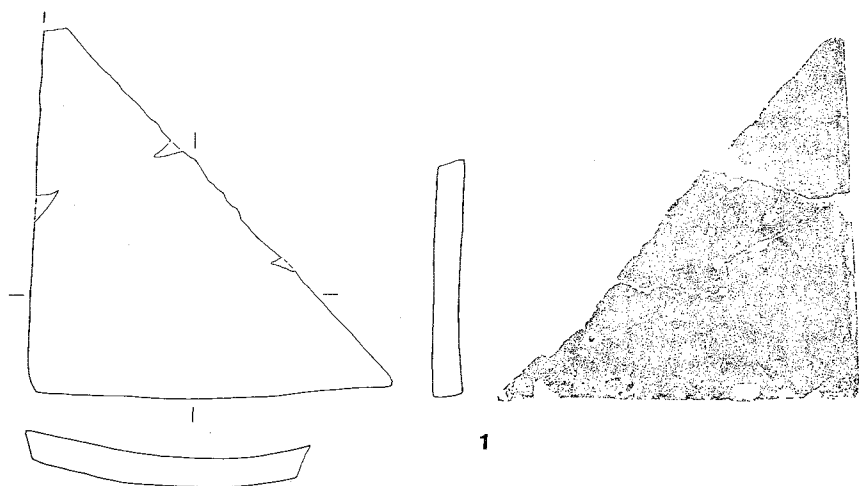
第337图 瓦3期鬃斗瓦(2)



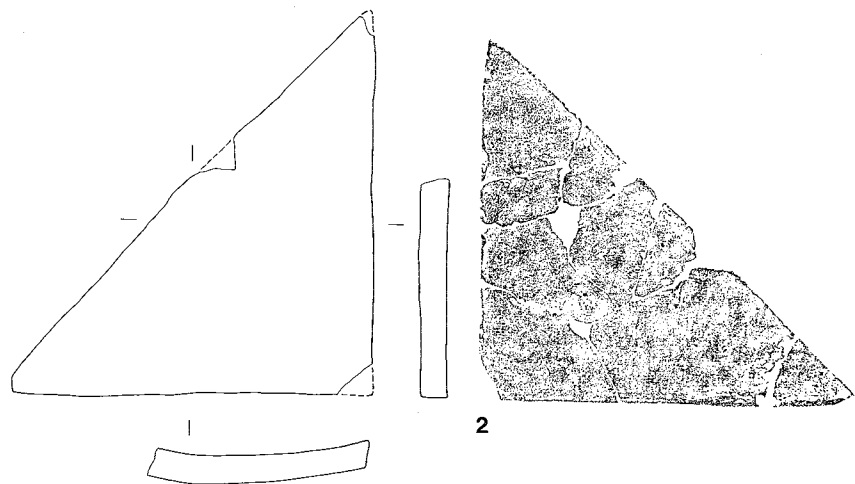
第338图 瓦3期熨斗瓦(3)·道具瓦(1)



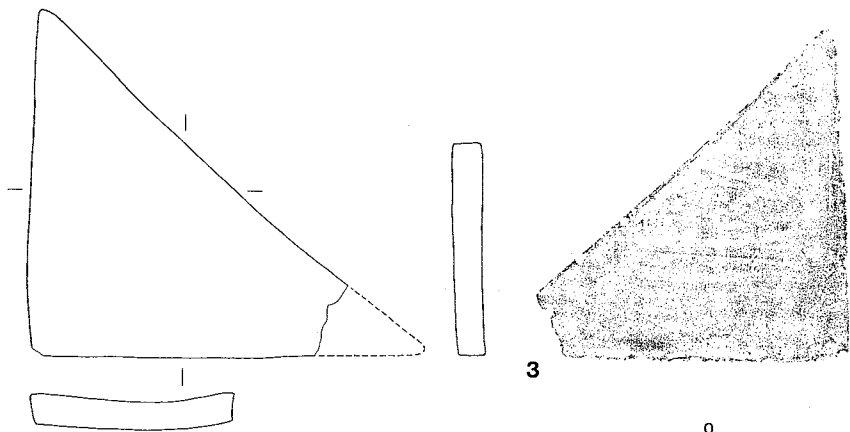
第339图 瓦3期道具瓦(2)



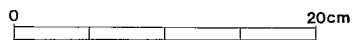
1



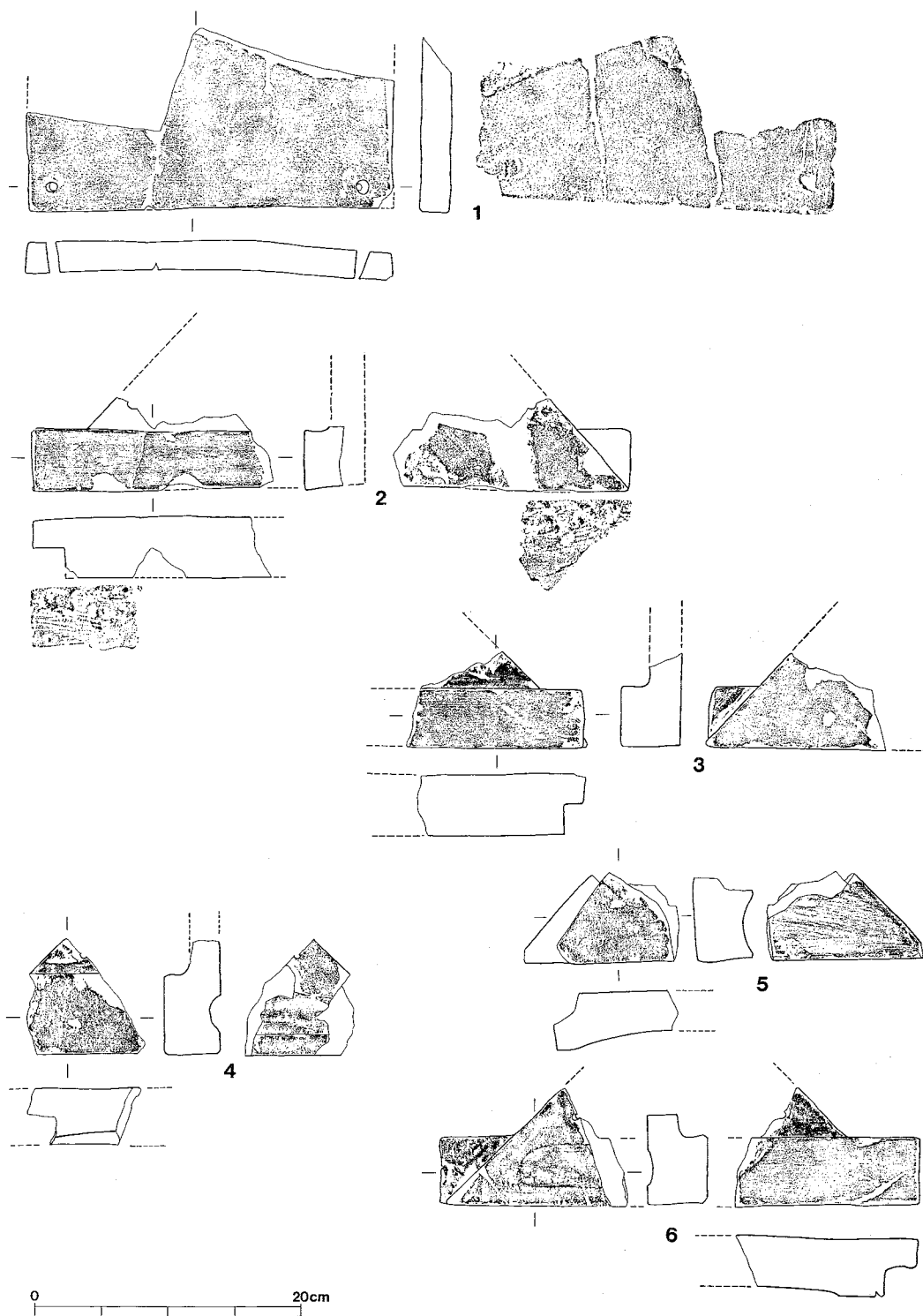
2



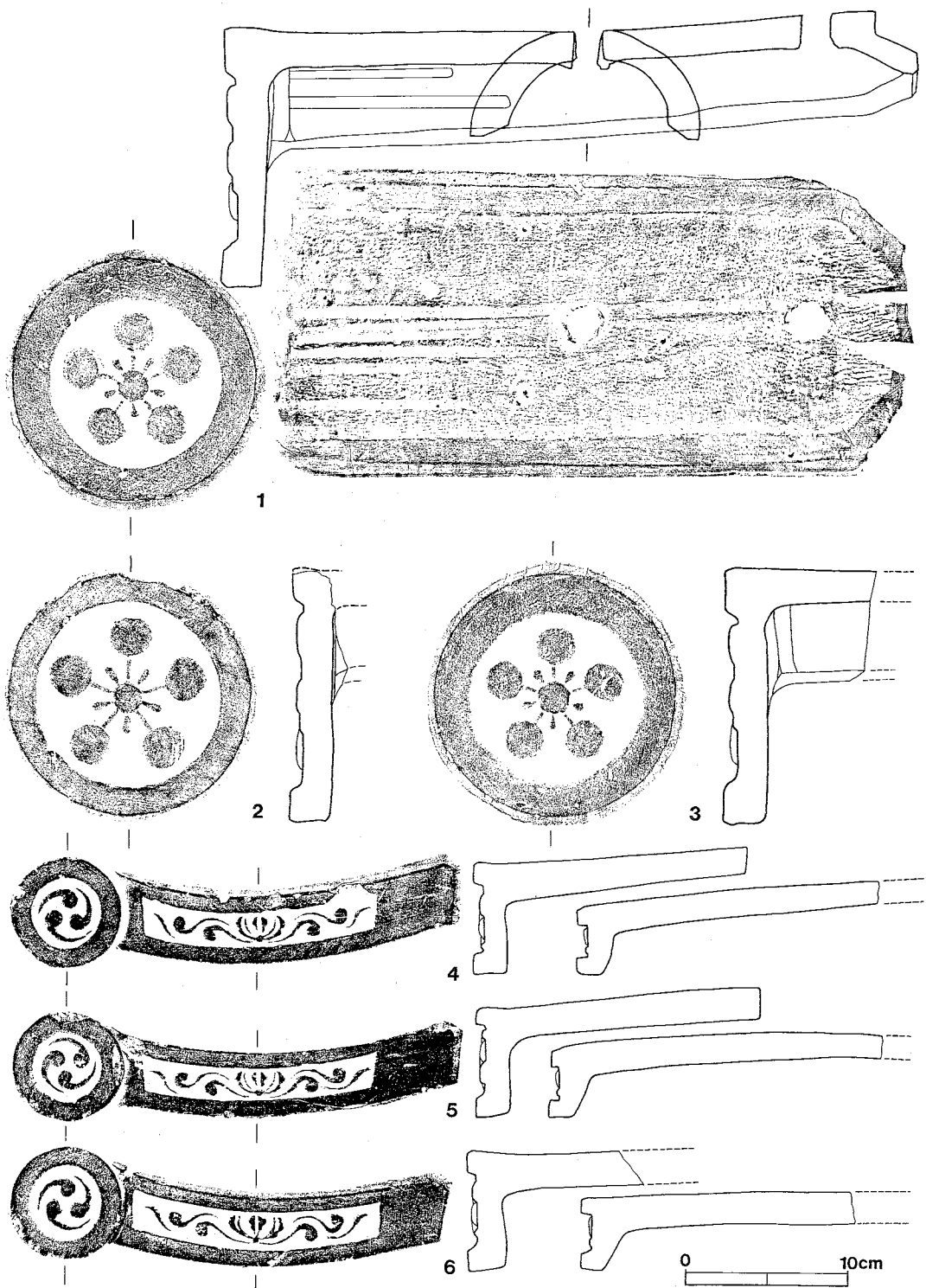
3



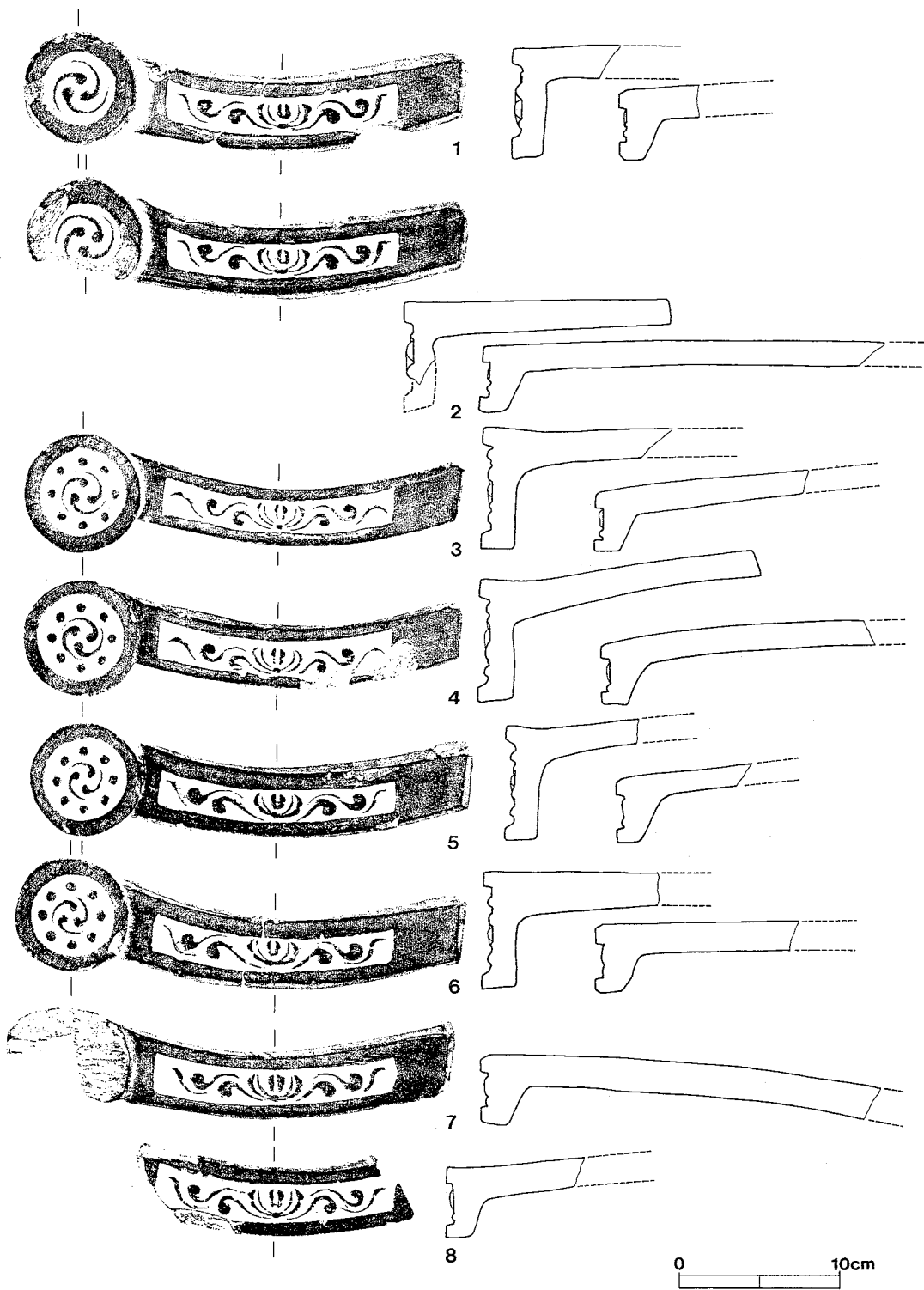
第340图 瓦 3期切平瓦



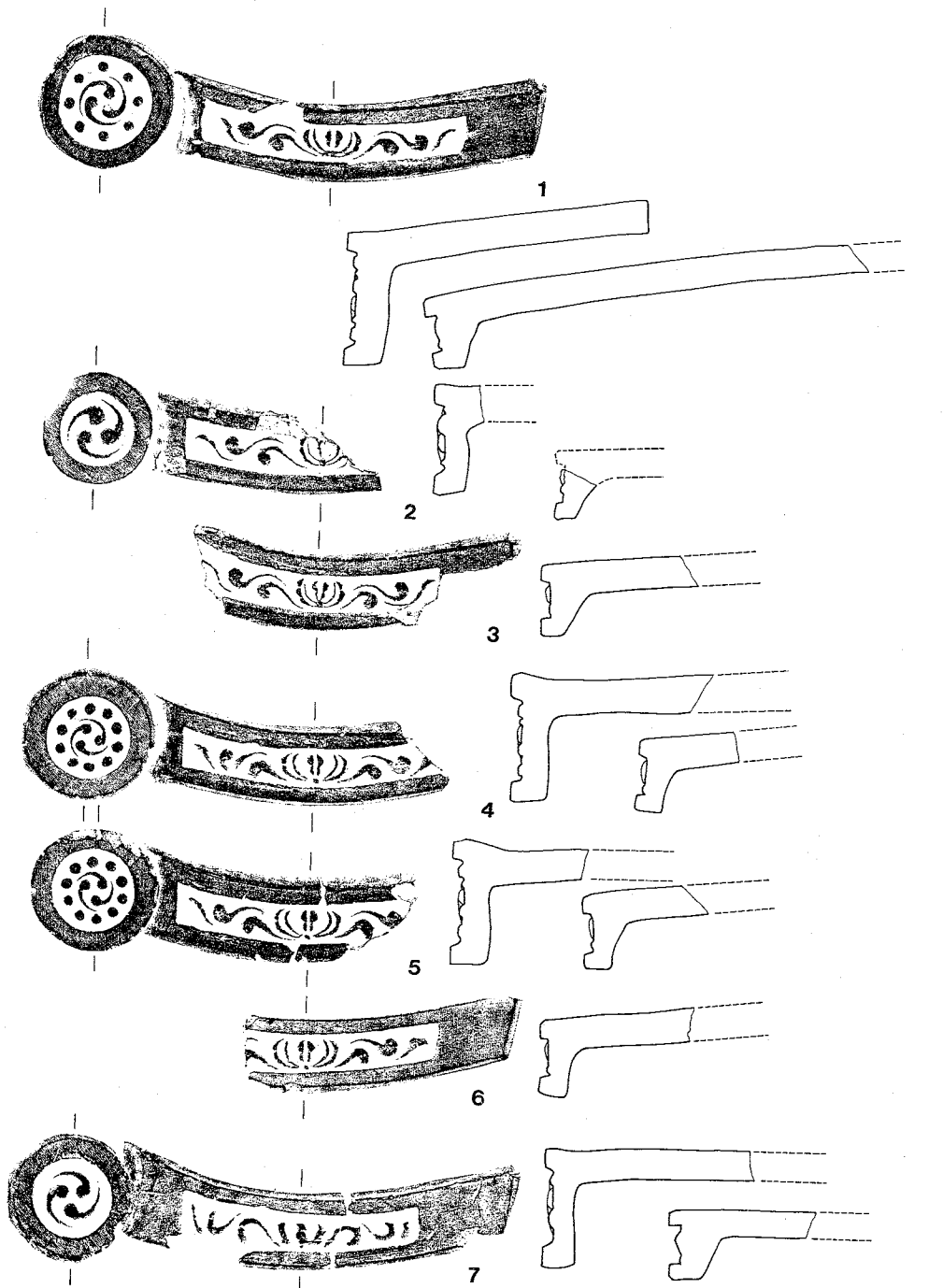
第341图 瓦 3期海鼠瓦



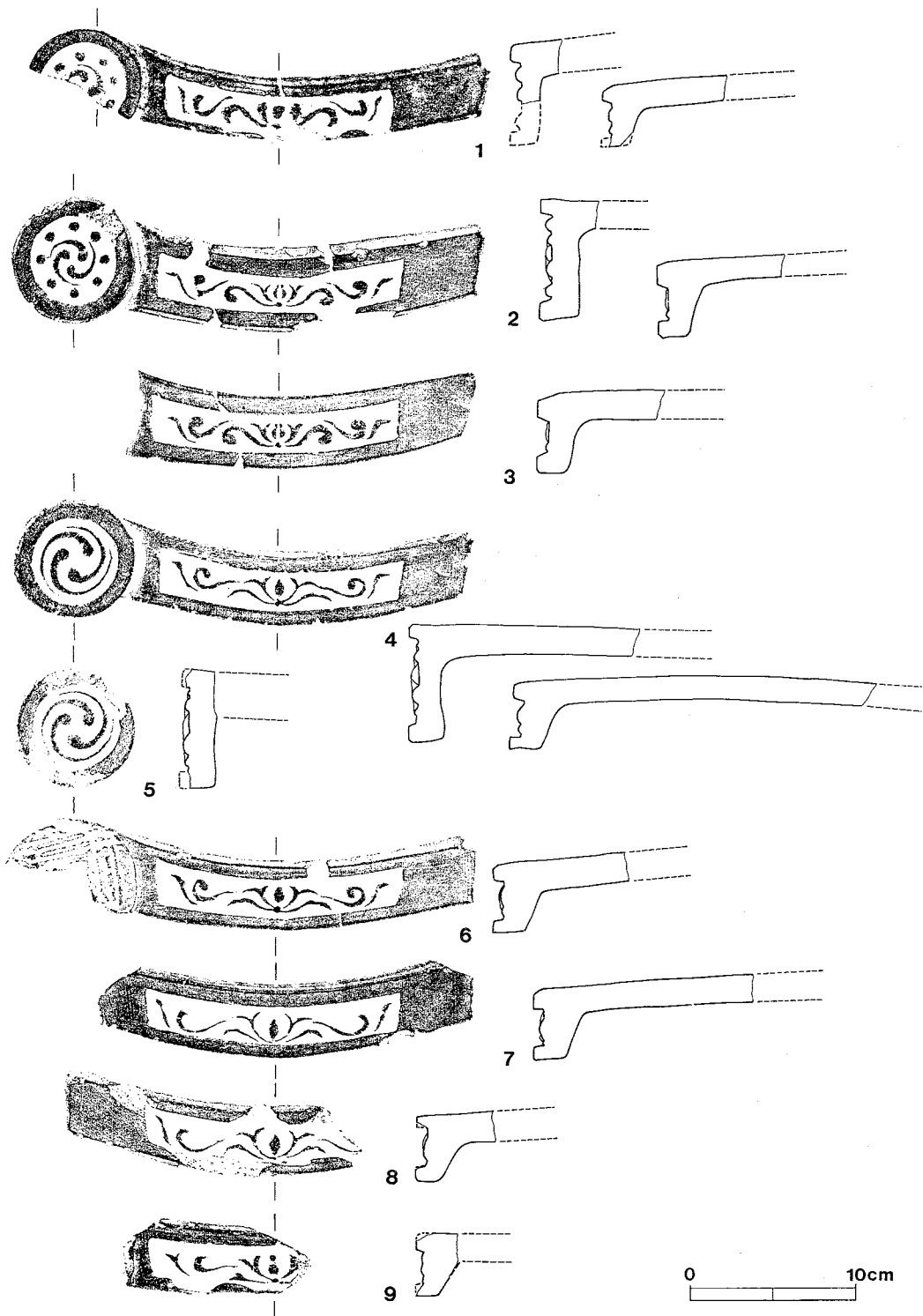
第342图 瓦4期軒丸瓦・軒棧瓦(1)



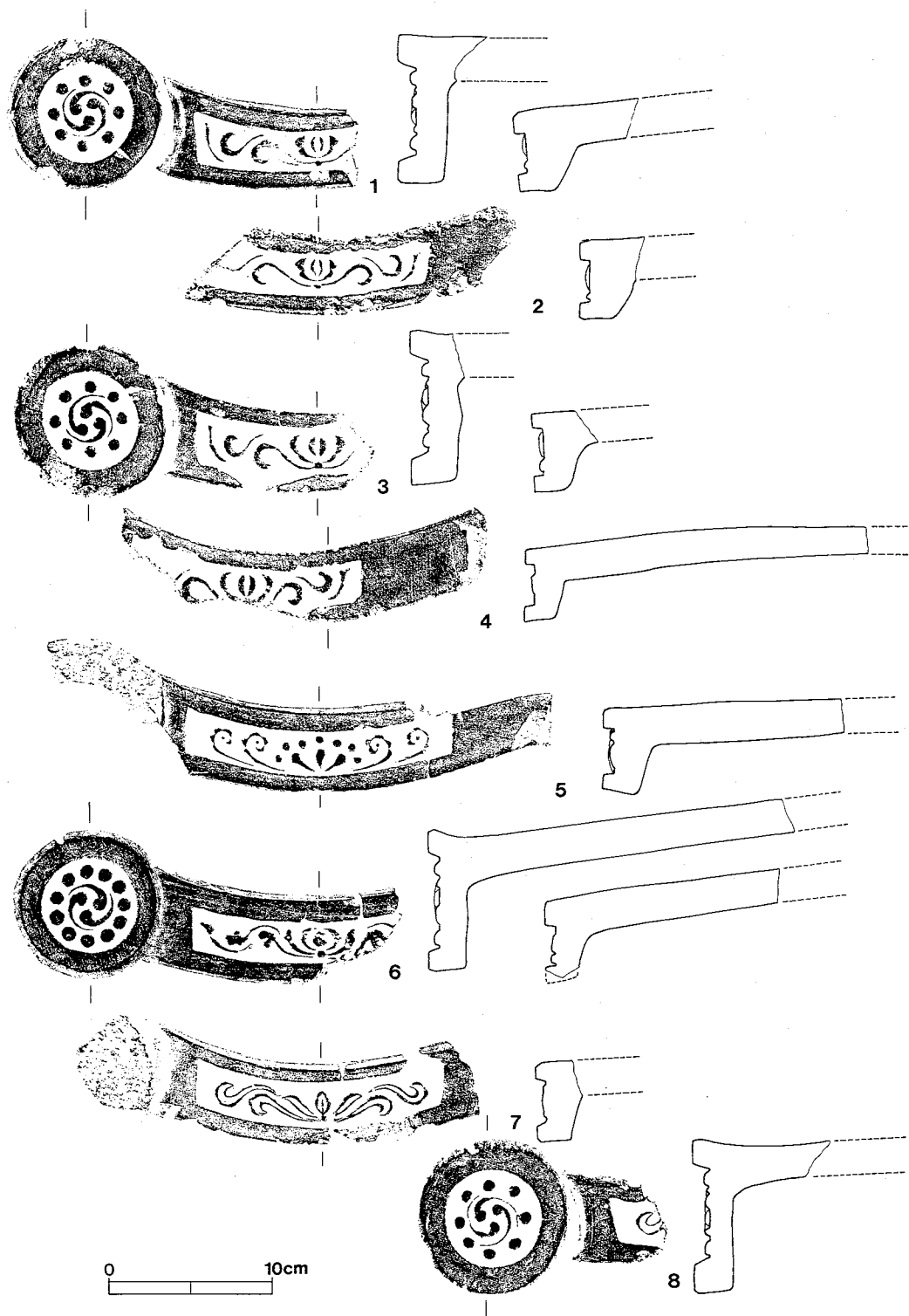
第343图 瓦4期軒椽瓦(2)



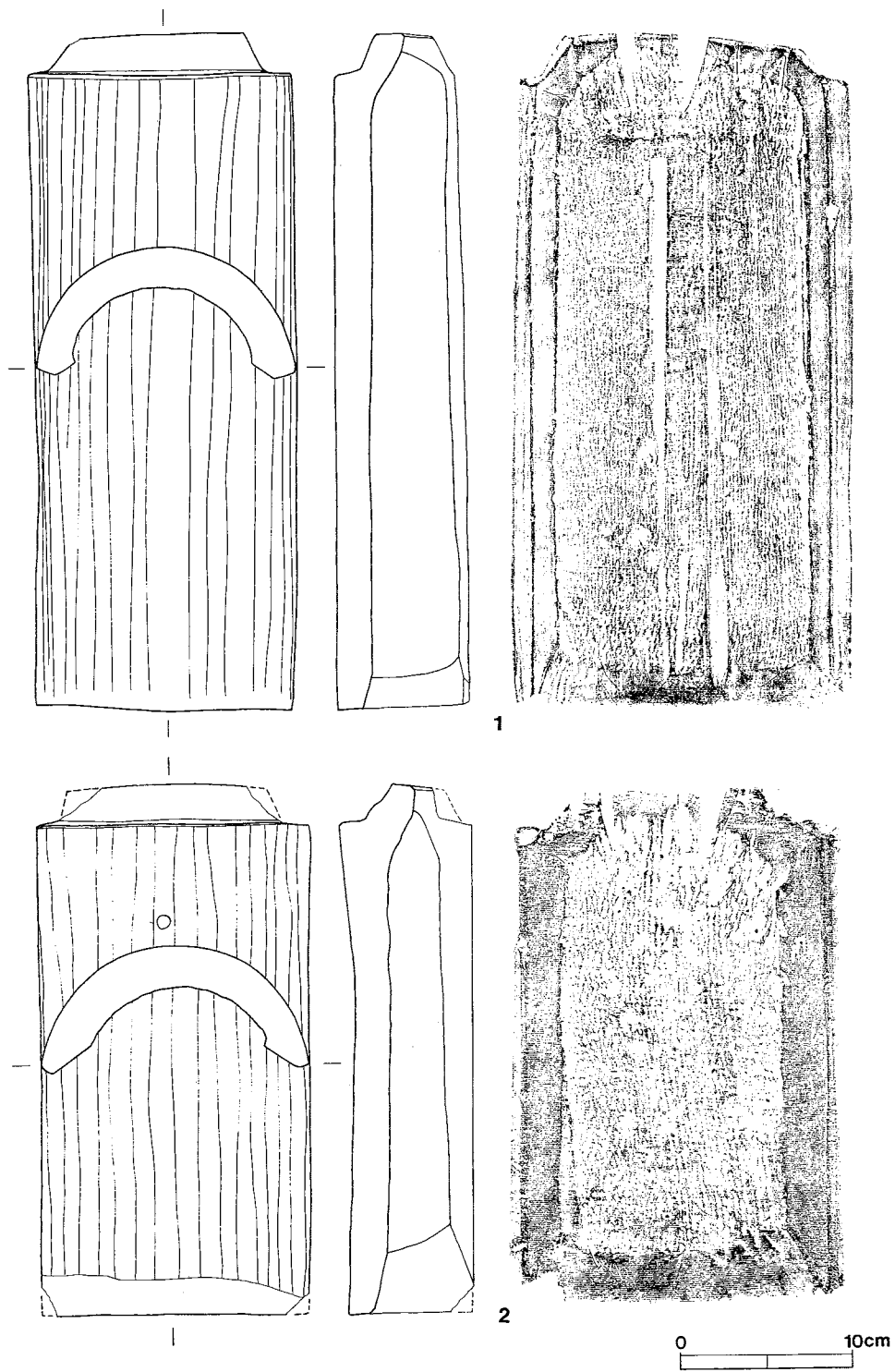
第344図 瓦4期軒椽瓦(3)



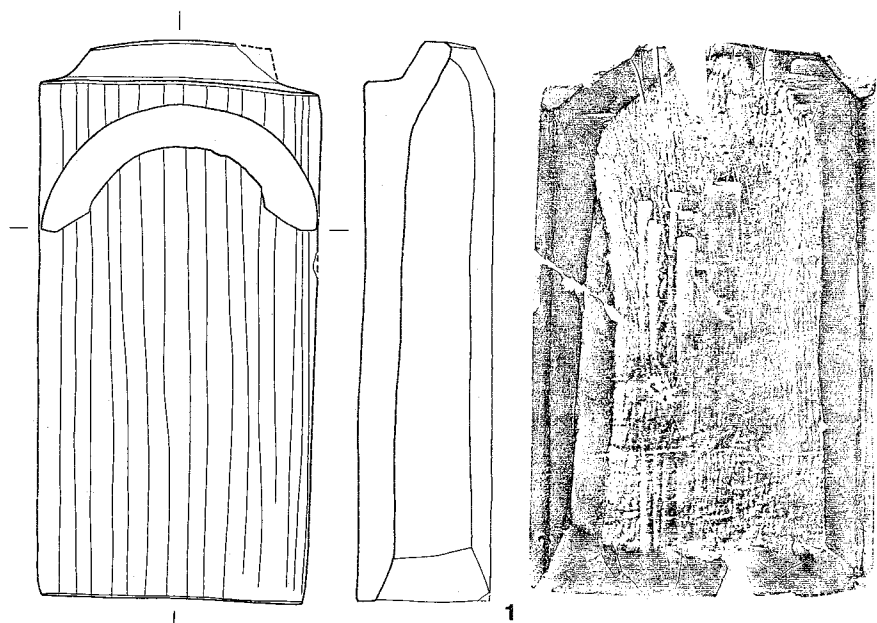
第345图 瓦4期軒椽瓦(4)



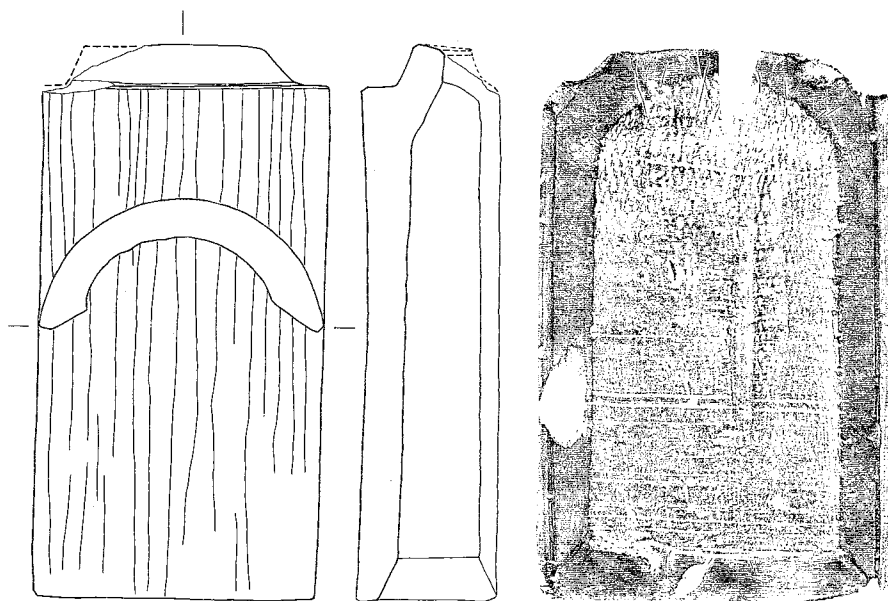
第346图 瓦4期棧瓦(5)



第347图 瓦4期丸瓦(1)



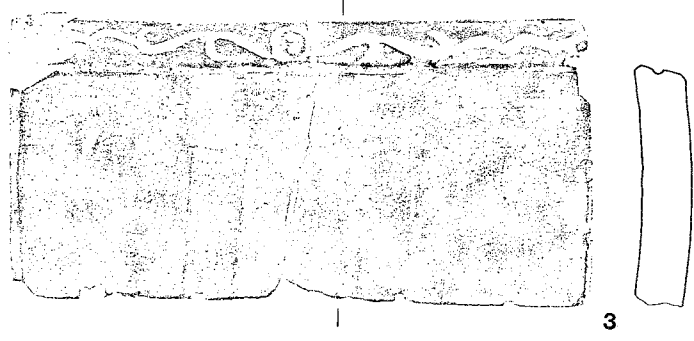
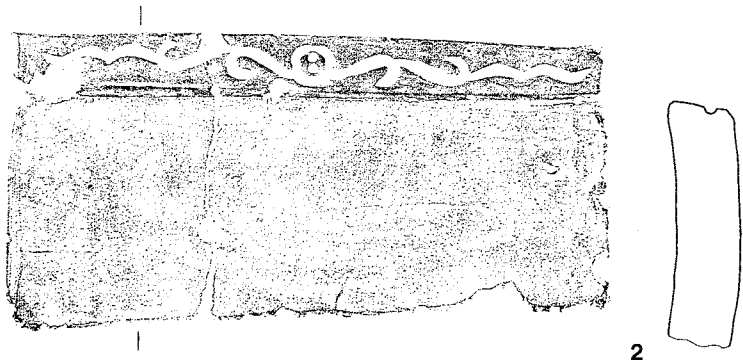
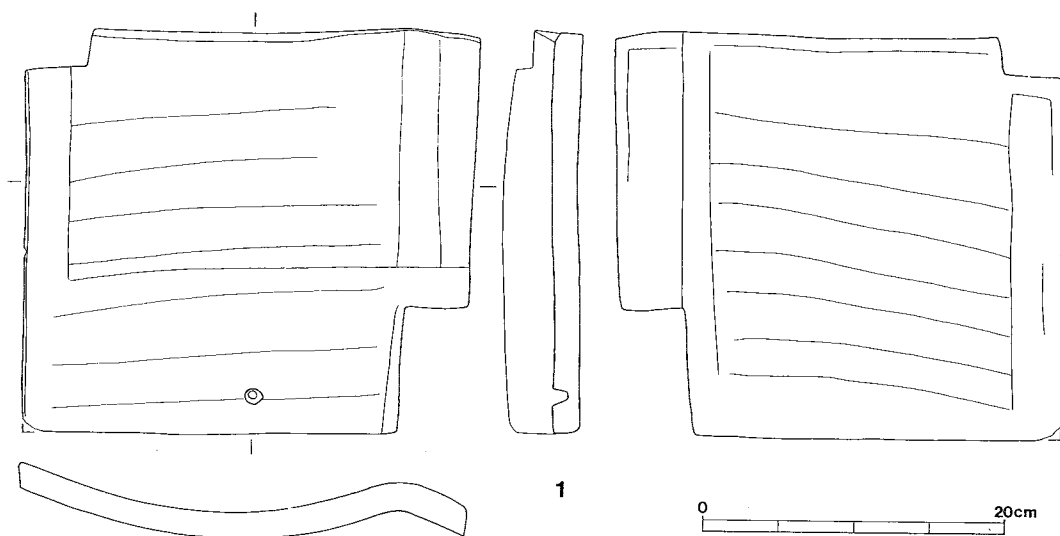
1



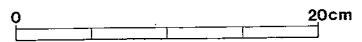
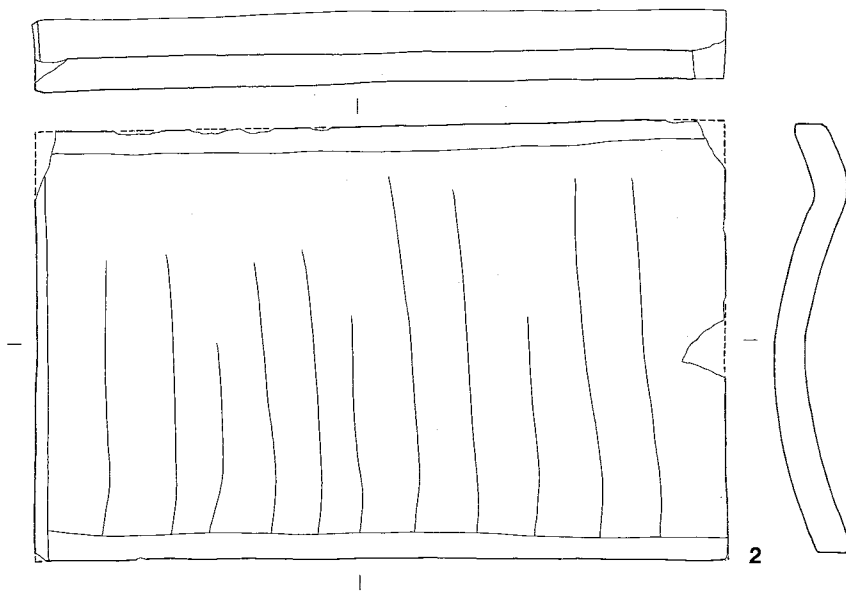
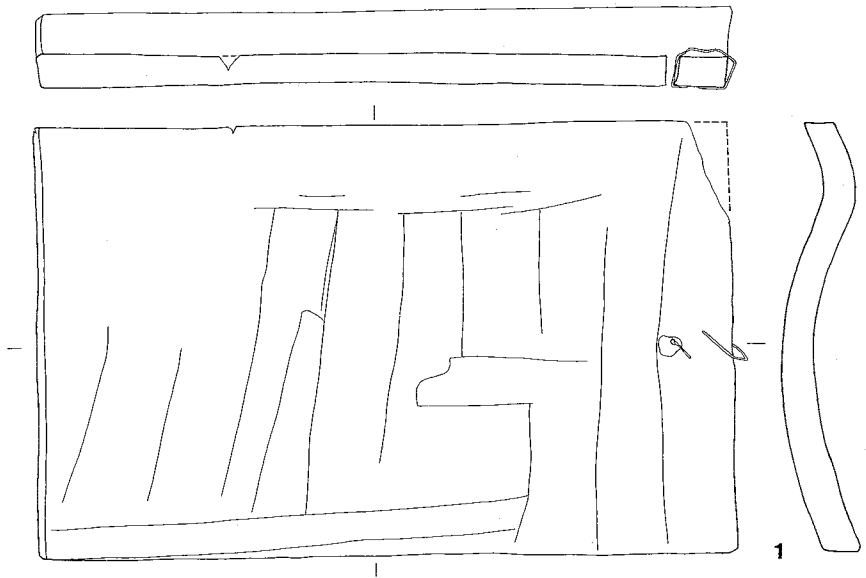
2

0 10cm

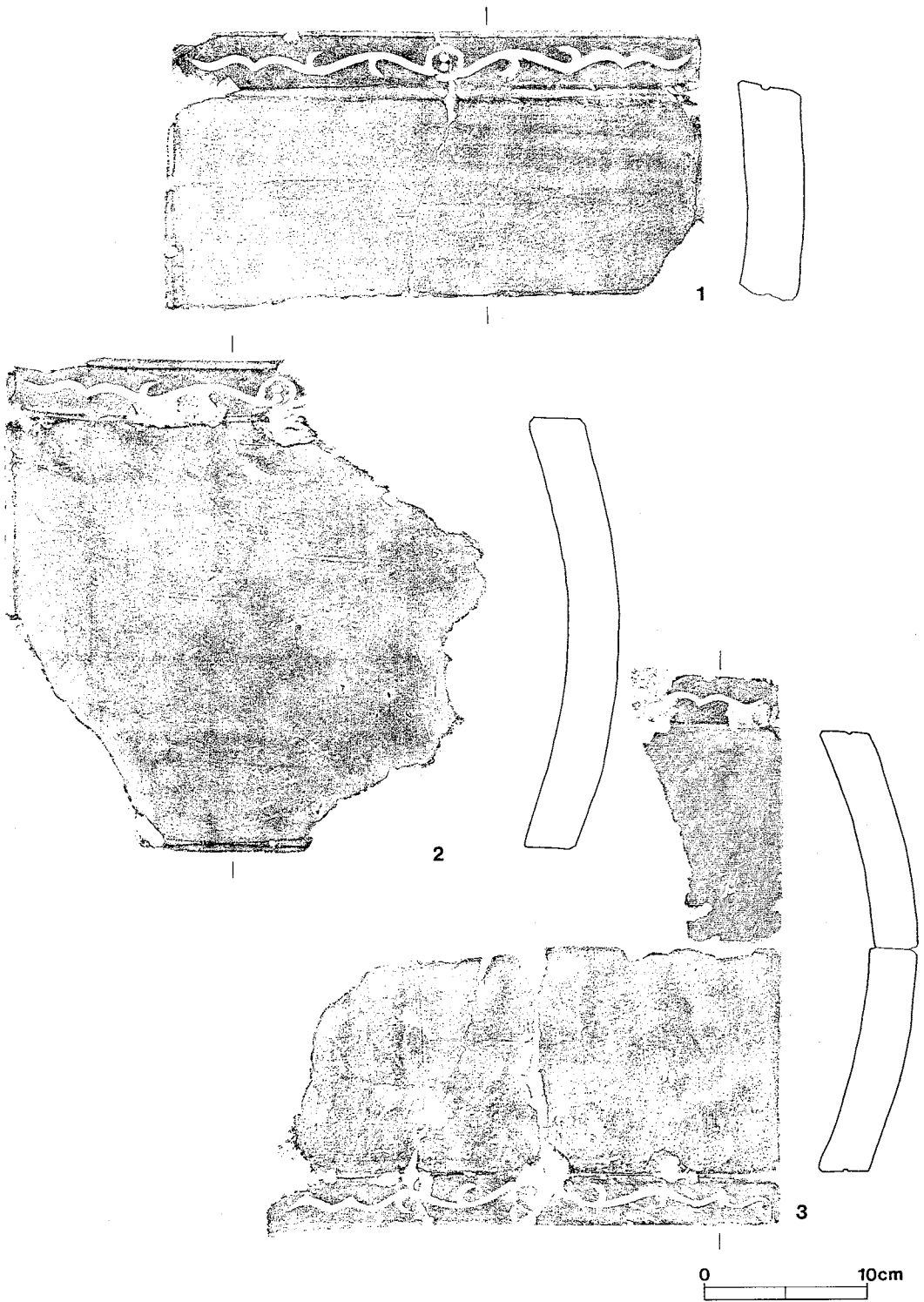
第348图 瓦4期丸瓦(2)



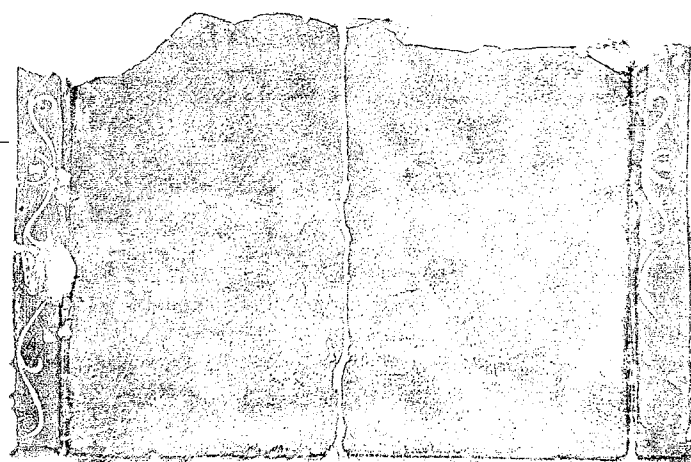
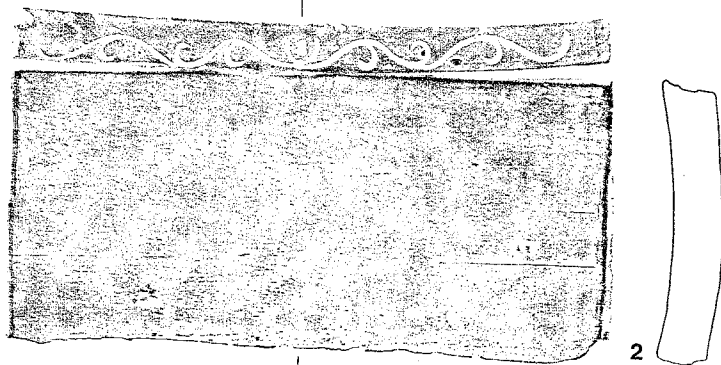
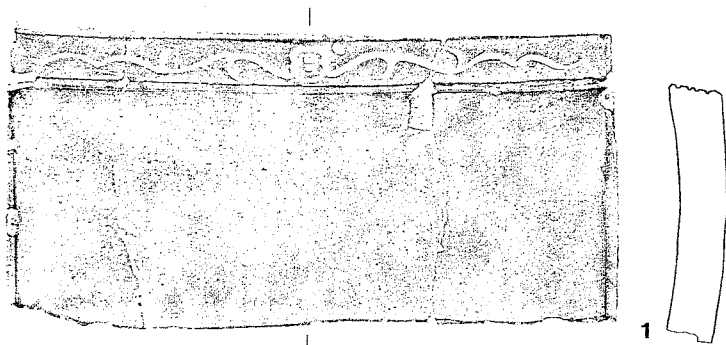
第349図 瓦4期棧瓦(1)・熨斗瓦(1)(下)



第350図 瓦4期棧瓦(2)

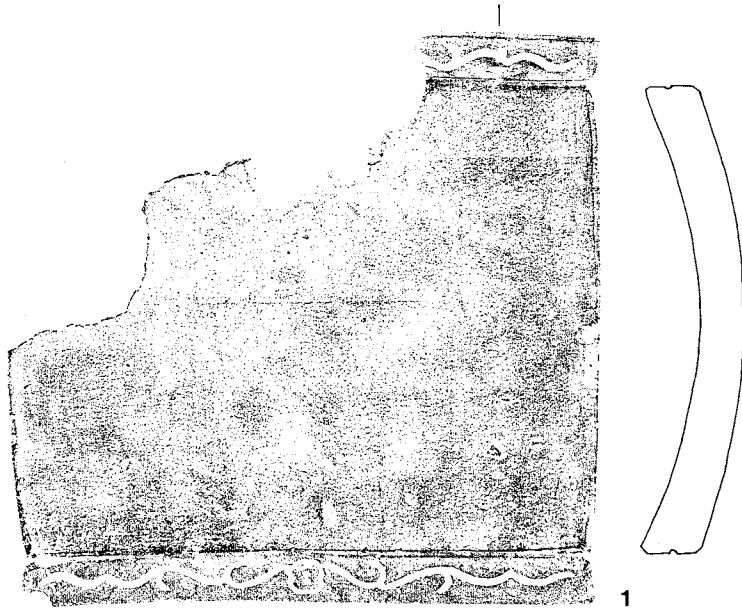


第351图 瓦 4期熨斗瓦(2)

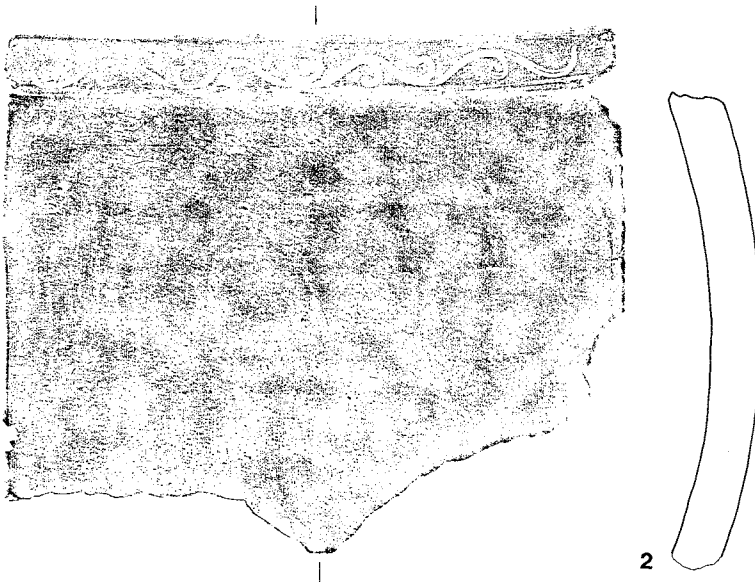


0 10cm

第352图 瓦4期熨斗瓦(3)



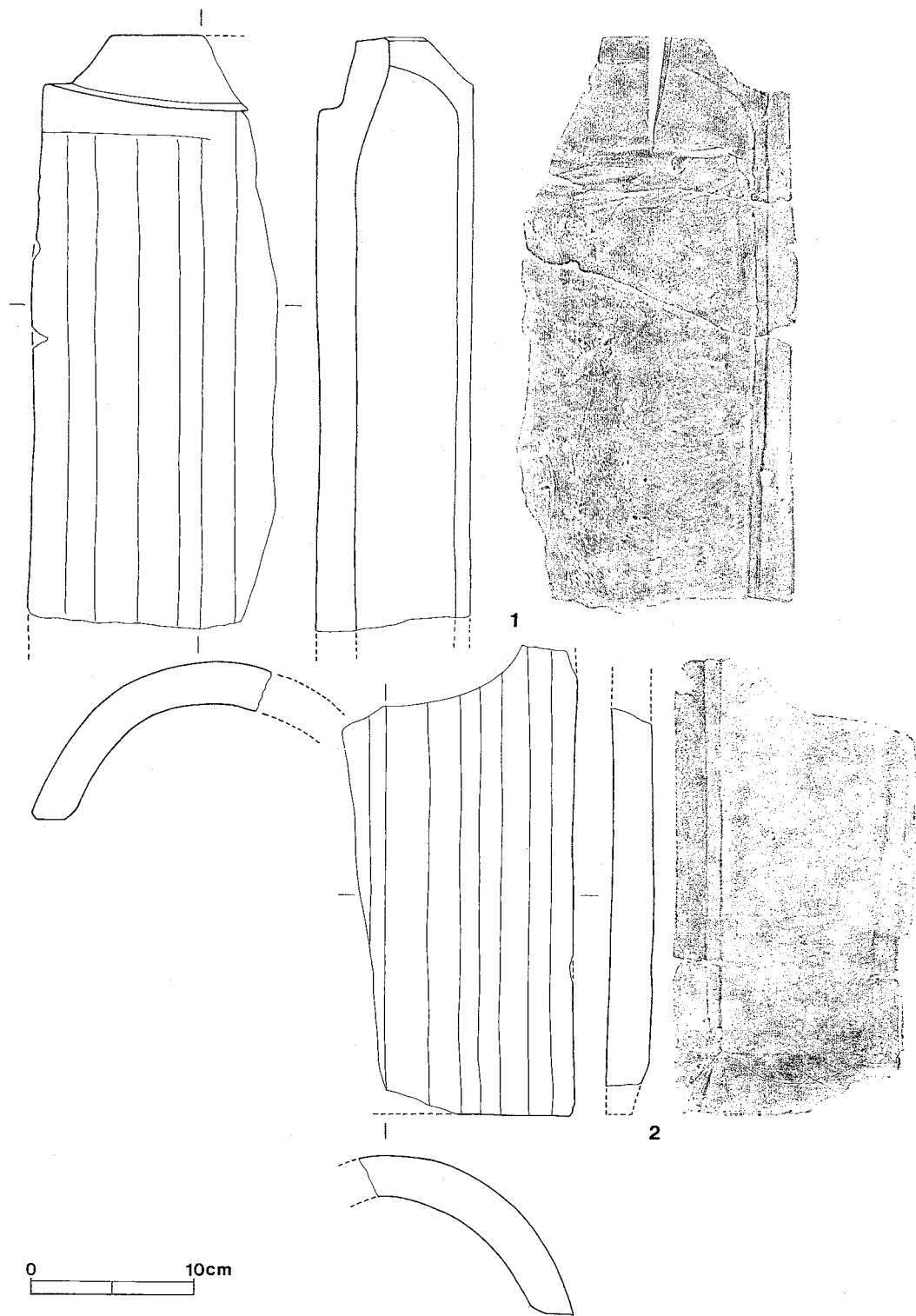
1



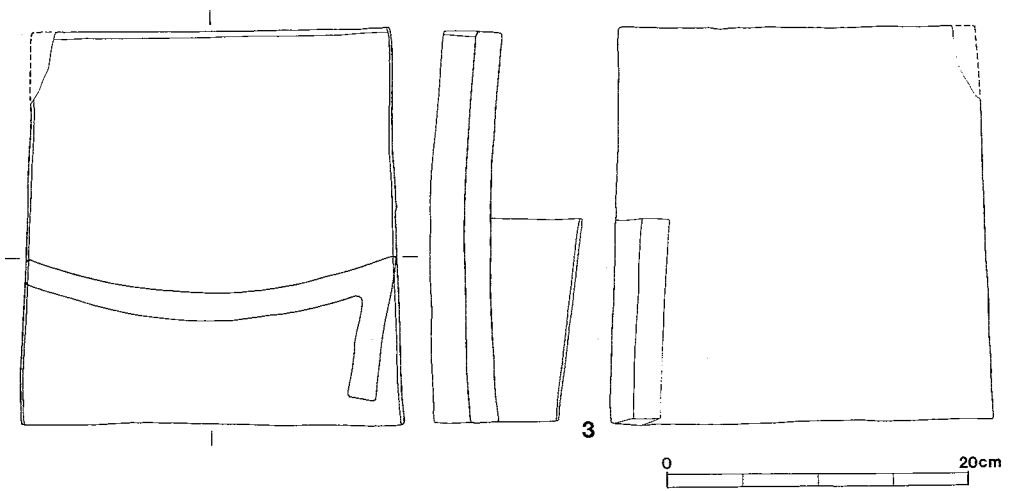
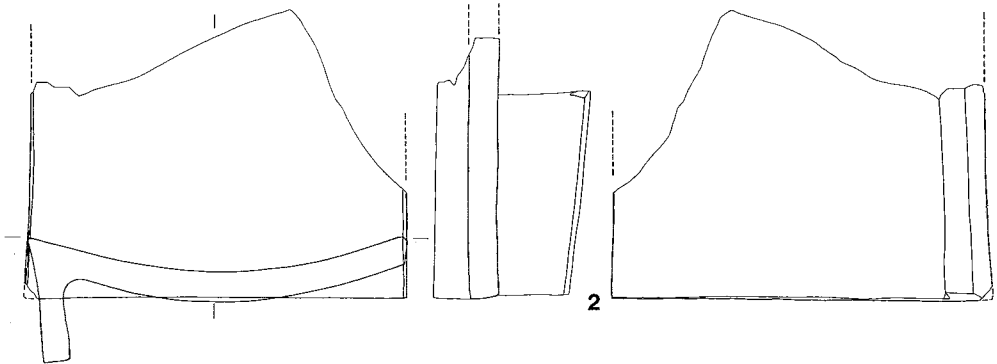
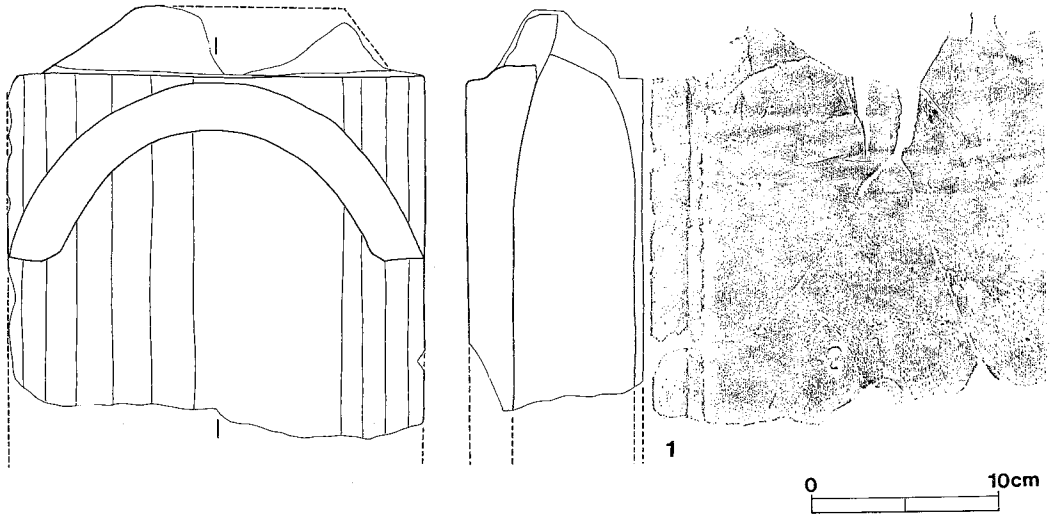
2

0 10cm

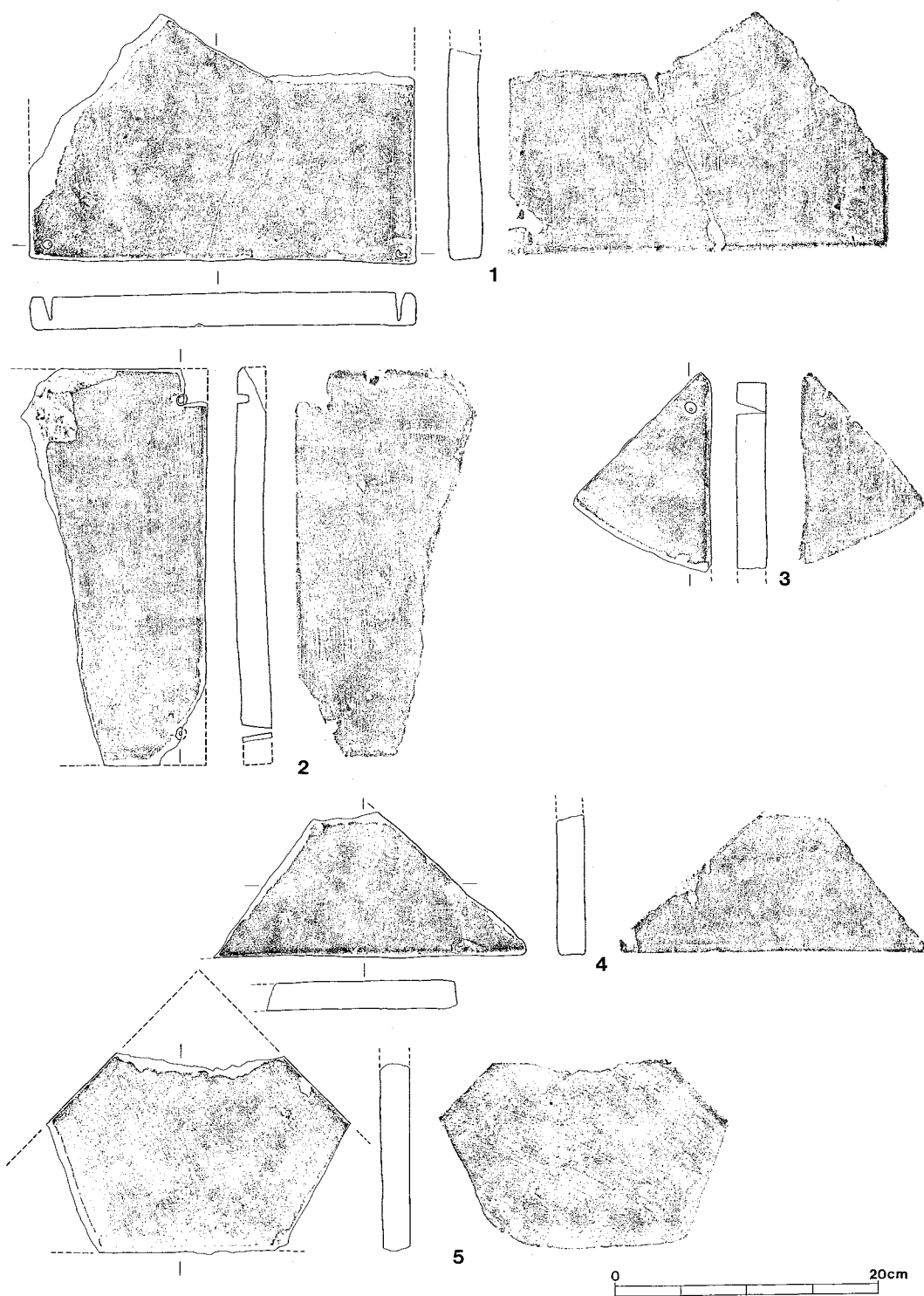
第353图 瓦4期鬲斗瓦(4)



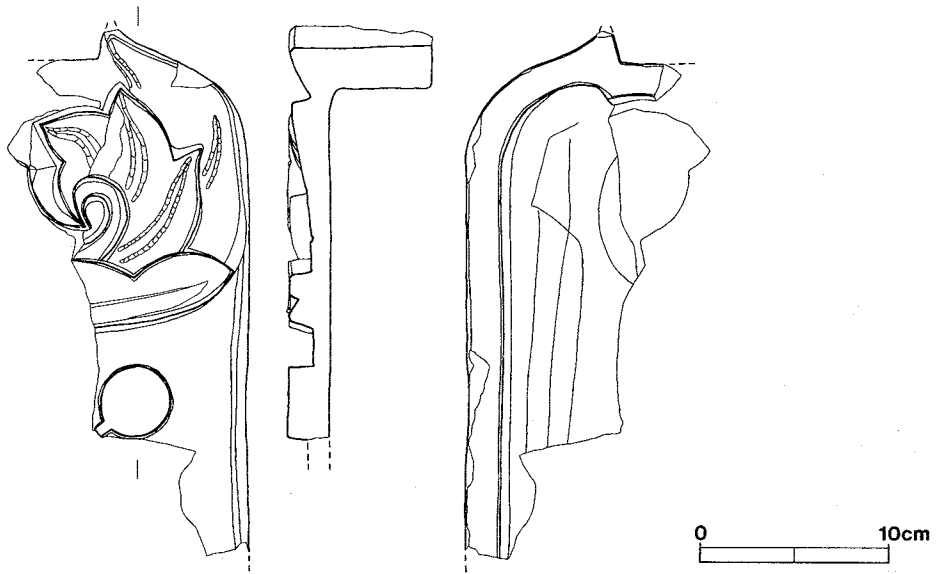
第354図 瓦4期棟瓦(1)



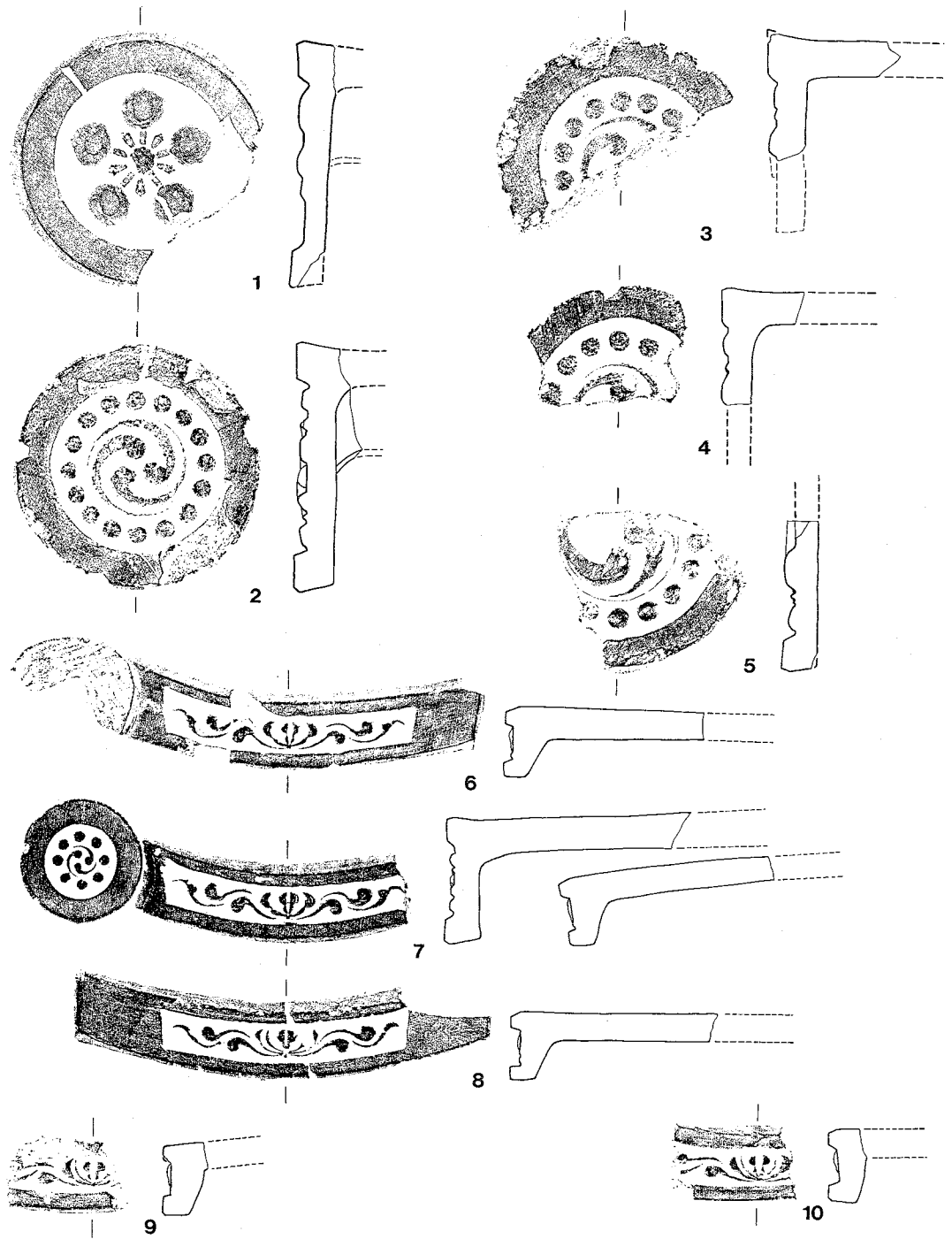
第355図 瓦4期棟瓦(2)(上)・破風瓦



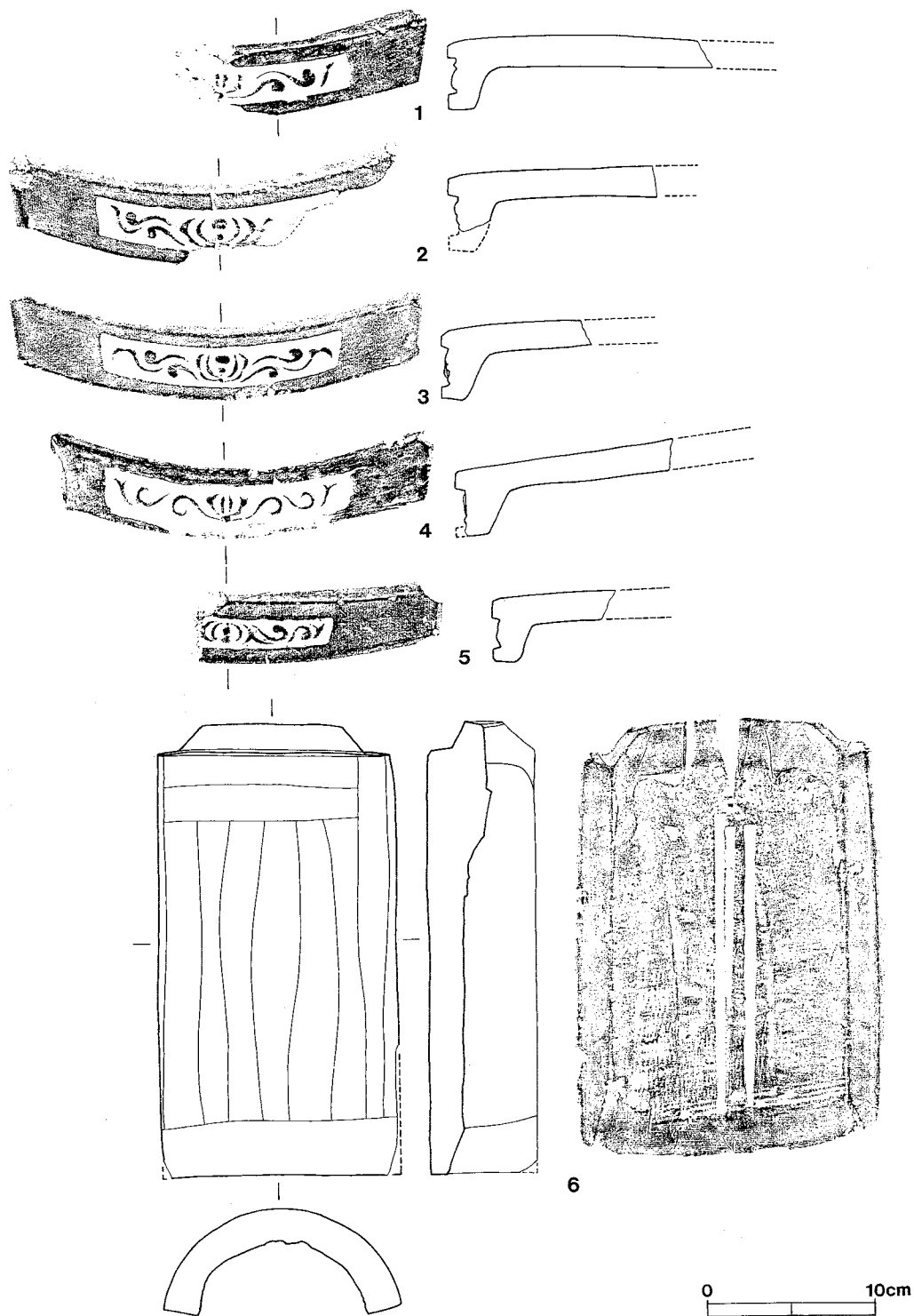
第356图 瓦 4期海鼠瓦



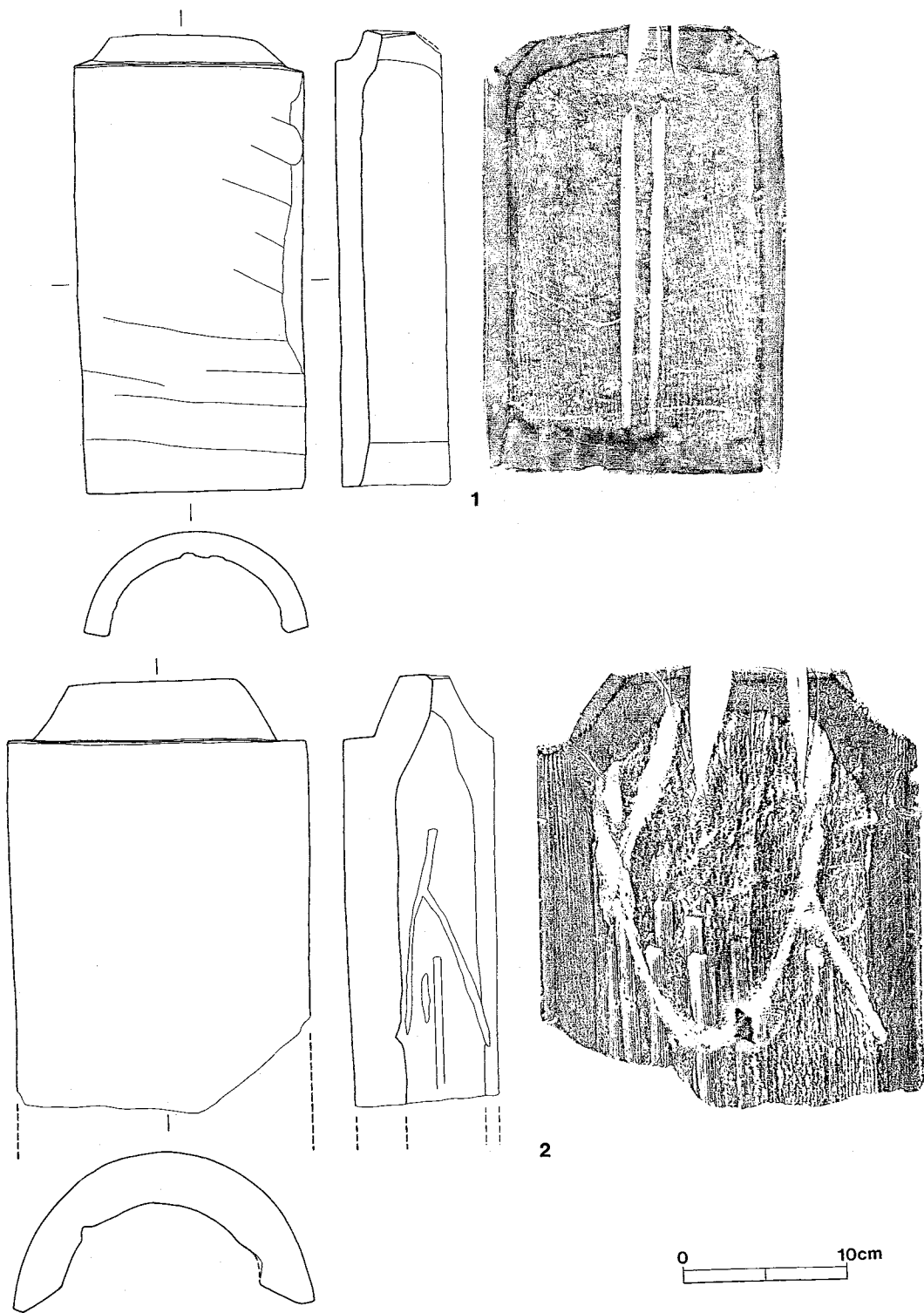
第357图 瓦 4期鬼瓦



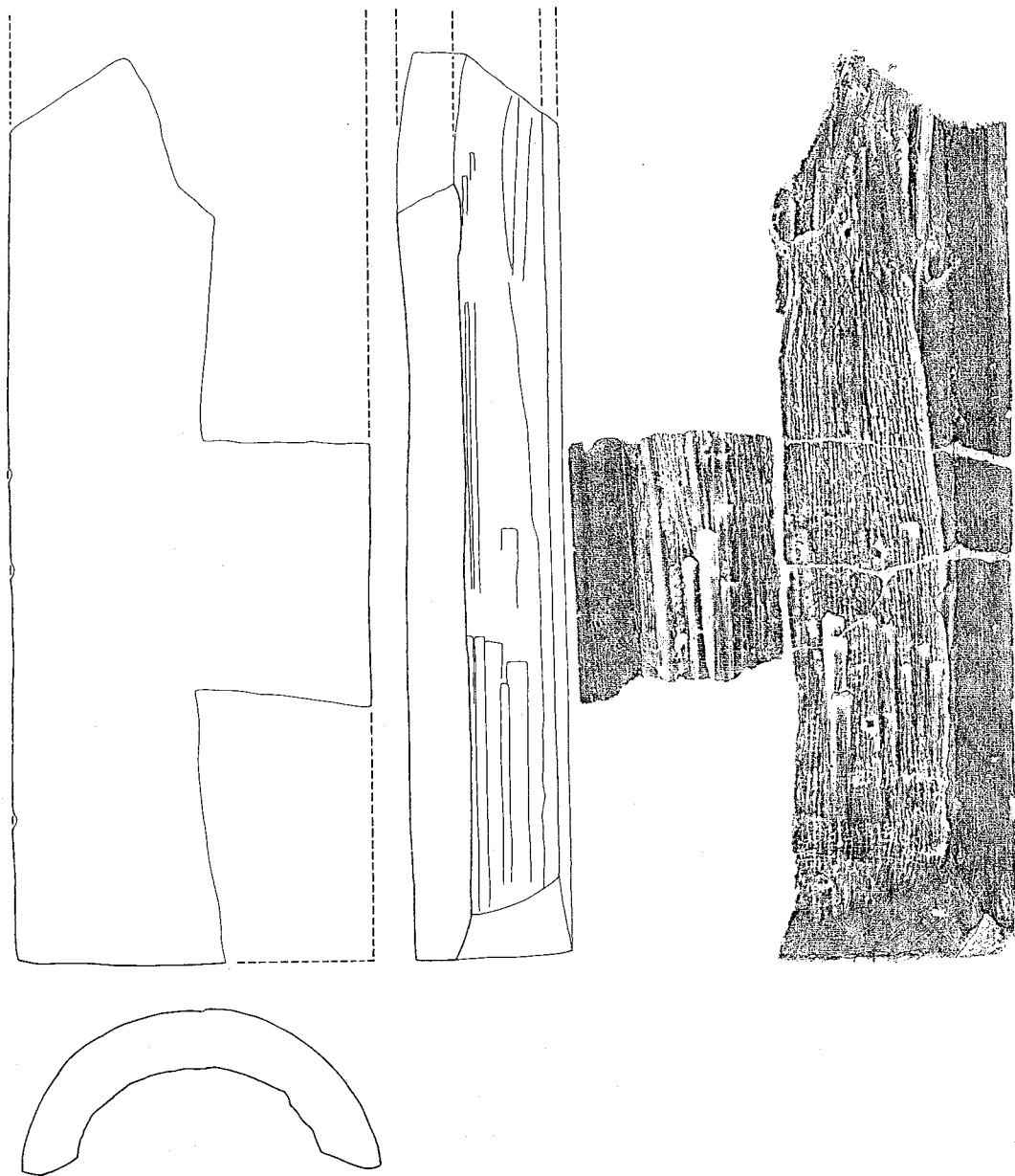
第358図 瓦5期軒丸瓦・軒棧瓦(1)



第359図 瓦5期軒棧瓦(2)・丸瓦(1)



第360图 瓦5期丸瓦(2)



第361图 瓦5期丸瓦(3)

瓦 5 期 (第358図～第361図)

米蔵に使われていた瓦である。一軒の建物に使われていた瓦のため、瓦の種類は少ない。軒棧瓦の「江戸式」は、中心飾りは多様だが、唐草と子葉はLi, Ljを主として検出されている(第358図, 第359図)。軒丸瓦は10類(第358図1)の1範型のみで、石膏範の可能性が指摘できる。丸瓦は10・11類(第359図6, 第360図1)で構成される。棧瓦は棧瓦部の切り込みが短くなり4.5cmほどになる。棟瓦は5類(第260図2, 第261図)が検出されている。瓦は幕末の火災より燈変色している。

第3節 金属製品

御殿下記念館地点から出土している金属製品は、材質の上から銅製品、鉄製品、鉛製品、金製品に分けられるが、量、種類ともに多く見られるのは銅製品である。銅製品にはキセル、刀装具、家具、調度の金具、生活用品、そして銭がある。遺物の性質上キセルと銭以外は各時期の遺構からまんべんなく出土している例は少なく、考古学的な分析を行なうのは難しい。

鉄製品は、全体的に保存状態が悪く、出土している遺物も限られている。しかし遺構144からは水路に使用された釘が、689号遺構からは門に使用された金具がかなりまとまった形で出土しているのが目に付く。

鉛製品は鉄砲球と用途不明のものがある。金製品には装飾品の一部として使用されたものと粒状のものがある。出土例は極めて少ない。

以上の中から特にキセルと銭について若干の考察を加えてみる。

1 銅製品 キセル (第362図～第364図, 写真151)

御殿下記念館地点では約100固体のキセルが出土している。そのうち、実測可能なものは、雁首38固体、吸口17固体である。これは、金属製品の中では釘に次いで数が多い。古泉弘氏はキセル各部の形態および製作工程が、時間的に変化することに注目し、I段階からVI段階までに分類しているが¹⁾、ここでは古泉氏の説を検証する形で論を勧めたい。また、キセル各部の各称については、『江戸一都立一橋高校地点発掘調査報告』を参照させて頂いた¹⁾。

1) 雁首

雁首は、A～Dの4分類が可能である。御殿下記念館地点からは、古泉編年のI段階のものは出土していない。A類はラウを挿入する管を別個に取付けたもので、脂返しが大きく湾曲する河骨形の形態を取る。(第362図)

1は、管が八角形を呈し、「水口」、「権兵衛」、「吉久」と読める刻印が見られる。これは、近江国水口で生産されたと言われる、水口キセルである。火皿部分を欠いており、遺構外出土である。2は脂返しが高く、上面に鑑着が見られる。肩も高く、下面に鑑着が見られる。他と比較して厚みのある銅板を使用している。6・7は共に遺構532から出土している。6は鑑着が裏面に見られる。7は検出されたキセルの中で唯一ラウを持ち、吸口とセットになっているものである。

B類は肩を持たず、火皿と首部の接合部に補強帯を持つものである。脂返しは湾曲し、河骨形を呈する。(第363図1～9)

2には、陰刻が見られる。6は火皿に小さい孔が見られる鑑着は裏面である。9は火皿を欠いているが、接合部に補強帯の跡が見られるのでここに加えた。首部に何かを巻いた跡が見られる。

C類は肩を持たず、火皿と首部の接合部に補強帯を持たないものである。脂返しは湾曲し、河骨形を呈する。(第363図10～20) 18は火皿に小さい孔が見られる。

D類は肩を持たず、脂返しが湾曲しないものである。D類の中にはC類との区別がつきにくいものである。(第364図1～9) D類では、A～C類が正面に鑑着が見られるものが多いのに対し、上面に鑑着が見られるものが多い。

2) 吸口

吸口は、E～Gの3分類が可能である。

E類は吸口が二本の異なる円筒からできているものである。(第364図10～15)

12は、狭義の吸口²⁾の部分に更にもう一本の円筒を加えている。13は、肩の部分が八角形を呈する。

F類は吸口が一本の円筒からできているが、ラウ接合部から狭義の吸口に向かい湾曲しながら窄まる。(第364図16～22)

G類は吸口が一本の円筒からできているが、ラウ接合部から狭義の吸口に向かい直線的に窄まる。(第364図23～26)

3) 遺構から見たキセルの年代

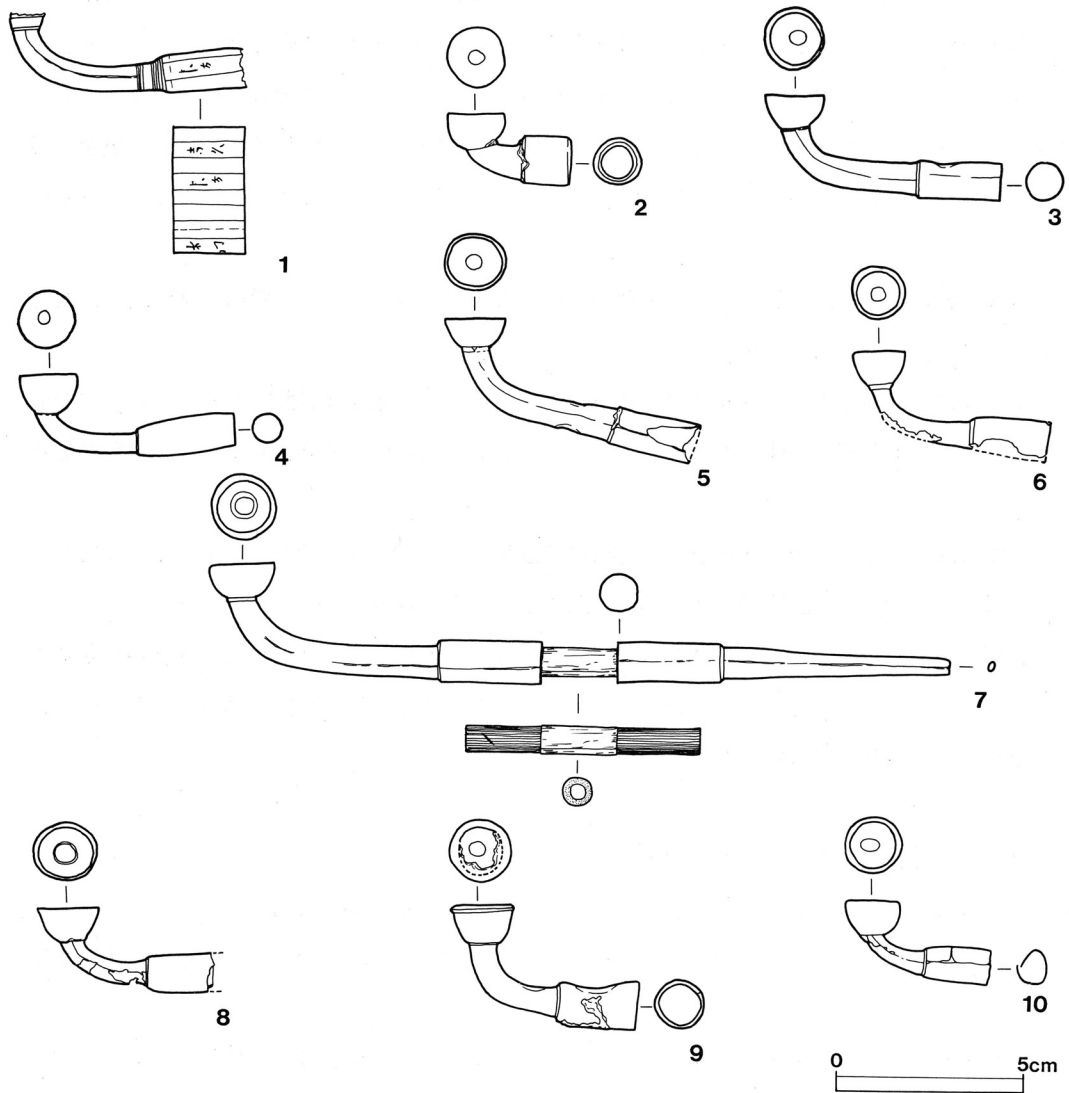
これら分類したキセルに遺構から見た年代を与えてみると、次のようになる。ただし、吸口は遺構の年代がはっきりしないので、ここでは除外しておく。

雁首A：古泉II・・IV期からIX期

雁首B：古泉III・・VII期からIX期

雁首C：古泉IV・・VII期からIX期

雁首D：古泉V・・I期からIV期

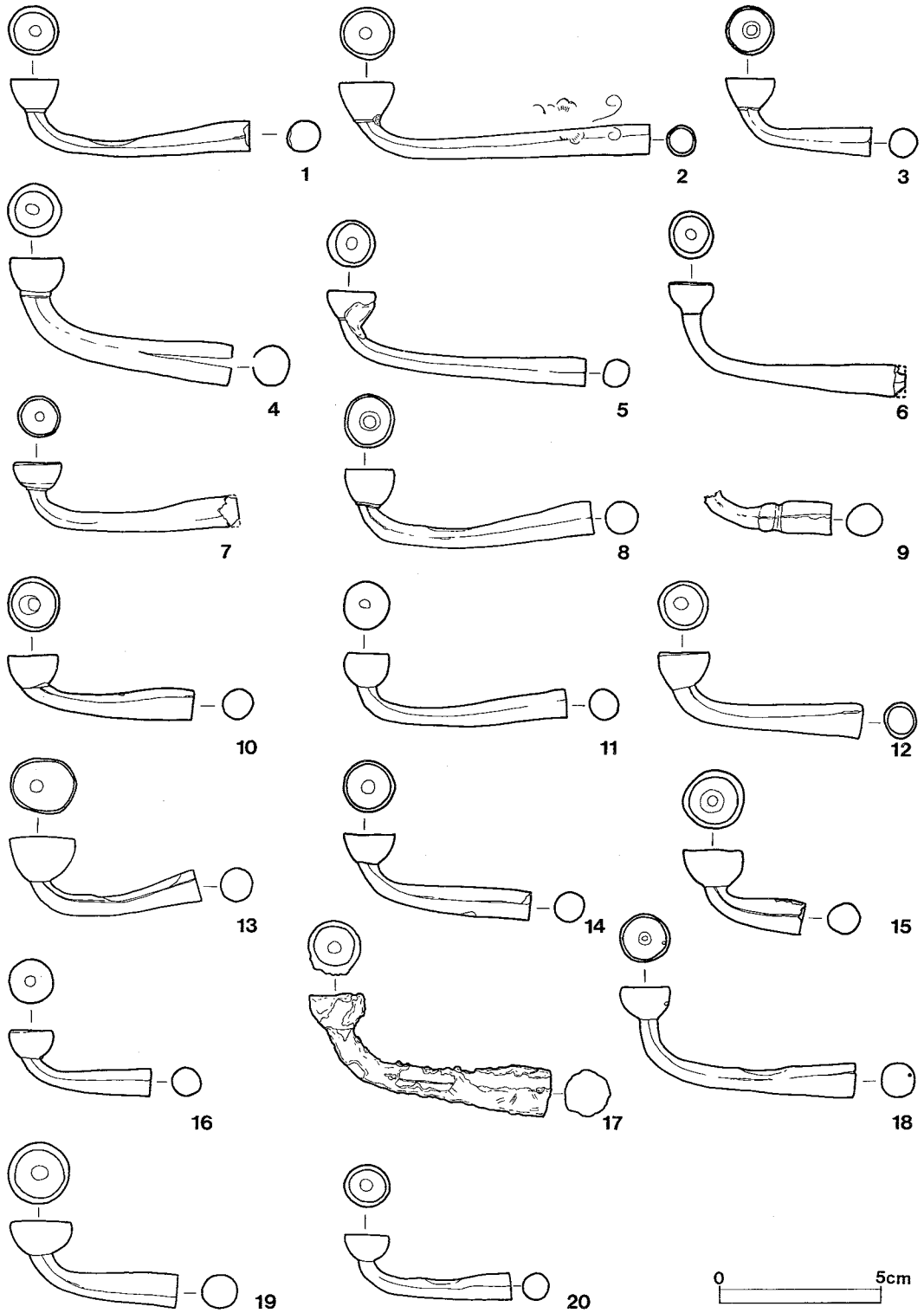


第362図 金属製品(1) キセル雁首

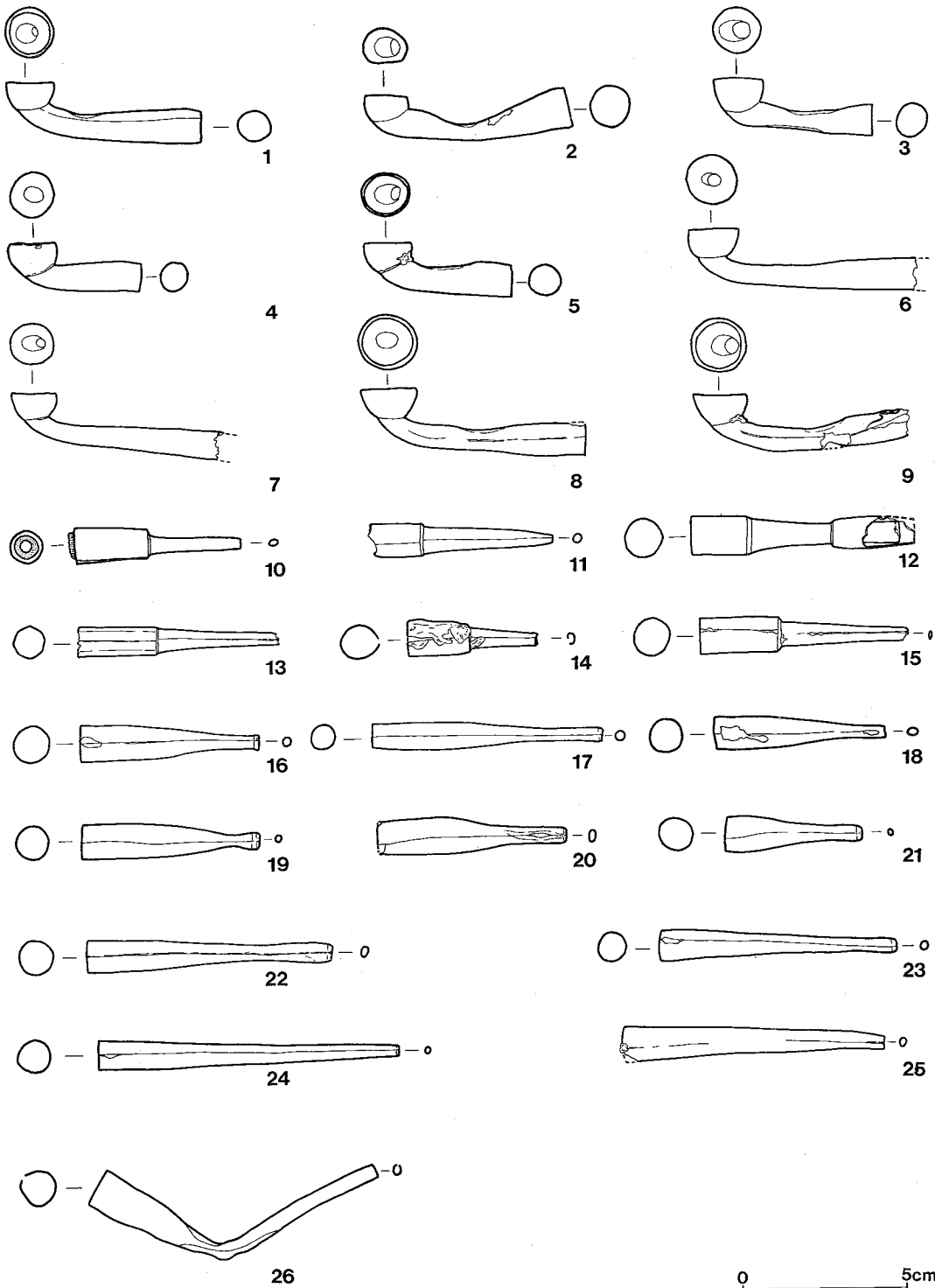
こうしてみると、雁首Dのみが若干新しいことをのぞけば、雁首Aから雁首Cまでは出土時期に大差がないことがわかる。ここからすぐに古泉氏の年代観を否定することは難しいと思うが、雁首D以外の型に関しては多少の流行の繰り返しがあったことも考えられるのではないかと思う。

2 銅製品 生活用具および建材 金製品 (第365図, 366図)

第365図1は片口状の酒器,あるいは湯沸かしである。口唇部が段になっており,内面に鉄製の釣り手が一部残存している。2は急須の把手である。3・4・5は急須,あるいはやかんの



第363図 金属製品(2) キセル雁首



第364図 金属製品(3) キセル雁首および吸口

第39表 キセル一覽表

No.	遺構番号	全長	火皿径	ウラ接合部径(cm)
362-1	遺構外	—	—	—
362-2	125	3.3	1.5	1.2
362-3	270	6.3	1.6	1.0
362-4	419	5.6	1.5	1.0
362-5	475	6.8	1.6	1.0
362-6	532	5.2	1.4	0.9
362-7	532	8.8	1.7	1.0
362-8	539	4.6	1.6	—
362-9	802	4.9	1.6	1.2
362-10	802	3.9	1.5	0.9
363-1	19	7.4	1.5	0.9
363-2	255	9.5	1.6	1.0
363-3	301	4.5	1.5	0.9
363-4	309	6.8	1.6	1.0
363-5	373	8.0	1.5	0.8
363-6	408	7.3	1.4	1.0
363-7	589	6.9	1.5	—
363-8	640	7.5	1.5	1.0
363-9	835	—	—	1.0
363-10	23	5.7	1.6	0.9
363-11	64	6.9	1.35	0.9
363-12	206	6.3	1.5	1.1
363-13	236	5.8	1.9	1.0
363-14	255	5.8	1.5	0.9
363-15	270	3.8	1.8	1.0
363-16	475	4.4	1.4	0.9
363-17	532	7.4	1.6	1.2
363-18	781	7.2	1.5	1.0
363-19	835	5.2	1.9	1.0
363-20	845	5.2	1.4	0.8
364-1	30	5.9	1.5	1.0
364-2	50	6.2	1.3	1.2
364-3	115	4.8	1.5	9.5
364-4	245	4.0	1.3	0.9
364-5	416	4.5	1.4	1.0
364-6	487	—	1.3	—
364-7	627	6.8	1.7	1.0
364-8	627	—	1.5	—
364-9	665	—	1.6	—
364-10	11	5.0	—	1.0 吸口
364-11	192	—	—	—
364-12	245	6.8	—	1.2
364-13	255	6.0	—	0.9
364-14	431	3.9	—	1.0
364-15	834	6.3	—	1.0
364-16	87	5.4	—	1.0
364-17	206	7.0	—	0.8
364-18	379	5.2	—	1.0
364-19	419	5.4	—	1.0
364-20	419	5.7	—	1.0
364-21	419	4.1	—	1.0
364-22	640	7.5	—	1.0
364-23	11	7.15	—	0.8
364-24	300	9.2	—	1.0
364-25	619	8.0	—	—
364-26	73	9.4	—	1.0

注口とその蓋である。注口の先端部には、蓋をとりくけるための金具がついている。6は杓子の頭部である。7は火箸である。8～13は箆筒あるしは小型引き出しの引き手金具の一部である。14は箆筒等の四隅を補強する飾金具である。15～17は釣り針状のフックであると思われる。第366図1は襖等の引き手である。3つの部品を鑲着でつないでいる。本体内面に菊の意匠が刻まれている。2・3は蝶番である。4～10は鎖状の銅製品である。同様の遺物が遺構外からも多数出土している。11は猿繫ぎで火を受けている。12・13は水滴である。12は口唇部を若干欠くもののほぼ完形。13は上半部しか残っていない。14は毛抜きである。15～21は銅釘である。22は額等を固定する金具であると思われる。同様の遺物が遺構外からも三点出土している。23は分銅である。24・25・27・28は用途不明の銅製品である。24は厚さ1mmほどの銅板を折り曲げて小型の枠を造っている。25は青銅板を矢型に鑄出している。玩具あるいは祭器とも考えられる。27は銅板を円筒形にし、両端をねじ状に削っている28は銅製の棒の先端を?字状に曲げている。26はキセルの雁首の部分をつぶしたもので、雁首銭と呼ばれるものである。29・30は金製品である。29は金箔を花状に切り抜いたもので、装飾品の一部であろう。30は金粒である。

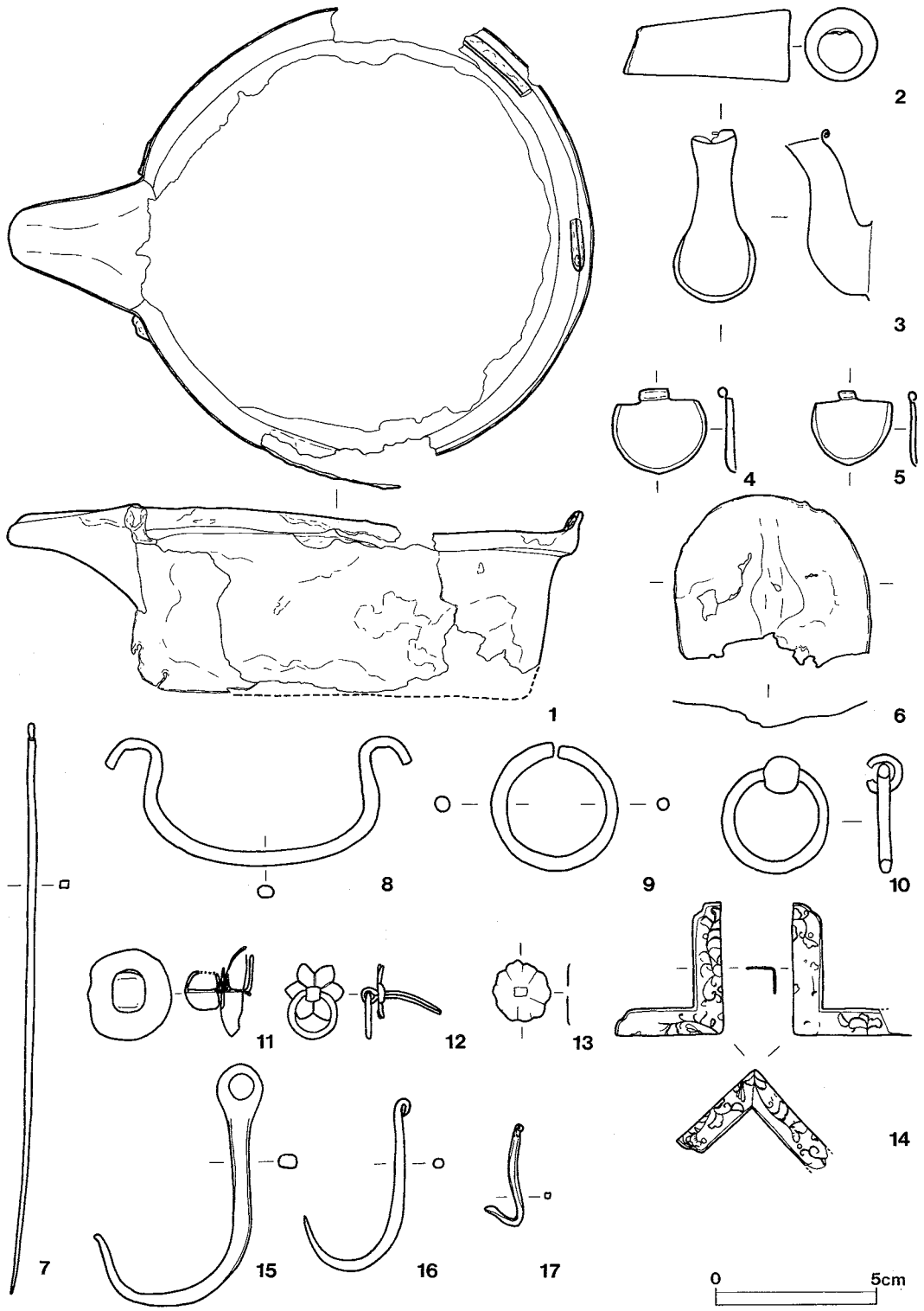
3 刀装具 他 (第367図, 368図)

第367図1は脇差である。柄の部分は失われているが、刀身は鞘ごと残っている。鞘の部分には、黒漆が所々残存している。2～13は小柄である。すべて刀身を欠いている。2は魚子様の地文上に、馬の意匠が張り付けられている。3・7・9～11・13は無文である。4は円と楕円の意匠が刻まれている。5は草花文が象眼されている。6は貝の意匠が張り付けられている。8は矢の意匠が浮き彫りされている。12はかぶとむしの意匠が浮き彫りされている。14～20は切羽である。16は2枚の切羽が重なった状態で出土した。両方とも周囲の刻み目が完全に残った状態で出土している。刀装具の中では遺構外出土を含めて、小柄、切羽が数多くしかも単独で出土している。このことから、これらは消耗品であったことが推定される。また、切羽については、16に見られるように何枚かを重ねて持ち歩いていたことも考えられる。

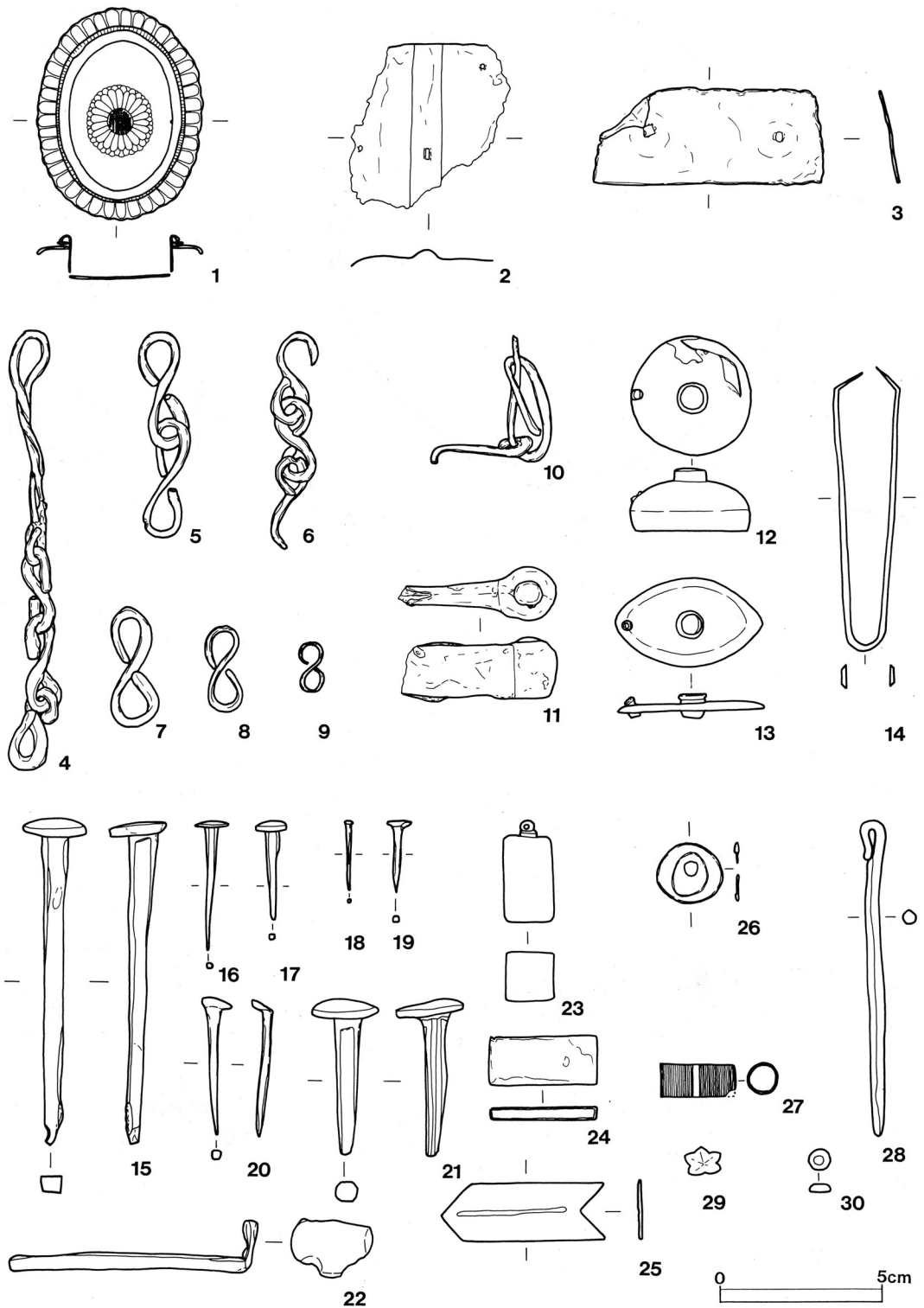
第368図1・2は鉏である。2は中央部に穿孔を持つ。3・4は目貫である。4は中央部で半分欠損している。5は用途不明である。やはり刀装具であろうか。6～10は鏡である。6は虎の意匠に「天下一作」の文字が見られる。7は中央部に「違鷹羽」の紋が見られる。8は右半分を欠損しているが、かにの意匠と「天下一作」の文字が見られる。9・10は同一固体である可能性もある。9は半分以上を欠損しているが、「天下一・・・」の文字が見られる。

4 銭 (第369～371図)

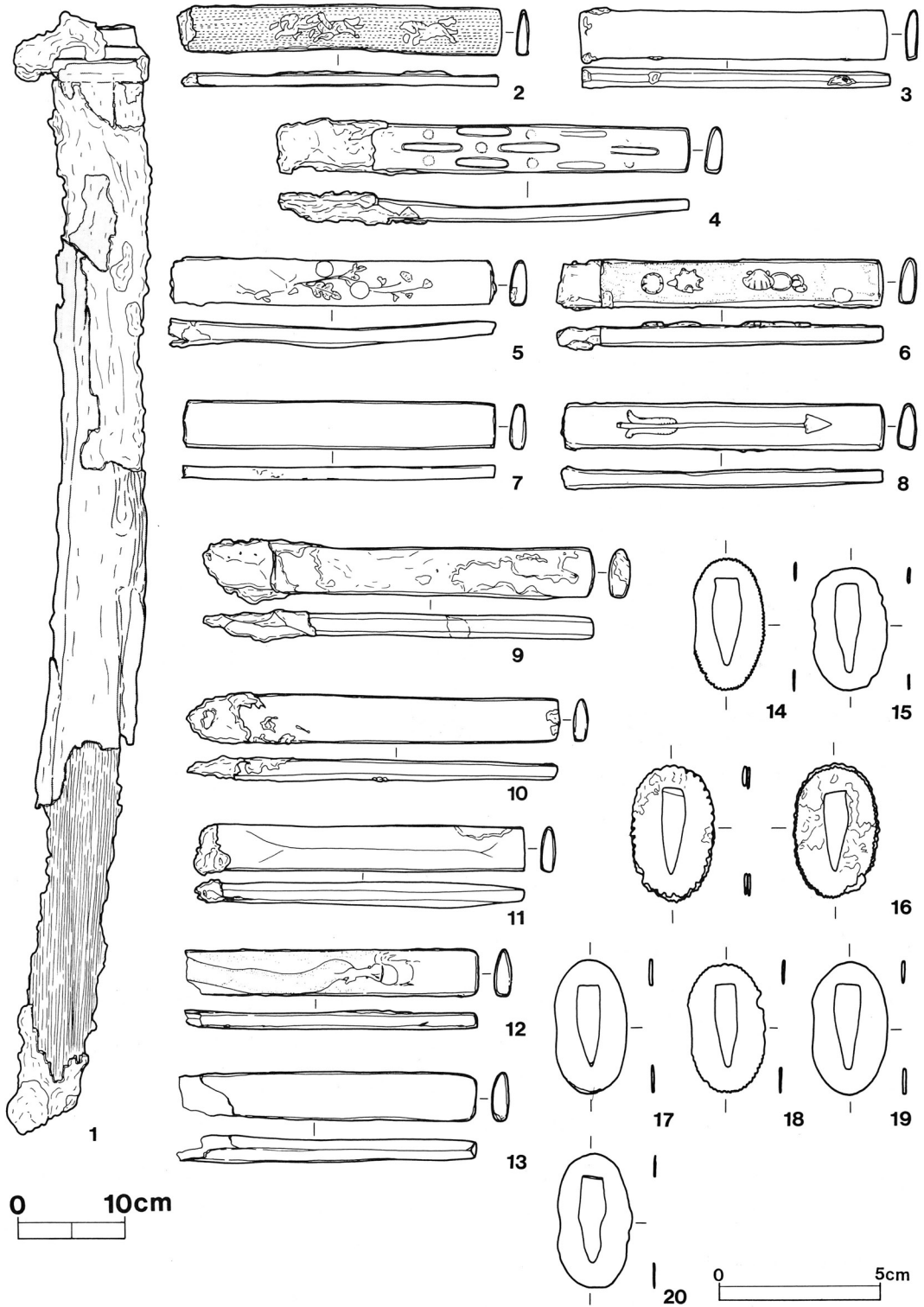
銭の分類は従来古銭の分類に用いられてきたものを使用する。すなわち、先ず文字による分



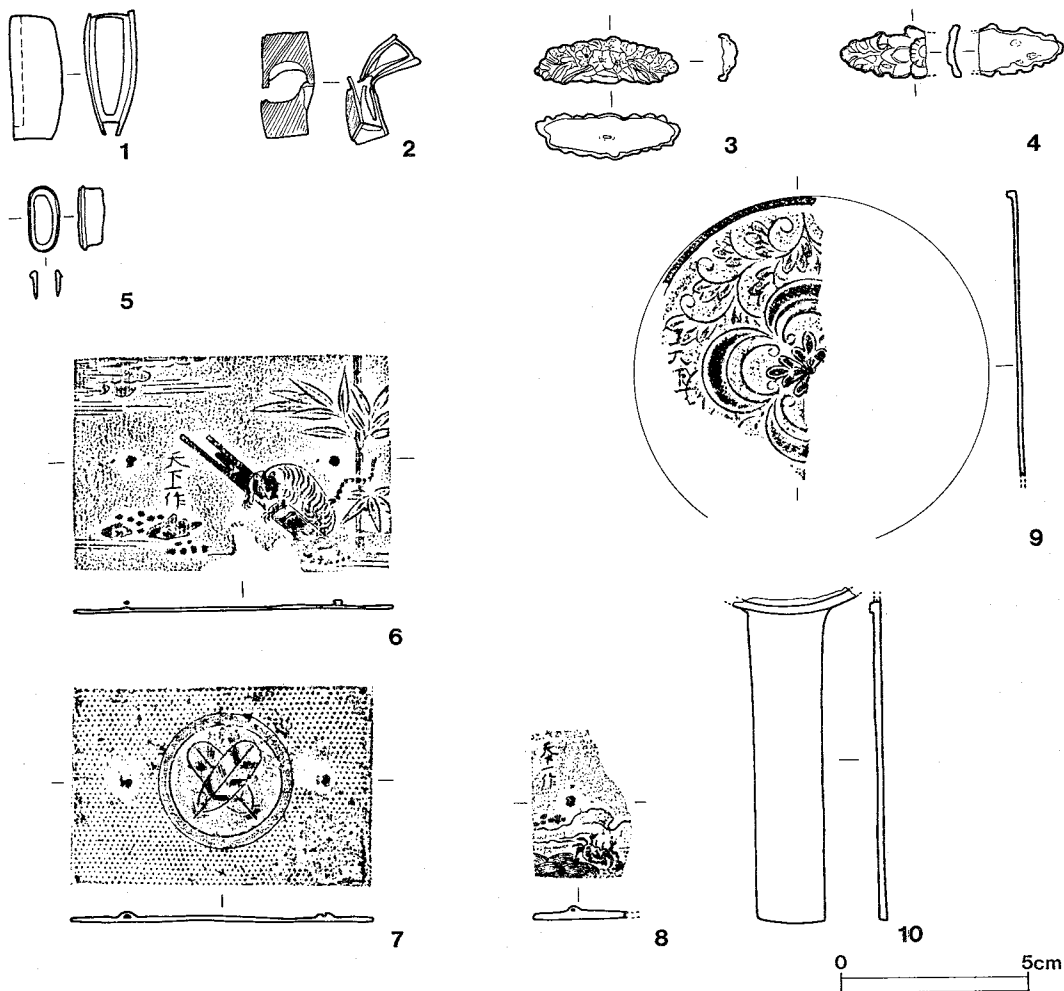
第365图 金属製品(4)



第366図 金属製品(5)



第367図 金属製品(6)



第368図 金属製品(7)

類を行ない、その特徴から鑄造地を推定する。

御殿下記念館地点全体では銭は多量に出土しているが、一遺構からの出土数は数枚が普通であり、10枚以上まとまって出土している遺構は、106・255・336・475号遺構そして537号遺構の5遺構のみである。ここではこれらの遺構から出土した銭のみを対象に考察を行なう事とする。

寛永通寶は水戸の商人佐藤新助が最初に許可を得て、寛永三年(1626)に鑄造したことに始まる。それを寛永十三年に幕府が引き継ぎ、江戸・近江坂本の二か所で官鑄し始めるとともに全国通用の法定貨とした。江戸には浅草橋場と芝網縄手の二か所に鑄銭所が設けられ、寛永十七年までの五年間鑄造された。

その後幕府は鑄銭所の増設の計画を立て、寛永十四年八月布令を発して、水戸・仙台・吉田(豊橋)・松本・高田・長門・備前・豊後の八か所に銭座を増設することとした。また、各鑄銭

所における新銭の素材・銭形・様式等を統一するため、幕府から所管の各藩に手本銭が配布され、鑄銭所ではこれを模して新銭を鑄造した。さらに寛永十六年には駿河にも銭座が設けられた。

このように各鑄銭所で多くの寛永通寶が鑄造された結果、その銭容は多様になり、その種類も手本銭の統一方針にもかかわらず、きわめて雑多となり、品質はますます低下し贗造銭も横行した。

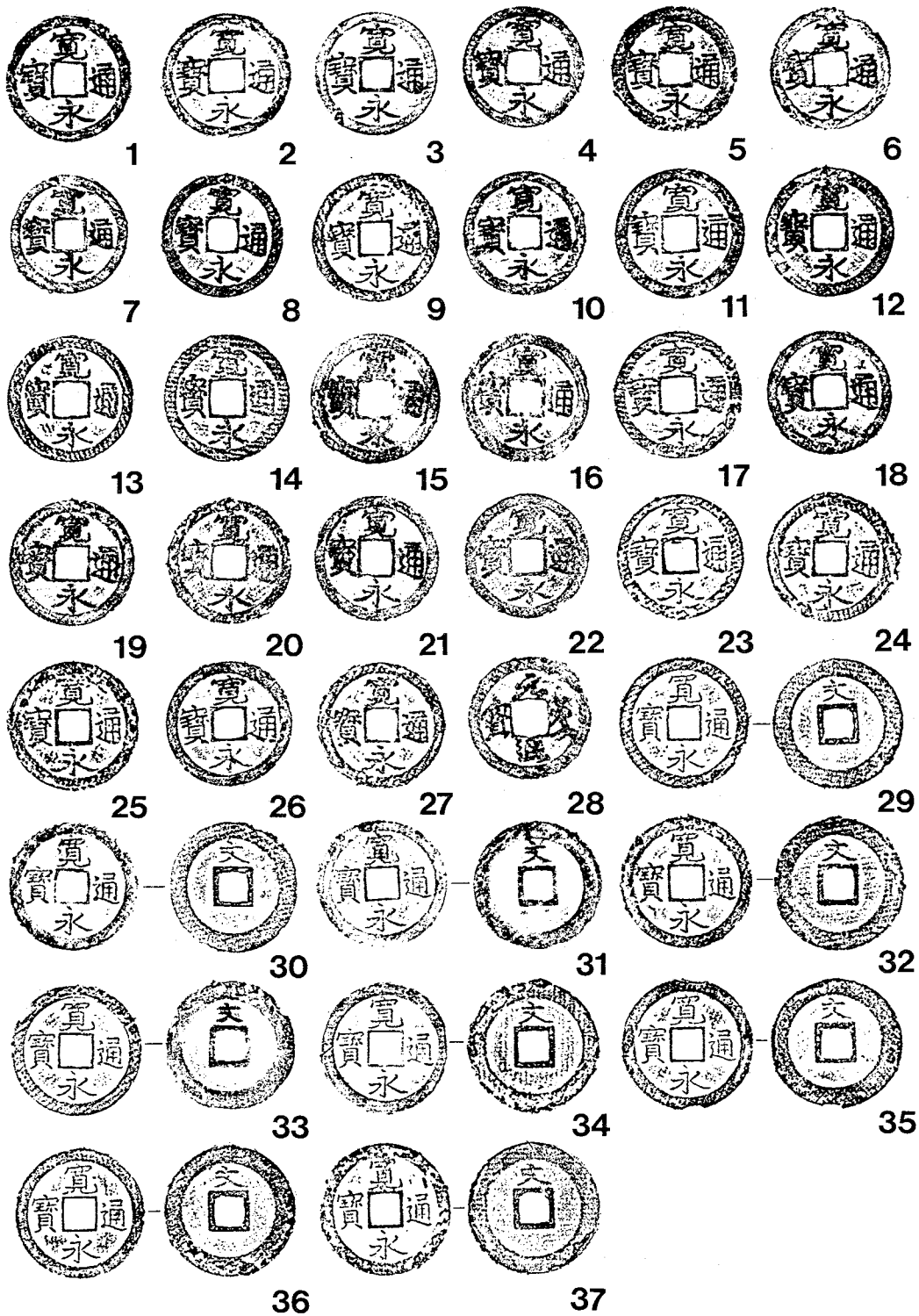
そこで幕府は、寛永十七年に全国の銭座に対し鑄造の停止を命じた。しかし明暦元年(1655)頃には、再び銭貨不足の状態に逆戻りしたため、明暦二年、江戸浅草鳥越と、駿河沓谷の2か所に銭座を開設し、寛永通寶の鑄造を再開した。

幕府は寛文八年(1688)銭貨統一のための本格的な施策として、江戸亀戸村に新たな銭座を設け、天和三年(1683)までの16年間にわたり、寛永通寶の鑄造を行なった。この期の寛永通寶は、量目1匁(3.75g)、直径8分(2.4cm)に統一され、その裏面に鑄期「寛文」を現わす「文」の字が記されているものが多い。これを「文銭」と読んでいる。更に幕府は寛文十年(1690)六月寛永銭と永楽銭などの古銭の混用を禁止する旨の布令を出し銭貨の本格的な統制に乗り出した。

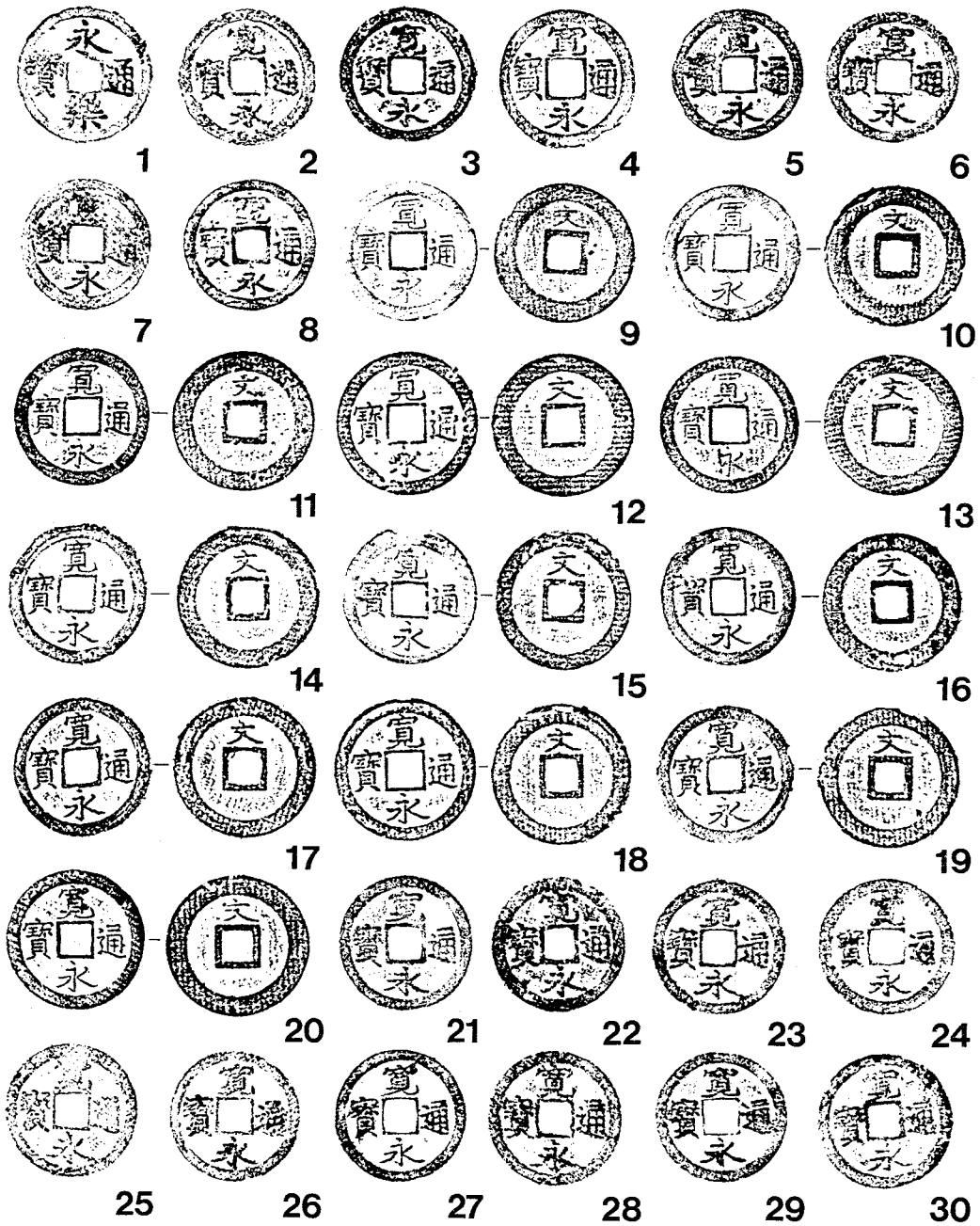
明和五年(1768)になると銅四文銭の鑄造が始まる。当初、背は二十一波の波模様であったが、砂抜けが悪くて通用銭ができないために、翌年から十一波に変えられた。その後天明八年(1788)には、銭相場の低落を理由に四文銭の鑄造を停止している。

古銭用語では、寛文八年以前に鑄造されたものを「古寛永」それ以降のものを「新寛永」と呼んで区別している。

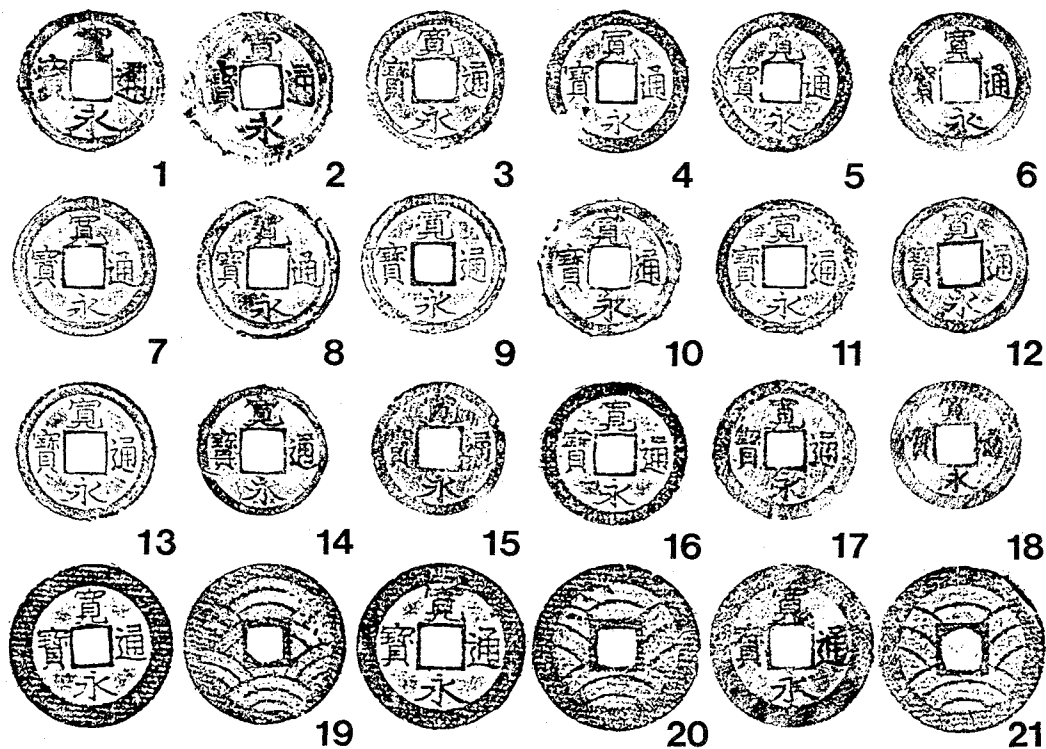
第369図1～37は255号遺構からの出土である。1～3は芝で鑄造された古寛永である。4～6は水戸で鑄造された古寛永である。7は越後高田で鑄造された古寛永である。「永」の字の四面目が高い位置から打ち込まれ、「ノ」の字になる。8は仙台で鑄造された古寛永である。「永」の字が大きいのが基本である。9・10は岡山で鑄造された古寛永である。11～16は京都建仁寺で鑄造された古寛永である。實字の前足が相当右によっている。17～22は浅草鳥越で鑄造された古寛永である。通字の「マ」の部分がつぶれて「ニ」の字に近くなっている。23・24は駿河沓谷で鑄造された古寛永である。28は元豊通寶である。初鑄年次は1078年である。29～37は新寛永の「文銭」である。第370図1～20は遺構336からの出土である。1は永楽通寶である。初鑄年次は1408年である。2・3は岡山、3は建仁寺の古寛永。9～20は新寛永の「文銭」である。21～30は475号遺構からの出土である。21は仙台、22は沓谷の古寛永である。第371図1～14は537号遺構からの出土である。1は鳥越、2は建仁寺の古寛永である。3は元禄期に亀戸で鑄造された新寛永である。4～8は不旧手といわれる新寛永で、京都十萬坪で鑄造された。長崎



第369圖 金屬製品(8) 古錢



第370圖 金屬製品(9) 古錢



第371図 金属製品(10) 古銭

屋不旧の筆による銭文とされている。「永」の字が左にかしいでいるのが特長である。10は萩原銭といわれる新寛永で、京都七条河原で鑄造された。11・13は猿江銭といわれるが、実際江戸猿江で鑄造されたという記録はなく、仙台石巻で鑄造されたのではないかとされている。12・14は四ツ宝銭といわれる新寛永で、宝永期に亀戸で鑄造された。「永」の字が横に広い。15～21は106号遺構からの出土である。15は四ツ宝、16・17は猿江の新寛永である。18は大坂高津新地で鑄造された新寛永である。全体に小振りであるが、中央穿孔は大きい。19は二十一波の四文銭であり、「寛」の字の最終画のハネが短いので短尾寛といわれる。20・21は十一波の四文銭である。

255号遺構から出土した銭の大部分は古寛永であり、文銭以外の新寛永は見られない。中国銭を模したピタ銭を含んでいる。これにより255号遺構出土の銭は、寛文八年からそれほど経過していない時期に埋まったものと考えられる。336号遺構から出土した銭は、古寛永と新寛永をほぼ半々に含み、新寛永はやはり文銭のみである。これより336号遺構も255号遺構とほぼ同じ時期か、やや新しい時期の遺構であると考えられる。537号遺構から出土した銭は、そのほとんどが元禄、享保期の新寛永である。これにより、537号遺構は、享保期以降に埋まった遺構である

第40表 古銭一覧表(1)

No	遺構番号	種類	備考	初 鑄 年 次	内 径	外 径	穿 径
1	255	古寛永	芝	寛永13年	20.0	24.0	6.0
2	255	古寛永	芝	寛永13年	21.0	24.0	6.5
3	255	古寛永	芝	寛永13年	20.0	23.5	6.0
4	255	古寛永	水戸	寛永14年	19.5	23.5	6.2
5	255	古寛永	水戸	寛永14年	19.0	24.0	6.0
6	255	古寛永	水戸	寛永14年	20.0	23.0	6.8
7	255	古寛永	高田	寛永14年	19.0	22.2	5.5
8	255	古寛永	仙台	寛永14年	19.5	23.0	6.0
9	255	古寛永	岡山	寛永14年	20.8	24.2	5.8
10	255	古寛永	岡山	寛永14年	20.0	23.5	6.0
11	255	古寛永	健仁寺	承応2年	20.0	24.5	6.5
12	255	古寛永	健仁寺	承応2年	20.0	24.5	6.3
13	255	古寛永	健仁寺	承応2年	20.0	24.2	6.5
14	255	古寛永	健仁寺	承応2年	20.0	24.0	6.5
15	255	古寛永	健仁寺	承応2年	20.0	24.5	7.0
16	255	古寛永	健仁寺	承応2年	20.0	24.5	6.5
17	255	古寛永	鳥越	明暦2年	20.0	24.0	6.8
18	255	古寛永	鳥越	明暦2年	20.3	24.8	6.5
19	255	古寛永	鳥越	明暦2年	19.5	24.0	6.2
20	255	古寛永	鳥越	明暦2年	20.0	24.0	6.0
21	255	古寛永	鳥越	明暦2年	19.5	24.0	6.5
22	255	古寛永	鳥越	明暦2年	20.0	24.0	6.5
23	255	古寛永	沓谷	明暦2年	20.0	24.0	6.2
24	255	古寛永	沓谷	明暦2年	20.5	24.8	6.0
25	255	古寛永	沓谷	明暦4年	20.5	25.0	6.0
26	255	古寛永	不明		19.8	23.5	6.0
27	255	古寛永	不明		20.5	24.0	6.0
28	255	元豊通宝		1078年	19.5	23.5	6.0
29	255	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	24.5	6.5
30	255	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	24.5	6.5
31	255	新寛永	文銭	寛文8年	20.5	25.0	6.5
32	255	新寛永	文銭	寛文8年	21.0	25.0	6.2
33	255	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	24.0	6.0
34	255	新寛永	文銭	寛文8年	20.5	24.0	6.0
35	255	新寛永	文銭	寛文8年	20.2	25.0	6.0
36	255	新寛永	文銭	寛文8年	20.2	24.2	6.0
37	255	新寛永	文銭	寛文8年	21.0	25.0	6.0

第41表 古錢一覽表(2)

No.	遺構番号	種 類	備 考	初 鑄 年 次	内 径	外 径	穿 径
1	336	永樂通宝	明	1408年	21.0	24.0	6.5
2	336	古寛永	岡山	寛永14年	19.5	24.0	6.2
3	336	古寛永	岡山	寛永14年	20.0	24.5	6.0
4	336	古寛永	建仁寺	承応2年	20.0	24.0	6.5
5	336	古寛永	不明		20.0	23.2	5.5
6	336	古寛永	不明		19.5	23.5	6.0
7	336	古寛永	不明		18.5	23.0	6.2
8	336	古寛永	不明		20.5	23.5	5.5
9	336	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	23.2	6.2
10	336	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	24.5	6.2
11	336	新寛永	文銭	寛文8年	19.5	24.0	6.0
12	336	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	25.0	6.5
13	336	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	25.0	6.2
14	336	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	24.5	6.2
15	336	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	24.5	6.0
16	336	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	24.2	6.2
17	336	新寛永	文銭	寛文8年	20.5	24.5	6.2
18	336	新寛永	文銭	寛文8年	21.0	25.2	6.2
19	336	新寛永	文銭	寛文8年	20.5	25.0	6.0
20	336	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	24.8	5.5
21	475	古寛文	仙台	寛永14年	20.5	24.0	6.0
22	475	古寛永	沓谷		20.0	24.0	5.5
23	475	古寛永	不明		20.0	24.0	1.0
24	475	古寛永	不明		20.2	24.2	6.5
25	475	古寛永	不明		20.0	23.5	6.0
26	475	古寛永	不明		20.0	23.0	6.0
27	475	古寛永	不明		20.0	23.5	6.5
28	475	古寛永	不明		20.0	24.0	6.0
29	475	古寛永	不明		20.0	24.0	6.5
30	475	古寛永	不明		21.0	24.5	6.0

第42表 古銭一覧表(3)

No.	遺構番号	種 類	備 考	初 鑄 年 次	内 径	外 径	穿 径
1	537	古寛永	鳥越	明暦2年	20.5	24.5	7.5
2	537	古寛永	建仁寺	承応2年	20.5	25.0	7.0
3	537	新寛永	亀戸	元禄10年	19.5	23.0	7.0
4	537	新寛永	不旧手	享保11年	19.5	24.0	6.5
5	537	新寛永	不旧手	享保11年	19.5	24.0	6.5
6	537	新寛永	不旧手	享保11年	19.0	23.5	6.5
7	537	新寛永	不旧手	享保11年	20.5	23.5	6.8
8	537	新寛永	不旧手	享保11年	20.5	24.0	6.8
9	537	新寛永	文銭	寛文8年	20.0	24.0	6.5
10	537	新寛永	萩原	元禄13年	19.5	23.0	6.5
11	537	新寛永	猿江	享保13年	19.5	23.0	6.8
12	537	新寛永	四ツ宝	元禄10年	19.0	22.5	7.0
13	537	新寛永	猿江	享保13年	19.5	23.5	7.0
14	537	新寛永	四ツ宝	元禄10年	19.0	22.0	7.0
15	106	新寛永	四ツ宝	元禄10年	20.0	23.0	6.5
16	106	新寛永	猿江	享保13年	24.0	20.0	6.5
17	106	新寛永	猿江	享保13年	24.0	19.5	7.0
18	106	新寛永	高津新地	寛保元年	22.0	18.0	7.0
19	106	新寛永	短尾寛	明和5年	28.0	20.0	7.0
20	106	新寛永	四文		28.0	22.0	7.0
21	105	新寛永	四文		28.5	21.0	7.0

と考えられる。106号遺構から出土した銭は、すべて新寛永であり、十一波の四文銭を含む。従って、106号遺構が埋まったのは明和六年以降である。これより、出土した銭から推定される各遺構の廃絶年代は、255号遺構、336号遺構が十七世紀後半。537号遺構が十八世紀半ば。106号遺構が十八世紀後半である。

5 鉄製品 689号遺構一括遺物 (第372図)

689号遺構は門の柱跡とであり、これらの遺物はすべて門の金具であると考えられる。門を壊したときに柱を抜いた穴に投げ込まれたのであろう。1は扉を受ける部分の金具であり、2～5はそれを固定する銅製の鋌である。6・7は、乳金具であり、8～11はそれを固定する鉄製の鋌である。12～14は鉄製の釘である。

6 鉄製品 遺構144一括遺物 (第373図)

144号遺構からは、水路および溜升に使用された鉄釘が元位置を保ったまま大量に検出された。釘は大きく分けて四種類見られる。A類はいわゆる頭巻き釘であり、他の建築用の釘をそのまま大型にしたものである(7)。B類は頭部を直角に曲げただけの釘である(1～6)。C類は頭部のない釘である(8)。D類は鋸である(9)。10はA類とC類が組み合わさったまま出土したものである。A・B類は底板と側板を下から上へ向けて固定し、C類は側板どうしを内から、D類は外から固定している。(第 図参照)釘には木材の痕跡が見られ、それにより板の厚さは約5cmであったことが分かる。

7 その他の鉄製品 (第373図)

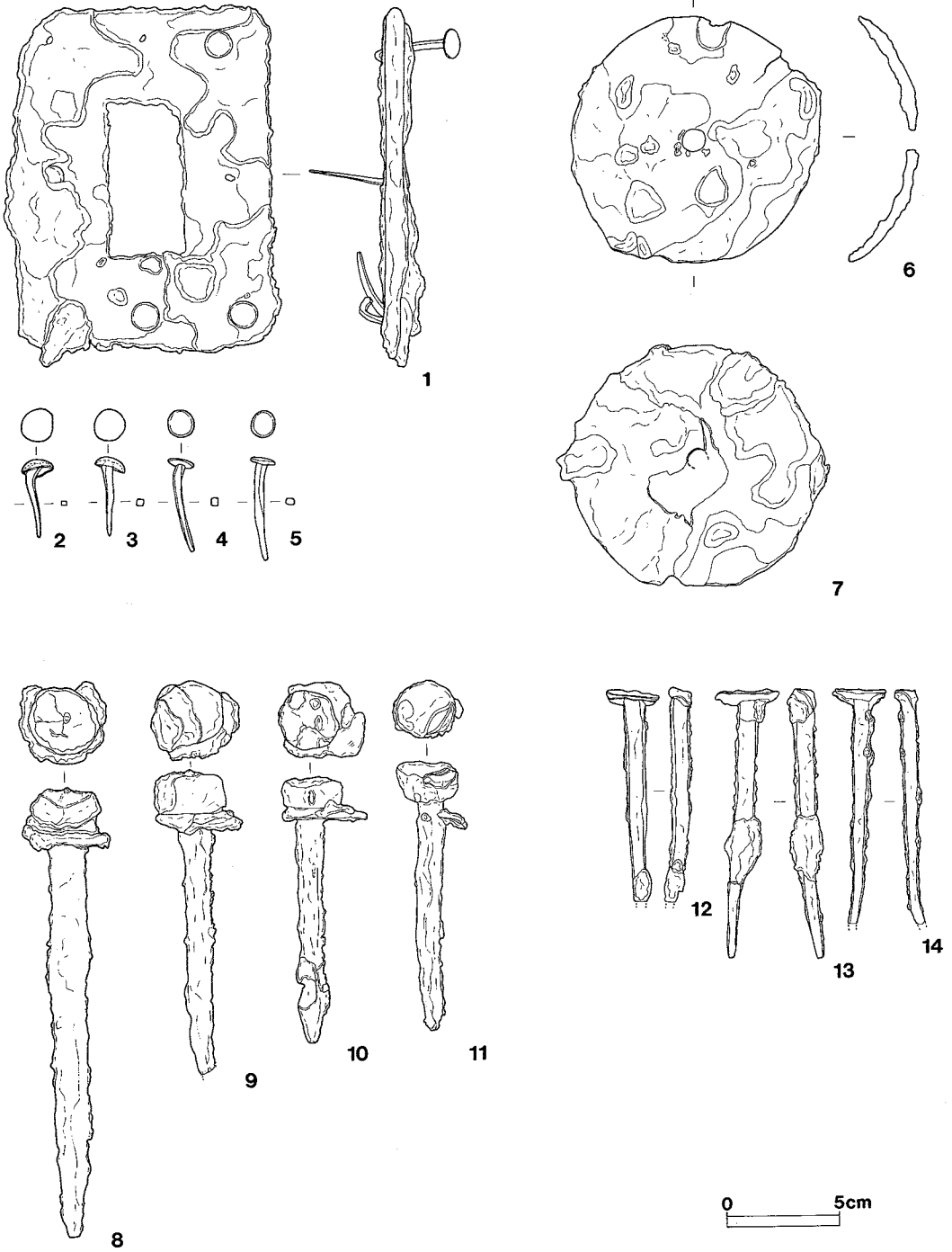
第373図1は鉄鍋、2は鉋、3は鋏先である。4～6は小刀、7は道中湯沸かしあるいは道中茶箱の取っ手である。8は用途不明の鉄製品である。馬具だろうか。

8 鉛製品 (第374図)

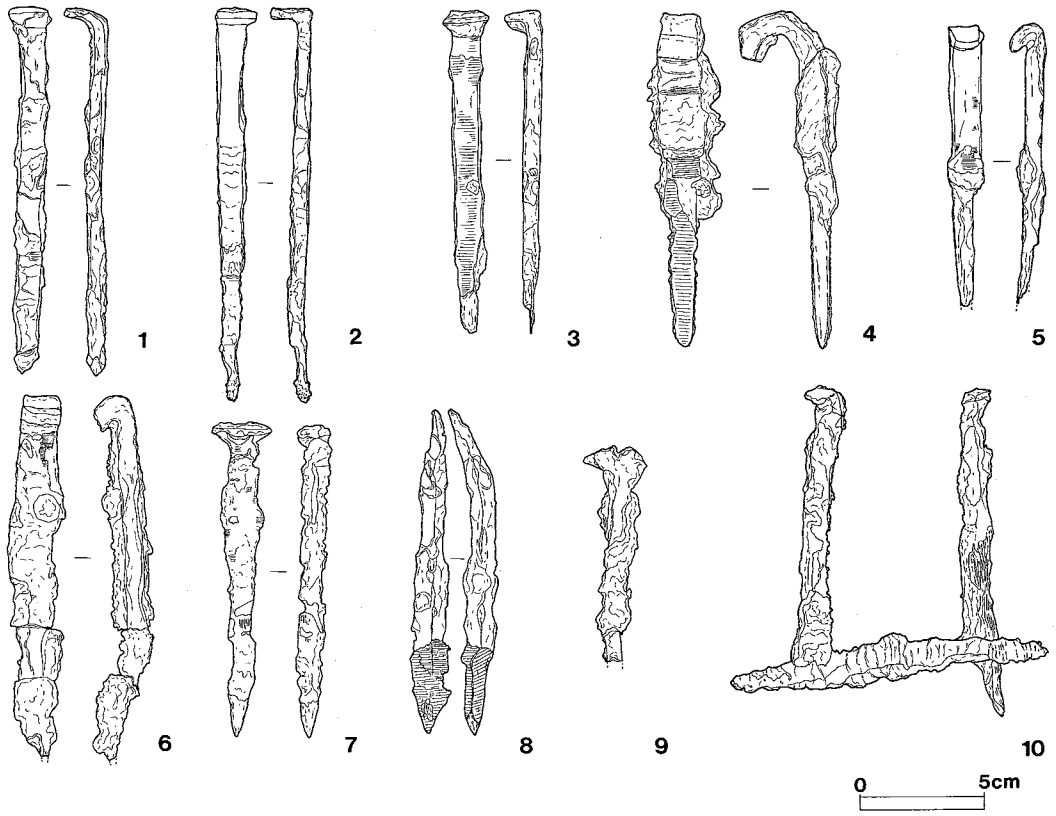
1～3は用途不明の鉛製品である。両端が曲げられ穿孔されている。重りあるいは箆筒の引き手であろうか。4～6は鉄砲の玉である。

註

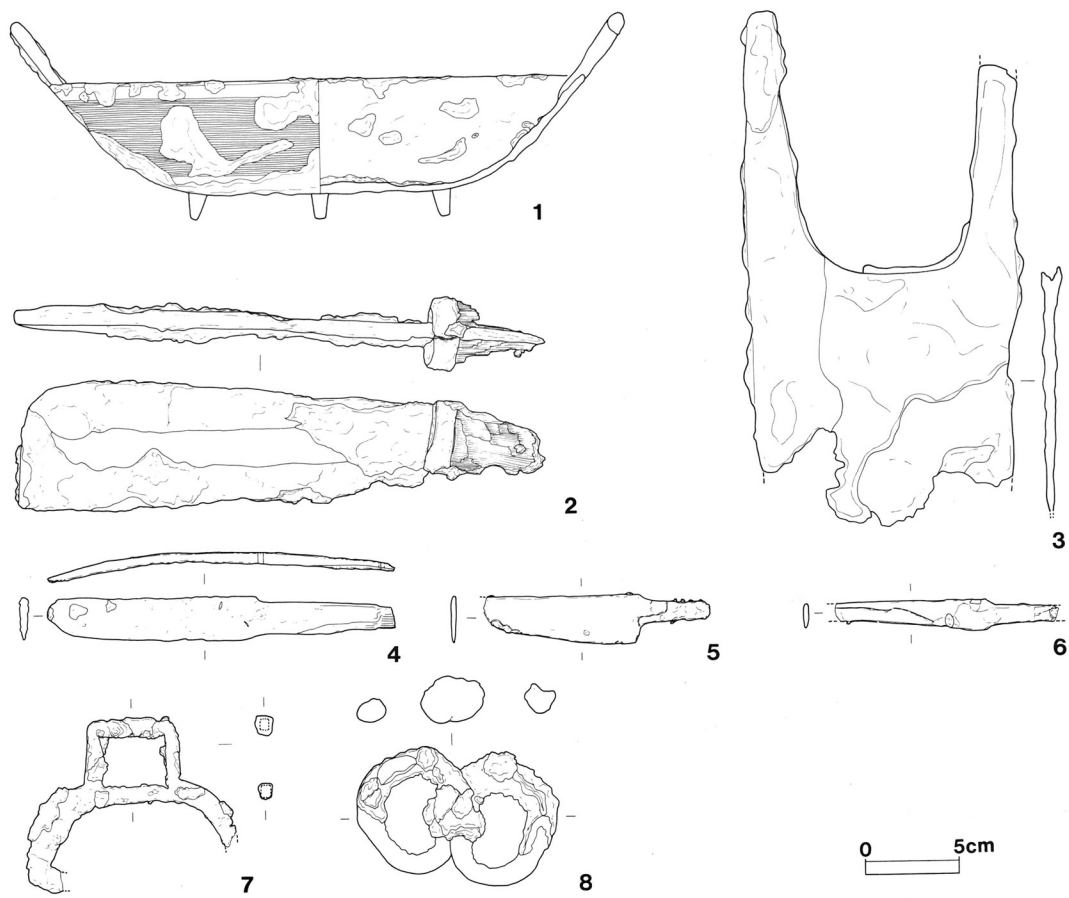
- 1) 鐵着の位置は、火皿を左に向けて置いた場合を想定し、正面、裏面、上面、下面と表記する事とする。
- 2) 狭義の吸口とは、吸口から肩を除いた部分である。



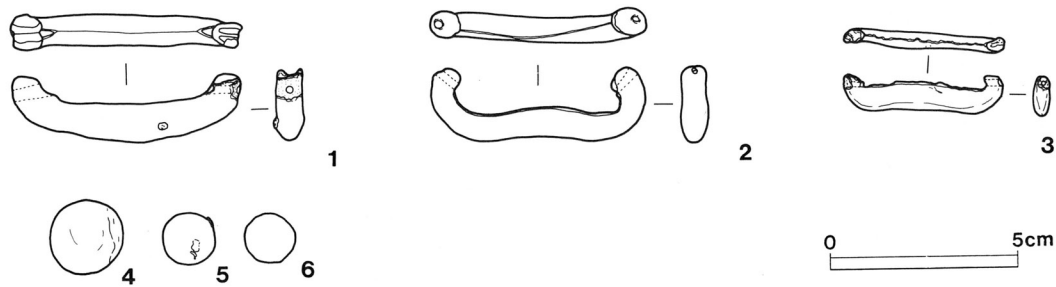
第372図 金属製品(11)



第373図 金属製品(12)



第374図 金属製品(13)



第375図 金属製品(14)

第4節 木製品

木製品は21号遺構と678号遺構以外からはほとんど出土していない。21号遺構は井戸であり、井戸に使用された枠組の木材や、井戸側、つるべなどが出土している。678号遺構からは木材等のほか、御敷、箸、曲物などが出土している。両遺構とも木製品以外の遺物がほとんど出土していないことが注目される。21号遺構の北に見られる井戸（16号遺構）からは瓦のみが出土している。このように一か所にまとめて同じものを廃棄する傾向があるように思われる。

ここでは21号遺構と678号遺構の出土遺物を紹介したいと思う。

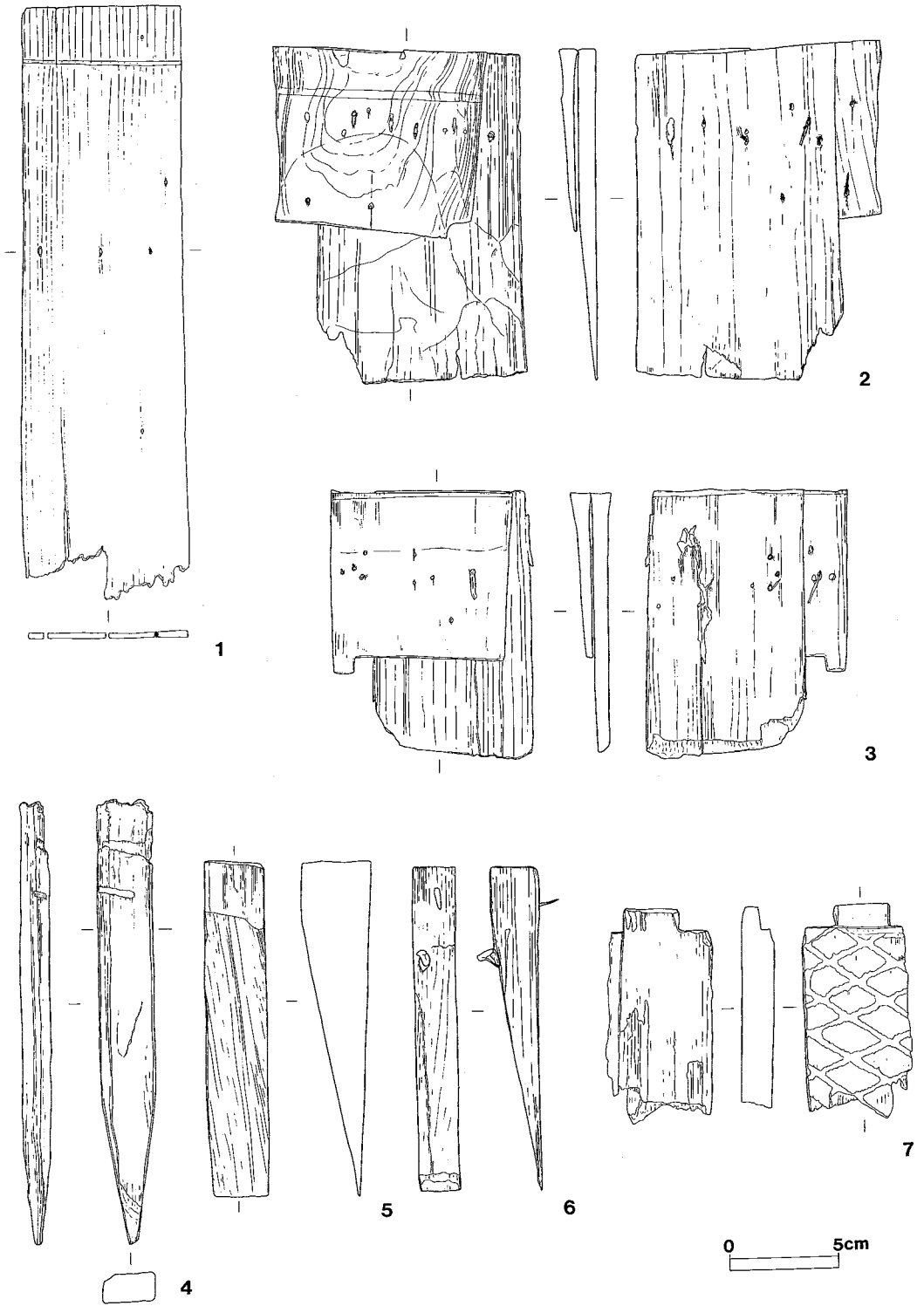
678号遺構からは建築用材と生活用品が出土している。第376図は建築用材である。1はヒノキ製の薄い屋根材である。2・3は屋根材である。二枚の板をひごのようなもので止めている。4は先端を削り杭先状に仕上げている。5・6は楔状の木材で、6には釘が見られる。7はほぞの加工が見られる。第377図は生活用品である。第377図1は箒である。竹の棒にシュロの繊維をやはりシュロの縄で止めている。2・3は折敷の一部で、杉材を薄く仕上げている。4は曲げ物の底でヒノキ製である。5は樽の栓である。6は用途不明の木製品で表面に黒漆が塗られている。7～14は箸でヒノキ製である。15は用途不明の木製品である。折敷の一部であろうか。第378～380図は遺構21の遺物である。第378図1は井戸側である。一段目のたがの下に墨書が見られる。板と板は竹の合釘で三か所固定されている。2・3は竹の合釘である。第379・380図は井戸の枠内より出土した木製品である。第379図1・2は釣瓶である。1と2で組になるものと考えられる。3は井戸の蓋である。二枚で一組になるのであろうが半分のみ出土している。中央部につるべに紐を通す穴が開いている。二組の取っ手がついていたらしい。第380図1は桶の蓋である。2・3は建築用材であると思われる。

井戸について

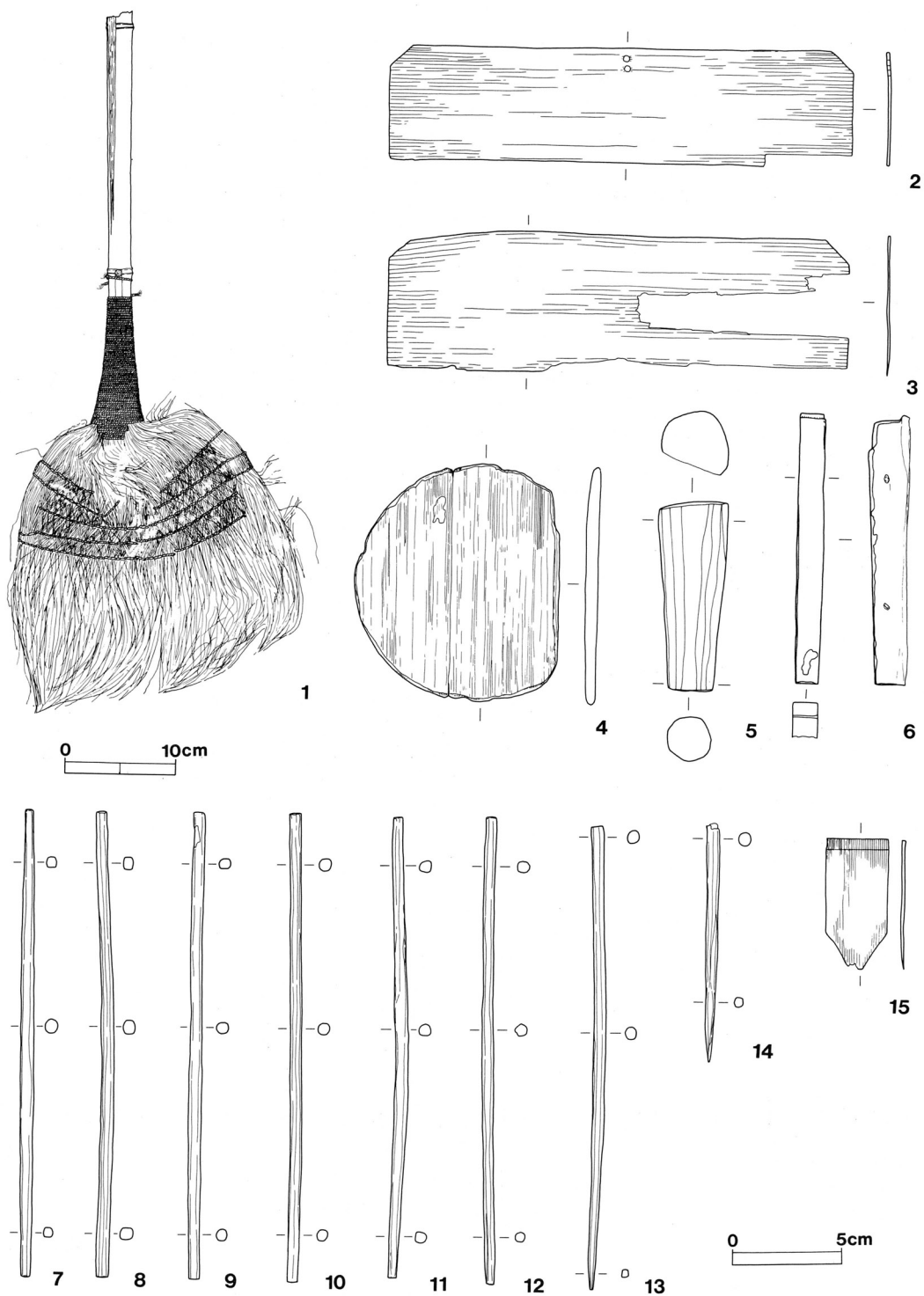
御殿下記念地点からは・・個所の井戸が検出されている。そのうち21号遺構は保存状態がよかったので、最下段まで掘り下げることとした。

21号遺構は検出面から約10m下まで掘り下げられ、井戸側が4段完全な形で残っていた。また最下段の回りには、一回り大きな桶が取り巻くように据えられていた。これは井戸側の保護のための施設であると考えられる。

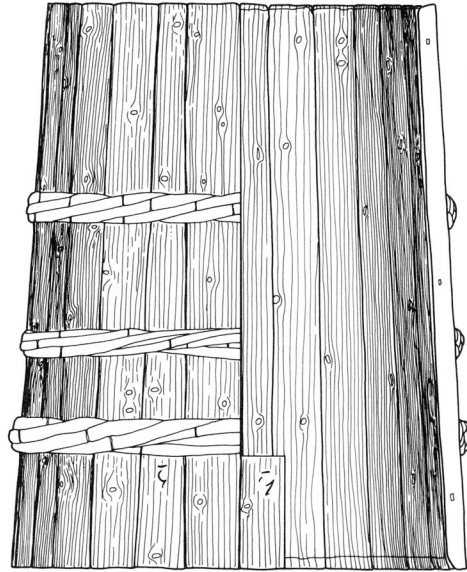
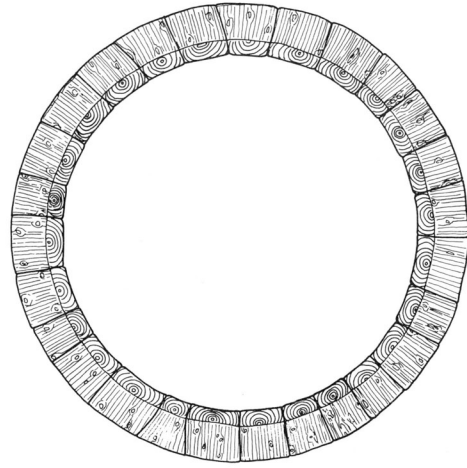
井戸側は、高さ1m50cm、下に向かって広がるような形で据えられ、最大径1m20cm、最小径1m。最下段を取り巻く桶は、高さ1m80cm、最大径1m60cm、最小径1m50cmである。杉の芯材を用い竹釘でそれぞれの板材を頑強に固定し、更に竹を組み合わせたタガで締められている。最下段および最下段を取り巻く桶のみ下部端を削ってとがらせている。



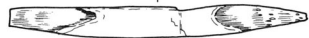
第376図 木製品(1)



第377図 木製品(2)



1
0 50cm



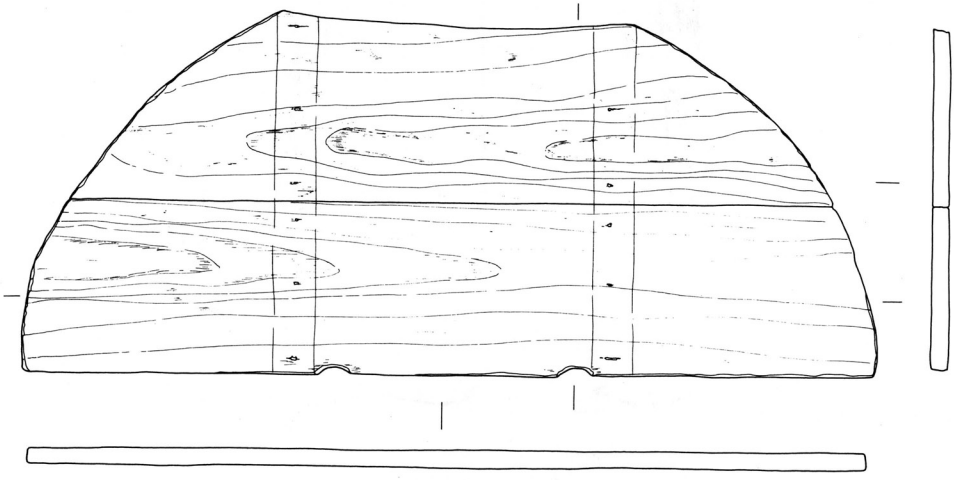
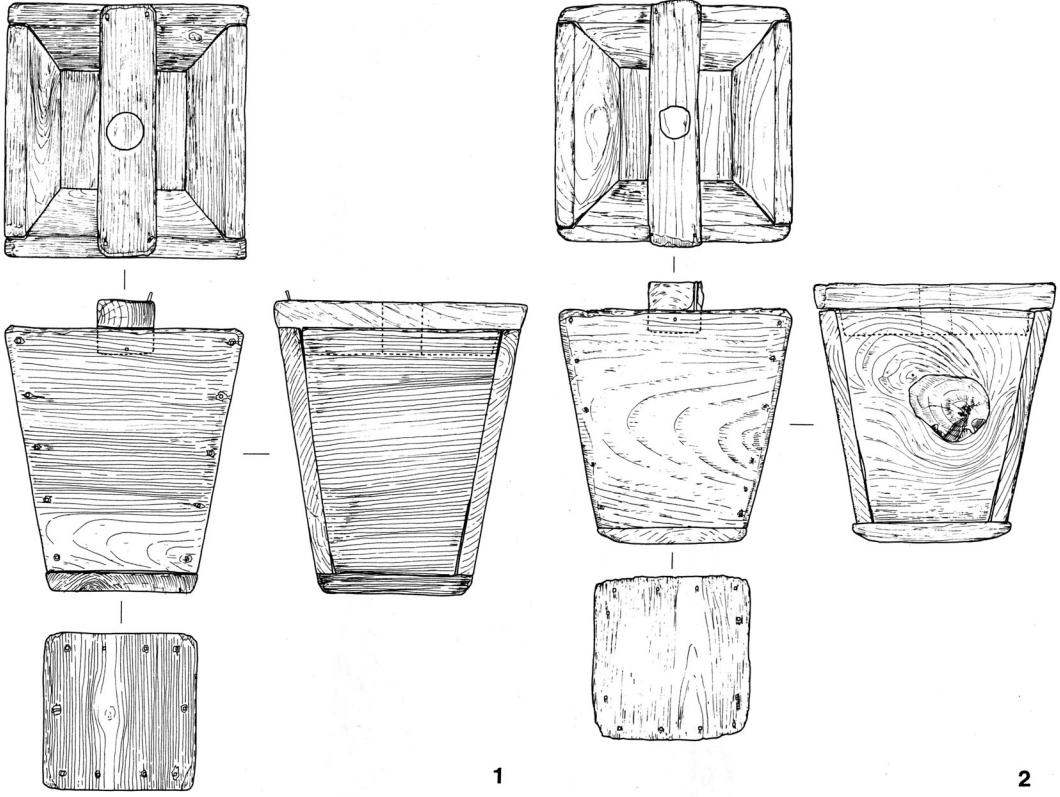
2



3

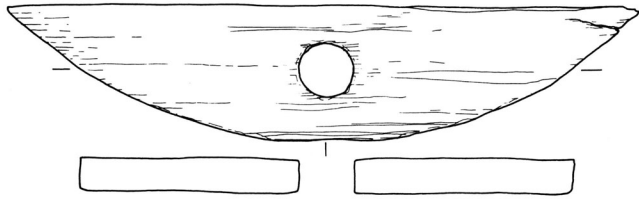
0 5cm

第378図 木製品(3)

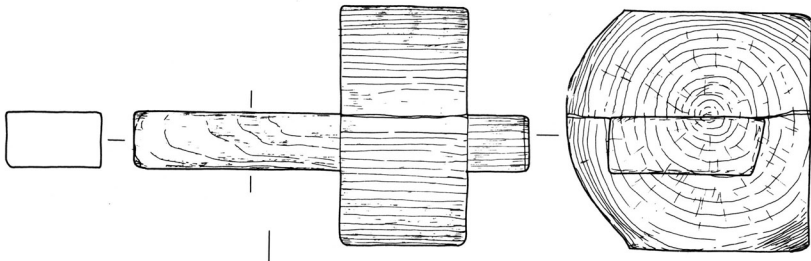


0 20cm

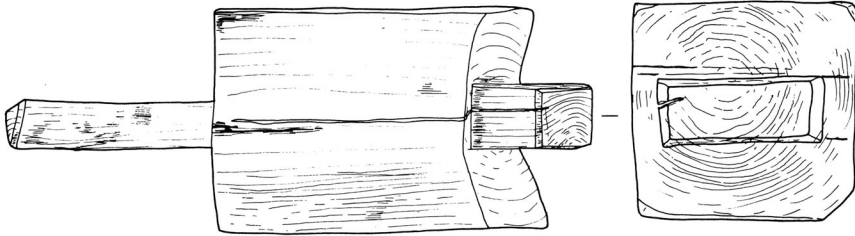
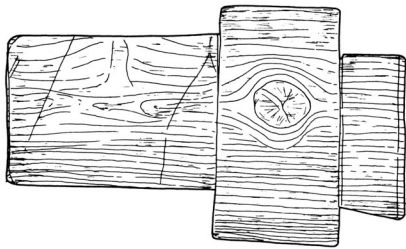
第379図 木製品(4)



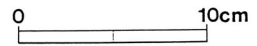
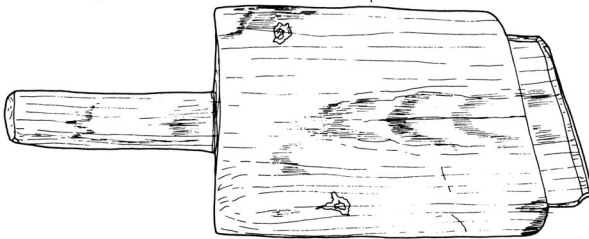
1



2



3



第380図 木製品(5)

下から4段目の井戸側の周囲には、丸田を3本組み合わせて補強がなされている。

残存部分の高さから推定して、井戸側の総数はおよそ10段であったと考えられる。

御殿下記念館地点の湧水点は標高9m50cm付近であり、三四郎池の水面のレベルとほぼ一致する。井戸はそれより更に3mほど掘り下げられており、現在でも絶えずポンプを稼働させていなければならないほど豊富な水量を保っている。また水質は良好であり、十分飲料に堪えたと思われる。

『守貞漫稿』によれば、江戸の地下水には地表から上水（うわみず）、中水、本水の3種類の水があり、飲用に適したのは本水のみで、中水は鮮魚を冷やすなど雑用に使われたとされている。また、本水を得るためには掘抜井戸が必要であったとされている。掘抜井戸とは、井戸側の最下段の底に蓋をつけて周囲から上水や中水が入らないようにし、蓋に穴をあけて竹の管を通して上水の湧水点まで繋ぎ、きれいな水のみを得る構造である。また安政の頃に書かれた『江戸自慢』にも、「江戸中に井戸あれど、飲み水は上水を用ゆ」という記載が見られる。ここでいう「上水」とは、「うわみず」のことではなく神田上水や玉川上水などの上水道のことである。

御殿下記念館地点からは上水道の遺構は検出されていない。また、検出された井戸からは掘り抜きの構造は見られなかった。同様のことが紀尾井町遺跡SE30にもいえる。

こうしてみると江戸の井戸はその立地条件により構造の違いがあったのではないかと考えられる。特に下町と山の手では地下水の水質に違いがあるのは当然であり、必然的に井戸の構造にも違いが現われてくるのであろう。

註

- 1) 『紀尾井町遺跡調査報告書』1988千代田区紀尾井町遺跡調査会

第5節 石製品

本遺跡からは多数の石製品が出土した。内訳としては、砥石・硯・碁石・火打石・白類のほか、少数ながら軽石・雲母・温石と考えられる札状製品・玉状製品等も出土している。どの江戸遺跡でも見られるものがほとんどであるが、藩邸遺跡で例の多い印章は本遺跡では出土していない。内容的には実用品が多く、中でも砥石の出土量が突出している。遺存状況としては焼損品が目立ち、特に小破片には火をうけて著しく劈開・欠損したものが多い。こうした小片は実測や観察が困難なので、全体から比較的遺存のよいものを抽出して整理台帳に登録して計測・観察を行い、その中でも特に遺存のよいものや代表的なもの・特徴的なものを選んで実測図を作成した。

なお、ここで扱う硯の中には瓦質のものが数点含まれており、また瓦片を砥石その他に転用したもの等も便宜上この項で扱う。

1. 砥石

本遺跡からは数百点におよぶ砥石が出土しており、その種類・材質・大きさ・形態等はきわめて多様である。砥石を分類する際に、荒砥・中砥・仕上砥といった分類を用いることが多いようであるけれども、こうした分類は必ずしも絶対的なものではない。砥石の目の粗細自体連続的・漸移的であるし、1つの砥石を面によって（石の目によって）荒砥／仕上砥と使い分けられている例もみられるからである。また砥石の場合、その形態は機能形態ではなく使用形態であるうえに、欠損後も使用を続けたりあるいは意図的に分割使用することも少なからずあるため、一見した大きさや形態からの分類を試みても無意味である。

こうした砥石の性格を踏まえて、本稿では全体を荒砥・中砥の類（第381図1～第387図5）と仕上砥（第387図6～第389図20）に区切ったうえで、それぞれを便宜上大雑把なグループに分け、細かな分類にはこだわらずに砥石の持つ多様性が現われるように意を用いた。

なお、本稿ではもっともよく使用されている面を「主研面」、その反対側の面を「裏面」、その他を「側面」というように便宜的に呼称した。また、砥石の整形工具としては大きく「平タガネ状工具」・「櫛歯タガネ状工具」・「平ノコ状工具」の3種類（いずれも仮の呼称）を想定して記述を進める。

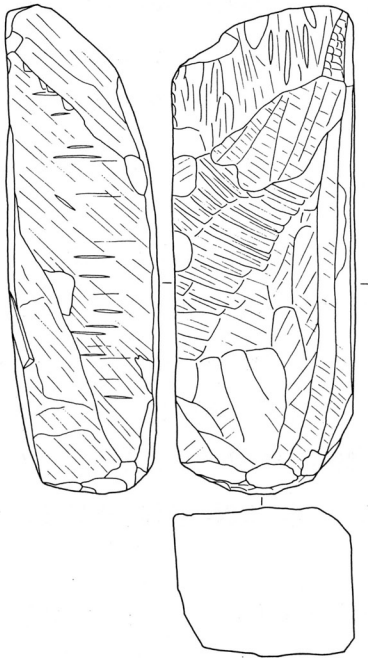
第381図1～第382図4はもっとも大型の砥石群である。第381図1（写真138-2）・2は箱形に加工された大型の砥石であるが、焼損のため主研面が欠落してしまっている。正面に平タガネ状工具による裁断・整形痕が顕著なほか、側面は面によって平タガネ状工具・平ノコ状工具



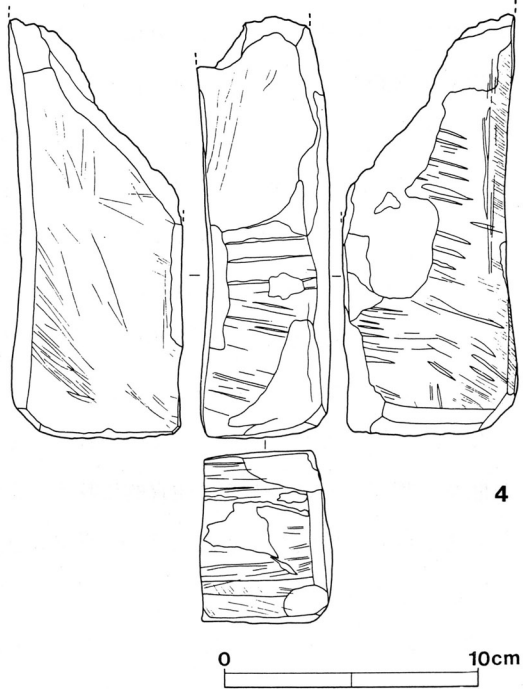
1



2



3



4

0 10cm

第381図 石製品(砥石1)



第382図 石製品(砥石 2)

が使い分けられているのがわかる。

3は角柱形の著しく大きな砥石で欠損はほとんどなく、石質はかなり硬い。形状が不整である上ほぼ全面にわたって平タガネ状工具痕が残っているため、かなり荒っぽい印象をうける。正面では複数方向から平タガネ状工具を入れた痕がみてとれる。主研面は左面と考えられるが、あまり磨耗していない。(写真138-1)

4は硬質の荒砥で、かなり欠損しているようである。図に示したように3面に平タガネ状工具整形痕が残るが、1~3ほど粗いものではない。主研面(左面)はかなり使い込まれている。

第382図1・4は硬質の中砥で石質は同じだが、元々同一個体であったのか否かは不明。いまみられる形も分割によるものか、破損によるものなのか判断に迷う。各所に平タガネ状工具痕がみられる。いずれも正面が主研面のようなものである。

3は棒形の長大な荒砥で、焼損品だがおおむね遺存している。右面に平タガネ状工具痕が顕著なほか、正面下部に櫛歯タガネ状工具痕が残っており、また荒砥ではあるがエッジには面取りがほどこされている。主研面は左面。

2も大型荒砥の一種ではないかと考えられるが、分割・欠損が著しく砥石としての機能・様態を充分観察することができない。両側面には平ノコ状工具痕が顕著で、数方向から平ノコ状工具を入れたうえで一気に折られているのがわかる。

これらの著しく大型のグループはいずれも荒砥ないしは中砥で石質は概して硬く、置きかたによってはその自重ゆえに座りがよかったと思われ、大ぶりの刃物の研ぎ出しに用いられたものと考えられる。

第383図もかなり大ぶりの荒砥で、もともと箱形をしていたようだが、図示したごとく正面をはじめとして4面がよく使い込まれて著しく磨耗し、斧のような形になってしまっている。上端部は、磨耗して薄くなったために割れてしまったらしい、下底面に平タガネ状工具整形痕が残る。

2~9は比較的大型の不整形で平タガネ状工具整形痕を顕著に残す、荒砥ないしは中砥のグループで、2~5は不整形な札型、6~9は棒型ないしヨウカン型である。

このうち2と5は、使用されているのは一部のみでほぼ全面に平タガネ状工具痕がみられる。5は何かの石材破片からの転用と思われる。これに比べ3は主研面と2側面が、4は主研面とその裏面がよく使い込まれていて、両者とも破損もしくは分割ののち破断面を整形ないしは利用しているようである。

6と7は棒形の中砥で石質が同じである。6が正面・左側面の2面のみの使用であるのに対し、7では4面とも整形痕がほとんど消えるまで使い込まれて主研面の特定が難しいほどである。あるいは7も使用前は6のような形をしていたのであろうか。

9はこれらよりやや幅広なヨウカン形で、表裏2面が使用されているが、特に主研面と考え

られる正面は磨耗が顕著である。5面に平タガネ状工具痕が残るほか、左面には平ノコ状工具による切断痕があり、平タガネ状工具で板状に削り出したあと平ノコ状工具で切断してヨウカン型に成形されたことがわかる。8もこうした棒型またはヨウカン型であったと考えられるが、焼損がひどく詳細は不明。左面が主研面のようで、正面に残る整形（切断）痕は平タガネ状工具が一方から規則的に入れられたことを示している。

なお、10も2～5タイプの断片であろう。表裏に大きな溝状の使用痕が特徴的に残っている。

第384図1～8は幅に比して薄手の札形の荒砥・中砥群である。1と2は軟質の荒砥で、接合はしないものの本来同一個体であったようだ。主研面はよく使い込まれており、特に2ではえぐれたように磨耗している。裏面および1側面に櫛歯タガネ状工具痕が顕著に残っているほか、2側面には平タガネ状工具による切断・整形痕がみられる。

3・7は側面が平ノコ状工具によって丁寧に整形された比較的目的の細かい中砥で、正面が主研面だが7は裏面も使用されている。

これとは対照的なのが5で、きわめて目的の粗い整形の雑な荒砥となっている。裏面は荒っぽく断ち割られたままで、裏面・側面とも整形工具の種類を特定することができない。

4・6・8は表裏2面のほか側面も使い込まれている例である。整形工具痕が残っているのは4のみで（平タガネ状工具）、8では上半分が斜めに欠損（または分割）したのち、破断面を整形・使用している。

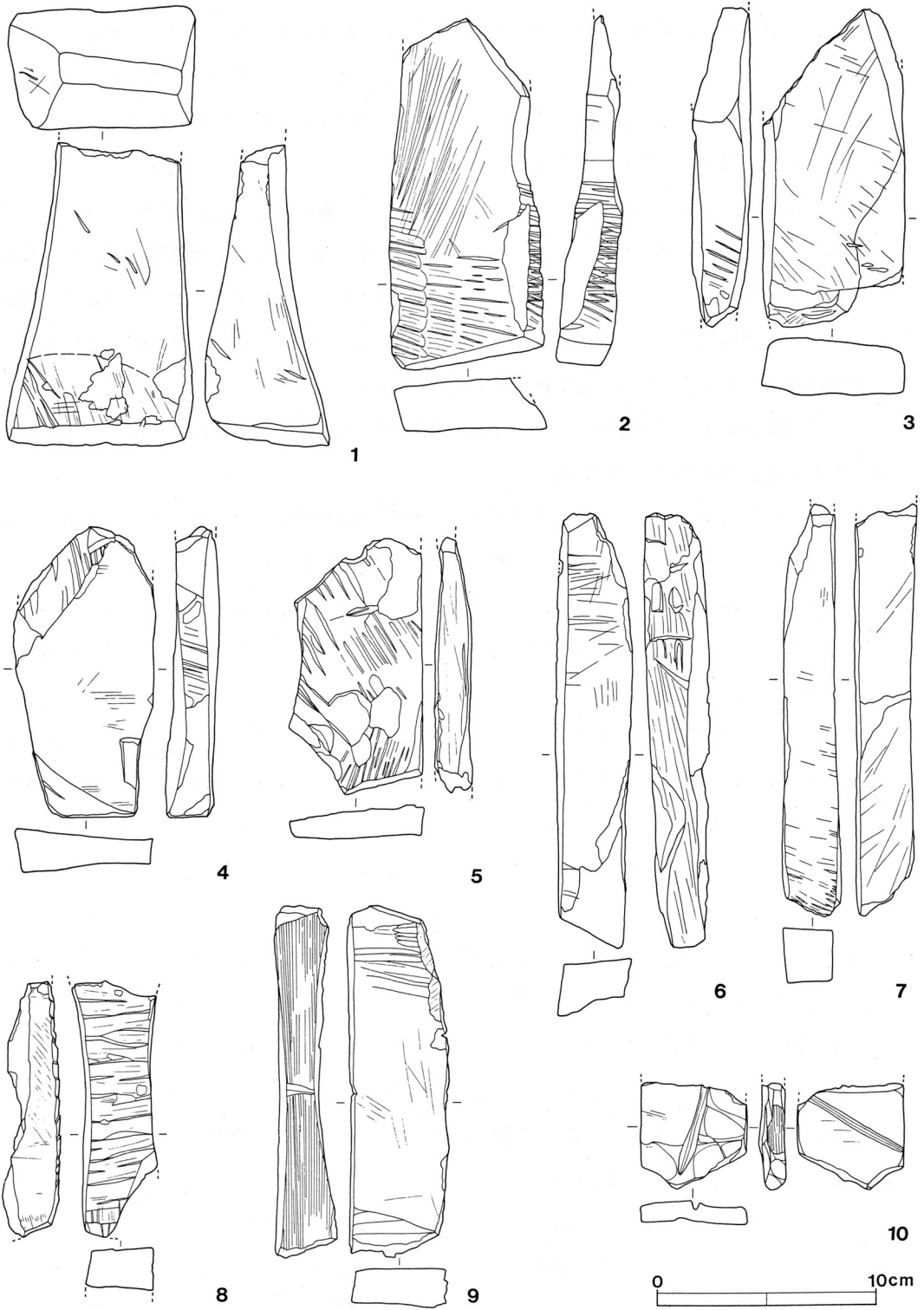
第384図9～第385図6は箱形ないしヨウカン形をした荒砥・中砥のグループで、いずれもよく使い込まれており、主研面等が斜めまたは弓なりに磨耗しているものがめだつ。通常の刃物の研ぎ出しに用いる荒砥・中砥の、もっとも一般的・代表的なタイプとあってよいだろう。平タガネ状工具による切断・整形痕を残しているものが多く、それほど丁寧に整形されたものではないようである。

第384図9は作図下底面の整形が他の面に比べて明らかに雑で、使用中に分割ないしは欠損した破断面を整形したのと考えられる。このグループの砥石は概してこれと同じくらいの長さで（8～10cm程度）遺存しているものがほとんどであるが、これは砥石を手を持って使用する際に持ちやすい長さに切断（分割）したためではなからうか。

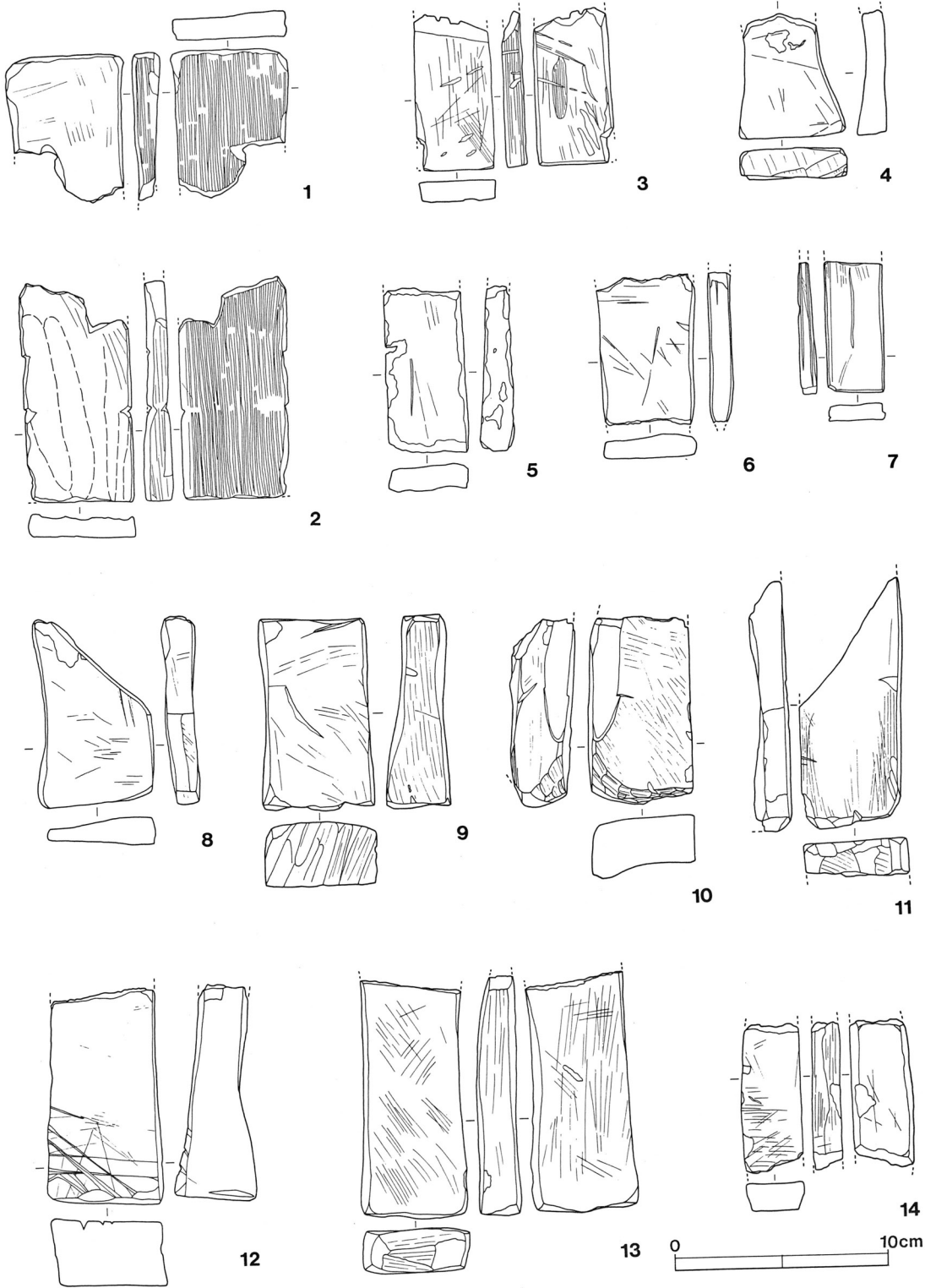
第385図1はこれらの中では大ぶりで整形も粗いが、表裏ともによく使い込まれている。側面には紐をくくりつけるような凹みがある。

3は、このグループのなかでは例外的に櫛歯タガネ状工具痕を有している（下底面）。一方5は表裏ともに平タガネ状工具痕を顕著に残っていて、使用されているのは側面のみである。

第384図12・4には、図示したごとく切り込んだような溝状の使用痕が特徴的にみられる。太目の針か錐・千枚通し・目打ちの類を研いだものと考えられる。



第383図 石製品(砥石 3)



第384図 石製品(砥石 4)



第385図 石製品(砥石5)

第385図9～15は平ノコ状工具を用いて丁寧に整形されたヨウカン形の中砥群で、外形は一見仕上砥風である。実際11～13・15等の中砥としては目の細かい部類に属し、中砥と仕上との中間的砥石とってよいかもしれない。

9・10は遺存がよく、製品化段階でのこのタイプの形態を知ることができる。側面は平ノコ状工具によって整形され、主研面を平滑に仕上げたうえエッジには面取りもほどこされている。9はかなり軟質で、主研面は左面。

12・13は本来10とほぼ同大の砥石を分割したもののようである。12下底面には3方向から平ノコ状工具を入れて一気に折りとった様子が看取され(上部は欠損か)、他の部分に残る整形痕とは全く違う雑な造作であることから、使用者による切断と考えられる。13では上部が更に荒い方法で折り取られている。なお、10の側面および13の主研面にはトラス状の使用痕がみとめられるが、細い針などを研いだ痕であろう。

11・14・15は表裏ともよく研ぎ込まれて磨耗し、かなり薄くなってしまった例で、札形といってもよいような形をしている。14・15では下底面を切断(ないしは欠損)ののち、この部分を荒砥として再利用したようである。また14の上端部破断面には、紐通し穴の残欠のようなものが認められる。

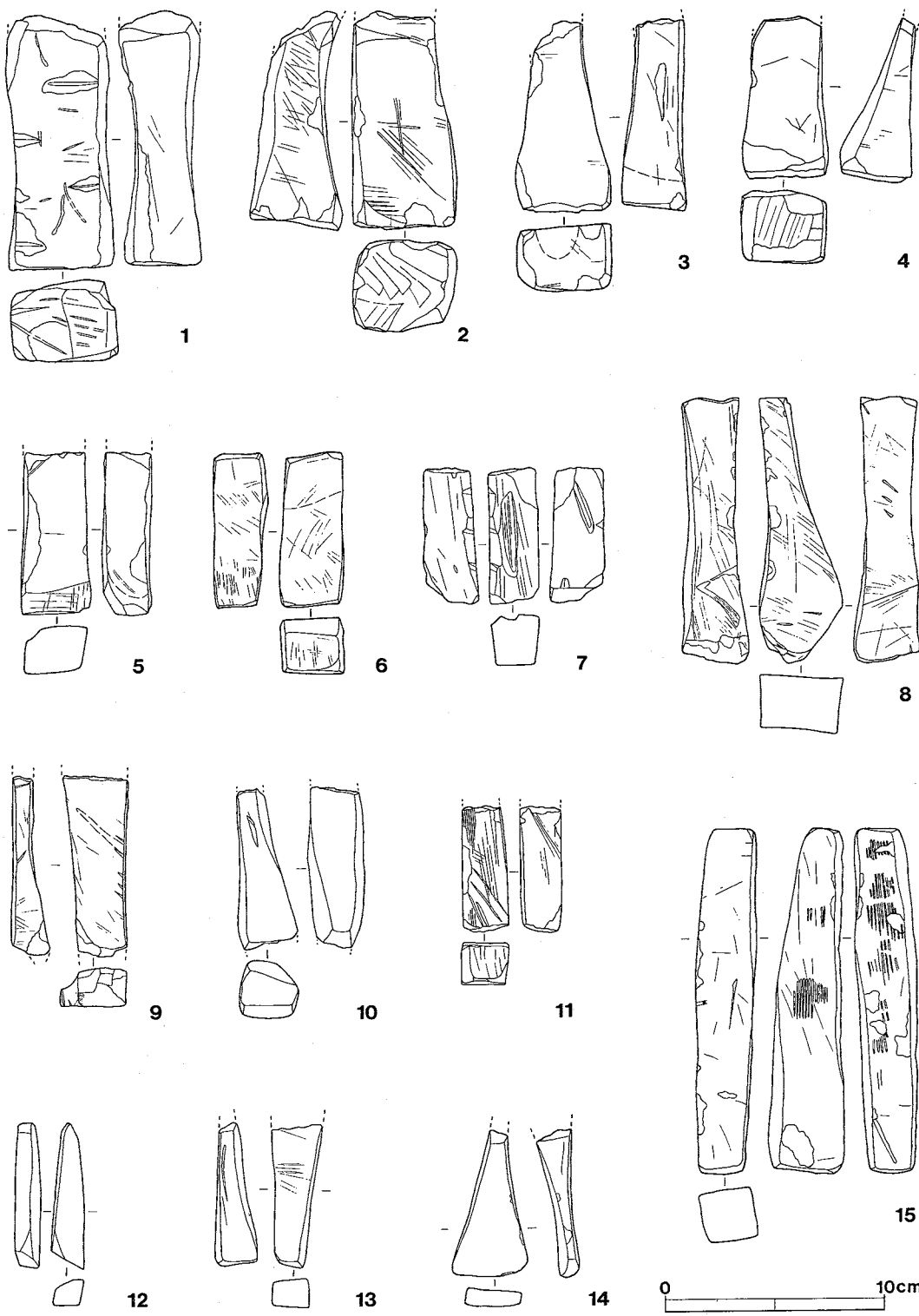
7と8も本来これらと同類のものと考えてよいが、特徴のある使用痕を有する砥石である。7は平ノコ状工具によりかなり丁寧に整形された軟質の中砥で、正面に図示したごとく削り込んだような使用痕がある。ノミのような工具を研いだものであろうか。一方8は比較的軟質の目の細かい中砥で、正面に大きな溝状の使用痕があつて、これは第384図12や第385図4と同様先の尖ったものを研いだ痕と考えられる。

第386図1～15・第387図1・2は、幅厚比が比較的小さく細長い棒型の荒砥および中砥のグループである。第386図1～4と8は大型で太目のもの、5～7・9～15は比較的小型で細目のものであるが、いずれも欠損品や分割されたと考えられるものが多く、長さについては不明なものが多い。

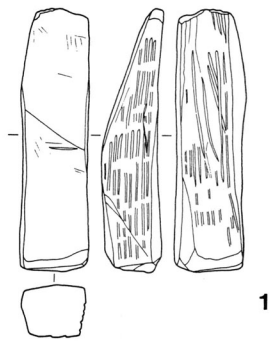
第386図1～14は荒砥で、いずれも3～4面が使い込まれてかなり磨耗していることや、作図下底面に平タガネ状工具による整形痕を残している点等で共通している。1は著しく目が粗く、表裏は砂のようにざらついている。

8もこれらと同大であるが、比較的目の細かい中砥である。ほぼ全面が使い込まれていて整形工具痕が残っておらず、もともとこの長さであつたのか、分割されてこの長さになったのかも判断しがたい。主研面を特定することも難しいが、幅の狭い「側面」の方が磨耗が激しい。

これらよりひとまわり小さいグループのうち、5～7・9・10は4面とも使用されている例で、特に9は主研面が使い込まれてい著しく磨耗している。7の正面と左面には彫り込んだよ



第386図 石製品(砥石6)



1



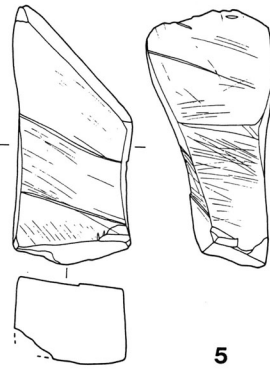
2



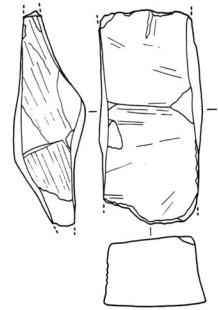
3



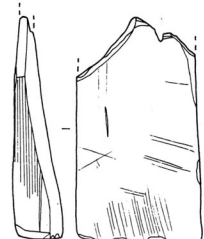
4



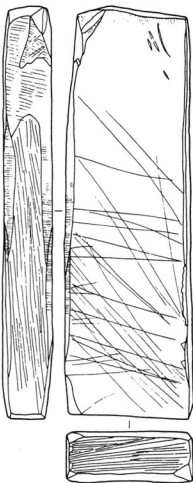
5



6



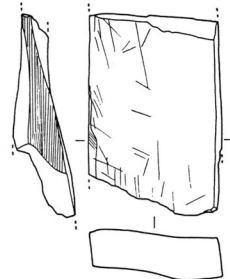
9



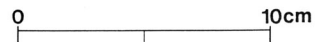
7



8



10



第387図 石製品(砥石 7)

うな特徴的な使用痕がある。5・7・11の下底面には平タガネ状工具痕が認められるが、11では正面に平ノコ状工具痕が残っている。これらは長さがいずれも7cm前後で、意図的にこの長さに切断・分割されたものである可能性が考えられる。

12～14もこの長さであるが、特徴的な形態を有する砥石である。12はヤスリのように目の粗い細身の砥石で、4面とも使い込まれて指型を呈しており、主研面を特定しがたい。欠損・切断や分割の痕もみられず、もともとこの大きさだった可能性が強い。13は10をひとまわり小さくした感じで、図に示したごとく特徴的な減り方をしている。14も13と同石質で本来同形の製品だった可能性もあるが、13や10よりも更に徹底した使い込みようで、著しく磨耗して三味線のバチのような形を呈するにいたっている。

15は細長い完型の中砥で、典型的な鎌砥であろう。正面が主研面でよく研ぎ込まれており、特に上半分は斜め減りしている。他の面はあまり使用されておらず、所々に櫛歯タガネ状工具痕が残っている。

第387図1と2は第386図15と同石質で整形工具も同じであるが、ひとまわり細身で15の小型版といったところであろうか(第387図2は上下とも欠損)。第387図1は2面、2は3面が使用されているが、両者とも主研面の上部が使い込まれてかなり斜め減りしている。

第387図3～5は第386図1～4等と同タイプと考えられるが、こうした斜め減りの顕著な例である。いずれも荒砥としては比較的目の細かいほうで、全面にわたって使い込まれているうえ主研面の1/3ほどが著しく斜め減りしている。これらの砥石群は、その大きさと使用形態から考えて、4面がある程度使い込まれて磨耗した後、砥石を手にとって研磨物にこすりつけるようにして使用したものと考えられる。仕上砥の中にはこうした斜め減りの著しい例はみられず、このタイプの砥石の磨耗対象となった刃物はさほどの鋭利さを要求されるものではなかったと考えられる。なお第387図5では正面に削ったような特徴的な使用痕がある。

6もこれらと似たタイプであるけれども、主研面および裏面が2方向から研ぎ込まれて側面が菱形を呈するにいたっている。左面には平タガネ状工具による整形痕がみられるが、右側面は研磨に供されている。

第387図7～第389図14は一般的な仕上砥で、全て平ノコ状工具によって四角く丁寧に整形されており、基本的にはヨウカン形ないし札形を呈するものである。

第387図7・8は典型的なヨウカン形仕上砥のうちもっとも大型のもので、硬質の目の細かい泥岩を平ノコ状工具で切り出した後、ヤスリ状の工具または砥石を用いて形を整え面取りをほどこしてある。7は表裏とも使用されているほか、主研面(正面)にはひっかき傷状の使用痕が目立つが、針かなにかを研いだものでろう。8では主研面のみが使い込まれて磨耗している。

9・10はいずれも欠損品だが、7・8のタイプが著しく磨耗・変形した例である。特に10は

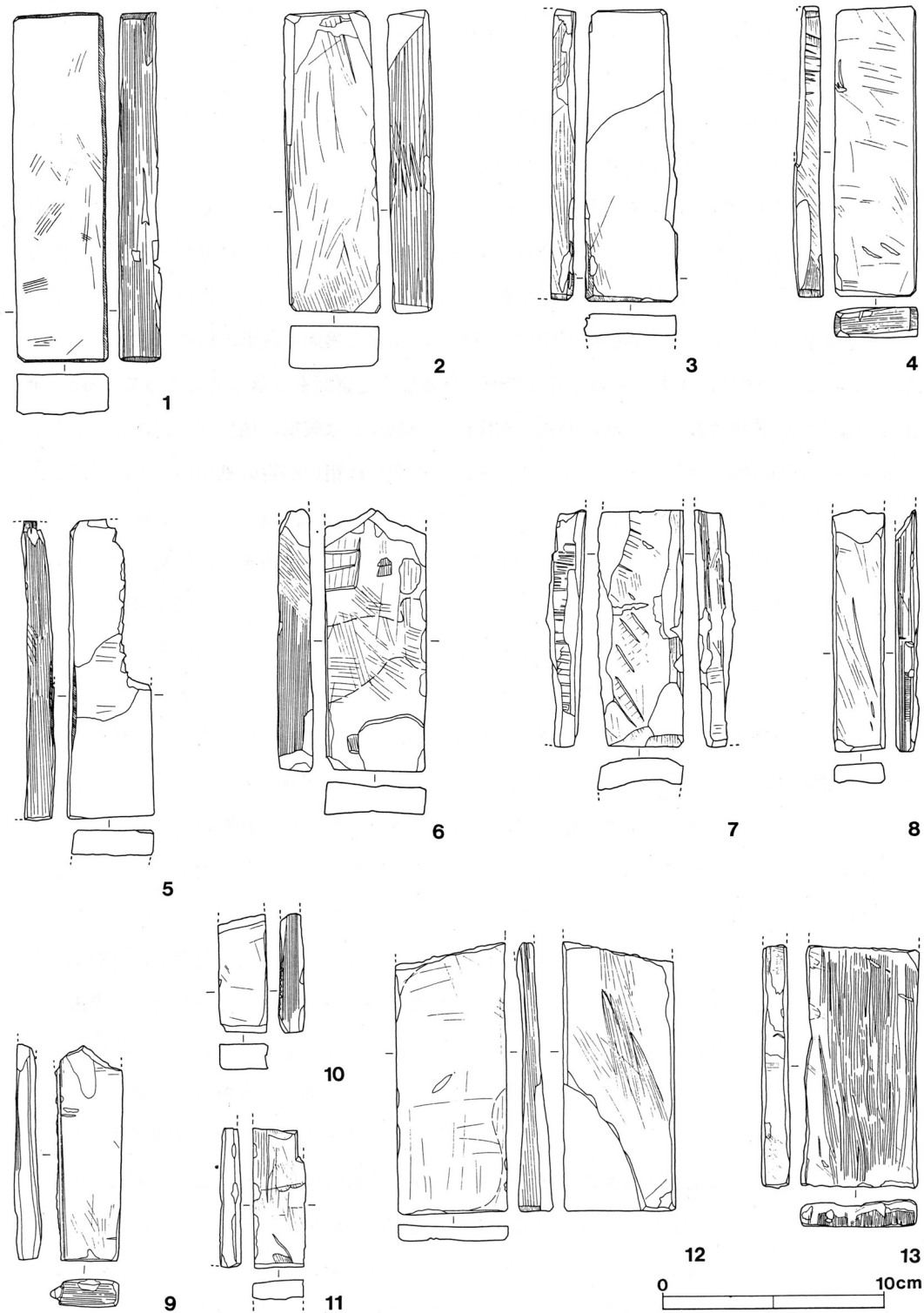
非常に目の細かい硬質の砥石であるにもかかわらず、表裏とも徹底的に使い込まれてよじれるように磨耗している。9も作図上半分が磨耗によってかなり薄くなっている、そのために破損してしまったようである。

第388図1～6は第387図7・8と同形態でひとまわり小さい一群であるが、このタイプは比較的出土数が多く、仕上砥のもっとも標準的なタイプといてよいかもしれない。第388図1はこのグループの中ではやや長めであるが、目の細かい上質の仕上砥で造作も丁寧である。主研面には乳白色の研ぎカスがべったりと付着している（写真138—14）。6は整形痕の顕著に残る例で、側面は平ノコ状工具により丁寧に整形されているが、裏面（正面）には平タガネ状工具による裁断痕が残っている。裏面にも使用痕があり、便宜上裏面を荒砥の代用に供したようである。7もこのタイプに類するもののように焼損が著しく主研面も欠落してしまっているが、全体にかなり粗い造作であることがわかる。左側面は分割または破損の後整形されたようである。

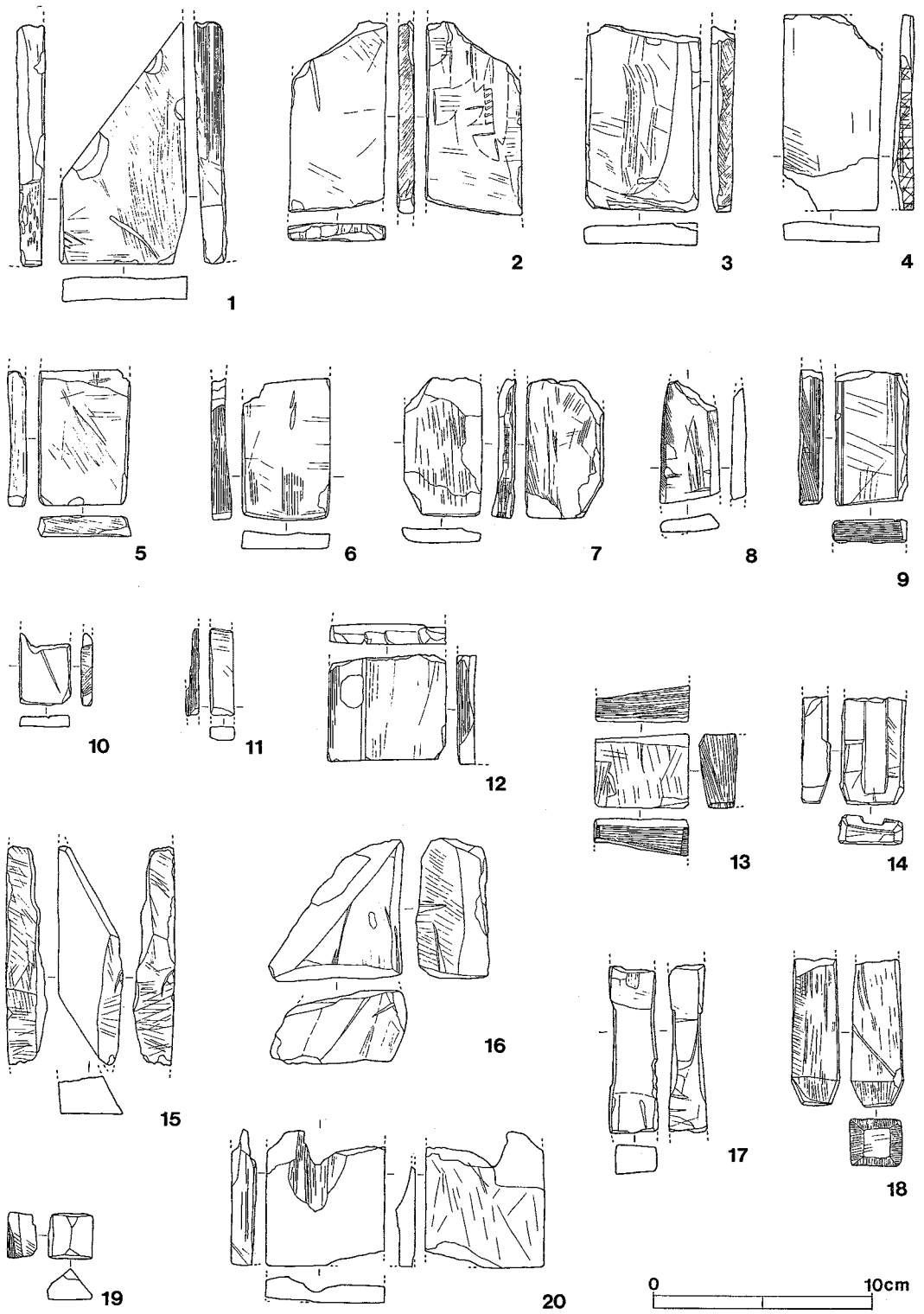
8～11は極端に幅の狭いグループである。8はやや造作は粗いが目の細かい仕上砥で、上部が欠損してしまっていて元の長さを知ることができないけれども、概ね2などと同じくらいの長さだったのではないかと考えられる。10・11はかなり短い、破損または分割によるものようである。11は主研面が欠落してしまっているようだが、仕上砥としては造作の粗い方である。9も一見こうした幅の狭いタイプのものであるが、左側面に平ノコ状工具を入れたうえで折り取った痕が残っており、一般的なヨウカン形の仕上砥を分割したものであることがわかる。

第388図12～第389図7は幅に比して厚みのない札形の仕上砥であるが、もともと薄型であるためか欠損品が目立つ。第388図12は主研面が使い込まれてかなり薄くなっているほか、裏面も荒砥の代用とされたようで特徴的な使用痕が残っている。またこれは軟質の目の細かい仕上砥で、裏面に櫛歯タガネ状工具痕が顕著に残っている（写真138—6）。左側面および下底面はギザギザの切断・整形面であるが、使用者が平タガネ状工具またはノミ状工具を用いて分割・整形したものであろう。第389図1では上半分が斜めに欠損した後、破断面を荒砥または中砥として再利用している。4はこのタイプとしてはかなり遺存のよい例で（写真138—11）、表裏ともよた使い込まれており、作図左側面には針などを研いだとみられるトラス状の使用痕もみとめられる（写真137—10）。これに比べ、3は石質的には仕上砥であるが表裏ともラフな造作で、使用による磨耗もほとんどみられない。欠損品である2・3・5～7が4とほぼ同大であるのは、あるいは意図的な切断・分割によるのであろうか。これら札形の仕上砥は、裏面に平タガネ状工具痕（2など）、側面に平ノコ状工具痕を残すものが多い点ではヨウカン形の仕上砥に似るけれども、面取りは基本的にはほどこされていないようである。

8は札形の変形で、平面が長方形ではなく側面には傾斜がつけられている。10は欠損品だが小ぶりの札形の仕上砥で、中央に千枚通し等を研いだ痕がある。9も欠損品でヨウカン形の一



第388図 石製品(砥石 8)



第389图 石製品(砥石 9)

種であるが、きわめて目が細かく硬質である。主研面の両側に細い溝が走っているが、その機能・用途等は不明。11も欠損のためもとの大きさを知りえないけれども、もっとも小型の仕上砥石といってよいであろう。12と13は分割の痕が顕著な例で、12は札形の仕上砥石を平タガネ状工具で、13はヨウカン形を平ノコ状工具で、それぞれ分割している。

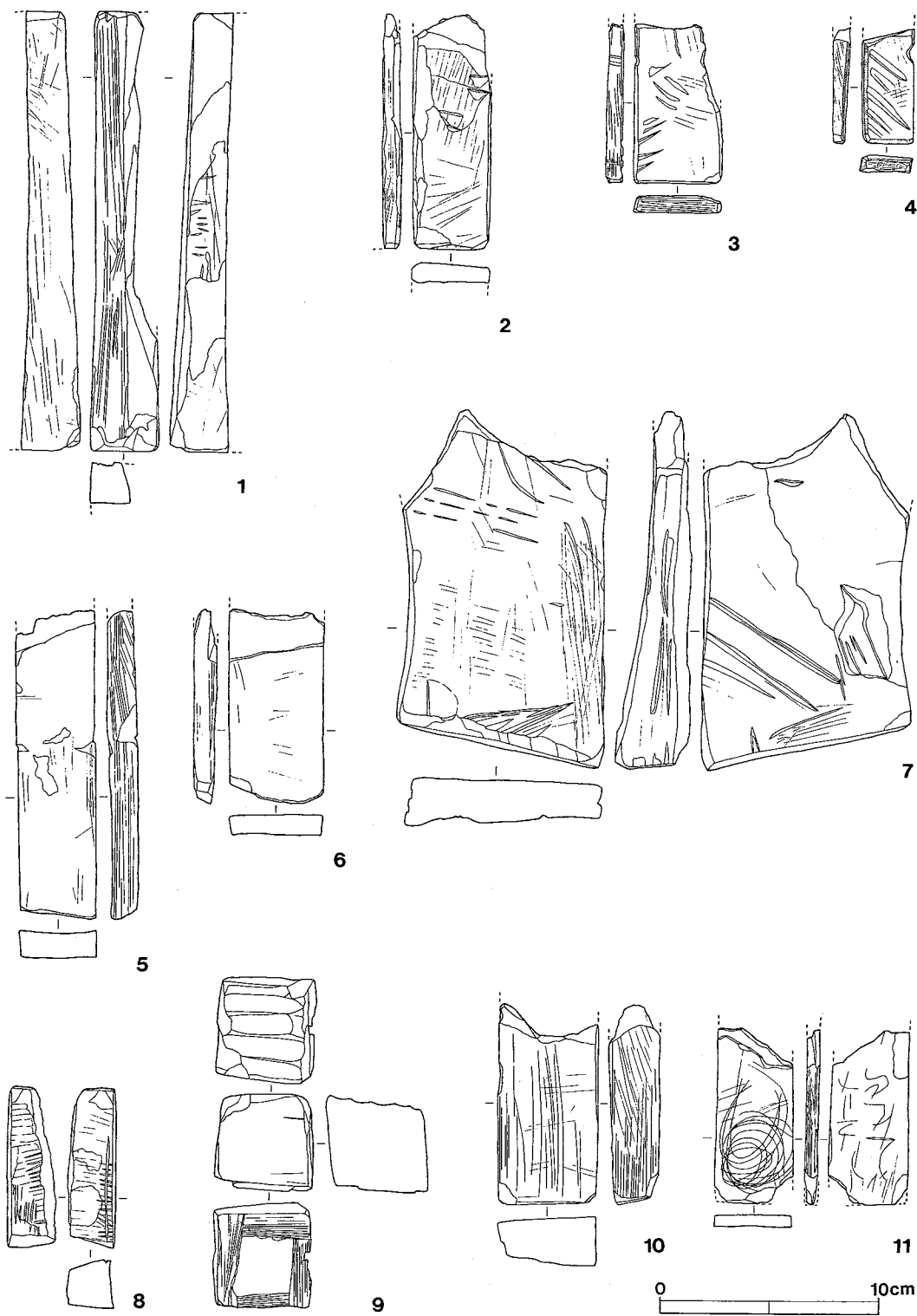
14～18は特殊な仕上砥石の例である。15と16は側面が著しく使い込まれた結果、菱形や三角形の平面を呈するにいたっている。17は棒形の仕上砥石で、正面にえぐられたような特徴的な使用痕がある。14・18は著しく目が細かくかつ硬質で、どのような道具の研磨に用いられたのかよくわからない。19は日本刀等の手入れの際、研磨の最終段階に用いる砥石で、本遺跡からの出土はこの1点のみである。20は破損した硯を仕上砥石に転用した例で、断面の丸い工具の研磨に用いたようである。

第390図1～11には使用形態や使用痕の特徴的なものを集めてみた。1は非常に目の細かい大型の仕上砥石が破損または分割によって棒型になったもので、左面の破断面が荒砥として利用されている（主研面は正面、写真138-10）。2～6は使用中に分割された痕跡の顕著な例で、2～4は平ノコ状工具によるものである。3では左側面に貫通穴の痕が残っているが、紐通し等の穴のところで分割されたのであろうか。5・6では下底部に平タガネ状工具またはノミ状工具による切断の痕がみられる。また、10は側面が岩脈にそって平ノコ状工具等で裁断されている。9は大きな棒形の砥石を分割してサイコロ形にしたもので、下底面に4方向から平ノコ状工具を入れて切断した痕が明瞭に残っている。上面にみえる平タガネ状工具痕は当初からのものであろう。7は大型の荒砥であるが、右面（裏面）に切り込んだような特徴的な使用痕がみられる。11では主研面（正面）に渦巻き状の荒い擦痕があるが、これは磨耗した主研面の平坦性を回復するために、面を粗目の石等にこすりつけた痕であろう（写真138-12）。8は仕上砥石であるにもかかわらず、平タガネ状工具によってラフに裁断されたままの特異な例である。

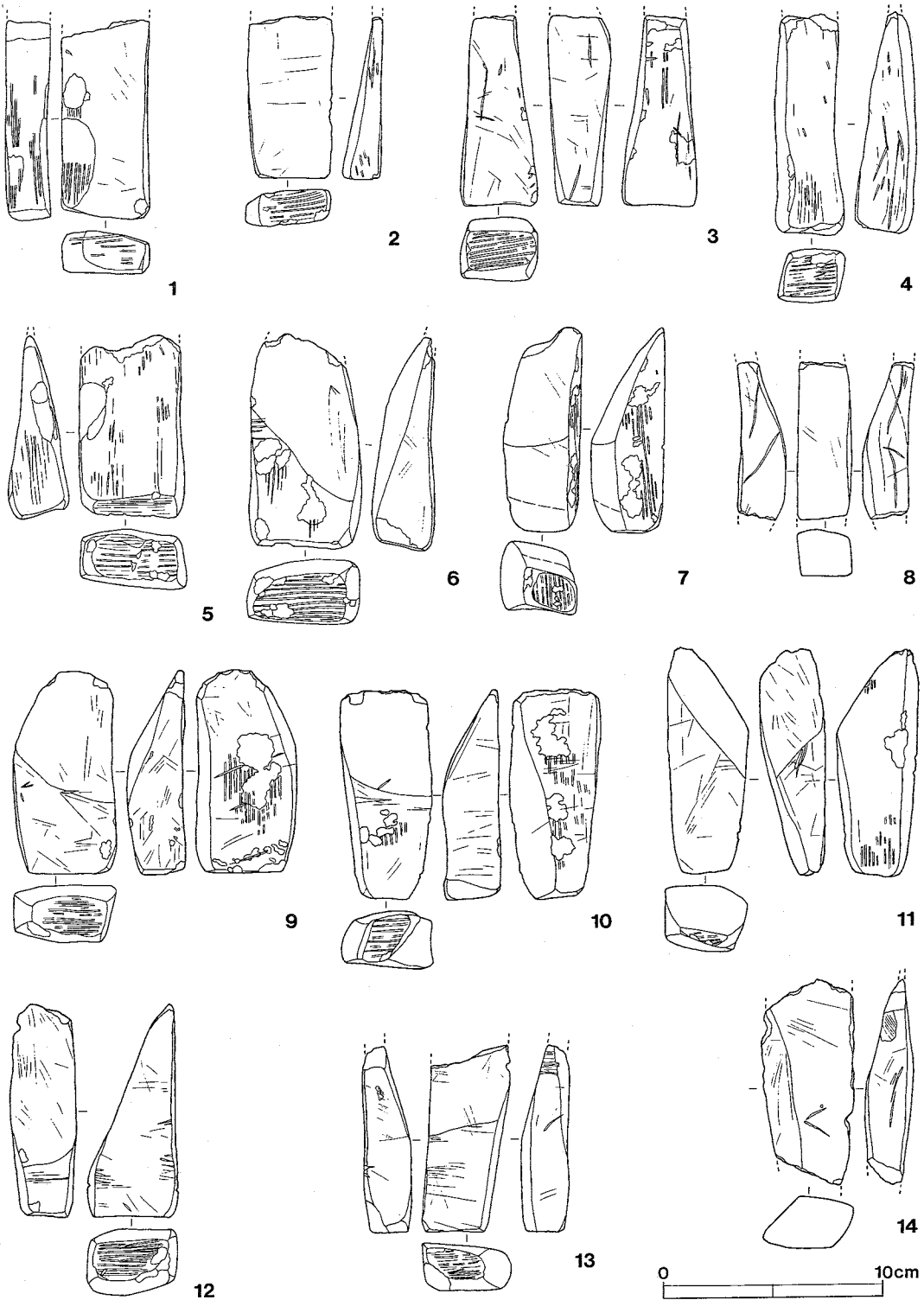
本遺跡では、いくつかの遺構から多数の砥石がまとまって出土している。第391図1～8は30号遺構から、第391図9～第392図8は124号遺構から、第392図9～12は276号遺構からそれぞれ出土した多数の砥石の内、比較的遺存のよいものである。

30号遺構と124号遺構出土の砥石は傾向がよく似ており、第391図1～第392図3までは全て同石質の中砥（やや目の粗いものもあるが）で、櫛歯タガネ状工具痕を顕著に残すことや、磨耗が顕著なこと等共通点が多い。第392図4は石質は異なるけれども大きさや形態はこれらと類似し、右面に残る整形痕は櫛歯タガネ状工具痕のもっとも典型的な例といえよう。第392図7・8も石質は違うが第391図4や8と同類である。30号および124号遺構からはこのような砥石が数十点も出土している。

これらの内、断面が角柱状を呈するものは鎌砥の類と考えられ、第392図2がその典型例であ



第390图 石製品(砥石10)



第391図 石製品(砥石11)

る。しかし、30号と124号遺構出土の砥石群でもっとも特徴的なのは、第391図5・6・7や第391図9・10・11・12・13・14等のように主研面の上半部が著しく斜め減りしているタイプが多いことであろう。これらは明らかに砥石を手にとって、研磨物にこすりつけるようにして使用したもので、その研磨物は比較的大型であり鋭利でない歯を有する道具と考えられるのである。またこれらの砥石群をみていると、本来これらがなんらかの規格をもった同型の量産品であったことに気づく。磨耗や欠損の著しい個体が多いけれども、第392図2や3がこれらの原形をもっとも伝えてくれる資料であろう。

すなわち、これらの砥石群はある時期に一括購入され、一定期間使用された後一括廃棄された一群の砥石なのである。第391図13や14のように徹底的に使用され磨耗している個体と、第392図や3のように比較的原形をとどめている個体との併存が、同時使用～一括廃棄されたことを裏付けている。あえて推測するならばこれらの砥石群は、藩邸内で大規模な普請が行われた際に大量に一括購入されて鋤・鍬等の土木用具の手入れに使われ、普請の終了とともに一括廃棄されたものではなかろうか。他に255b・532号遺構もこれと同様の砥石の出土傾向をみせている。

なお、124号遺構からは、第392図5・6のような目の細かい軟質の砥石も数点出土している。5は上部が切断した後、別々に使用されて別々に磨耗している面白い例であるが、砥石の破損・分割後の継続使用を如実に物語っている。

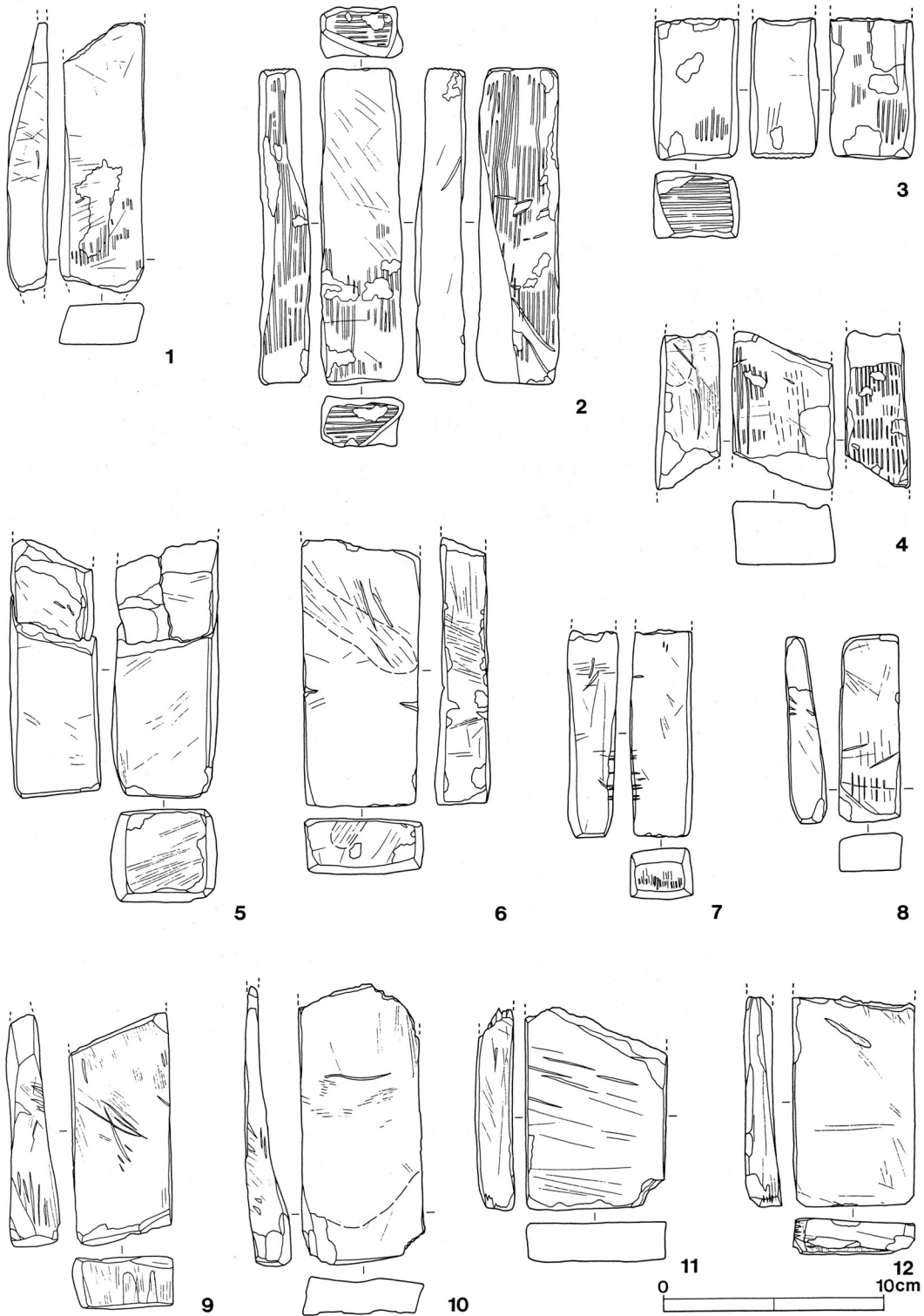
276号遺構も数十点の砥石を出土した。その中から遺存のよいものを選んで第392図9～12に掲げたが、これらいずれも仕上砥ないしは比較的目的の細かい中砥である。276号遺構出土の砥石は大半が仕上砥で、荒砥は僅少である。理由は不明だが、砥石の使用・廃棄の問題を考えるうえで、一つの問題を提起する現象ではある。

以上のように、本遺跡から出土した砥石はきわめて多種多様であり、このことはとりもなおさず藩邸内の生活の様々な局面において、多種多様な砥石が目的・用途に応じて様々に使い分けられていたことを示している。砥石が日常生活や諸活動にいかにか密着した道具であったか、認識を新たにせざるをえない。

かかる多様な内容を持つ砥石を、分類・類型化するのはきわめて難しい。例えば整形工具一つをとってみても、1個の砥石に対しても作業工程の各段階でそれぞれ異なった整形工具が使用されており、工具痕による編年は全く妥当性を欠くものであることが理解されよう。安直な類型化や編年に走ることなく、遺物の持つ多様性を積極的に評価することが必要となるのではなかろうか。

2. 瓦転用砥石

本遺跡の調査では、瓦片を砥石に転用したものが16点ほど採取されており、それらの実測図



第392図 石製品(砥石12)

を第393図に掲げた。これらは瓦片を適当な大きさに分割して砥石の代用品としたもので、形態はおおむね板状を呈しており、平瓦類の破片を利用したと考えられるものが多いが、12・15は丸瓦から転用したもののようである。大半の個体は側面が破断面であるが、大きさはほとんどが手のひら大であることから、意図的にこの大きさに分割・使用されたもので、おおむね使用時の形態をとどめていると考えられる。

第393図1～4は平面が四角形を呈しており、意図的にこの大きさと形に分割されたことがあきらかである。1はもっとも大型で、作図右側面は瓦としての旧態をとどめているが、この面にも使用痕がみとめられる。2・3は表裏とも使い込まれて使用痕が無数にあるが、2では裏面（右面）のほうが使われかたが粗い。4では左側面に平タガネ状工具による整形痕がみられるほか、残りの3側面にも整形ないしは使用による磨耗の痕が顕著である。

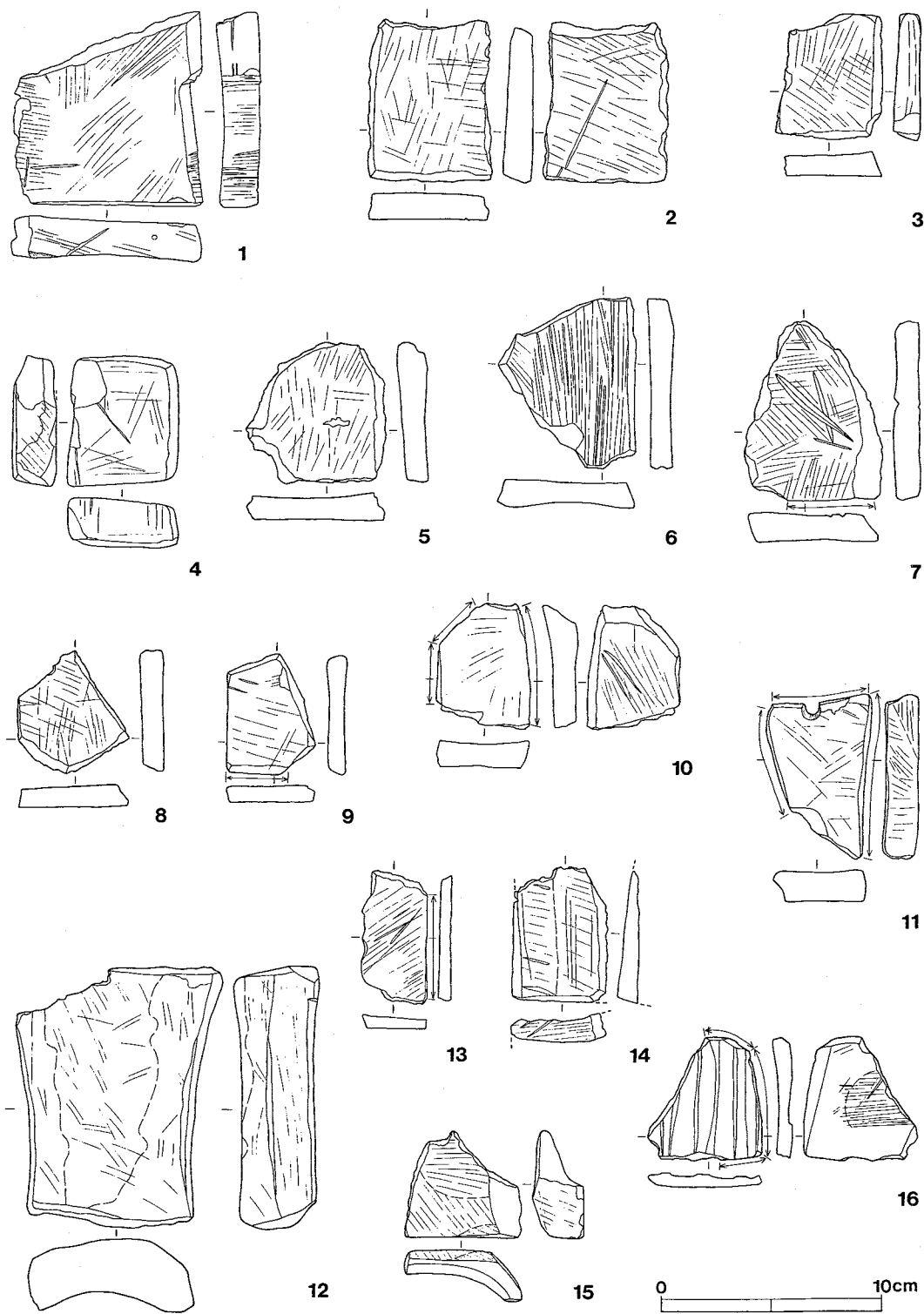
これらに比べ、5～7はやや不整形であるが、大きさがどれも同じくらいでやはり意図的な分割によるものであろう。5・7は両面ともよく使い込まれているが（7は両面が主研面のようである）、6では裏面および右側面は瓦としての旧態をとどめている。

8～11はひとまわり小ぶりなもので、いずれも表裏ともよく使い込まれているほか、9・10・11では側面にも整形ないし使用（磨耗）の痕がみとめられ、特に11は顕著である。

13はもっとも小型だが、一応長方形にしようとした分割意図のみとれる形をしている。表裏ともよく使い込まれてかなり薄くなっている。14は廃棄時に破損しているようだが、正面は使い込まれて断面が弓形に凹むほど磨耗している。16も表裏とも使い込まれてずいぶん薄くなっていて、特に正面には図に示したように特徴的な使用痕がみられるほか、側面にも整形ないし使用（磨耗）痕がある。

12・15は丸瓦からの転用品である。12は本遺跡出土の瓦転用砥石の中では最大で、各所に鉄が付着していて鉄製品とともに廃棄されたことを示している。表面の中ほど（長破線で示した部分）が使い込まれて磨耗し平らになっているほか、側面もかなり磨耗しているようである。15は欠損しているようだが、正面がかなり使い込まれて平らになっている。

本遺跡で採取された瓦転用砥石の数はそう多いものではないけれども、瓦片の入手のしやすさを考えれば、瓦片の砥石への転用は比較的広く行われていた可能性もある。材質からして、荒砥としてのみ利用しえないが、2・7・10等のように使い方を区別している例（裏面のほうが使い方が粗い）もみられる。またいずれの例でも磨耗がかなりはげしく、それほど長期間の使用に堪えたとも思われないが、意図的に長方形等に整形したものがみられることから、全くの応急代用品というわけでもなさそうである。瓦転用砥石は消耗品の汎用の荒砥として、日常的な研磨具の一翼を荷っていたのではなかろうか。



第393圖 瓦転用砥石

3. 硯

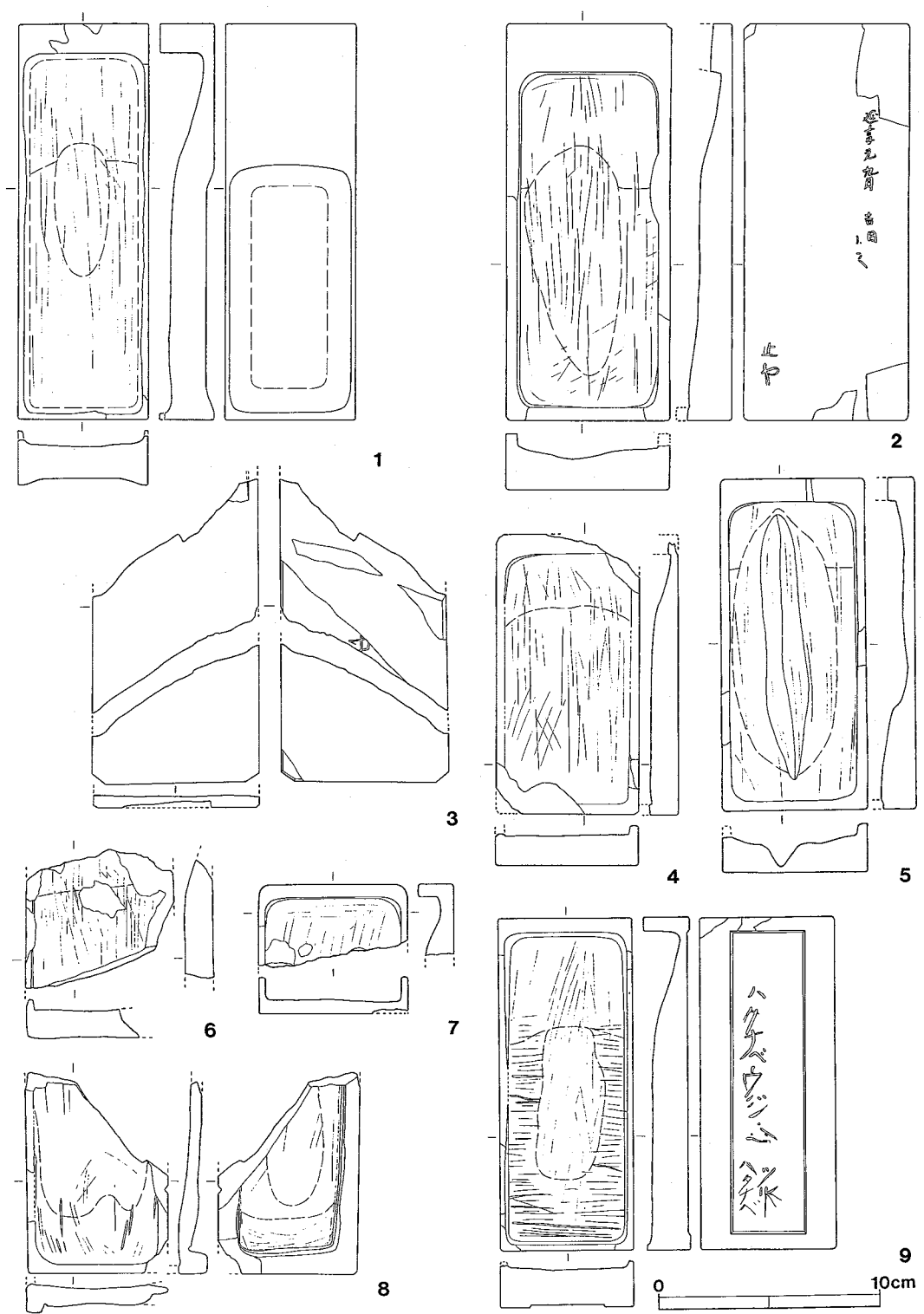
硯も相当数の出土を見た。焼損・劈開したものが多いため正確なカウントは困難であるが、総数で百数十点におよぶ。計測・観察を行ったのは44点で、内35点について実測図を作成した(瓦質硯を含む)。硯の分類には大きさ・形態・様式・石質・用途等さまざまな方法が考えられるが、本遺跡出土の硯についていえば、大きさ・形態・様式等極めて多様で総合的な分類は難しい。とりあえずここでは幅によっていくつかのグループに分けてみた。なお、材質は大半が黒色ないしは灰黒色の粘板岩であるが、灰緑色ないしは灰白色の泥岩質のものもある。瓦質の硯も数点出土しており、本項で一括して扱う。

幅の計測が可能だったのは44点中36点で、その平均値は約58mmであった。第394図1～第395図5・7は、この平均値を上回る幅広いタイプの硯で、一寸=30.3mmとした場合幅が2寸をこえるグループと考えることができる。殊に第394図2・3は大型で、幅も75mmをこえる突出した値を示す。

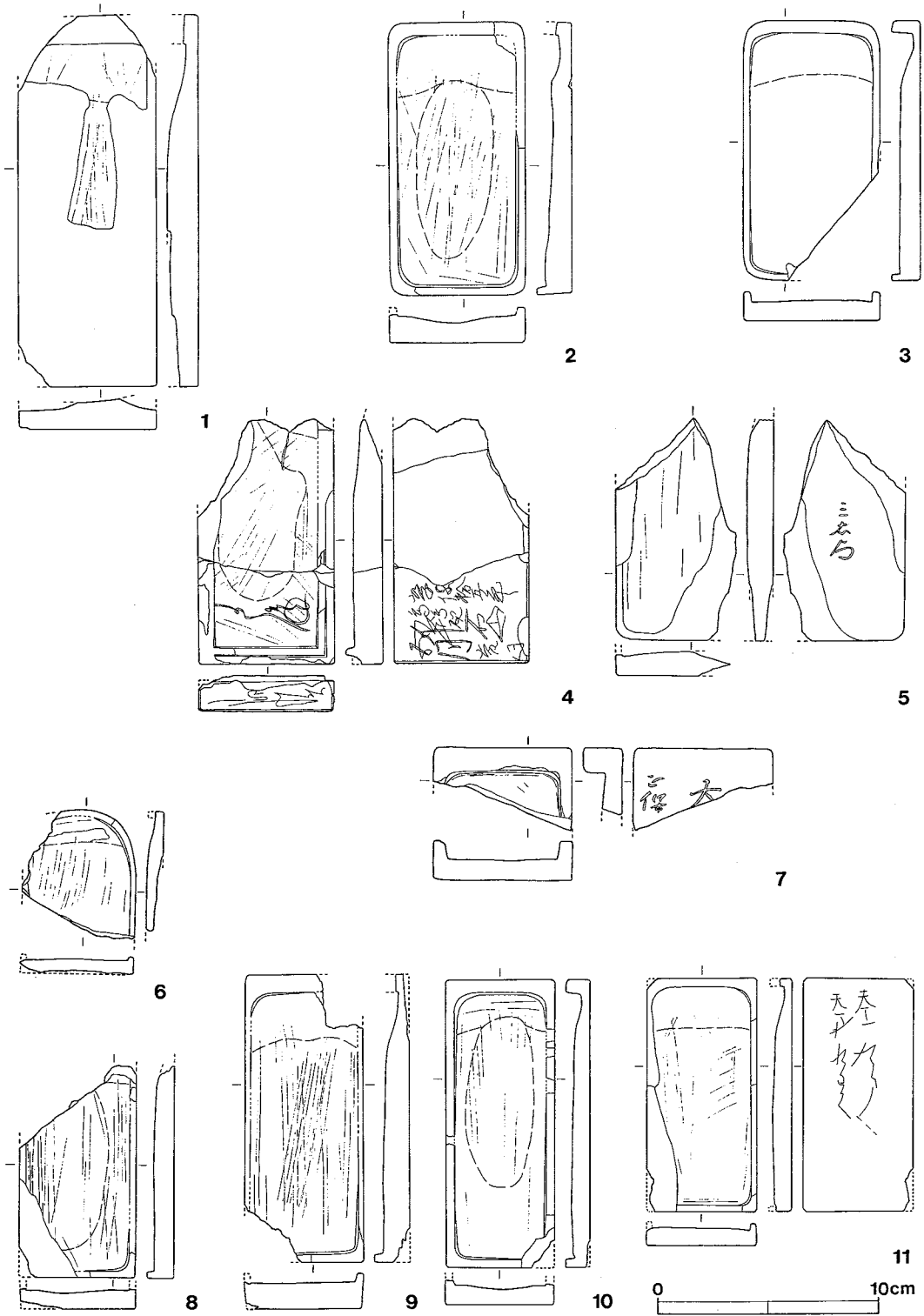
第394図2は赤色の漆塗りの大型硯で、造作も良く本遺跡出土硯の中では高級品の印象をうける。但し大きさや形態からみて本来実用品であったものと考えられ、事実中央部が使い込まれてかなり凹んでいる。この硯は裏面の2箇所に記銘(刻字)があって、右上のものは「延享元年九月 吉日」(延元年は1744年)、左下は「上や」または「止や」と読めるが人名であろうか。第394図3は焼損が著しいが、残存部分よりかなり大型で偏平な硯であったことがわかる。非常に直線的なつくりで大きな面取りがほどこされており、裏面に記銘(刻字)が認められる。

第394図4～8は幅が67mm前後を計るグループである。4は胸の張った「唐型」で石質は硬いが仕上げはやや粗い。5は灰緑色の泥岩質の硯で、4とほぼ同幅だが縦横比が大きい。硯としてひとしきり使われて磨耗したのち砥石もしくは薬研に転用されたようで、転用部は大きく凹み貫通寸前である。8もやや軟らかい灰緑色の泥岩質で、両面に工作がほどこされている。ただし右面のものは、縁がお厚く形もいびつであるうえに縁の内側に沿って縁立てのさいの彫り込み工具痕が残る等、造作がきわめて稚拙である。本来の硯面が磨耗して使いにくくなったため、使用者が裏面に手彫りで硯面をおこしたものと考えられるが、この手彫りの陸部も比較的使い込まれていて使用者のつましさが感じられる。

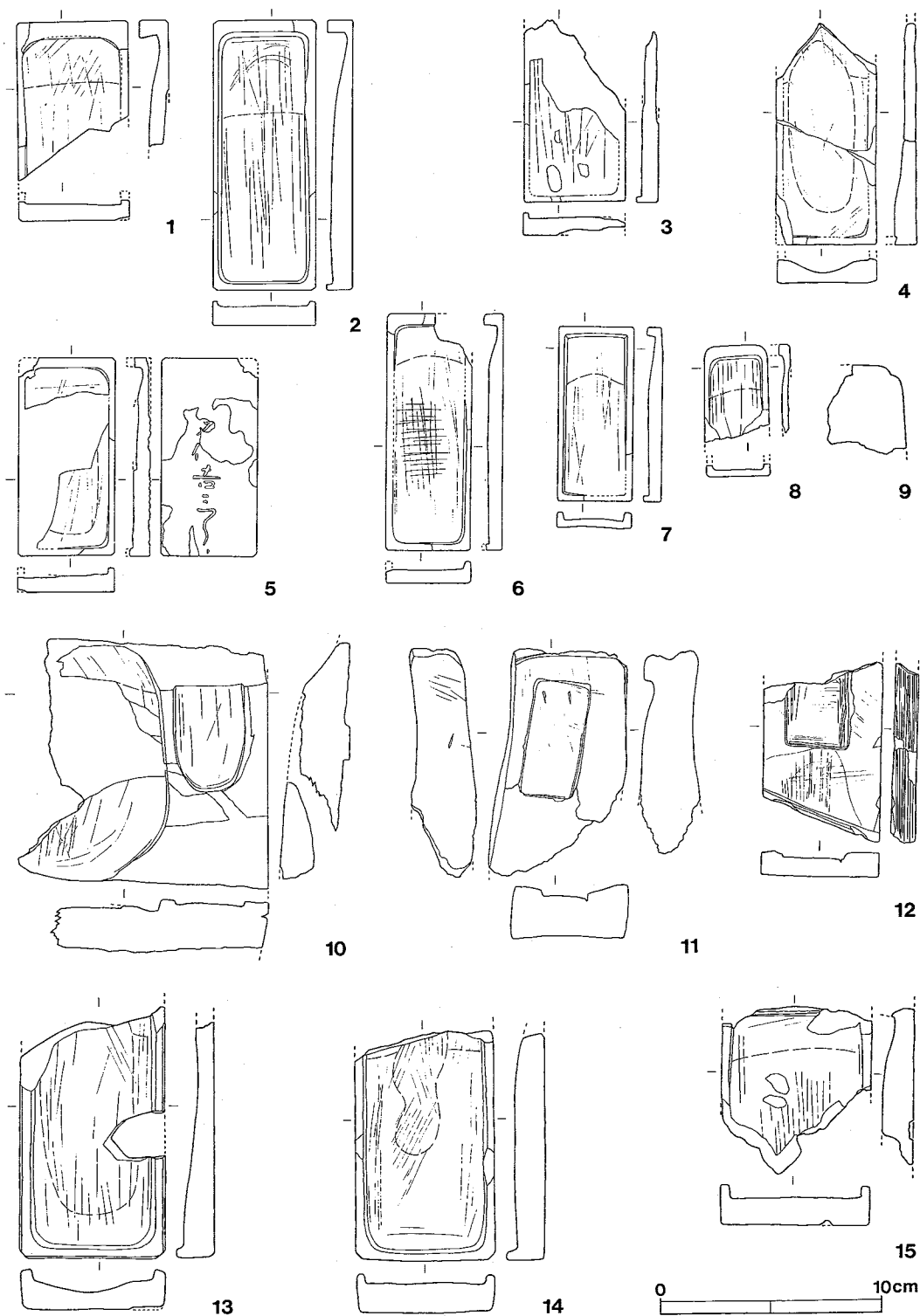
第394図1・9、第395図1～5・7は幅が62mm前後のグループである。第394図1・9は縦長の大型硯で、落潮をなだらかにして海を大き目にとった「料紙」とよばれるタイプである。9の陸部には横方向に多数の刻み目がいれられているが、これは墨すりをよくするために使用者がほどこした工作と考えられ、中央部の凹んだところでは刻み目も磨耗している。また9の裏面には「ハマクナベウジ」「ツル／ハタナベ」と読める記銘(刻字)がある。「ハタナベ」は人



第394図 石製品(視1)



第395図 石製品(硯2)



第396図 石製品 瓦製品(硯3)

名であろうが、「ウジ」とあるので使用者（購入者）が自らの名を彫ったものとは考えにくい。「ツル」は「ハタナベ」なる人物の愛用の「印」であろうか。1・9とも幅のわりに厚みがある，陸部の縁が低い，面取りの小さい直線的なつくり，裏面に凹みを有する等共通点が多いが，9のほうが仕上げが丁寧で実用品の中では比較的高級な部類にはいる硯であったようだ。

第393図2・3は胸の張った唐型の硯でいずれも平面は隅丸長方形であるが，3の方が縦横比がやや小さくより丸みが強い。裏面に人名らしい記銘（刻字）を有する5もこれと同類のものと考えられるが，焼損が著しく詳細は不明である。7は902号遺構より出土したもので，大半が欠損してしまっているけれども残存部分の形態から標準的な角型の硯と認められる。但し材質はかなり軟らかい灰白色の泥岩で，長期の使用に耐えたとは考えがたい。この硯の裏面には「大」？および「正保」（正保年間=1644～48年）の記銘（刻字）が認められ，遺構および遺物の年代を知る上で貴重な資料となっている。4にも年号をふくむ記銘（刻字）がある。4は灰緑色の泥岩製（7ほど軟質ではない）の硯で，縁が硯側より縁幅分内側へ入ったところから立つ特徴のある形態をしており，裏面に「享保拾五年（1730年）高島硯石□□／五月吉日」等の記銘（刻字）がある。硯面や硯側にも釘書き様のものがあって，硯側のもは「そんし□□」と読めないこともないが意味不明で，たんなるひっかけ傷にもみえる。裏面の記銘にしても，他の硯の記銘と比べるといかにも粗雑・稚拙である。

第395図6・8～11，第396図1は幅52mm前後，1寸=3.03mmとした場合ほぼ1寸7分（51.5mm）とみなしうるグループである。第395図9・10はやや胸が張るよく似たタイプの硯であるが，9の方が仕上げが粗く硯側は斜めに立ち上がっている。10はややスリムで長さのかわりに海が小さい。これらに比べて偏平な印象をうける11は焼損品であるが，裏面に釘書き様の記銘が残っている。11の記銘（刻字）は，粗雑な字で「天下一□□□」と2行書かれているが，字の稚拙さと語句の内容から一種の落書と考えられる。6も欠損著しいが，小判型をした偏平な硯だったようで，海は小さく浅い。

これらのグループよりひとまわり小ぶりなのが第396図2～15で，おおむね幅1寸5分（45.5mm）前後と考えられるものである。2はきわめて丁寧な仕上げで，遺存も良好である。縦横比（≒2.5）や縁の内側立ち上がりにアールがつく点等で第394図9とよく似ている。第396図4は軟質の灰緑色泥岩製，5はかなり焼損しているが裏面に「□□吉三郎」と読める記銘（刻字）を残す。

6～8は幅が40mm以下の最も小さなグループで，3点とも胸の張った唐型である。6は幅39.5mm≒1寸3分のスリムな硯で，硯面につけられている格子状の刻み目は第394図9にみられたものと同様の，いわば「おろし金」的な効果をねらった加工であろう。第396図7・8は非常に小型なうえに薄くて海も浅く，用途はかなり限られるものと思われる。8の平面形はややいびつ

な隅丸長方形である。

9以下には特殊な形態の硯を掲げた。9は火をうけて著しく劈開した小剥片であるが、隅部分が花形をした硯のものである。本遺跡出土の硯の中で装飾性のある平面形を有するのは、この1点のみである。10は大型の二面硯と思われるが、遺存が悪くまた他に類例をみいだすことができず、どのような形態の硯であったのか復元に苦しむ。残存硯面部分の仕上げは粗雑である。11・12の2点は砥石を硯に転用したものと考えられる。破損した硯を砥石に転用した例はしばしばみられるけれども、これは逆に砥石に硯面を彫りこんだ例である。11は砂岩質の荒砥で、砥石としてすでにかなり使い込まれており硯として用いた場合安定性に問題がありそうだが、彫り込み部分の断面形から手製の硯と判断せざるをえない。12は泥岩質の仕上砥で、硯としたときの海部分が欠損してしまっているが、残存部分には縁立てのさいの彫り込み工具痕が認められる。

この他に本遺跡からは瓦質の硯4点が出土している。4点の内1点は焼損した小破片であったが、他の3点はおおむね旧状を知りうる程度に遺存しているので、第396図13～15に実測図を掲げる。13・14は海部分が欠損、15は焼損品で海・胸および陸部分の一部が残存するのみではあるが、3点とも厚さが13mmと一致し幅も64～68mmのあいだにおさまる。残存部分の形態からおおむね第394図ないしは第395図2・3と同大の硯であったものと推測される。重さは、これら同大の石製硯とほぼ同じかやや重いようである。3点とも石製硯と比べて全体に丸みがあり、特に13・14は硯側や縁が斜めに立ち上がるほか面取りも丸みの強いものがほどこされている等の特徴がある。火をうけていない13・14は全体に暗灰色を呈し、一般的な屋根瓦とよく似た印象をうける。3点とも硯面には擦痕が顕著で、瓦質硯が実用に具されたことを示しているが、何分瓦質であるから日常的に使用した場合かなり磨耗したはずで、事実13は著しい磨耗ののち破損、廃棄されたものとみられる。もっとも、石製硯の中にも砂岩・泥岩質等の軟らかいものもまみられるので、その意味では石製硯全般に対して瓦質硯の磨耗が特にげしかったと断ずるわけにはゆかない。

このようにみえてくると、石製硯と瓦質硯との間に機能・用途等の面でそれほど大きな違いがあったとは考えられない。ただ、当然のことながら瓦質硯のほうが製作は容易であり、量産のきく廉価品だったはずである。瓦質硯は安価な実用品として用いられていたのではなかろうか。なお、本遺跡出土の瓦質硯がいずれも17世紀後半～18世紀前半のものとみられる点（図示しなかった焼損破片も18世紀前半と考えられる焼土層より出土）に注意しておきたい。

以上、本遺跡出土の硯について簡単に概観すると、大きさ・形態・様式等きわめて多様で類型化することは不可能で、編年も難しい。ただ、瓦質や泥岩質の硯は比較的古い時期の遺構・包含層から出土しており、江戸時代の後半には硯の材質が安定してくる傾向がみられるよう

ある。ちなみに計測・観察をおこなった44点の内、幅・長さとも計測可能だったのは16点で、その長幅比の平均は約2.3となる。

つぎに、本遺跡出土の硯は第396図10～12の特殊な例を除き、角型・唐型・料紙型のごく一般的な形態のものばかりで、平面形でみてもわずかに第395図6が小判型、第396図9が隅部花型推定されるほかは、全て長方形ないしは隅丸長方形で装飾性にとほしい。また第394図2が漆塗りであるの以外は、他の藩邸遺跡からの出土硯にしばしばみられるごとき彫刻等の装飾をほどこしたのも皆無で、実用本位の硯ばかりである。このように、大藩の藩邸内であるにもかかわらず出土した硯の全てが実用本位のものであるという現象は、本遺跡の内容を考えてゆく上できわめて興味深い事実である。

4. その他の石製品

札状の石製品（第397図1～6） これらは温石と考えられる。第397図4・5は材質不明で、出土状況からみてあるいは明治期のものである可能性もある。他はいずれも砂岩質で、1・3・6には表面に整形工具痕が残る。3は他に比してかなり厚みがあり、上部の紐通し穴は貫通していない。

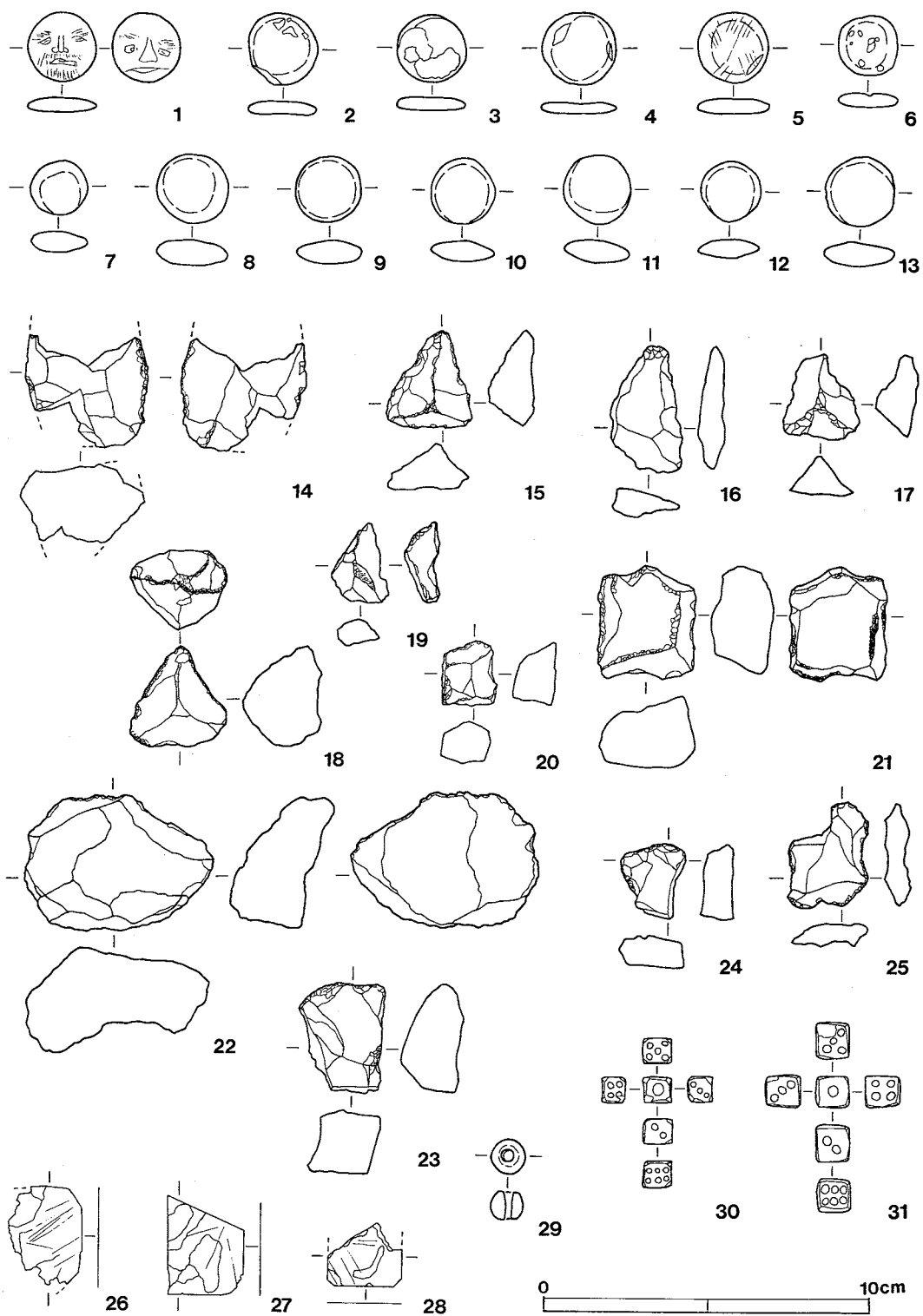
軽石（第397図7～10） 入浴・洗浄に用いたものと考えられ、形はやや不規則ではあるが今日われわれが入浴時に用いるものとよく似ている。第397図7は遺存がよく、上部には紐通し穴が貫通している。表面にみられるトラス状の刻み目は、「おろし金」効果を狙って使用者が加工したものと思われ、この部分は使い込まれたためかやや黒ずんでいる。8にも紐通し穴が残っているが、8は9と同一個体であった可能性が強い。

碁石（第398図1～13） 多数の出土をみたが、火をうけて著しく劈開した小剥片がきわめて多く、多数の焼損した碁石が一括投棄されているような出土状況も多くみられるため、計数が困難である。代表的なものを第398図1～6に示したが、いびつな形のものも少なくない。石質は硯と同様の黒色ないしは黒灰色の粘板岩が多い。6のような灰色の砂岩質のものもみられるが、これらは概してやや小ぶりで形もいびつさがめだつ。全体にわれわれが今日一般的に用いている碁石に比して偏平な印象が強い。なお、1は表裏に人面を模した落書様の彫刻がある。稚拙で滑稽な感じのするものであるが、遊戯に用いたのか呪術的な意味のあるものなのか判然としない。

なお、本遺跡からは他に素焼きの碁石状土製品（土製碁石）が十数点出土している。これらは概して石製の碁石よりも小ぶりで厚ぼったい。技術的にはたんに指先で粘土をこねただけのようで、表面には制作者の指紋が残ったままで、大きさにはかなりばらつきがあり形もいびつが目立つ。白および黒の顔料らしきものが残っているものもあるが、これら碁石状土製品は、



第397图 石製品・瓦製品



第398図 基石・火打石・雲母板・小玉・サイコロ

囲碁に用いるには耐久性にかなり問題があると思われ、実際に囲碁に用いられたのか他の遊戯に用いられたのかは不明である。

火打石 (第398図14～25) 出土した14点のうち小破片2点を除く12点について実測図を掲げた。火打石の場合使い込みによって稜線が磨滅し火花の出が悪くなると、分割や一部の打ち欠きによって新たに鋭角な稜線をおこして使用してゆくので、遺存のよしあしを決めることができない。事実14など分割して使用したのち廃棄されたのか、廃棄時に割れたものか判断に迷う。15・17～19はいわば三角錐形をしており、もっとも典型的な火打石の形態とってよからう。鋭角の稜線にそって細かな打痕が無数にある。これに対し20・21・23・24は箱形ないしは石斧形ともいえるグループで、三角錐形のものに比べて鋭角な稜線はやや限定されるようである。これらのうち17・19・20・24などは、大きさや形状からみてあきらかに分割使用されたものと考えられる。16・25は分割・打ち欠き時に生じた偏平なフレークをそのまま使用している。18～22も石質からみて火打石の可能性が高いけれども、発火しうるような鋭角な稜線が少なく断定できない。

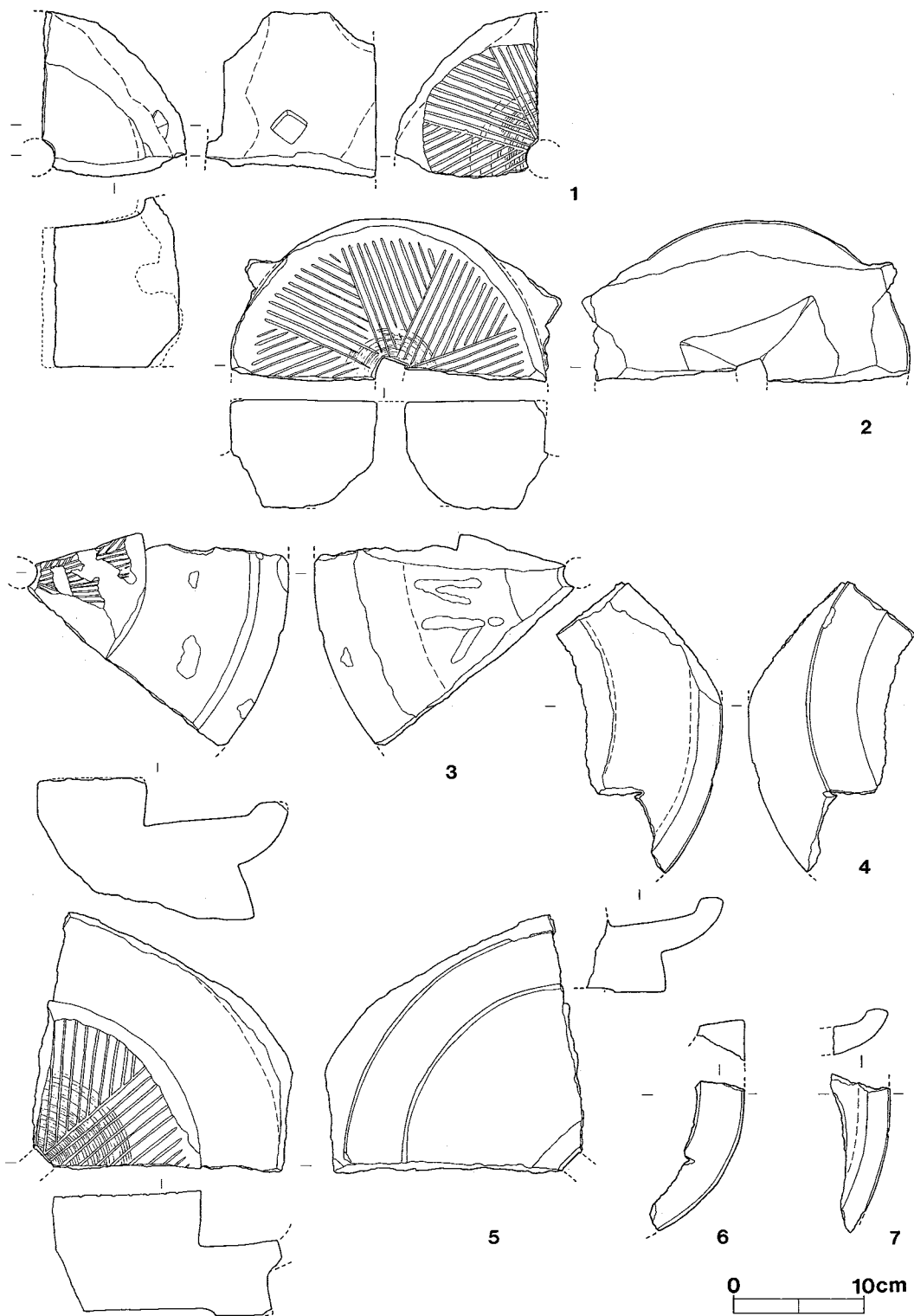
雲母 (第398図26～28) これらは香をたく際に用いる雲母のようで、この上に香をおき下から火で熱して香気を生ぜしめる。厚さの計測が困難なほど薄く、もともと脆いうえに使用時に加熱されているため、発見・採取の難しい遺物である。本遺跡では6点が採取されたが、そのうち比較的遺存のよいもの3点について実測図を掲げた。図からもわかるように、いずれも22～30mm程の方形ないし長方形をしていたようで、26・28は隅が斜めにカットされて形が整えられている。いずれの個体も一部が黒く焦げている。

29は紐通し穴の貫通した玉で、やや淡い青緑色をしており表面は丁寧に磨きあげられている。大きさ・形状から数珠玉と考えられるが、本遺跡ではこの1点のみの採取でる。

石臼 (第399図) 全部で11点出土しているが、遺跡の規模や全体の遺物量からすれば、かなり少ない数といえよう。いずれも断片で、旧態を十分に知りうるような遺存のよいものがない状態だが、おもなものの実測図を第399図1～7に掲げた。本遺跡から出土した石臼は全て茶臼で、中近世の遺跡から普遍的に出土する粉挽き臼や搗き臼が1点もみられないのも特異な出土傾向といわざるをえない。

これらは上臼・下臼の別さえあきらかにしえないような小片が多いけれども、1のみが上臼である。1/4のみの残存で外側面も欠損している。直径は25cm前後であったものと推定される。すり面の主溝間の角度は45°を測るので、8分画されていたものと考えられる。実測図に示したように、側部に四角い挽き手穴が残っている。

2以下は下臼である。2は径の1/2の残存であるが、受皿および台部が欠損してしまっている。受皿部分の欠損のため全体の直径(受皿部直径)は不明であるが、すり面部の直径は12.2



第399図 石臼

cm, 約4寸である。すり面の主溝間角度 $45^{\circ}8$ 分画は1と同様であるが、主溝と副溝が離れており主溝・副溝とも縁まで達していない。心棒穴が角形をしているのは、心棒を確実に固定するためであろう。

5は径の約 $1/4$ の残存で、受皿の張り出し部分が欠損。すり面部の直径は12.6cm, 受皿部直径は45cm前後に達するものと推定される。主溝間の角度・分画は不明であるが、副溝が主溝に接するタイプで、溝は縁まで達していない。2と同様心棒穴は角形である。

3は径の $1/7$ 程度の残存であるけれども、心棒穴から受皿まで残っている唯一の例で、すり面部直径は約9.4cm, 受皿部直径は約42cmを測る。表面が剝落しているため、主溝間の角度・分画等すり面の様子を十分に観察しえないが、溝は縁まで達していないようである。心棒穴は2や5と異なり円形をしている。

4は受皿部分のみの残存で、形状等詳細は不明である。なお、これら茶臼の受皿については、リップの上面が3や6のように平坦なものと、4・7のようにアールのついたものがあったようで、後者のほうが受皿の張り出し部分が肉薄で、スマートな形をしていたようである。

5. 瓦製品・その他

出土数の少ない雑多な瓦製品その他については、便宜上この項で扱う。ここで扱う瓦製品は、瓦転用砥石と同様いずれも不要となった瓦を分割・整形した転用品である。

397図11~14は貫通孔を有する札状瓦製品で、平瓦等の破片を整形したものである。このうちいちばん小型の13は片面に「勘口(右ヵ)」, 反対面に花押が墨書されていて、特定の個人を識別するための名札か標札のようなものとわかる。他の3点については、貫通孔を有することから紐を通して吊り下げて使用したであろうこと以外、機能・用途等全く不明である。特に12は貫通孔が中央にあり、11や14とは機能が異なるものである可能性が高い。なお、12・13はエッジが面取りされており、13には平ノコ状工具によるとみられる整形痕が残っている。

15~17は瓦片を転用・整形した錘(おもり)で、3点とも同一地点からの出土である。3点ともほぼ同大で、形を整えようとした意図は見てとれるが、何分転用品ゆえ断面形はかなり不規則なものとなっている。中ほどに紐を結ぶための溝が彫られている。

18は直径約63mm, 厚さ約18mm, 重さ約89gの円盤状製品で、平瓦等の破片から転用・整形したものであろうが、機能・用途等は不明である。

これらの瓦製品(瓦転用品)のうち、11・13・14・17・18は赤みをおびた灰褐色をしており、あるいは焼損した瓦片からの転用品かとも考えられる。ここに掲げた瓦製品(瓦転用品)には機能・用途の不明なものが多いが、瓦片が身近に入手しやすい素材であったこと、丈夫であると同時に比較的加工が容易であったこと等を考えれば、瓦片が様々な雑多な用途に加工・転用

されたのはけだし当然のことといわねばなるまい。

このほか、鹿角製品としてサイコロが2点出土しており、その実測図を398—30, 31に掲げた。30は概ね8mm角, 31(焼損品)は概ね10mm角と30のほうがひとまわり小さいが、両者とも正確な立方体ではなくややいびつな形をしていて、このサイコロを使用した場合全部の目が均等にでるのか少々不安である。

石製品等観察・計測表

◇寸法はmm・重量はg単位で表示し、欠損品については残存寸法・重量を()内に示した。なお寸法は、基本的に長さ×幅×厚さの要領で表示した。

◇遺存については、次の記号を用いて示してある。☆完型(略完型もふくむ)。◎大部分遺存〜もとの寸法をおおむね知りうる程度。○欠損品。△小破片。また、火を受けているものにf印を付した。

◇遺構内からの出土品については出土遺構のNo.を、遺構外(包含層)からの出土品についてはGridと層位を表示した。

◇砥石の計測・観察表では、面を次のとおり記号を用いて示してある。最も面積が広く通常主研面なる面をA、その反対側の面をB。長側面をC・D、短側面をE・F。ただし、短側面の内面積が広く使用されずに整形痕が顕著に残る側(一般に実測図の下にくる側)をFとし、Aを正面・Fを下側に置いたときに左にくる側面をC、同じく右側面をDとする。

◇砥石の整形痕については、次の記号を用いて略記した。平タ=平タガネ状工具痕、クシ=櫛齒タガネ状工具痕、ノコ=平ノコ状工具痕(本文参照)。

第43表 砥石観察表

標図番号	寸法(mm)	重量(g)	遺存	石質	研面	整形痕	遺構/IGrid・層位	備考
381-1	171×88×(52)	(1155.3)	○f	砂岩・灰黄色		平タB, F; ノコD, E	537	荒砥, 主研面欠損
381-2	232.5×101×(41)	(1099.1)	○f	泥岩, 灰緑色		平タB, C, E; ノコD, F	T.U-16	中砥か
381-3	193×73×61	1258.1	☆f	砂岩, 明赤褐色	C, D	平タA, B, C, F	T.U-16	荒砥
381-4	(167)×68×52	(810.6)	○	砂岩, 暗褐色	A, C	平タB, C, F	231	荒砥, 硬質
382-1	136×(66)×70	(880.9)	○	砂岩, 灰黑色	A	平タB, E, F	252	中砥
382-2	(103)×80×61	(698.7)	○	砂岩, 暗灰色	A	ノコC, D	L-4	中砥, 平ノコによる分割
382-3	268×57×54.5	(1425.1)	◎f	砂岩, 灰黄色	A, B, D	平タD; クシA	S-15	荒砥, 面取り
382-4	(168)×(167)×63	(1189.3)	○	砂岩, 灰黑色	A, B	平タB, D	252	中砥
383-1	(139)×85×57	(646.8)	○	砂岩, 淡褐色	A, B, C, D	平タF	42	中砥
383-2	(159)×70×32	(329)	◎	砂岩, 灰色	A, B, C, D	平タB, C	701	中砥, 分割か
383-3	(145)×65×27	(344.6)	○	砂岩, 灰色	A, C, D	平タF	T-8	中砥
383-4	133×65×19	211.2	☆	泥岩, 灰緑色	A, B	平タC, D, E	347	荒砥
383-5	(117)×(62)×17.5	(121.7)	○	砂岩, 明灰緑色	A	平タB; ノコC	347	荒砥, 軟質
383-6	198×35.5×30	297.1	☆	砂岩, 灰色	A, C	平タB, D, E, F		

挿入番号	寸法[mm]	重量(g)	遺存	石質	研面	整形痕	遺構/IGrid・層位	備考
383-7	188×27×28	218.8	☆	砂岩, 灰色	A, B, C, D		T-14	中砥, 主研面の特定困難
383-8	(117)×(39)×(27)	(118.1)	○f	砂岩, 灰色	A, B	平タD	406	中砥
383-9	(161)×46.5×28	(285.2)	◎	砂岩, 淡褐色	A, B	ノコC; 平タD, F	701	中砥, 平タガネによる分割か
383-10	(48)×49×12.5	(31.0)	○	泥岩, 青灰色	A, (B)	平タF; ノコC, D	L-15	荒砥, 分割か, 溝状使用痕
384-1			○	凝灰岩, 淡褐色	A		T-16	荒砥, 384-2と同一個体か
384-2	(103)×51×13	(77.3)	○	凝灰岩, 淡褐色	A	クシB; 平タC, F	T-16	荒砥, 384-1と同一個体か
384-3	(73)×36×10	(46.5)	○	泥岩, 灰緑色	A, B	ノコC, D, F	J-5	仕上砥, 面取り
384-4	(58)×50×14.5	(49.7)	○	砂岩, 明黄褐色	A, B, C, D	平タF	K-13	荒砥
384-5	(78)×38×15	(63.4)	○	凝灰岩, 灰白色	A	平タB?	J-4	荒砥, 極めて荒目, 分割か
384-6	(70)×40×11.5	(49.8)	○	砂岩, 淡褐色	A, B, C, D		P-11	中砥
384-7	(62)×27×8	(23.6)	○	泥岩, 淡褐色	A, B	ノコC, D, F	845	中砥, 分割使用
384-8	88×54.5×16	78.7	☆	砂岩, 淡褐色	A, B, C, D, E, F		P-11	中砥, 分割使用
384-9	90×52×30	183.3	☆	砂岩, 灰黄色	A, B, C, D, E	平タF?	N-5	荒砥, 分割
384-10	(87)×48×32	(176.6)	○	砂岩, 灰色	A, C, D	平タF	406	荒砥
384-11	(116)×49.5×18	(111.2)	○	砂岩, 灰色	A, C, D	平タF; ノコA	845	中砥
384-12	(101)×54.5×33	(239.1)	○f	砂岩, 明赤褐色	A, B, C		419	中砥
384-13	(111)×50×20	(183.1)	○f	砂岩, 灰黄色	A, B, C, D	平タF	P-13	中砥
384-14	(69)×28×14	(47.9)	○	砂岩, 灰黄色	A, B	ノコC, D	W-12	中砥
385-1	(121)×76×37	(427.6)	○	砂岩, 灰色	A, B	平タD, F	P-12	荒砥
385-2	(129)×71×34	(580.3)	○	砂岩, 灰黄色	A, C, D	平タF	406	中砥
385-3	(84)×54.5×29	(227.5)	○	砂岩, 灰黄色	A, C, D	平タF	532	荒砥
385-4	(91)×51×22	(179.4)	○	砂岩, 淡褐色	A, B, C, D	ノコF	532	中砥, 溝状使用痕
385-5	(87)×58×31	(254.8)	○	砂岩, 灰緑色	A, C, D	平タA, B, F	532	中砥
385-6	(85.5)×51×13	(77.7)	○	泥岩, 淡褐色	A	ノコC, F	532	中砥
385-7	135×39×22	(149.2)	◎	泥岩, 淡褐色	A, B, C	ノコC, D	532	中砥, 面取り
385-8	(43)×27×8	(13.8)	○	泥岩, 明灰黄色	A, B, C, D		532	中砥, 溝状の使用痕
385-9	151×42×25	291.7	☆	砂岩, 明赤褐色	A, B	ノコB, C, D	532	中砥, 面取り, 軟質
385-10	135×39×22	(149.2)	◎	泥岩, 淡褐色	A, B, C	ノコC, D	532	中砥, 面取り
385-11	(84)×45×12	(54.6)	○	泥岩, 淡褐色	A, B	ノコF	532	中砥
385-12	(76)×37×15	(66.1)	○	泥岩, 淡褐色	A, B, C	ノコD, F	532	中砥
385-13	(60)×32×15	(58.9)	◎	泥岩, 明褐色	A	ノコC, D, F	532	中砥, トラス状使用痕
385-14	(78)×54×16	(81.4)	○	泥岩, 淡褐色	A	ノコC, F	532	中砥, 分割か
385-15	(65)×29.5×8.5	(21.9)	○	泥岩, 淡褐色	A, B	ノコC, D, F	532	中砥
386-1	116×49×37	290.3	☆	砂岩, 淡褐色	A, B, C, D	平タE, F	50	荒砥, 極めて粗目
386-2	(99)×47.5×41	(230.6)	○	砂岩, 灰黄色	A, C, D	平タF	J-7	中砥
386-3	(87)×43×30	(144.1)	○	砂岩, 明褐色	A, B, C, D	平タF?	S-10	荒砥
386-4	(74)×39×33	(93.0)	○	砂岩, 明褐色	A, B, C, D	平タF	J-10	荒砥
386-5	(74)×32×22	(91.5)	○	砂岩, 灰黄色	A, B, C, D	平タ	1085	中砥
386-6	70.5×29×25	86.9	☆	砂岩, 茶褐色	A, B, C, D		188	荒砥
386-7	62×22.5×25	56.7	☆	砂岩, 灰色	A, B, C, D		試掘坑	荒砥
386-8	121×38×30	149.8	☆	泥岩, 灰緑色	A, B, C, D	平タE, F	369	中砥
386-9	(82.5)×30×18	(45.6)	○	砂岩, 灰色	A, B, C, D		339	中砥
386-10	(73)×27×26	(56.5)	○	砂岩, 灰褐色	A, B, C, D		R-9	荒砥, 極めて粗目
386-11	(57)×21.5×19	(42.0)	○	砂岩, 灰黄色	A, B, C, D	平タF	L-4	荒砥
386-12	66×15×12	15.0	☆	砂岩, 茶褐色	A, B, C, D, E, F		845	荒砥, 極めて粗目, 硬質
386-13	(66)×22×19	(26.9)	○	砂岩, 明灰緑色	A, B, C, D	平タF	627	荒砥
386-14	(67)×34.5×18	(21.3)	◎	砂岩, 明灰緑色	A, B, C, D, F		627	荒砥
386-15	158×28×35	210.7	☆	砂岩, 明灰黄色	A, B, C, D	クシB, D, E, F	R-10	中砥
387-1	(104)×27×24	(92.6)	◎	砂岩, 灰黄色	A, C	クシB, D, F	K-10	中砥

挿入番号	寸法(mm)	重量(g)	遺存	石質	研面	整形痕	遺構/IGrid・層位	備考
387-2	(87)×24×22.5	(61.9)	○	砂岩,灰黄色	A, B, C, D	クシD	K-10	中砥
387-3	83×59×44	(279.7)	◎	砂岩,淡褐色	A, B, C, D, E, F		表採	荒砥
387-4	74×46×35.5	136.0	☆	砂岩,灰色	A, E, B, C, D, F		表採	中砥
387-5	102×48.5×50	(237.3)	◎	砂岩,灰色	A, B, C, D, E		705	中砥
387-6	(85)×41×28.5	(113.9)	○	砂岩,淡褐色	A, B, D	平タC	T-16	荒砥
387-7	163×50.5×20	311.4	☆	泥岩,淡褐色	A, B	ノコC, D, E, F	247	仕上砥,面取り
387-8	164×49×20	(286.2)	◎	泥岩,淡褐色	A	ノコC, D, E, F	V-10	仕上砥,面取り
387-9	(88)×51×20	(80.9)	○	泥岩,灰褐色	A, B, D	ノコC, F	T-7	仕上,面取り
387-10	(80)×53.5×(24.5)	(73.2)	○	泥岩,黄褐色	A, B	ノコC, D	S-6	仕上砥
388-1	158×42×20	(228.7)	◎ f	粘板岩,灰黑色	A	ノコC, D, E, F	P-15	仕上砥,面取り
388-2	136.5×42×20	230.7	☆ f	泥岩,明褐色	A	ノコB, C, D, E, F	V-13	仕上砥,面取り
388-3	133×42×(10)	(97.0)	○ f	泥岩,灰褐色	A	ノコC, D, E, F	419	仕上砥,面取り
388-4	132×37.5×13.5	(106.4)	◎	泥岩,淡褐色	A, B	ノコC, D, E, F	369	仕上砥,面取り
388-5	136×39.5×(14)	(92.8)	○ f	泥岩,淡褐色	A	ノコC, D, E, F	L-9	仕上砥,面取り
388-6	(119)×46×17	(157.7)	○	泥岩,淡褐色	A, B	ノコC, D, E, F 平タB:ノコC, D, F	1049	仕上砥
388-7	(108)×39×(18)	(92.6)	○	泥岩,淡褐色	A	平タC;ノコD, F	O-14	仕上砥,分割か
388-8	(110.5)×24×9.5	(47.0)	○	泥岩,淡褐色	A, B	ノコC, D, F	270	仕上砥,面取り
388-9	(98.5)×31×14	(51.5)	○	泥岩,黄褐色	A, B	ノコC, D, F	S-7	仕上砥,分割か
388-10	(54)×22×12	(25.3)	○	泥岩,淡褐色	A	ノコC, D, F	1086	仕上砥
388-11	(64)×24×(10)	(24.1)	○	泥岩,淡褐色	A	平タD, F	591	仕上砥,分割か
388-12	(123.5)×50×16	(107.3)	○	泥岩,灰緑色	A, B	ノコC, D, F	464	仕上砥,面取り
388-13	(110)×53×13	(111.6)	○	泥岩,灰白色	A, C	ノコB;平タD, F	156	仕上砥,軟質
389-1	111×58×(13)	(105.3)	○	泥岩,淡褐色	A	ノコC, D, F	290	仕上砥,分割か
389-2	(88)×49×8	(50.0)	○	泥岩,淡褐色	A, B	平タB, F;ノコC, D	464	仕上砥
389-3	(85)×53×(11)	(79.2)	○	泥岩,淡褐色	A, B	ノコC, D, F	179	仕上砥,面取り
389-4	89.5×45×10.5	(48.5)	○	泥岩,明赤褐色	A, B	ノコC, D, F, F	T-6	仕上砥,面取り
389-5	(62)×42×9	(37.9)	○	泥岩,明赤褐色	A, B	ノコF	419	仕上砥,面取り
389-6	(65)×40×9.5	(40.0)	○	泥岩,淡褐色	A, B	ノコC, D, F	736	仕上砥
389-7	(64)×35.5×(10)	(31.1)	○ f	粘板岩,灰黑色	A, B	ノコC, D, F	P-10	仕上砥
389-8	(56)×28×(8)	(14.9)	○	泥岩,淡褐色	A, B	ノコC, D	L-10	仕上砥
389-9	(62)×34×11	(46.5)	○	泥岩,明褐色	A	ノコC, D, F	638	仕上砥,主研面に溝
389-10	(33)×23×5	(6.4)	○ f	泥岩,淡褐色	A, B	ノコC, D	572	仕上砥,分割か
389-11	(40)×11×6	(34)	○	泥岩,淡褐色	A, B?	ノコC, D	50	仕上砥
389-12	49×43×9	(44.1)	◎	泥岩,淡褐色	A	ノコC, D, F;平タE	845	仕上砥,分割
389-13	34×43×(17)	(37.7)	○	泥岩,淡褐色	A	ノコC, D, E, F	試掘坑	仕上砥,分割
389-14	(49)×29×13	(33.1)	○ f	粘板岩?	A	ノコC, D, F		仕上砥,面取り
389-15	(100)×29.5×(19)	(55.6)	○	泥岩,明灰色	A, C	ノコD	V-3	仕上砥
389-16	63.5×63×33	135.6	☆	砂岩,灰色	C, E, D, F	平タA, B	845	仕上砥,分割
389-17	(76)×22.5×18	(46.4)	○	砂岩,淡褐色	A, B, C, D	平タE, F	902	仕上砥,分割か
389-18	(67)×24×22	(56.3)	○ f	砂岩,明褐色	A, B, C, D	ノコC, D	P-11	仕上砥
389-19	20.5×20.5×18.5	7.0	☆	砂岩,淡褐色	A	ノコC, D	N-10	仕上砥,日本刀等の仕上用
389-20	62×54.5×11	(46.8)	○	粘板岩,灰黑色	(A)		表採	硯転用砥石
390-1	200×(27)×31	(195.0)	○	泥岩,淡褐色	A, B	ノコD, E, F	276	仕上砥,破断面を別用
390-2	(107)×36×(9)	(53.3)	○	泥岩,淡褐色	B(A面欠損)	平タB:ノコC, D	276	仕上砥,面取り
390-3	(73)×40.5×8	(48.7)	○	泥岩,淡褐色	A, B	ノコC, D, F	276	仕上砥,面取り
390-4	(52.5)×24×(8)	(14.7)	○	泥岩,淡褐色	B	平タB:ノコC, D, F	276	仕上砥,破断面を別用
390-5	(141)×36.5×14	(123.4)	◎	砂岩,明褐色	A, B, C	平タF:ノコD	255b	荒砥
390-6	(88)×43.5×10	(80.6)	○	砂岩,灰色	A, B	平タF	255b	荒砥
390-7	(163)×95×34	(493.2)	○	砂岩,灰色	A, C, D, F	平タB, D, F	255b	荒砥

挿入番号	寸法(mm)	重量(g)	遺存	石質	研面	整形痕	遺構/IGrid・層位	備考
390-8	(73)×23×22	(51.7)	○	砂岩, 淡褐色	A, D	平タB, C	255b	中砥
390-9	44×45×48	(150.8)	◎	砂岩, 灰黄色	A, B, C	平タE; ノコF	255b	中砥, 分割
390-10	(91)×45.5×23	(136.0)	○	泥岩, 明緑褐色	A	ノコC, D	255b	仕上砥
390-11	(79.5)×36×6	(26.6)	○	泥岩, 淡褐色	A, B	ノコC, D	255b	仕上砥, 渦巻状の擦痕
391-1	(91)×40×20.5	(141.3)	○	砂岩, 灰黄色	A, B, C, D	クシA, C, F	30	中砥
391-2	(74)×39×12.5	(58.3)	○	砂岩, 灰黄色	A, E, B, C	クシB, D, F	30	中砥
391-3	(88)×35×29	(115.7)	○	砂岩, 灰黄色	A, B, C, D	クシF	30	中砥
391-4	(101.5)×30.5×29	(102.4)	◎	砂岩, 灰黄色	A, E, C, D, B	クシB, D, F	30	中砥
391-5	(84)×48×27.5	(128.1)	◎	砂岩, 灰黄色	A, E, C	クシB, D, F	30	中砥
391-6	(98)×51.5×29	(176.7)	◎	砂岩, 灰黄色	A, E, B, C	クシA, B, F	30	中砥
391-7	94×35×33	(98.7)	◎	砂岩, 灰黄色	A, E, B, C	クシF	30	中砥
391-8	(72)×25×23	(57.9)	○	砂岩, 灰黄色	A, B, C, D	—	30	中砥
391-9	94×47×27	149.5	☆	砂岩, 灰黄色	A, E, B, C, D	クシB, F	124	荒砥
391-10	96×42×26	118.3	☆	砂岩, 灰黄色	A, E, C, D	クシA, B, F	124	中砥
391-11	104×37×30	105.8	☆	砂岩, 灰黄色	A, D, E, B, C	クシB, F	124	中砥
391-12	97×41.5×30	141.5	☆	砂岩, 灰黄色	C, E, A, D	クシA, F	124	中砥
391-13	(86)×40×22	(98.2)	○	砂岩, 灰黄色	A, B, C, E	クシD	124	中砥
391-14	(94)×42×22	(85.6)	○	砂岩, 灰黄色	A, B, C, D		124	中砥
392-1	(123)×39×18.5	(134.9)	◎	砂岩, 灰黄色	A, B, C, D	クシB	124	中砥
392-2	143×37×24	186.1	☆	砂岩, 灰黄色	A, D	クシA, B, C, E, F	124	中砥
392-3	(63)×38.5×31	(145.1)	○	砂岩, 灰黄色	A, C, D	クシA, B, F	124	中砥
392-4	(72)×47×29	(128.1)	○	砂岩, 淡青色	A, C	クシB, D	124	中砥
392-5	(117)×48.5×42	(377.8)	○	砂岩, 灰白色	A, C, D	平タF	124	中砥
392-6	(122)×54×26	(267.4)	○	砂岩, 淡褐色	A, B, C, D	平タF	124	中砥
392-7	(94)×28.5×28	(107.0)	○	砂岩, 灰黄色	A, B, C, D	クシF	124	中砥
392-8	85×29×18.5	68.3	☆	砂岩, 灰色	A, B, C, D	クシA	124	中砥
392-9	106×46×23.5	151.2	☆	泥岩, 灰色	A, B	ノコC, E	276	中砥
392-10	(128)×56×20	(139.6)	○	泥岩, 灰色	A	平タB, D; ノコC	276	中砥
392-11	(92)×64×18	(187.5)	○	泥岩, 灰白色	A	ノコC, E	276	仕上砥
392-12	(95.5)×55×17	(122.7)	○	泥岩, 灰褐色	A	ノコC, D, F	276	仕上砥, 面取り

第44表 各種石製品観察表

	種別	挿入番号	寸法(mm)	重量(g)	遺存	遺構/IGrid・層位	備考
1	温石	397-1	100×60.5×16	160.0	☆	50	砂岩, 淡褐色, 紐通し穴
2	温石	397-2	120×70×(7)	(77.6)	○	H-7	砂岩, 灰緑色, 紐通し穴
3	温石	397-3	101×47.5×24	277.0	☆	532	片麻石, 灰褐色, 紐通し穴貫通せず
4	温石	397-4	(107)×42.5×7.5	(44.0)	◎	7	灰黒色, 石質不明, 紐通し穴
5	温石	397-5	(68)×41.5×7.5	(24.9)	△	7	灰黒色, 石質不明, 紐通し穴
6	温石	397-6	(80)×65.5×(8)	(61.9)	△	T-3	砂岩, 灰緑色
7	軽石	397-7	67×50.5×33	41.2	☆	959	明灰白色, 使用面にトラス状の刻み目, 上部側面に紐通し穴
8	軽石	397-8	(36)×40.5×17	8.0	△	S-15	明灰白色, 紐通し穴
9	軽石	397-9	(40)×40.5×17	9.0	△	S-15	明灰白色, 紐通し穴
10	軽石	397-10	87×50×47.5	104.0	☆	627	明灰白色
11	火打石	398-14	(34)×38×(24)	(22.9)	△	252	分割又は欠損
12	火打石	398-15	29.5×26×15	7.7	○	T-16	
13	火打石	398-16	38.5×21.5×8.5	6.6	◎	561	

	種 別	挿図番号	寸 法(mm)	重量(g)	遺存	遺構/IGrid・層位	備 考
14	火打石	398-17	26×23×12	5.3		627	
15	火打石	398-18	30.5×29×24	17.6	◎	J-7	
16	火打石	398-19	24.5×17.5×10.5	2.8		419	
17	火打石	398-20	19.5×16.5×13.5	6.0	◎	V-10	
18	火打石	398-12	35×30×22	30	◎	848	
19	火打石	398-22	57×41.5×32.5	80.8	◎	652	
20	火打石	398-23	33.5×26×18.5	20.3	◎	419	
21	火打石	398-24	23×20×10	4.7		L-7	
22	火打石	398-25	32×24.5×8	6.1		R-7	
23	雲母	398-26	(30)×(22.5)	(0.09)	○	470	
24	雲母	398-27	30×32.5	(0.21)	◎	N-4	
25	雲母	398-28	(19)×22.5	(0.05)	△	V-7	
26	玉	398-29	φ10.5×9.5	1.5	☆	50	数珠玉, メノウか, 淡青緑色
27	茶臼	399-1			○	N-10	
28	茶臼	399-2			△	141	
29	茶臼	399-3			△	931	
30	茶臼	399-4			△	252	
31	茶臼	399-5			△	K-10	
32	茶臼	399-6			△	252	
33	茶臼	399-7			△	R-8	

第45表 瓦製品その他観察表

	種 別	挿図番号	寸 法(mm)	重量(g)	遺存	遺構/IGrid・層位	備 考
1	札状瓦製品	397-11	129×65.5×21	278.3	☆	試掘坑	紐通し穴
2	札状瓦製品	397-12	104×73.5×22	(199.4)	◎	832	灰色, 中央に紐通し穴
3	札状瓦製品	397-13	47×35×18.5	39.4	☆	M-4	明褐色, 紐通し穴, 花押及び「勘口」の墨書
4	札状瓦製品	397-14	66.5×37.5×11	36.0	☆	233	淡褐色, 紐通し穴
5	おもり状瓦製品	397-15	47.5×24.5×19.5	25.2	☆	J-3	灰色
6	おもり状瓦製品	397-16	42×25×20.5	20.4	☆	J-3	灰色
7	おもり状瓦製品	397-17	41×24×19	22.4	☆	J-3	明褐色
8	円盤状瓦製品	397-18	62.5~63.5×18	88.7	☆	617	灰褐色
9	サイコロ	397-19	9×9×8	0.7	☆	116c	鹿角製
10	サイコロ	397-20	10×10×11	(1.0)	◎ f	255a	鹿角製

第6節 ミニチュア，人形，その他

本地点出土のミニチュア，人形，その他に該当する108点について扱った。

本校では，日用雑器や建造物をモチーフとした小形のものをミニチュアとした。また人物や動物の姿をモチーフとしたものを人形とし，用途不明で分類が困難なものをその他として扱った。

108点のうち，比較的多く出土した遺構は49号土坑で35点である。この遺構は井戸に付設する大型土坑で，木製品，金属類，ガラスや鳥のエサ入れ，「民山」の碗等の陶磁器類が大量に出土した。次にミニチュア，人形が多く出土したのは，50号遺構で17点出土した。この遺構は，調査区南西端にある築山の張り出し部で，梅之御殿の基礎の上に造られたものである。「福印 梅殿 膳所」と墨書された捏鉢や徳利等の陶磁器，鼈甲，石製品，金属類が出土した。

出土したミニチュア，人形類は，陶磁器と土製品が主で，他に炆器質，瓦質とがある。

土製品のミニチュア（箱庭具），人形は，型起し成形と手捻りがあり，多くは型起しであった。型起しのものは，成形時に使用した離材の雲母粉が認められ，特に大形の伏見人形と思われるものに顕著にみられる。また型起しする際に付着する指頭圧痕が多数残存している。これは小型のものより大形で薄型なものに，深い窪みで多数みられ型起しをする際丁寧に押圧したことが窺える。

胎土の色調は橙もしくは，淡橙色を呈するものと，白色系といわれている淡黄色を呈するものがある。また彩色は剥落しているものが大半であった。

ミニチュア類

染付小瓶（第400図1～3，写真141—1～3） 磁器製の小瓶で三个体それぞれ胴部の形態がやや違う。文様は三个体とも梅笹文が呉須とコバルトで描かれている。高台は削り出しでとくに3は，円錐状に切削され高台内に「コイ」と墨書されている。口唇部は折り返しで内部も施釉されている。2は胴部にロクロ引き痕が顕著にみられる。瀬戸美濃系か。1と3は肥前系と思われる。

色絵皿（第400図4，写真141—4） 全体に貫入がみられ，文様はやや雑に羽子板と追羽根が描かれている。新宿区三栄町遺跡に同じ文様のものがあるが，やや器形が異なる。紅皿か。

染付碗（第400図5） 文様は呉須で描かれている。欠損部が多く文様の形態は明瞭ではないが，風景画と思われる。本地点の江戸期の遺構の中では比較的古い時期の遺構からの出土で，17世紀後葉と思われる。

染付碗(第400図6) 文様は呉須で草花文が描かれている。包含層からの出土で年代はおさえにくいですが、比較的古い時期のものと考えられる。17世紀後葉か。

染付碗(第400図7, 写真141-5) 文様は呉須で山水文を描き、施釉は厚く歪みがみられる。

急須(第400図8, 写真141-6) 型起し成形, 上下合せである。把手と注口部は別個に作出している。体部下半部はヘラ削り調整され、底面は指で押押し窪ませている。口縁部は削り貫いて開口か、内部底面に削り貫き時に落下したと思われる粘土塊が残存している。開口は歪んでいる。体部下半部から底面は無釉。文様はコバルトで鳥と雲と文字を描いている。

染付碗(第400図9, 写真141-8) 文様は呉須で山水文を描き施釉している。高台脇の一部に釉溜りがあり圏線が見えなくなっている。464号遺構(地下式土坑)と911号遺構(井戸)から出土したものが接合された碗である。

染付皿(第400図10, 写真141-7) 高台は丁寧に削出されている。高台脇から高台にかけて無釉で、ロクロ痕が顕著にみられる。文様は呉須で笹文を描いている。紅皿か。

染付皿(第400図11, 写真141-10) 高台は削出してであるが、やや粗雑である。高台脇から高台にかけて無釉。文様はコバルトで斜格子文を描く。器壁の厚さも一定していない。紅皿か。

碗(第400図12, 写真141-11) 高台は削り出すで、体部下半部から高台にかけて無釉、貫入がみられる。精巧に作られている。

白磁碗(第400図13, 写真141-12) 外面に鎬が施されている。白磁の鎬碗は他の遺跡からの出土例も多いが、大きさや形態に多少の違いがみられる。器壁は厚く、歪んでいる。

白磁碗(第400図14, 写真141-14) 器壁は薄く精巧に作られているが、高台脇にヒビ割れがみられる。折口は波状になっている。施釉にむらがある。

蓋物(第400図15, 写真141-9) 蓋か皿か判然としないが、ここでは蓋として図示した。器壁は薄く歪みがある。文様はコバルトで描き総釉である。

釜(第401図1, 写真141-13) 型起し成形, 上下合せである。内部中央に接合痕がみられる。鏝より上部内外部に緑釉を施している。鏝より下部は成形後に磨きを施し、無釉である。

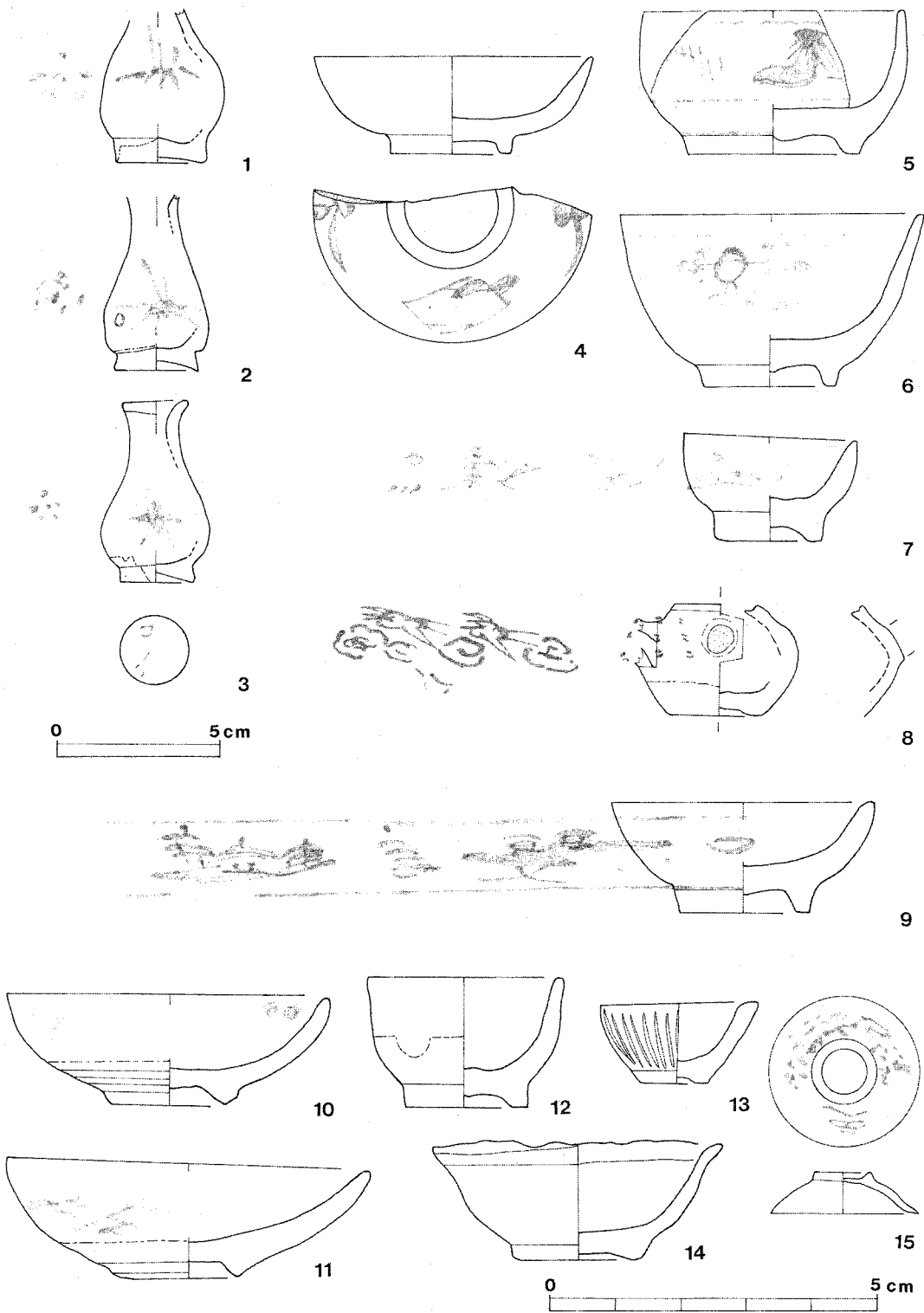
茶釜(第401図2) 全面に褐色釉が施されている。ロクロ成形で丁寧に作られている。

鉢(第401図3, 写真14) 全面に白色化粧土を施し、更に上部外面に緑釉を施している。

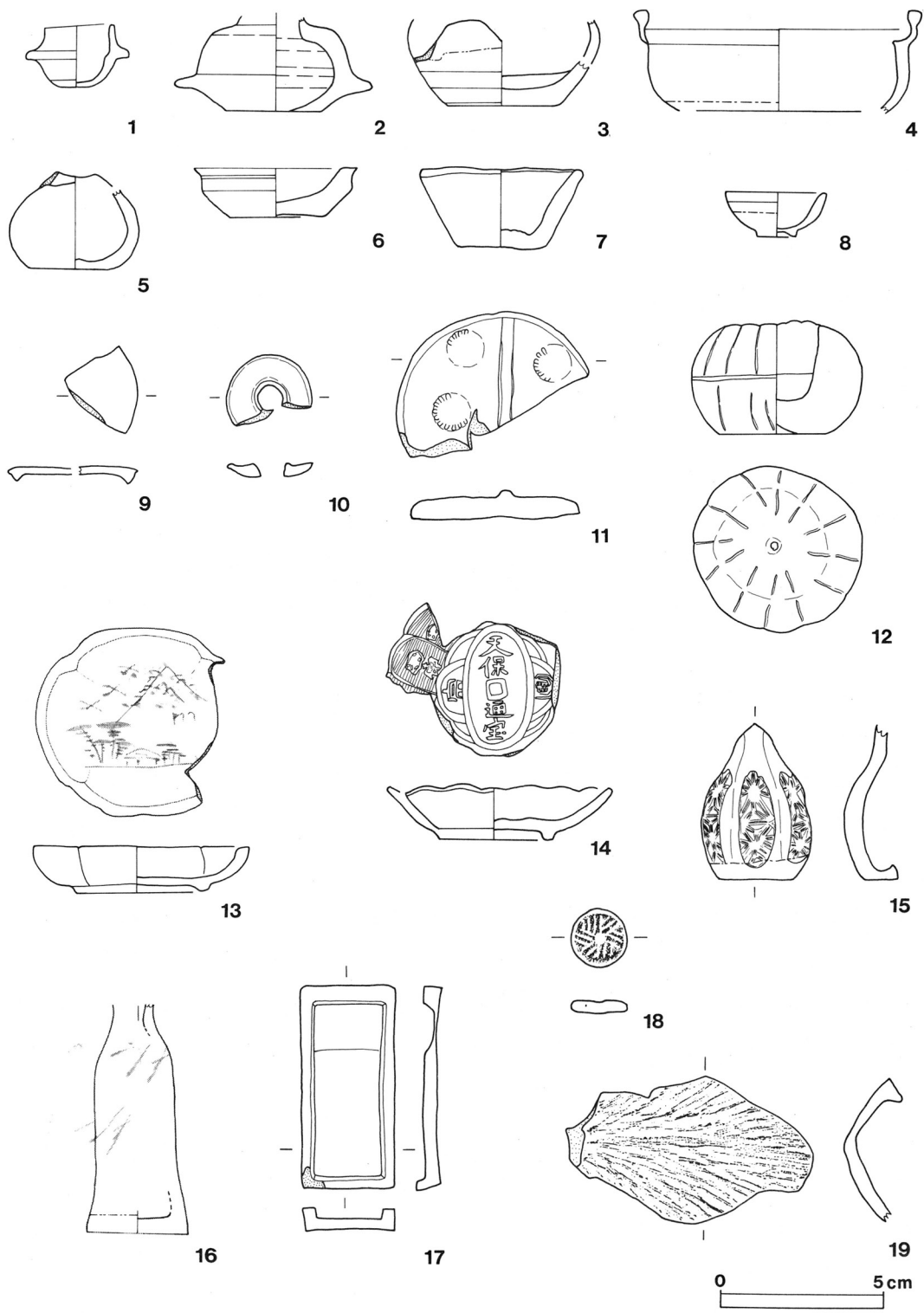
土鍋(第401図4) 陶器の土鍋と思われる。ロクロ成形であるが把手は別作りである。底部外面はヘラ削り調整され無釉である。同じものが堺環濠都市遺跡の墓甕内から、木製の蓋と一緒に出土している。

壺(第401図5, 写真141-15) ロクロ成形で、器壁も薄くかなり精巧に作られている。彩色・施釉は剥落している。胎土は、にぶい赤橙を呈する。

浅鉢(第401図6) 口縁部は輪花になっている。内碗部は白色化粧土が施され、更に緑色で彩



第400図 人形・玩具類(1)



第401図 人形・玩具類(2)

色されている。外面部は茶色に彩色され施釉されている。

鉢(第401図7, 写真141—16) 内部に指頭圧痕がみられ、内部底面に末処理と思われる粘土塊が残存している。ヒビ割れも多く粗雑な成形である。彩色, 釉は剥落している。

碗(第401図8) 内外面の胴部にかけて緑釉が施されている。丁寧に作られているが、外面にヒビ割れがみられる。胎土は淡黄色である。

蓋(第401図9, 写真141—19) 第401図5の壺の蓋かと思われる。表面に針穴状の穴が無数に見られる。胎土は5と同様にぶい赤橙を呈する。

有孔土製品(第401図10, 写真141—18) 器種は判明しない。上面は緑色で彩色, 施釉されている。裏面に指頭圧痕が見られる。

蓋(第401図11, 写真141—17) 菊花が陽刻されている。裏面に成形時の指頭圧痕がみられる。文様のヴァリエーションはいくつかあると思われる。本地点はこれ一点のみであった。同型が港区白金館址遺跡IIから出土している。

容器(第401図12, 写真142—20) カボチャ型の容器か。柚でんぼと同様のものと思われたが、削ぎ方が異なる為用途は不明である。かなり堅緻に作られ中央部で接合されている。胎土は淡橙を呈する。本地点の江戸期の遺構の中で最も古い時期からの出土で、17世紀後葉頃と思われる。

皿(第401図13, 写真142—21) 輪花皿である。内面に鉄釉で風景画を描き、更に各部分を彩色し施釉している。胎土は淡黄色を呈する。明治期のものと思われる。

皿(第401図14, 写真142—22) 「天保通宝」と印文された皿である。内面外区は小判状になっており、黄色に彩色され見込み部分は緑釉が施されている。外面及び底面にヘラ状工具痕がみられる。胎土は淡黄色を呈する。

徳利(第401図15, 写真142—23) 六角徳利で、文様は六等分された中に印文され緑釉が施されている。底部下位は無釉である。注口部は棒状工具で穿っている。胎土は淡黄色を呈する。

瓶(第401図16, 写真142—24) 瓶あるいは花器か。文様は白色化粧土で描き、更に彩色を施し施釉したと思われる。体部の最下位部は黒く帯状に彩色している。ロクロ引痕が顕著にみられる。

硯(第401図17, 写真142—26) 海と陸の区別もされ作られている。内外面に整形痕がみられ、黒色の彩色痕がわずかに認められる。明治期のものと思われる。

石臼(第401図18, 写真142—25) 石臼をモチーフとしたものか。放射状に「目」が作出されている。裏面に指頭圧痕が認められる。

屋根(第401図19, 写真142—27) 民家の屋根か、欠損部多く判然としない。中央部で接合されている。茅葺風の屋根は櫛状工具で施文したと思われる。丁寧に作られている。彩色・施釉は

剥落している。

橋(第402図1, 写真142-28) 両端部が欠損しているため大きさは判然としない。ヒビ割れがみられ成形は雑である。

橋(第402図2, 写真142-29) ヒビ割れが多く、食み出した粘土の始末も粗く、全体的に雑な成形である。胎土は浅黄色を呈する。低温度焼成の為か中の粘土が黒く残っている。

橋(第402図3, 写真143-32) 瓦質の橋である。欄干部は別個に作出されており、櫛状工具で木目を表現している。成形時における指頭圧痕・工具痕が顕著である。端部の調整はやや粗い。東大医学部附属病院中央診療棟地点から同型が出土している。

橋(第402図4, 写真142-30) 陶器質の太鼓橋である。欄干部は別個に作出され、白色化粧土で彩色し施釉されている。堅緻に作られている。

橋(第402図5, 写真142-31) 陶器質の橋である。欄干部と橋桁は別個に作出し、欄干部は緑釉、橋桁と床板は黄釉を施している。橋桁間と底面は無釉である。橋桁上の欄干部に押圧痕が認められるが、接合時の強化のため、もしくは装飾性も加味していると思われる。

屋根(第402図6) 欠損部が多く建造物の形態が判然としない。鉛釉が施されている。精巧な作りである。

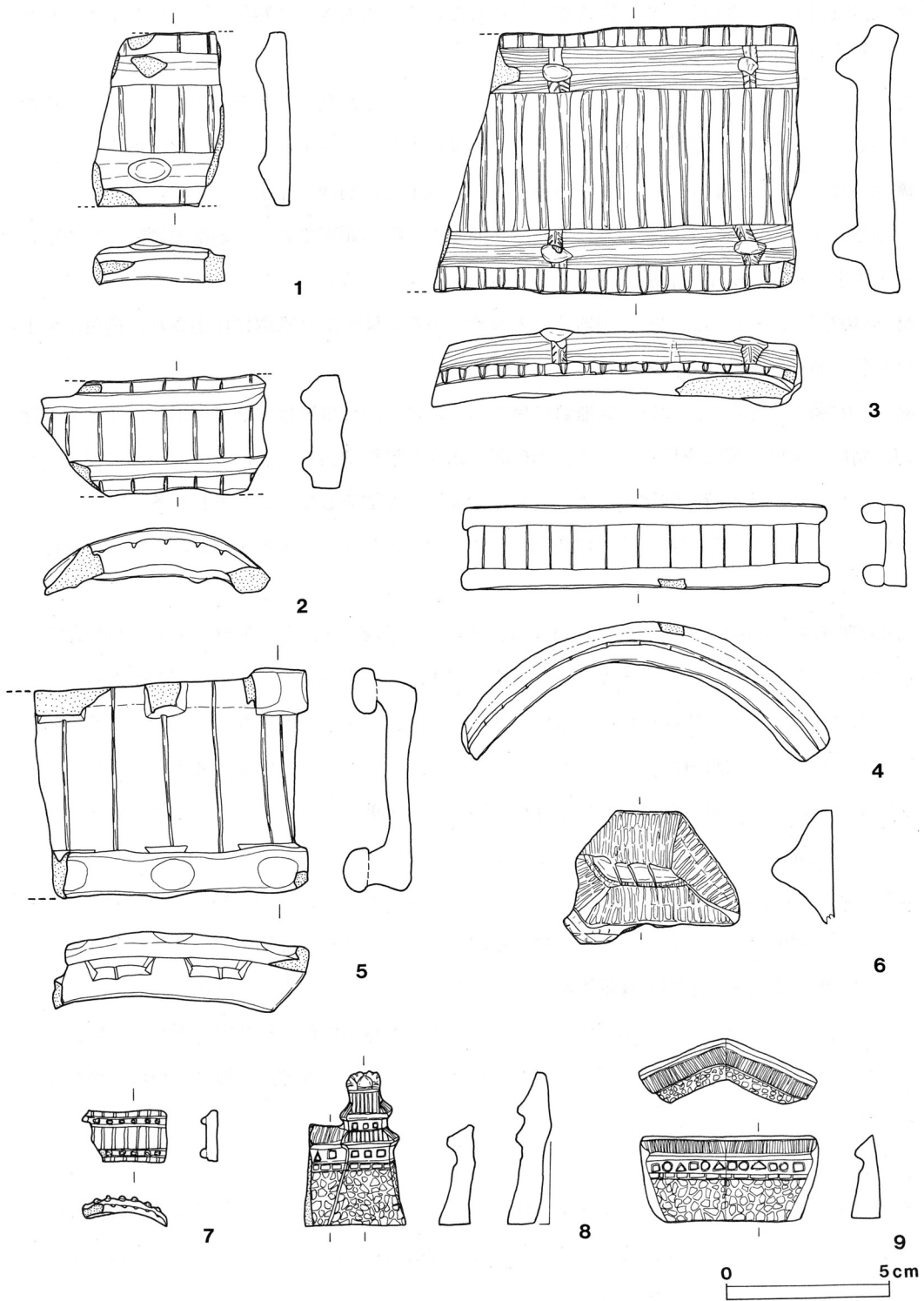
城及び関係品(第402図7~9, 写真143-34・35) 炻器質の橋・城・城壁である。小型にも拘らず精巧に作出されている。チョコレート色を呈する。城については新宿区三栄町遺跡、東大医学部附属病院中央診療棟地点からも出土しているが、パターンが異なる。組合せて使用したと考えられる。三栄町遺跡から石段も出土している。また港区白金館址遺跡Iから陶製のものが出土しており、屋根は呉須、石垣は緑釉、壁は白色化粧土を施している。大阪東区法円坂の国立大阪病院の敷地からも出土している。

城及び関係品(第403~405図1~6, 写真143~144-36~48) 比較的大形な城及び関係品である。全体に器壁は厚く作られている。数種類のパターンがあり、細部にわたり観察されている。天守閣・櫓・番所・大手門・背景等がある。ほかに類例はない。東大農学部共同溝より出土したものの中に一点類似した、築地塀がある。また伊丹市有岡城跡伊丹郷町I遺跡から城が2点(淀城をモチーフとした)出土しているが、これは小形である。本地点の城は江戸城の模写であろうか。

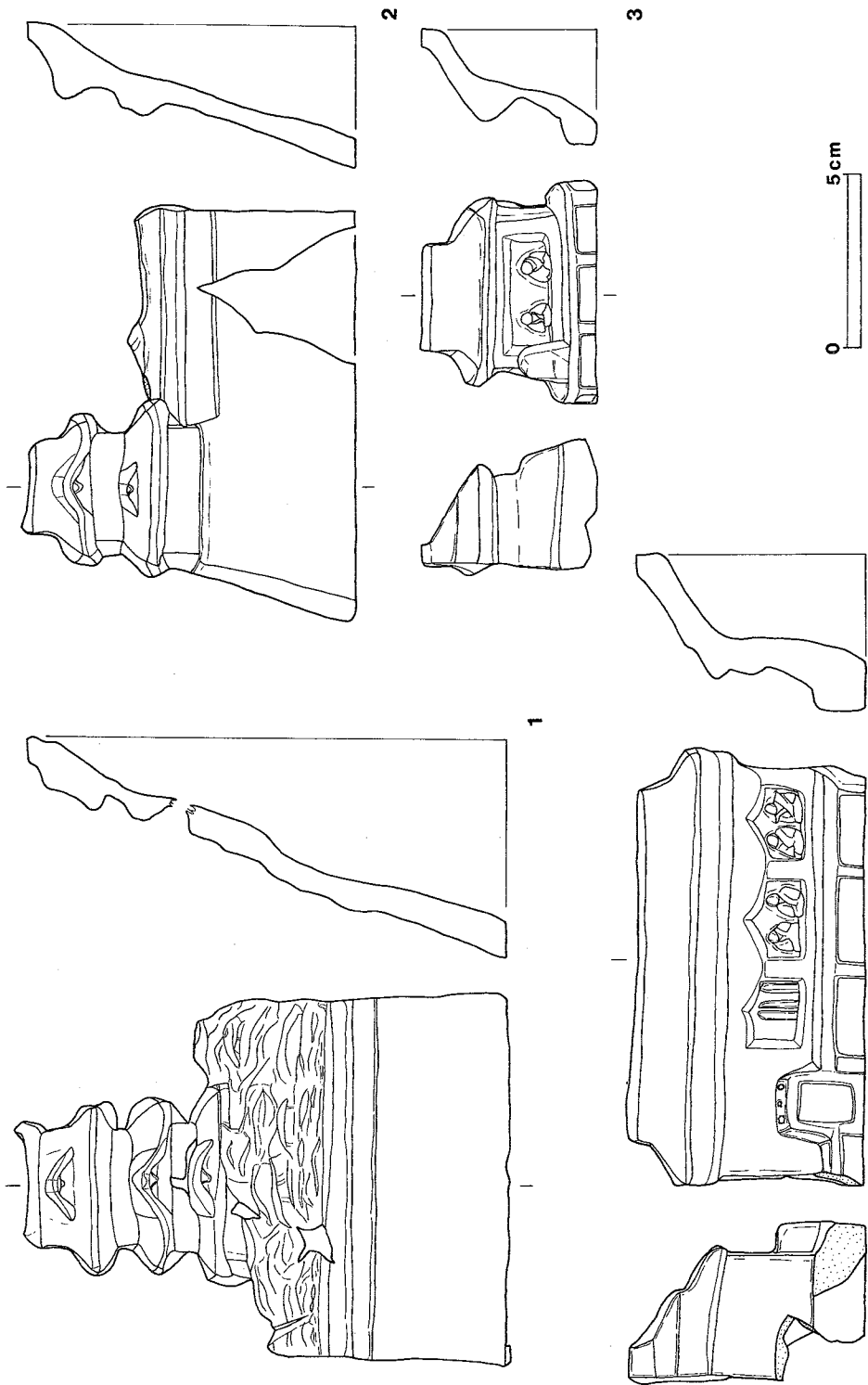
人形

狐(第406図1, 写真145-57) 尾先が宝珠になっている陶器質の小さな狐である。底部に孔を有する。宝珠及び耳の内側、唇は朱く彩色され、着物は緑釉が施されている。右肩に両手で何か抱えていたと思われる。胎土は淡黄色を呈する。類例はない。

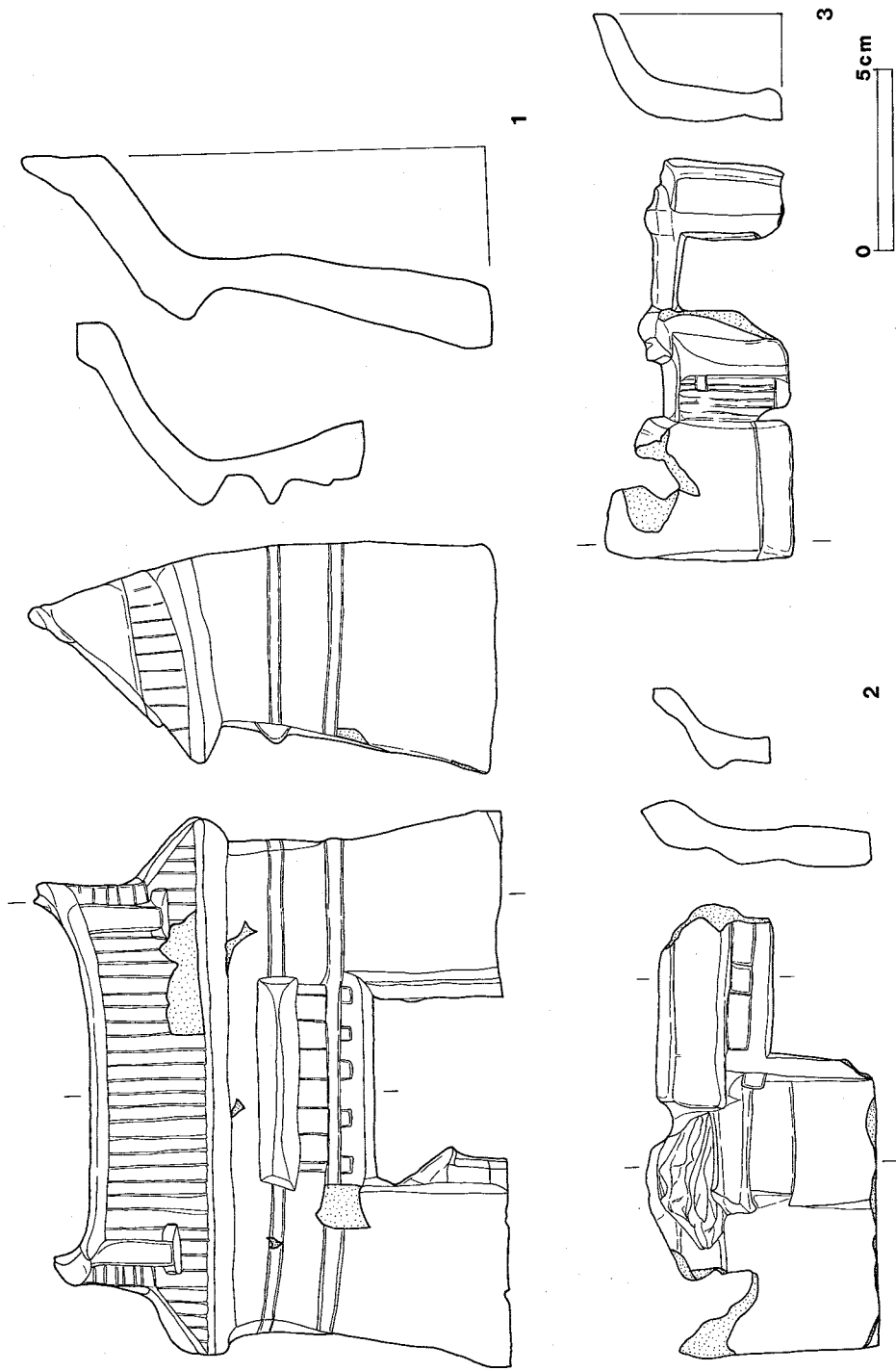
カニ(第406図2, 写真144-53) 成形は粗雑である。底面をのぞき施釉されている。箱庭具も



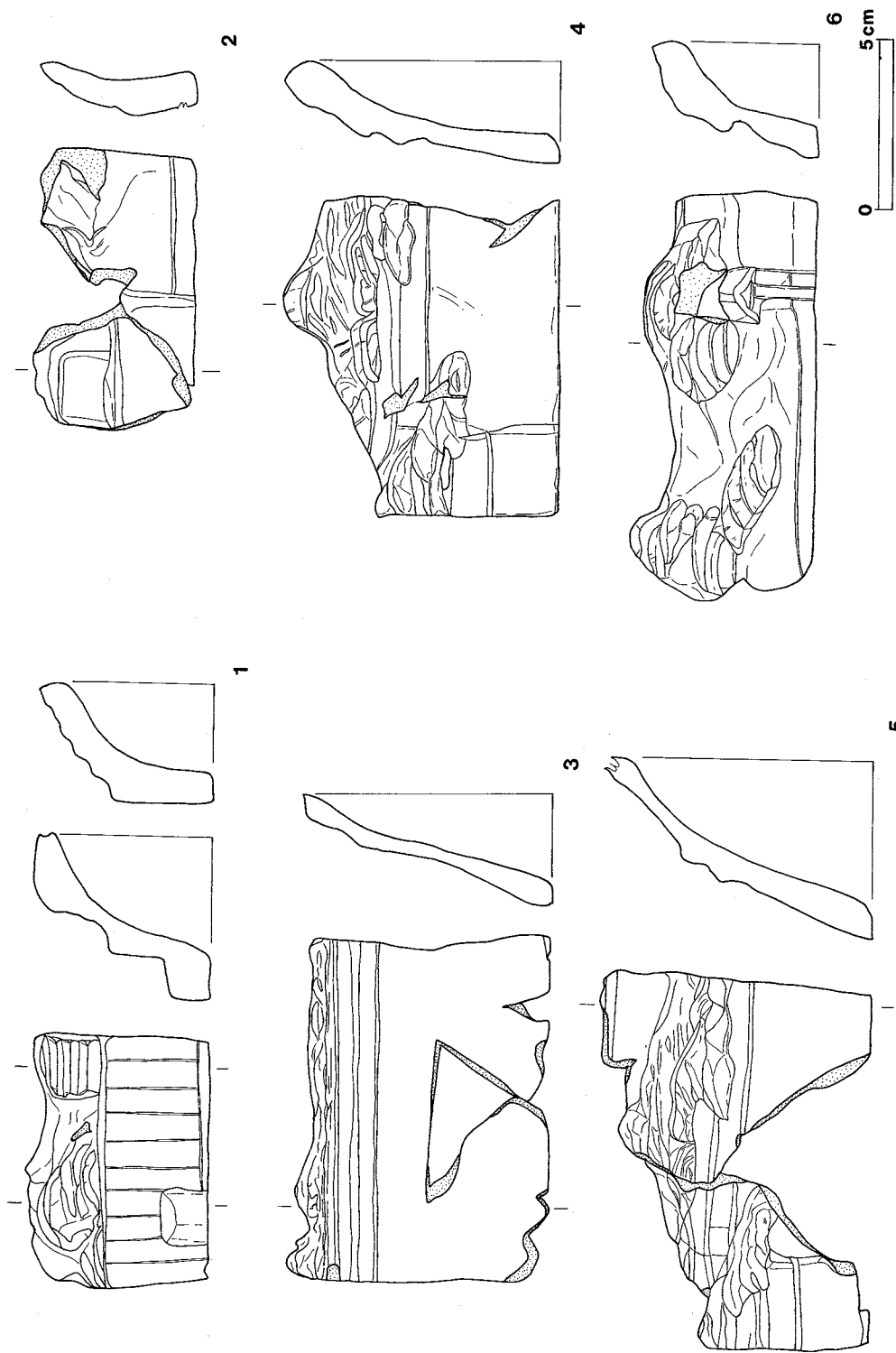
第402図 人形・玩具類(3)



第403図 人形・玩具類(4)



第404図 人形・玩具類(5)



第405図 人形・玩具類(6)

しくは泥面子であろうか。

早乙女(第406図3, 写真145—56) 菅笠を被り前屈みの姿勢の人形である。底部に孔を2ヶ有する。何かに挿して使用したと考えられる。白色化粧土を施した後に、着物は薄紫色、帯と文様は焦茶色に彩色し施釉。

カエル(第406図4, 写真144—55) 手捻りの小さなカエルである。手足は別個に作出している。背面, 手足, 顔面は緑釉, 腹部, 手足の先は透明釉を施している。箱庭具もしくは縁起物であろうか。

民家(第406図5, 写真144—50) 型起し成形で、屋根と壁面部で接合している。円窓は棒状工具で穿たれ、中空に作られている。白色化粧土を施した後柱を黒く彩色している。屋根の彩色は剝落か。底面をのぞき施釉。丁寧に作出されている。

灯籠(第406図6, 写真144—49) 六角灯籠である。笠の部分で接合し全面に白色化粧土を施している。宝珠と蕨手部は鉄釉で描いている。胎土は浅黄橙を呈する。

飾馬(第406図7, 写真145—58) 台座付の飾馬で前後で接合されている。底面に穿孔を有し、胎土はにぶい橙色を呈する。小形で比較的丁寧に作出されている。福岡市博多遺跡から同型が出土している。

飾馬(第406図8, 写真145—60) 欠損部多く不明確である。尾を差し込んだと思われる穿孔を有する。

狛(第406図9, 写真145—59) 欠損部多く器種は判然としないが、狛と思われる。

船遊び(第406図10, 11, 写真51, 52) 船は型起しで人物は手捻りである。船には三人乗船していたと思われる。船は猪牙船もしくは屋根船か。11の船には、屋根をかけたと思われる孔が四ツ認められる。人物は白色化粧土を塗彩。船内及び底面は無釉である。船内、人物の成形は粗雑である。

カエル(第406図12, 写真144—54) 腹部は無彩, 無釉, 背面は緑釉が施されている。胎土は白色を呈する。

袿人形(第407図1, 写真145—61) 成形後、深く彫り込み立体感を更に出している。接合面は認められないほど丁寧に整形されている。中実であるが穿孔を有する。穿孔は焼成時に熱を通り易くする為のものか又は彩色の為か。二次的に火を受けたと思われる。276号遺構からの出土で、共伴遺物から17世紀後葉と思われる。しかし人形は幕末期の物とも考えられ、紛れ込みの可能性もある。

幼児(第407図2, 写真145—65) 幼児の顔と思われる。欠損部多く判然としない。

足(第407図3, 写真145—66) 70, 73, 75の幼児の人形につく足と思われる。芝公園普賢寺6号墳墓址から幼児と一緒に出土している。

寿老人(第407図4, 写真145-62) 中空である。彩色, 釉は剥落している。頭布を被っている。

幼児(第407図5-7, 写真145-67, 68) 幼児の身体部分である。同種の人形であるが, 大きさ, 器壁の厚さ, 成形の違いがみられる。

五人囃子(第407図6, 写真145-64) 大鼓を打つ楽士だと思われる。背面上部に梅鉢が陰刻されている。中空であるが底部に穿孔はない。港区白館址遺跡Iから同型が出土しているが, 本地点のものより小さい。

幼児(第407図7, 写真145-68) 第407図5に記述。

坐僧(第407図8, 写真145-63) 裏面のみである。袈裟は白色化粧土を塗布した後に緑釉を施していると思われる。底面に孔を有する。

五人囃子(第407図9, 写真146-69) 五人囃子の楽士の一つであると思われるが裏面のみで判然としない。

行脚僧(第407図10, 写真146-78) 磁器製の僧侶である。背面, 右脇部に比較的大きな孔を有する。頭部は灰釉, 顔面は鉄釉, 身体部は緑釉が施釉されている。底面は施釉後に削り取っている。根付かと思われる。

獅子舞(第407図11, 写真146-70) 緻密に作られている。衣に緑色の彩色痕がわずかに点在している。中空である。胎土は淡黄色を呈する。

坐僧(第407図12, 写真146-79) 磁器製の布袋様であろうか。底面はなく, 背面に比較的大きな孔を有する。頭部, 顔面は鉄釉, 身体部は灰釉を施している。顔の描写は稚拙で指頭圧痕が残存している。第407図10と同様根付であろうか。双方とも本地点江戸期の中では古い遺構からの出土である。17世紀後半から18世紀初頭のものと思われる。

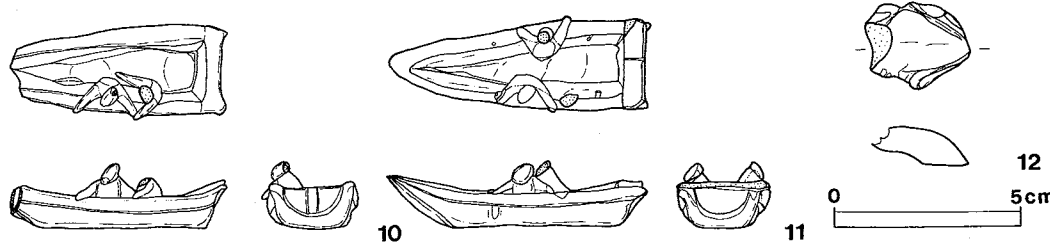
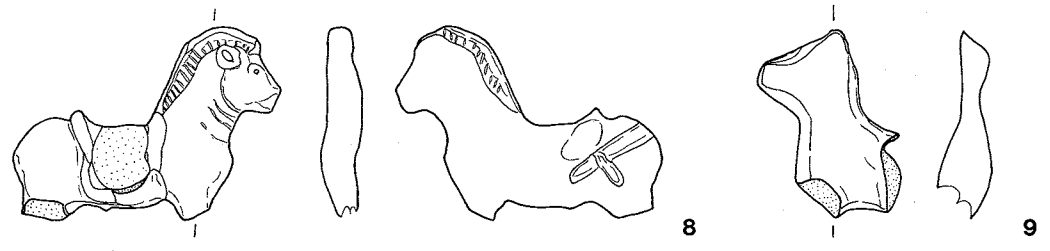
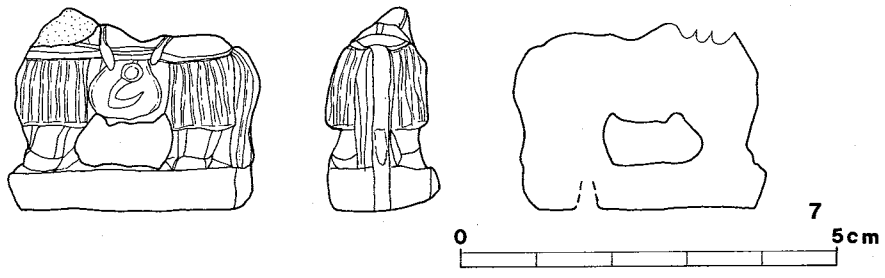
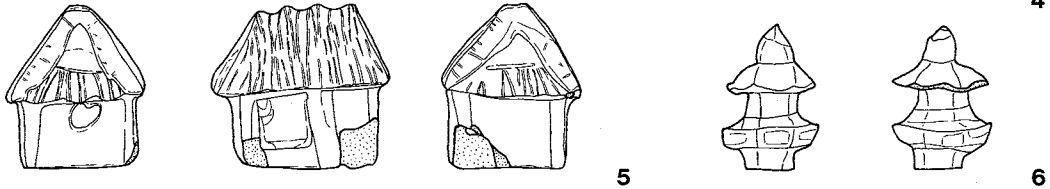
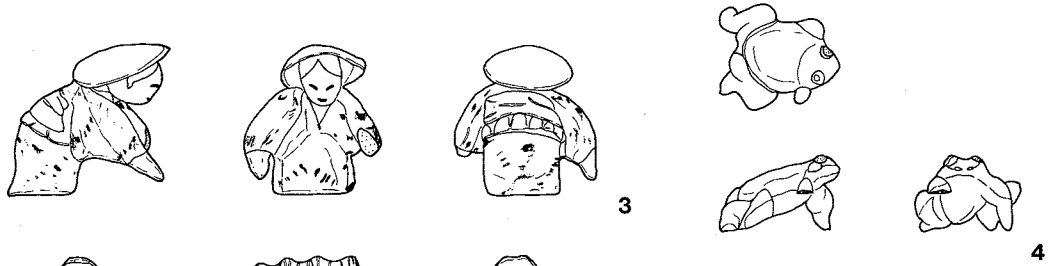
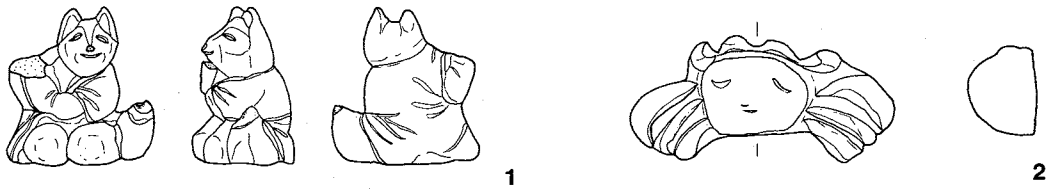
僧(第407図13, 写真146-80) 白磁であるが顔面のみで器種については判然としない。内部は中空になっている。精巧に作られている。

大島小僧(第408図1, 写真146-71) 内部は中空で底面に孔を有する。胡粉は残存しているが, 彩色, 釉は剥落している。頭部の前後の合せにズレがみられ, これは現存する人形(牧野玩太郎氏蔵)にも見られる為, 接合時によるズレではなく, 雛型に問題があると考えられる。大島釉の羽織を着用しているところから, 「大島小僧」と当時呼ばれていたらしい。明治期の遺構からの出土である。

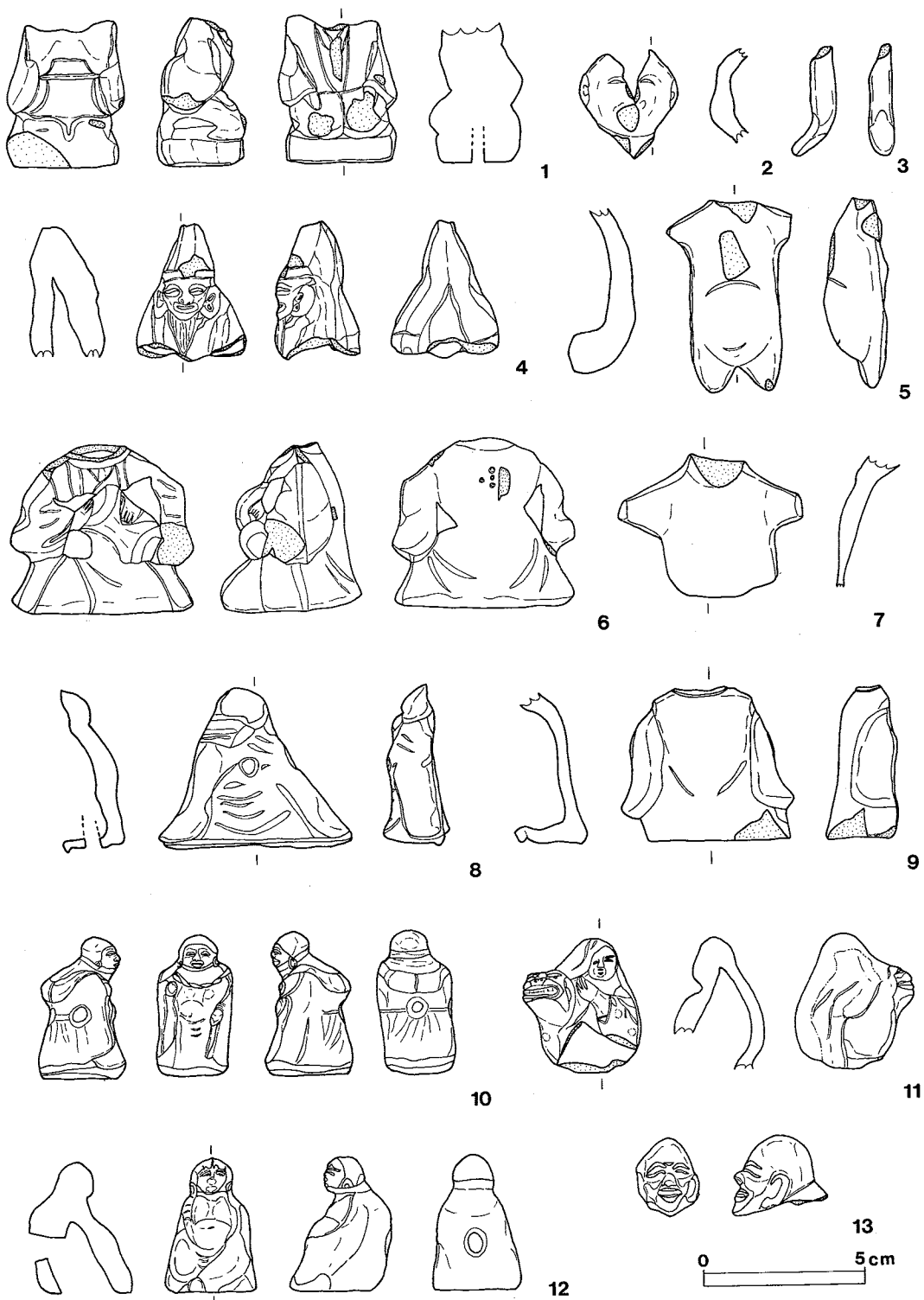
ひよっこ笛(第408図2, 写真146-72) 顔の描写は豊かで彫りが深く作られている。顔面に白色化粧土を施し, 更に彩色, 施釉している。音はよく出る。明治期の遺構からの出土である。

魚(第408図3, 写真146-74) 欠損部が多く明確でない。

臥牛(第408図4, 写真146-76) 胎土は粗く, ヒビ割れや工具傷が顔にみられるが, 牛の描写



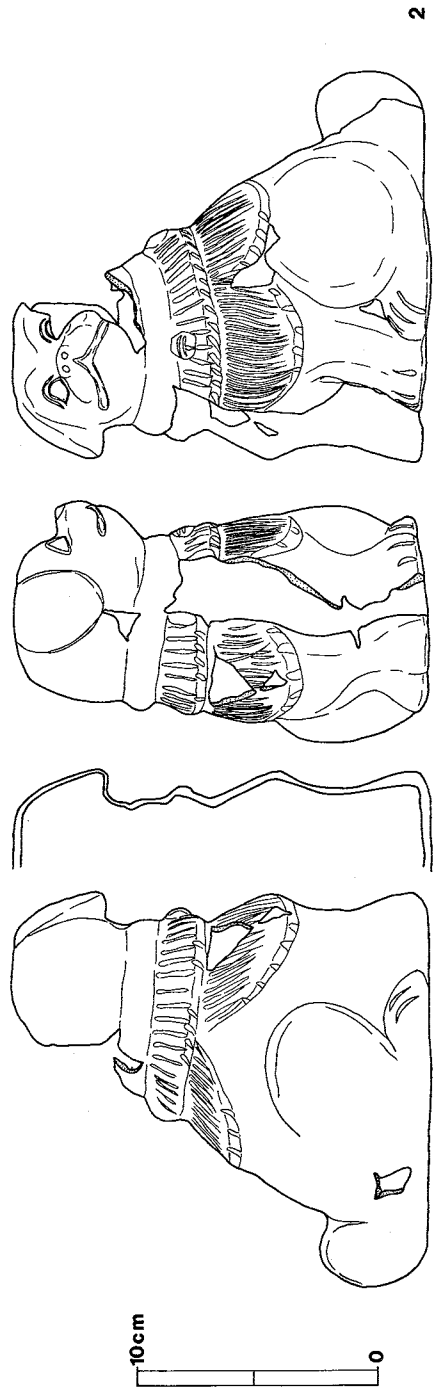
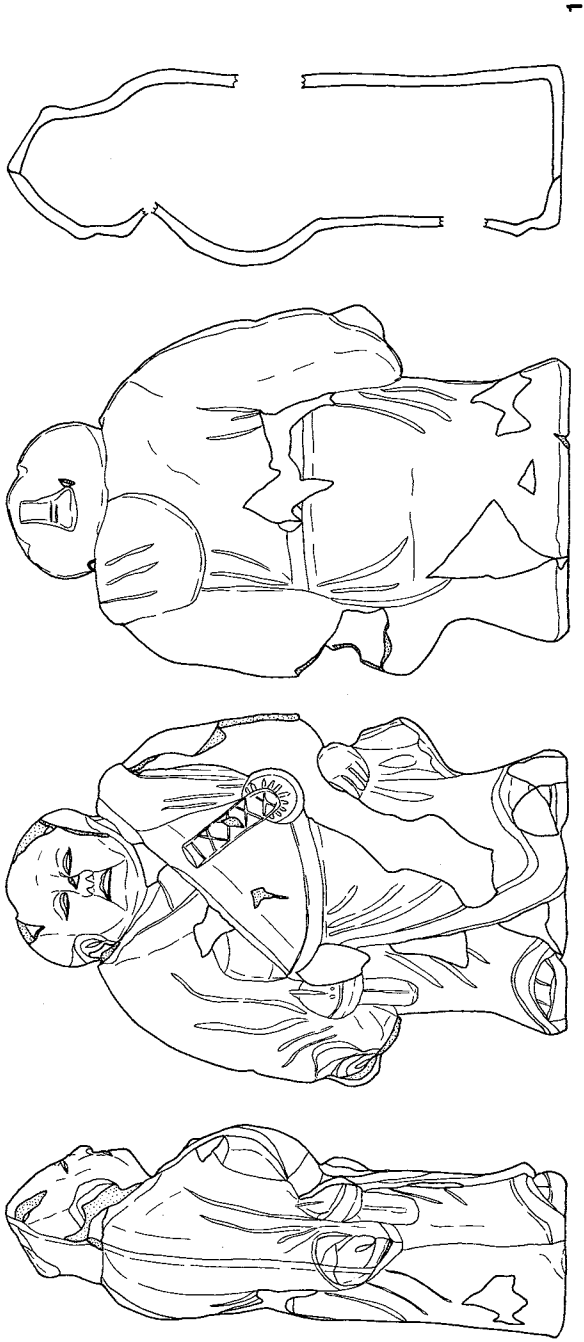
第406図 人形・玩具類(7)



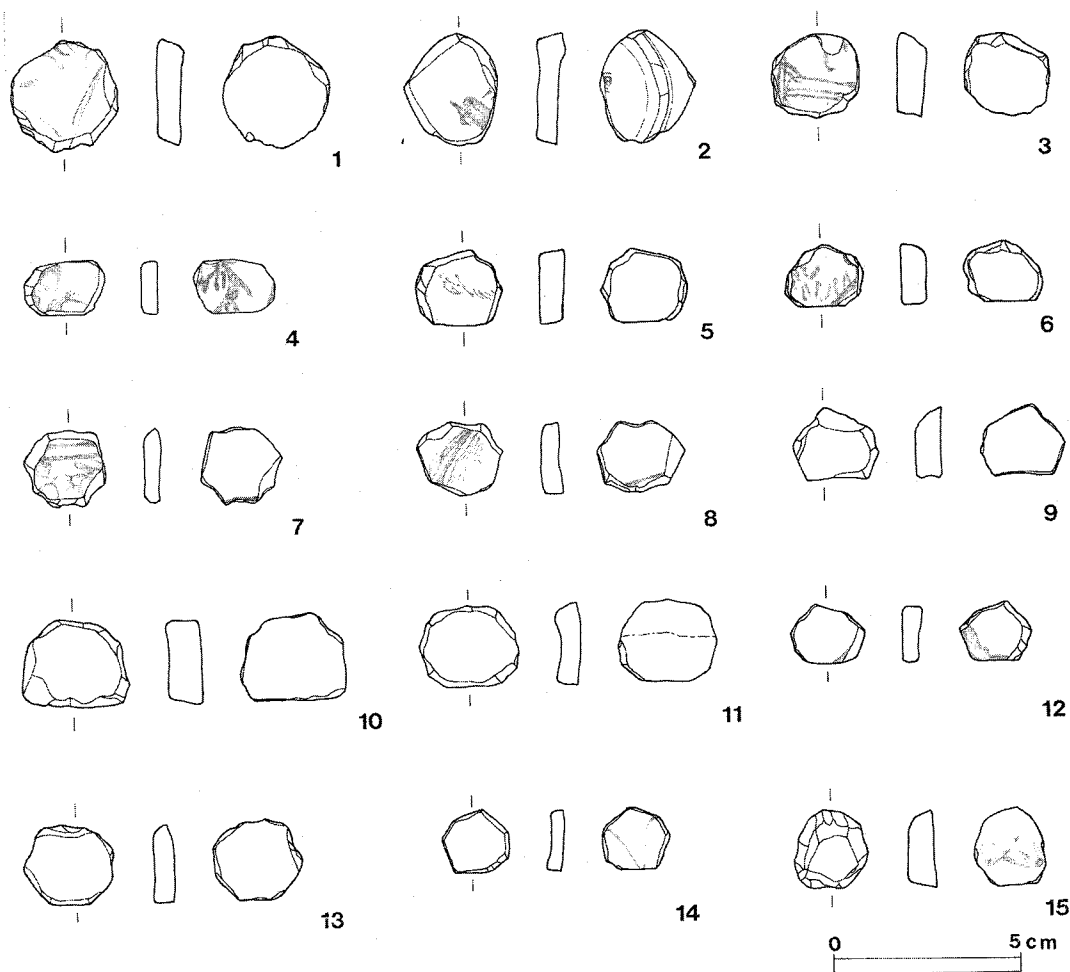
第407図 人形・玩具類(8)



第408図 人形・玩具類(9)



第409図 人形・玩具類(10)



第410図 人形・玩具類(11)

は丁寧である。黒色の彩色痕がわずかに残っている。

鳩笛(第408図5) 器壁は薄く、胸部に穿孔を有する。胎土は灰白色を呈する。

動物(第408図6, 7, 写真146—75, 77) 動物の一部であると思われるが欠損部が多く判然としない。

牛紅(第408図8, 写真146—73) 成形方法は第408図4と同様であるが、丁寧に作られている。現存する牛紅と類似しているが、本地点のものよりやや大きい。成形方法は同じである。

鳥(第408図9, 写真147—82) 白磁の鳥の置物であろうか。底面はやや窪ませて成形し無釉である。中空で孔を有する。羽根一枚一枚に透したような羽毛を描写している。緻密に作られている。

着物力士(第409図1, 写真147-83) 着物を着用し, 大刀を差した力士か。本地点の人形類の中で最も大きな人形である。大形のものにも拘らず薄手に作られている。指頭圧痕は多く, 力を入れ押圧した事が窺える。雲母粉が顕著にみられる。伏見人形と思われる。

坐狛(第409図2, 写真147-84) 本地点の中では比較的大形なものである。内部は中空で, 薄手に作られている。力士と同様雲母粉が顕著で, 指頭圧痕が多い。伏見人形と思われる。

陶磁器転用品(第410図1~15, 写真148-85~86) 陶磁片を二次加工し, 再利用したものと思われる。色絵, 青磁, 染付等の皿片である。同じ皿から加工したと思われるものもある。縁部が丸く滑らかになっている。しかし陶磁器が被熱すると, 同様な割れ方を呈するらしく, その旨も考慮したうえでの判断も必要かと思われる。

以上本地点の出土のミニチュア, 人形等について述べてきたが, 土人形の起源, 製作方法は考察編に記述する。

註

- 1) 「三栄町遺跡」東京都新宿区教育委員会 1988
- 2) 「堺市文化財調査報告書」第20集 堺市教育委員会 1984
- 3) 「白金館址遺跡II」白金館址(亞東關係協會東京辦事處公舎等建設用地)遺跡調査会 1988
- 4) 註1)に同じ
- 5) 「白金館址遺跡I」白金館址(特別養護老人ホーム建設用地)遺跡調査会 1988
- 6) 「葦火」5号(大阪市文化財情報)助大阪市文化財協会 1986
- 7) 「有岡城跡・伊丹郷町I」大手前女子学園有岡城跡調査委員会 1987

第46表 ミニチュア人形他観察表

挿図番号	写真番号	分類	器種	種別	胎土	成形法	遺存度、備考	出土遺構	
400-1	141-1	ミニチュア	瓶	磁器	肥前系	ロクロ	口縁部欠損	7	
400-2	141-2	ミニチュア	瓶	磁器	瀬戸美濃	ロクロ	口縁部欠損	7	
400-3	141-3	ミニチュア	瓶	磁器	肥前	ロクロ	完形、墨書有	包含層	
400-4	141-4	ミニチュア	皿	磁器	軟質	ロクロ	1/2	23	
400-5		ミニチュア	碗	磁器	ち密	ロクロ	1/4	475	
400-6		ミニチュア	碗	磁器	ち密	ロクロ	1/3強	包含層	
400-7	141-5	ミニチュア	碗	磁器	ち密	ロクロ	ほぼ完形	416	
400-8	141-6	ミニチュア	急須	磁器	光沢	型起し	注口部欠損	7	
400-9	141-8	ミニチュア	皿	磁器	ち密	ロクロ	ほぼ完形(接合)	464 911	
400-10	141-7	ミニチュア	皿	磁器	肥前	ロクロ	完形	7	
400-11	141-10	ミニチュア	皿	磁器	瀬戸美濃	ロクロ	完形	7	
400-12	141-11	ミニチュア	碗	磁器		ロクロ	1/2	206	
400-13	141-12	ミニチュア	碗	磁器	肥前	型起し	完、鏝文	50	
400-14		ミニチュア	碗	磁器	肥前	型起し	1/3, 折口波状	49	
400-15	141-9	ミニチュア	蓋	磁器		型起し	完形	49	
401-1	141-13	ミニチュア	茶釜	土製	淡黄色	型起し	完形	49	
401-2		ミニチュア	茶釜	土製	橙黄色	ロクロ	1/3	包含層	
401-3	141-14	ミニチュア	鉢	土製	橙黄色	ロクロ	1/4	包含層	
401-4		ミニチュア	土鍋	陶器質	茶灰色	ロクロ	1/4	49	
401-5	141-15	ミニチュア	壺	土製	赤橙	ロクロ	口唇部欠損	164	
401-6		ミニチュア	鉢	土製	橙黄色	ロクロ	1/2	包含層	
401-7	141-16	ミニチュア	鉢	土製	明黄褐色	型起し	3/4	49	
401-8		ミニチュア	碗	土製	淡黄色	ロクロ	1/2	50	
401-9	141-19	ミニチュア	蓋	土製	赤橙	ロクロ	1/4	包含層	
401-10	141-18	ミニチュア	有孔土製品	土製	橙黄色	型起し	2/3	包含層	
401-11	141-17	ミニチュア	土鍋の蓋	土製	橙黄色	型起し	2/3	50	
401-12	142-20	ミニチュア	カボチャ型器	土製	淡橙	型起し	完	276	
401-13	142-21	ミニチュア	皿	土製	淡黄色	型起し	2/3, 輪花	7	
401-14	142-22	ミニチュア	皿(天保通宝)	土製	淡黄色	型起し	底面及び器壁の一部	49	
401-15	142-23	ミニチュア	六角徳利	土製	淡黄色	型起し	1/2	50	
401-16	142-24	ミニチュア	徳利	土製	橙黄色	ロクロ	口唇部欠損	2	
401-17	142-26	ミニチュア	硯	土製	橙黄色	型起し	完形	2	
401-18	142-25	ミニチュア	石臼	土製	黄橙	型起し	完形	包含層	
401-19	142-27	ミニチュア	屋根	土製	橙黄色	型起し	屋根の一部	包含層	
402-1	142-28	ミニチュア	箱庭道具	橋	土製	橙黄色	型起し	50	
402-2	142-29	ミニチュア	箱庭道具	橋	土製	浅黄橙	型起し	50	
402-3	142-32	ミニチュア	箱庭道具	橋	瓦質	暗灰色	型起し	49	
402-4	142-30	ミニチュア	箱庭道具	橋	陶器質	橙黄色	型起し	完形、太鼓橋	49
402-5	142-31	ミニチュア	箱庭道具	橋	陶器質	淡黄色	型起し	82	
402-6		ミニチュア	屋根	土製	橙黄色	型起し		49	
402-7	143-34	ミニチュア	箱庭道具	橋	炆器質	チョコレート色	型起し	完形	49

挿図番号	写真番号	分類	器種	種別	胎土	成形法	遺存度,備考	出土遺構
402-8	143-35	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	城	炆器質	チヨコレ ト色	型起し	1/3	49
402-9	143-35	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	城壁	炆器質	チヨコレ ト色	型起し	完形	49
403-1	143-36	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	天守閣	土製	橙色	型起し	完形	49
403-2	143-38	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	隅櫓	土製	橙色	型起し	3/4	49
403-3	143-39	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	番所	土製	橙色	型起し	ほぼ完形	49
403-4	143-40	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	番所	土製	橙色	型起し	ほぼ完形	49
404-1	143-37	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	大手門	土製	橙色	型起し	ほぼ完形	49
404-2	144-41	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	高麗門	土製	橙色	型起し	2/3	49
404-3	144-42	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	城門	土製	橙色	型起し	2/3	49
405-1	144-43	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	背景	土製	橙色	型起し	完形	49
405-2	144-44	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	背景	土製	橙色	型起し	2/3	49
405-3	144-45	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	背景	土製	橙色	型起し	2/3	49
405-4	144-46	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	背景	土製	橙色	型起し	2/3	49
405-5	144-47	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	背景	土製	橙色	型起し	1/2	49
405-6	144-48	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	背景	土製	橙色	型起し	ほぼ完形	49
406-1	145-47	人形 庭道 人箱	狐	陶器質	淡黄色	型起し	両手首欠損	49
406-2	144-53	庭道 人箱	カニ	土製	褐色	型起し	完形	49
406-3	144-56	庭道 人箱	早乙女	土製	橙色	手捻り	完形	49
406-4	144-55	庭道 人箱	カエル	土製	橙色	手捻り	右前足欠損	49
406-5	144-50	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	民家	土製	にぶい 橙色	型起し		49
406-6	144-49	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	灯籠	土製	にぶい 橙色	型起し		49
406-7	145-58	人形 庭道 人箱	飾馬	土製	にぶい 橙色	型起し	首部欠損	046
406-8	145-60	人形 庭道 人箱	飾馬	土製	橙色	型起し	1/2弱	50
406-9	145-59	人形 庭道 人箱	犬	土製	橙色	型起し	1/3	036
406-10	144-51	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	船遊び	土製	褐色	型,手捻り		49
406-11	144-52	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	船遊び	土製	褐色	型,手捻り		49
406-12	144-54	ア具 ユ道 チ庭 ニ箱	カエル	土製	白色	型起し	首部欠損	001
407-1	145-61	人形 庭道 人箱	神人形	土製		型起し	首部欠損,被熱	276
407-2	145-45	人形 庭道 人箱	幼児の顔	土製	橙色	型起し	顔面のみ	50
407-3	145-66	人形 庭道 人箱	幼児の足	土製	橙色	手捻り	足のみ	50
407-4	145-62	人形 庭道 人箱	寿老人	土製	橙色	型起し	上半身のみ	50
407-5	145-67	人形 庭道 人箱	幼児	土製	橙色	型起し	身体部1/2	50
407-6	145-64	人形 庭道 人箱	楽士	土製	橙色	型起し	首部欠損	50

挿図番号	写真番号	分類	器種	種別	胎土	成形法	遺存度、備考	出土遺構
407-7	145-68	人形	幼児	土製	橙色	型起し	胴部前面のみ	50
407-8	145-63	人形	坐僧	土製	橙色	型起し	1/2 (裏面のみ)	50
407-9	146-69	人形	染士	土製	橙色	型起し	1/2 (裏面のみ)	036
407-10	146-78	根付	か行脚	磁器		手捻り	完形	534
407-11	146-70	人形	し舞	土製	淡黄色	型起し	上半身のみ	50
407-12	146-79	根付	か坐僧	磁器		手捻り	完形	959
407-13	146-80	?	顔面	磁器				132
408-1	146-71	人形	大島小僧	土製	橙色	型起し	完形	002
408-2	146-72	笛	ひょつとこ	土製	橙色	型起し	完形	007
408-3	146-74	人形	魚	土製	橙色	型起し		50
408-4	146-76	人形	臥牛	土製	橙色	型起し	完形	007
408-5		笛	鳩	土製	淡黄色	型起し	片翼の一部	50
408-6	146-77	人形	動物	土製	橙色	型起し		包含層
408-7	146-75	人形	動物	土製	橙色	型起し		包含層
408-8	146-73	人形	牛紅	土製	橙色	型起し	完形	包含層
408-9	147-82	人形	鳥	白磁	肥前	型起し	首部欠損	49
408-10	147-81	人形	鳥	陶器	灰	手捻り	首部欠損	49
409-1	147-83	人形	相撲	土製	浅黄橙色	型起し	3/4	49
409-2	147-84	人形	坐狛	土製	浅黄橙色	型起し	2/3	49
410-1	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	色絵皿	包含層
410-2	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	染付皿	包含層
410-3	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	染付皿	包含層
410-4	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形		包含層
410-5	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形		312
410-6	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	貫入染付皿	包含層
410-7	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	染付皿	包含層
410-8	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	貫入染付, 内面擦痕	包含層
410-9	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	染付皿	包含層
410-10	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	青磁, 内外面擦痕	包含層
410-11	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	陶器		加撃整形	唐津碗, 摩耗痕	255
410-12	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	染付皿, 外面擦痕	312
410-13	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	陶器		加撃整形	貫入染付皿	49
410-14	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	染付皿	288
410-15	148-85 86	陶磁器転用品	おはじきか	磁器		加撃整形	染付皿	50

あとがき

御殿下記念館建設地点の発掘調査は、約2年間の長期にわたるものであった。この地点は、本郷キャンパスの他の発掘調査地点と比較して、江戸時代各時期の層序が破壊されることが少なく、下屋敷時代から幕末そして現在に至るまでの生活面が、ほぼ2mの厚さで順次堆積していた。この2mの中に火災による広範囲の建て替えや部分的な修復が頻繁に繰り返されており、6000㎡の発掘調査地全域にわたって、各時期の生活面を正確に把握するのは困難な作業であった。

また、山上会館・御殿下記念館地点の双方に共通する点として、江戸時代の土木工事の規模が極めて大きく、手作業の発掘調査では、膨大な土量に悩まされることとなった。

しかし、この調査の結果、「梅之御殿」をはじめとして、ほぼ9期の生活面を確認し、この地の変遷をたどることができたのは大きな成果といえよう。

発掘調査と並行して行われた、文献・絵図史料の調査によって、江戸時代の各時期における加賀藩邸内の様子を具体的に知ることが可能となった。「梅之御殿」の絵図では、細部まで柱の位置が記されており、実際に発掘調査を行ってみると、一部で異なる部分があるものの、大方の柱の位置などは極めて良く一致していた。更に、発掘現場で柱穴の痕跡が不明瞭な場合でも、絵図の助けを借りて再度精査した結果、礎石を発見したことも一再ならずあった。

また、遺構が錯綜し前後関係が決め難い場合でも、絵図を参考にして各時期の遺構配列を考えることも可能であった。さらに、藩邸の焼失年代と、遺跡で見られる焼土層とを検討することによって、実年代を想定することができた。

このような意味で、文献・絵図史料を大いに参考にして発掘調査を進めていったわけであるが、今回の調査及びその整理作業を通じて、それ以上の文献と考古学上の成果の比較検討等の、学際的な研究を行うには至らなかった。今後どのようにして両者を有機的に結びつけてゆくのが課題として残されていると考えている。

また、これまでに本郷構内で4か所の発掘調査を行っているが、それぞれの地点で遺構・遺物の状況が異なっており、各地点を通した共通の年代観を得るには至っていない。本報告書でも「山上会館」と「御殿下記念館」の遺構間で相互の年代の前後関係を明確にするには至っていないし、陶磁器と瓦でもそれぞれの画期を行っている。今後の課題として、各地点の遺構・遺物の研究を深めて、本郷キャンパスにおける共通の物差しを作ってゆかねばならないと考えている。

